

# 矢部遺跡

北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2012

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 矢部遺跡

北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一二

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 矢部遺跡

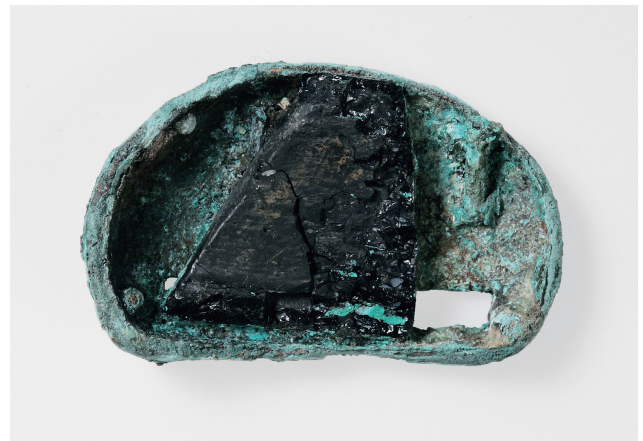
北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2012

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



1区道路遺構全景(上空から 上が南)



6区5号住居出土銚帯および付着した墨(左-表 右-裏)



6区9号住遺物出土状況  
南東部（写真右上）に漆  
紙の入った土器が出土



6区9号住漆紙入り土器出土状況近景

6区9号住出土漆紙入り土器  
上 外面（正面から）  
中 内面（上から）  
下 内面（正面から）

※漆紙の赤外線写真はPL.192参照

# 序

矢部遺跡は太田市只上町に所在し、北関東自動車道の建設に伴い平成16年から17年にかけて発掘調査された遺跡です。調査した場所は、栃木県境となっている渡良瀬川に近接しており、中近世以前の渡良瀬川の旧流路の一つと考えられている矢場川の右岸にあります。近世以前でも渡良瀬川は上野と下野の国境であり、当遺跡は国境に隣接した地にあったといえます。

発掘調査では縄文時代から江戸時代に至る各種遺構や遺物が発見されております。特に奈良・平安時代の遺構・遺物は充実しており、特筆すべきものとして、幅10mと、現代の道路にも匹敵する規模を持つ古代の直線道路が見つかり、上野と下野を結ぶ交通路を考える上での重要な資料となりました。また、全国的にみても発見例の少ない、古代の墨が付着した帯金具や、漆を入れる器の蓋に使われた奈良時代の暦が記された文書など、当遺跡が当時の郡の役所に近い位置にあったことを示唆する貴重な遺物が発見され、この地が古代において地域の中心的な位置にあったことが判明してきました。

発掘調査から報告書の作成にいたるまで、東日本高速道路株式会社関東支社、群馬県教育委員会文化財保護課、太田市教育委員会、地元関係者の方々には種々ご指導ご協力を賜りました。報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝申し上げるとともに、併せて本書が群馬県の歴史を解明する上で広く活用されることを願い、序といたします。

平成24年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 須田 栄一



# 例 言

- 1 本書は、北関東自動車道(伊勢崎~県境)建設に伴い発掘調査された矢部遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 所在地 太田市只上町348、349-4・6、351-1、352-1~4、353-1、367、368、369-2、370、377~384、455、456、477、483-1、484-1・3、485、486、487-1、582-4、584-1、585~587、588-1、589、590、591-1・2、597-1、598-2、671-1~4、671-9、672-1~3、673-1~3、690-1、1211-7、1211-20・23、1226、1227-1~3、1240-1・2・4、1241~45、1246-1、1254~1258、1259-1・2、1260-1、1261-1、1262-1、1291-1・2、1292-1~3、1293-1~6、1294-1・2、1295-1、1296-5番地
- 3 事業主体 東日本高速道路株式会社関東支社(旧日本道路公団)
- 4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 平成16年5月6日~平成17年3月31日、平成17年5月9日~平成18年3月31日
- 6 発掘調査体制は次の通りである。

平成16年度発掘調査担当 石塚久則(専門員)・飯田公規(主任調査研究員)

遺跡掘削請負工事：須賀工業株式会社

委託地上測量：株式会社栗原総合測量 空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル

平成17年度発掘調査担当 原 雅信・大塚俊和・廣津英一・新井 仁・高島 英之・田村邦宏・渡辺弘幸(専門員)、  
斎藤 聡・小林洋一・山田精一(主任調査研究員)、山川 剛史・田村 博・藍沢友美・  
長澤典子(調査研究員)

遺跡掘削請負工事：須賀工業株式会社、須賀建設株式会社

地上測量委託：株式会社栗原総合測量、アコン測量設計株式会社

空中写真撮影委託：株式会社シン技術コンサル
- 7 整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間 平成22年4月1日~平成24年3月31日

整理担当 橋本 淳(主任調査研究員 平成22年4月~平成23年3月)

関根慎二(上席専門員 平成22年10月~平成23年3月)

岩崎泰一(上席専門員 平成23年4月~平成23年6月)

新井 仁(主任調査研究員 平成23年4月~平成24年3月)

遺物写真撮影：佐藤元彦(補佐(総括)) 保存処理：関 邦一(補佐)
- 8 本書作成の担当者は次のとおりである。

編集 橋本 淳 関根慎二 岩崎泰一 新井 仁

執筆 神谷佳明(V-2) 高島英之(V-3) 関根慎二(I、III-2) 新井 仁(左記以外(I、III-2の一部を含む))

遺物観察 石器・石製品：岩崎泰一(上席専門員) 縄文土器：橋本 淳(主任調査研究員)

土師器・須恵器：神谷佳明(上席専門員) 中近世陶磁器・土器：大西雅弘(上席専門員)
- 9 地質調査については、株式会社古環境研究所に委託した。
- 10 出土獣骨の鑑定は、宮崎重雄氏(古生物学会会員)にお願いした。
- 11 黒墨の成分分析については、株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 12 発掘調査および報告書作成に際しては、群馬県教育委員会・太田市教育委員会の方々をはじめ、関係機関ならび

に多くの方々のご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします。

13 発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

## 凡 例

- 本文中に使用した方位は、総て国家座標(2002.4 改正前の日本測地系)の北を使用している。尚、真北との偏差は、遺跡北東隅部で  $0^{\circ} 15' 28''$ である。
- 遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
- 遺構名称は、1・3・6・7区は各区の遺構種類ごとに通し番号をつけ、番号・遺構種類名で呼称した。2・4・5区は発掘調査の段階で、区ごとに、溝を除くすべての遺構に通し番号を付け、番号の後に「遺構」を付けて呼称していたが、整理段階で、遺構種が不明だと不便であるため、番号はそのまま「遺構」の代わりに遺構種を番号の後に付け、他の区と同様の呼称とした。また本文中(Ⅲ章)では、各節ごとに時代順に記載し、遺構・遺物に分けて報告している。竪穴住居の柱穴は、調査時点では他のピットと通して番号を振っているため、報告書掲載の時点で右上から「柱1」「柱2」「柱3」「柱4」と付け直した。
- 遺物番号はすべて通し番号とし、遺構ごとに記載した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。
- 遺構・遺物実測図の縮尺率は原則として以下のとおりとしたが、統一できない遺構・遺物もあるため、それぞれの縮尺を参照されたい。

遺構 竪穴住居・掘立柱建物—平面図・断面図 1:60・1:80

井戸・土坑・一部ピット・土器集積遺構・配石遺構—平面図・断面図 1:40

竪穴住居カマド・遺物出土状況詳細—平面図・断面図 1:30

溝・畠—平面図 1:100・1:150、断面図 1:60・1:100 道路遺構—平面図・断面図 1:100

遺構図中の遺物図—遺物図の 1:2

遺物 土器、石器・石製品、一部金属製品(鋤先、鎌等)— 1:3 大形土器・大型石製品等— 1:4・1:6

一部土製品(土錘・紡錘車等)、一部石器・石製品(石匙・紡錘車等)、金属製品— 1:2

一部旧石器— 4:5 石鏃、銅銭— 1:1

なお、1:3以外の縮尺の遺物は、スケールに遺物番号を記入した。

- 本書の図版に使用したスクリーンターンは、次のことを示す。下記以外は図版ごとに凡例を示す。

遺構図 焼土  粘土  灰面  硬化面  炭化物 

遺物図 粘土  煤  漆  灰釉  黒色処理  カマド装着痕 

- 遺構の主軸方位・走向は、カマドを持つ住居の場合、カマドのある辺に直角の方向を住居の主軸とし、カマドは中軸線の方向とした。それ以外の遺構は、長軸方向で北から東西 $90^{\circ}$ 以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合N- $0^{\circ}$ -Eとした。遺構の面積は、竪穴住居は「面積」に上端を計測した値を記載し、「床面積」にカマドを除いた下端を計測した値を記載した。他の遺構は上端を計測した。計測はプランメーターで3回行いその平均値を採用した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し[ ]で表した。推定で全体がわかるものについては( )で表した。遺構一覧表中の位置の欄は、グリッド(Grと略す I-2-(2)参照)で示した。重複欄には、新旧のわかるものについては新旧を入れたが、不明なものについては遺構名のみとした。遺構図の土層注記中の「B」は「ブロック」の略である。



8 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。

- ・計測値では以下の略称を用いた。口：口径、底：底径、高：器高、台：高台径、稜：模倣杯などの稜径、最：内湾口縁部杯での口縁部最大径、胴：甕などの胴部最大径、摘：摘み径。
- ・計測値の( )は推定値を、金属器類観察表の計測値の( )は残存部分の値を示す。
- ・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1988年版』に基づいている。
- ・胎土表記中の細砂・粗砂・礫は、径2mm以上を礫、径2~0.2mmを粗砂、径0.2mm以下を細砂とした。
- ・出土位置欄の住居の右側の数字は床面からの高さを表す。

9 本書で使用した浅間山及び榛名山噴火による降下火砕物等の呼称については、以下のように表記する。

浅間A軽石：As-A 浅間B軽石：As-B 榛名山ニッ岳軽石：Hr-FP 榛名山ニッ岳火山灰：Hr-FA  
浅間C軽石：As-C 浅間板鼻黄色軽石：As-YP 浅間板鼻褐色軽石：As-BP

10 本書で掲載した地図は、以下のものを使用した。

第1図 国土地理院 地勢図 1:200,000「宇都宮」(平成16年8月1日発行)

第2図 太田市 1:2,500地形図(平成18年8月測図)

第8図 第一軍管地方迅速測図『足利町』『太田町』(明治17・18年測図)

第9図 国土地理院 地形図 1:25,000「桐生」(平成14年5月1日発行) 「上野境」(平成元年12月1日発行)  
「足利北部」(平成15年1月1日発行) 「足利南部」(平成14年9月1日発行)

第446図 国土地理院 地形図 1:25,000「上野境」(平成元年12月1日発行) 「足利南部」(平成14年9月1日発行)

# 目次

口絵	(2) 竪穴住居	59
序	(3) 掘立柱建物	194
例言	(4) 溝	207
凡例	(5) 井戸	238
目次	(6) 土坑	240
	(7) 畠	263
第I章 発掘調査の実施と経過	(8) 円形周溝遺構	291
第1節 発掘調査に至る経過	(9) 道路遺構	294
第2節 発掘調査の経過	(10) 道路状遺構	303
第3節 整理作業の経過	(11) 竪穴遺構	304
第4節 調査の方法	(12) 土砂採掘坑	306
(1) 調査区の設定	(13) 遺物集積遺構・集石遺構	307
(2) グリッド設定	(14) 遺構外出土遺物	313
(3) 遺構の調査	(15) 出土遺物	316
第5節 基本土層	第5節 中世以降	474
第II章 周辺環境	(1) 概要	474
第1節 地理的環境	(2) 掘立柱建物	474
第2節 歴史的環境	(3) 溝	482
(1) 旧石器時代	(4) 井戸	504
(2) 縄文時代	(5) 土坑	508
(3) 弥生時代	(6) ピット	531
(4) 古墳時代	(7) 遺構外出土遺物	547
(5) 奈良平安時代	(8) 出土遺物	548
(6) 中世以降	第IV章 自然科学分析	563
第III章 検出された遺構と出土遺物	第1節 矢部遺跡における地質調査	563
第1節 旧石器時代	第2節 出土骨・馬歯について	566
第2節 縄文時代	第3節 矢部遺跡出土黒墨遺物の成分分析	567
(1) 概要	第V章 総括	570
(2) 円形周溝遺構	第1節 矢部遺跡出土の銚帯と墨について	570
(3) 土坑	第2節 矢部遺跡出土の漆紙文書	574
(4) 出土遺物	第3節 道路遺構について	582
第3節 弥生時代	第4節 まとめ	584
(1) 概要	写真図版	
(2) 土坑	遺構写真	
(3) 出土遺物	遺物写真	
第4節 古墳時代後期～平安時代	抄録	
(1) 概要		

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図	2	第72図	5区245号住居	95
第2図	調査区および隣接遺跡位置図	3	第73図	5区286号住居	96
第3図	調査区設定図	7	第74図	5区304号住居使用面	97
第4図	グリッド設定図	7	第75図	5区304号住居カマド	98
第5図	基本土層図	9	第76図	5区430号住居使用面	99
第6図	渡良瀬川扇状地の地質区分	11	第77図	5区430号住居カマド	100
第7図	遺跡周辺地形分類図	12	第78図	6区1号住居使用面	101
第8図	明治前半の周辺地形	13	第79図	6区1号住居掘り方	102
第9図	周辺遺跡位置図	17	第80図	6区1号住居カマド	103
第10図	6区旧石器調査区設定図	23	第81図	6区1号住居カマド遺物出土状況	104
第11図	旧石器調査区および土層図	24	第82図	6区2号住居使用面・掘り方	105
第12図	旧石器出土状況及び接合図	25	第83図	6区2号住居カマド	106
第13図	旧石器接合資料	26	第84図	6区3号住居使用面	107
第14図	旧石器石核	27	第85図	6区3号住居掘り方・カマド	108
第15図	縄文時代遺構位置図	28	第86図	6区4号住居使用面	109
第16図	縄文時代円形周溝遺構	33	第87図	6区4号住居掘り方・カマド使用面	110
第17図	縄文時代土坑1	34	第88図	6区4号住居カマド掘り方	111
第18図	縄文時代土坑2	35	第89図	6区5号住居使用面・掘り方	112
第19図	縄文時代土坑3	36	第90図	6区5号住居カマド	113
第20図	縄文時代土坑4	37	第91図	6区6号住居	114
第21図	縄文時代土坑5	38	第92図	6区7号住居使用面・掘り方	115
第22図	縄文時代土坑6	39	第93図	6区7号住居カマド	116
第23図	縄文時代土坑7	40	第94図	6区8号住居使用面・掘り方	118
第24図	縄文時代出土遺物1	43	第95図	6区8号住居カマド	119
第25図	縄文時代出土遺物2	44	第96図	6区9号住居使用面	120
第26図	縄文時代出土遺物3	45	第97図	6区9号住居掘り方	121
第27図	縄文時代出土遺物4	46	第98図	6区10号住居使用面・掘り方・カマド使用面	122
第28図	縄文時代出土遺物5	47	第99図	6区10号住居カマド掘り方	123
第29図	縄文時代出土遺物6	48	第100図	6区11号住居使用面・掘り方	124
第30図	縄文時代出土遺物7	49	第101図	6区11号住居カマド	125
第31図	縄文時代出土遺物8	50	第102図	6区12号住居使用面	126
第32図	弥生時代土坑	56	第103図	6区12号住居掘り方・カマド使用面	127
第33図	弥生時代出土遺物1	56	第104図	6区12号住居カマド掘り方	128
第34図	弥生時代出土遺物2	57	第105図	6区13号住居	129
第35図	古墳～平安時代遺構位置図	58	第106図	6区14号住居使用面・掘り方	130
第36図	竪穴住居規模図	61	第107図	6区14号住居カマド	131
第37図	竪穴住居主軸方位図	61	第108図	6区15号住居	132
第38図	1区1号住居	66	第109図	6区16号住居使用面	133
第39図	1区2号住居使用面・掘り方	67	第110図	6区16号住居掘り方・カマド使用面	134
第40図	1区2号住居カマド	68	第111図	6区16号住居カマド掘り方	135
第41図	1区3号住居使用面・掘り方	69	第112図	6区17号住居使用面	136
第42図	1区3号住居カマド	70	第113図	6区17号住居掘り方・カマド使用面	137
第43図	1区4号住居使用面・掘り方	71	第114図	6区17号住居カマド掘り方	138
第44図	1区4号住居カマド	72	第115図	6区18号住居使用面・掘り方	139
第45図	1区5号住居使用面・掘り方	73	第116図	6区18号住居カマド	140
第46図	1区5号住居カマド	74	第117図	6区19号住居使用面	141
第47図	1区6号住居使用面・掘り方	75	第118図	6区19号住居掘り方・北カマド	142
第48図	1区6号住居カマド	76	第119図	6区19号住居東カマド	143
第49図	1区7号住居使用面	77	第120図	6区20号住居	144
第50図	1区7号住居掘り方・カマド	78	第121図	6区21号住居使用面	145
第51図	4区26号住居	79	第122図	6区21号住居掘り方・カマド	146
第52図	5区8号住居使用面・掘り方	80	第123図	6区22号住居使用面・掘り方	147
第53図	5区8号住居カマド	81	第124図	6区22号住居カマド	148
第54図	5区43号住居使用面	81	第125図	6区23号住居	149
第55図	5区43号住居掘り方・カマド	82	第126図	6区24号住居使用面	151
第56図	5区56号住居使用面・掘り方・遺物出土状況	83	第127図	6区24号住居掘り方	152
第57図	5区56号住居カマド	84	第128図	6区24号住居東カマド	153
第58図	5区99号住居	85	第129図	6区24号住居北カマド	154
第59図	5区128号住居使用面	86	第130図	6区25号住居	155
第60図	5区128号住居カマド	87	第131図	6区26号住居使用面	156
第61図	5区206号住居使用面	88	第132図	6区26号住居掘り方	157
第62図	5区206号住居掘り方・西カマド	89	第133図	6区26号住居カマド	158
第63図	5区206号住居北カマド	90	第134図	6区27号住居使用面	159
第64図	5区207号住居	91	第135図	6区27号住居掘り方・カマド	160
第65図	5区208号住居	91	第136図	6区28号住居使用面・掘り方	161
第66図	5区209号住居使用面	91	第137図	6区28号住居カマド	162
第67図	5区209号住居カマド	92	第138図	6区29号住居使用面・掘り方	163
第68図	5区210号住居使用面	92	第139図	6区29号住居カマド	164
第69図	5区210号住居カマド	93	第140図	6区30号住居	165
第70図	5区214号住居使用面	93	第141図	6区30号住居カマド遺物出土状況	166
第71図	5区214号住居カマド	94	第142図	6区31号住居使用面	167

第143図	6区31号住居掘り方	168
第144図	6区31号住居カマド	169
第145図	6区32号住居使用面	170
第146図	6区32号住居掘り方	171
第147図	6区33号住居	172
第148図	6区34・35号住居	173
第149図	6区36号住居使用面	174
第150図	6区36号住居掘り方・カマド使用面	175
第151図	6区36号住居カマド掘り方	176
第152図	6区37号住居使用面	177
第153図	6区37号住居掘り方	178
第154図	6区37号住居カマド	179
第155図	6区38号住居	180
第156図	6区39号住居使用面・掘り方・カマド使用面	181
第157図	6区39号住居カマド掘り方	182
第158図	6区40号住居使用面	182
第159図	6区40号住居掘り方・カマド	183
第160図	6区41号住居使用面	184
第161図	6区41号住居掘り方・カマド使用面	185
第162図	6区41号住居カマド掘り方	186
第163図	6区42号住居	186
第164図	7区1号住居	187
第165図	7区2号住居	188
第166図	7区3号住居使用面・掘り方	189
第167図	7区3号住居カマド	190
第168図	7区4号住居	191
第169図	7区5号住居	192
第170図	7区6号住居	193
第171図	5区1号掘立柱建物	196
第172図	5区2号掘立柱建物	197
第173図	5区3号掘立柱建物	198
第174図	5区4号掘立柱建物	199
第175図	5区5号、6区3・5号掘立柱建物	200
第176図	6区2号掘立柱建物	201
第177図	6区4号掘立柱建物	202
第178図	6区6号掘立柱建物	203
第179図	6区7・8号掘立柱建物	204
第180図	6区9号掘立柱建物	205
第181図	6区10・11号掘立柱建物	206
第182図	古墳～平安時代溝1	211
第183図	古墳～平安時代溝2	212
第184図	古墳～平安時代溝3	213
第185図	古墳～平安時代溝4	214
第186図	古墳～平安時代溝5	215
第187図	古墳～平安時代溝6	216
第188図	古墳～平安時代溝7	217
第189図	古墳～平安時代溝8	218
第190図	古墳～平安時代溝9	219
第191図	古墳～平安時代溝10	220
第192図	古墳～平安時代溝11	221
第193図	古墳～平安時代溝12	222
第194図	古墳～平安時代溝13	223
第195図	古墳～平安時代溝14	224
第196図	古墳～平安時代溝15	225
第197図	古墳～平安時代溝16	226
第198図	古墳～平安時代溝17	227
第199図	古墳～平安時代溝18	228
第200図	古墳～平安時代溝19	229
第201図	古墳～平安時代溝20	230
第202図	古墳～平安時代溝21	231
第203図	古墳～平安時代溝22	232
第204図	古墳～平安時代溝23	233
第205図	古墳～平安時代溝24	234
第206図	古墳～平安時代溝25	235
第207図	古墳～平安時代溝26	236
第208図	古墳～平安時代溝27	237
第209図	古墳～平安時代井戸1	238
第210図	古墳～平安時代井戸2	239
第211図	古墳～平安時代土坑1	246
第212図	古墳～平安時代土坑2	247
第213図	古墳～平安時代土坑3	248
第214図	古墳～平安時代土坑4	249
第215図	古墳～平安時代土坑5	250
第216図	古墳～平安時代土坑6	251
第217図	古墳～平安時代土坑7	252
第218図	古墳～平安時代土坑8	253

第219図	古墳～平安時代土坑9	254
第220図	古墳～平安時代土坑10	255
第221図	古墳～平安時代土坑11	256
第222図	古墳～平安時代土坑12	257
第223図	古墳～平安時代土坑13	258
第224図	古墳～平安時代土坑14	259
第225図	古墳～平安時代土坑15	260
第226図	古墳～平安時代土坑16	261
第227図	古墳～平安時代土坑17	262
第228図	古墳～平安時代畚1	266
第229図	古墳～平安時代畚2	267
第230図	古墳～平安時代畚3	268
第231図	古墳～平安時代畚4	269
第232図	古墳～平安時代畚5	270
第233図	古墳～平安時代畚6	271
第234図	古墳～平安時代畚7	272
第235図	古墳～平安時代畚8	273
第236図	古墳～平安時代畚9	274
第237図	古墳～平安時代畚10	275
第238図	古墳～平安時代畚11	276
第239図	古墳～平安時代畚12	277
第240図	古墳～平安時代畚13	278
第241図	古墳～平安時代畚14	279
第242図	古墳～平安時代畚15	280
第243図	古墳～平安時代畚16	281
第244図	古墳～平安時代畚17	282
第245図	古墳～平安時代畚18	283
第246図	古墳～平安時代畚19	284
第247図	古墳～平安時代畚20	285
第248図	古墳～平安時代畚21	286
第249図	古墳～平安時代畚22	287
第250図	古墳～平安時代畚23	288
第251図	古墳～平安時代畚24	289
第252図	古墳～平安時代畚25	290
第253図	古墳～平安時代円形周溝遺構1	291
第254図	古墳～平安時代円形周溝遺構2	292
第255図	古墳～平安時代円形周溝遺構3	293
第256図	1区道路遺構全体図・割図配置図	294
第257図	1区道路遺構平面図1	295
第258図	1区道路遺構平面図2	296
第259図	1区道路遺構平面図3	297
第260図	1区道路遺構平面図4	298
第261図	1区道路遺構平面図5	299
第262図	1区道路遺構平面図6	300
第263図	1区道路遺構平面図7	301
第264図	1区道路遺構断面図	302
第265図	7区道路状遺構	303
第266図	6区1・2号竪穴遺構	304
第267図	6区3号竪穴遺構	305
第268図	6区土砂採掘坑	306
第269図	6区遺物集積遺構1	307
第270図	6区遺物集積遺構2	308
第271図	7区2号遺物集積遺構1	309
第272図	7区2号遺物集積遺構2	310
第273図	7区2号遺物集積遺構3	311
第274図	7区2号遺物集積遺構4	312
第275図	7区1号集石遺構	312
第276図	古墳～平安時代出土遺物1	319
第277図	古墳～平安時代出土遺物2	320
第278図	古墳～平安時代出土遺物3	321
第279図	古墳～平安時代出土遺物4	322
第280図	古墳～平安時代出土遺物5	323
第281図	古墳～平安時代出土遺物6	324
第282図	古墳～平安時代出土遺物7	325
第283図	古墳～平安時代出土遺物8	326
第284図	古墳～平安時代出土遺物9	327
第285図	古墳～平安時代出土遺物10	328
第286図	古墳～平安時代出土遺物11	329
第287図	古墳～平安時代出土遺物12	330
第288図	古墳～平安時代出土遺物13	331
第289図	古墳～平安時代出土遺物14	332
第290図	古墳～平安時代出土遺物15	333
第291図	古墳～平安時代出土遺物16	334
第292図	古墳～平安時代出土遺物17	335
第293図	古墳～平安時代出土遺物18	336
第294図	古墳～平安時代出土遺物19	337

第295図	古墳～平安時代出土遺物20	338	第371図	古墳～平安時代出土遺物96 (遺構外出土遺物3)	414
第296図	古墳～平安時代出土遺物21	339	第372図	古墳～平安時代出土遺物97 (遺構外出土遺物4)	415
第297図	古墳～平安時代出土遺物22	340	第373図	古墳～平安時代出土遺物98 (遺構外出土遺物5)	416
第298図	古墳～平安時代出土遺物23	341	第374図	古墳～平安時代出土遺物99 (遺構外出土遺物6)	417
第299図	古墳～平安時代出土遺物24	342	第375図	古墳～平安時代出土遺物100 (遺構外出土遺物7)	418
第300図	古墳～平安時代出土遺物25	343	第376図	古墳～平安時代出土遺物101 (遺構外出土遺物8)	419
第301図	古墳～平安時代出土遺物26	344	第377図	古墳～平安時代出土遺物102 (遺構外出土遺物9)	420
第302図	古墳～平安時代出土遺物27	345	第378図	古墳～平安時代出土遺物103 (遺構外出土遺物10)	421
第303図	古墳～平安時代出土遺物28	346	第379図	古墳～平安時代出土遺物104 (遺構外出土遺物11)	422
第304図	古墳～平安時代出土遺物29	347	第380図	古墳～平安時代出土遺物105 (遺構外出土遺物12)	423
第305図	古墳～平安時代出土遺物30	348	第381図	古墳～平安時代出土遺物106 (遺構外出土遺物13)	424
第306図	古墳～平安時代出土遺物31	349	第382図	古墳～平安時代出土遺物107 (遺構外出土遺物14)	425
第307図	古墳～平安時代出土遺物32	350	第383図	古墳～平安時代出土遺物108 (遺構外出土遺物15)	426
第308図	古墳～平安時代出土遺物33	351	第384図	古墳～平安時代出土遺物109 (遺構外出土遺物16)	427
第309図	古墳～平安時代出土遺物34	352	第385図	古墳～平安時代出土遺物110 (遺構外出土遺物17)	428
第310図	古墳～平安時代出土遺物35	353	第386図	古墳～平安時代出土遺物111 (遺構外出土遺物18)	429
第311図	古墳～平安時代出土遺物36	354	第387図	古墳～平安時代出土遺物112 (遺構外出土遺物19)	430
第312図	古墳～平安時代出土遺物37	355	第388図	古墳～平安時代出土遺物113 (遺構外出土遺物20)	431
第313図	古墳～平安時代出土遺物38	356	第389図	古墳～平安時代出土遺物114 (遺構外出土遺物21)	432
第314図	古墳～平安時代出土遺物39	357	第390図	中世以降遺構位置図	473
第315図	古墳～平安時代出土遺物40	358	第391図	中世以降掘立柱建物1	476
第316図	古墳～平安時代出土遺物41	359	第392図	中世以降掘立柱建物2	477
第317図	古墳～平安時代出土遺物42	360	第393図	中世以降掘立柱建物3	478
第318図	古墳～平安時代出土遺物43	361	第394図	中世以降掘立柱建物4	479
第319図	古墳～平安時代出土遺物44	362	第395図	中世以降掘立柱建物5	480
第320図	古墳～平安時代出土遺物45	363	第396図	中世以降掘立柱建物6	481
第321図	古墳～平安時代出土遺物46	364	第397図	中世以降溝1	485
第322図	古墳～平安時代出土遺物47	365	第398図	中世以降溝2	486
第323図	古墳～平安時代出土遺物48	366	第399図	中世以降溝3	487
第324図	古墳～平安時代出土遺物49	367	第400図	中世以降溝4	488
第325図	古墳～平安時代出土遺物50	368	第401図	中世以降溝5	489
第326図	古墳～平安時代出土遺物51	369	第402図	中世以降溝6	490
第327図	古墳～平安時代出土遺物52	370	第403図	中世以降溝7	491
第328図	古墳～平安時代出土遺物53	371	第404図	中世以降溝8	492
第329図	古墳～平安時代出土遺物54	372	第405図	中世以降溝9	493
第330図	古墳～平安時代出土遺物55	373	第406図	中世以降溝10	494
第331図	古墳～平安時代出土遺物56	374	第407図	中世以降溝11	495
第332図	古墳～平安時代出土遺物57	375	第408図	中世以降溝12	496
第333図	古墳～平安時代出土遺物58	376	第409図	中世以降溝13	497
第334図	古墳～平安時代出土遺物59	377	第410図	中世以降溝14	498
第335図	古墳～平安時代出土遺物60	378	第411図	中世以降溝15	499
第336図	古墳～平安時代出土遺物61	379	第412図	中世以降溝16	500
第337図	古墳～平安時代出土遺物62	380	第413図	中世以降溝17	501
第338図	古墳～平安時代出土遺物63	381	第414図	中世以降溝18	502
第339図	古墳～平安時代出土遺物64	382	第415図	中世以降溝19	503
第340図	古墳～平安時代出土遺物65	383	第416図	中世以降井戸1	505
第341図	古墳～平安時代出土遺物66	384	第417図	中世以降井戸2	506
第342図	古墳～平安時代出土遺物67	385	第418図	中世以降井戸3	507
第343図	古墳～平安時代出土遺物68	386	第419図	中世以降土坑1	514
第344図	古墳～平安時代出土遺物69	387	第420図	中世以降土坑2	515
第345図	古墳～平安時代出土遺物70	388	第421図	中世以降土坑3	516
第346図	古墳～平安時代出土遺物71	389	第422図	中世以降土坑4	517
第347図	古墳～平安時代出土遺物72	390	第423図	中世以降土坑5	518
第348図	古墳～平安時代出土遺物73	391	第424図	中世以降土坑6	519
第349図	古墳～平安時代出土遺物74	392	第425図	中世以降土坑7	520
第350図	古墳～平安時代出土遺物75	393	第426図	中世以降土坑8	521
第351図	古墳～平安時代出土遺物76	394	第427図	中世以降土坑9	522
第352図	古墳～平安時代出土遺物77	395	第428図	中世以降土坑10	523
第353図	古墳～平安時代出土遺物78	396	第429図	中世以降土坑11	524
第354図	古墳～平安時代出土遺物79	397	第430図	中世以降土坑12	525
第355図	古墳～平安時代出土遺物80	398	第431図	中世以降土坑13	526
第356図	古墳～平安時代出土遺物81	399	第432図	中世以降土坑14	527
第357図	古墳～平安時代出土遺物82	400	第433図	中世以降土坑15	528
第358図	古墳～平安時代出土遺物83	401	第434図	中世以降土坑16	529
第359図	古墳～平安時代出土遺物84	402	第435図	中世以降土坑17	530
第360図	古墳～平安時代出土遺物85	403	第436図	中世以降出土遺物1	549
第361図	古墳～平安時代出土遺物86	404	第437図	中世以降出土遺物2	550
第362図	古墳～平安時代出土遺物87	405	第438図	中世以降出土遺物3	551
第363図	古墳～平安時代出土遺物88	406	第439図	中世以降出土遺物4	552
第364図	古墳～平安時代出土遺物89	407	第440図	中世以降出土遺物5	553
第365図	古墳～平安時代出土遺物90	408	第441図	中世以降出土遺物6	554
第366図	古墳～平安時代出土遺物91	409	第442図	中世以降出土遺物7	555
第367図	古墳～平安時代出土遺物92	410	第443図	中世以降出土遺物8	556
第368図	古墳～平安時代出土遺物93	411	第444図	中世以降出土遺物9	557
第369図	古墳～平安時代出土遺物94 (遺構外出土遺物1)	412	第445図	矢部遺跡出土の鈿帯と墨	570
第370図	古墳～平安時代出土遺物95 (遺構外出土遺物2)	413	第446図	下新田ルート推定図	583

# 表目次

第1表	遺構名変更遺構新旧対照表	5	第28表	古墳～平安時代土坑出土土器重量表	245
第2表	周辺遺跡一覧表	18	第29表	古墳～平安時代島一覧表	264
第3表	旧石器計測表	27	第30表	古墳～平安時代島出土土器重量表	265
第4表	縄文時代土坑形態別数量表	31	第31表	古墳～平安時代堅穴遺構一覧表	305
第5表	縄文時代円形周溝遺構一覧表	31	第32表	古墳～平安時代堅穴遺構出土土器重量表	305
第6表	縄文時代土坑一覧表	31	第33表	古墳～平安時代遺物集積遺構一覧表	308
第7表	縄文土器数量表	42	第34表	古墳～平安時代遺構外出土土器重量表	313
第8表	縄文時代出土土器数量表	42	第35表	古墳～平安時代出土土器観察表	433
第9表	縄文時代石材別石器数量表	42	第36表	古墳～平安時代出土土器製品観察表	470
第10表	縄文土器観察表	51	第37表	古墳～平安時代出土鉄製品観察表	471
第11表	縄文時代石器観察表	54	第38表	中世以降・時期不明掘立柱建物一覧表	474
第12表	弥生土器数量表	56	第39表	中世以降・時期不明掘立柱建物柱間距離表	475
第13表	弥生土器観察表	57	第40表	中世以降・時期不明掘立柱建物出土遺物数量表	475
第14表	弥生時代石器観察表	57	第41表	中世以降・時期不明溝一覧表	483
第15表	古墳～平安時代堅穴住居一覧表	62	第42表	中世以降・時期不明井戸一覧表	504
第16表	古墳～平安時代堅穴住居カマド一覧表	63	第43表	中世以降・時期不明土坑一覧表	510
第17表	古墳～平安時代堅穴住居貯蔵穴・柱穴一覧表	64	第44表	中世以降・時期不明ビット計測表	531
第18表	古墳～平安時代堅穴住居出土土器重量表	65	第45表	中世以降・時期不明遺構外出土土器・陶磁器数量表	547
第19表	古墳～平安時代掘立柱建物一覧表	194	第46表	中世以降・時期不明遺構外出土土器・陶磁器観察表	558
第20表	古墳～平安時代掘立柱建物柱間一覧表	195	第47表	中世以降・時期不明遺構外出土土器製品観察表	562
第21表	古墳～平安時代掘立柱建物出土土器重量表	195	第48表	中世以降・時期不明遺構外出土銅製品・銅銭観察表	562
第22表	古墳～平安時代溝一覧表	209	第49表	馬歯計測表	566
第23表	古墳～平安時代溝出土土器重量表	210	第50表	黒色塊破断面のX線分析結果	567
第24表	古墳～平安時代井戸一覧表	238	第51表	膠の赤外吸収位置とその強度	568
第25表	古墳～平安時代井戸出土土器重量表	238	第52表	墨の出土例	571
第26表	古墳～平安時代土坑形態別数量表	241			
第27表	古墳～平安時代土坑一覧表	242			

# 写真目次

PL. 1	1. 1区全景(上空から)	4. 2区42号土坑全景(北から)
	2. 1区全景(南上空から)	5. 2区43号土坑全景(東から)
PL. 2	1. 1区全景(西上空から)	6. 5区44号土坑全景(西から)
	2. 1区全景(南西上空から)	7. 6区23号土坑全景(南から)
PL. 3	1. 2区全景(南から)	8. 6区31号土坑全景(南から)
	2. 2区近景(南西から)	PL. 16
PL. 4	1. 3区2面北側全景(南西から)	1. 6区32号土坑全景(南から)
	2. 3区2面南側全景(南西から)	2. 6区52号土坑全景(南から)
PL. 5	1. 3区3面全景(東から)	3. 6区53号土坑全景(南から)
	2. 3区3面北側全景(東から)	4. 6区54号土坑全景(南から)
PL. 6	1. 3区3面南側全景(東から)	5. 6区55号土坑全景(南から)
	2. 3区4面北側全景(東から)	6. 6区56号土坑全景(南から)
PL. 7	1. 4区全景(南東から)	7. 6区57号土坑全景(南から)
	2. 4区全景(北西から)	8. 6区58号土坑全景(南から)
PL. 8	1. 5-1区全景(上空から)	PL. 17
	2. 5-1区全景(南東上空から)	1. 6区59号土坑全景(南から)
PL. 9	1. 5-1区全景(北東上空から)	2. 6区60号土坑全景(南から)
	2. 5区北側近景(北から)	3. 6区61号土坑全景(南から)
PL. 10	1. 5区北側近景(北から)	4. 6区62号土坑全景(南から)
	2. 6-1区全景(上空から)	5. 6区63号土坑全景(南から)
PL. 11	1. 6-2区全景(上空から)	6. 6区64号土坑全景(南から)
	2. 6-2区全景(東上空から)	7. 6区65号土坑全景(南から)
PL. 12	1. 6-2区全景(西上空から)	8. 6区66号土坑全景(南から)
	2. 7区全景(上空から)	PL. 18
PL. 13	1. 7-2区全景(南上空から)	1. 6区67号土坑全景(南から)
	2. 7-2区全景(南から)	2. 6区68号土坑全景(南から)
PL. 14	1. 6区旧石器試掘状況	3. 6区69号土坑全景(南から)
	2. 930-840Gr拡張部調査状況	4. 6区70号土坑全景(南から)
	3. 930-840Gr遺物出土状況遠景	5. 6区71号土坑全景(南から)
	4. 930-840Gr遺物出土状況南西部近景	6. 6区72号土坑全景(南から)
	5. 930-840Gr遺物出土状況北西部近景	7. 6区73号土坑全景(南から)
	6. 930-840Gr遺物出土状況東部近景	8. 6区74号土坑全景(南から)
	7. 930-840Grトレンチ南壁セクション	PL. 19
	8. 930-840Grトレンチ西壁セクション	1. 6区75号土坑全景(南から)
PL. 15	1. 6区2号円形周溝遺構全景(東から)	2. 6区76号土坑全景(南から)
	2. 6区3号円形周溝遺構全景(東から)	3. 6区77号土坑全景(南から)
	3. 2区26号土坑全景(北から)	4. 6区78号土坑全景(南から)
		5. 6区79号土坑全景(南から)
		6. 6区80号土坑全景(南から)
		7. 6区81号土坑全景(南から)
		8. 6区82号土坑全景(南から)

PL.20	1. 6区83号土坑全景(南から) 2. 6区84号土坑全景(南から) 3. 6区85号土坑全景(南から) 4. 6区86号土坑全景(南から) 5. 6区87号土坑全景(南から) 6. 6区88号土坑全景(南から) 7. 6区89号土坑全景(南から) 8. 6区90号土坑全景(南から)		4. 1区7号住居カマド全景(南から) 5. 1区7号住居掘り方全景(南から)
		PL.32	1. 1区7号住居全景(南から) 2. 4区26号住居全景(西から)
		PL.33	1. 5区8号住居全景(南から) 2. 5区43号住居全景(南東から) 3. 5区56号住居全景(南東から) 4. 5区56号住居中央部遺物出土状況(西から) 5. 5区99号住居全景(西から) 6. 5区99号住居カマド全景(西から) 7. 5区128号住居全景(南から) 8. 5区206号住居貯蔵穴遺物出土状況(南から)
PL.21	1. 6区91号土坑全景(南から) 2. 6区92号土坑全景(南から) 3. 6区93号土坑全景(南から) 4. 6区94号土坑全景(南から) 5. 6区95号土坑全景(南から) 6. 6区96号土坑全景(南から) 7. 6区97号土坑全景(南から) 8. 6区98号土坑全景(南から)	PL.34	1. 5区206号住居全景(南から) 2. 5区206号住居カマド遺物出土状況(南東から)
		PL.35	1. 5区206号住居カマド全景(南東から) 2. 5区207号住居全景(南から) 3. 5区208号住居全景(南西から) 4. 5区209号住居遺物出土状況(西から) 5. 5区209号住居全景(西から) 6. 5区210号住居全景(西から) 7. 5区214号住居全景(西から) 8. 5区214号住居カマド全景(西から)
PL.22	1. 6区99号土坑全景(南から) 2. 6区100号土坑全景(南から) 3. 6区101号土坑全景(南から) 4. 6区102号土坑全景(南から) 5. 6区103号土坑全景(南から) 6. 6区104号土坑全景(南から) 7. 6区105号土坑全景(南から) 8. 6区106号土坑全景(南から)	PL.36	1. 5区245号住居全景(西から) 2. 5区286号住居全景(西から) 3. 5区286号住居カマド全景(西から) 4. 5区304号住居全景(西から) 5. 5区304号住居カマド全景(西から) 6. 5区430号住居全景(西から) 7. 5区430号住居カマド全景(南から) 8. 6区1号住居カマド遺物出土状況(南東から)
PL.23	1. 6区107号土坑全景(南から) 2. 6区108号土坑全景(南から) 3. 6区109号土坑全景(南から) 4. 6区110号土坑全景(南から) 5. 6区111号土坑全景(南から) 6. 6区112・114号土坑全景(南から) 7. 6区113号土坑全景(南から) 8. 6区189号土坑全景(南東から)	PL.37	1. 6区1号住居全景(南東から) 2. 6区1号住居カマド全景(南東から) 3. 6区1号住居掘り方全景(南東から) 4. 6区2号住居北カマド全景(南東から) 5. 6区2号住居東カマド全景(西から)
PL.24	1. 6区190号土坑全景(南から) 2. 6区191号土坑全景(南から) 3. 6区192号土坑全景(南から) 4. 6区195号土坑全景(南から) 5. 6区196号土坑全景(北東から) 6. 6区197号土坑全景(北西から) 7. 6区198号土坑全景(南から) 8. 6区202号土坑全景(南西から)	PL.38	1. 6区2号住居全景(南東から) 2. 6区2号住居掘り方全景(南東から) 3. 6区3号住居中央部遺物出土状況(西から) 4. 6区3号住居カマド全景(南西から) 5. 6区3号住居掘り方全景(南西から)
PL.25	1. 6区203号土坑全景(東から) 2. 6区204号土坑全景(南から) 3. 6区205号土坑全景(南から) 4. 6区206号土坑全景(南から) 5. 6区207号土坑全景(南東から) 6. 6区208号土坑全景(南西から) 7. 6区209号土坑全景(西から) 8. 6区210号土坑全景(南から)	PL.39	1. 6区3号住居全景(南西から) 2. 6区4号住居全景(西から) 1. 6区4号住居カマド全景(西から) 2. 6区4号住居貯蔵穴全景(西から) 3. 6区4号住居掘り方全景(西から) 4. 6区5号住居カマド全景(南西から) 5. 6区5号住居全景(北から)
PL.26	1. 1区1号住居全景(西から) 2. 1区1号住居南西部遺物出土状況(東から) 3. 1区1号住居カマド全景(南から) 4. 1区1号住居カマド掘り方全景(南から) 5. 1区1号住居掘り方全景(南から)	PL.41	1. 6区5号住居カマド掘り方全景(北から) 2. 6区5号住居1号土坑全景(南から) 3. 6区5号住居掘り方全景(北から) 4. 6区6号住居掘り方全景(西から) 5. 6区6号住居全景(西から)
PL.27	1. 1区2号住居全景(西から) 2. 1区2号住居北西部遺物出土状況(南から) 3. 1区2号住居カマド遺物出土状況(西から) 4. 1区2号住居カマド全景(西から) 5. 1区2号住居掘り方全景(西から)	PL.42	1. 6区7号住居全景(南西から) 2. 6区7号住居カマド全景(南西から) 3. 6区7号住居カマド掘り方全景(南西から) 4. 6区7号住居掘り方全景(南西から) 5. 6区8号住居カマド全景(南西から)
PL.28	1. 1区3号住居全景(南から) 2. 1区3号住居カマド遺物出土状況(南から) 3. 1区3号住居カマド全景(南から) 4. 1区3号住居カマド掘り方全景(南から) 5. 1区3号住居掘り方全景(南から)	PL.43	1. 6区8号住居全景(南西から) 2. 6区8号住居カマド掘り方全景(南西から) 3. 6区8号住居掘り方全景(南西から) 4. 6区9号住居漆紙入土師器杯(No.3312)出土状況(北から) 5. 6区9号住居北西部遺物出土状況(西から)
PL.29	1. 1区4号住居全景(西から) 2. 1区4号住居カマド全景(西から) 3. 1区4号住居カマド掘り方全景(西から) 4. 1区4号住居掘り方全景(西から) 5. 1区5号住居カマド全景(南から)	PL.44	1. 6区9号住居全景(西から) 2. 6区9号住居漆紙入土師器杯(No.3312)出土状況(北西から)
PL.30	1. 1区5号住居全景(南から) 2. 1区5号住居掘り方全景(南から) 3. 1区6号住居遺物出土状況(南から) 4. 1区6号住居カマド遺物出土状況(南から) 5. 1区6号住居カマド全景(南から)	PL.45	1. 6区9号住居掘り方全景(西から) 2. 6区9号住居遺物出土状況(西から) 3. 6区9号住居内土坑全景(南から) 4. 6区10号住居カマド全景(南から) 5. 6区10号住居カマド掘り方全景(南から)
PL.31	1. 1区6号住居全景(南から) 2. 1区6号住居掘り方全景(南から) 3. 1区7号住居カマド遺物出土状況(南から)	PL.46	1. 6区10号住居全景(南から) 2. 6区10号住居掘り方全景(南から)
		PL.47	1. 6区11号住居全景(南西から) 2. 6区11号住居カマド全景(南西から) 3. 6区11号住居カマド掘り方全景(南西から)

	4. 6区11号住居掘り方全景(西から)		2. 6区27号住居カマド全景(南東から)
	5. 6区12号住居カマド遺物出土状況(南西から)		3. 6区27号住居カマド掘り方全景(南東から)
PL.48	1. 6区12号住居全景(南西から)		4. 6区27号住居遺物出土状況(南から)
	2. 6区12号住居カマド全景(南西から)		5. 6区27号住居掘り方全景(南東から)
	3. 6区12号住居カマド掘り方全景(南西から)	PL.63	1. 6区28号住居全景(西から)
	4. 6区12号住居掘り方全景(南西から)		2. 6区28号住居セクション(西から)
	5. 6区13号住居全景(南西から)		3. 6区28号住居遺物出土状況(西から)
PL.49	1. 6区13号住居カマド全景(南西から)		4. 6区28号住居カマド全景(西から)
	2. 6区13号住居カマド煙道部断割状況(南から)		5. 6区28号住居掘り方全景(西から)
	3. 6区13号住居南壁際遺物出土状況(南から)	PL.64	1. 6区29号住居全景(南西から)
	4. 6区13号住居掘り方全景(南西から)		2. 6区29号住居カマド遺物出土状況(南西から)
	5. 6区14号住居全景(北西から)		3. 6区29号住居カマド全景(南西から)
PL.50	1. 6区14号住居カマド全景(南東から)		4. 6区29号住居貯蔵穴全景(西から)
	2. 6区14号住居カマド掘り方全景(南東から)		5. 6区29号住居掘り方全景(南西から)
	3. 6区14号住居貯蔵穴全景(南東から)	PL.65	1. 6区30号住居全景(南から)
	4. 6区14号住居掘り方全景(北西から)		2. 6区30号住居遺物出土状況(南東から)
	5. 6区15号住居全景(南から)		3. 6区30号住居カマド全景(南から)
	6. 6区15号住居カマド全景(南西から)		4. 6区30号住居2号ピット遺物出土状況(南から)
	7. 6区15号住居掘り方全景(南西から)		5. 6区30号住居掘り方全景(南から)
	8. 6区16号住居遺物出土状況(北西から)	PL.66	1. 6区31号住居全景(南東から)
PL.51	1. 6区16号住居全景(西から)		2. 6区31号住居カマド全景(南東から)
	2. 6区16号住居カマド全景(西から)		3. 6区31号住居カマド遺物出土状況(南東から)
	3. 6区16号住居カマド掘り方全景(西から)		4. 6区31号住居カマド遺物出土状況(西から)
	4. 6区16号住居掘り方全景(西から)		5. 6区31号住居掘り方全景(南東から)
	5. 6区17号住居遺物出土状況(南東から)	PL.67	1. 6区32号住居全景(南西から)
PL.52	1. 6区17号住居全景(南東から)		2. 6区32号住居炭化物出土状況(南から)
	2. 6区17号住居北西部遺物出土状況(北から)		3. 6区32号住居炭化物出土状況
	3. 6区17号住居カマド全景(南東から)		4. 6区32号住居内ピット全景(南から)
	4. 6区17号住居カマド掘り方全景(南東から)		5. 6区32号住居掘り方全景(南西から)
	5. 6区17号住居掘り方全景(南東から)	PL.68	1. 6区33号住居全景(北西から)
PL.53	1. 6区18号住居全景(南から)		2. 6区33号住居掘り方全景(北西から)
	2. 6区18号住居遺物出土状況(南から)		3. 6区34・35号住居全景(西から)
	3. 6区18号住居北カマド全景(南から)		4. 6区34・35号住居掘り方全景(西から)
	4. 6区18号住居東カマド全景(西から)		5. 6区36号住居東壁際遺物出土状況(南西から)
	5. 6区18号住居掘り方全景(南から)	PL.69	1. 6区36号住居全景(南東から)
PL.54	1. 6区19号住居全景(西から)		2. 6区36号住居カマド全景(南東から)
	2. 6区19号住居北カマド全景(南から)		3. 6区36号住居カマド掘り方全景(南東から)
	3. 6区19号住居東カマド全景(西から)		4. 6区36号住居掘り方全景(南東から)
	4. 6区19号住居床下遺物出土状況(西から)		5. 6区37号住居カマド全景(西から)
	5. 6区19号住居掘り方全景(西から)	PL.70	1. 6区37号住居全景(西から)
PL.55	1. 6区20号住居全景(南東から)		2. 6区37号住居カマド掘り方全景(西から)
	2. 6区20号住居カマド全景(南東から)		3. 6区37号住居貯蔵穴全景(西から)
	3. 6区20号住居カマド掘り方全景(南東から)		4. 6区37号住居紡錘車出土状況(南から)
	4. 6区20号住居遺物出土状況(南から)		5. 6区37号住居掘り方全景(西から)
	5. 6区20号住居掘り方全景(南東から)	PL.71	1. 6区38号住居全景(西から)
PL.56	1. 6区21号住居全景(南西から)		2. 6区38号住居遺物出土状況(西から)
	2. 6区21号住居遺物出土状況(南西から)		3. 6区38号住居カマド掘り方全景(西から)
	3. 6区21号住居カマド全景(南西から)		4. 6区38号住居掘り方全景(西から)
	4. 6区21号住居カマド掘り方全景(南西から)		5. 6区39号住居貯蔵穴全景(西から)
	5. 6区21号住居掘り方全景(南西から)	PL.72	1. 6区39号住居全景(西から)
PL.57	1. 6区22号住居全景(南西から)		2. 6区39号住居カマド全景(西から)
	2. 6区22号住居カマド前遺物出土状況(南西から)		3. 6区39号住居カマド掘り方全景(西から)
	3. 6区22号住居カマド全景(南西から)		4. 6区39号住居掘り方全景(西から)
	4. 6区22号住居カマド掘り方全景(南西から)		5. 6区40号住居カマド遺物出土状況(南西から)
	5. 6区22号住居掘り方全景(南西から)	PL.73	1. 6区40号住居全景(南西から)
PL.58	1. 6区23号住居全景(南から)		2. 6区40号住居カマド全景(南西から)
	2. 6区23号住居東部遺物出土状況(南西から)		3. 6区40号住居カマド支脚出土状況(東から)
	3. 6区23号住居カマド全景(南から)		4. 6区40号住居カマド掘り方全景(南西から)
	4. 6区23号住居カマド掘り方全景(南から)		5. 6区40号住居掘り方全景(南西から)
	5. 6区24号住居東カマド全景(南西から)	PL.74	1. 6区41号住居全景(南東から)
PL.59	1. 6区24号住居全景(南西から)		2. 6区41号住居カマド全景(南東から)
	2. 6区24号住居東カマド掘り方全景(南西から)		3. 6区41号住居カマド掘り方全景(南東から)
	3. 6区24号住居北カマド全景(南東から)		4. 6区41号住居貯蔵穴全景(西から)
	4. 6区24号住居北カマド掘り方全景(南東から)		5. 6区41号住居掘り方全景(南東から)
	5. 6区24号住居掘り方全景(南西から)	PL.75	1. 6区42号住居全景(南東から)
PL.60	1. 6区25号住居全景(南西から)		2. 6区42号住居カマド全景(南東から)
	2. 6区25号住居貯蔵穴全景(北から)		3. 6区42号住居カマド掘り方全景(南東から)
	3. 6区25号住居南壁際遺物出土状況(南から)		4. 6区42号住居内ピット全景(南から)
	4. 6区25号住居北東部遺物出土状況(南から)		5. 6区42号住居掘り方全景(南東から)
	5. 6区25号住居掘り方全景(南西から)	PL.76	1. 7区1号住居全景(南西から)
PL.61	1. 6区26号住居全景(南東から)		2. 7区1号住居掘り方全景(南西から)
	2. 6区26号住居貯蔵穴全景(南から)		3. 7区2号住居カマド全景(南西から)
	3. 6区26号住居カマド全景(南東から)		4. 7区2号住居カマド掘り方全景(南西から)
	4. 6区26号住居カマド掘り方全景(南東から)		5. 7区2号住居貯蔵穴遺物出土状況(南東から)
	5. 6区26号住居掘り方全景(南東から)	PL.77	1. 7区2号住居全景(南西から)
PL.62	1. 6区27号住居全景(南東から)		2. 7区2号住居掘り方全景(南西から)



	3. 7区3号住居北部遺物出土状況(南東から)		2. 6区59号溝7区8号溝北部張出部(北から)
	4. 7区3号住居カマド全景(南西から)		3. 6区59号溝7区8号溝北部2面全景(南から)
PL.78	5. 7区3号住居カマド掘り方全景(南西から)		4. 6区59号溝7区8号溝北部3面全景(南から)
	1. 7区3号住居全景(南西から)		5. 6区59号溝7区8号溝北部1面全景(北から)
	2. 7区3号住居掘り方全景(南西から)		6. 6区59号溝7区8号溝北部セクション(北から)
	3. 7区4号住居全景(南東から)		7. 7区1号溝南部1面全景(北から)
	4. 7区4号住居1号ピット遺物出土状況(南から)		8. 7区1号溝北部1面全景(南から)
	5. 7区4号住居掘り方全景(南東から)	PL.90	1. 7区1号溝985-780Gr遺物出土状況(南から)
PL.79	1. 7区4号住居カマド全景(南東から)		2. 7区1号溝985-785Gr遺物出土状況(北から)
	2. 7区5号住居掘り方全景(東から)		3. 7区1号溝南部2面全景(北から)
	3. 7区6号住居全景(北から)		4. 7区1号溝南部2面全景(南から)
	4. 7区6号住居北西部遺物出土状況(南西から)		5. 7区1号溝南部3面全景(南から)
	5. 7区6号住居掘り方全景(北東から)	PL.91	1. 7区1号溝北部3面全景(北から)
PL.80	1. 5区1号掘立柱建物全景(南西から)		2. 7区1号溝中部3面全景(南から)
	2. 5区2号掘立柱建物全景(西から)		3. 7区1号溝南端部3面全景(北から)
	3. 5区3号掘立柱建物全景(南から)		4. 7区1号溝北部セクション(南から)
	4. 5区4号掘立柱建物全景(西から)		5. 7区3号溝1面全景(南から)
	5. 6区1号掘立柱建物全景(南から)		6. 7区3号溝南部1面全景(南から)
	6. 6区2号掘立柱建物全景(西から)		7. 7区3号溝1面990-805Gr遺物出土状況(南から)
	7. 6区3号掘立柱建物全景(北から)		8. 7区3号溝2面全景(南から)
	8. 6区4号掘立柱建物全景(北から)	PL.92	1. 7区3号溝南部2面全景(北から)
PL.81	1. 6区5号掘立柱建物全景(西から)		2. 7区3号溝3面全景(南から)
	2. 6区6号掘立柱建物全景(南から)		3. 7区3号溝3面全景(北から)
	3. 6区7号掘立柱建物全景(南から)		4. 7区3号溝北壁セクション(南から)
	4. 6区8号掘立柱建物全景(北から)		5. 7区4号溝全景(東から)
	5. 6区9号掘立柱建物全景(西から)	PL.93	1. 7区5号溝全景(東から)
	6. 6区10号掘立柱建物全景(南東から)		2. 7区6号溝全景(東から)
	7. 6区11号掘立柱建物全景(南西から)		3. 7区7号溝全景(東から)
	8. 1区6・7号溝全景(北から)		4. 7区10号溝全景(東から)
PL.82	1. 3区2号溝全景(南から)		5. 7区11号溝全景(東から)
	2. 3区7号溝全景(南から)		6. 7区12号溝全景(西から)
	3. 3区8号溝全景(南から)		7. 7区13号溝全景(西から)
	4. 3区16号溝全景(南から)		8. 7区16号溝全景(西から)
	5. 5区・6区3号溝北側全景(南から)	PL.94	1. 7区15号溝全景(西から)
PL.83	1. 6区7号溝全景(南から)		2. 1区303号井戸全景(南から)
	2. 6区8号溝全景(東から)		3. 1区305号井戸全景(西から)
	3. 6区9号溝全景(東から)		4. 1区13号土坑全景(北から)
	4. 6区10号溝全景(東から)		5. 1区16号土坑全景(西から)
	5. 6区11号溝全景(東から)		6. 1区17号土坑全景(南から)
	6. 6区12号溝全景(東から)		7. 1区18号土坑全景(北から)
	7. 6区13号溝全景(北から)	PL.95	1. 1区20号土坑全景(北西から)
	8. 6区14号溝全景(南から)		2. 3区3号土坑全景(東から)
PL.84	1. 6区15号溝全景(南西から)		3. 3区4号土坑全景(東から)
	2. 6区16号溝全景(南西から)		4. 3区5号土坑全景(北東から)
	3. 6区17号溝全景(南から)		5. 3区6号土坑全景(北東から)
	4. 6区18・19・22・23号溝全景(南西から)		6. 3区7号土坑全景(北東から)
	5. 6区20号溝全景(南西から)		7. 3区8号土坑全景(南から)
	6. 6区21号溝全景(南西から)		8. 3区9号土坑全景(西から)
	7. 6区24・25号溝全景(南東から)	PL.96	1. 3区10号土坑全景(北東から)
	8. 6区54号溝全景(東から)		2. 3区11号土坑全景(西から)
PL.85	1. 6区26号溝全景(北西から)		3. 3区12号土坑全景(北東から)
	2. 6区50号溝全景(南東から)		4. 3区13号土坑全景(南から)
	3. 6区52号溝全景(北西から)		5. 3区14号土坑全景(南西から)
	4. 6区55号溝全景(東から)		6. 3区15号土坑全景(南から)
PL.86	1. 6区56号溝全景(北から)		7. 3区16号土坑全景(北から)
	2. 6区57号溝全景(南から)		8. 3区17号土坑全景(西から)
	3. 6区61号溝全景(北上空から)	PL.97	1. 3区19号土坑全景(北から)
	4. 6区61号溝全景(北から)		2. 3区20号土坑全景(西から)
	5. 6区61号溝北部全景(南から)		3. 4区19号土坑全景(東から)
PL.87	1. 6区61号溝セクション(南から)		4. 4区21号土坑全景(西から)
	2. 6区58号溝7区9号溝南部全景(南から)		5. 5区215号土坑遺物出土状況(西から)
	3. 6区58号溝7区9号溝南端部全景(北から)		6. 5区215号土坑全景(南西から)
	4. 6区58号溝7区9号溝中部全景(北から)		7. 5区586号土坑全景(北西から)
	5. 6区58号溝7区9号溝北部1面全景(北から)		8. 6区1号土坑全景(西から)
	6. 6区58号溝7区9号溝北部2面全景(南から)	PL.98	1. 6区2号土坑全景(南から)
	7. 6区58号溝7区9号溝北部3面全景(南から)		2. 6区3号土坑全景(南西から)
	8. 6区58号溝7区9号溝北部遺物出土状況(南から)		3. 6区4号土坑全景(南から)
PL.88	1. 6区59号溝7区8号溝南部2面全景(南から)		4. 6区5号土坑全景(東から)
	2. 6区59号溝7区8号溝南端部2面全景(北から)		5. 6区6号土坑全景(南から)
	3. 6区59号溝7区8号溝南部2面全景(南から)		6. 6区7号土坑全景(南東から)
	4. 6区59号溝7区8号溝南端部3面全景(北から)		7. 6区8号土坑全景(南から)
	5. 6区59号溝7区8号溝セクション(南から)		8. 6区9号土坑全景(南から)
	6. 6区59号溝7区8号溝南部1面全景(北から)	PL.99	1. 6区10号土坑全景(南から)
	7. 6区59号溝7区8号溝中部2面全景(北から)		2. 6区11号土坑全景(南西から)
	8. 6区59号溝7区8号溝中部3面全景(北から)		3. 6区13号土坑全景(南から)
PL.89	1. 6区59号溝7区8号溝北部1面全景(北から)		4. 6区14号土坑全景(西から)

	5. 6区15号土坑全景(南から)	PL.109	1. 7区6号土坑遺物出土状況(北から)
	6. 6区16号土坑全景(南から)		2. 7区6号土坑全景(南から)
	7. 6区17号土坑全景(北から)		3. 7区7号土坑全景(北から)
PL.100	8. 6区18号土坑全景(南から)		4. 7区8号土坑全景(南東から)
	1. 6区19号土坑全景(西から)		5. 6区71号ピット遺物出土状況(南から)
	2. 6区20号土坑全景(南から)		6区71号ピット全景(南から)
	3. 6区21号土坑全景(北から)		7. 6区110号ピット遺物出土状況(南東から)
	4. 6区22号土坑全景(南から)	PL.110	8. 6区110号ピット全景(南から)
	5. 6区24号土坑全景(東から)		1. 3区1号畠全景(北から)
	6. 6区25・26号土坑全景(南東から)		2. 3区2号畠全景(北から)
	7. 6区27号土坑全景(東から)		3. 3区3号畠全景(南から)
PL.101	8. 6区28号土坑全景(東から)		4. 3区4号畠全景(南から)
	1. 6区29号土坑全景(南西から)		5. 3区5号畠全景(東から)
	2. 6区33・34号土坑全景(西から)		6. 3区6・8・9号畠全景(東から)
	3. 6区36号土坑全景(東から)		7. 5区畠全景(北から)
	4. 6区43号土坑全景(東から)	PL.111	8. 6区1号畠全景(南から)
	5. 6区44号土坑全景(西から)		1. 6区2号畠全景(西から)
	6. 6区46・47号土坑全景(西から)		2. 6区3号畠全景(西から)
	7. 6区48号土坑全景(西から)		3. 6区4号畠全景(南から)
PL.102	8. 6区49号土坑全景(南から)		4. 6区5号畠全景(南西から)
	1. 6区50号土坑全景(北から)		5. 6区6号畠検出状況(西から)
	2. 6区51号土坑全景(北から)		6. 6区6号畠検出状況(北から)
	3. 6区115号土坑全景(南から)		7. 6区10号畠検出状況(南から)
	4. 6区116号土坑全景(南から)		8. 6区12号畠検出状況(北から)
	5. 6区117号土坑全景(西から)	PL.112	1. 7区1号畠全景(北から)
	6. 6区129・130号土坑全景(北から)		2. 7区2号畠全景(北から)
	7. 6区131号土坑全景(南西から)		3. 7区3号畠東部全景(北から)
	8. 6区132号土坑全景(北から)		4. 7区3号西部、4・5号畠全景(北から)
PL.103	1. 6区133号土坑全景(北から)		5. 7区5号畠遺物出土状況(南から)
	2. 6区134号土坑全景(東から)		6. 7区6号畠全景(北から)
	3. 6区137号土坑全景(南から)		7. 7区8・9・11号畠全景(北から)
	4. 6区138号土坑全景(南から)		8. 7区12号畠全景(北から)
	5. 6区139号土坑全景(西から)	PL.113	1. 7区13～15号畠全景(西から)
	6. 6区140号土坑全景(南から)		2. 7区16号畠全景(東から)
	7. 6区141号土坑全景(南から)		3. 7区18・19・22号畠全景(東から)
	8. 6区142・143号土坑全景(南から)		4. 7区21号畠全景(南東から)
PL.104	1. 6区144号土坑全景(南から)		5. 7区23～25号畠全景(東から)
	2. 6区145号土坑全景(南から)		6. 7区27～29号畠全景(南から)
	3. 6区146号土坑全景(南から)		7. 7区30号畠全景(南西から)
	4. 6区147号土坑全景(南から)		8. 7区31号畠全景(北東から)
	5. 6区148号土坑全景(南から)	PL.114	1. 7区32号畠全景(東から)
	6. 6区149号土坑全景(南から)		2. 7区35号畠全景(北東から)
	7. 6区150号土坑全景(南から)		3. 7区39・40号畠全景(東から)
	8. 6区151号土坑全景(南から)		4. 5区223・229号円形周溝遺構全景(北東から)
PL.105	1. 6区152号土坑全景(南から)		5. 5区223・229号円形周溝遺構全景(南から)
	2. 6区154・155・156号土坑全景(南から)		6. 6区1号円形周溝遺構全景(西から)
	3. 6区157号土坑全景(南から)		7. 1区道路遺構全景(西から)
	4. 6区158号土坑全景(南から)		8. 1区道路遺構溝全景(東から)
	5. 6区160号土坑全景(西から)	PL.115	1. 1区道路遺構全景(上空から)
	6. 6区163号土坑全景(南から)		2. 1区道路遺構全景(西上空から)
	7. 6区165号土坑全景(南から)	PL.116	1. 1区道路遺構南側溝全景(東から)
	8. 6区167号土坑全景(南から)		2. 1区道路遺構北側溝全景(東から)
PL.106	1. 6区168号土坑全景(南から)		3. 7区道路状遺構全景(東から)
	2. 6区169号土坑全景(南から)		4. 6区1号遺物集積遺構遺物出土状況(東から)
	3. 6区170号土坑全景(西から)		5. 6区1号遺物集積遺構下層遺物出土状況(北西から)
	4. 6区171号土坑全景(南から)		6. 6区2号遺物集積遺構遺物出土状況(南から)
	5. 6区172号土坑全景(東から)		7. 6区3号遺物集積遺構遺物出土状況(西から)
	6. 6区173号土坑全景(南から)		8. 6区4号遺物集積遺構遺物出土状況(西から)
	7. 6区174号土坑全景(南から)	PL.117	1. 6区5号遺物集積遺構遺物出土状況(西から)
	8. 6区175号土坑全景(南から)		2. 7区2号遺物集積遺構遺物出土状況(西から)
PL.107	1. 6区176号土坑全景(南から)		3. 7区2号遺物集積遺構遺物出土状況(東から)
	2. 6区177号土坑全景(南から)		4. 7区2号遺物集積遺構遺物出土状況(西から)
	3. 6区178号土坑全景(南から)		5. 7区2号遺物集積遺構全景(東から)
	4. 6区179号土坑全景(南から)	PL.118	1. 7区2号遺物集積遺構掘り方全景(西から)
	5. 6区180号土坑全景(西から)		2. 7区1号遺物集積遺構全景(東から)
	6. 6区181号土坑全景(西から)		3. 7区1号遺物集積遺構掘り方全景(東から)
	7. 6区182・183号土坑全景(南から)		4. 7区1号集石遺構全景(東から)
	8. 6区184号土坑全景(北から)		5. 1区4・13号溝全景(北から)
PL.108	1. 6区187号土坑全景(北から)	PL.119	1. 1区4・5・17号溝全景(上空から)
	2. 6区199号土坑全景(南から)		2. 1区4号溝遺物出土状況(北から)
	3. 6区200号土坑全景(北東から)		3. 1区4号溝遺物出土状況(北から)
	4. 6区201号土坑全景(南から)		4. 1区5号溝全景(東から)
	5. 7区1号土坑全景(西から)		5. 1区8号溝全景(西から)
	6. 7区2号土坑全景(北から)		6. 1区5号溝全景(西から)
	7. 7区4号土坑全景(東から)	PL.120	1. 1区9・13～16号溝全景(南から)
	8. 7区5号土坑全景(東から)		2. 1区10・12・21号溝全景(東から)

	3. 1区17号溝全景(東から)		6. 1区88・89号土坑全景(北から)
	4. 1区18号溝全景(北から)		7. 1区90・91号土坑全景(北から)
	5. 1区25・26号溝全景(北から)		8. 1区92・93号土坑全景(北から)
PL.121	1. 1区29～34号溝全景(西から)	PL.131	1. 1区96号土坑全景(東から)
	2. 1区31号溝全景(北から)		2. 1区98・99・107号土坑全景(北から)
	3. 1区35号溝全景(東から)		3. 1区100号土坑全景(東から)
	4. 3区14号溝全景(北から)		4. 1区101～104号土坑全景(東から)
	5. 3区23号溝全景(北東から)		5. 1区106号土坑全景(東から)
	6. 3区25号溝全景(西から)		6. 1区118号土坑全景(北から)
	7. 3区26～29号溝全景(南から)		7. 1区122号土坑全景(北から)
	8. 6区1号溝全景(南東から)		8. 1区123号土坑全景(北から)
PL.122	1. 6区4号溝全景(南から)	PL.132	1. 1区124号土坑全景(北から)
	2. 6区5号溝全景(南から)		2. 1区125号土坑全景(北から)
	3. 6区6号溝全景(西から)		3. 1区126号土坑全景(北から)
	4. 6区27～49号溝全景(西から)		4. 1区127号土坑全景(東から)
	5. 6区53号溝全景(西から)		5. 1区132号土坑全景(北から)
	6. 7区2号溝全景(西から)		6. 1区133号土坑全景(北から)
	7. 7区2号溝東部全景(東から)		7. 1区134・135号土坑全景(東から)
PL.123	1. 7区2号溝全景(南東から)		8. 1区137号土坑全景(北から)
	2. 7区2号溝中部全景(東から)	PL.133	1. 1区140号土坑全景(北から)
	3. 7区2号溝全景(東から)		2. 1区141号土坑全景(北から)
	4. 1区29号井戸全景(西から)		3. 1区142号土坑全景(北から)
	5. 1区44号井戸全景(東から)		4. 1区144号土坑全景(東から)
PL.124	1. 1区147号井戸全景(西から)		5. 1区145号土坑全景(南から)
	2. 1区150号井戸全景(東から)		6. 1区146号土坑全景(東から)
	3. 1区162号井戸全景(東から)		7. 1区149号土坑全景(南から)
	4. 1区188号井戸全景(西から)		8. 1区160号土坑全景(北から)
	5. 1区247号井戸遺物出土状況(東から)	PL.134	1. 1区161号土坑全景(北から)
	6. 1区247号井戸全景(西から)		2. 1区163号土坑全景(東から)
	7. 1区267号井戸全景(北から)		3. 1区164号土坑全景(南から)
	8. 1区274号井戸遺物出土状況(東から)		4. 1区175・176号土坑全景(北から)
PL.125	1. 1区274号井戸全景(南西から)		5. 1区178号土坑全景(北から)
	2. 1区297号井戸全景(北から)		6. 1区184号土坑全景(北から)
	3. 3区1号井戸全景(北から)		7. 1区187号土坑全景(西から)
	4. 3区21号井戸全景(北から)		8. 1区195号土坑遺物出土状況(西から)
	5. 1区1号土坑全景(西から)	PL.135	1. 1区197号土坑全景(北から)
	6. 1区3号土坑全景(西から)		2. 1区198号土坑全景(北から)
	7. 1区4号土坑全景(東から)		3. 1区199・200号土坑全景(北から)
	8. 1区5号土坑全景(北から)		4. 1区201・202号土坑全景(北から)
PL.126	1. 1区6号土坑全景(東から)		5. 1区203号土坑全景(北から)
	2. 1区11・26号土坑全景(東から)		6. 1区204号土坑全景(北から)
	3. 1区12号土坑全景(東から)		7. 1区205号土坑全景(北から)
	4. 1区14号土坑全景(北から)		8. 1区206号土坑全景(西から)
	5. 1区19号土坑全景(北から)	PL.136	1. 1区208・209号土坑全景(西から)
	6. 1区21号土坑全景(南から)		2. 1区210・211号土坑全景(東から)
	7. 1区28号土坑全景(南から)		3. 1区212号土坑全景(北から)
	8. 1区30号土坑全景(北から)		4. 1区213号土坑全景(北から)
PL.127	1. 1区32号土坑全景(西から)		5. 1区214・215号土坑全景(北から)
	2. 1区33号土坑全景(南から)		6. 1区219号土坑全景(北から)
	3. 1区34号土坑全景(東から)		7. 1区220号土坑全景(北から)
	4. 1区38号土坑遺物出土状況(北から)		8. 1区221号土坑全景(北から)
	5. 1区38号土坑全景(北から)	PL.137	1. 1区222号土坑全景(北から)
	6. 1区39号土坑全景(南から)		2. 1区223号土坑全景(北から)
	7. 1区41号土坑全景(西から)		3. 1区224号土坑全景(北から)
	8. 1区45号土坑全景(南から)		4. 1区225号土坑全景(北から)
PL.128	1. 1区48号土坑全景(東から)		5. 1区226号土坑全景(北から)
	2. 1区49号土坑全景(東から)		6. 1区231号土坑全景(北から)
	3. 1区50号土坑全景(東から)		7. 1区238号土坑全景(東から)
	4. 1区51・52号土坑全景(東から)		8. 1区238号土坑遺物出土状況(東から)
	5. 1区53号土坑全景(東から)	PL.138	1. 1区239～241号土坑全景(東から)
	6. 1区54号土坑全景(東から)		2. 1区242号土坑全景(北から)
	7. 1区55号土坑全景(東から)		3. 1区243号土坑全景(北から)
	8. 1区56号土坑全景(東から)		4. 1区248号土坑全景(北から)
PL.129	1. 1区57号土坑全景(東から)		5. 1区249号土坑全景(東から)
	2. 1区58号土坑全景(東から)		6. 1区251号土坑全景(西から)
	3. 1区59号土坑全景(東から)		7. 1区252号土坑全景(東から)
	4. 1区60号土坑全景(南から)		8. 1区253号土坑全景(北から)
	5. 1区61号土坑全景(南から)	PL.139	1. 1区254号土坑全景(西から)
	6. 1区63号土坑全景(東から)		2. 1区257号土坑全景(北から)
	7. 1区75号土坑全景(北から)		3. 1区258号土坑全景(北から)
	8. 1区78号土坑全景(南から)		4. 1区261号土坑全景(北から)
PL.130	1. 1区79号土坑全景(北から)		5. 1区262号土坑全景(北から)
	2. 1区83号土坑全景(北から)		6. 1区263号土坑全景(北から)
	3. 1区84号土坑全景(北から)		7. 1区264号土坑全景(東から)
	4. 1区85・86号土坑全景(北から)		8. 1区265号土坑全景(北から)
	5. 1区87号土坑全景(北から)	PL.140	1. 1区266号土坑全景(西から)

	2. 1区270号土坑全景(北から)	PL.161	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物10
	3. 1区271号土坑全景(北から)	PL.162	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物10
	4. 1区272号土坑全景(西から)	PL.163	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物11
	5. 1区273号土坑全景(北から)	PL.164	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物12
	6. 1区275号土坑全景(西から)	PL.165	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物13
	7. 1区276号土坑全景(西から)	PL.166	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物14
	8. 1区276号土坑遺物出土状況(西から)	PL.167	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物15
PL.141	1. 1区278号土坑全景(西から)	PL.168	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物16
	2. 1区281号土坑全景(西から)	PL.169	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物17
	3. 1区284号土坑全景(南から)	PL.170	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物18
	4. 1区285号土坑全景(西から)	PL.171	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物19
	5. 1区285号土坑遺物出土状況(西から)	PL.172	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物20
	6. 1区286号土坑全景(西から)	PL.173	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物21
	7. 1区286号土坑遺物出土状況(西から)	PL.174	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物22
	8. 1区289号土坑全景(北から)	PL.175	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物23
PL.142	1. 1区290号土坑全景(東から)	PL.176	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物24
	2. 1区294号土坑全景(南から)	PL.177	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物25
	3. 1区299号土坑全景(西から)	PL.178	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物26
	4. 1区314号土坑全景(北から)	PL.179	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物27・掘立柱建物・溝出土遺物1
	5. 1区315号土坑全景(東から)	PL.180	古墳～平安時代溝出土遺物2
	6. 1区315号土坑遺物出土状況(東から)	PL.181	古墳～平安時代溝出土遺物3・井戸出土遺物1
	7. 1区319号土坑全景(東から)	PL.182	古墳～平安時代井戸出土遺物2・土坑出土遺物1
	8. 1区320号土坑全景(南から)	PL.183	古墳～平安時代土坑出土遺物2・畠・遺物集積遺構出土遺物1
PL.143	1. 3区23号土坑全景(東から)	PL.184	古墳～平安時代遺物集積遺構出土遺物2
	2. 3区24号土坑全景(北から)	PL.185	古墳～平安時代遺物集積遺構出土遺物3
	3. 3区26号土坑全景(西から)	PL.186	古墳～平安時代遺物集積遺構出土遺物4・竪穴遺構・土砂採掘坑出土遺物1
	4. 3区27号土坑全景(西から)	PL.187	古墳～平安時代土砂採掘坑出土遺物2・遺構外出土遺物1
	5. 3区28号土坑全景(南から)	PL.188	古墳～平安時代遺構外出土遺物2
	6. 3区29号土坑全景(南から)	PL.189	古墳～平安時代遺構外出土遺物3
	7. 3区30号土坑全景(南から)	PL.190	古墳～平安時代遺構外出土遺物4
	8. 3区31・32号土坑全景(東から)	PL.191	中世以降出土遺物1
PL.144	1. 3区33号土坑全景(南から)	PL.192	中世以降出土遺物2
	2. 3区34号土坑全景(南から)		
	3. 3区35号土坑全景(南から)		
	4. 3区36号土坑全景(南から)		
	5. 3区37号土坑全景(南から)		
	6. 3区39号土坑全景(西から)		
	7. 3区41号土坑全景(南東から)		
	8. 3区42号土坑全景(南東から)		
PL.145	1. 3区43号土坑全景(南東から)		
	2. 3区44号土坑全景(南東から)		
	3. 3区45号土坑全景(南東から)		
	4. 3区46号土坑全景(南東から)		
	5. 3区48号土坑全景(南東から)		
	6. 6区37号土坑全景(西から)		
	7. 6区38号土坑全景(南西から)		
	8. 6区39号土坑全景(南西から)		
PL.146	1. 6区40号土坑全景(南から)		
	2. 6区41号土坑全景(南から)		
	3. 6区42号土坑全景(南西から)		
	4. 6区45号土坑全景(南から)		
	5. 6区119号土坑全景(南から)		
	6. 6区120号土坑全景(北から)		
	7. 6区121号土坑全景(北から)		
	8. 6区122号土坑全景(北から)		
PL.147	1. 6区123号土坑全景(北から)		
	2. 6区124号土坑全景(北から)		
	3. 6区125号土坑全景(北から)		
	4. 6区126号土坑全景(東から)		
	5. 6区127号土坑全景(北から)		
	6. 6区128号土坑全景(北から)		
	7. 1区590-140Gピット群北部全景(西から)		
	8. 1区590-140Gピット群南部全景(西から)		
PL.148	旧石器時代出土遺物・縄文時代出土遺物1		
PL.149	縄文時代出土遺物2		
PL.150	縄文時代出土遺物3		
PL.151	縄文時代出土遺物4		
PL.152	縄文時代出土遺物5・弥生時代出土遺物		
PL.153	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物1		
PL.154	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物2		
PL.155	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物3		
PL.156	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物4		
PL.157	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物5		
PL.158	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物6		
PL.159	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物7		
PL.160	古墳～平安時代竪穴住居出土遺物8		

# 第I章 発掘調査の実施と経過

## 第1節 発掘調査に至る経過

北関東自動車道(伊勢崎～県境)建設に伴う伊勢崎インターチェンジから栃木県境までの17.7kmについて、発掘調査が開始されたのは、平成12年度である。北関東自動車道(伊勢崎～県境)建設事業予定地の埋蔵文化財発掘調査が行われるまでには、平成7年から調査を開始した北関東自動車道(高崎～伊勢崎)の発掘調査事業を平成12年7月までに終了し、12月まで基礎整理作業を行うこととなっていた。平成12年6月12日、日本道路公団東京建設局高崎工事事務所において公団・群馬県土木部道路建設課高速道路対策室・群馬県教育委員会文化財保護課・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の4者により、第1回目の伊勢崎～県境についての打ち合わせ会議を行った。公団からは用地買収等の状況、文化財調査と工事工程(カルバートボックスや橋梁等の下部工事発注)について説明があり、平成12年8月から発掘調査実施の要請があった。当事業団としては、用地買収があまり進んでいない状況であること、残土処理場確保、側道部分の調査地の明瞭な区分等について問題点を出し合い、調査への基礎固めを行うこととした。各所属で検討が進み文化財保護課の調整のもとに日本道路公団東京建設局・群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の3者は「北関東自動車道(伊勢崎～県境)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を平成12年8月1日に締結し、この協定に基づき日本道路公団東京建設局と当事業団が「平成12年度北関東自動車道(伊勢崎～県境)埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を結び、8月に書上遺跡から、発掘調査が開始することとなった。

矢部遺跡の過去の発掘調査に関しては、昭和63年に太田市教育委員会が、「群馬県営渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業」として、発掘調査を行っている。この調査では、平安時代を中心とする竪穴住居30軒、掘立柱建物2棟、溝8条、井戸3基、古代～近代の土坑・土壙墓48基が確認された。

また、平成15年度に、「一般県道竜舞山前停車場線事業」

に伴う発掘調査が当事業団により行われている。調査面積は2,841㎡で、竪穴住居7軒、溝9条、畠4、旧河道1が確認されている。

北関東自動車道建設事業に伴う本遺跡の調査については、平成16年度に発掘調査を実施することになり、翌平成17年度に続き調査を終了した。

## 第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、平成16・17年度の二ヶ年計画で行われた、調査経過概要は、次のとおりである。

平成16年度本遺跡の調査は、平成16年5月に開始された。調査予定地は、北東から南西方向に約700mと長く伸びているため、調査地を縦断する道路により分けられた区画について、西側を1区、東側を7区として、適宜調査区を設定して調査を行った。

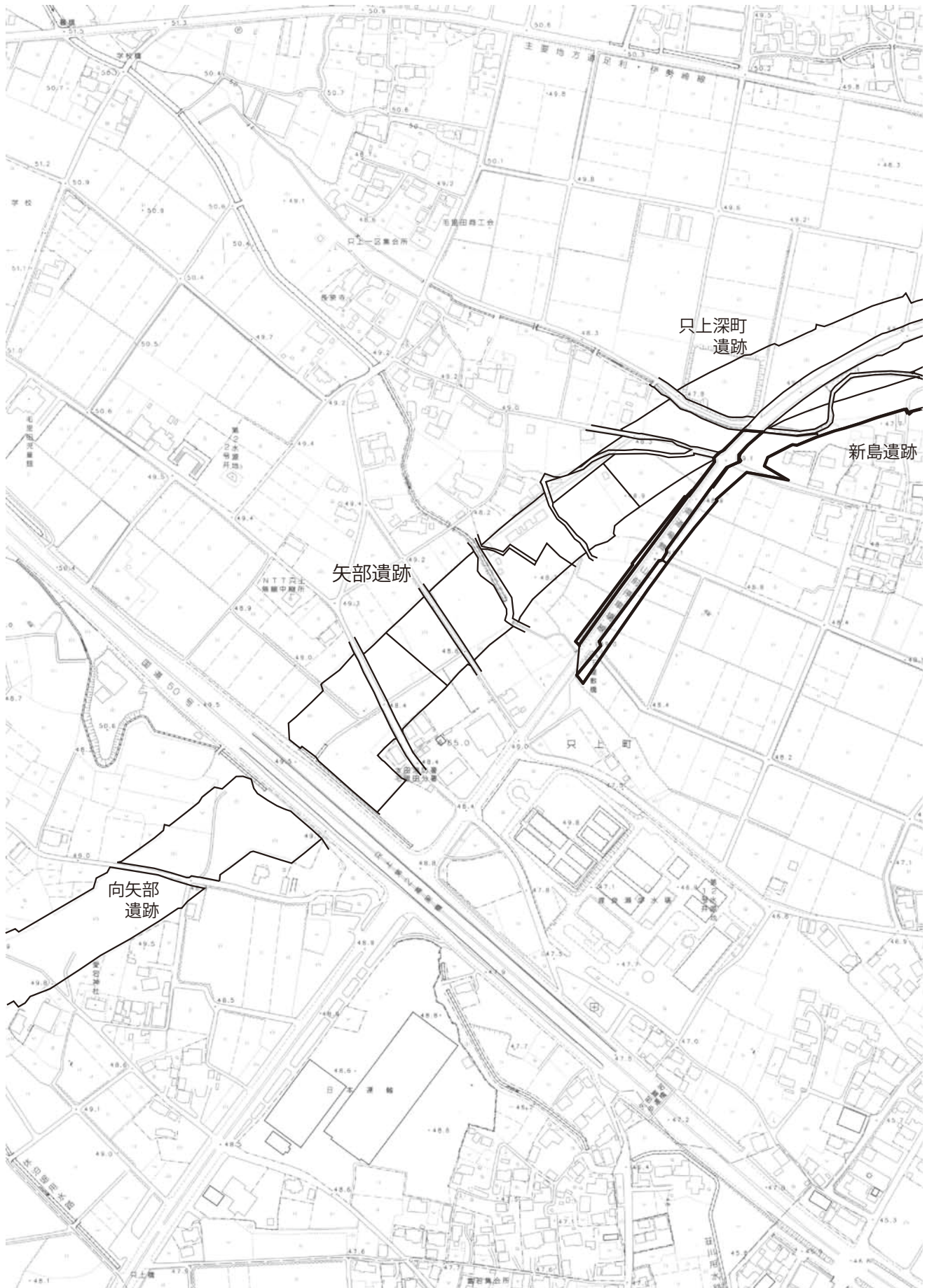
平成16年度は、調査予定地のうち2区から5区を中心に行った。調査は、石塚久則、飯田公規が担当し、5月6日にまず、2区の表土掘削から始めた。表土掘削の後、5月11日から遺構確認のために20m間隔で南北方向のトレンチ調査を行い、遺構が検出された部分について6月から調査を始めた。2区の遺構は、近世から古墳時代の土坑・ピット、縄文時代包含層などであり、これらを6月末まで調査した。6月28日から7月8日に旧石器の確認調査を行った。7月9日に調査区を埋め戻し、15日に2区の調査を終了した。

3区の調査は、調査の工程から3区を南北に二分して調査を行った。北側を3-1区、南側を3-2区とした。3-1区は、1月24日から表土掘削を開始した。1月31日から遺構確認のために、20m間隔で南北方向のトレンチ調査を行い、遺構が検出された部分について、2月7日から調査を開始した。3月17日までに近世～古墳時代面を終了し、3月18日～22日は、縄文時代・旧石器時代の調査を行い、来年度へ継続した。

3-2区は、1月17日に遺構確認のためのトレンチ調査を行い、近世～古墳時代面の調査を終了した。1月18



第1図 遺跡位置図 (国土地理院 地勢図1:200,000「宇都宮」(平成16年8月1日発行)使用)



第2図 調査区および隣接遺跡位置図

(この地図の作成にあたっては、太田市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1の地形図を使用し、複製したものである。)

## 第1章 発掘調査の実施と経過

日からは、縄文～旧石器時代面をトレンチによる調査を開始した。2月22日にこれらのトレンチ調査を終了し、3月3日に3-2区全体の調査を終了した。

4区の調査は、5月17日に表土掘削から開始した。5月25日からは遺構確認のためのトレンチ調査を行い、6月4日から遺構調査を開始した。6月から7月は、近世～古代の旧河道や溝等の調査を行い、8月中旬から9月中旬までは、住居や土坑等の遺構調査を行った。9月中旬からは、縄文時代包含層と旧石器時代調査を10月中旬まで行った。10月20日までに埋め戻しなどを行い、4区の調査を終了した。

5区は、調査区を5-1区と5-2区に二分して調査を行った。5月27日に5-1区の遺構確認のためのトレンチ調査から始めた。6月から7月は、トレンチにより検出された遺構・遺物の調査、旧河道・溝の調査を行った。8月は、台地部分から検出された住居、土坑等の調査を行った。これと並行して、8月は旧石器の調査も行っている。9月には、台地部に残存していた土坑等の遺構を調査し、9月10日に調査終了となった。

続いて、9月13日から、5-2区の表土掘削を開始した。9月15日からは、遺構確認のためのトレンチ調査を始める。10月から11月は、畠や近世水田、古代の溝等を調査した。12月から1月は、古代の住居、掘立柱建物、井戸、土坑等の調査を行い、近世から古墳時代面の調査を終了する。1月25日から旧石器の調査を始め、3月8日に埋め戻しを行い、5-2区の調査を終了した。

17年度は、3区の残りとして1区・6区・7区を調査した。6区はさらに3区画、7区は2区画に分けて調査を行った。各区の調査経過は次の通りである。

1区の調査は、10月から行った。重機による表土掘削の後、遺構確認作業を行い、その後住居・溝・土坑等の遺構の調査を行った。遺構調査終了後、旧石器の調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかったため、埋め戻しを行い、3月に調査を終了した。

3-1区は、昨年度からの継続調査である。5月9日に遺構確認作業から始まった。5月中は、溝や土坑等の昨年度未調査の遺構を調査した。6月7日から埋め戻しを行い、9日に調査を終了した。

6-1区の調査は、5月24日に重機による表土掘削、遺構確認から始めた。6月は、溝を中心に調査を行い、

中近世の掘立柱建物などを調査した。7月から2面目の調査を始め、遺構確認後、古代の畠・住居・溝を中心に11月末まで調査を続けた。12月に旧石器時代の調査、12月15日から埋め戻しを行い、調査を終了した。

6-2区の調査は、5月にトレンチによる遺構確認作業を行ったが、本格的な調査を開始したのは9月からで、重機による表土掘削から始めた。10月から12月までは、溝を中心に調査を行った。12月中旬から2月にかけて、古代の住居や掘立柱建物の調査を主体的に行った。3月には、古代の遺構調査と並行して、縄文時代包含層や旧石器時代の調査を行い、10日にこれらの遺構調査を終了して、埋め戻しを行った。

6-3区は、18年3月の1ヶ月調査であった。古代の住居を中心に調査を行い、並行して縄文時代包含層・旧石器時代の確認調査を行った。

7-1区の調査は、18年1月に表土掘削から始めた。1月は溝を中心に調査し、2月にはこれに加えて住居の調査も行った。また、旧石器時代の調査もこれと並行した。2月9日には、これらの調査を終了させ、10日から調査区埋め戻しに入り調査を終了させた。

7-2区は、9月から表土掘削を開始した。10月から、溝の調査に入る。11月から12月は、溝と古代の住居、畠等の調査を並行している。翌年1月は、住居を主体として調査を行い、1月17日からは、古代の遺構を終了した箇所から、旧石器時代の遺構確認トレンチを設定して調査を行った。1月25日に最後の遺構の調査を終了して、27日に埋め戻しを行い、調査を終了した。

## 第3節 整理作業の経過

整理作業期間は、平成22年4月から開始され平成24年3月までの2年である。

整理事業初年度の平成22年度は、4月から9月まで1班、10月から1班追加され23年3月まで2班の、延べ18ヶ月整理作業を行った。

整理作業内容は次の通りである。遺構図面関係では、平面図と断面図などの照合・修正を行い、その後トレス作業を行った。遺物については、土器の接合・復元作業と実測作業を行った。土器の接合・復元は、約900個体になり、8月以降は、土器接合・復元と並行して、遺物



第1表 遺構名変更遺構新旧対照表

区	旧遺構名		新遺構名	
	No.	遺構名	No.	遺構名
1	2	溝		道路遺構
1	3	溝		道路遺構
1	29	土坑	29	井戸
1	44	土坑	44	井戸
1	147	土坑	147	井戸
1	150	土坑	150	井戸
1	162	土坑	162	井戸
1	188	土坑	188	井戸
1	247	土坑	247	井戸
1	267	土坑	267	井戸
1	274	土坑	274	井戸
1	297	土坑	297	井戸
1	303	土坑	303	井戸
1	305	土坑	305	井戸
1	9	ピット	3	掘立柱建物
1	10	ピット	2	掘立柱建物
1	11	ピット	2	掘立柱建物
1	14	ピット	2	掘立柱建物
1	15	ピット	2	掘立柱建物
1	16	ピット	5	掘立柱建物
1	19	ピット	4	掘立柱建物
1	20	ピット	2	掘立柱建物
1	22	ピット	3	掘立柱建物
1	22	ピット	4	掘立柱建物
1	24	ピット	5	掘立柱建物
1	25	ピット	7	掘立柱建物
1	32	ピット	6	掘立柱建物
1	33	ピット	7	掘立柱建物
1	37	ピット	7	掘立柱建物
1	39	ピット	6	掘立柱建物
1	45	ピット	4	掘立柱建物
1	46	ピット	9	掘立柱建物
1	48	ピット	6	掘立柱建物
1	49	ピット	8	掘立柱建物
1	50	ピット	9	掘立柱建物
1	51	ピット	6	掘立柱建物
1	52	ピット	9	掘立柱建物
1	57	ピット	7	掘立柱建物
1	58	ピット	9	掘立柱建物
1	74	ピット	10	掘立柱建物
1	87	ピット	10	掘立柱建物
1	91	ピット	11	掘立柱建物
1	92	ピット	11	掘立柱建物
1	94	ピット	10	掘立柱建物
1	97	ピット	10	掘立柱建物
1	98	ピット	10	掘立柱建物
1	100	ピット	11	掘立柱建物
1	103	ピット	11	掘立柱建物
1	104	ピット	11	掘立柱建物
1	107	ピット	11	掘立柱建物
1	109	ピット	10	掘立柱建物

区	旧遺構名		新遺構名	
	No.	遺構名	No.	遺構名
1	110	ピット	11	掘立柱建物
1	151	ピット	7	掘立柱建物
1	152	ピット	9	掘立柱建物
1	154	ピット	9	掘立柱建物
1	155	ピット	8	掘立柱建物
1	162	ピット	3	掘立柱建物
1	162	ピット	4	掘立柱建物
1	163	ピット	5	掘立柱建物
1	165	ピット	2	掘立柱建物
1	165	ピット	4	掘立柱建物
1	168	ピット	3	掘立柱建物
1	170	ピット	4	掘立柱建物
1	171	ピット	7	掘立柱建物
1	173	ピット	5	掘立柱建物
1	183	ピット	7	掘立柱建物
1	188	ピット	2	掘立柱建物
1	191	ピット	2	掘立柱建物
1	206	ピット	6	掘立柱建物
1	207	ピット	8	掘立柱建物
1	208	ピット	9	掘立柱建物
1	210	ピット	9	掘立柱建物
1	212	ピット	8	掘立柱建物
1	213	ピット	9	掘立柱建物
1	214	ピット	8	掘立柱建物
1	327	ピット	10	掘立柱建物
1	331	ピット	4	掘立柱建物
1	332	ピット	3	掘立柱建物
1	336	ピット	3	掘立柱建物
1	339	ピット	4	掘立柱建物
1	340	ピット	5	掘立柱建物
1	341	ピット	6	掘立柱建物
1	342	ピット	8	掘立柱建物
1	343	ピット	3	掘立柱建物
1	345	ピット	5	掘立柱建物
1	350	ピット	10	掘立柱建物
1	352	ピット	3	掘立柱建物
1	353	ピット	3	掘立柱建物
1	355	ピット	8	掘立柱建物
1	381	ピット	10	掘立柱建物
1	382	ピット	11	掘立柱建物
1	384	ピット	11	掘立柱建物
1	393	ピット	11	掘立柱建物
1	399	ピット	11	掘立柱建物
1	401	ピット	11	掘立柱建物
1	487	ピット	6	掘立柱建物
1	772	ピット	8	掘立柱建物
1	1003	ピット	7	掘立柱建物
2	26	遺構	26	土坑
2	29	遺構	29	土坑
2	42	遺構	42	土坑
2	43	遺構	43	土坑

区	旧遺構名		新遺構名	
	No.	遺構名	No.	遺構名
2	45	遺構	45	土坑
3	1	土坑	1	井戸
3	21	土坑	21	井戸
4	19	遺構	19	土坑
4	21	遺構	21	土坑
4	26	遺構	26	住居
4	36	遺構	36	土坑
4	63	遺構	63	土坑
4	64	遺構	64	土坑
4	65	遺構	65	土坑
4	67	遺構	67	土坑
4	70	遺構	70	土坑
5	8	遺構	8	住居
5	10	遺構	10	土坑
5	43	遺構	43	住居
5	44	遺構	44	土坑
5	49	遺構	49	溝
5	56	遺構	56	住居
5	99	遺構	99	住居
5	119	遺構	119	土坑
5	128	遺構	128	住居
5	129	遺構	1	掘立柱建物
5	131	遺構	1	掘立柱建物
5	132	遺構	1	掘立柱建物
5	133	遺構	1	掘立柱建物
5	134	遺構	1	掘立柱建物
5	140	遺構	1	掘立柱建物
5	145	遺構	3	掘立柱建物
5	146	遺構	1	掘立柱建物
5	147	遺構	1	掘立柱建物
5	148	遺構	1	掘立柱建物
5	149	遺構	1	掘立柱建物
5	150	遺構	1	掘立柱建物
5	152	遺構	1	掘立柱建物
5	153	遺構	1	掘立柱建物
5	162	遺構	2	掘立柱建物
5	164	遺構	2	掘立柱建物
5	167	遺構	2	掘立柱建物
5	177	遺構	2	掘立柱建物
5	180	遺構	2	掘立柱建物
5	191	遺構	191	土坑
5	206	遺構	206	住居
5	207	遺構	207	住居
5	208	遺構	208	住居
5	209	遺構	209	住居
5	210	遺構	210	住居
5	211	遺構	211	土坑
5	212	遺構	2	掘立柱建物
5	214	遺構	214	住居
5	215	遺構	215	土坑
5	218	遺構	3	掘立柱建物

第 I 章 発掘調査の実施と経過

区	旧遺構名		新遺構名	
	No.	遺構名	No.	遺構名
5	226	遺構	226	土坑
5	242	遺構	2	掘立柱建物
5	243	遺構	3	掘立柱建物
5	245	遺構	245	住居
5	249	遺構	3	掘立柱建物
5	251	遺構	2	掘立柱建物
5	254	遺構	3	掘立柱建物
5	255	遺構	3	掘立柱建物
5	281	遺構	3	掘立柱建物
5	286	遺構	286	住居
5	303	遺構	3	掘立柱建物
5	304	遺構	304	住居
5	305	遺構	3	掘立柱建物
5	306	遺構	3	掘立柱建物
5	317	遺構	317	土坑
5	326	遺構	326	土坑
5	334	遺構	4	掘立柱建物
5	335	遺構	4	掘立柱建物
5	344	遺構	4	掘立柱建物
5	346	遺構	346	土坑
5	351	遺構	4	掘立柱建物
5	352	遺構	4	掘立柱建物
5	357	遺構	357	土坑
5	366	遺構	4	掘立柱建物
5	367	遺構	4	掘立柱建物
5	368	遺構	368	土坑
5	385	遺構	3	掘立柱建物
5	387	遺構	3	掘立柱建物
5	390	遺構	4	掘立柱建物
5	393	遺構	4	掘立柱建物
5	403	遺構	403	土坑
5	423	遺構	423	土坑
5	428	遺構	428	土坑
5	430	遺構	430	住居
5	437	遺構	437	土坑
5	457	遺構	4	掘立柱建物

区	旧遺構名		新遺構名	
	No.	遺構名	No.	遺構名
5	459	遺構	459	土坑
5	472	遺構	472	土坑
5	474	遺構	474	土坑
5	475	遺構	475	土坑
5	481	遺構	481	土坑
5	495	遺構	495	土坑
5	504	遺構	504	土坑
5	523	遺構	4	掘立柱建物
5	526	遺構	526	土坑
5	543	遺構	543	土坑
5	550	遺構	4	掘立柱建物
5	556	遺構	556	土坑
5	564	遺構	564	土坑
5	580	遺構	580	土坑
5	583	遺構	583	土坑
5	586	遺構	586	土坑
5	619	遺構	619	土坑
5	624	遺構	624	土坑
5	625	遺構	625	土坑
5	629	遺構	629	土坑
5	677	遺構	677	土坑
5	708	遺構	5	掘立柱建物
5	715	遺構	5	掘立柱建物
5	718	遺構	5	掘立柱建物
5	719	遺構	5	掘立柱建物
5	728	遺構	5	掘立柱建物
5	740	遺構	740	土坑
5	741	遺構	741	土坑
5	742	遺構	742	土坑
5	743	遺構	743	土坑
5	744	遺構	744	土坑
5	754	遺構	754	土坑
5	755	遺構	2	掘立柱建物
5	757	遺構	757	土坑
5	758	遺構	758	土坑
6	181	ピット	3	掘立柱建物

区	旧遺構名		新遺構名	
	No.	遺構名	No.	遺構名
6	194	ピット	3	掘立柱建物
6	217	ピット	4	掘立柱建物
6	220	ピット	4	掘立柱建物
6	232	ピット	4	掘立柱建物
6	236	ピット	4	掘立柱建物
6	243	ピット	3	掘立柱建物
6	352	ピット	4	掘立柱建物
6	355	ピット	4	掘立柱建物
6	357	ピット	3	掘立柱建物
6	367	ピット	4	掘立柱建物
6	369	ピット	4	掘立柱建物
6	509	ピット	5	掘立柱建物
6	510	ピット	5	掘立柱建物
6	511	ピット	5	掘立柱建物
6	516	ピット	5	掘立柱建物
6	517	ピット	5	掘立柱建物
6	518	ピット	5	掘立柱建物
6	559	ピット	3	掘立柱建物
6	562	ピット	3	掘立柱建物
6	710	ピット	11	掘立柱建物
6	711	ピット	11	掘立柱建物
6	714	ピット	11	掘立柱建物
6	717	ピット	11	掘立柱建物
6	746	ピット	11	掘立柱建物
6	912	ピット	10	掘立柱建物
6	913	ピット	10	掘立柱建物
6	914	ピット	10	掘立柱建物
6	915	ピット	10	掘立柱建物
6	916	ピット	10	掘立柱建物
6	1030	ピット	11	掘立柱建物
6	1031	ピット	11	掘立柱建物
6	1032	ピット	10	掘立柱建物
6	1	落ち込み	1	竪穴遺構
6	2	落ち込み	2	竪穴遺構
6	5	落ち込み	5	竪穴遺構
7	1	配石遺構	1	集石遺構
7	1	土器集積	2	遺物集積

の実測を進めた。遺物整理作業の過程で、筆記用の古代「黒墨」と思われる遺物が出土したため、この遺物が墨であるのか真贋を確認するために、走査型電子顕微鏡による成分分析委託を行った。その結果、「黒墨」であることが判明した。

平成23年度は、4月から6月まで2班、7月から平成24年3月までは1班の、延べ15ヶ月整理作業を行った。

作業内容は、遺構図面関係では、引き続き、トレース作業を行い、終了後スキャンしてデジタルデータ化

した。遺物については、引き続き実測作業を行い、その後トレースを行った。トレース終了後は、遺構同様スキャンして、デジタルデータ化した。

その後、データをもとに、デジタルで組版、編集を行い、平成24年3月に報告書を刊行した。なお、報告書作成にあたって、調査時の遺構名を変更した遺構があるため、その一覧表を掲載した。また、遺構として調査したものでも、整理作業の段階で遺構と認められないものは欠番とした。

## 第4節 調査の方法

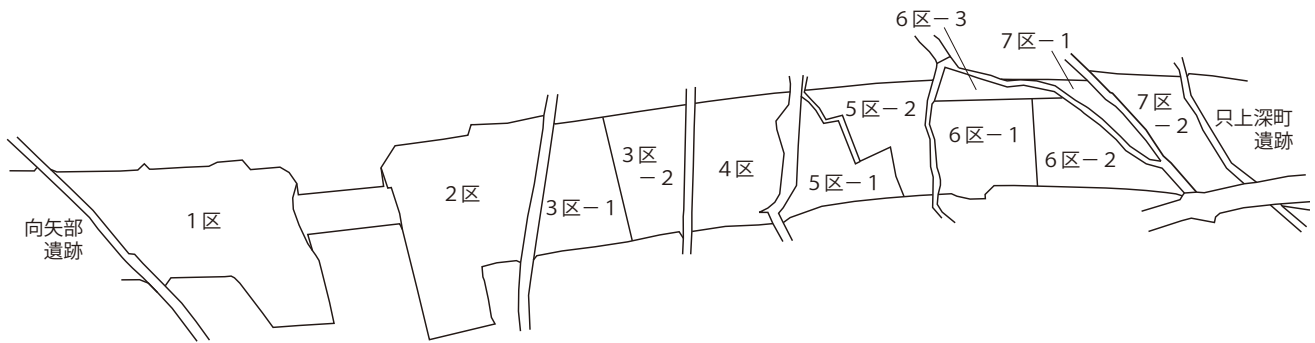
### (1)調査区の設定

矢部遺跡は、北東から南西方向に約700mと長く伸びているため、調査地を縦断する道路により分け、西から東に向かって1区から7区の大区画を設定した。調査順序などから大区画の中をさらに細分した区もあるため、最終的に1区、2区、3-1区、3-2区、4区、5-1区、5-2区、6-1区、6-2区、6-3区、7-1区、7-2区の12区画とした。遺構番号は、各大区画のなかで番号付けを行っている。特に、16年度調査分に

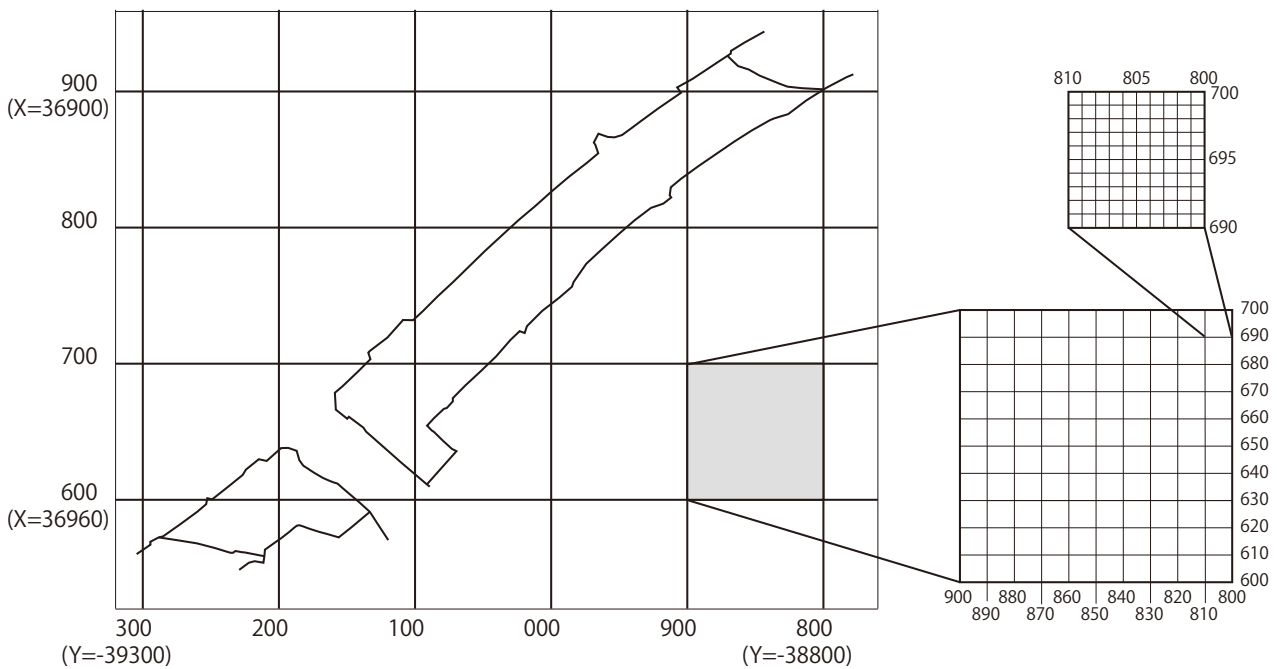
については、遺構番号は遺構の種別に付けるのではなく、調査順にすべて通し番号を付けているが、溝は別に溝だけの番号を付けている。

### (2)グリッド設定

日本平面直角座標(国家座標)基準とし、X軸・Y軸ともに、国家座標の下3桁の値を用い、X軸-Y軸の順に併記し、その南東隅のポイント名をグリッド名とした。2002年4月に測量法が改定され、測地系が日本測地系から世界測地系に変更になったが、北関東自動車道関連の発掘調査では、改定以前の測地系をそのまま使用している。最小単位は、1mであるが、グリッド杭や遺物取上



第3図 調査区設定図



第4図 グリッド設定図

などは、5 mを単位として用いた。

### (3) 遺構の調査

表土は、重機により除去した。その後、2区～5区については、グリッドに沿って5メートル間隔で重機のバケット幅のトレンチによって、遺構を確認した。トレンチにより遺構が確認された部分を、さらに遺構面まで掘り下げた。遺構の中には、確認トレンチによって一部が削平されているものもある。1区、6区、7区については、遺構確認面まで重機により表土掘削し、その後遺構確認作業を行い、遺構を掘り下げた。

遺構番号は、本遺跡では調査区が複数有り、調査年度、調査担当が異なることから、調査区毎に番号を付した。

写真撮影は、6×6・6×7モノクロ、カラーリバーサル、35mmモノクロ、35mmカラーリバーサルを基本とした。全景写真については、高所作業車やラジコンヘリによる空中撮影を行った。測量は、断面図を手実測で行い、平面図は一部を除きデジタル測量とした。

### (4) 遺物の整理

遺物は、洗浄後、遺跡番号(KT730)、調査区、遺構名・グリッド名、遺物No.を記入した。

上面が調査面の1面となっている。その下に、As-B純層が薄く堆積し、その下にHr-FAを多く含むにぶい赤褐色土が、これも薄く堆積するが、この上面が調査面の第2面である。その下に灰黄褐色土があるが、その上面が調査面の第3面である。さらに褐灰色粘質土があり、その上面が調査面第4面で、その下に灰黄色土があり、その下に粘質ローム層が続くが、この上面が調査面第5面である。最下層は渡良瀬川河床と考えられる砂礫層となっている。

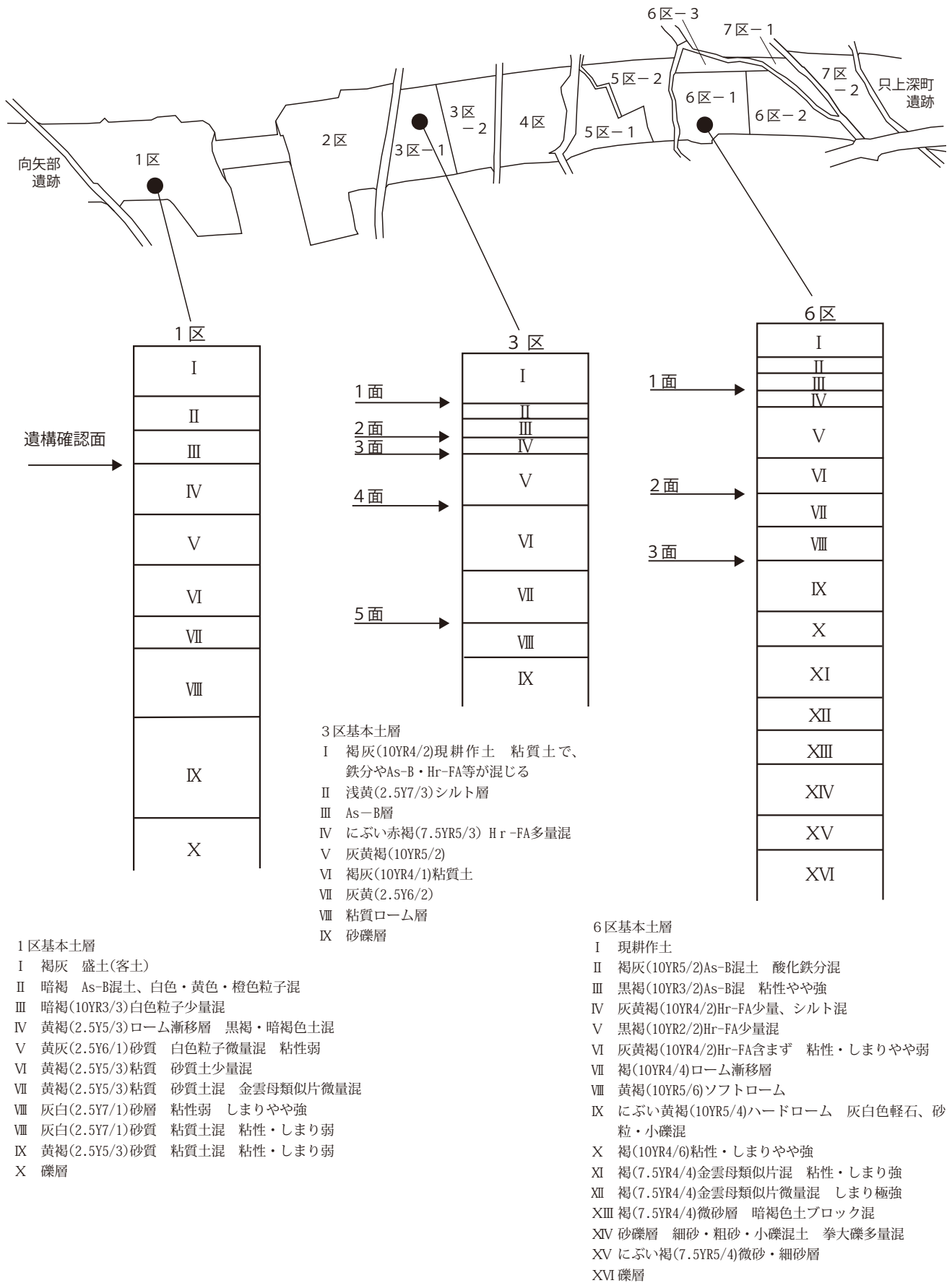
6区は、現耕作土の下に、As-Bを含む褐灰色土、As-Bを含む黒褐色土、Hr-FAを少量含む灰黄褐色土が薄く堆積するが、この上面が調査面の第1面である。その下にHr-FAを少量含む黒褐色土、Hr-FAを含まない灰黄褐色土と続く。その下は、ローム漸移層の褐色土であり、この上面が調査面の第2面である。その下に黄褐色ローム、さらににぶい黄褐色ロームが堆積するが、この上面が調査面第3面である。さらにその下は、粘性の強い褐色土、しまりの強い暗褐色土、褐色微砂層、細砂・粗砂・小礫の混入する砂礫層、にぶい褐色の微砂・細砂層と続き、最下層は渡良瀬川河床と考えられる礫層となっている。

## 第5節 基本土層

本遺跡の地形は、調査区北東端にある矢場川に向かって緩やかに傾斜しており、そこに何層もの洪水層が堆積している。現状は圃場整備を終了して平坦な地形となり、調査前は水田・畑として利用されていた。矢部遺跡の土層は、調査区が700mと長く、区によって堆積状況に多少差が見られる。ここでは、南西部の1区、中央部の3区、北東部の6区の土層を確認することにする。

1区では、現耕作土の下に、1108年降下のAs-Bの混入する暗褐色土、その下に白色の軽石粒子を少量含む暗褐色土、さらにその下に黒褐・暗褐色土を含むローム漸移層があり、ここが遺構調査面となっている。その下は、黄灰色砂質土、黄褐色粘質土、灰白色砂層、黄褐色砂質土と続き、最下層は、渡良瀬川河床と考えられる礫層になっている。

3区は、現耕作土の下に浅黄色シルト層があり、この



第5図 基本土層図

## 第Ⅱ章 周辺環境

### 第1節 地理的環境

本遺跡のある太田市は、関東地方北西部に位置している。この地域は大別して、山地・火山地・丘陵地・台地および低地に分けられる。山地としては、南西に関東山地、北東に足尾山地が分布しており、火山地としては赤城山・榛名山がある。丘陵地は関東山地の北から東の前縁に低い山々が連続的に分布している。台地は丘陵地の下方に広がり、それらの台地を刻みながら利根川と支流の渡良瀬川が流れ、河川によって完新世に入ってから形成された沖積低地が広がっている。

太田市域を見ると、市の北東部に、この地域において最も顕著な地形である、八王子丘陵と金山丘陵が存在している。八王子丘陵は北西から南東方向にのびる分離丘陵で、長楕円形を呈している。長さ約7km、幅約2.8km、最高点は293.9mである。金山丘陵も平野に孤立する分離丘陵で、最高点は235.8mである。八王子丘陵の南東に位置し、現在はごく低い鞍部を境として離れているものの、かつては一続きだったと考えられている。いずれの丘陵も元々は足尾山地の延端部であったものに断層が生じ、さらに大間々扇状地を形成した渡良瀬川が約24,000年前ころから流路を東へ変えたことにより、現在の独立した丘陵になったとされている。

八王子・金山丘陵の西には大間々扇状地が存在している。大間々扇状地は、渡良瀬川の谷口、旧大間々町を扇頂とし、太田―伊勢崎を結ぶ線(標高50～55m)を扇端とする、南北約18km、扇端の幅約13kmの大規模な扇状地である。この扇状地は、大きく西半部の桐原面と東半部の藪塚面の新旧2面からなっている。桐原面は扇頂の旧大間々町桐原から伊勢崎市東部、旧境町にかけて発達する古期扇状地で、藪塚面とは比高4～6mの緩斜面状段丘崖で分けられ、境界部を早川が南下している。この面には厚さ2m以上の上部・中部ローム層が堆積している。藪塚面は大間々市街地から旧笠懸町、旧藪塚本町、旧新田町へと発達する新时期扇状地で、厚さ1m前後の上部ローム層に覆われる。

八王子・金山丘陵の東には渡良瀬川扇状地が存在し、

本遺跡はこの扇状地上に立地する。渡良瀬川扇状地は八王子・金山丘陵と足尾山地の間に広がる扇状地で、桐生市赤岩橋付近(標高120m)を扇頂部とし、太田市下小林から足利市御厨地区(標高30m)を扇端部とする、南北18km・東西7.5kmを測る大規模扇状地である。「太田市史通史編自然」によると、扇状地はⅠ～Ⅲ面に区分され、最古期のⅠ面が八王子丘陵から金山丘陵の東麓に沿って細長く分布し、その東側にⅡ面が、さらにその東、現河道側に扇状地Ⅲ面が広がる。その形成年代はⅠ面がAs-BP降下以前に遡り、Ⅱ面は洪積世末の再堆積ローム、Ⅲ面については完新世の所産とされている<sup>(1)</sup>。

この区分に従うと、当遺跡は渡良瀬川の旧河道とされる矢場川が遺跡の境界となっており、第1章で述べたように、基本土層において、1区と3区で大きく異なり、1区に存在したローム質土が3区には存在していないことなどから、扇状地Ⅱ面と扇状地Ⅲ面の境界に位置していると考えられる。

しかしながら、北関東自動車道関連の発掘調査の結果、降下テフラの堆積に齟齬が生じており、再検討の余地が生じている<sup>(2)</sup>。すなわち、太田市八ヶ入遺跡<sup>(3)</sup>や東長岡戸井口遺跡<sup>(4)</sup>では暗色帯を切る洪積世の再堆積ローム、及び、その上面のAs-YPを確認しており、より複雑な地形発達が予想されることになり、図の修正が必要だとされる。

八王子・金山丘陵以東の北関東自動車道関連の発掘調査では、西から、峯山・萩原・古氷条里制水田跡・二の宮・八ヶ入・大道西・大道東・楽前・鹿島浦・向矢部・矢部・只上深町・新島・道原の14遺跡が、関連事業に伴い1遺跡(東今泉鹿島遺跡)が発掘調査されているが、以下「大道東遺跡(1)」の記述を引用して渡良瀬川扇状地の地理的環境についてその概要を記す。

八ヶ入遺跡では、暗色帯以上のローム層が通常堆積した細石刃石器群の出土地点と、それより東の河川性再堆積ロームの堆積地点が存在した。これについては渡良瀬川変流(東遷)に伴う侵食によることが確実であり、同様なロームの堆積地点は東長岡戸井口遺跡でも確認されている。これにより同段階の台地は金山丘陵東縁に広がる

ことが確実となり、太田市竜舞地区の岩宿面(第6図)に続く地形面とすることができるだろう。

扇状地Ⅰ面については、澤口原図に従えば、大道西・大道東2遺跡の所在する東今泉の台地が該当、As-BPが堆積するということになるのであろうが、詳細は明らかでない。As-BPについて言えば県央旧石器遺跡の発掘では同テフラは必ず存在、見慣れていることからみて、あれば気づくはずである。可能性として肉眼観察できるほど堆積していなかったということかもしれないが、テフラ分析が行われていないため、結論づけられないのが現状である。太田市史通史編の図1-24の3地点ではAs-BPが良好に堆積しており、1.5kmと近距離にある本遺跡周辺で確認されないのは不自然で、これにより複雑な地形発達を想定せざるを得ない。

扇状地Ⅱ面については、矢部遺跡以西が該当する。現河道を流れるようになる前の旧河道については、現在の葦川・矢場川の流路が想定されているが、発掘調査では複数の旧河道が明らかにされており、絶えず流路を変えていたようである。現在の流路についてその変流年代は不明だが、板倉町西岡付近では縄文から古代の遺跡(渡良瀬川河床遺跡)の上を流れており、これと矢部遺跡周辺の遺構検出状況を考え合わせれば、利根川変流と同時期中世後半の変流という可能性も否定できないだろう。

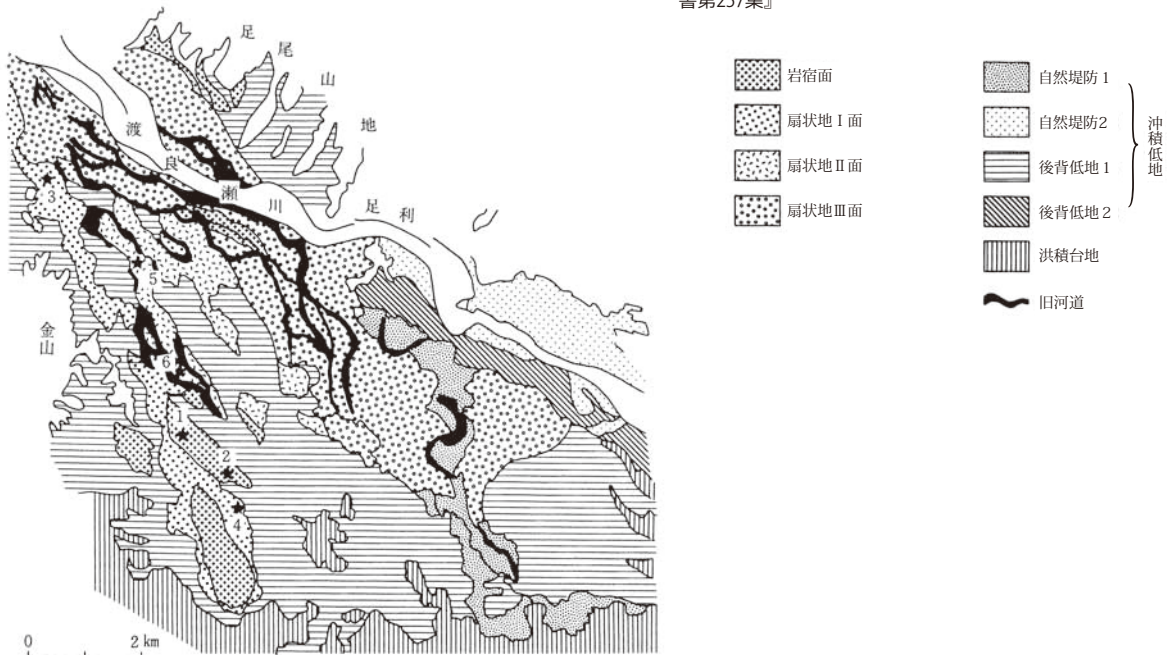
扇状地Ⅲ面については、縄文から古代の集落が発見されている。扇状地Ⅲ面は足利市市場町付近から百頭町付近まで広がるようであるが、北関東自動車道関連の発掘成果、及び、遺跡分布を見る限り、足利市浅間山付近を境に新旧2分されることになるかもしれない。

遺跡の立地する渡良瀬川扇状地を概観した結果、渡良瀬川は徐々に東遷したのではなく、途中矢場川付近を流れる段階があり、扇状地Ⅲ面が細分されるだろうことが想定されることとなった。具体的には、足利市浅間山付近から東武線「あがた駅」周辺域を抜け、新期扇状地を形成する段階がそれで、扇状地地形を良く残している。加えて、東今泉の台地を含む北関東自動車道の路線内には、金山丘陵末端の台地縁辺(古氷条里制水田跡・八ヶ入)を除いてAs-BPの堆積する台地はなく、従来の地形区分を見直す必要が生じている。

以上のような見解が述べられているが、当遺跡が扇状地Ⅱ面とⅢ面の境界にあるということは変わらないと考えられる。今後調査成果を総合することにより扇状地の地形発達の詳細が判明し、地域発達の様相解明が期待できると考えられる。

注

- (1) 澤口 宏 1997「第6節 平野の地形・地質」『太田市史 通史編自然』太田市
- (2) 岩崎泰一 2009「1 自然環境」『大道東遺跡(1)事業団報告書第464集』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (3) 群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『八ヶ入遺跡Ⅰ 事業団報告書第505集』
- (4) 群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『東長岡戸井口遺跡 事業団報告書第257集』

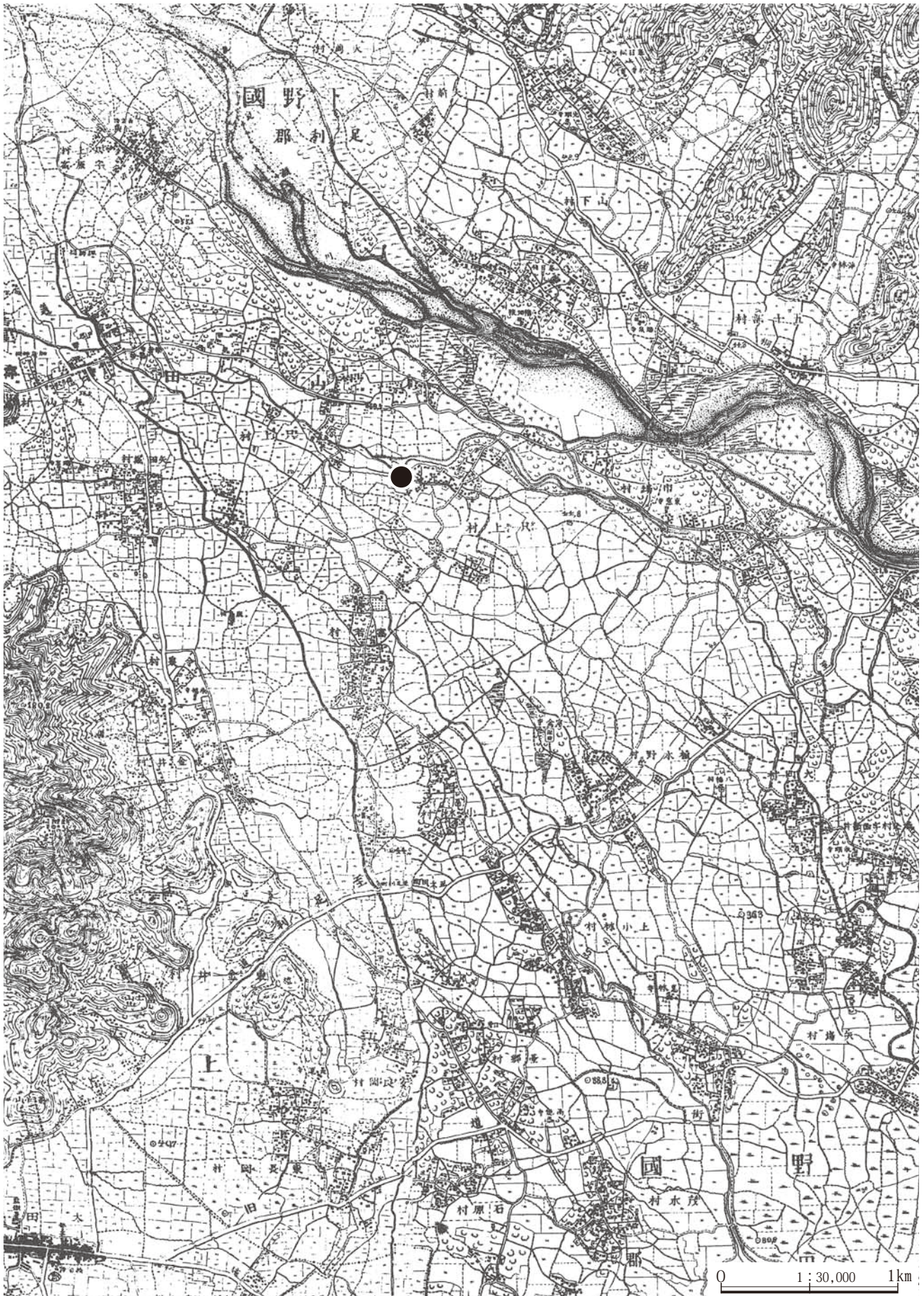


第6図 渡良瀬川扇状地の地質区分



第7図 遺跡周辺地形分類図 (群馬県『土地分類基本調査』深谷(1991)桐生及足利(1997)による)





第8図 明治前半の周辺地形 (第一軍管地方迅速側図『足利町』『太田町』(明治17・18年側図)を使用)

## 第2節 歴史的環境

矢部遺跡は、渡良瀬川中流右岸に位置し、渡良瀬川と八王子丘陵・金山丘陵に挟まれた渡良瀬川扇状地上に存在する。以下、当遺跡周辺の歴史的環境を、時代を追って述べることにする。

### (1)旧石器時代

渡良瀬川扇状地地域では、旧石器時代の遺跡は多くないが、石刃および石刃製ナイフ形石器を伴う石刃石器群が、東長岡戸井口遺跡から出土しており、湧別技法による細石刃群が、扇状地西端部の八ヶ入遺跡から出土している。他は、当遺跡からチャート製の剥片が出土している程度である。

当遺跡からやや離れるが、扇状地の西側、八王子・金山丘陵間の鞍部にあたる場所に旧石器時代の遺跡が集中している。特に、峯山遺跡ではチャート製の石器群と黒曜石製の切出形ナイフ形石器を組成する石器群の2つの文化層が確認されている。また、強戸口峯山遺跡では、硬質頁岩性の荒屋型彫刻刀形石器が採集されている。

渡良瀬川左岸の地域には旧石器時代の遺跡は少なく、平石遺跡からチャート製の石器が出土している程度である。

### (2)縄文時代

渡良瀬川流域の縄文期遺跡は、渡良瀬扇状地Ⅰ面に多く見られる。扇状地の地質区分に従えば、より新期の太田市東部域の扇状地面には縄文遺跡は存在しないということになるが、この地域は地盤沈降が著しく、渡良瀬の氾濫層に厚く覆われ、その実態は不明である。

太田市域の縄文遺跡は八王子丘陵及びその周辺部台地、大間々扇状地Ⅱ面・由良台地等の台地縁辺部に多く立地している。渡良瀬川扇状地上では、金山丘陵東部北寄りの下宿遺跡で検出されている草創期の土坑が最も古い遺構で、早期では金山丘陵北東部の東今泉鹿島遺跡で押型文土器が出土している。続く前期は、金山丘陵東部南寄りの細田遺跡と同南東部の下小林上遺跡および北部丘陵沿いの二の宮遺跡で集落が、東今泉鹿島遺跡で土坑が検出されている。中期後半になると、金山丘陵北東部の大道東遺跡から楽前遺跡にかけて中期後半～後期前半

の集落や土坑が検出され、多量の遺物も出土している。渡良瀬川沿いの地域では道原遺跡から中期の集落が、矢部遺跡から中期後半～後期前半の土坑が検出されている。

後期後半以降は遺跡が極端に減少し、遺構も検出されておらず、この時期から弥生時代にかけて、居住活動は、ほとんど行われていなかったと考えられる。

渡良瀬川左岸では前期までの遺跡が多く、宿居館跡から撚糸文系の土器や前期の土坑が、平石遺跡からも撚糸文系土器を含む草創期から前期の遺物が出土しており、春日遺跡からは前期の集落が検出されている。しかしながら、中期以降の遺跡は少なく、遺構もほとんど検出されていない。この地域は、縄文時代中期以降古墳時代前期まで遺跡は少なく、居住活動はあまり活発でなかったといえよう。

### (3)弥生時代

渡良瀬川流域における弥生時代の遺跡は極めて少なく、金山丘陵北東部の小丸山遺跡で遺物の散布が認められるほか、同東部の磯之宮遺跡で中期の住居が検出されており、さらに東の渡良瀬川流域付近の八幡山・芋の森遺跡で中期の土器が確認されている程度である。しかしながら、金山丘陵や八王子丘陵周辺や沖積地内の低台地上においては、中期の資料が散見されてきている。

渡良瀬川左岸でも弥生時代の遺跡は少なく、大前西山遺跡で遺物の散布が認められる程度である。

### (4)古墳時代

古墳時代前期になると、八王子・金山丘陵西部において遺跡の分布が急激に増加する。渡良瀬川扇状地上ではそれほど多くはないが、集落は、八王子丘陵南東部の丸山北遺跡で確認されているほか、金山丘陵東部にやや離れて位置する磯之宮・矢場向・駒形・駒形南遺跡や、南東部にやや離れて位置する下小林上遺跡で検出されている。他に東今泉鹿島遺跡で前期末から中期初頭にかけての集落がみられ、竪穴住居11軒がまとまって検出されている。他の遺構としては、古氷条里制水田跡で前期の土器が多量に出土した溝が検出されている。墳墓には古墳と周溝墓がある。古墳は、金山丘陵東部にあって、距離はかなり離れるが全長80mの前方後円墳である矢場薬師

塚古墳や、全長117.8mの前方後方墳である藤本観音山古墳があり、周溝墓は、渡良瀬川沿いの道原遺跡や金山丘陵南東部の細田遺跡で方形周溝墓が見られるが、全体的に遺跡数は少なく、丘陵の西部とは大きく異なっている。渡良瀬川左岸では前期の遺跡はさらに少なく、春日遺跡で方形周溝墓が検出されている以外は、確実に前期と断定できる遺構のある遺跡はほとんどない。

中期以降、遺跡は次第に増加する傾向にあり、後期になると集落が増加するだけでなく、須恵器窯等の生産遺跡が見られるようになり、古墳も多く残るようになる。

中期の集落は前述の東今泉鹿島遺跡や八ヶ入遺跡など、金山丘陵北東部地域や、丘陵東部のやや離れた位置にある、旧太田工業高校北裏遺跡や前期から続く駒形遺跡・矢場遺跡、丹羽倉遺跡等で住居や遺物が検出されている。中期の古墳は少なく、丘陵南東部に天神山・女体山古墳があるが、他に中期とわかるものは、金山丘陵東部からやや離れて位置する、径60mの円墳である上小林稲荷山古墳がある程度である。

後期の集落は、金山丘陵北東部の大道東および柴前付近に100軒以上住居が集中しており、金山丘陵で開始された須恵器等の生産との関連が窺える。他に八王子丘陵南東裾部、金山丘陵南東部等で見られるが、遺跡数は少なく、検出住居数も多くない。渡良瀬川左岸地域においても同様である。

生産遺跡は、金山丘陵北東部を中心に検出されている。菅ノ沢遺跡、八幡窯跡群、辻小屋窯跡群、亀山須恵器窯跡等、須恵器窯が40基以上確認されており、この時期の一大生産地であったといえよう。操業開始時期は、表採資料等から6世紀前半までさかのぼると考えられるが、大規模に生産されるようになるのは6世紀中ごろ以降で、7世紀前半までの間に丘陵東裾から北裾にかけて集中して30基ほど存在している。7世紀末から8世紀初頭になると、丘陵西側に移動して操業しており、この時期に大きく窯場が移動している。

古墳は、群集墳が多く築造されるようになり、中期以前に比べ数が圧倒的に増えている。分布が多いのは、金山丘陵北東部から八王子丘陵南東部にかけての地域や、金山丘陵南東部、金山丘陵南西部、金山丘陵から東にやや離れた矢場川流域等であり、渡良瀬川左岸にも多くの古墳群が存在している。金山丘陵北東部では、亀山京塚

古墳、家型石棺を有する今泉口八幡山古墳、菅ノ沢御廟古墳、東毛地域唯一の終末期方墳である巖穴山古墳等が集中しており、この時期この地域の中心的な場所であったことが窺え、金山丘陵の窯跡群との関連も考えられる。金山丘陵南東部では、丘陵の裾に沿って金井口古墳群、亀山古墳群、内並木古墳群、馬塚古墳群、寺ヶ入古墳群、東山古墳群とほぼ間断なく続き、やや東に離れて焼山古墳群もある。矢場川流域には、かつて90基が存在したとされる矢場川古墳群があり、前期前方後方墳である藤本観音山古墳、前期前方後円墳である矢場薬師塚古墳、後期前方後円墳である勢至堂裏古墳、淵ノ上古墳等もこれに含まれている。渡良瀬川左岸では、足利市街地北の丘陵部に物見古墳群、東山古墳群、西宮西古墳群、吾妻古墳群、立岩古墳群、足利公園古墳群等が存在している。

### (5) 奈良平安時代

この時期になると、集落は広範囲で見られるようになる。金山丘陵北東部では、古墳時代後期に柴前、大道東遺跡に限られていた集落が大きく広がり、二の宮、八ヶ入、大道西、東今泉鹿島、鹿島浦、猿楽、向矢部、矢部の各遺跡から、多数の住居が検出されている。他の地域も、基本的には古墳時代後期の集落からさらに広がっている状況で、金山・八王子丘陵と渡良瀬川間の大部分で集落が見られるようになっている。これに対し、渡良瀬川左岸ではこの時代の集落も少なく、宇津木遺跡で竪穴住居が検出されている程度である。

生産遺跡については、金山丘陵において、前代に開始された須恵器生産が引き続き行われている。前述のように、7世紀末から8世紀初頭に丘陵西側に窯場が移動していると考えられているが、金山丘陵の北にある八王子丘陵南東部でも須恵器の生産が行われるようになり、丸山北窯跡などで須恵器が焼成されている。また、丸山腰巻遺跡では、丘陵ではなく台地を利用して構築された須恵器窯が検出されている。

さらにこの時期には、鉄生産も開始される。場所は少し離れるが、太田市旧数塚本町域にある西野原遺跡では、7世紀後半から操業されたと考えられている製鉄遺構(箱型炉4基)が検出されており、八王子丘陵南東部の峯山遺跡からも8世紀前半代の製鉄炉(箱型炉3基)、鍛冶遺構、炭窯が検出されている。金山丘陵でも、北東部の

菅ノ沢Ⅰ、北西部の高太郎Ⅰ・Ⅱ遺跡等で製鉄炉(豎型炉3基)や炭窯が、寺中遺跡で鍛冶遺構が検出されている。また、渡良瀬川左岸でも春日遺跡から、鑄造炉の可能性のある炉が検出されている。

北関東自動車道関連の、八ヶ入、大道西、大道東、鹿島浦の各遺跡からは、道路遺構が検出されている。幅約13mで両側に側溝を持つもので、4遺跡間の約1kmをほぼ直線で結んでいる。上野国内で東山道駅路は、現在の碓氷峠のあたりから安中を抜け、国府推定地である前橋市元総社町付近まで直線的に進むルート(国府ルート)が推定されているが、東部では、東西に直線的にのびる古代道路が2本、発掘調査により見つかった。そのうち南側のものは、「牛堀・矢ノ原ルート」と呼ばれており、幅約13mの規模を持ち、7世紀後半～8世紀代のものと考えられている。この道路は、西部の高崎市や玉村町で検出されている道路につながるとされ、東山道駅路であると推定されている。北側のものは、幅約12mで、「下新田ルート」と呼ばれており、延長上に佐位郡家である伊勢崎市三軒屋遺跡と新田郡家である天良七道遺跡があるため、郡家同士をつなぐ伝路であるという説や、牛堀・矢ノ原ルートが廃絶された後の東山道駅路であるという説などがある。北関東自動車道関連の道路遺構は、規模や位置から牛堀・矢ノ原ルートになる可能性が高い。これまでに確認されている金山丘陵以西のルートは、東西方向やや北向きの走向であるが、金山丘陵以東のルートは、やや南向きの走向になっており、丘陵を境に走向が変わっている。

寺院・官衙については、金山丘陵北西の寺井・天良地区から小金井・市野井にかけての地域に、古代寺院や地方官衙跡に比定される遺跡が多く存在している。この地域は、『和名抄』によれば、「新田郡」に属すと考えられ、新田郡の郡家と推定される天良七堂遺跡や、寺院跡では8世紀中葉の小規模寺院である釣堂遺跡、7世紀後半の創建と推定される寺井廃寺がある。しかしながら、当遺跡のある金山丘陵東部は「山田郡」に属すると考えられる。山田郡の郡家は金山丘陵北部の「古氷」の地であると推定されているため、当遺跡周辺は山田郡の中心地域と考えられる。郡家の存在を裏付ける遺構・遺物の見つかった遺跡はないが、北関東自動車道関連の遺跡である八ヶ入・楽前・鹿島浦・向矢部等の遺跡から三彩陶器片・

軒丸瓦片・円面硯・獣脚円面硯など、近隣に官衙的施設の存在を思わせる遺物が出土している。当遺跡からも、漆紙文書・墨の付着した銚帯等が出土している。

水田跡では、古氷条里制水田跡でAs-B下水田が確認されているが、畦畔が方形に走向しており、条里地割に乗っていると考えられる。水田の開削時期は奈良時代後半から平安時代前半と考えられており、この時期に条里地割が導入されたことが判明してきた

### (6)中世以降

中世の城郭としては、金山城がある。これは金山丘陵上にある山城であり、文明元(1469)年岩松家純によって築城された。以後、享禄元(1528)には岩松氏の重臣横瀬氏へ、さらに天正12(1584)には後北条氏へと城主が変わっており、その間東毛地区の中心的な城として重要な役割を果たしたが、天正18(1590)年に後北条氏が滅亡した後は廃城となった。その城域は広大で、山頂部に実城を置き、山頂部から延びる西尾根に西城を、北に延びる観音山に北城を、南の中八王子山には八王子山の砦を構える、複合的城郭である。山頂部の実城域に日の池・月の池の大池を持ち、石垣・石敷き通路・石組み排水路・石組み井戸など山城としては珍しい石組みの施設を有する。発掘調査は平成4(1992)年度から行われ、その結果を受けて史跡整備が行われている。

中世の城館跡については、金山城をはじめとして、萩原館跡、丸山の砦跡、矢田堀館跡、只上の砦跡、矢部城跡、国済寺城跡、市場城跡、狸ヶ入館跡、今泉城跡、東金井城跡、富田館跡、宗金寺環濠遺構、植木野城跡、本矢場城跡等が、金山丘陵北部から東部にかけて多く存在している。

中世以降の遺構の検出される遺跡については、八ヶ入、大道西、大道東、鹿島浦、向矢部、矢部、道原等の北関東関連遺跡を中心とした、金山丘陵北東部に多く分布している。特に、大道西遺跡では、14・15世紀を中心とした掘立柱建物群が多数検出されており、複数の屋敷地の存在が確認されている。

渡良瀬川左岸地域には中世以降の遺跡が多く、宿居館跡、山下本郷館跡、大前堀之内館跡等の居館跡や、鹿島薬師廃寺、智光寺跡、緑町廃寺、連岱寺跡、宝幢寺跡等の寺院跡が分布している。



第9図 周辺遺跡位置図 (国土地理院 1:25,000 地形図「上野境」「足利南部」「桐生」「足利北部」を縮小して使用)

第II章 周辺環境

第2表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	旧石器	集落・溝等○墳墓●生産跡◆水田・畠■遺物のみ△																	備考	文献					
			縄文				弥生				古墳			奈良	平安	中世	近世									
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中	後													
1	矢部遺跡																		○	○			○	当該遺跡 縄文中～後期土坑 奈良平安集落 漆紙文書出土	28・29・37・43・46・47・49	
2	只上深町遺跡																				○■		■	平安集落・畠	29・46・47	
3	新島遺跡																					○		○	奈良平安集落 古墳後期～平安畠	49
4	道原遺跡																							○	縄文中期集落 古墳前期方形周溝墓 古墳平安時代道路	46・47
5	国済寺城跡(道原城跡)																							○	16世紀 堀 土居	60
6	市場古墳群																								後期群集墳	1
7	八幡林遺跡																								古墳遺物散布	44
8	市場城跡																							○	二重堀 土居 16世紀	60
9	市場稲荷山古墳																								後期円墳 径32m 6世紀前半	1
10	高瀬前原遺跡																								縄文遺物散布	44
11	高瀬台遺跡																								縄文遺物散布	44
12	源氏屋敷跡																								源氏屋敷の字名 遺構不明	62・63
13	猿楽遺跡																								後期古墳群 奈良平安集落	1・38・42
14	向矢部遺跡																								古墳後期～平安集落	32・33・34・35・50
15	矢部城跡																							○	16世紀 堀 土居 碑	60
16	只上の砦跡																							○	16世紀 堀	60
17	七日市古墳群																								古墳後期	44
18	丸山古墳群																								6世紀末～7世紀前半前方後円墳1基 円墳8基	1
19	流作場遺跡																								古墳中後期集落 埴輪棺	1・22
20	吉祥寺遺跡																								時期不明ピット群	22
21	諏訪古墳																								後期円墳	44
22	反丸遺跡																								古墳後期集落 古墳 祭祀遺構	1・22・53
23	原宿川向遺跡																								古墳遺物散布	44
24	落内遺跡																								古墳後期・奈良集落	1・25
25	宮の上遺跡																								古墳遺物散布	25
26	丸山北遺跡																								古墳前期集落	24
27	丸山の砦跡																								16世紀 腰郭 烽火台	60
28	丸山遺跡																								弥生・古墳遺物散布	44
29	丸山腰巻遺跡																								須惠窯1基	36
30	小丸山遺跡																								縄文～平安遺物散布 瓦塔出土	1
31	二の宮遺跡																								縄文前期集落 奈良平安集落	53
32	古水条里制水田跡																								As-B下水田	1・53
33	寺中遺跡																								平安鍛冶遺構	1
34	寺前遺跡																								古墳集落	16
35	上宿遺跡																								古墳・平安集落	38
36	東田遺跡																								平安集落	27
37	矢田堀前田遺跡																								時期不明土坑等	25
38	矢田堀館跡																								16世紀 堀 土居 戸口	60
39	矢田堀古墳群																								終末期群集墳	44
40	巖穴山古墳																								1辺30m方墳 複式構造横穴式石室 7世紀中葉	1・21
41	大道西遺跡																								東山道駅路 馬形埴輪出土	23・54
42	桑前遺跡																								縄文中期～後期集落 古墳後期～平安集落	1・25・26・27・30・31・52
43	大道東遺跡																								縄文中期～後期集落 古墳後期～平安集落 東山道駅路	1・55
44	鹿島浦遺跡																								奈良平安集落 東山道駅路	56
45	東今泉鹿島遺跡																								縄文前期土坑 古墳前期末～平安集落 漆紙文書出土	51
46	ハケ入遺跡	△																							古墳中期・奈良平安集落 東山道駅路	57
47	菅ノ沢II遺跡																								灰原 須恵器出土	21
48	菅ノ沢御廟古墳																								直径30m円墳 横穴式石室	1
49	今泉口八幡山古墳																								前方後円墳 横穴式石室 家形石棺 6世紀末～7世紀初	1・16
50	菅ノ沢古墳群																								円墳5 7世紀	1・21
51	ハケ入窯跡																								灰原 須恵器・鉄滓出土	44

第2節 歴史的環境

番号	遺跡名	旧石器	集落・溝等○墳墓●生産跡◆水田・畠■遺物のみ△																備考	文献		
			縄文						弥生		古墳		奈良	平安	中世	近世						
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中					後					
52	諏訪ヶ入遺跡																			灰原 須恵器出土	44	
53	菅ノ沢Ⅰ遺跡													◆	◆					須恵窯 炭窯 製鉄炉 古墳	1・3・6・21	
54	菅ノ沢Ⅲ遺跡														◆					生産遺跡	44	
55	川西遺跡													◆						須恵窯	44	
56	八幡Ⅰ遺跡													◆						須恵窯4基 灰原	20	
57	八幡Ⅳ遺跡													◆						窯 灰原	20	
58	八幡Ⅱ遺跡													◆						窯2基 灰原	20	
59	八幡Ⅴ遺跡													◆●						窯 灰原 円墳1基	20	
60	八幡Ⅲ遺跡														◆					窯1基 灰原	20	
61	狸ヶ入Ⅱ遺跡														△					灰原 須恵器出土	44	
62	辻小屋遺跡														◆					須恵窯4基	1	
63	辻小屋窯跡群														◆					須恵窯4基	20	
64	大長谷遺跡															◆				須恵窯	19	
65	狸ヶ入Ⅰ遺跡														◆					窯1基	44	
66	狸ヶ入館跡																		○	堀 土居 戸口	60	
67	今泉城跡																		○	16世紀 堀 土居	60	
68	入宿Ⅱ遺跡														△					灰原	20	
69	入宿Ⅰ遺跡														△					灰原	20	
70	入宿Ⅲ遺跡														△					灰原 須恵器出土	20	
71	母衣埴輪窯跡														◆					埴輪窯	1	
72	金井口埴輪窯跡														◆					埴輪窯3基以上	1	
73	聖天沢遺跡														●				●	円墳 横穴式石室 中世墓	5	
74	丸屋敷の砦																		○			
75	西山古墳群															●				終末期群集墳	1	
76	金井口古墳群															●					44	
77	東金井城跡																		○	15・16世紀 堀 土居 戸口 腰郭	60	
78	亀山古墳群															●				後期群集墳	1	
79	亀山京塚古墳															●				後期円墳 陶棺 6世紀中	1	
80	亀山窯跡														◆					須恵窯2基 灰原	1	
81	金井口遺跡	△			△										◆	◆				埴輪窯2基 製鉄窯1基	9	
82	宿裏遺跡														△				△	古墳・平安遺物散布	11	
83	下宿遺跡		○											○					○	○	縄文草創期土坑 古墳前期・平安集落 中世溝	10・12・13
84	正郷遺跡														△					古墳遺物散布	44	
85	富田館跡																		○	16世紀 堀 土居 戸口	60	
86	堂目木遺跡																		◆	●	10世紀小鍛冶 中世火葬墓	26
87	宗金寺環濠遺構																		○	16世紀 2重の堀	60	
88	相方遺跡																		△	平安遺物散布地	1	
89	植木野城跡																		○	16世紀 堀 土居 戸口	44	
90	駒形遺跡									○	○		○							古墳前期～中期集落	1・24	
91	磯之宮遺跡									○	○								○	弥生中期・古墳前期・平安集落	1・25	
92	上小林稲荷山古墳														●					中期円墳 径60m	1・25	
93	八坂神社古墳														●						44	
94	西浦遺跡													○					○●●	平安集落 中世墓坑	25	
95	安良岡古墳群															●				後期群集墳	1	
96	塚本遺跡														○					古墳集落	41	
97	原店遺跡														△					古墳遺物散布	44	
98	塩ノ山遺跡														●					円墳1基	1	
99	焼山北遺跡 焼山北古墳	△	△												●△					旧石器～古墳遺物包蔵地 後期円墳または帆立貝式古墳	1・2	
100	内並木古墳群															●				円墳3基現存	1	
101	内並木遺跡	△													△	△				旧石器包蔵地 灰原 須恵器出土	1	
102	馬塚古墳群															●				後期群集墳	1	
103	寺ヶ入遺跡 寺ヶ入古墳群															●				円墳約30基現存	1・14	

第Ⅱ章 周辺環境

番号	遺跡名	旧石器	集落・溝等○墳墓●生産跡◆水田・畠■遺物のみ△													備考	文献				
			縄文					弥生		古墳			奈良	平安	中世			近世			
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中							後		
104	富士山古墳群													●					44		
105	東山古墳群														●				終末期群集墳	1	
106	金山城跡																	○	1469年築城 石垣・石敷き通路・石組み排水路・石組み井戸等	15・17・18	
107	高山古墳													●					後期前方後円墳	1	
108	本陣跡																	○	礎石建物 土坑	39	
109	宮内遺跡		△									○	○		○				古墳前期～後期・平安集落	40	
110	浜町古墳群													●					後期群集墳	1	
111	北田環濠遺構群																	○	堀 二つの環濠	60	
112	焼山南遺跡 焼山古墳	△			△				△	△				●△			△		旧石器～平安遺物包蔵地 後期前方後円墳	1・2	
113	焼山古墳群													●					前方後円墳 1基(焼山古墳) 円墳 6基以上	1・2	
114	細田遺跡	△			○							●					○		旧石器包蔵地 古墳前期方形周溝墓 縄文前期・平安集落	7・8	
115	伊豆ノ山遺跡	△																	旧石器包蔵地	1	
116	安良岡遺跡												△						古墳遺物散布	44	
117	星ノ宮遺跡												△						古墳遺物散布	44	
118	東長岡戸井口遺跡	△	○												○	○	○		縄文・古墳中期～平安集落 中世館跡	48	
119	東長岡Ⅰ遺跡				△							△							縄文・古墳散布地	44	
120	東長岡金井町遺跡		○									○			○				縄文土坑 古墳前期溝 奈良集落	1	
121	旧太田工業高校北裏遺跡														○				古墳中期集落	4	
122	溝所遺跡													△					古墳遺物散布	44	
123	新堀遺跡													△					古墳遺物散布	44	
124	石原ニツ山古墳													●						44	
125	雷遺跡		△																縄文遺物包蔵地	59	
126	大日山古墳														●				35×41mの円墳 礫層 6世紀初	1	
127	大日山古墳群													●						44	
128	下小林館跡(大倉城)																	○	15・16世紀 堀 土居 戸口	60	
129	下小林上遺跡				○							○							縄文前期・古墳前期集落	59	
130	清水田遺跡				○							○	○		○				古墳～平安集落	1・58	
131	清水田Ⅱ遺跡												○	○	○				古墳～平安集落	1	
132	登戸遺跡												△						古墳遺物散布	44	
133	本矢場城跡																	○	堀 土居 戸口 16世紀	60	
134	相場観音経塚																		●	一字一石経塚 江戸中期か	44
135	矢場寄合遺跡											△	○	△					古墳後期集落	1	
136	稲荷宮遺跡																	○	平安集落	24	
137	矢場氏累代の墓																		●	五輪塔・宝篋印塔等の墓石群 永禄5年等の銘あり	44・45
138	矢場向遺跡											○			○				古墳前期・平安集落	1・24	
139	芋の森遺跡				△						△	△					△		縄文・弥生土器・土師器・須恵器散布	1	
140	里矢場温井遺跡														△				土師器・須恵器散布	1・62	
141	駒形南遺跡											○	○	○					古墳前期・後期・奈良集落	1	
142	里矢場上屋敷館跡																	○	中世館跡 土塁現存	62	
143	丹波倉遺跡 杉原遺跡												△	△		△		△	古墳中期土師器出土	1・62	
144	矢場川古墳群														●				約90基存在したか 現存数基	1・62	
145	矢場薬師塚古墳														●				前期前方後円墳 全長80m 4世紀代か	1	
146	鶴巻山古墳														●				前期前方後方墳 全長43m 4世紀後半	1	
147	上宿古墳(勢至堂裏古墳)																		前方後円墳 6世紀前半か 全長45m	1・68	
148	洲ノ上古墳														●				後期前方後円墳 全長64m	1	
149	矢場川城跡																	○	中世城郭 矢場国隆が築城か	62	
150	新宿遺跡		△											△					土師器・須恵器・埴輪散布	62	
151	藤本観音山古墳														●				前期前方後方墳 全長117.8m 4世紀中葉か	77	
152	堀込新田遺跡																		△	土師器・須恵器散布	62
153	堀込宮前遺跡																	△	土師器散布	62	
154	大将陣跡																	○	伝源義家陣跡 遺構・遺物なし	62	



第2節 歴史的環境

番号	遺跡名	旧石器	集落・溝等○墳墓●生産跡◆水田・高■遺物のみ△													備考	文献							
			縄文					弥生		古墳			奈良	平安	中世			近世						
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中							後					
155	南大町遺跡												●				○				古墳後期・古代集落 古墳前期方形周溝遺構確認	1・62・76		
156	南大町古墳群																	●				現存なし 8基ほど存在したか	62	
157	八幡山古墳群																	●				円墳71基現存 直刀・金環・切子玉・埴輪等出土	62・75・78	
158	八幡山遺跡				△						△											縄文・弥生土器散布	62	
159	八幡八幡宮																			○	○	神社跡 江戸後期社殿現存 土塁	62・74	
160	神宮寺跡																				○	八幡八幡宮の別当寺院 現在は廃寺	62	
161	古河堤跡																				○	近世渡良瀬川堤防	62	
162	水道山・足利公園古墳群																	●				後期群集墳 16基以上存在か	64・65・66・67・68・78	
163	緑町廃寺																			○		寺院跡 現在は宅地化	62	
164	連岱寺跡																			○		中世寺院跡	62	
165	足利公園遺跡				△																	縄文土器・石器散布	62	
166	宝幢寺跡																			○		寺院跡 溝検出 近世瓦出土	62・65	
167	立岩遺跡				△					△		△										縄文土器が主に散布	62	
168	立岩古墳群																				●	円墳7基現存	62	
169	吾妻古墳群																				●	円墳7基現存	62	
170	東山古墳群																				●	円墳7基現存	62	
171	物見古墳群																				●	円墳13基現存	62	
172	中堀古墳群																				●	円墳1基現存	62	
173	西山古墳群																				●	円墳1基現存	62	
174	丹南藩五十部陣屋跡																				○	近世岡田家陣屋跡	62	
175	中山古墳群																				●	円墳3基現存	62	
176	離山遺跡				△																	縄文土器散布	62	
177	山前駅遺跡																				△	土師器散布	62	
178	鹿島薬師廃寺																			○	○	寺院跡 中世瓦・須恵器・板碑等出土	62	
179	山下台遺跡																			△	△	△	土師器・中近世土器散布	62
180	山下本郷館跡																				○	中世館跡 堀・土塁現存	62	
181	春日岡古墳群																				●	方墳1基・円墳7基現存	62	
182	春日遺跡				○															◆	○	○	縄文前期集落・古墳・古代鋳造炉等検出	70
183	山王遺跡				△															△	△	△	縄文・古墳～平安・中近世の遺物散布	62
184	智光寺跡																				○	中世寺院跡 基壇・礎石建物検出	71	
185	平石遺跡	△	○																			縄文草創期～前期遺物出土 撚糸文系土器多数	64・69・72・78	
185	平石古墳群																				●	円墳3基現存	62	
186	大平古墳群																				●	17基現存	62	
187	宿居館跡				△	○	△	△	△											○	○	縄文前期土坑 撚糸文系土器 中世後半居館跡	73	
188	宿古墳群																				●	円墳2基現存	62	
189	大前堀之内館跡																				○	中世館跡 小此木備中守の居館か	79	
190	東台遺跡				△																△	縄文土器・土師器・埴輪散布	62	
191	台山遺跡				△																	縄文土器散布	62	
192	宇津木遺跡																			△	○	○	奈良平安集落 中世堀検出	66
193	大前西山遺跡				△					△												縄文・弥生土器散布	69	
194	大前坂遺跡				△																	縄文土器散布	62	
195	上山古墳群																				●	3基現存	62	

## 第二章 周辺環境

### 参考文献

- 1 太田市1996『太田市史 通史編 原始古代』
- 2 はにわの会1968『焼山遺跡総合調査報告』
- 3 日本考古学会1970『考古学雑誌』56巻3号
- 4 太田市教育委員会1972『太田工業高等学校北裏遺跡発掘調査報告書』
- 5 太田市教育委員会1972『聖天沢遺跡調査報告書』
- 6 駒沢大学考古学研究会1978『菅ノ沢遺跡、巖穴山古墳調査概報』
- 7 太田市教育委員会1978『細田遺跡発掘調査概報』
- 8 太田市教育委員会1979『細田遺跡発掘調査略報Ⅱ』
- 9 太田市教育委員会1979『金井口遺跡発掘調査略報-第2次調査-』
- 10 太田市教育委員会1985『下宿遺跡発掘調査概報』
- 11 太田市教育委員会1986『下宿遺跡-宿裏地区-』
- 12 太田市教育委員会1987『下宿遺跡E地点』
- 13 太田市教育委員会1988『下宿遺跡F地点』
- 14 太田市教育委員会1992『寺ヶ入遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ』
- 15 太田市教育委員会1994『金山城跡大手道発掘調査』
- 16 太田市教育委員会1997『今泉口八幡山古墳発掘調査報告書』
- 17 太田市教育委員会1997『金山城跡・月ノ池』
- 18 太田市教育委員会2001『史跡金山城跡環境整備報告書発掘調査編』
- 19 太田市教育委員会2002『長手谷遺跡群発掘調査報告書』
- 20 駒澤大学考古学研究室2007『群馬・金山丘陵遺跡群Ⅰ』
- 21 駒澤大学考古学研究室2009『群馬・金山丘陵遺跡群Ⅱ』
- 22 群馬県教育委員会1983『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 23 群馬県教育委員会1984『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 24 太田市教育委員会1985『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 25 太田市教育委員会1986『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 26 太田市教育委員会1987『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 27 太田市教育委員会1988『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 28 太田市教育委員会1989 3月28日『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 29 太田市教育委員会1989 3月31日『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 30 太田市教育委員会1988『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
- 31 太田市教育委員会1994『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-築前遺跡-』
- 32 太田市教育委員会1996『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-向矢部遺跡(第Ⅱ次農政分)-』
- 33 太田市教育委員会1996『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-向矢部遺跡(第Ⅱ次文化庁分)-』
- 34 太田市教育委員会1997『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-向矢部遺跡(第Ⅲ次農政分)-』
- 35 太田市教育委員会1997『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-向矢部遺跡(第Ⅲ次文化庁分)-』
- 36 太田市教育委員会2000『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報-丸山腰巻遺跡-』
- 37 太田市教育委員会1993『市内遺跡Ⅹ』
- 38 太田市教育委員会1997『市内遺跡ⅩⅢ』
- 39 太田市教育委員会2003『市内遺跡ⅩⅨ』
- 40 太田市教育委員会2005『市内遺跡21(第Ⅱ次)』
- 41 太田市教育委員会1992『埋蔵文化財発掘調査年報2』
- 42 太田市教育委員会1993『埋蔵文化財発掘調査年報3』
- 43 太田市教育委員会1994『埋蔵文化財発掘調査年報4』
- 44 太田市教育委員会2006『太田市の遺跡地図』
- 45 太田市HP太田の文化財恵林寺矢場氏墓石群
- 46 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『年報24』
- 47 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『年報25』
- 48 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『東長岡戸井口遺跡』
- 49 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『矢部遺跡・新島遺跡』  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『新島遺跡』
- 50 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『向矢部遺跡』
- 51 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『東今泉鹿島遺跡』
- 52 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『築前遺跡(1)』 2010『築前遺跡(2)』
- 53 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『古氷条里水田跡・二の宮遺跡』
- 54 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『大道西遺跡』
- 55 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『大道東遺跡(1)』 2010『大道東遺跡(2)』 2010『大道東遺跡(3)』
- 56 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『鹿島浦遺跡』
- 57 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『八ヶ入遺跡Ⅰ』 2010『八ヶ入遺跡Ⅱ』
- 58 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『太田東部遺跡群』
- 59 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1980『庚塚・上・雷遺跡』
- 60 群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』
- 61 群馬県文化財情報システムWEB版
- 62 足利市教育委員会1988『足利市遺跡地図』
- 63 足利市教育委員会1989『昭和62年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 64 足利市教育委員会1992『平成2年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 65 足利市教育委員会1993『平成3年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 66 足利市教育委員会1994『平成4年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 67 足利市教育委員会1995『平成5年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 68 足利市教育委員会1996『平成6年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 69 足利市教育委員会1998『平成8年度文化財保護年報』
- 70 足利市教育委員会1977『春日遺跡第1次発掘調査報告書』
- 71 足利市教育委員会2000『智光寺跡第2次発掘調査報告書』
- 72 毛野古文化研究所1973『平石遺跡』
- 73 足利市教育委員会2001『宿居館跡発掘調査報告書』
- 74 足利市教育委員会1983『八幡八幡宮土塁発掘調査報告書』
- 75 足利市教育委員会1986『八幡山古墳群山辺小学校裏第4号墳発掘調査報告書』
- 76 足利市教育委員会1999『南大町遺跡第1次発掘調査報告書』
- 77 足利市教育委員会2005『藤本観音山古墳発掘調査報告書Ⅰ』
- 78 栃木県教育委員会1981『栃木県史資料編考古Ⅱ』
- 79 栃木県教育委員会1982『栃木県の中世城館跡』

## 第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

矢部遺跡では、旧石器時代から近現代にかけての遺構、遺物が検出されている。遺構が検出されているのは、縄文時代、弥生時代、古墳～平安時代、中世以降で、遺構・遺物が最も多いのは、古墳～平安時代となっている。遺構は、竪穴住居70軒、掘立柱建物27棟、溝91条、土器集積遺構7基、井戸15基、土坑483基、ピット2243基、道路遺構、円形周溝遺構等が検出されている。

### 第1節 旧石器時代

遺跡北東部6区北部から、剥片、碎片、石核等の遺物が集中して出土している。

**出土位置** 6区中央北寄り、933・934-844Gr内。

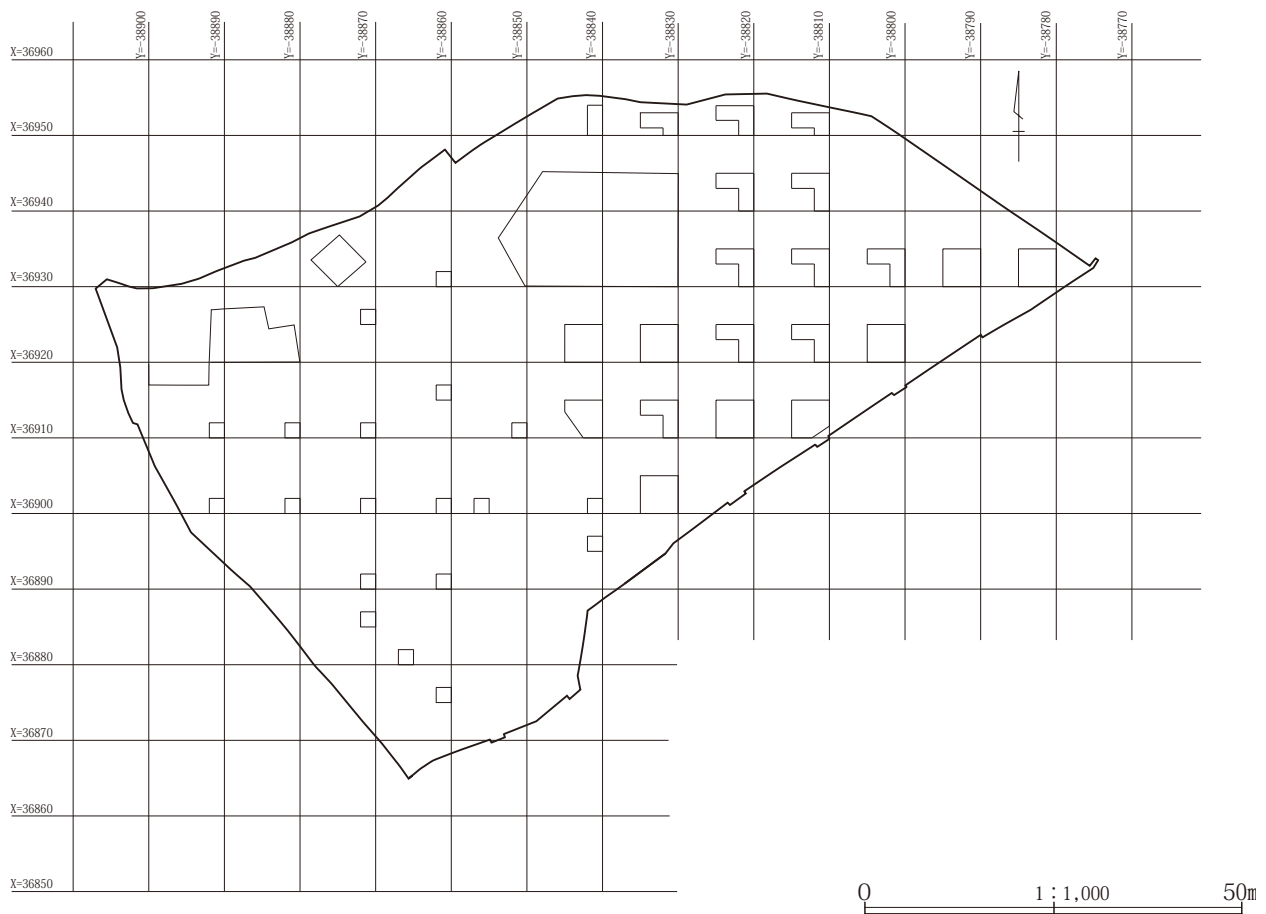
**出土層位** 渡良瀬川河床直上第Ⅸ層より出土。

**出土遺物** 剥片23点、碎片7点、石核1点が出土している。石材はいずれもチャートで、すべて同一母岩から

剥離されている。このうち、接合したものが5個体あり、石器製作跡であったと考えられる。

#### 接合資料

- 1 角柱状礫の礫面を打面として打点を左右に大きく振り、幅広剥片を剥離する。背面側剥離面は上面側と右辺側からの剥離面があり、90°打面転移して剥離が進行したことを示している。左下の平坦面は分割面と見られる。剥片1・剥片3～6は上面の礫面から剥離、剥片2は左辺側の礫面から剥離。
- 2 角柱状礫を用い、上面の礫面を打面に、幅広剥片を剥離する。背面側には淡い褐色の平坦面があり、剥離以前に沁み込んだ鉄分であろう。剥片1は剥離時に打点から縦位破損、剥片2は剥離時に脈の部分から斜位破損。
- 3 幅広剥片2点が接合。2点とも打面は弾け飛ぶ。
- 4 幅広剥片2点が接合。打点を大きく振り剥離。2点



第10図 6区旧石器調査区設定図

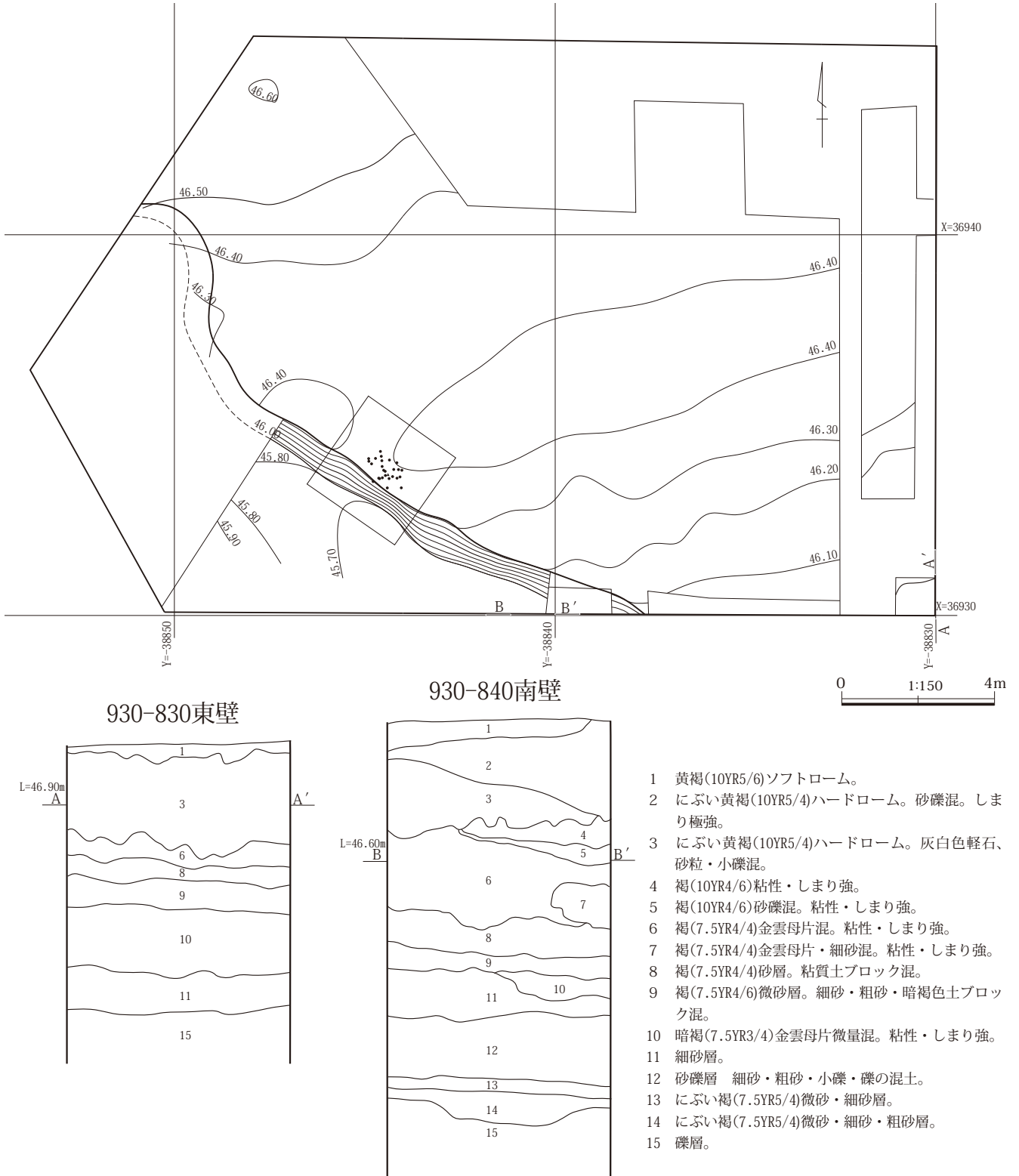
第三章 検出された遺構と出土遺物

とも礫面を打面とする。

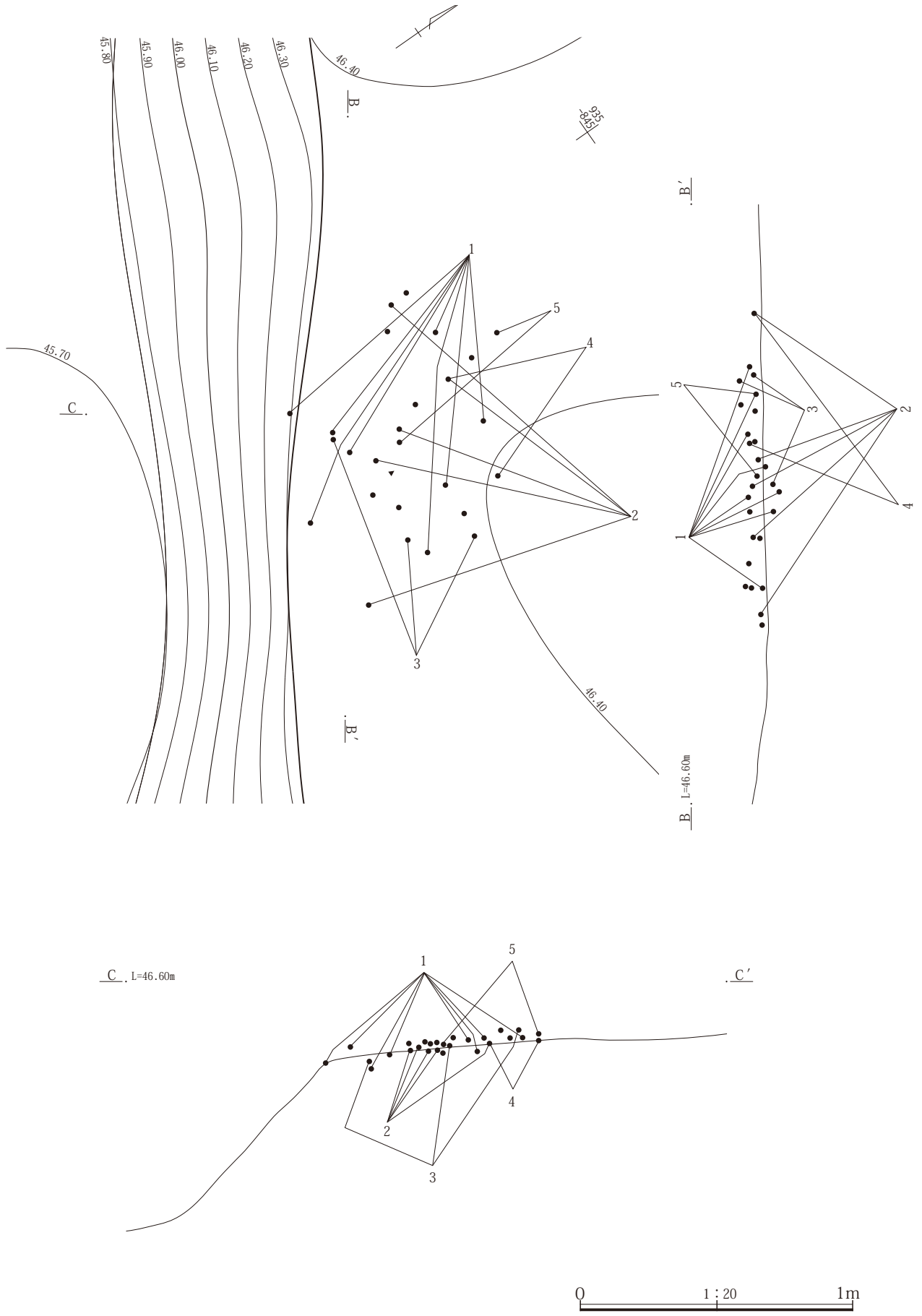
- 5 小型幅広剥片2点の接合。角柱状礫の礫稜部を打点とする。

所見 ローム層の層厚は約110cm。上層が乾いた砂質ロームで、下層が河川堆積性の砂礫を含む砂質ロームで

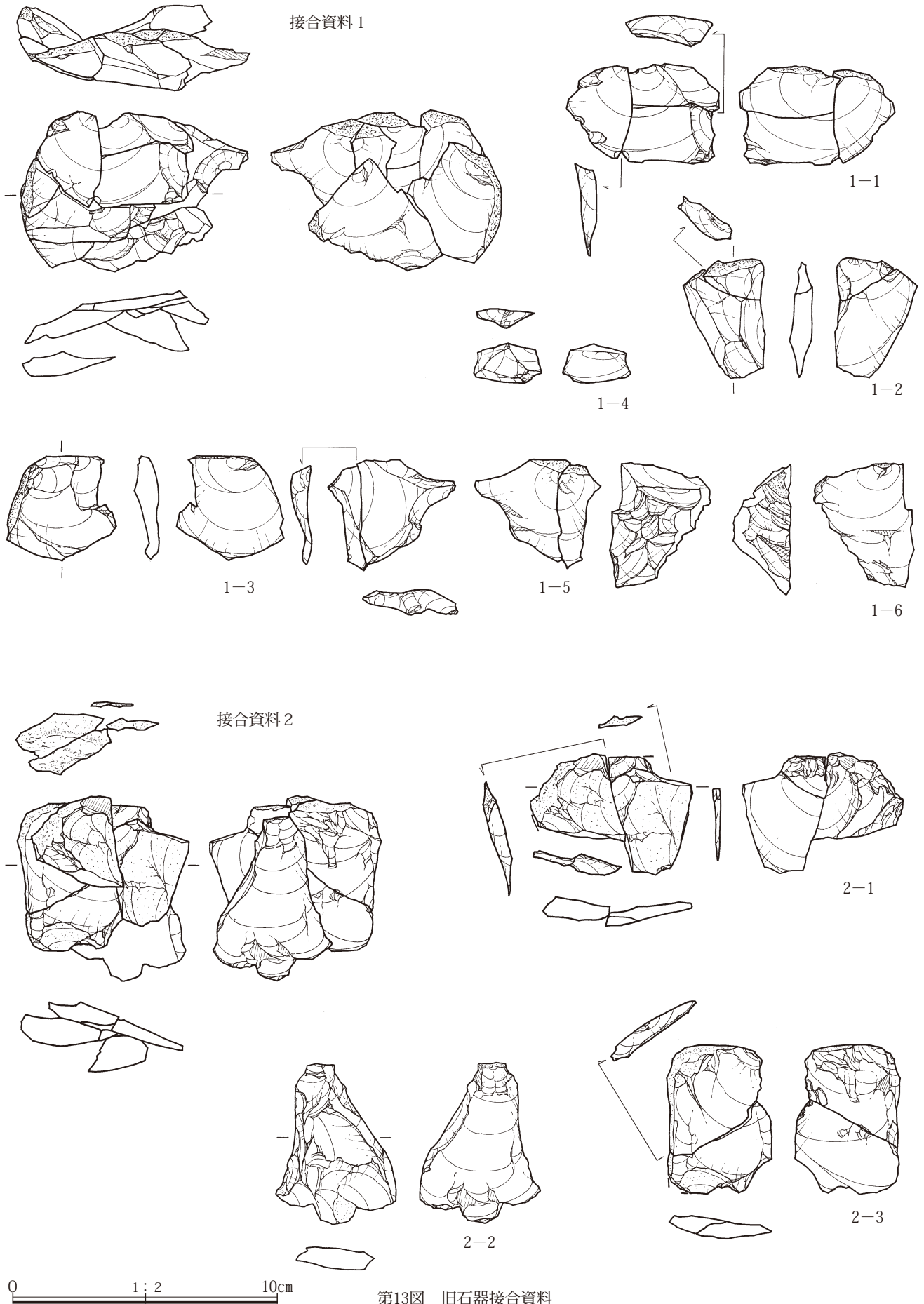
ある。堆積状況は、矢場川右岸の大道東遺跡等に類似する。写真で見る限り、矢部遺跡も同様である。矢場川左岸の道原遺跡IV区では岩宿面に相当するロームが確認されており、矢場川(旧渡良瀬川)両岸には少なくとも上下2段の段丘面が形成、矢部の石器は下位段丘面から出土したことになる。



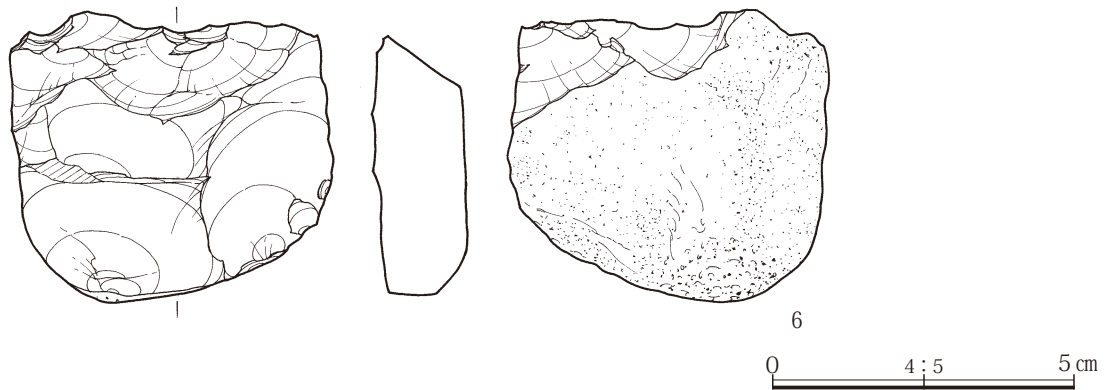
第11図 旧石器調査区および土層図



第12図 旧石器出土状況及び接合図



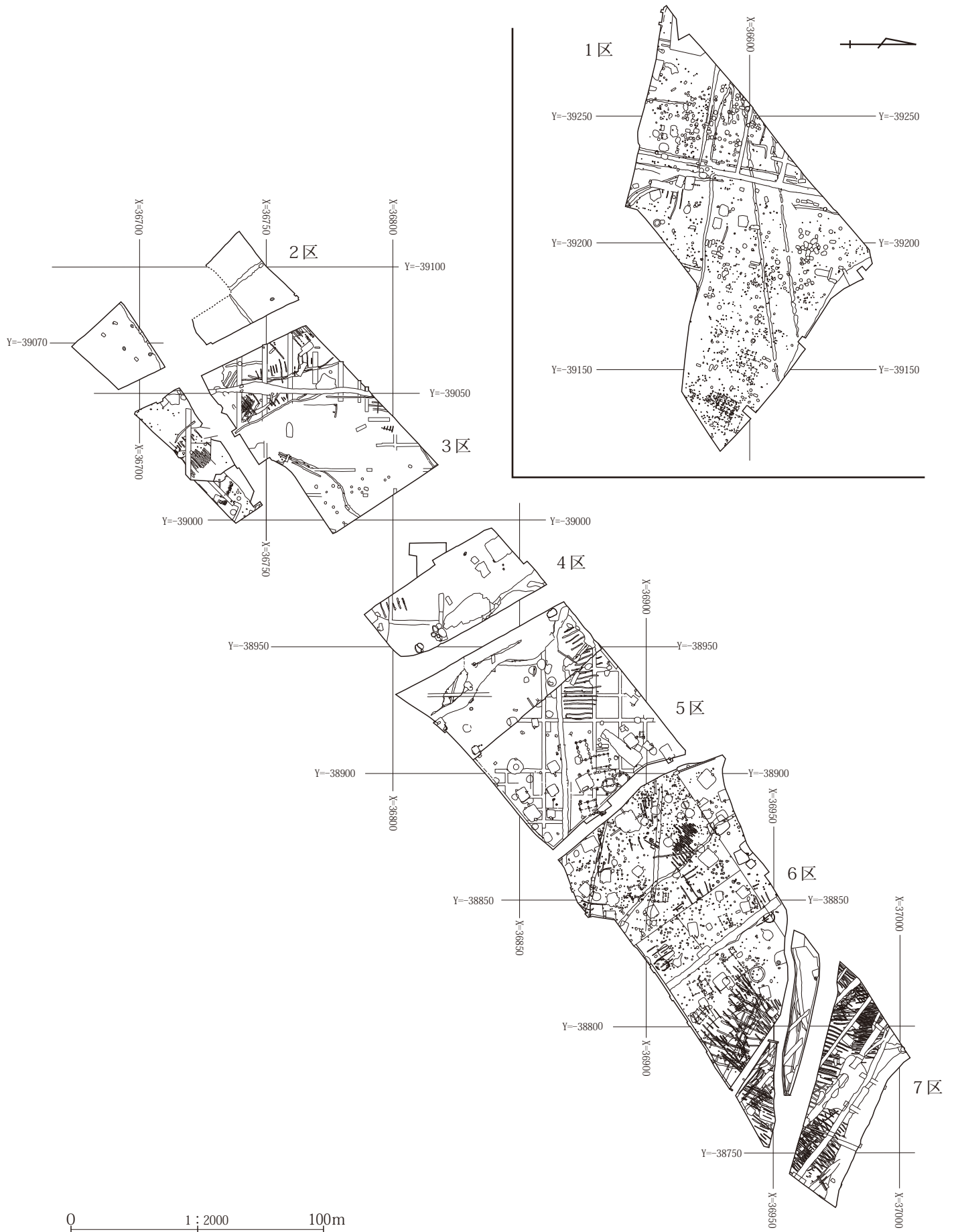
第13図 旧石器接合資料



第14図 旧石器石核

第3表 旧石器計測表

接合No.	剥片No	器種	区	出土位置(Gr)	取り上げ番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	備考
1	1	剥片	6	934-844	930-840 4面 No.103	チャート	3.6	5.7	6.4	
1	1	剥片	6	933-844	930-840 4面 No.110	チャート	2.3	3.6	7.8	
1	1	剥片	6	933-844	930-840 4面 No.111	チャート	3.5	2.5	4.9	
1	2	碎片	6	933-844	930-840 4面 No.115	チャート	1.6	2.2	2.0	
1	2	剥片	6	934-844	930-840 4面 No.118	チャート	4.1	3.1	9.0	
1	3	剥片	6	933-844	930-840 4面 No.98	チャート	3.9	4.0	17.2	
1	4	剥片	6	933-844	930-840 4面 No.101-b	チャート	1.4	2.5	2.5	
1	5	剥片	6	933-844	930-840 4面 No.101	チャート	3.9	3.6	10.8	
1	5	剥片	6	930-840	なし	チャート	3.9	1.7	3.0	
1	6	剥片	6	933-844	930-840 4面 No.116	チャート	4.6	3.7	27.8	
2	1	剥片	6	933-844	930-840 4面 No.97	チャート	3.3	3.5	11.8	
2	1	剥片	6	933-844	930-840 4面 No.106	チャート	3.7	3.2	7.7	
2	1	碎片	6	933-844	930-840 4面 No.108	チャート	1.6	1.7	1.5	
2	2	剥片	6	934-844	930-840 4面 No.94-b	チャート	3.9	3.7	20.8	
2	2	剥片	6	934-844	930-840 4面 No.120	チャート	3.5	4.0	9.7	
2	3	剥片	6	934-844	930-840 4面 No.94	チャート	6.1	4.5	21.2	
3		剥片	6	933-844	930-840 4面 No.95	チャート	3.5	3.2	10.0	挿図なし写真のみ
3		剥片	6	933-844	930-840 4面 No.99	チャート	3.4	2.9	7.3	挿図なし写真のみ
3		碎片	6	933-844	930-840 4面 No.112	チャート	2.2	2.8	2.7	挿図なし写真のみ
4		剥片	6	934-844	930-840 4面 No.94-c	チャート	3.2	4.5	8.0	挿図なし写真のみ
4		剥片	6	934-844	930-840 4面 No.102	チャート	2.1	4.1	5.8	挿図なし写真のみ
5		碎片	6	933-844	930-840 4面 No.107	チャート	2.2	2.3	2.7	挿図なし写真のみ
5		碎片	6	934-844	930-840 4面 No.117	チャート	2.2	1.6	1.6	挿図なし写真のみ
6		石核	6	933-844	930-840 4面 No.105	チャート	4.8	5.3	52.3	
		剥片	6	934-844	930-840 4面 No.94-d	チャート	2.5	2.6	4.6	計測のみ
		剥片	6	933-844	930-840 4面 No.96	チャート	2.5	2.7	4.3	計測のみ
		剥片	6	933-844	930-840 4面 No.100	チャート	2.3	4.2	6.3	計測のみ
		碎片	6	933-844	930-840 4面 No.104	チャート	1.4	2.3	1.9	計測のみ
		剥片	6	933-844	930-840 4面 No.114	チャート	3.3	3.1	8.3	計測のみ
		碎片	6	934-844	930-840 4面 No.119	チャート	1.9	2.4	2.9	計測のみ
		剥片	6	930-841	なし	チャート	1.8	3.2	3.7	計測のみ



第15図 縄文時代遺構位置図



## 第2節 縄文時代

### (1) 概要

縄文時代の遺構は、円形周溝遺構が2基、土坑が95基検出されている。縄文時代の遺物が出土している遺構はほとんどなく、埋没土の状況等から判断しているため、確実に縄文時代の遺構と断定できるものではない。遺物は、土器379点、石器137点が出土している。

### (2) 円形周溝遺構

2・3号の2基検出されている。

①**分布** 6区中央北側と南側から1基ずつ検出されている。

②**形態・規模** 幅10～40cm程度の溝が円形・楕円形に回る形態で、長径は2号が4.64m、3号が6.18mとなっている。深さは、最大で31cmと33cmである。3号は溝が連続しておらず途切れている部分が多い。2号も浅い部分と深い部分があるため、削平により深い部分が残った可能性がある。

③**機能・時期** 検出面が削平を受けているために炉や柱穴は検出されないが、形態・規模からみて竪穴住居の周溝だけが残った可能性が高い。

### (3) 土坑

土坑は94基検出されている。

①**分布** 遺跡南西部の1区および中央の3区、北東端部の7区からは検出されておらず、2区で3基、4区で4基、5区で1基検出されているが、いずれも少数である。北東部の6区で86基と全体の90%以上が集中して検出されており、分布の中心が遺跡北東部にあることを示している。

②**形態・規模** 平面形態がA～Dの4形態、断面形態がa～fの6形態に分類できる。

平面形態

- A 円形のもの(短軸：長軸が1：1.2未満)
- B 楕円形のもの(短軸：長軸が1：1.2以上)
- C 溝状に長いもの(短軸：長軸が2以上)
- D 不正形のもの

断面形態

- a 底部が平らで壁が垂直に近く立ち上がるもの
- b 底部が平らで壁が外側に傾斜して立ち上がるもの
- c 底部が丸みを帯びるもの
- d 底部が部分的にもう一段下がるもの。
- e 深さが深いもの(長径：深さが1以上)
- f 不正形のもの

平面形態は、Bの楕円形のもの49%で最も多く、次にAの円形のもの41%が続いており、この2形態で95%と、大部分を占めている。断面形態は、d類が42%で最も多く、続いて、b類(28%)、c類(20%)、a類(7%)、e・f類(各5%)の順となっている。

規模は、長径2.39～0.44m平均0.83m、短径1.49～0.36m平均0.62m、長径/短径2.88～1.02平均1.34、深さ92～11cm平均30cm、面積1.89～0.13m<sup>2</sup>平均0.44m<sup>2</sup>である。続いて平面形態ごとの断面形態を見ることにする。

**A円形** 断面形a類は4基で、5区44土坑、6区84・89・91土坑である。長径が0.50～0.55m程度と小さく、深さは16～28cmであるが、径が小さい割に深くなっている。断面形は、左右対称で規格的なものが多い。b類は8基で6区23・68・80・81・82・96・193・210土坑である。長径が0.55～0.75mの小さいものが多いが、6区210土坑のみ1.54mと他の倍以上ある。6区80・81が直線的できれいな掘り方であるのに対し、6区23・82・96はやや崩れた掘り方であるため、性格がやや異なる可能性がある。また、6区210も他と性格が異なる可能性が高い。c類は14基と多く、6区30・86・90・100・104・106・109・110・112・113・191・192・195・198土坑が該当する。長径は0.44～0.86m平均0.60mと、a・b類よりも規模差が大きい。深さも平均27.6cmとやや深い。また、100・109等の小さく深さがあるものや、104・106等の皿状を呈すもの、110・191・198等の半円形のものなど、形態的にも多少のばらつきがある。d類は15基で最も多く、6区59・64・67・71・77・78・79・97・98・102・103・105・107・108・114土坑が該当する。長径は0.47～1.16m平均0.72mでc類よりも大規模なものが多い。深さも平均35.6cmと深くなっている。底部が部分的にピット状に掘り下げられているが、6区59・64・67・78・98土坑等、1カ所だけ下掘り下げられていて底部の一方に寄っているものも多く、6区71・77・102土

坑等の複数力所掘り下げられているものもある。ピットの規模も様々で、断面形は崩れた形態のものが多く、規格的とは言えない。

**B 楕円形** 断面形 a 類は 3 基と少なく、6 区 72・94・190 土坑が該当する。長径 0.62・1.32m で、190 土坑が 72 土坑の 2 倍以上あり規模差が大きい。72 土坑の掘り方は規格的であるが、190 土坑は、部分的に深いところもあり、やや崩れている。b 類は 18 基と多く、2 区 42・43・4 区 63・6 区 52・54・57・58・60・61・62・65・73・85・88・101・189・207・208 土坑が該当する。長径 0.50～1.38m 平均 0.92m で全体的に規模が大きい、最小の 6 区 65 と最大の 6 区 189 で 2 倍以上の規模差がある。掘り方は 6 区 54・85・88 等整然と規格的なものや、2 区 42・43・6 区 73・189・208 等の凹凸をもつやや崩れているものがあり、A の円形と同様である。しかし、c 類は 5 基のみで b 類が多数を占める点は、A の円形土坑とは異なる。4 区 65・67・6 区 53・203・204 土坑が該当する。長径 0.58～1.08m 平均 0.80m で、規模差は比較的小さい。掘り方は、A の円形のものより崩れており、いずれも立ち上がりの角度が一定でない。d 類は 21 基と A の円形同様最も多く、2 区 45・4 区 64・6 区 31・55・56・63・66・69・70・74・75・76・83・87・92・93・95・99・111・194・206 土坑が該当する。長径 0.55～1.48m 平均 0.95m で a～c 類よりもやや規模が大きく、顕著な差異がある。A の円形と同様、1 カ所だけ下がっていて底部の一方に寄っているものが多く、2 区 45・4 区 64・6 区 31・63・74・194 等である。比較的類似した形態で、何らかの機能があったと考えられるが、詳細は不明である。他に 6 区 75 土坑等の長軸の両側にピットのあるものもある。e・f 類については、e 類が 6 区 202 土坑の 1 基あるだけで、f 類が皆無となるのは、A の円形同様である。

**C 溝状に長い** 断面形は d 類のみで、6 区 196・197・209 土坑の 3 基である。長径 0.99～2.39m 平均 1.27m で、6 区 209 土坑が他の 2 倍以上ある。6 区 196・197 土坑の 2 基は長軸の両側が低くなる形態で、6 区 209 土坑はやや偏るが中央が深くなっている。

**D 不正形** 断面形は、b 類が 6 区 205 土坑 1 基、d 類が 6 区 32 土坑 1 基の計 2 基だけである。長径が 0.88・0.99m で、深さも 16・23cm と浅い。掘り方が企画的なものではなく、性格は不明である。

③**埋没土** ロームブロック・ローム粒子を含むにぶい黄褐色土が堆積するものが最も多い。暗褐色土・黒褐色土で埋没するのは、6 区 191・192・196・197・202～208 土坑等十数基のみである。中央から壁際に向かって迫る、自然堆積と考えられる埋没状況を複数層が示しているものは 35 基あり、全体の 1/3 強を占める。尚、1 層のみが堆積した人為的埋没状況を思わせるものが 6 区 62・85 土坑など 38 基存在するが、この中には明確に分層化できなかった自然埋没のものが混在している可能性もある。6 区 204・209 土坑は、黒褐色土と黄褐色土がブロック状に混入する等、自然堆積とは異なる埋没状況を示しているため、人為堆積の可能性はある。

④**機能・時期** 平面形態が A 類(円形)の土坑は断面形が袋状とはならないが、これは上位の開口部が削平されて欠失しているためと考えられ、基本的に貯蔵穴としての機能が想定される。B 類(楕円形)の土坑で、人為堆積の可能性のある 6 区 204 土坑は、土坑墓の可能性があると見えよう。形態で特徴があるのは、断面形態が d の、底部が部分的に下がるものが多いことで、底部にピット状の落ち込みがあって、何らかの機能を有していた可能性があるが、形態的に落とし穴とはならないため、性格は不明である。土坑に伴う遺物はほとんどないため、個々の土坑の時期は不明であるが、周囲の遺構外から出土している土器は前期から後期まで認められ(中期後半が 19 点、後期前半が 14 点)、土坑もこの時期のものと考えられる。

⑤**出土遺物** 遺物の出土した土坑は少ないが、2 区 43 土坑から 1038・1048・1049・1063 の加曾利 E 式の土器が、4 区 67 土坑から 1070 の加曾利 E 式の土器が、5 区 44 土坑から 1148 の石匙が出土し、他に 4 区 63・65・67 土坑から破片が 1 点ずつ出土している。

第4表 縄文時代土坑形態別数量表

断面	a		b		c		d		e		f		計	
	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%
A	4	10%	8	20%	14	34%	15	37%	0	0%	0	0%	41	44%
B	3	6%	18	38%	5	10%	21	44%	1	2%	0	0%	48	51%
C	0	0%	0	0%	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	3	3%
D	0	0%	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	2%
計	7	7%	27	29%	19	20%	40	43%	1	1%	0	0%	94	100%

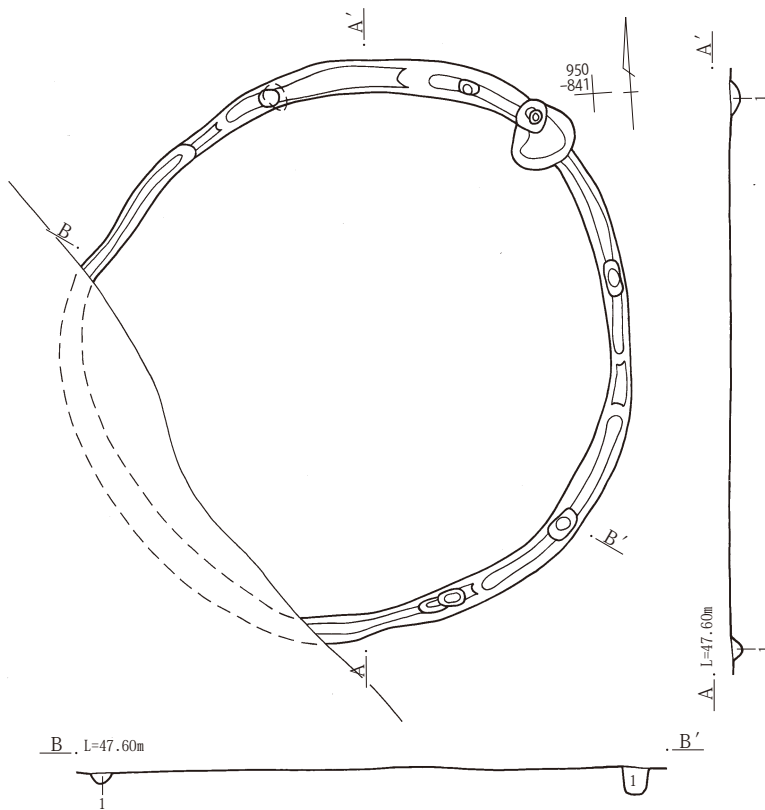
第5表 縄文時代円形周溝遺構一覧表

区	No.	位置(Gr)	重複	平面 形態	長径 m	短径 m	長径/ 短径	周溝幅 m			深さ cm	外側 面積㎡	内側 面積㎡	主軸方位
								最大	最小	平均				
6	2	945～950-840～845	196土坑、1020～1025ピット	円形か	4.64	4.33	1.07	0.27	0.14	0.21	31	(16.21)	(13.30)	N-9°-E
6	3	902～908-821～826	1113～1115・1131～1133ピット	楕円形	(6.18)	(4.61)	1.34	(0.45)	(0.21)	(0.33)	33	(21.12)	(16.51)	N-9°-E

第6表 縄文時代土坑一覧表

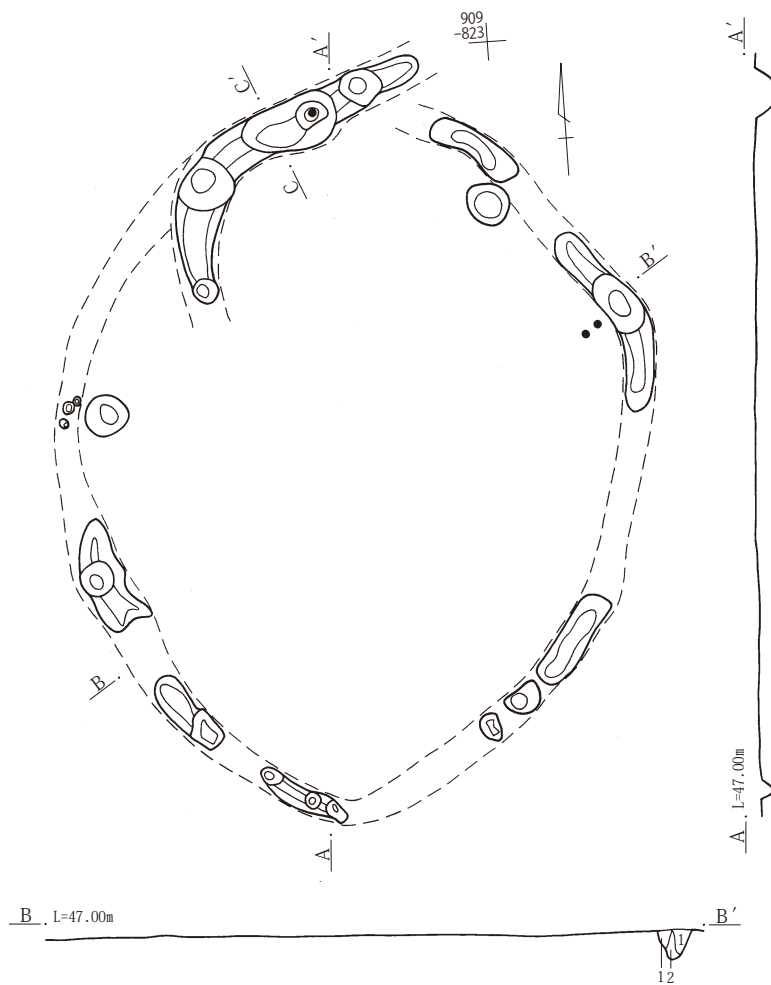
区	No.	位置(Gr)	重複	平面 形態	断面 形態	長径 m	短径 m	長径/ 短径	深さ cm	面積 ㎡	主軸方位	備考
2	42	703・704-064～066		楕円	b	1.52	1.23	1.24	12	1.43	N-25°-W	
2	43	693・694-066～068		楕円	b	1.50	1.12	1.34	11	1.34	N-62°-E	
2	45	696・697-075～077		楕円	d	1.39	0.95	1.46	50	1.10	N-35°-E	
4	63	839・840-983・984		楕円	b	1.15	[0.44]		33	[0.46]	N-57°-E	
4	64	827・828-985～987		楕円	d	1.48	0.93	1.59	36	1.07	N-65°-W	
4	65	842・843-981・982		楕円	c	0.67	0.52	1.29	17	(0.28)	N-85°-E	
4	67	843 -980		楕円	c	0.76	0.63	1.21	28	0.38	N-75°-E	
5	44	834 -910・911		円	a	0.50	0.45	1.11	16	0.18	N-34°-W	
6	23	899・900-892	101ピット	円	b	0.50	0.45	1.11	20	0.17	N-86°-W	
6	30	907・908-866		円	c	0.50	0.44	1.14	19	0.16	N-36°-E	
6	31	919～921-852・853		楕円	d	1.47	0.72	2.04	62	0.88	N-30°-E	
6	32	925・926-861・862		不正	d	0.99	0.83	1.19	23	0.61	N-44°-W	
6	52	908・909-896		楕円	b	0.72	0.41	1.76	23	0.24	N-41°-W	
6	53	910・911-895		楕円	c	0.58	0.47	1.23	37	0.21	N-61°-W	
6	54	910・911-878・879		楕円	b	0.79	0.61	1.30	28	0.38	N-55°-W	
6	55	911・912-877・878		楕円	d	0.65	0.46	1.41	27	0.23	N-44°-W	
6	56	911 -876		楕円	d	0.66	0.48	1.38	31	0.23	N-54°-W	
6	57	910 -875・876		楕円	b	0.67	0.45	1.49	19	0.25	N-72°-W	
6	58	912・913-876・877		楕円	b	1.08	0.79	1.37	32	0.69	N-68°-W	
6	59	912・913-875・876		円	d	0.70	0.63	1.11	31	0.34	N-78°-W	
6	60	915・916-881		楕円	b	0.84	0.67	1.25	26	0.43	N-37°-W	
6	61	914 -871		楕円	b	0.57	0.39	1.46	21	0.18	N-14°-W	
6	62	918・919-871・872		楕円	b	0.83	0.65	1.28	28	0.45	N-53°-E	
6	63	911 -871		楕円	d	0.92	0.69	1.33	26	0.47	N-83°-W	
6	64	926 -871		円	d	0.72	0.62	1.16	32	0.34	N-10°-W	
6	65	899 -885・886		楕円	b	0.50	0.41	1.22	24	0.17	N-80°-E	
6	66	899 -883		楕円	d	0.71	0.36	1.97	22	0.20	N-78°-W	
6	67	900・901-881		円	d	0.55	0.52	1.6	44	0.21	N-52°-E	
6	68	902・903-882		円	b	0.75	0.73	1.03	27	0.40	N-12°-W	
6	69	925 -853・854		楕円	d	0.55	0.45	1.22	30	0.19	N-26°-W	
6	70	925・926-855		楕円	d	0.83	0.68	1.22	33	0.43	N-77°-W	
6	71	927・928-856・857		円	d	1.16	1.02	1.14	56	0.96	N-15°-E	
6	72	929 -859・860		楕円	a	0.62	0.47	1.32	25	0.22	N-44°-W	
6	73	929 -861・862		楕円	b	0.98	0.69	1.42	24	0.55	N-90°-E	
6	74	929・930-859・860		楕円	d	1.11	0.74	1.50	36	0.62	N-55°-W	
6	75	929・930-858		楕円	d	1.23	0.63	1.95	23	0.62	N-11°-E	
6	76	932 -858・859		楕円	d	0.64	0.40	1.60	31	0.21	N-67°-W	
6	77	931 -858		円	d	0.68	0.62	1.10	28	0.34	N-14°-E	
6	78	931 -864・865		円	d	0.95	0.85	1.12	42	0.65	N-73°-E	

区	No.	位置(Gr)	重複	平面 形態	断面 形態	長径 m	短径 m	長径/ 短径	深さ cm	面積 ㎡	主軸方位	備考
6	79	932・933-866・867		円	d	0.64	(0.55)	(1.16)	41	(0.28)	N-53°-E	
6	80	915・916-866		円	b	0.63	0.55	1.15	21	0.27	N-83°-E	
6	81	916 -865		円	b	0.56	0.55	1.02	27	0.23	N-60°-E	
6	82	916・917-864・865		円	b	0.55	0.53	1.04	16	0.22	N-44°-W	
6	83	916・917-862・863		楕円	d	0.74	0.54	1.37	30	0.32	N-42°-E	
6	84	916 -866		円	a	0.52	0.48	1.08	28	0.19	N-74°-W	
6	85	916・917-866・867		楕円	b	0.85	0.70	1.21	28	0.45	N-74°-E	
6	86	919・920-860		円	c	0.56	0.52	1.08	25	0.23	N-17°-E	
6	87	920・921-860		楕円	d	0.75	0.62	1.21	60	0.38	N-16°-W	
6	88	921 -861・862		楕円	b	0.67	0.55	1.22	26	0.28	N-83°-W	
6	89	921 -859・860		円	a	0.55	0.53	1.04	27	0.22	N-66°-E	
6	90	924 -857		円	c	0.44	0.38	1.16	32	0.13	N-69°-W	
6	91	926 -858		円	a	0.52	0.48	1.08	24	0.18	N-81°-W	
6	92	927 -859・860		楕円	d	1.10	0.76	1.45	28	0.51	N-88°-W	
6	93	925・926-860・861		楕円	d	1.28	0.62	2.6	32	0.71	N-31°-E	
6	94	927・928-862・863		楕円	a	0.76	0.63	1.21	25	0.35	N-85°-E	
6	95	927 -863・864		楕円	d	0.90	0.60	1.50	23	0.41	N-70°-W	
6	96	928・929-863・864		円	b	0.55	0.53	1.04	16	0.23	N-76°-W	
6	97	928・929-864・865		円	d	0.75	0.66	1.14	23	0.37	N-43°-W	
6	98	928 -864・865		円	d	0.72	0.67	1.07	25	0.37	N-36°-W	
6	99	872 -861		楕円	d	0.69	0.51	1.35	25	0.28	N-44°-W	
6	100	873 -865		円	c	0.46	0.41	1.12	26	0.15	N-32°-W	
6	101	876 -864・865		楕円	b	0.75	0.50	1.50	25	0.28	N-71°-W	
6	102	882・883-863・864		円	d	0.97	0.83	1.17	31	0.62	N-67°-W	
6	103	881・882-875・876		円	d	0.64	0.56	1.14	48	0.27	N-13°-W	
6	104	886・887-877		円	c	0.86	0.72	1.19	20	0.47	N-35°-E	
6	105	889・890-875・876		円	d	0.72	0.63	1.14	31	0.35	N-44°-E	
6	106	892・893-873		円	c	0.81	0.69	1.17	26	0.43	N-74°-W	
6	107	890・891-864・865		円	d	0.66	0.62	1.6	46	0.32	N-79°-W	
6	108	901 -871		円	d	0.47	0.45	1.04	15	0.16	N-43°-W	
6	109	877・878-855		円	c	0.54	0.49	1.10	34	0.20	N-87°-W	
6	110	876 -844・845		円	c	0.57	0.52	1.10	23	0.23	N-56°-E	
6	111	902・903-877・878		楕円	d	1.03	0.77	1.34	30	0.57	N-68°-W	
6	112	912・913-863・864	114土坑より旧	円	c	0.79	0.68	1.16	39	(0.42)	N-88°-E	
6	113	874 -862・863		円	c	0.53	0.47	1.13	26	0.19	N-71°-W	
6	114	913 -863	112土坑より新	円	d	0.52	0.49	1.6	41	0.19	N-35°-E	
6	189	933・934-856・857		楕円	b	1.38	1.08	1.28	27	1.14	N-53°-E	
6	190	935・936-855・856		楕円	a	1.32	0.75	1.76	19	0.79	N-5°-E	
6	191	932・933-855・856		円	c	0.60	0.58	1.03	34	0.27	N-4°-E	
6	192	942 -849	1125ピットより旧	円	c	0.61	(0.59)	(1.03)	22	(0.29)	N-87°-W	
6	193	944・945-848・849		円	b	0.57	0.52	1.10	34	0.23	N-34°-W	
6	194	945・946-846・847		楕円	d	0.89	0.55	1.62	22	0.42	N-45°-W	
6	195	942 -853・854		円	c	0.58	0.55	1.05	24	0.27	N-49°-W	
6	196	948・949-843・844	2号円形周溝	溝状	d	0.99	0.37	2.68	41	0.31	N-88°-W	
6	197	950・951-844・845		溝状	d	1.21	0.42	2.88	21	0.43	N-16°-E	
6	198	931・932-782・783		円	c	0.49	0.46	1.07	37	0.18	N-53°-W	
6	202	946 -825・826		楕円	e	0.64	0.37	1.73	67	0.19	N-60°-W	
6	203	951・952-822・823		楕円	c	0.89	0.65	1.37	35	0.46	N-18°-W	
6	204	930・931-850・851		楕円	c	1.08	0.58	1.86	35	0.54	N-36°-W	
6	205	911・912-842		不正	b	0.88	0.60	1.47	16	0.44	N-14°-E	
6	206	927・928-827・828		楕円	d	0.84	0.53	1.58	24	0.36	N-63°-W	
6	207	929・930-825・826		楕円	b	0.76	0.57	1.33	20	0.35	N-22°-E	
6	208	942・943-835		楕円	b	0.95	0.49	1.94	25	0.39	N-39°-W	
6	209	937～940-810～812		溝状	d	2.39	0.94	2.54	92	1.89	N-30°-W	
6	210	951・952-824・825		円	b	1.54	1.49	1.03	50	1.78	N-43°-E	



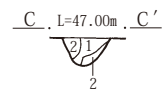
6区2号円形周溝遺構

- 1 暗褐(10YR3/3)ロームB少量、黒色土B混。粘性強、しまり弱。

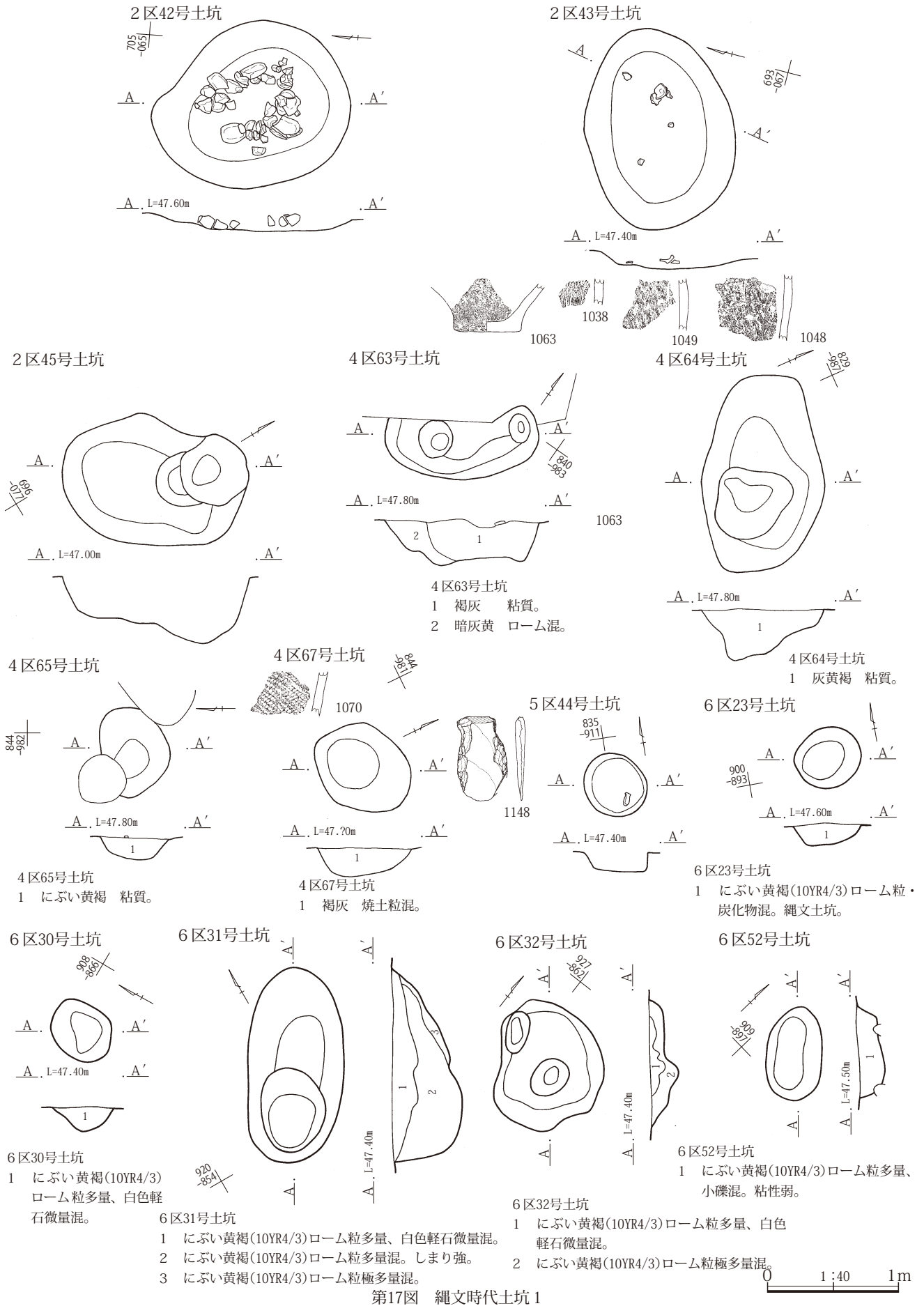


6区3号円形周溝遺構

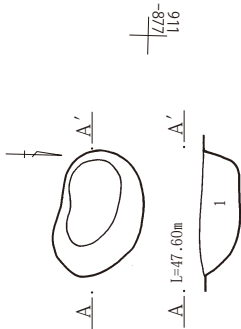
- 1 暗褐(10YR3/3)ローム漸移層少量混。粘性・しまり強。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム漸移層。粘性・しまり強。



第16図 縄文時代円形周溝遺構



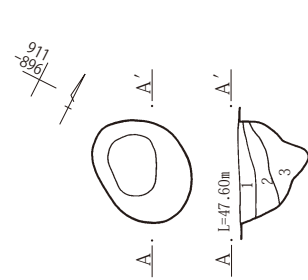
6区57号土坑



6区57号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。

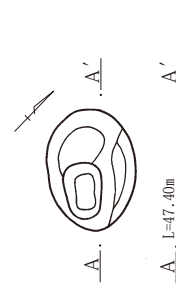
6区53号土坑



6区53号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。  
2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。  
3 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

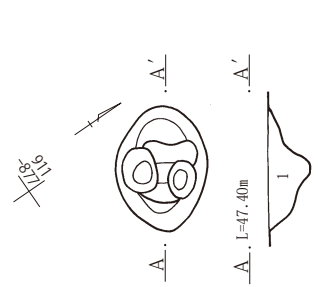
6区55号土坑



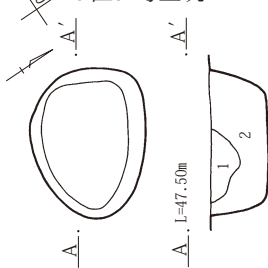
6区55・56号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量、ロームB中混。粘性弱。

6区56号土坑



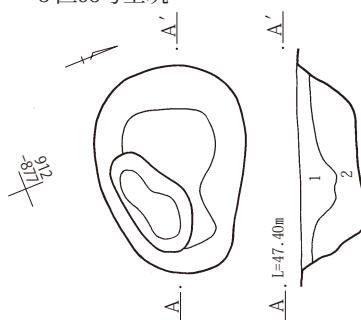
6区54号土坑



6区54号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。  
2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。

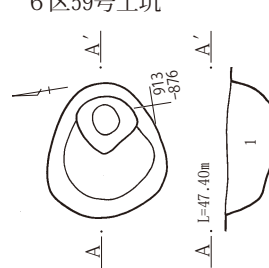
6区58号土坑



6区58号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。  
2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

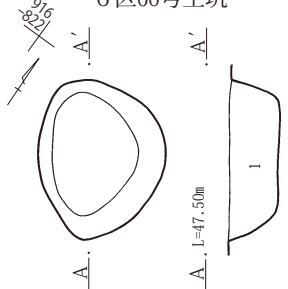
6区59号土坑



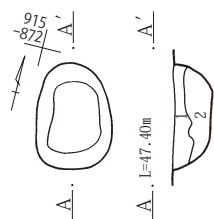
6区59・60号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量、小礫混。粘性弱。

6区60号土坑



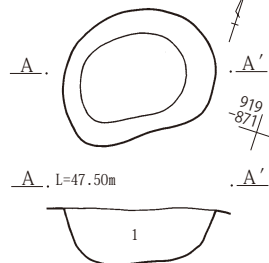
6区61号土坑



6区61号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。  
2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量、小礫混。粘性弱。

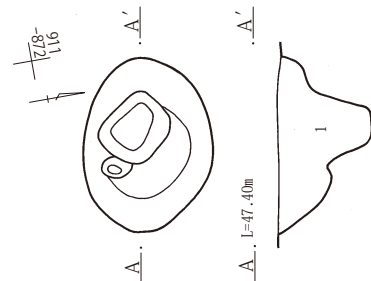
6区62号土坑



6区62号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量、小礫混。粘性弱。

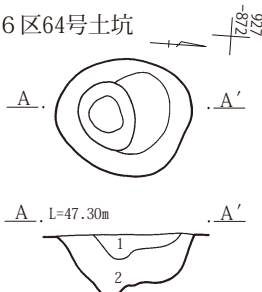
6区63号土坑



6区63号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量、小礫混。粘性弱。

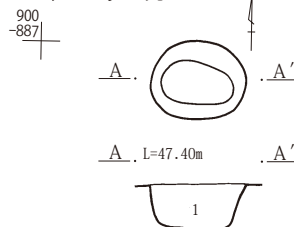
6区64号土坑



6区64号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。  
2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。

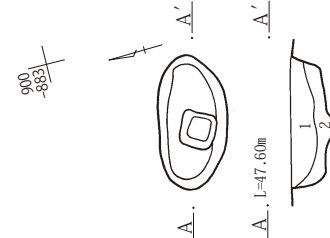
6区65号土坑



6区65号土坑

1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。

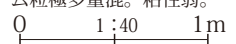
6区66号土坑



6区66号土坑

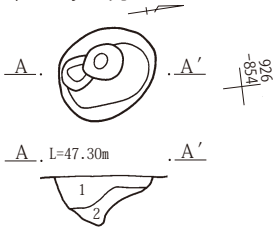
1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。  
2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

第18図 縄文時代土坑2



第三章 検出された遺構と出土遺物

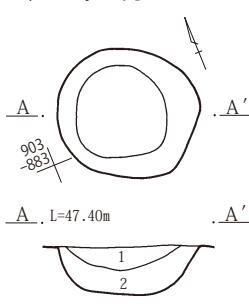
6区69号土坑



6区69号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

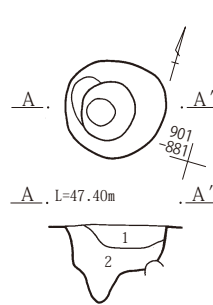
6区68号土坑



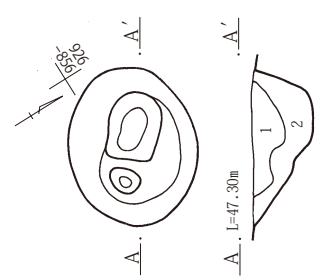
6区67・68号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量、小礫混。粘性弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量、小礫・礫中～大混。粘性弱

6区67号土坑



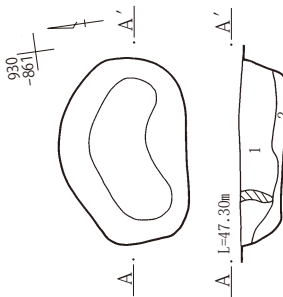
6区70号土坑



6区70号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。

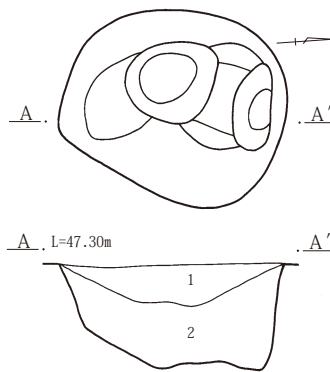
6区73号土坑



6区73号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱
- 2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量、炭化物少量混。粘性弱。

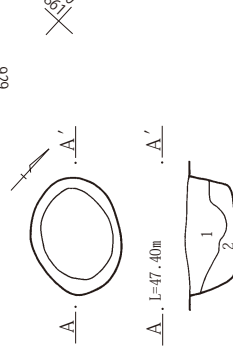
6区71号土坑



6区71号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 暗褐(10YR3/4)炭化物少量、ローム粒・B小～大、黒色土混。粘性弱、しまり強。

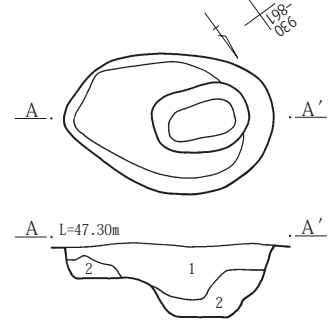
6区72号土坑



6区72号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

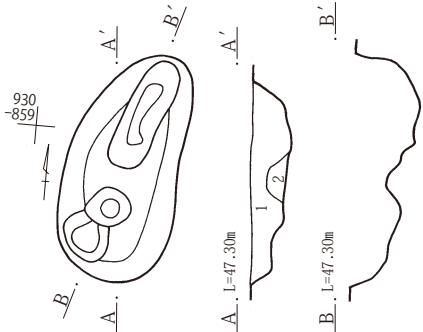
6区74号土坑



6区74号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量、小礫混。粘性弱。
- 2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

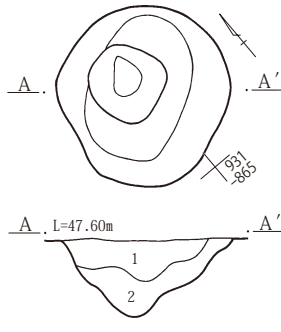
6区75号土坑



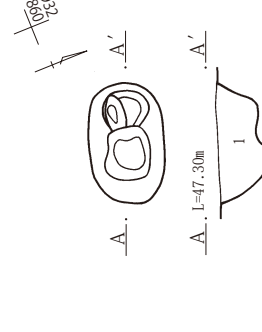
6区75・78号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

6区78号土坑



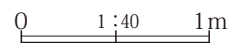
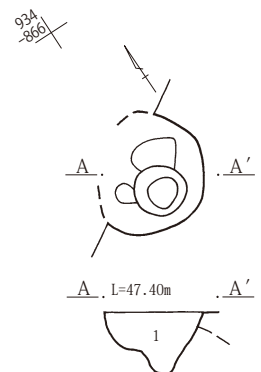
6区76号土坑



6区76・79号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱

6区79号土坑





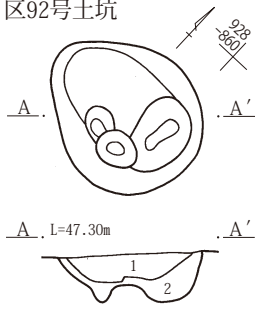


第20図 縄文時代土坑 4

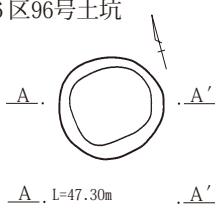


第三章 検出された遺構と出土遺物

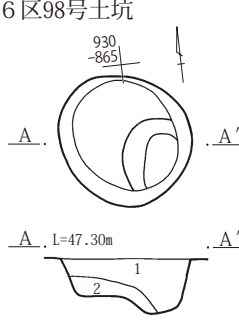
6区92号土坑



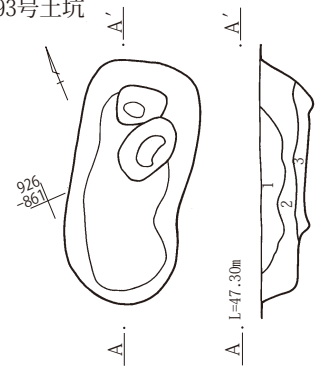
6区96号土坑



6区98号土坑



6区93号土坑



6区92号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

6区96号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。

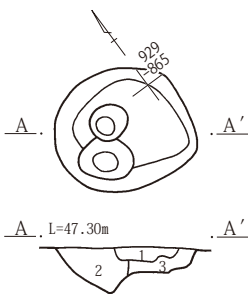
6区98号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量、炭化物少量混。粘性弱。
- 2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

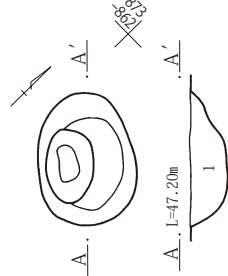
6区93号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。
- 3 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

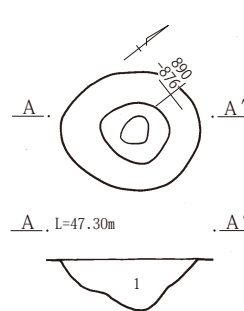
6区97号土坑



6区99号土坑



6区105号土坑



6区97号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量、白色軽石少量混。粘性弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。
- 3 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

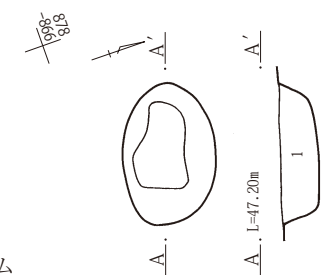
6区99号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱

6区105号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱

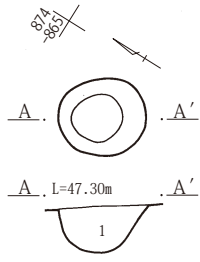
6区101号土坑



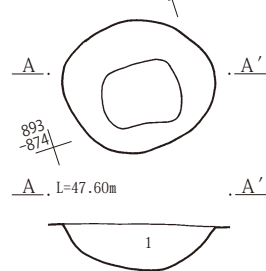
6区101号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量、炭化物微量混。粘性弱。

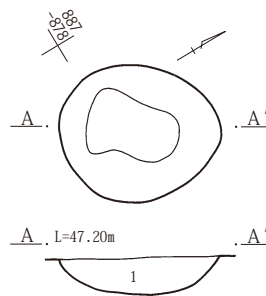
6区100号土坑



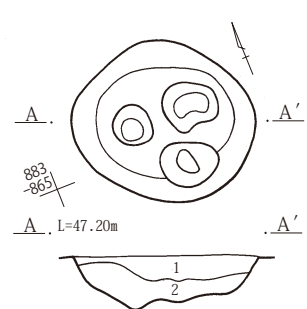
6区106号土坑



6区104号土坑



6区102号土坑



6区100・106号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱

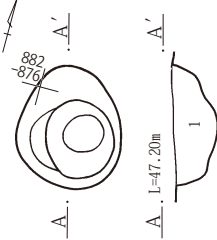
6区104号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。

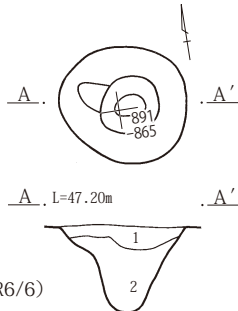
6区102号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱

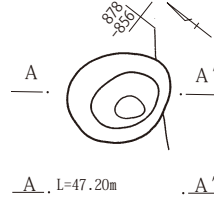
6区103号土坑



6区107号土坑



6区109号土坑

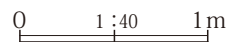


6区107・109号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱

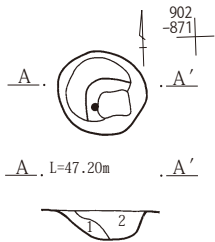
6区103号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。



第21図 縄文時代土坑 5

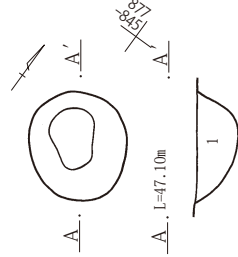
6区108号土坑



6区108号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 明黄褐(10YR6/6)ローム粒極多量混。粘性弱。

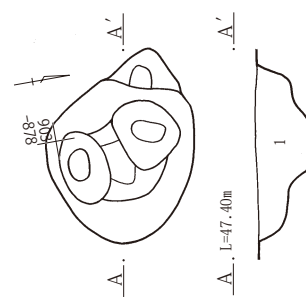
6区110号土坑



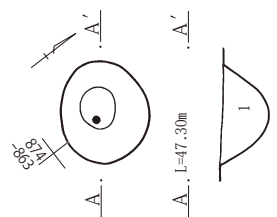
6区110・111号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱

6区111号土坑



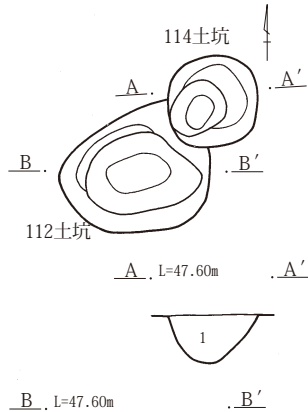
6区113号土坑



6区113号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量、礫片混。粘性弱。

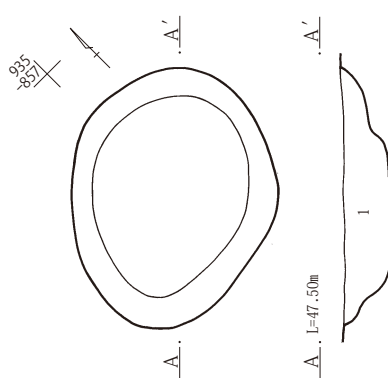
6区112・114号土坑



6区112・114号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)と明黄褐(10YR6/6)混土。ローム粒多量混。粘性弱。

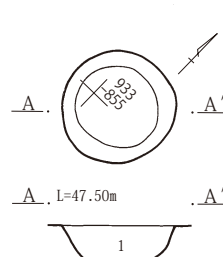
6区189号土坑



6区189号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層少量混。

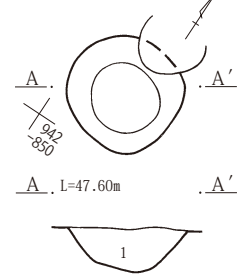
6区191号土坑



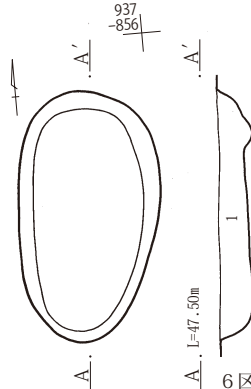
6区191・192号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層少量混。

6区192号土坑



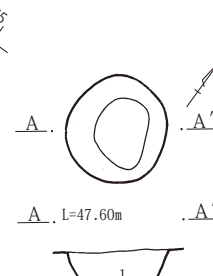
6区190号土坑



6区190号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層少量混。

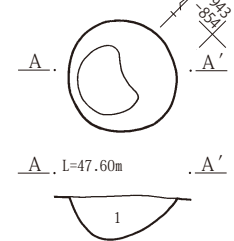
6区193号土坑



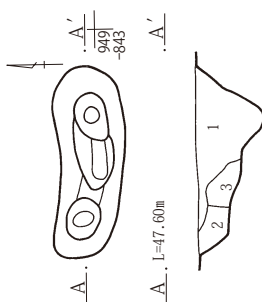
6区193・195号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層少量混。

6区195号土坑



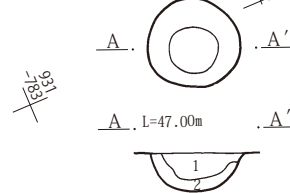
6区196号土坑



6区196号土坑

- 1 黒褐(10YR2/2)粒子の混じり少ない。ロームB少量混。しまり弱。
- 2 黒褐(10YR2/3)粒子の混じり少ない。ロームB微量混。しまり弱。
- 3 暗褐(10YR3/3)ロームB多量混。粘性・しまり弱。

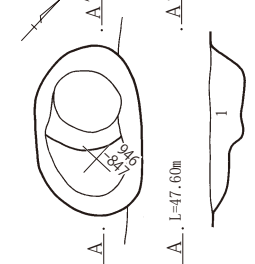
6区198号土坑



6区198号土坑

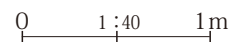
- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量、焼土粒・炭化物微量、上部に焼土B中～大混。
- 2 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム粒・B主体。しまり強。

6区194号土坑



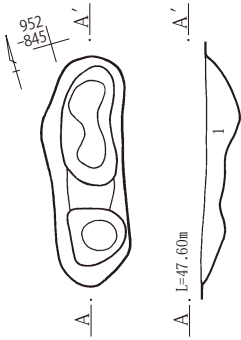
6区194号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層少量混。



第三章 検出された遺構と出土遺物

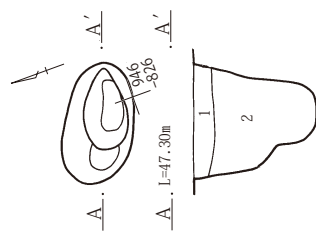
6区197号土坑



6区197号土坑

- 1 黒褐(10YR2/3)粒子の混じり少ない。ロームB微量混。しまり弱。

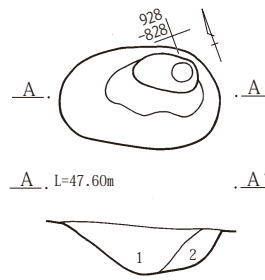
6区202号土坑



6区202号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B、黒褐色土中量混。  
2 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B小~大量混。粒子の混じりはあまりみられない。

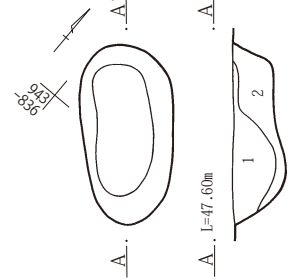
6区206号土坑



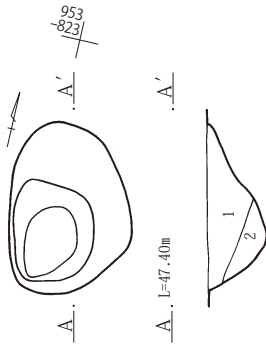
6区206・208号土坑

- 1 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B小~大量混。粒子の混じりはあまりみられない。  
2 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B少量混。粒子の混じりはあまりみられない。粘性弱。

6区208号土坑



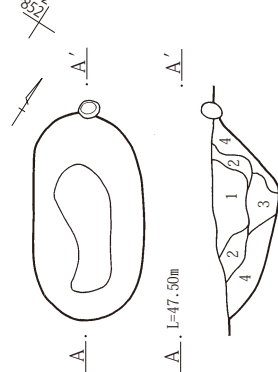
6区203号土坑



6区203号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B少量混。粒子の混じりはあまりみられない。粘性弱。  
2 1層よりロームB多量混。

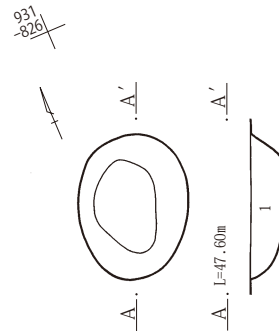
6区204号土坑



6区204号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)炭化物少量混。  
2 暗褐(10YR3/3)ローム漸移層B大混。  
3 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム漸移層まだらに混。  
4 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層混。

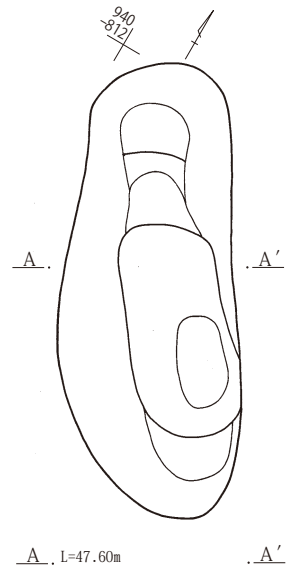
6区207号土坑



6区207号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B少量混。粒子の混じりはあまりみられない。

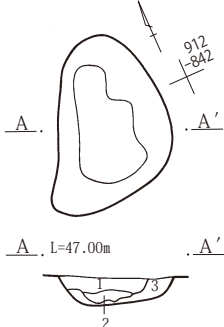
6区209号土坑



6区209号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・炭化物混。  
2 にぶい黄褐(10YR5/4)炭化物少量、ローム粒・B混。しまり強。  
3 暗褐(10YR3/3)炭化物微量、ローム粒・B混。しまり強。

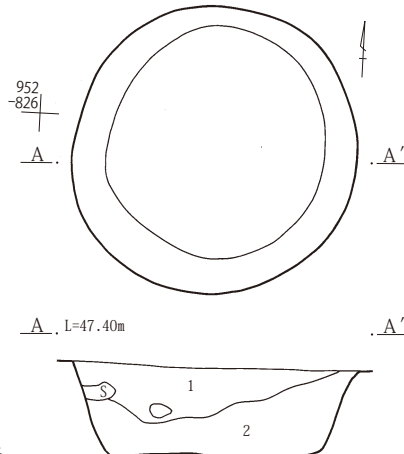
6区205号土坑



6区205号土坑

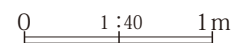
- 1 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層少量混。  
2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム漸移層まだらに混。  
3 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム漸移多量混。

6区210号土坑



6区210号土坑

- 1 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒、炭化物混。炭化材の固まり微量、縄文土器片混。  
2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・炭化物混。しまり強。



第23図 縄文時代土坑7

## (4)出土遺物

## 土器

縄文土器は、早期から後期まで379点出土している。時期別に以下のV類に分けられる。

- |     |      |   |    |   |        |   |       |
|-----|------|---|----|---|--------|---|-------|
| I   | 早期   | A | 前葉 | 1 | 平坂式    |   |       |
|     |      | B | 中葉 | 1 | 田戸下層式  | 2 | 沈線文系  |
|     |      | C | 後葉 | 1 | 条痕文系   |   |       |
| II  | 前期   | A | 前半 |   |        |   |       |
|     |      | B | 後半 | 1 | 諸磯b式   | 2 | 諸磯c式  |
|     |      |   |    | 3 | 浮島式    | 4 | 不明    |
| III | 中期   | A | 前半 | 1 | 五領ヶ台式  | 2 | 勝坂式   |
|     |      |   |    | 3 | 阿玉台式   | 4 | 前半不明  |
|     |      |   |    | 5 | 中葉不明   |   |       |
|     |      | B | 後半 | 1 | 加曾利E式  |   |       |
|     |      |   |    | a | 加曾利E1  | b | 加曾利E2 |
|     |      |   |    | c | 加曾利E3  | d | 加曾利E4 |
|     |      |   |    | e | 加曾利E不明 |   |       |
| IV  | 後期   | A | 前半 | 1 | 称名寺式   |   |       |
|     |      |   |    | 2 | 堀之内式   |   |       |
|     |      |   |    | a | 堀之内1   | b | 堀之内2  |
| V   | 時期不明 |   |    |   |        |   |       |

出土土器で最も多いのは、中期後半加曾利E式期で、全体の半数以上の208点出土している。以下後期前半称名寺式期45点、同堀之内式期が42点、さらに中期中葉が20点で続いている。この4期で全体の83%を占めている。遺構出土の土器がほとんどないため遺構の時期は不明であるが、土器の時期から、中期中葉～後期前半に分布の中心があったことは間違いないであろう。

## 石器

石器は137点、剥片類が292点出土している。

## ①器種構成

打製石斧類・石鏃・石核・剥片製石器・礫石器類が出土している。剥片製石器には石匙2点・削器2点があるほか、加工痕ある剥片とした26点が主体を占める。加工痕ある剥片26点には、製作目的が石斧と推定されるものや製作意図不明とされるものが含まれており、削器とされるものは2点と少ない。

## I 打製石斧

1 短冊形、2 分銅型、3 撥型、4 不明に分けられる(側縁が「ハ」字状に開くタイプは撥型としてよいが、通常、短冊型と撥型は形態変化が漸移的であり、区別していない。本遺跡で撥型としたものは片面加工のそれで、早期段階に多い片刃石斧様のものである)。

完成品が33点、未成品が7点(短冊型3、分銅型1、形態不明3)で完成状態にあるものが圧倒的に多い。短冊型には、側縁が並行するものと、側縁が「ハ」字状に開くものがある。量的には前者が主体。

## II 石鏃

24点が出土。1 凹基無茎鏃、2 平基無茎鏃に分類できる。凹基無茎鏃の1点(整理番号29、未掲載)を除き、すべて完成状態。

凹基無茎鏃は「抉り」の深浅で細分が可能。

- 基部をわずか抉るもの(器体長：抉り10%前後)
- 基部をわずか抉り逆刺が棘状に小さく突出するもの
- 基部を浅く抉るもの(器体長：抉り20%前後)
- 基部を1/3深く抉るもの(器体長：抉り30%前後)
- 基部を1/3深く抉り逆刺が太いもの
- 長脚鏃とされるもの

## III 剥片製石器

A 石匙、B 削器、C 加工痕ある剥片が出土している。

加工痕ある剥片26点には、製作目的が石斧と推定されるものや製作意図不明とされるものが含まれており、削器とされるものは2点と少ない

IV 石核 計30点出土している。

## V 礫石器

- くぼみ石、B 磨り石、C 敲き石、D 台石、E 多孔石が出土している。

## VI 原石

利根川起源の黒色安山岩原石。礫面の爪条痕・網目条痕は平滑化しており、縄文期採集の原石と見て間違いない。

VII 剥片 計292点出土している。

## ②石材

石器に使用されている石材は、12種類である。最も多いのはホルンフェルスで65点(47%)、次がチャート39点(28%)で、この2つで全体の3/4を占めている。個体数

第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

の多い器種別にみると、打製石斧はホルンフェルスが90%、チャート0、石鏃はチャート63%、ホルンフェルス0、石核はチャート67%、ホルンフェルス27%、加工痕ある剥片は、ホルンフェルス73%、チャート12%と、器種に

よる差が大きくなっている。

剥片は、使用されている石材は11種類であるが、チャートとホルンフェルスで94%を占めている。チャートが52%で最も多いが、ホルンフェルスも42%あり、差が比較的少なくなっている。

第7表 縄文土器数量表

	出土位置	Ⅰ 早期				Ⅱ 前期				Ⅲ 中期					Ⅳ 後期			Ⅴ 不明	計			
		A 前葉		B 中葉		C 後葉		A 前半	B 後半			A 前半					B 後半					
		1	1	2	1	1	2		3	4	1	2	3	4	5	1	1			2	3	
1区	遺物集中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1区	遺構外	0	0	0	7	5	0	0	0	1	0	2	0	0	0	54	11	5	0	2	87	
2区	43土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3		
2区	遺構外	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	15	2	10	0	1	29		
3区	遺構外	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	1	0	4	17		
4区	63土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1			
4区	65土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1			
4区	67土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1			
4区	遺構外	2	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	13	0	9	0	0	3	31		
5区	遺構外	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	2	1	0	101	12	11	7	2	140	
6区	遺構外	0	1	0	0	0	2	2	1	3	0	0	2	0	1	18	8	7	0	12	57	
7区	遺構外	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	5	3	1	0	0	12	
	計	2	1	1	10	7	6	2	1	4	1	3	4	1	18	207	45	35	7	24	379	

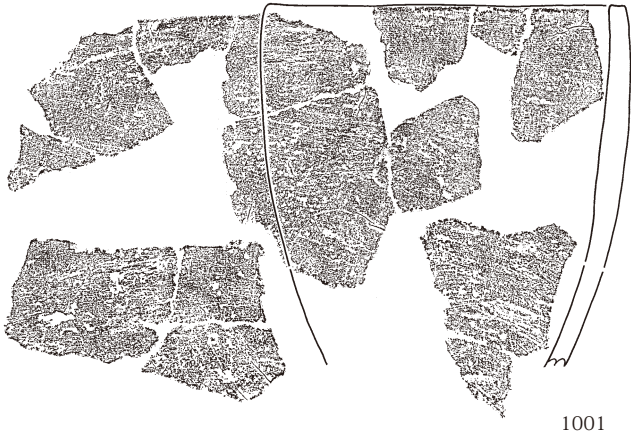
第8表 縄文時代出土石器数量表

区	出土位置	Ⅰ 打製石斧	Ⅱ 石鏃	Ⅲ 剥片製石器			Ⅳ 石核	Ⅴ 礫石器					Ⅵ 原石	計	Ⅶ 剥片	総計
				A 石匙	B 削器	C 加工痕ある剥片		A 凹石	B 磨石	C 敲石	D 台石	E 多孔石				
1区	遺構外	6	2			2				1	1			12	16	28
2区	遺構外	3	1											4	0	4
3区	遺構外	7	5		1	7	3		2			1		26	30	56
4区	遺構外	3	1				2						1	7	21	28
5区	44土坑			1										1	0	1
5区	遺構外	10	7	1	1	14	12			1				46	102	148
6区	遺構外	9	8			2	13	1	3	1		1		38	114	152
7区	遺構外	2				1								3	9	12
	計	40	24	2	2	26	30	1	5	3	1	2	1	137	292	429

第9表 縄文時代石材別石器数量表

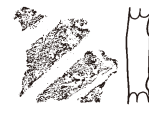
石材	Ⅰ 打製石斧	Ⅱ 石鏃	Ⅲ 剥片製石器			Ⅳ 石核	Ⅴ 礫石器					Ⅵ 原石	計	Ⅶ 剥片	総計
			A 石匙	B 削器	C 加工痕ある剥片		A 凹石	B 磨石	C 敲石	D 台石	E 多孔石				
黒色頁岩		2	1	1	1								5	3	8
頁岩	2												2	2	4
珪質頁岩					1					1			2	0	2
砂岩					2								2	2	4
黒色安山岩		1										1	2	1	3
黒曜石		5				2							7	3	10
玉髓		1											1	0	1
チャート		15	1		3	20							39	153	192
ホルンフェルス	36			1	19	8				1			65	123	188
細粒輝石安山岩	1												1	1	2
粗粒輝石安山岩								1	5	1	1	2	10	1	11
珪質粘板岩	1												1	0	1
珪質準片岩													0	0	0
石英													0	2	2
溶結凝灰岩													0	1	1
総計	40	24	2	2	26	30	1	5	3	1	2	1	137	292	429

I-A-1



1001

I-B-1



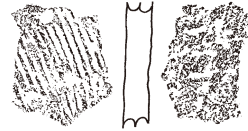
1002

I-B-2



1003

I-C-1



1004



1005

II-A



1008



1009

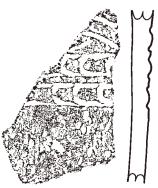


1006



1007

II-B-1



1010



1011-1



1011-2



1011-3



1012

II-B-2



1015



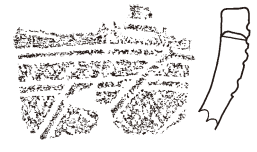
1016



1013

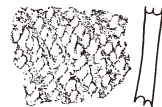


1014-1

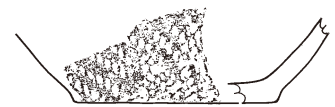


1014-2

II-B-4



1017



1018

III-A-1

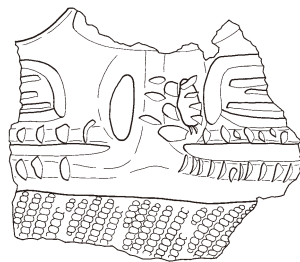


1019

III-A-2



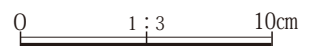
1020



1021



1022

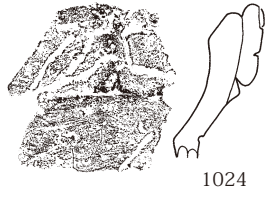


第24図 縄文時代出土遺物 1

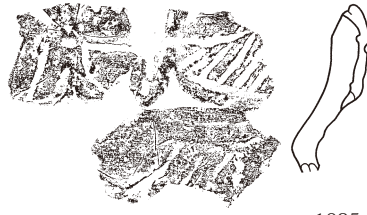
Ⅲ-A-3



1023



1024



1025

Ⅲ-A-5

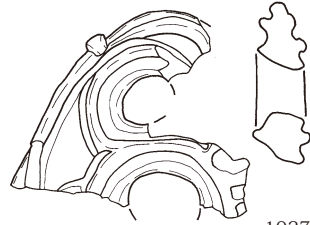


1026

Ⅲ-B-1 a



1027-1(1/4)

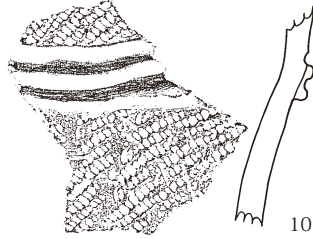


1027-2



1027-3

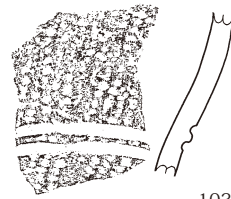
Ⅲ-B-1 b



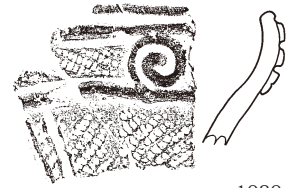
1028



1029



1031



1030



1032

1033



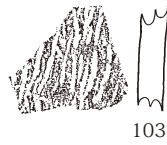
1034



1035



1036



1037



1038



1039

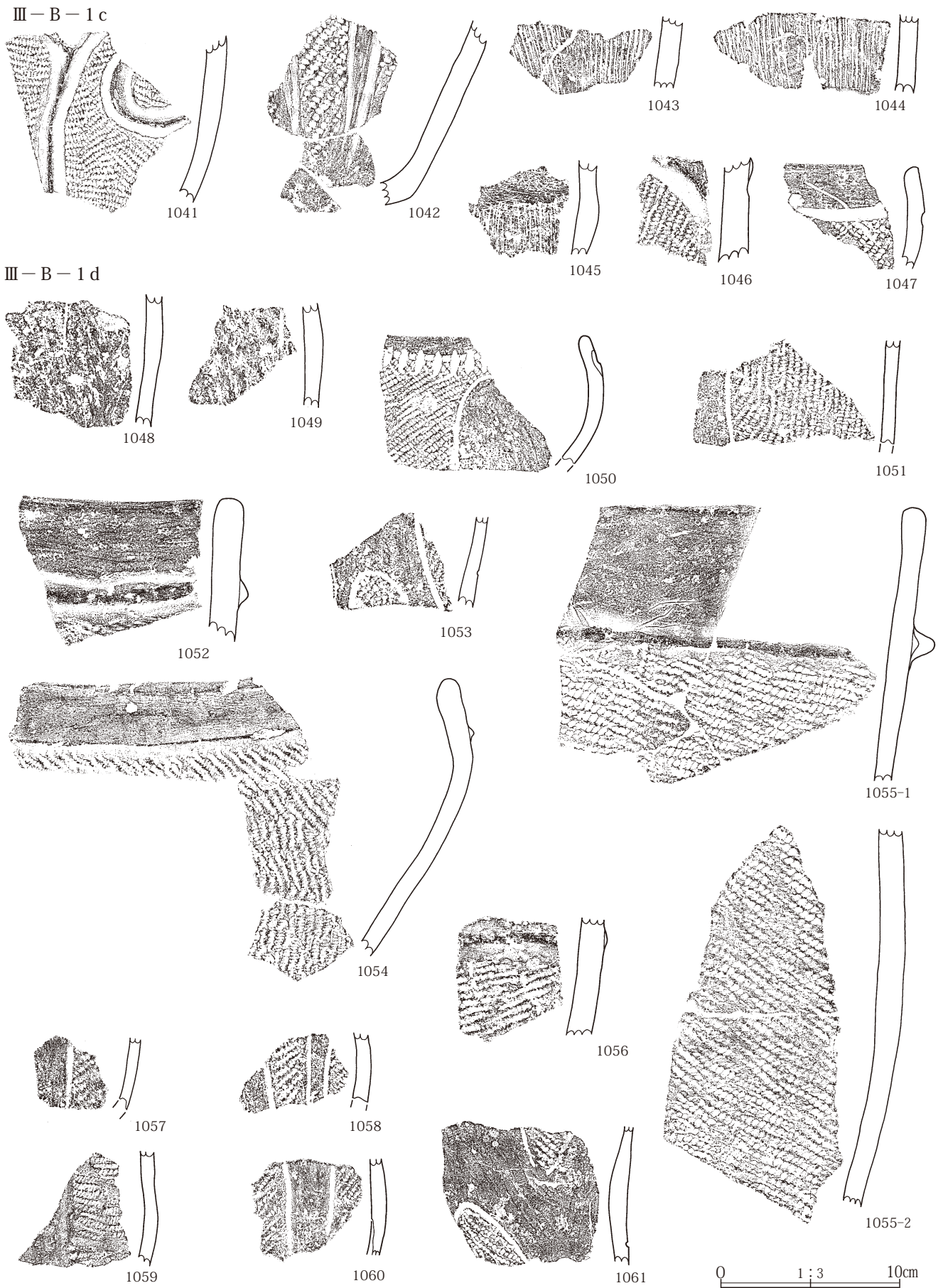


1040

0 1:3 10cm

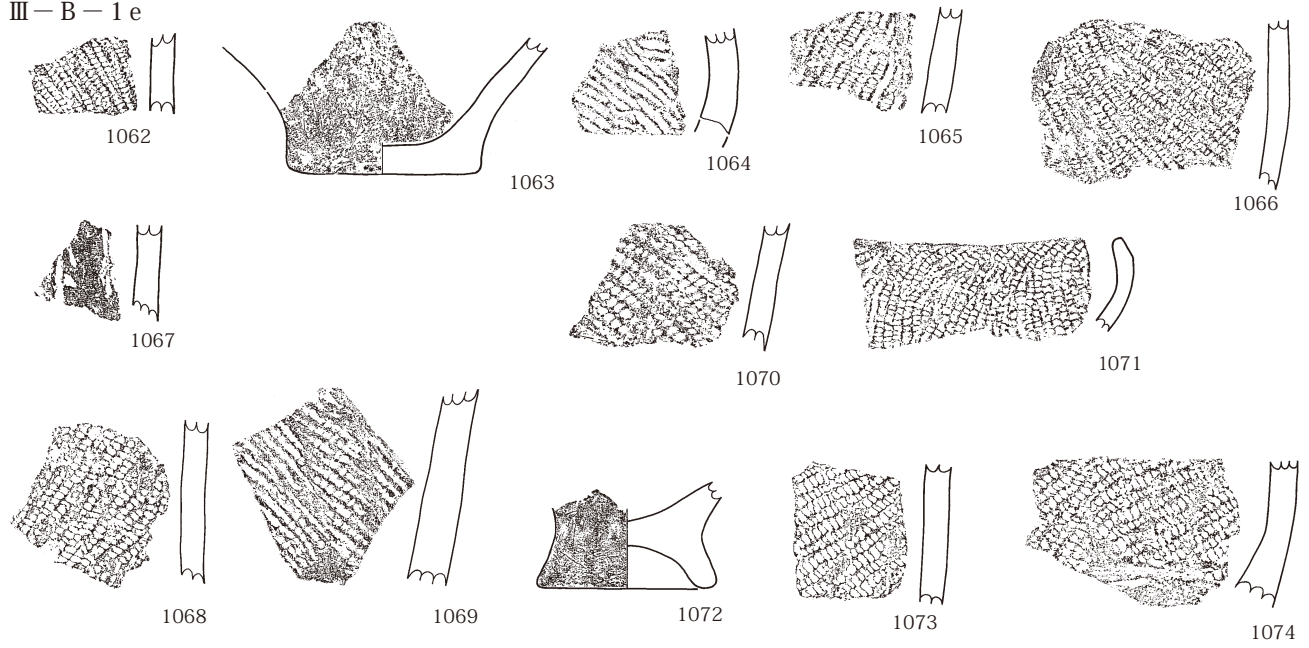
第25図 縄文時代出土遺物2



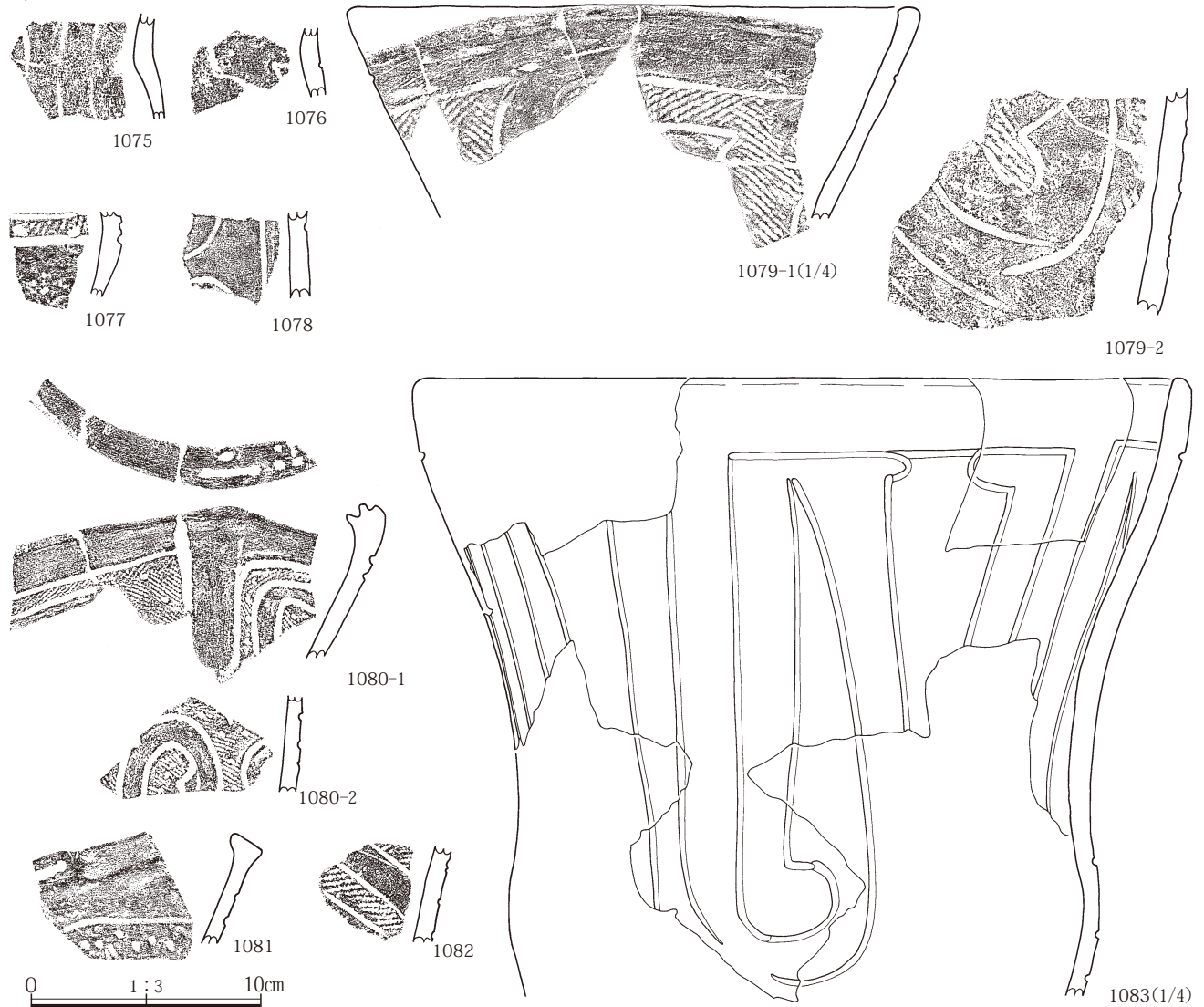


第26図 縄文時代出土遺物 3

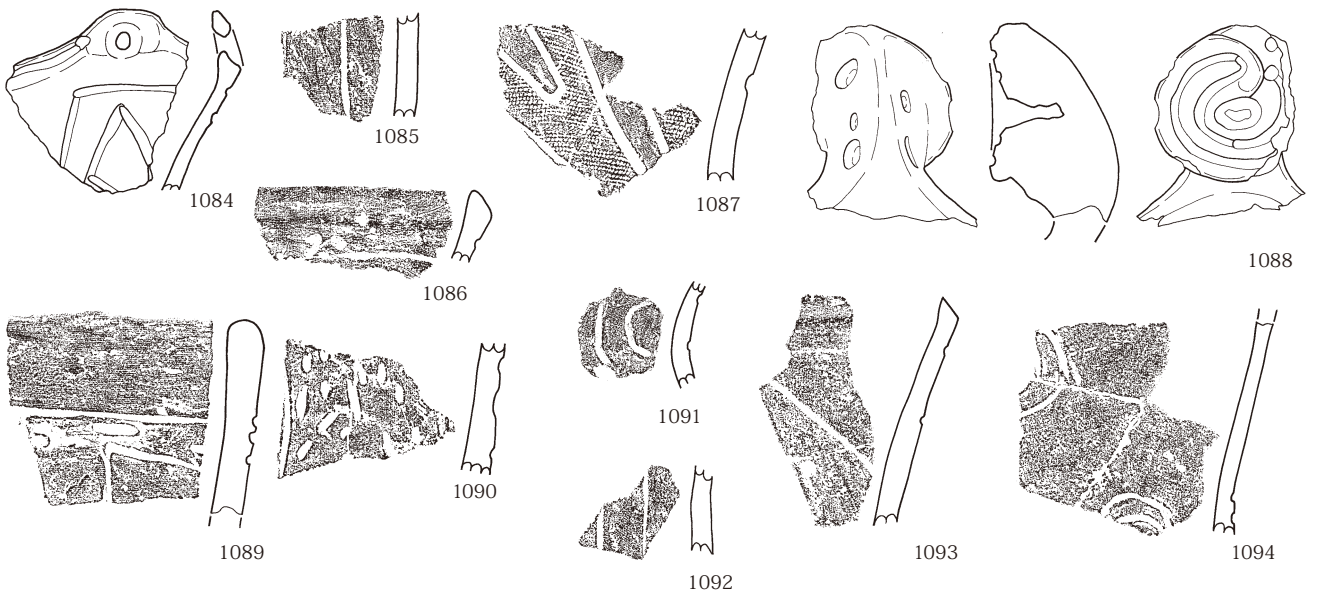
III-B-1e



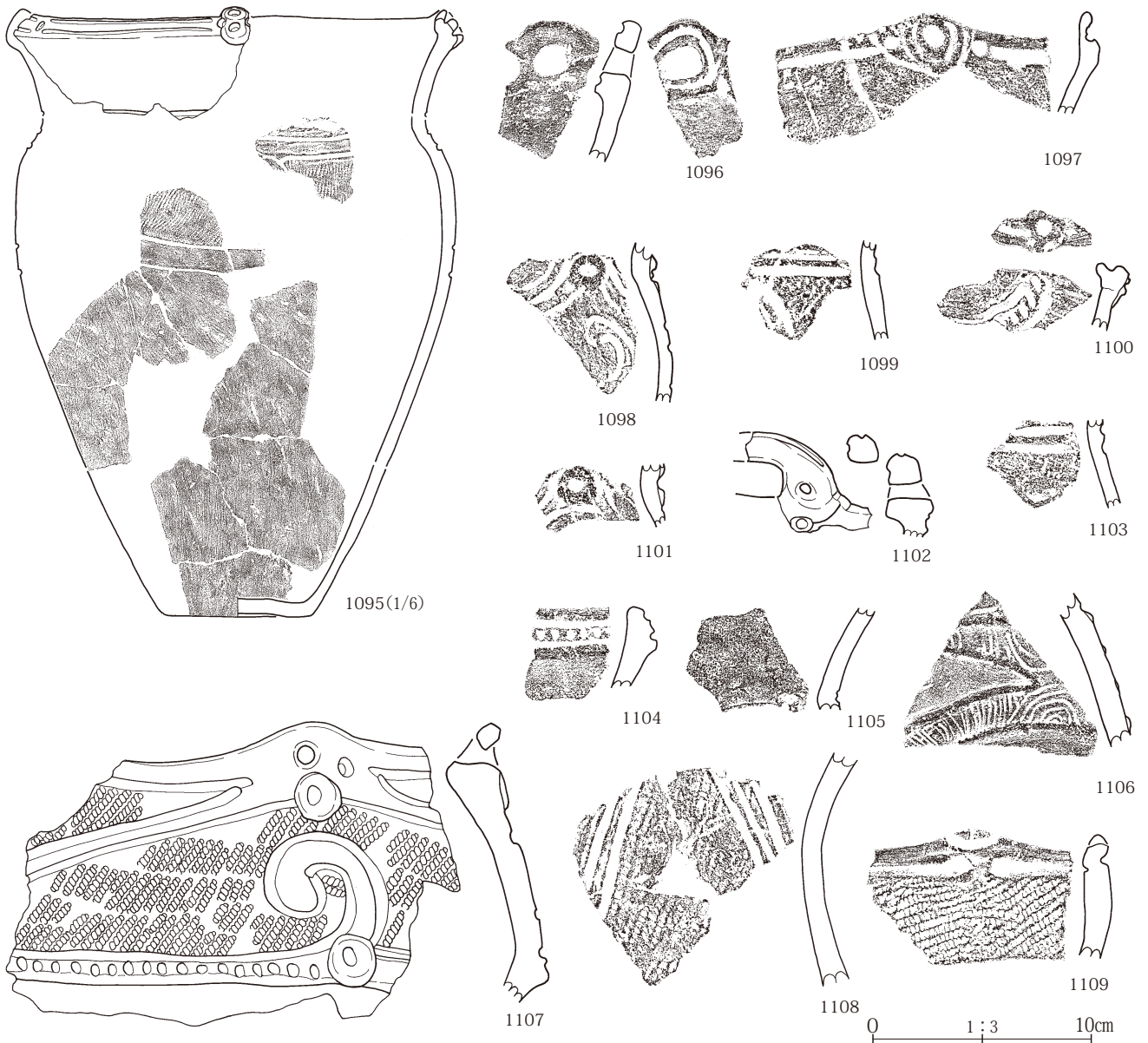
IV-A-1



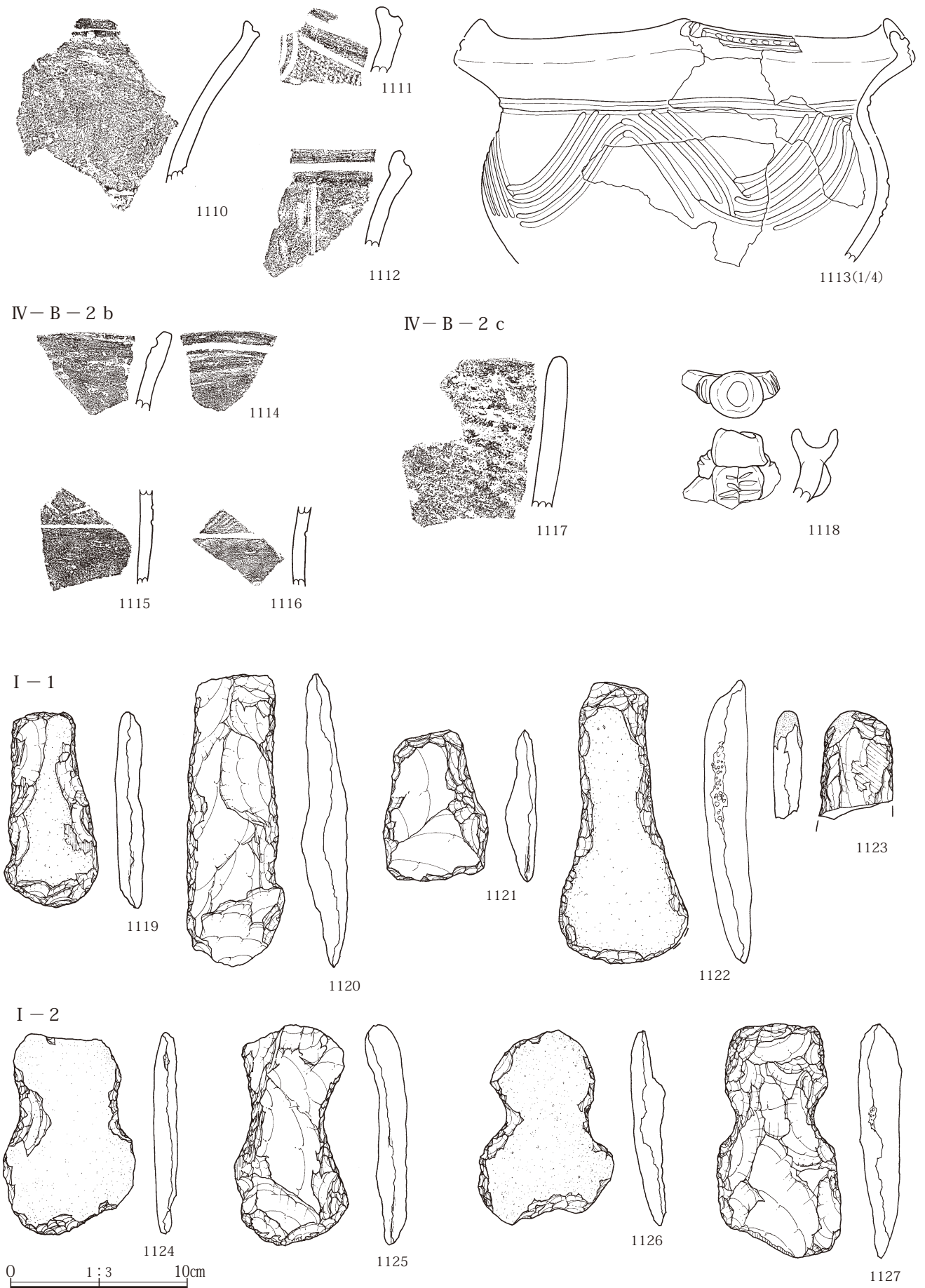
第27図 縄文時代出土遺物 4



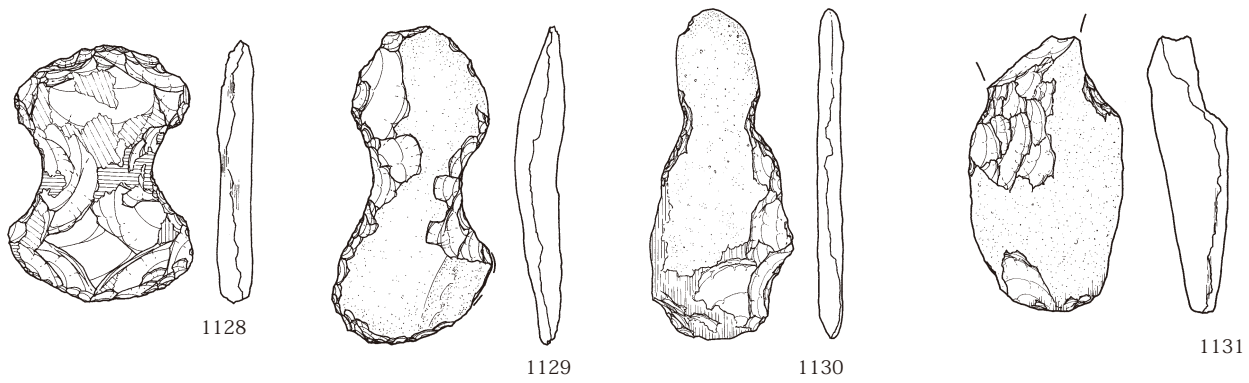
IV-B-2a



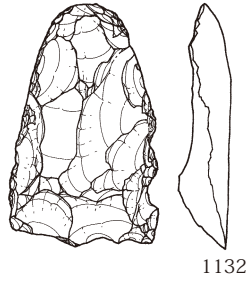
第28図 縄文時代出土遺物 5



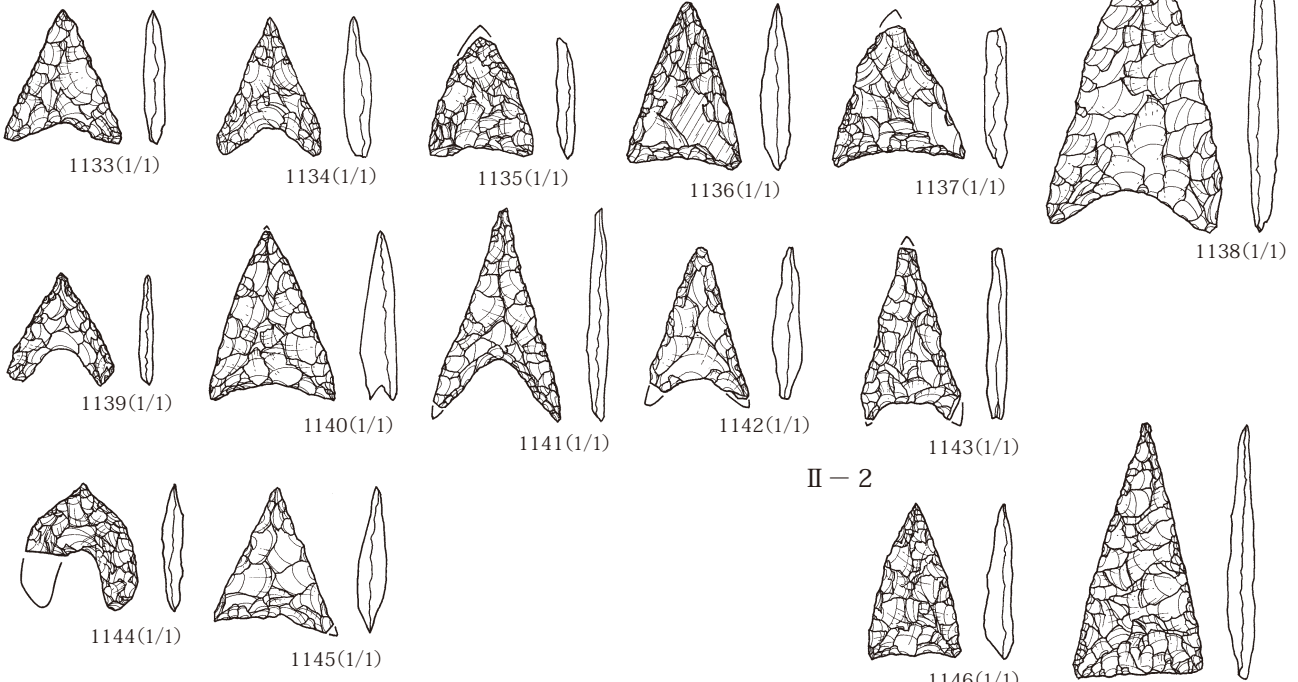
第29図 縄文時代出土遺物6



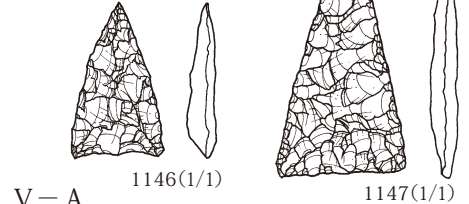
I-3



II-1

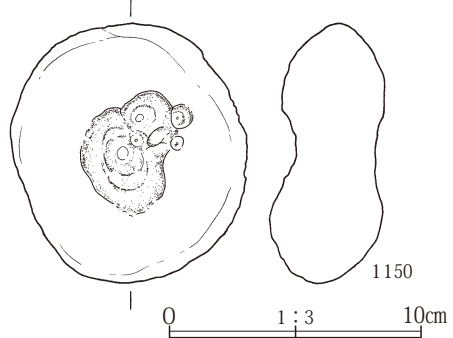
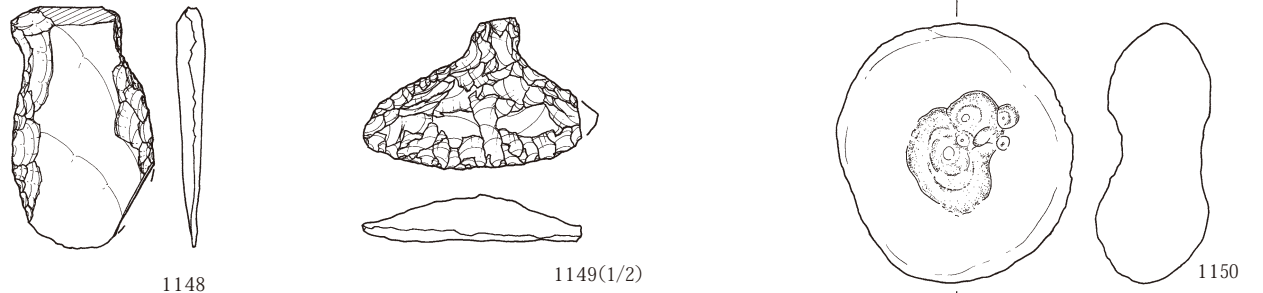


II-2

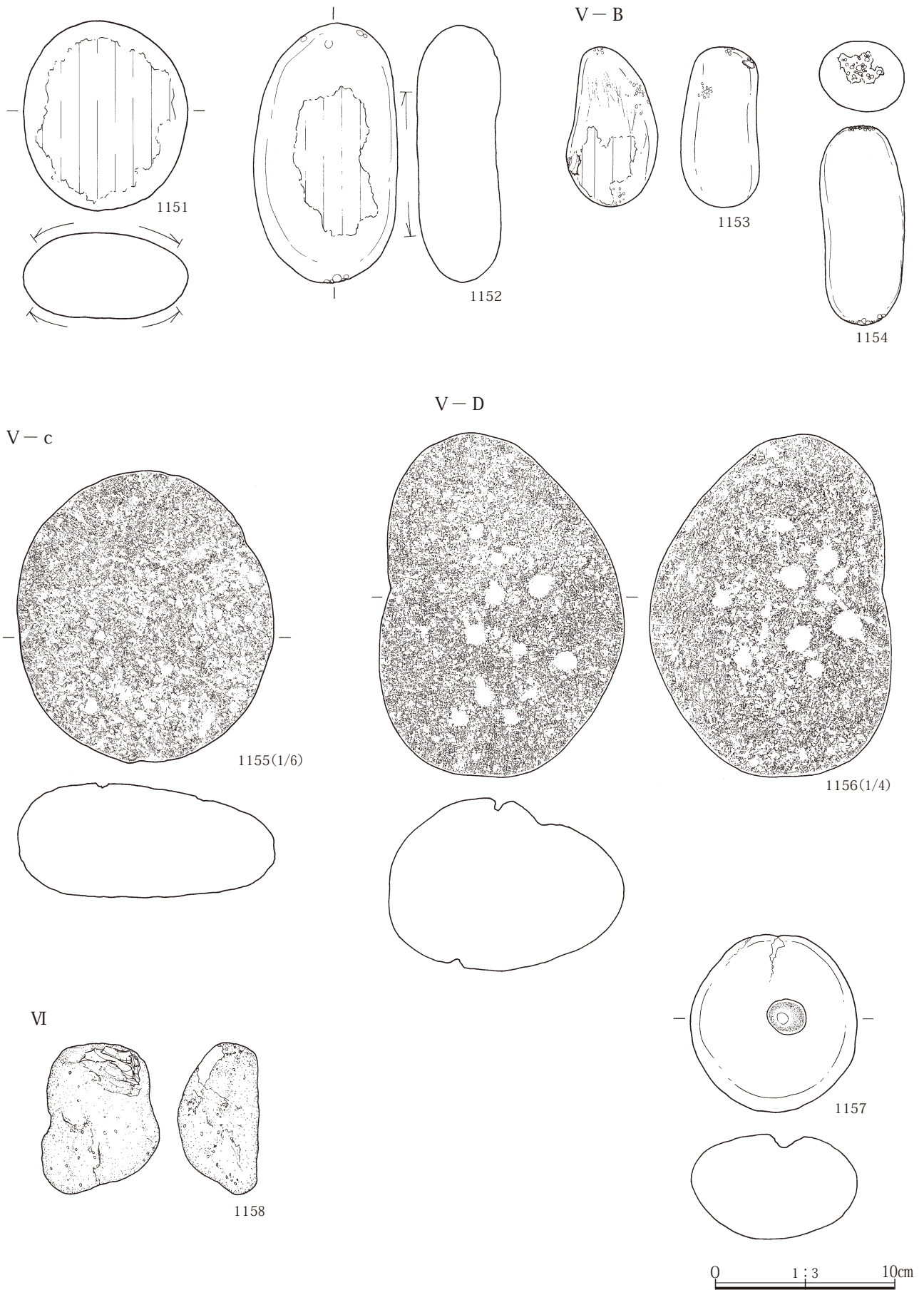


V-A

III-1



第30図 縄文時代出土遺物 7



第31図 縄文時代出土遺物 8

第10表 縄文土器観察表

挿図番号 図版番号	No	器種	残存	出土位置	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	分類 備考
第24図 PL.148	1001	深鉢	口縁～胴下位	4区 830-970G	粗砂、細礫、 黒色粒、石英	にぶい 赤褐	ふつう	推定口径14.0cm。緩やかに内湾しながら口縁が立ち上がる。口唇角頭状。無文だが、横位、斜位の擦痕が顕著にみられる。	I-A-1 平板式
第24図 PL.148	1002	深鉢	胴部破片	6区遺構外	粗砂、細礫	明赤褐	ふつう	斜位の沈線を施す。	I-B-1 田戸下層式
第24図 PL.148	1003	深鉢	底部破片	4区遺構外	粗砂、黒色粒	明赤褐	ふつう	尖底。外面に条痕を施す。	I-B-2 早期沈線文系
第24図 PL.148	1004	深鉢	胴部破片	1区 580-130G	細砂、繊維	橙	ふつう	表裏に条痕を施す。	I-C-1 早期条痕文系
第24図 PL.148	1005	深鉢	胴部破片	1区 580-130G	細砂、繊維	にぶい 黄橙	ふつう	表裏に条痕を施す。	I-C-1 早期条痕文系
第24図 PL.148	1006	深鉢	胴部破片	1区 580-130G	細砂、繊維	にぶい 橙	ふつう	表裏に条痕を施す。	I-C-1 早期条痕文系
第24図 PL.148	1007	深鉢	胴部破片	3区遺構外	粗砂、黒色粒、 繊維	橙	ふつう	表裏に条痕を施す。	I-C-1 早期条痕文系
第24図 PL.148	1008	深鉢	胴部破片	1区 590-145G	細砂、黒色粒、 繊維	橙	ふつう	L Rを横位施文する。	II-A 黒浜式
第24図 PL.148	1009	深鉢	胴部破片	1区570- 240G	粗砂、繊維	にぶい 褐	ふつう	附加条1種L R + Rを横位施文する。	II-A 黒浜式
第24図 PL.148	1010	深鉢	胴部破片	6区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	褐灰	良好	L Rを地文とし、連続爪形文を斜位に施す。	II-B-1 諸磯b式
第24図 PL.148	1011	深鉢	口縁部破片	6区遺構外	粗砂、黒色粒	赤褐	良好	口縁が内折。集合沈線による横帯構成。地文に無節L r横位施文。	II-B-1 諸磯b式
第24図 PL.148	1012	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、黒色粒、 石英	赤褐	良好	平行沈線を横位施文し、斜位の刻みを沿わせる。	II-B-1 諸磯b式
第24図 PL.148	1013	深鉢	口縁部破片	6区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 赤褐	良好	波状口縁で口縁が内折。R Lを横位施文し、口縁に沿って平行沈線を施す。	II-B-1 諸磯b式
第24図 PL.148	1014	深鉢	口縁部破片	7区 970-775G	粗砂、細礫、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	口縁に突起、口唇部に刻みを付す。横位、斜位の平行沈線を施す。地文にL R横位施文。	II-B-1 諸磯b式
第24図 PL.148	1015	深鉢	胴部破片	6区遺構外	粗砂、細礫	橙	ふつう	縦位、斜位の集合沈線を施す。	II-B-2 諸磯c式
第24図 PL.148	1016	深鉢	胴部破片	6区遺構外	粗砂	橙	良好	斜位の集合沈線を施す。	II-B-2 諸磯c式
第24図 PL.148	1017	深鉢	胴部破片	1区565- 205G	粗砂	赤褐	良好	R Lを横位施文する。	II-B-4 前期後葉
第24図 PL.148	1018	深鉢	底部破片	1区560- 200G	粗砂、黒色粒	明赤褐	ふつう	推定底径8.0cm。R Lを横位施文する。	II-B-4 前期後葉
第24図 PL.148	1019	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂	にぶい 赤褐	良好	横位集合沈線に接して曲線モチーフを描き、内部に集合沈線を充填施文。間隙に印刻を施す。	III-A-1 五領ヶ台式
第24図 PL.148	1020	深鉢	口縁部破片	1区 560-250G	粗砂	明赤褐	良好	口唇外面を肥厚させて口唇部平坦面を作出。横位沈線、刻みを施した横位隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、文様帯内は横位沈線を多段にめぐらす。	III-A-2 勝坂式
第24図 PL.148	1021	深鉢	口縁部破片	1区190土坑	細砂、細礫、 黒色粒	明赤褐	良好	横位沈線、刻みを施した隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、波頂部下に橋状把手を付し、連結させる。文様帯内は沈線による楕円状モチーフを描き、横位沈線を充填施文する。文様帯下はR Lを縦位充填施文。	III-A-2 勝坂式
第24図 PL.148	1022	深鉢	口縁部破片	7区遺構外	粗砂、細礫	明赤褐	ふつう	山形の波状口縁で口唇部肥厚。横位平行沈線、爪形突起を施した隆帯を貼付する。隆帯下は屈曲。内面にも沈線を施す。	III-A-2 勝坂式
第25図 PL.148	1023	深鉢	口縁部破片	5区遺構外	粗砂、細礫、 雲母	明赤褐	ふつう	キャリバー状の器形。屈曲部に突起を付す。沈線、結節沈線を施す。	III-A-3 阿玉台式
第25図 PL.148	1024	深鉢	口縁部破片	5区遺構外	粗砂、細礫、 雲母	明赤褐	ふつう	キャリバー状の器形。横位隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、波頂部から刻みを付した隆帯を垂下させ、結節沈線を施す。	III-A-3 阿玉台式
第25図 PL.148	1025	深鉢	口縁部破片	6区遺構外	粗砂、細礫、 雲母	にぶい 赤褐	ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、隆帯による杵状文を施し、沈線、結節沈線を施す。	III-A-3 阿玉台式
第25図 PL.148	1026	深鉢	口縁部破片	6区遺構外	粗砂、白色粒、 石英	にぶい 黄橙	ふつう	横位隆帯をめぐらし、区画内に縦位の捺糸圧痕を施す。無節L rを横位施文する。補修孔あり。	III-A-5 中期中葉
第25図 PL.149	1027	深鉢	口縁～底部 破片	4区 840-970・ 840-980G	粗砂、細礫、 黒色粒、石英	赤褐	ふつう	キャリバー状の器形で口縁に環状突起をめぐらす。屈曲部に横位隆帯、沈線をめぐらして胴部文様帯を区画、さらに隆帯、沈線を垂下させて縦位に4分割する。文様帯内はクランク状や弧状の沈線を施す。地文にR Lを施文。	III-B-1 a 加曽利E 1式
第25図 PL.149	1028	深鉢	胴部破片	1区 590-160G	粗砂、白色粒、 黒色粒、雲母	にぶい 褐	良好	R L縦位施文を地文とし、中央に沈線を施した隆帯を横位にめぐらす。	III-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1029	深鉢	口縁部破片	1区遺構外	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	隆帯による渦巻文、沈線区画を施し、L Rを充填施文する。	III-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1030	深鉢	口縁部破片	6区遺構外	粗砂	明赤褐	ふつう	横位隆帯をめぐらして幅狭な口縁部無文帯を区画、文様帯内に隆帯による渦巻文を配し、余白にR Lを充填施文する。文様帯下はR L縦位施文を地文とし、2条の沈線を垂下させる。	III-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1031	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、細礫、 白色粒、黒色 粒	橙	ふつう	R L縦位施文を地文とし、横位2条の沈線をめぐらす。	III-B-1 b 加曽利E 2式

第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

挿図番号 図版番号	No	器種	残存	出土位置	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	分類 備考
第25図 PL.149	1032	深鉢	胴部破片	1区 620-185G	粗砂	明赤褐	良好	R L縦位施文を地文とし、弧状、斜行する沈線を施す。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1033	深鉢	胴部破片	1区 620-185G	粗砂、黒色粒	明赤褐	良好	R L縦位施文を地文とし、横位隆帯、沈線による渦巻状モチーフを施す。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1034	深鉢	胴部破片	3区遺構外	粗砂、石英	明赤褐	良好	キャリバー状の器形。L Rを縦位、斜位施文する。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1035	深鉢	底部破片	5区遺構外	粗砂、細礫、 黒色粒	橙	ふつう	推定底径8.0cm。R L縦位施文を地文とし、沈線による懸垂文、蛇行懸垂文を施す。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1036	深鉢	胴部破片	5区 880-910、 880-930G	粗砂、細礫、 白色粒、黒色 粒	にぶい 橙	良好	R L縦位施文を地文とし、横位、縦位の沈線を施す。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1037	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂、石英	にぶい 褐	ふつう	捺糸文Lを縦位施文する。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1038	深鉢	胴部破片	2区43土坑	粗砂、黒色粒、 石英	赤褐	良好	捺糸文Lを縦位施文する。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1039	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふつう	捺糸文Lを縦位施文する。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第25図 PL.149	1040	深鉢	胴部破片	6区遺構外	粗砂、黒色粒	明赤褐	ふつう	底面に接する部位。R Lを充填施文する。	Ⅲ-B-1 b 加曽利E 2式
第26図 PL.149	1041	深鉢	胴部破片	3区遺構外	粗砂、白色粒	橙	ふつう	隆帯により曲線モチーフを描き、R Lを充填施文する。	Ⅲ-B-1 c 加曽利E 3式
第26図 PL.149	1042	深鉢	底部破片	7区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 c 加曽利E 3式
第26図 PL.149	1043	深鉢	胴部破片	6区遺構外	粗砂	橙	ふつう	条線を縦位施文する。	Ⅲ-B-1 c 加曽利E 3式
第26図 PL.149	1044	深鉢	胴部破片	6区遺構外	粗砂、石英	明赤褐	ふつう	縦位の条線を施す。	Ⅲ-B-1 c 加曽利E 3式
第26図 PL.149	1045	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、黒色粒	橙	ふつう	条線を縦位施文する。	Ⅲ-B-1 c 加曽利E 3式
第26図 PL.149	1046	深鉢	胴部破片	5区 870-940G	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰黄	ふつう	隆帯により曲線モチーフを描き、R Lを充填施文する。	Ⅲ-B-1 c 加曽利E 3式
第26図 PL.149	1047	深鉢	口縁部破片	1区 610-190G	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、沈線下にR Lを充填施文する。	Ⅲ-B-1 c 加曽利E 3式
第26図 PL.149	1048	深鉢	胴部破片	2区43土坑	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施す。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1049	深鉢	胴部破片	2区43土坑	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施す。1048と同一個体。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1050	深鉢	口縁部破片	2区 740-090G	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	口縁が内湾。横位沈線をめぐらして幅狭な口縁部無文帯を区画、沈線下にU字状の沈線を施し、R Lを充填施文する。横位沈線の上から先端の鋭利な工具を用いて下方向からの刺突をめぐらす。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1051	深鉢	胴部破片	2区 740-090G	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線によりU字状モチーフを描き、R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1052	深鉢	口縁部破片	5区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆帯下にL Rを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1053	深鉢	胴部破片	2区 740-090G	粗砂	にぶい 黄橙	良好	沈線により曲線モチーフを描き、R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1054	深鉢	口縁部破片	3区遺構外	粗砂、細礫、 白色粒、黒色 粒	にぶい 黄橙	ふつう	口縁が内湾。横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆帯下はR Lを充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1055	深鉢	口縁部破片	5区 870-930・ 870-940G	粗砂、細礫、 白色粒、黒色 粒	橙	良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆帯下にL Rを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1056	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、細礫、 白色粒、黒色 粒	にぶい 黄橙	ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆帯下にL Rを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.149	1057	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、黒色粒	浅黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.150	1058	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R Lを充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.150	1059	深鉢	胴部破片	5区 890-920G	粗砂、白色粒、 黒色粒	浅黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、L Rを充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.150	1060	深鉢	胴部破片	6区 889-970G	粗砂、白色粒	橙	ふつう	沈線による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第26図 PL.150	1061	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒、石英	明赤褐	ふつう	沈線によりU字状、逆U字状モチーフを描き、L Rを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 d 加曽利E 4式
第27図 PL.150	1062	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	ふつう	L Rを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E 5式
第27図 PL.150	1063	深鉢	底部破片	2区43土坑	粗砂、黒色粒	にぶい 橙	ふつう	底径7.4cm。残存部は無文。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E 5式
第27図 PL.150	1064	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂	明赤褐	良好	無節L rを縦位施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E 5式
第27図 PL.150	1065	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、黒色粒	橙	良好	R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E 5式



第2節 縄文時代

挿図番号 図版番号	No	器種	残存	出土位置	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	分類 備考
第27図 PL.150	1066	深鉢	胴部破片	1区遺構外	粗砂	にぶい 黄橙	良好	L Rを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1067	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂	にぶい 黄橙	ふつう	沈線による懸垂文を施す。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1068	深鉢	胴部破片	2区 720-070G	粗砂、細礫、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1069	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、黒色粒	橙	ふつう	L Rを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1070	深鉢	胴部破片	4区67土坑	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	L Rを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1071	深鉢	口縁部破片	1区 819ピット	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	口縁が緩く内湾。R Lを充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1072	深鉢	底部破片	5区 870-950G	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	底径3.5cm。上げ底。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1073	深鉢	胴部破片	1区 590-160G	粗砂、白色粒	にぶい 橙	ふつう	R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1074	深鉢	胴部破片	1区遺構外	粗砂	橙	ふつう	R Lを縦位充填施文する。	Ⅲ-B-1 e 加曽利E式
第27図 PL.150	1075	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	帯状沈線により曲線モチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第27図 PL.150	1076	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	ふつう	帯状沈線によりJ字状モチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第27図 PL.150	1077	深鉢	胴部破片	5区遺構外	細砂	明赤褐	良好	横位帯状沈線を施し、L R、列点を充填施文する。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第27図 PL.150	1078	深鉢	胴部破片	6区遺構外	粗砂、黒色粒	にぶい 黄褐	ふつう	沈線により幾何学モチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第27図 PL.150	1079	深鉢	口縁部破片	5区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつう	推定口径32.2cm。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、無節L Rを充填施文する。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第27図 PL.150	1080	深鉢	口縁部破片	5区遺構外	細砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	緩い波状口縁。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L R、列点を充填施文する。口唇部に刺突、沈線を施す。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第27図 PL.150	1081	深鉢	口縁部破片	6区 910-835G	粗砂、白色粒、 石英	橙	ふつう	波状口縁で口縁が内折。帯状沈線を施し、列点を充填施文する。内折部に窩文連繋文を施す。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第27図 PL.150	1082	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、黒色粒	にぶい 橙	ふつう	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第27図 PL.150	1083	深鉢	口縁～胴中位	4区遺構外	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	ふつう	推定口径44.3cm。帯状沈線によりJ字状など幾何学モチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1084	深鉢	口縁部破片	6区遺構外	粗砂	明赤褐	ふつう	波状口縁で口縁が内折。波頂部下に円孔、内折部に沈線を施す。沈線により幾何学モチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1085	深鉢	胴部破片	7区 970-750G	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	縦位沈線を施す。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1086	深鉢	口縁部破片	1区遺構外	粗砂、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	口唇外削ぎ。帯状沈線によりモチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1087	深鉢	胴部破片	1区遺構外	粗砂、白色粒	明黄褐	ふつう	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1088	深鉢	口縁部破片	1区遺構外	粗砂、白色粒	橙	ふつう	波頂部の環状突起。沈線、刺突を施す。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1089	深鉢	口縁部破片	1区 610-190G	粗砂	橙	ふつう	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施文する。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1090	深鉢	胴部破片	1区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1091	深鉢	胴部破片	6区 895-885G	粗砂	橙	ふつう	帯状沈線により曲線モチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1092	深鉢	胴部破片	7区遺構外	細砂	浅黄橙	ふつう	縦位帯状沈線を施す。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1093	深鉢	口縁部破片	1区遺構外	粗砂、白色粒	にぶい 黄橙	ふつう	沈線により三角形モチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.150	1094	深鉢	胴部破片	1区遺構外	粗砂、黒色粒	橙	ふつう	帯状沈線により曲線モチーフを描く。	Ⅳ-A-1 称名寺式
第28図 PL.151	1095	深鉢	口縁～底部破片	1区遺構外	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	にぶい 黄橙	ふつう	頸部で屈曲し、口縁が内折。内折部に8の字貼付文を施し、横位沈線をめぐらし、屈曲部に横位沈線をめぐらし、沈線による杵状文を施し、L Rを充填施文する。胴下位は無文。	Ⅳ-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1096	深鉢	口縁部破片	1区遺構外	粗砂、白色粒	橙	良好	無文。口縁部に円孔、円形刺突を施す。	Ⅳ-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1097	深鉢	口縁部破片	2区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒	明赤褐	ふつう	波状口縁で口縁が緩く内折。波頂部下に円形貼付、両脇に刺突を施し、沈線をめぐらし、	Ⅳ-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1098	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂、細礫、 白色粒、黒色粒	にぶい 橙	ふつう	帯状沈線により弧状、ワラビ手状モチーフを描き、屈曲部に円形貼付文を貼付する。	Ⅳ-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1099	深鉢	胴部破片	2区遺構外	粗砂、黒色粒	明赤褐	ふつう	屈曲部に横位沈線をめぐらし、沈線による曲線モチーフを描き、L Rを充填施文する。	Ⅳ-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1100	深鉢	口縁部破片	2区 740-070G	粗砂、細礫、 白色粒	橙	ふつう	緩い波状口縁で波頂部に刺突を施した円形貼付文を付す。波頂部から刻みを付した弧状隆帯を垂下、沈線を沿わせる。	Ⅳ-B-2 a 堀之内1式

第三章 検出された遺構と出土遺物

挿図番号 図版番号	No	器種	残存	出土位置	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	分類 備考
第28図 PL.151	1101	深鉢	胴部破片	2区 730-080G	粗砂、細礫	にぶい 黄橙	ふつう	沈線により曲線モチーフを描く。屈曲部に円形貼付文を貼付。	IV-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1102	深鉢	口縁部破片	2区 740-070G	粗砂、細礫、 白色粒	橙	ふつう	口縁部の環状突起。口唇部に沈線を施し、円孔を穿つ。	IV-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1103	深鉢	胴部破片	2区 730-080G	粗砂、細礫、 黒色粒	橙	ふつう	屈曲部に横位沈線をめぐらす。	IV-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1104	深鉢	口縁部破片	3区 765-045G	粗砂、黒色粒	明赤褐	ふつう	口唇外面肥厚。肥厚部に刺突を挟んだ沈線をめぐらす。	IV-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1105	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、黒色粒	にぶい 褐	ふつう	屈曲する部位。屈曲部に円形刺突を施す。	IV-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1106	深鉢	胴部破片	5区遺構外	細砂、黒色粒	浅黄橙	ふつう	隆線により幾何学モチーフを描き、内部に縦位、弧状の沈線を充填施文する。	IV-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1107	浅鉢	口縁部破片	6区 895-845・ 900-850G	粗砂、細礫、 黒色粒	橙	ふつう	くの字状に内屈し、口縁が短く外反する器形。波頂部から左右に斜行する帯状沈線を施し、波頂部下に帯状沈線によるワビ手文を描く。余白にLRを充填施文。屈曲部には刺突列、円形貼付文を施す。波頂部下に円孔を穿つ。	IV-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1108	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	外反する器形。斜行する集合沈線でモチーフを描き、LRを充填施文する。	IV-B-2 a 堀之内1式
第28図 PL.151	1109	深鉢	口縁部破片	6区遺構外	粗砂、細礫、 黒色粒	明赤褐	ふつう	緩い波状口縁。口縁下に窩文連繋文をめぐらし、LRを充填施文する。	IV-B-2 a 堀之内1式
第29図 PL.151	1110	深鉢	口縁部破片	6区 895-845G	粗砂、細礫、 黒色粒、雲母	にぶい 橙	ふつう	口縁が内折。内折部に1条の沈線をめぐらす。	IV-B-2 a 堀之内1式
第29図 PL.151	1111	深鉢	口縁部破片	7区遺構外	粗砂、黒色粒	明赤褐	ふつう	波状口縁で口縁が内折、内折部に1条の沈線をめぐらす。弧状、斜位の沈線を施し、LRを充填施文する。	IV-B-2 a 堀之内1式
第29図 PL.151	1112	深鉢	口縁部破片	7区遺構外	粗砂	橙	ふつう	口縁を内折させ、内折部に1条の沈線をめぐらす。肥厚部下に沈線、列点を垂下させる。	IV-B-2 a 堀之内1式
第29図 PL.151	1113	深鉢	口縁～胴部 破片	1区 610-190・ 610-195G	粗砂、白色粒、 黒色粒	橙	ふつう	推定口径30.6cm。頸部で屈曲し、口縁が内折する。内折部に刺突を挟んだ沈線をめぐらす。屈曲部に2条の沈線をめぐらし、沈線下に弧状集合沈線による鋸歯状モチーフを描く。	IV-B-2 a 堀之内1式
第29図 PL.151	1114	深鉢	口縁部破片	1区遺構外	粗砂、細礫、 白色粒	橙	良好	無文。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	IV-B-2 b 堀之内2式
第29図 PL.151	1115	深鉢	胴部破片	5区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒	灰褐	ふつう	横位、斜位の沈線を施す。	IV-B-2 b 堀之内2式
第29図 PL.151	1116	深鉢	胴部破片	6区 940-810G	粗砂	にぶい 黄橙	ふつう	横位帯状沈線を施し、LRを充填施文する。	IV-B-2 b 堀之内2式
第29図 PL.151	1117	深鉢	口縁部破片	5区遺構外	粗砂、白色粒、 黒色粒	にぶい 橙	ふつう	無文。斜位の調整により器面の凹凸残る。	IV-B-2 c 後期前葉
第29図 PL.151	1118	深鉢	口縁部破片	5区遺構外	細砂、黒色粒	橙	ふつう	波状口縁。波頂部に環状突起、貼付を付す。	IV-B-2 c 後期前葉

第11表 縄文時代石器観察表

挿図番号 図版番号	No.	器種	形態・ 素材	出土位置	製作・使用状況	石材	長さcm	幅cm	重さg
第29図 PL.151	1119	打製石斧	短冊型	6区 遺構外	完成状態。刃部摩耗・捲縛痕あり。刃部再生が明らか。	細粒輝石安山岩	10.9	5.3	106.6
第29図 PL.151	1120	打製石斧	短冊型	3区 遺構外	完成状態。刃部摩耗等は風化して不明瞭。	ホルンフェルス	16.9	5.6	240.5
第29図 PL.151	1121	打製石斧	短冊型	4区 830-970G	完成状態。刃部摩耗・捲縛痕等は風化して不明。上端部が欠損。	ホルンフェルス	8.4	5.8	93.6
第29図 PL.151	1122	打製石斧	短冊型?	2区 650-080G	完成状態。側縁上部が著しく潰れ、装着を意識している。側縁は「ハ」字状に開く。	ホルンフェルス	15.7	7.3	295.9
第29図 PL.151	1123	打製石斧? 偏平礫	短冊型?	5区 遺構外	未製品?左辺側加工は石斧様だが、右辺側加工は薄く、削器的。器体下部が欠損。裏面側に礫面を大きく残す。	珪質粘板岩	(6.0)	4.2	48.4
第29図 PL.151	1124	打製石斧	分銅型	1区 590-135G	完成状態?風化して刃部摩耗等は不明瞭。	ホルンフェルス	11.3	7.4	134.6
第29図 PL.151	1125	打製石斧	分銅型	1区 555-225G	完成状態。刃部摩耗・捲縛痕あり。装着部が上半に偏る。	ホルンフェルス	12.3	6.4	154.4
第29図 PL.151	1126	打製石斧	分銅型	5区 遺構外	完成状態。風化が激しく、刃部摩耗・捲縛痕は不明。	ホルンフェルス	10.9	7.6	120.2
第29図 PL.151	1127	打製石斧	分銅型	6区 遺構外	完成状態。上端に装着部が偏る例で、側縁をノッチ状に挟り込んでいる。ノッチ状の側縁の摩耗は明らか。	ホルンフェルス	13.1	7.0	251.8
第30図 PL.151	1128	打製石斧	分銅型	6区 895-845G	完成状態。捲縛痕は明らかだが、刃部摩耗は部分的に残存している程度。	ホルンフェルス	10.1	7.1	124.8
第30図 PL.151	1129	打製石斧	分銅型	7区 970-730G	完成状態。刃部摩耗・捲縛痕等は不明瞭だが、刃部加工はエッジを揃える程度のもので、使用頻度は低い。	ホルンフェルス	12.5	6.3	135.8
第30図 PL.151	1130	打製石斧	分銅型?	5区3溝 860-940G	完成状態。刃部摩耗が著しい。偏平礫を用い、上半部を浅く挟り装着部とする。	頁岩	12.9	5.6	92.1

挿図番号 図版番号	No.	器種	形態・ 素材	出土位置	製作・使用状況	石材	長さcm	幅cm	重さg
第30図 PL.151	1131	打製石斧	分銅型?	3区 800-010G	完成状態。刃部の摩耗は著しい。左辺側縁はリダクションを受け、本来の形状の変形が明らかである。	ホルンフェルス	(10.8)	6.1	198.4
第30図 PL.151	1132	打製石斧	撥型?	6区 900-895G	未製品?側縁加工後、刃部作出。裏面側に礫面を残す。	頁岩	9.5	5.8	133.1
第30図 PL.152	1133	石鏃	凹基無茎 鏃	1区 590-140G	完成状態。側縁は錯向剥離しており、器軸は振れる。	黒曜石	1.8	1.5	0.5
第30図 PL.152	1134	石鏃	凹基無茎 鏃	3区2溝 下層	完成状態。基部を深く抉り込む。	チャート	1.8	1.4	0.7
第30図 PL.152	1135	石鏃	凹基無茎 鏃	3区5面 遺構外	完成状態。基部を浅く抉り込む。裏面側先端に衝撃剥離痕がある。	黒曜石	(1.6)	1.4	0.4
第30図 PL.152	1136	石鏃	凹基無茎 鏃	3区 760-055G	完成状態。基部を浅く抉り込む。背面側節理面に鉄成分が沈着。	玉髄	2.2	1.5	0.96
第30図 PL.152	1137	石鏃	凹基無茎 鏃	4区 遺構外	完成状態。先端剥離は衝撃剥離痕様だが、これを切って裏面側加工があり、加工途上の剥離痕と判断している。	黒曜石	(1.9)	1.8	0.8
第30図 PL.152	1138	石鏃	凹基無茎 鏃	6区 遺構外	完成状態。大型・薄手で優品。大型である点は在地石材を用いる石鏃の特徴。斜向押圧剥離が全面を覆う。	チャート	3.8	2.3	2.8
第30図 PL.152	1139	石鏃	凹基無茎 鏃	5区 830-930G	完成状態。長脚鏃様の長い「返し部」を持つ。	黒曜石	1.5	1.4	0.3
第30図 PL.152	1140	石鏃	凹基無茎 鏃	5区 遺構外	完成状態。裏面側に素材剥離面を残す。	チャート	2.3	1.7	1.3
第30図 PL.152	1141	石鏃	凹基無茎 鏃	5区 遺構外	完成状態。長脚鏃様の長い「返し部」を持つ。	チャート	2.8	1.9	0.7
第30図 PL.152	1142	石鏃	凹基無茎 鏃	5区 870-910G	完成状態。左辺「返し部」を破損。	黒色安山岩	1.9	1.3	0.7
第30図 PL.152	1143	石鏃	凹基無茎 鏃	6区 915-850G	完成状態。側縁中央付近が弱く窪み、内湾して「返し部」に続く。先端部は棒状に尖る。	黒色頁岩	(2.3)	1.3	0.7
第30図	1144	石鏃	凹基無茎 鏃	5区 遺構外	完成状態。長脚鏃。	黒曜石	(1.2)	(1.6)	0.4
第30図 PL.152	1145	石鏃	凹基無茎 鏃	6区 遺構外	完成状態。基部を浅く抉り込む。	黒色頁岩	1.9	1.6	0.8
第30図 PL.152	1146	石鏃	平基無茎 鏃 幅広剥片	1区 585-150G	完成状態。裏面側に素材剥離面を残す。	チャート	2.0	1.2	0.7
第30図 PL.152	1147	石鏃	平基無茎 鏃	6区880- 860G FA混 土中	完成状態。加工は丁寧で、優品。側縁整形後、基部整形。	チャート	3.3	1.7	1.58
第30図	1148	石匙	縦型	5区44土 坑埋土	幅広剥片の打面側に「摘み部」を作出。側縁加工は薄く、浅い。剥片端部は加工せず使用。	黒色頁岩	9.4	5.6	63.3
第30図 PL.152	1149	石匙	横型 幅広剥片	5区 遺構外	完成状態。刃部は弧状を呈し、刃縁は直線的形状。右辺端部を欠損。裏面側に風化節理面を大きく残す。	チャート	4.0	(5.8)	20.3
第30図 PL.152	1150	凹石	楕円偏平 礫	6区 910-865G	表裏面にロート状の凹部。側縁敲打痕。	粗粒輝石安山岩	10.2	9.3	479.1
第31図 PL.152	1151	磨石	楕円偏平 礫	3区5面 遺構外	表裏面とも摩耗、側縁・小口部に打痕。	粗粒輝石安山岩	10.5	9.0	431.7
第31図 PL.152	1152	磨石	楕円偏平 礫	6区 遺構外	背面側中央が摩耗痕するほか、側縁・小口に打痕。	粗粒輝石安山岩	14.4	7.9	734.8
第31図 PL.152	1153	敲石	楕円礫	5区 遺構外	器体下部礫面は光沢を帯び粗い縦線条痕があり、石製研磨具としての可能性も否定できない。	ホルンフェルス	8.8	5.1	283.6
第31図 PL.152	1154	敲石	棒状礫	6区 890-870G	上下両端の小口部に打痕が著しい。	粗粒輝石安山岩	11.0	4.6	297.9
第31図 PL.152	1155	台石	楕円礫	1区195土 坑埋土	背面側に敲打痕・摩耗痕が広がる。	粗粒輝石安山岩	32.5	28.2	13200
第31図 PL.152	1156	多孔石	楕円礫	6区 900-855G	表裏面とも孔多数を穿つ。	粗粒輝石安山岩	25.4	18.2	7300
第31図 PL.152	1157	多孔石	楕円礫	3区5面 遺構外	背面側にロート状の凹部(径2cm)1を穿つ。	粗粒輝石安山岩	9.9	9.1	651.0
第31図 PL.152	1158	原石	楕円礫	4区 遺構外	礫面の爪条痕・網目条痕が痕跡程度に残る。クレーター状の凹部も特徴的で、同種石材は利根川で採取が可能。小口部を試割している。	黒色安山岩	8.2	6.5	320.9

第3節 弥生時代

(1)概要

弥生時代の遺構は、土坑が1基検出されているだけである。遺物は、土器が52点出土している。

(2)土坑

2区から1基検出されている。

位置 751・752-086・087Gr

平面形態 楕円形

断面形態 やや崩れた皿状を呈し、底部にピットが数基存在。

規模 長径1.68m 短径1.05m 深さ40cm 面積1.39㎡

主軸方位 N-19°-W

機能 遺構の形態は特徴あるものではないため、そこから機能を推定することはできない。遺物も土器片が

25点出土しているだけであるため、性格は不明である。  
**時期** 出土土器は破片であるが、他に時期を確定できる遺物の出土はないため、中期中葉の土坑と考えるのが自然であろう。

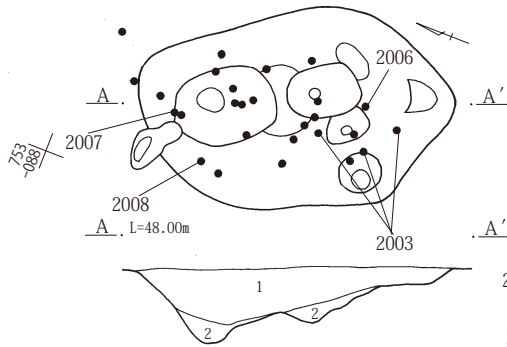
(3)出土遺物

土器

遺物は土器52点で、時期は中期中葉のものがほとんどであるが、後期吉ヶ谷・赤井戸式のものが1点出土している。器形は、壺、甕がほとんどで、後期の1点は甕である

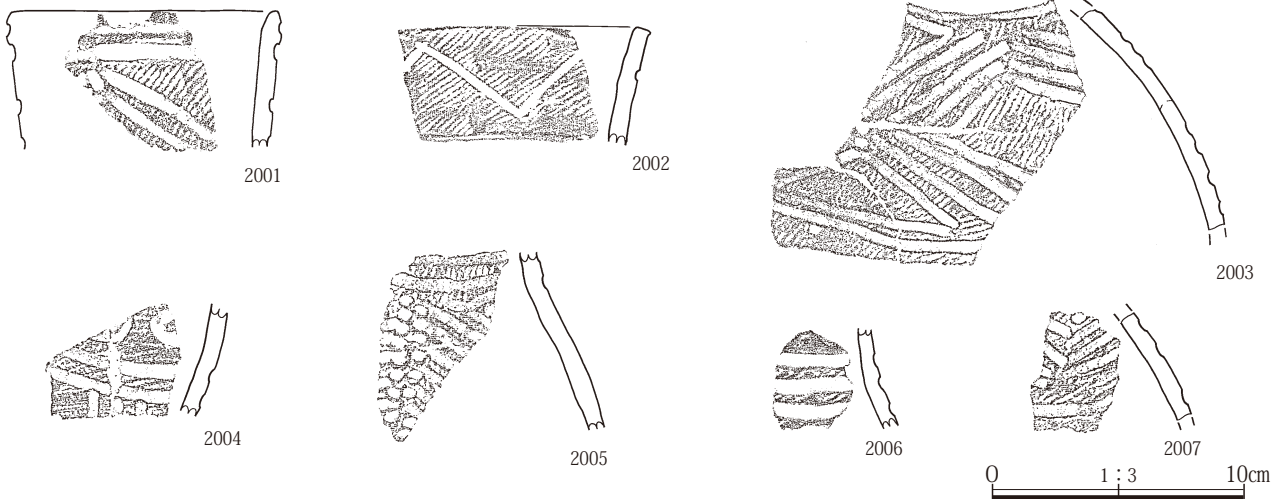
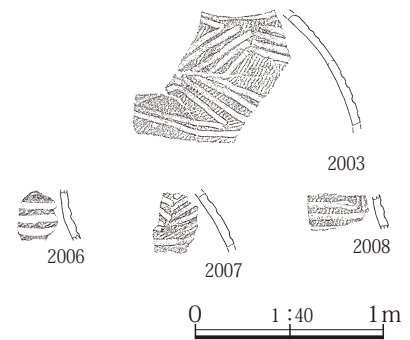
第12表 弥生土器数量表

区	出土位置	中期	後期
1区	遺構外	5	0
2区	26土坑	25	0
2区	遺構外	13	0
3区	遺構外	2	0
4区	遺構外	0	0
5区	遺構外	0	1
6区	遺構外	6	0
7区	遺構外	0	0
計		51	1

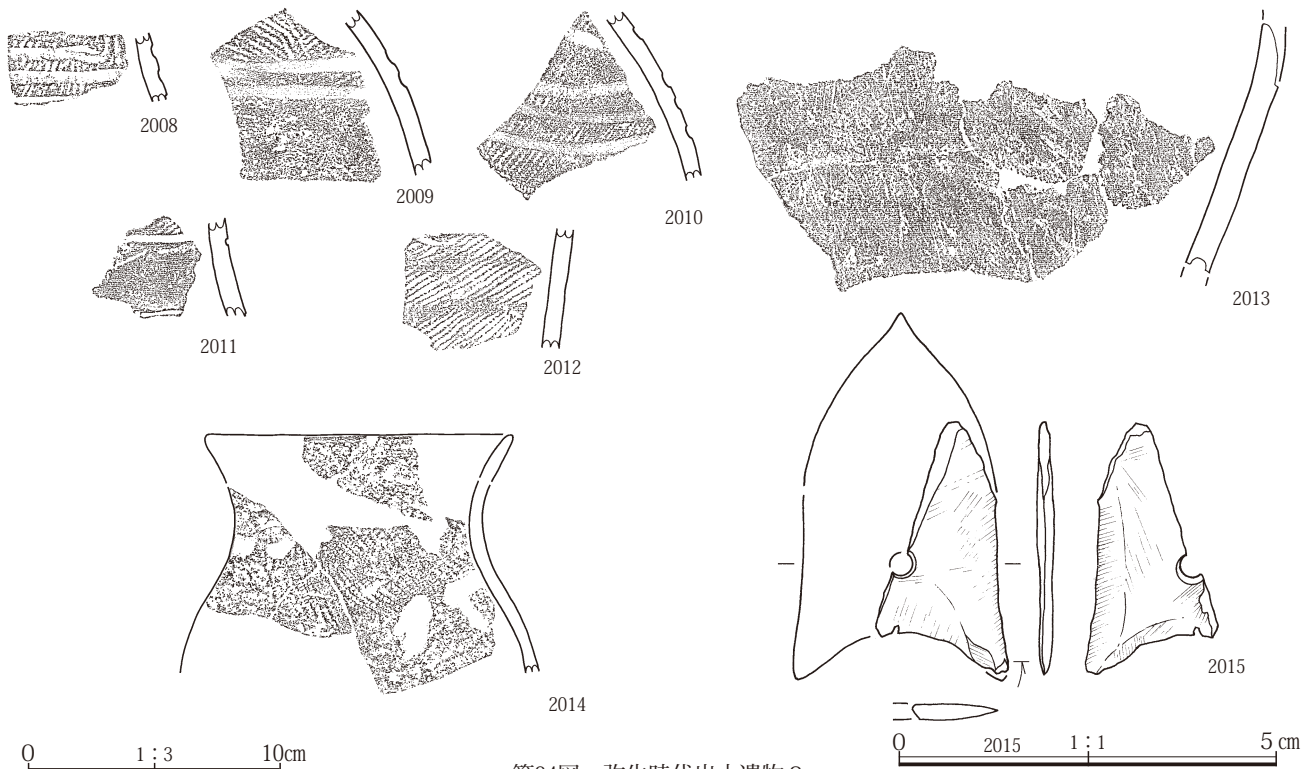


26号土坑  
 1 にぶい黄褐色土 ローム混土。  
 2 黄色土 ローム主体。

第32図 弥生時代土坑



第33図 弥生時代出土遺物 1



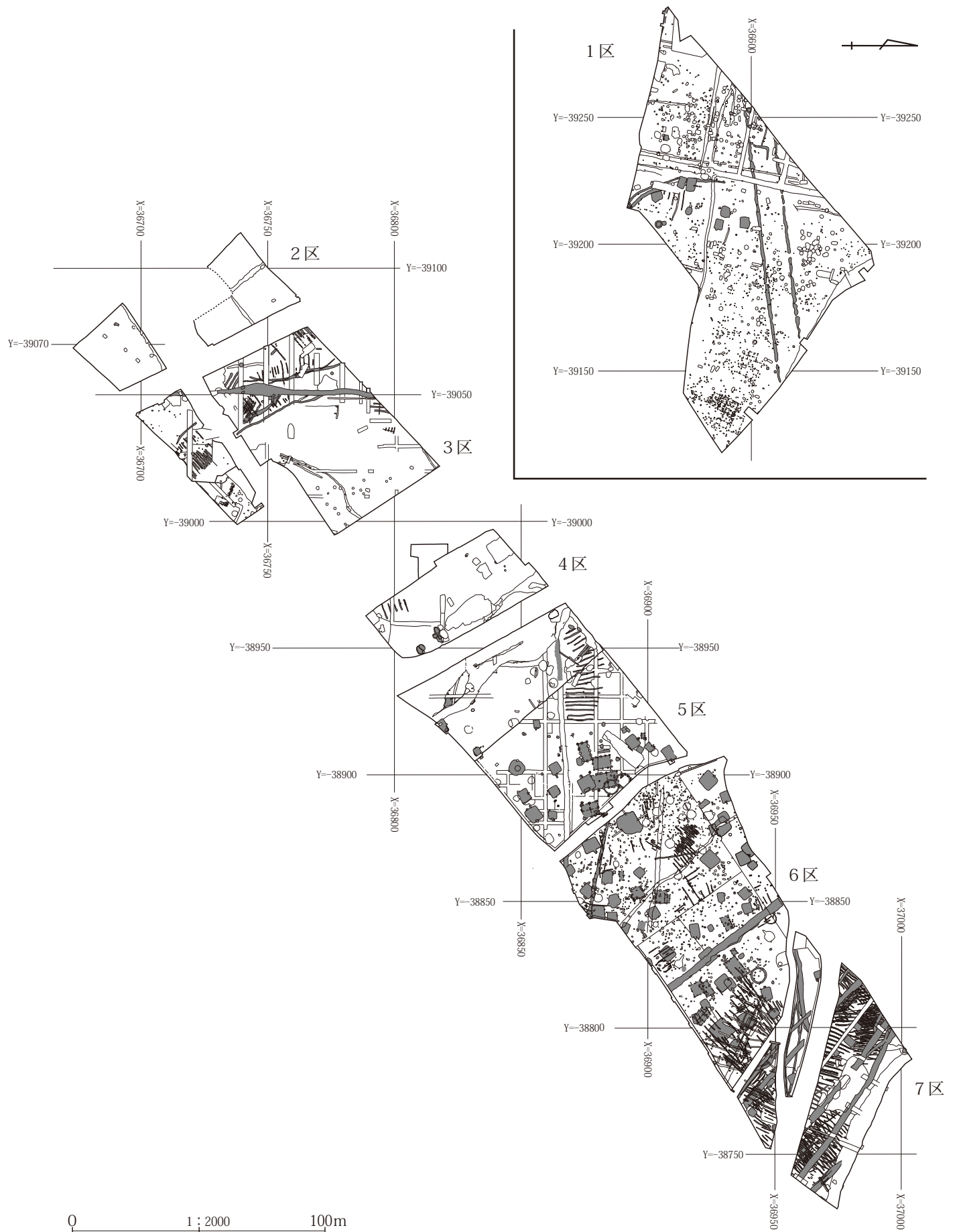
第34図 弥生時代出土遺物2

第13表 弥生土器観察表(第33・34図 PL.152)

No.	器種	出土位置 残存率	計測値 (cm)	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
2001	壺	3区5面 遺構外 口縁片	口径 (10.6)	赤粒細礫、白岩片の粗砂/にぶい 橙/普通	口縁に1条の横沈線をめぐらせて、その上位を隆線状とする。頸部は縄文(L)地文に菱形文か三角文を画く。頂点には刺突を配す。内面はナデ。	中期中葉
2002	甕	6-2区171土坑 口縁片		赤粒とチャート細礫、白岩片、 輝石の粗砂/浅黄橙/やや軟調、 均質	頸部境界を横沈線で区切り、縄文(L R)を地文に、1条沈線による連続山形文を廻らす。内面はナデと粗い磨き。	中期中葉
2003	壺	2区 26土坑 肩片		白岩片、石英・輝石の粗砂/橙/ 普通、均質	縄文(L)を地文に、上下限を横沈線で区画し、内部を4条単位の沈線による菱形連続文を画く。交点には刺突列点文をおく。残存部では菱形内区左上辺に沈線を1条追加している。内面はへら等による丁寧な横位ナデ。	中期中葉
2004	壺	1区 575-260 G 肩片		石英、白岩片の粗～細砂/褐灰/ 普通	縄文(L R)か地文に2条沈線で大振りな弧線で画し、上位に閉鎖する楕円状文、下位に3条沈線を垂下する。内面ナデ。	中期中葉
2005	壺	3区 遺構外 肩片		白岩片、石英の粗砂細礫～粗砂 目立つ/にぶい黄橙/普通	縄文(L R)か地文とし、頸部付近に複数の平行沈線を廻らす。肩には多条沈線による菱形ないし三角文を描き、交点部分に縦位の2条列点文を垂下する。内面ナデ。	
2006	壺	2区 26土坑 頸部片		白岩片、石英の粗砂/橙/普通	縄文(L)地文に3条の並行沈線を廻らす。内面ナデ。	中期中葉
2007	壺	2区 26土坑 肩片		白岩片、石英の粗砂/にぶい黄橙、 黒斑/硬調、むら	縄文(L R)地文に楕円形状の沈線区画を描き、内区に矢羽根状構成の集合沈線文が見える。リボン文様の交差部か。内面ナデ。	
2008	壺	2区 26土坑 頸部片		白岩片、石英・輝石の粗砂/にぶ い黄橙/普通	縄文地文に複数単位の沈線による方画文と思われる文様を描く。内面ナデ。	中期中葉
2009	壺	1区 575-255 G 体部中位片		石英、白岩片の粗～細砂/褐灰/ 普通	2条の横沈線で画し、上位に縄文(L R)を縦横位に施文する。無文部はケズリとナデ、内面はケズリ後丁寧なへらナデ。	中期中葉
2010	壺	1区 575-255 G 体部上位片		関、輝石、黒岩片/浅黄橙～褐灰/ むら有り	縄文3条単位の沈線で大振りな弧線状文様を画く。内面ナデ。	中期中葉
2011	甕	6区 遺構外 頸部片		赤粒とチャート細礫、白岩片、 輝石の粗砂/浅黄橙/普通	上位と下位を1条横沈線で画し、間を無文帯とする。口縁帯と思われる沈線上位には縄文(L R)を施文。内面は丁寧なナデと磨き。	中期中葉。2 と同一個体の 可能性有り。
2012	甕	6区 遺構外 体部片		赤粒細礫、白岩片の粗砂/灰白/ 普通	縄文(L R)を横位施文。内面研磨。	中期中葉か
2013 (甕)		1区 600-155 G 体部中位片		白岩片、石英・輝石の粗砂/暗灰 黄/むら有り	上端に接合面となる擬口縁を残す。外面は縦位ケズリ後粗い磨き、内面は横位ケズリ。	中期中葉か
2014	甕	5区870-940Ⅲ層 口縁～体部上位片	口径 (12.0)	石英、白岩片の粗～細砂/明赤褐 /普通	縄文(R L)を施文。内面は丁寧な横位磨き。外面の剥離が著しい。	吉ヶ谷・赤井 戸式

第14表 弥生時代石器観察表(第34図)

No.	器種	形態	製作・使用状況	区	名	遺構名	出土位置	石材	長さcm	幅cm	重さg	備考
2015	磨製石鏃	無茎鏃	基部側に径3mmの孔を両側穿孔して穿つ。	3	—	遺構外	—	珪質準片岩	(3.3)	(1.8)	1.4	



第35図 古墳～平安時代遺構位置図

## 第4節 古墳時代後期～平安時代

## (1)概要

この時代は矢部遺跡の中でもっとも居住活動が盛んな時期であり、この遺跡の遺構の大部分がこの時期に含まれる。竪穴住居70軒、掘立柱建物16棟、溝91条、円形周溝遺構3基、井戸3基、土坑187基、畠70箇所、遺物集積遺構4基、ピット、道路遺構等が検出されている。微高地となっている調査区南西部の1区、北東部の5～7区を中心に遺構が検出されており、低地となる中央部の2～4区は遺構が少ない。遺物出土量は多く、土師器約700kg、須恵器約182kgが出土している。

## (2)竪穴住居

竪穴住居は、古墳時代後期が23軒、奈良時代が24軒、平安時代が18軒、不明5軒の計70軒検出されている。

①**分布** 遺跡南西部の1区から7軒、4区から1軒、5区から14軒、6区から42軒、7区から6軒検出されており、遺跡北東部の5～7区に集中している。時代別にみると、古墳時代後期は、1区なし、5区8軒、6区13軒、7区2軒、奈良時代は、1区6軒、4区1軒、5区6軒、6区11軒、7区なし、平安時代は、1～5区なし、6区16軒、7区2軒となる。

②**平面形態** 竪穴住居の形態は、長辺/短辺が1.2未満を方形、1.2以上を長方形とする。平面形態は、A～Dの4形態に分類できる。

- A 隅丸方形
- B 隅丸長方形
- C 隅丸方形または隅丸長方形
- D 不明

形態不明のものを除くと、すべて隅の丸い方形または長方形となっており、不確実なものも含めて、隅丸方形(A)が34軒、隅丸長方形(B)が29軒、全景が不明で隅丸方形か隅丸長方形か不明なもの(C)が3軒、形態不明(E)が4軒となっている。時代別にみると、古墳時代後期は、A20軒・B2軒・D1軒、奈良時代はA8軒・B13軒・C3軒、平安時代は、A5軒・B12軒・D1軒となっており、時代が下るに従いAが減少し、Bが増加している。

③**規模** 長辺7.78～2.25m、短辺7.58～2.04m、壁高83～9cm、面積(カマドを含む上端面積)57.03～4.54m<sup>2</sup>、床面積(カマドをのぞいた下端面積)は50.60～3.11m<sup>2</sup>である。時代別に床面積を見ると、古墳時代後期50.60～5.40m<sup>2</sup>平均21.88m<sup>2</sup>、奈良時代28.68～3.11m<sup>2</sup>平均11.51m<sup>2</sup>、平安時代15.98～3.39m<sup>2</sup>平均9.88m<sup>2</sup>となり、古墳時代後期に比べ、奈良・平安時代でかなり小さくなっている。壁溝は、古墳時代後期が83～9cm平均59cm、奈良時代が75～29cm平均54cm、平安時代が、64～21cm平均41cmで、古墳・奈良時代に比べ、平安時代がやや低くなっている。

④**主軸方位** 竪穴住居はカマドのある辺に垂直な方向を主軸とした。第37図を見るとわかるように、北から30～50°西にかけてと、北から50～70°東にかけてのところに集中している。逆に、南東から南西にかけての主軸を持つ住居はほとんど存在していない。時代別にみると、古墳時代後期は、N-28～64°-Eが9軒、N-18～53°-Wが11軒と北西と北東にきれいに分かれている。奈良時代は、N-2～90°-E15軒、N-24～82°-W9軒と、かなりばらつきが多い。平安時代も同様で、N-16～67°-E10軒、N-3～88°-W8軒と斉一性に乏しい。全時代をとおして北東・北西のカマド方向の割合は、あまり変わっていないといえる。

⑤**埋没土** ロームを含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土・黄褐色土で埋没しているものも多く、焼土・炭化物・Hr-FA等を含むものも多い。レンズ状の堆積や、壁際の三角堆積など、自然堆積と考えられるものがほとんどであるが、7区では2号住居のように、洪水砂で一時期に埋没したと考えられる住居もある。

⑥**床面** ロームを含む暗褐色土・黒褐色土で貼床としているものが多い。不明なものを除いた64軒の中で、全面あるいは部分的に貼床としているもの(A類)が50軒(78%)あり、掘り方を直接床面としているもの(B類)は14軒(28%)でかなり少ない。時代別にみると、古墳時代後期が、A類16軒、B類6軒、奈良時代が、A類15軒、B類7軒、平安時代は、A類15軒、B類1軒となっており、平安時代にB類が減少している。また、住居としては当然であるが、ほぼ平坦な床面を持つ住居が多くなっている。床面の硬度(調査担当者の主観的な判断で客観的に硬度測定等をしているわけではない)は、全体的に硬い

ものが、25軒(36%)で、さらに部分的に硬化しているものが6軒あって、計31軒(44%)となる(A類)。軟弱なもの8軒(11%)となっており(B類)、床が硬化している住居が圧倒的に多くなっている。時代別にみると、古墳時代は、A類12軒、B類2軒、奈良時代はA類10軒、B類4軒、平安時代は、A類7軒、B類2軒で、全時代をとおしてその割合にあまり変化がない。

⑦掘り方 残存状況が悪く掘り方が不明な4軒を除き、床下土坑がある竪穴住居が10軒(14%)、土坑ほどはっきりしないが、土坑状の掘り込みがあるものが30軒(43%)と多くなっている。ピットがあるもの28軒(40%)である。また、溝状の掘り込みを持つものが、7軒(10%)、段を持つものが2軒ある。特徴ある掘り方のパターンとして、四隅にピットあるいは土坑状の掘り込みを持つものが2軒、中央部が高く周囲が溝状に低くなっているものが4軒ある。ほぼ平坦な掘り方のものが12軒(17%)、掘り方を直接床面としているものも10軒(14%)と比較的多い。全時代をとおして割合にあまり変化はないが、平安時代は、平坦なものが少なく掘り込みがあるものが多くなる傾向にある。

⑧遺物出土状況 遺物出土量は、遺構の残存状況により大きく変わることもあり、住居により大きな違いがある。土器でみると、竪穴住居の出土総量が約190,000gあり、1軒平均で約2,700gであるが、最も多い住居では15,000g以上、少ない住居で10gであり、差がかなり大きくなっている。竪穴住居の出土遺物については、出土状況により以下の3種類に分けて考えることにする。

**A遺棄** 竪穴住居で使用されたものが遺されているもの。床面上・カマド等住居の使用面の出土で、完形・半完形のもの。ただし、棚から転落あるいは貯蔵穴に転落した物は、床面から浮いた状態や貯蔵穴埋没土中の物もある。遺物の時期は、住居の時期を示している。

**B廃棄** 廃絶された住居に他から捨てられたもの。床面および埋没土中の出土で、完形・半完形に復元できる物、あるいは破片。遺物の時期は、住居の使用された時期よりも新しくなるが、竪穴住居が埋没するまでの時期に限られる。

**C流入** 住居外の遺物が自然営力や人為的な埋め戻しにより、竪穴内に入り込んだもの。すべての層から出土し、破片の状態である。遺物の時期は、住居が埋没する

までの時期より古くなる。

一般的には、竪穴住居を廃絶するときは土器等の生活用具は持ち去ると考えられるため、竪穴内に残されるものは多くないであろう。当遺跡でも、遺棄された遺物が多く見つかる住居は少なく、比較的多くの遺棄遺物が出土(3個体程度以上)した住居は14軒(20%)、少ないもの、出土していないものは54軒(77%)と4倍近くある。これに対し、廃棄遺物が出土する住居は多い。集落が長期間継続しているため、廃絶住居内に不要物を廃棄することは多かったと考えられる。特に、5区56号住は、埋没途中の住居に完形・半完形の土器が多量に廃棄されていると考えられる。

⑨貯蔵穴 貯蔵穴を持つ住居は、不確実なものも含めて25軒で、持たないものは、ある可能性が低いものも含めて35軒であり、持たないものが持つものより多いが、その差は1.4倍と小さい。時代別にみると、貯蔵穴を持つものは、古墳時代後期11軒、奈良時代6軒、平安時代6軒で、古墳時代が多いが、奈良時代と平安時代はほぼ同じ割合となっている。持つものの中では、カマド右脇にあるものが18軒と圧倒的に多く、カマド左脇にあるものが3軒で、それ以外が4軒である。平面形態は、楕円形が17軒で最も多く、円形は7軒ある。他に隅丸方形が3軒となっている。規模は、長径112cm～29cm、短径92cm～25cm、深さ47cm～8cmである。

⑩柱穴 柱穴を持つ竪穴住居が13軒、持たないものが57軒で、柱穴のある住居はすべて4基の柱穴を持つものと考えられる。時代別にみると、古墳時代8軒、奈良時代4軒、平安時代1軒で、時代が下るに従い減少する。規模は、住居ごとの平均でみると、長径62～25cm、短径51～21cm、深さ71～18cmである。柱間の距離は、住居ごとの平均で、4.36m～1.65mである。

⑪壁溝 壁溝を持つ竪穴住居は床面の掘り方調査で確認した3軒を含めて25軒あるが、持たない住居は37軒、全面調査してない8軒を加えて45軒で、床面上になく掘り方で検出されたものが3軒あり、持たない住居が多くなっている。持つ住居の内、全周あるいは一部を除いて全周するものは8軒であり、壁溝が一部欠落するものが12軒あるため、全周するものが少なくなっている。時代別にみると、壁溝のある住居は、古墳時代8軒、奈良時代12軒、平安時代2軒となっており、平安時代で



は極端に少なくなっている。全周するものは、8軒が奈良時代の住居である。

⑫カマド 竪穴住居70軒中カマドの検出されたものは61軒で、この内6軒はカマドが2基検出され、他の55軒は1基のみである。カマドが検出されていないのは9軒であるが、そのほとんどは重複や調査区外等で不明であった。

位置 東壁にあるものが33基ともっとも多いが、北壁のものも30基と多く、この2つで64基とカマドの確認された住居の95%を占める。他は、西壁が3基、南壁が1基と非常に少なくなっている。時代別にみると、古墳時代は、北壁13基、東壁9基、西壁1基、奈良時代は、北壁11基、東壁10基、西壁2基、平安時代は、北壁5基、東壁12基、西壁1基、南壁1基となり、時代が下るに従い北壁が減って東壁が多くなるが、特に平安時代に大きく変わっている。

壁における位置で見ると、壁の中央にあるものが18軒、壁に向かって右側にあるものが41軒、左側にあるものが5軒となっており、右側にあるものが64%と半数以上を占めている。左側にあるものは8%と少ない。時代別にみると、古墳時代後期は、中央が6基、右側が11基、左側が3基で、奈良時代は、中央が8基、右側が13基、左側がなしで、平安時代は、中央が4基、右側が12基、左側がなしとなっており、平安時代に右側がやや増加するが、古墳時代と奈良時代については、割合はあまり変わっていない。北壁と東壁で見ると、北壁は右が14基、中央

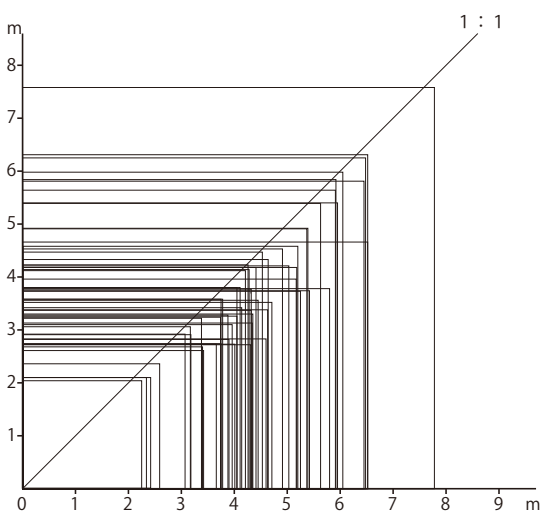
が14基で同数であるが、東壁は右が25基、中央が3基と右が圧倒的に多くなっている。

規模 全長2.44～0.50m、幅1.86～0.37mである。規模の差が大きく見えるが、残存状況の違いもあるため、一概に差が大きいとすることはできない。

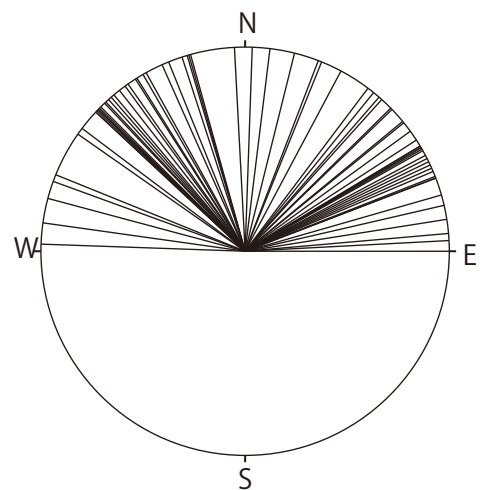
袖 袖の構築材が判明するものは33軒あり、不確実なものも含めて、粘質土で構築しているものが13軒(39%)で、砂質土のものが2軒(6%)、黄褐色土系のものが15軒(45%)、暗褐色土系のものが3軒(9%)となっている。袖の補強材が判明するのは11軒で、土師器の甕を使用しているものが2軒、自然礫を使用しているものが7軒、地山掘り残しのものが2軒である。

⑬出土遺物 土師器杯・椀・蓋・高杯・甕・小型甕・台付甕・甌・壺・鉢・小型土器、須恵器杯・椀・盤・蓋・高杯・高盤・甕・壺・瓶・台付壺・ハソウ・甌・鉢・すり鉢・小型土器・円面硯、灰釉陶器碗・壺・瓶等の土器の他、土錘・玉・竈型土製品等の土製品、砥石・玉類等の石製品、鎌・刀子等の鉄製品が出土している。

⑭時期 竪穴住居の時期は、遺物によるものが中心となるが、遺物出土状況の項で述べたように、住居と同時期と考えられるのは遺棄遺物であるが、数量が少ないため、住居とあまり時期が変わらないと考えられる廃棄遺物や、遺構の重複関係も考慮して時期を決定した。時期不明や、はっきりしないものもあるが、ほぼ7世紀前半～10世紀後半になると考えられる。



第36図 竪穴住居規模図



第37図 竪穴住居主軸方位図

第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

第15表 古墳～平安時代竪穴住居一覧表

区	No.	位置(Gr)	重複	平面形態	長辺 m	短辺 m	長辺/ 短辺	壁高 cm	面積 ㎡	床面積 ㎡	主軸方位
1	1	564～567-240～243		隅丸方形	2.25	2.04	1.10	63	4.54	3.11	N-7°-E
1	2	584～588-205～210		隅丸長方形	4.05	3.26	1.24	58	13.25	10.01	N-75°-W
1	3	595～599-206～210		隅丸長方形	4.45	3.56	1.25	68	15.80	12.48	N-2°-E
1	4	560～564-216～221	7溝	隅丸長方形	4.32	3.37	1.28	51	14.85	9.27	N-74°-E
1	5	570～574-221～226	6・7溝	隅丸長方形	4.60	2.83	1.63	54	12.61	8.09	N-21°-E
1	6	573～578-220～226	7溝	隅丸長方形	5.42	3.74	1.45	61	19.09	12.00	N-14°-E
1	7	587～591-210～215		隅丸長方形	4.35	3.30	1.32	82	14.64	9.20	N-22°-E
4	26	815～819-951～955	19・36・70土坑	隅丸方形または隅丸長方形	[3.20]	[2.70]		43	[5.54]	[3.87]	N-87°-E
5	8	819～822-926～932	2・5号溝より旧	隅丸方形または隅丸長方形	4.86	[3.20]		29	[11.07]	[8.19]	N-24°-W
5	43	815～821-916～921	1号溝より旧	隅丸方形または隅丸長方形	[5.25]	[3.67]		42	[15.26]	[13.05]	N-29°-W
5	56	830～834-907～910		隅丸方形	3.07	2.92	1.05	44	8.42	5.40	N-35°-W
5	99	904～910-904～911		隅丸長方形?	5.25	(3.73)	(1.41)	61	(21.92)	(15.77)	N-59°-E
5	128	890～896-909～915		隅丸方形	5.19	4.58	1.13	61	22.92	19.07	N-40°-W
5	206	872～879-892～899	1掘立より旧	隅丸方形	5.92	5.84	1.01	69	34.28	29.82	N-18°-W
5	207	894～898-908～911		隅丸方形	(2.59)	2.36	(1.10)	28	[5.70]	[4.91]	N-53°-W
5	208	889～892-916～918		不正形	2.34	2.10	1.11	13	5.56	4.33	N-60°-E
5	209	898～902-908～912		隅丸方形	3.40	2.68	1.27	39	9.27	6.82	N-47°-W
5	210	854～857-917～921		隅丸長方形	3.42	2.61	1.31	46	8.48	6.75	N-81°-E
5	214	860～865-898～904		隅丸方形	4.28	4.14	1.03	56	17.56	14.14	N-60°-E
5	245	860～863-881～885		隅丸方形	3.38	3.22	1.05	42	10.80	8.23	N-90°-E
5	286	860～865-890～895		隅丸方形	4.41	4.18	1.06	59	16.06	12.26	N-60°-E
5	304	851～858-880～887		隅丸方形	5.95	5.40	1.10	63	31.58	25.99	N-54°-E
5	430	848～853-888～894		隅丸長方形	5.18	4.18	1.24	58	20.17	16.69	N-32°-W
6	1	920～928-862～870		隅丸方形	6.45	5.81	1.11	79	35.88	28.66	N-46°-W
6	2	894～898-858～863		隅丸方形	3.78	3.58	1.06	69	12.89	7.37	N-46°-W
6	3	867～870-859～864	3溝より旧	隅丸方形	3.68	[3.38]		63	[11.26]	[8.72]	N-51°-E
6	4	881～885-856～862	18土坑より新	隅丸長方形	5.03	4.21	1.19	75	20.76	13.78/9.69	N-82°-W
6	5	883～888-841～845		隅丸長方形	[4.19]	3.93		45	[13.26]	[9.28]	N-3°-W
6	6	889～892-836～841	1溝より旧	隅丸長方形	3.96	3.01	1.28	41	(11.46)	(9.30)	N-68°-W
6	7	873～881-868～875	558ピット	隅丸長方形	6.52	4.66	1.40	54	29.78	20.87	N-63°-E
6	8	872～878-850～856	11・14・19土坑、398・405・406ピット	隅丸方形	4.91	4.53	1.08	65	21.52	15.38	N-41°-E
6	9	877～882-842～848	14・51溝、17・21土坑、403・404・417ピット	隅丸長方形	[5.58]	5.04		62	[25.78]	[22.15]	N-85°-E
6	10	884～889-847～852	11住、43土坑より新、36・49土坑	隅丸長方形	(4.63)	(3.38)	(1.37)	9	(14.34)	(11.13)	N-30°-W
6	11	884～888-846～852	10住、36・43・46～49土坑、402・414ピット	隅丸方形?	4.53	4.47	1.01	69	19.10	13.06	N-57°-E
6	12	899～904-842～847	651・652ピット	隅丸方形	4.64	4.33	1.07	74	19.13	14.18	N-62°-E
6	13	945～949-775～780	59溝	隅丸長方形	3.66	2.73	1.34	44	9.63	7.67	N-39°-E
6	14	931～936-790～795		隅丸方形	4.11	3.80	1.08	35	14.93	12.39	N-46°-E
6	15	947～951-803～807		隅丸方形	3.88	3.28	1.18	47	11.80	9.18	N-44°-E
6	16	944～948-809～815		隅丸長方形	5.17	3.96	1.31	50	18.88	13.07	N-67°-E
6	17	923～934-794～803		隅丸方形	7.78	7.58	1.03	63	57.03	50.60	N-45°-W
6	18	936～941-844～849		隅丸方形	4.32	3.77	1.15	57	15.52	12.09	N-16°-W
6	19	916～920-801～805		隅丸長方形	3.90	2.82	1.38	41	10.90	7.50	N-16°-W
6	20	920～924-807～811	11掘立より旧	隅丸方形	3.74	3.24	1.15	37	11.49	9.26	N-32°-W
6	21	929～934-814～819	26住より新	隅丸長方形	4.71	3.52	1.34	64	16.30	12.65	N-51°-E
6	22	930～933-783～789		隅丸長方形	4.14	3.42	1.21	35	12.83	9.79	N-66°-E
6	23	938～942-799～804	24住より新	隅丸台形か	(4.05)	3.80	(1.07)	34	(12.96)	(9.00)	N-37°-E
6	24	934～942-798～806	23住より旧、200土坑より新	隅丸方形	6.52	6.31	1.03	83	39.67	31.56	N-50°-E
6	25	919～927-824～831	61溝より旧	隅丸方形	5.91	5.64	1.05	66	(32.67)	(28.39)	N-41°-W
6	26	925～932-814～821	21住より旧	隅丸方形	5.63	5.39	1.04	65	28.87	22.45	N-36°-W
6	27	920～927-893～901		隅丸方形	6.05	5.98	1.01	71	34.58	28.68	N-43°-W
6	28	928～932-888～893		隅丸長方形	4.33	[3.53]		60	[14.66]	[11.67]	N-69°-E
6	29	927～931-880～885	31住より新	隅丸方形	4.21	4.12	1.02	61	15.46	11.07	N-65°-E
6	30	923～927-875～880	31住より新	隅丸長方形	4.31	2.72	1.58	39	11.28	8.69	N-16°-W
6	31	924～932-875～883	29・30住	隅丸方形	(6.48)	6.25	(1.04)	61	(38.36)	(33.76)	N-38°-W
6	32	936～941-867～873	41住より旧か	隅丸長方形?	5.58	[3.24]		52	[15.22]	[13.36]	N-42°-E
6	33	939～942-764～768		隅丸長方形	3.18	2.91	1.09	27	8.49	6.97	N-45°-W
6	34	948～950-758～761	35住より新	隅丸方形?	[2.78]	[0.94]		31	[2.27]	[1.72]	N-70°-W

第4節 古墳時代後期～平安時代

区	No.	位置(Gr)	重複	平面形態	長辺 m	短辺 m	長辺/ 短辺	壁高 cm	面積 ㎡	床面積 ㎡	主軸方位
6	35	948～950-759～761	34住より旧	隅丸方形?	[2.18]	[1.52]		35	[2.43]	[1.77]	N-55°-W
6	36	904～910-826～832		隅丸方形	5.37	4.91	1.09	54	25.37	21.13	N-46°-W
6	37	915～920-835～841		隅丸長方形	5.80	3.78	1.53	49	20.74	15.98	N-88°-W
6	38	923～925-837～840		隅丸長方形	2.42	2.09	1.16	39	4.89	3.39	N-59°-E
6	39	926～930-848～853	199土坑より新	隅丸長方形	3.75	2.74	1.37	55	10.04	7.86	N-77°-E
6	40	935～940-850～855		隅丸方形	4.26	4.23	1.01	68	17.19	13.29	N-46°-W
6	41	934～940-863～870	32住より新か	隅丸方形	5.39	4.92	1.10	51	25.52	21.88	N-22°-W
6	42	938～942-862～865		隅丸方形	3.17	3.06	1.04	39	9.21	7.47	N-42°-W
7	1	972～975-788～791		不明	2.32	[1.88]		24	[3.99]	[3.58]	N-47°-W
7	2	976～981-792～796	5土坑より新	隅丸長方形	4.34	3.13	1.39	21	12.71	11.12	N-46°-E
7	3	980～984-798～801		隅丸長方形?	[2.67]	2.43		26	[6.27]	[5.16]	N-44°-E
7	4	974～977-806～808	8・13溝より旧	不明	[1.88]	[1.84]		45	[2.74]	[1.98]	N-28°-E
7	5	965～967-818～822		隅丸長方形?	4.01	2.73	1.47	9	[7.73]	[6.98]	N-69°-E
7	6	954～957-777～781		隅丸方形か	3.75	3.58	1.05	73	[9.46]	[6.81]	N-64°-E

第16表 古墳～平安時代竪穴住居カマド一覧表

区	No.	位置	全長 m	幅 m	主軸方位
1	1	北壁東	0.82	0.64	N-7°-E
1	2	東壁南	1.18	1.12	N-76°-W
1	3	北壁中央	1.06	1.14	N-2°-E
1	4	東壁南	0.93	1.20	N-77°-E
1	5	北壁やや東	1.84	1.37	N-24°-E
1	6	北壁中央	1.74	0.72	N-10°-E
1	7	北壁やや東	1.48	1.30	N-16°-E
4	26	東壁	1.10	1.42	N-10°-W
5	8	北壁中央	0.90	0.49	N-8°-W
5	43	北壁中央	1.51	0.61	N-29°-W
5	56	北壁西	1.65	0.84	N-39°-W
5	99	東壁南か	1.36	0.90	N-25°-W
5	128	北壁やや東	1.90	1.01	N-35°-W
5	206	北壁やや東	1.21	1.22	N-29°-W
		西壁中央	1.16	0.37	N-56°-E
5	207	不明	—	—	—
5	208	不明	—	—	—
5	209	北壁東	1.49	1.12	N-42°-W
5	210	東壁南	1.21	0.81	N-86°-E
5	214	東壁南	2.09	0.61	N-62°-E
5	245	北壁中央	1.50	1.06	N-58°-E
5	286	東壁やや南	1.20	0.81	N-55°-E
5	304	東壁やや南	1.33	1.59	N-55°-E
		西壁北	1.18	0.63	N-57°-E
5	430	北壁中央	1.28	1.15	N-30°-E
6	1	北壁中央	2.44	1.01	N-45°-W
6	2	北壁やや東	0.78	0.37	N-46°-W
		東壁やや南	0.50	0.62	N-49°-E
6	3	東壁南	1.98	0.78	N-5 6°-E
6	4	東壁南	1.48	1.26	N-76°-W
6	5	北壁東か?	1.01	0.47	N-4°-E
6	6	不明	—	—	—
6	7	東壁やや北	2.35	1.12	N-50°-E
6	8	東壁やや南	2.14	1.34	N-43°-E
6	9	不明	—	—	—
6	10	北壁東	0.73	0.80	N-26°-W
6	11	東壁南	1.90	1.86	N-60°-E
6	12	東壁やや南	1.40	1.14	N-65°-E
6	13	東壁南	1.83	0.62	N-45°-E

区	No.	位置	全長 m	幅 m	主軸方位
6	14	東壁南	1.36	1.08	N-52°-E
6	15	東壁中央	1.57	0.37	N-48°-E
6	16	東壁やや北	2.01	0.90	N-66°-E
6	17	北壁中央	1.45	1.07	N-39°-W
6	18	北壁東	1.54	0.74	N-17°-W
		東壁南	0.95	0.69	N-70°-E
6	19	北壁中央	1.45	0.84	N-14°-W
		東壁やや南	1.23	0.86	N-79°-E
6	20	北壁中央	2.09	0.85	N-30°-W
6	21	東壁南	1.69	0.82	N-49°-E
6	22	東壁南	1.64	0.76	N-86°-E
6	23	北壁中央	1.24	1.38	N-33°-E
6	24	東壁やや南	2.44	0.95	N-50°-E
		北壁やや西	2.40	1.12	N-39°-W
6	25	不明	—	—	—
6	26	北壁やや東	0.66	0.85	N-38°-W
6	27	北壁やや東	1.34	1.07	N-41°-W
6	30	東壁やや南	1.52	1.12	N-71°-E
6	29	東壁中央	1.50	1.01	N-58°-E
6	30	北壁東	1.46	0.90	N-14°-W
6	31	北壁やや東	2.04	0.92	N-38°-W
6	32	不明	—	—	—
6	33	南壁やや西	0.93	0.79	N-44°-W
6	34	不明	—	—	—
6	35	不明	—	—	—
6	36	北壁やや西	2.09	1.14	N-48°-W
6	37	東壁中央	1.71	1.46	N-72°-E
6	38	東壁やや南	0.75	0.83	N-57°-E
6	39	東壁やや南	1.42	1.23	N-76°-E
6	40	北壁中央	2.08	1.24	N-47°-W
6	41	北壁中央	1.16	1.01	N-27°-W
6	42	北壁中央	1.13	0.73	N-45°-W
7	1	不明	—	—	—
7	2	東壁南	1.13	0.72	N-42°-E
7	3	東壁南	0.96	0.87	N-52°-E
7	4	東壁	1.36	[0.53]	N-33°-E
7	5	東壁	—	—	—
7	6	不明	—	—	—

第三章 検出された遺構と出土遺物

第 17 表 古墳～平安時代竪穴住居貯蔵穴・柱穴一覧表

区	No.	貯蔵穴							柱穴 1			柱穴 2			柱穴 3			柱穴 4			柱間距離 (m)					
		位置	平面形態	断面形態	長径 cm	短径 cm	長/短	深さ cm	長径 cm	短径 cm	深さ cm	長径 cm	短径 cm	深さ cm	長径 cm	短径 cm	深さ cm	長径 cm	短径 cm	深さ cm	1-2	2-3	3-4	4-1		
1	1	なし																								
1	2	なし																								
1	3	なし																								
1	4	なし																								
1	5	なし																								
1	6	なし																								
1	7	(カマド左脇)	楕円形				68	44	1.55	19																
4	26	不明																								
5	8	不明																								
5	43	なし																								
5	56	なしか																								
5	99	不明																								
5	128	なし																								
5	206	北カマド右脇	円形	段のある皿状			78	73	1.07	34	48	42	21	30	28	19	(40)	32	27	27	23	25	3.00	2.56	2.92	2.88
5	207	不明																								
5	208																									
5	209	なしか																								
5	210	なし																								
5	214	なしか																								
5	245	カマド右脇	楕円形				63	34	1.85	40	41	40	33	36	31	41	43	39	36	30	27	19	1.30	1.96	1.58	2.08
5	286	なし																								
5	304	カマド右脇	楕円形	台形			105	83	1.27	21	46	40	53	35	33	55	41	36	50	41	39	55	2.53	2.45	2.40	2.40
5	430	カマド右脇	隅丸方形	皿状			60	58	1.03	25																
6	1	カマド右脇	円形	ゆがんだ台形			62	57	1.09	16	36	28	29	40	33	35	26	18	39	56	47	21	3.02	3.38	2.98	3.46
6	2	(東カマド右脇)	円形																							
6	3	なし																								
6	4	(カマド右脇)	円形	台形			83	74	1.12	26																
6	5	不明																								
6	6	不明																								
6	7	なしか																								
6	8	カマド右脇	円形	台形			60	51	1.18	22																
6	9	不明																								
6	10	なしか																								
6	11	なし																								
6	12	なし									28	24	20	21	19	27	25	22	28	27	25	25	1.61	1.90	1.75	2.01
6	13	なし																								
6	14	カマド右脇	円形	丸みを帯びた台形			37	33	1.12	18																
6	15	なし																								
6	16	なし																								
6	17	カマド右北東隅	楕円形	段のある皿状			93	71	1.31	32	36	35	13	39	37	13	38	36	23	33	25	24	4.35	4.23	4.55	4.30
6	18	なし																								
6	19	なし																								
6	20	なし																								
6	21	カマド右脇	楕円形	丸みを帯びた台形			42	27	1.56	8																
6	22	(カマド右脇)	楕円形	台形			43	39	1.10	31																
6	23	なし																								
6	24-1	東カマド右脇	楕円形	丸みを帯びた台形			84	73	1.15	18	68	62	53	42	36	32	43	31	14	33	31	53	2.63	2.91	2.98	2.80
6	24-2	北カマド左手前	楕円形	楕円形			103	78	1.32	47																
6	25	北東部(カマド右脇か)	楕円形	皿状			[77]	58		16	59	45	80	42	37	54	78	59	61	69	61	87	3.10	3.05	2.99	3.53
6	26	カマド右脇	楕円形	丸みを帯びた台形			50	38	1.32	21																
6	27	カマド右脇	楕円形	丸みを帯びた台形			67	46	1.46	24	28	26	28	35	—	34	34	28	41	31	29	47	3.38	3.29	3.23	3.35
6	28	なし																								
6	29	なし																								

第4節 古墳時代後期～平安時代

区	No.	貯蔵穴						柱穴1			柱穴2			柱穴3			柱穴4			柱間距離 (m)				
		位置	平面形態	断面形態	長径 cm	短径 cm	長/短	深さ cm	長径 cm	短径 cm	深さ cm	長径 cm	短径 cm	深さ cm	長径 cm	短径 cm	深さ cm	長径 cm	短径 cm	深さ cm	1-2	2-3	3-4	4-1
6	30	なし																						
6	31	なし						29	27	51	39	36	51	37	31	61	41	39	46	3.35	3.07	3.34	3.19	
6	32	不明																						
6	33	なし																						
6	34	不明																						
6	35	不明																						
6	36	カマド左脇	隅丸方形	やや丸みを帯びた台形	96	87	1.10	39	24	20	33	30	19	21	29	25	37	25	21	26	2.16	2.13	2.12	2.11
6	37	カマド左脇	楕円形	丸みを帯びた台形	112	92	1.22	31																
6	38	なし																						
6	39	カマド右脇	円形	丸みを帯びた台形	50	46	1.09	29																
6	40	なし																						
6	41	カマド右北東隅	楕円形	皿状	84	68	1.24	38	55	51	58	35	32	45	33	27	21	35	29	33	2.03	2.04	2.01	2.16
6	42	なし																						
7	1	不明																						
7	2	カマド右脇	楕円形	丸みを帯びた台形	71	56	1.27	22																
7	3	なし																						
7	4	カマド右脇	楕円形	丸みを帯びた台形	74	58	1.28	24																
7	5	カマド右脇	楕円形	皿状	53	48	1.10	13																
7	6	なし																						

第18表 古墳～平安時代竪穴住居出土土器重量表

区	No.	土師器			須恵器			その他 g	灰釉陶器 g	計
		甕 g	杯 g	小計	甕 g	杯 g	小計			
1	1		50	50			0			50
1	2	1080	120	1200		170	170	70		1440
1	3	700	5	705		30	30			735
1	4	900	40	940	40	240	280	50		1270
1	5	70		70			0			70
1	6	3610		3610		65	65	65		3740
1	7		300	300		40	40			340
4	26	190	10	200			0			200
5	8	1150	130	1280	130		130			1410
5	43	4620	580	5200	300	1500	1800	9		7009
5	56	1950	90	2040		30	30	50		2120
5	99	2150	220	2370	50	125	175			2545
5	128	2330		2330	245		245	110		2685
5	206	5190	1475	6665	250		250			6915
5	207	1070	340	1410	290	30	320			1730
5	208	10	25	35			0			35
5	209	810	50	860	160	60	220			1080
5	210	790	70	860	50		50			910
5	214	1740	320	2060	40	40	80			2140
5	245	1110	115	1225		180	180			1405
5	286	2040	960	3000	100	50	150			3150
5	304	2900	430	3330	140	95	235			3565
5	430	670	160	830	50		50			880
6	1	5730	715	6445	450	65	515			6960
6	2	1100	350	1450	600		600	45		2095
6	3	5120	545	5665	10	35	45			5710
6	4	3170	300	3470	50	150	200			3670
6	5	3330	270	3600	1450	250	1700			5300
6	6	435	150	585	10	30	40			625
6	7	4950	780	5730	250	30	280			6010
6	8	430	270	700	25		25			725
6	9	3200	1100	4300	230	330	560			4860
6	10.11	4820	210	5030	50	50	100			5130
6	12	5530	420	5950	5	5	10			5960

区	No.	土師器			須恵器			その他 g	灰釉陶器 g	計
		甕 g	杯 g	小計	甕 g	杯 g	小計			
6	13	650	230	880	90		90		14	984
6	14	1700	170	1870	250	270	520		7	2397
6	15	80	50	130		90	90			220
6	16	7600	190	7790	280	600	880			8670
6	17	3340	310	3650	330	230	560			4210
6	18	2950	200	3150	270	520	790			3940
6	19	3070		3070	370	130	500			3570
6	20	1020	3	1023			0			1023
6	21	620	80	700	20	170	190			890
6	22	1730	90	1820		340	340			2160
6	23	2300	35	2335	90	360	450			2785
6	24	2780	900	3680		30	30			3710
6	25	810	80	890	60	30	90			980
6	26	1850	180	2030			0			2030
6	27	4470	670	5140	9550	180	9730			14870
6	28	5780	390	6170	280	260	540			6710
6	29	4340	390	4730	150	70	220			4950
6	30	1460	160	1620	1060	160	1220			2840
6	31	6370	840	7210	100	70	170			7380
6	32	1430	40	1470			0			1470
6	33	1440	105	1545			0			1545
6	34	10		10			0			10
6	36	2640	440	3080	120	20	140			3220
6	37	4470	40	4510	390	960	1350			5860
6	38	600		600		50	50			650
6	39	250	10	260	40	180	220			480
6	40	940	270	1210	470	10	480			1690
6	41	480	120	600			0			600
6	42	260	50	310	70		70			380
7	1	250		250		20	20			270
7	2	1120		1120		180	180			1300
7	3	280		280			0			280
7	4	960	50	1010			0			1010
7	6	180	30	210			0			210

1区1号住居 (第38図 PL.26-1~5)

位置 564 ~ 567-240 ~ 243Gr 重複関係 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 2.25m

短辺 2.04m 長辺/短辺 1.10 壁高 0.63m

面積 4.54㎡ 床面積 3.11㎡

主軸方位 N-7°-E 周溝 なし

貯蔵穴 なし 柱穴 なし

埋没土 ロームを含む暗褐色土・黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。 床面状態 ロームを主体とする黄褐色土で5~20cmの貼床とし、全体的に硬化。ほぼ水平な床面。

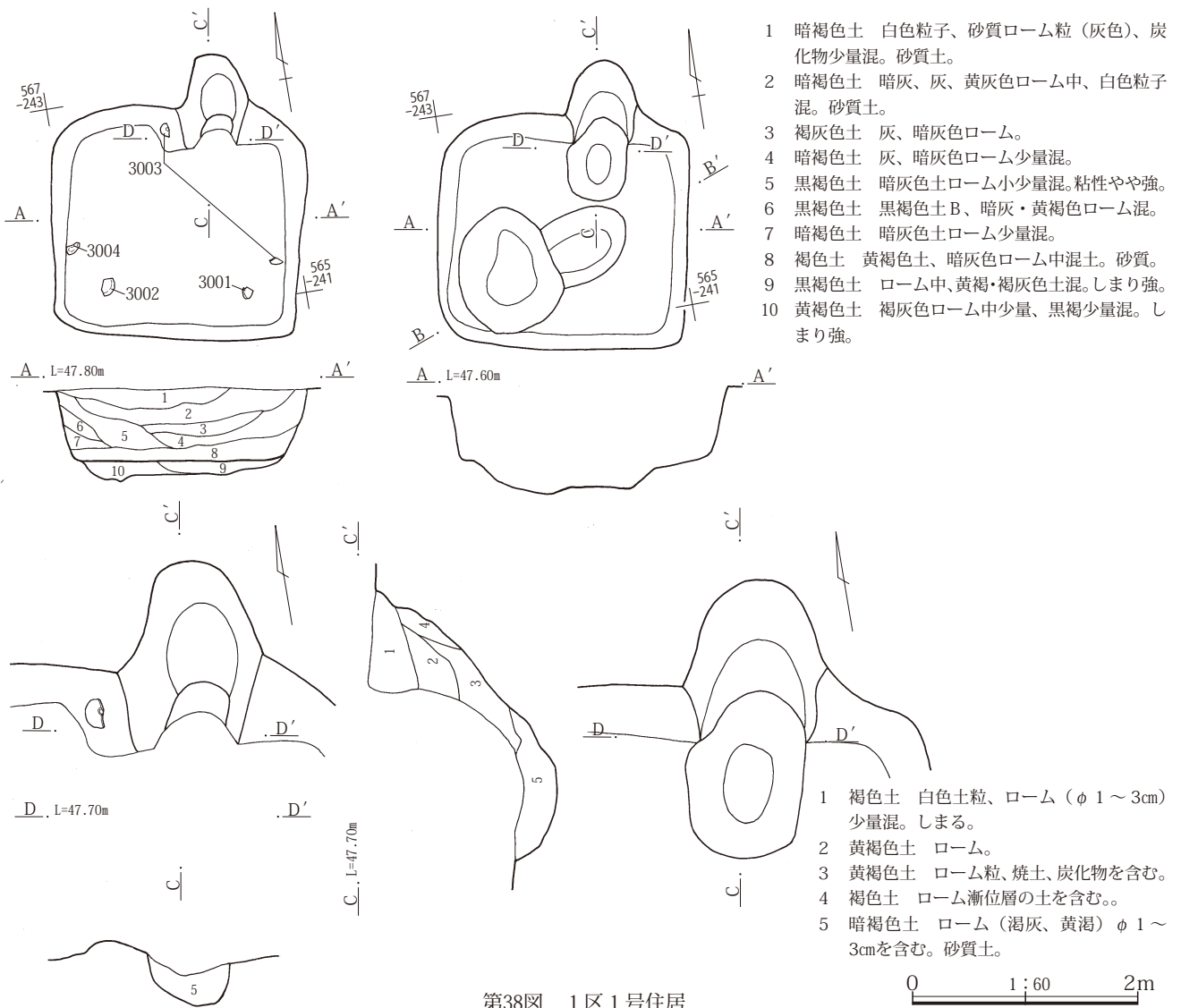
遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺と南側壁寄りを中心として出土。半完形のものが多く、いずれも床面から浮いた状態のもので、廃棄遺物の可能性が高い。

掘り方 床下土坑が、南西から住居中央部にかけて2基あり。他は平坦な掘り方。

カマド 北壁東部に位置し全長0.82m幅0.64mで、煙道部全長0.53m幅0.51mである。残存状況は悪く、袖構築材は不明である。壁面より外側では、地山ロームが焼土化し、炭化物等が検出された。焚口部は若干くぼみ、燃焼部から奥壁にかけて44°で立ち上がる。煙道部は短く、緩やかな傾斜である。左袖部から須恵器杯蓋(3003、住居埋土中の破片と接合)が出土している以外は、少量の破片が出土したのみである。

所見 面積が4.54㎡と当遺跡で最も規模の小さい住居である。柱穴・貯蔵穴・壁溝等はないが、しっかりしたカマドをもつため一般的な住居と考えられる。

時期 出土遺物から8世紀第2~第3四半紀と考えられる。



1区2号住居 (39・40図 PL.27-1~5)

位置 584～588-205～210Gr 重複関係 なし

平面形態 主軸方向に長い隅丸長方形

長辺 4.05m 短辺 3.26m 長辺/短辺 1.24

壁高 0.58m 面積 13.25㎡ 床面積 10.01㎡

主軸方位 N-75°-W 周溝 なし

貯蔵穴 なし 柱穴 なし

埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。埋設方向不明。

床面状態 ロームと暗褐色土の混土で6～13cmの貼床とする。ほぼ水平で、全体的に硬化。

遺物出土状況 出土量は比較的多く、完形・半完形の土器も数点ある。床面からやや上の4・5層出土のものが多いが、壁際の完形に近いものは遺棄遺物の可能性がある。また、中央北壁寄りの床面近くから、大形の

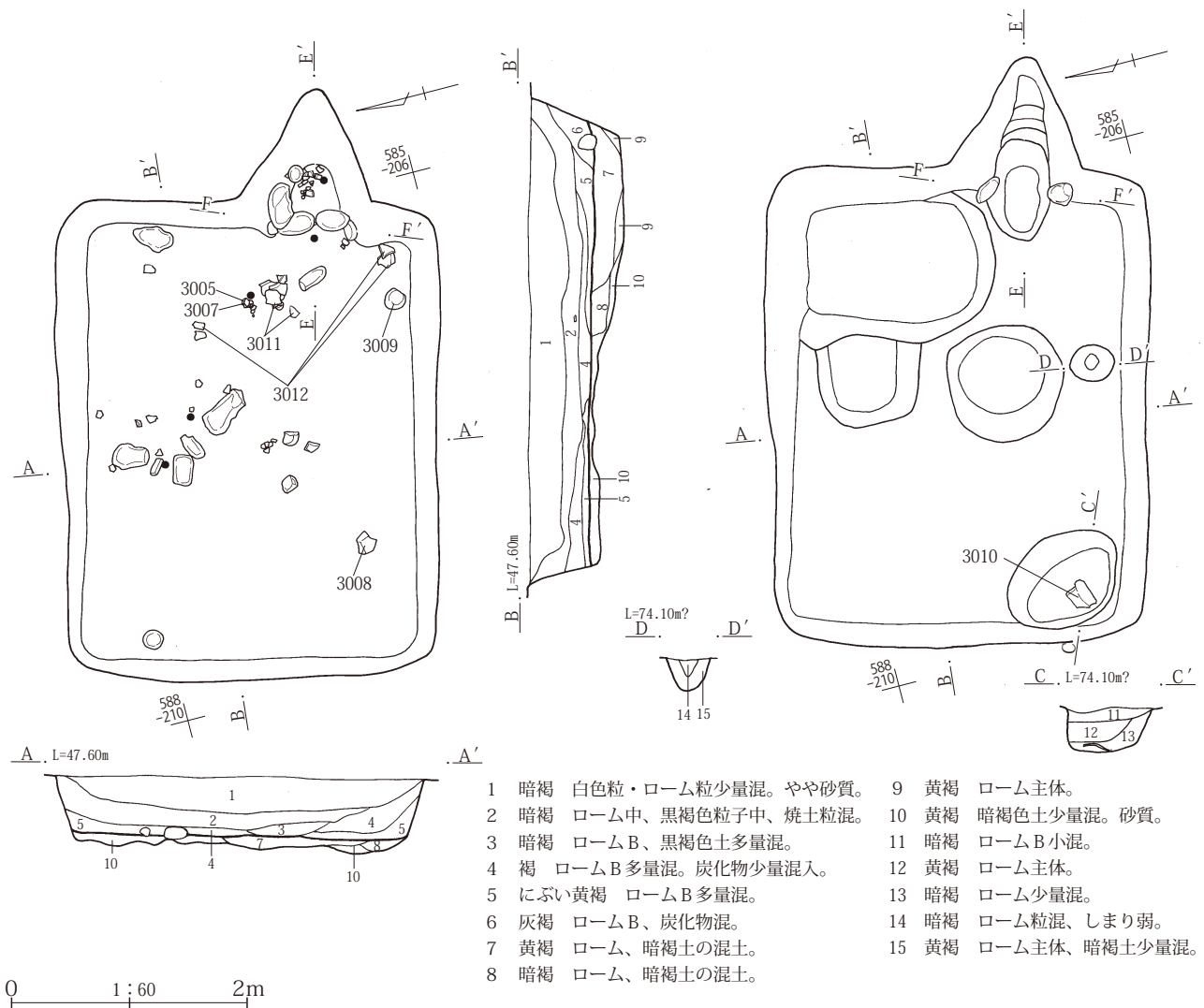
礫がまとまって出土。

掘り方 床下土坑4基あり。南西隅の土坑からは、土師器片が出土。中央部の土坑はほぼ円形で断面皿状にくぼむ。北東の2基は、隅丸方形で、急角度で掘られている。

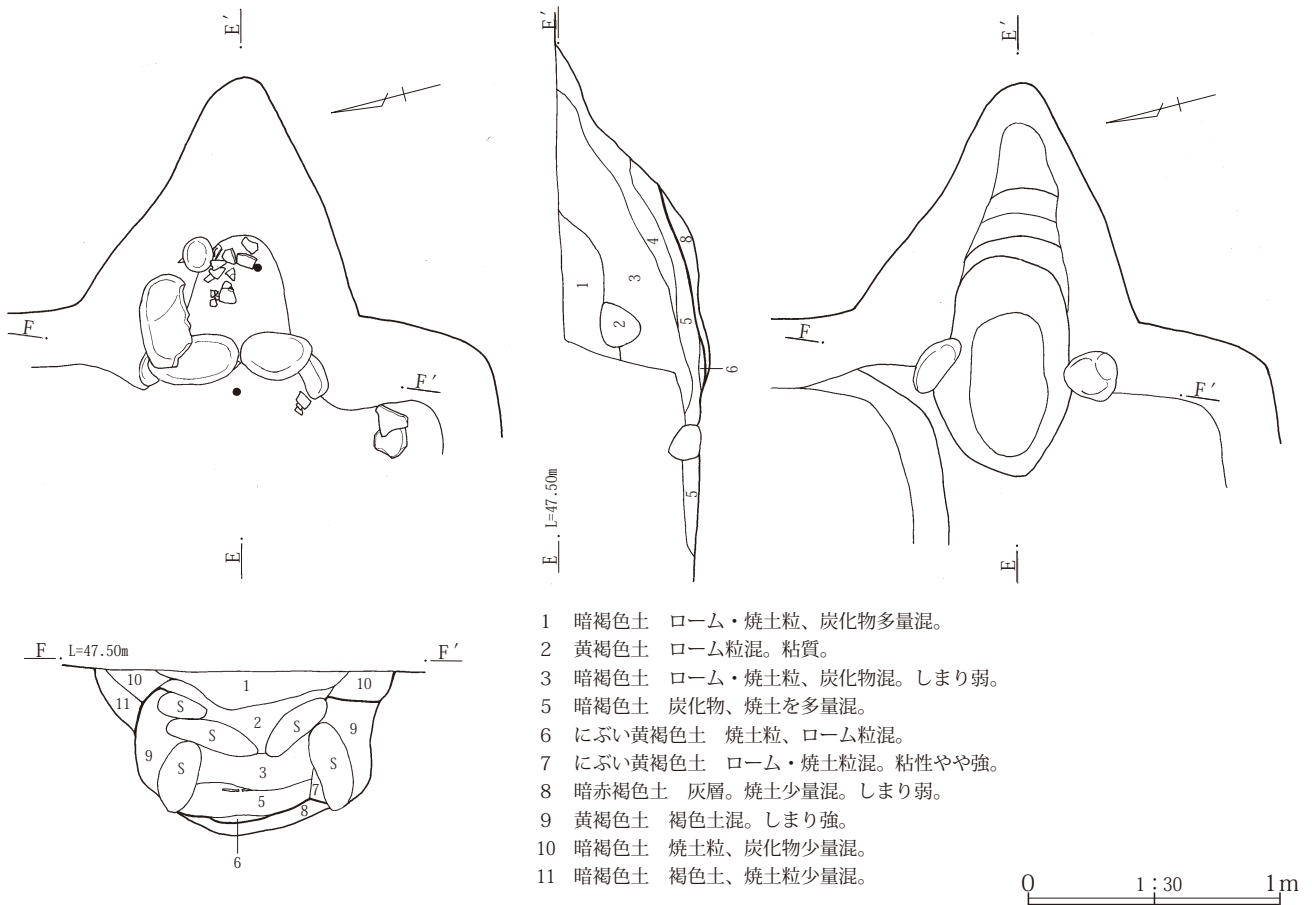
カマド 東壁南部に位置し、全長1.18m幅1.12mである。細長い自然礫を補強材とし、黄褐色土で袖を構築する。天井部にも扁平な自然礫を2個置き、黄褐色土で覆う。焚き口部・燃烧部底面はやや窪み、燃烧部奥壁は28°で立ち上がり、煙道部はやや緩やかに立ち上がる。煙道部内に土器片がまとまって出土しているが、量が少なく煙道壁面の補強材が崩れたものとするはできない。

所見 カマド補強材以外に、住居内からも自然礫が出土しており、他より礫を多用する住居である

時期 出土遺物から8世紀第3～第4四半紀と考えられる。



第39 1区2号住居使用面・掘り方



第40図 1区2号住居カマド

1区3号住居 (第41・42図 PL.28-1~5)

位置 595 ~ 599-206 ~ 210Gr 重複関係 なし

平面形態 主軸方向が短い隅丸長方形

長辺 4.45m 短辺 3.56m 長辺/短辺 1.25

壁高 0.68m 面積 15.8㎡ 床面積 12.48㎡

主軸方位 N-2°-E 周溝 なし

貯蔵穴 なし 柱穴 なし

埋没土 ロームを含むにぶい黄褐色土が、レンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 黄褐色砂質土で3~30cmの貼床とする。ほぼ水平で全体的に硬化。

遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺に土師器甕の破片が集中して出土しているが、他は埋土中に破片が散在。土師器甕が出土遺物の大部分を占めている。

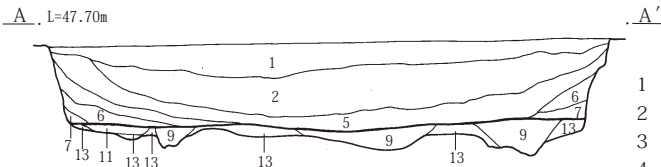
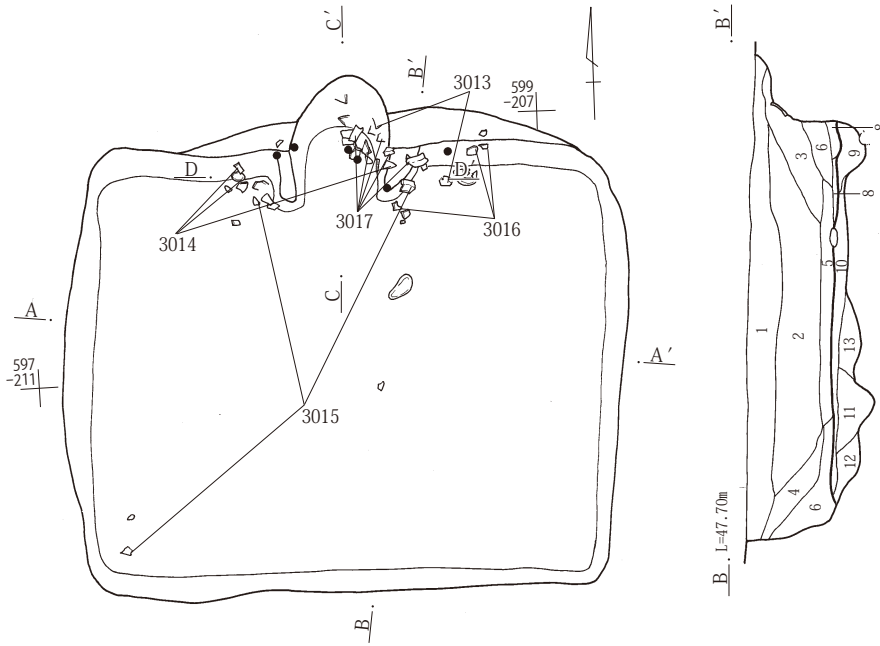
掘り方 ほぼ中央に円形で断面皿状の床下土坑、四隅には、浅い皿状のくぼみが見られる。

カマド 北壁中央部に位置し、全長1.06m幅1.14mである。砂質土を含む粘質土で袖を構築。燃烧部内にはロームを含むにぶい黄褐色土があり、天井部の崩れたものの可能性がある。焚口部・燃烧部は若干くぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁は33°で立ち上がる。燃烧部や袖部外側から、土師器甕の破片が出土。補強材の可能性もあるが、出土状況を見ると確実ではない。

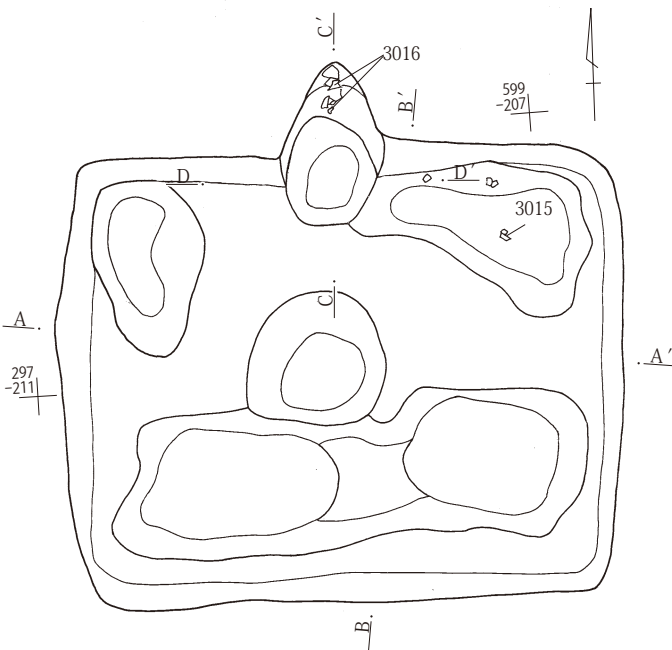
所見 出土遺物は、土師器杯・須恵器杯が若干あるだけで、ほとんどは土師器甕で、カマド周辺に偏って出土しており、他の住居と様相を異にしている。

時期 出土遺物から8世紀第3~第4四半紀と考えられる。

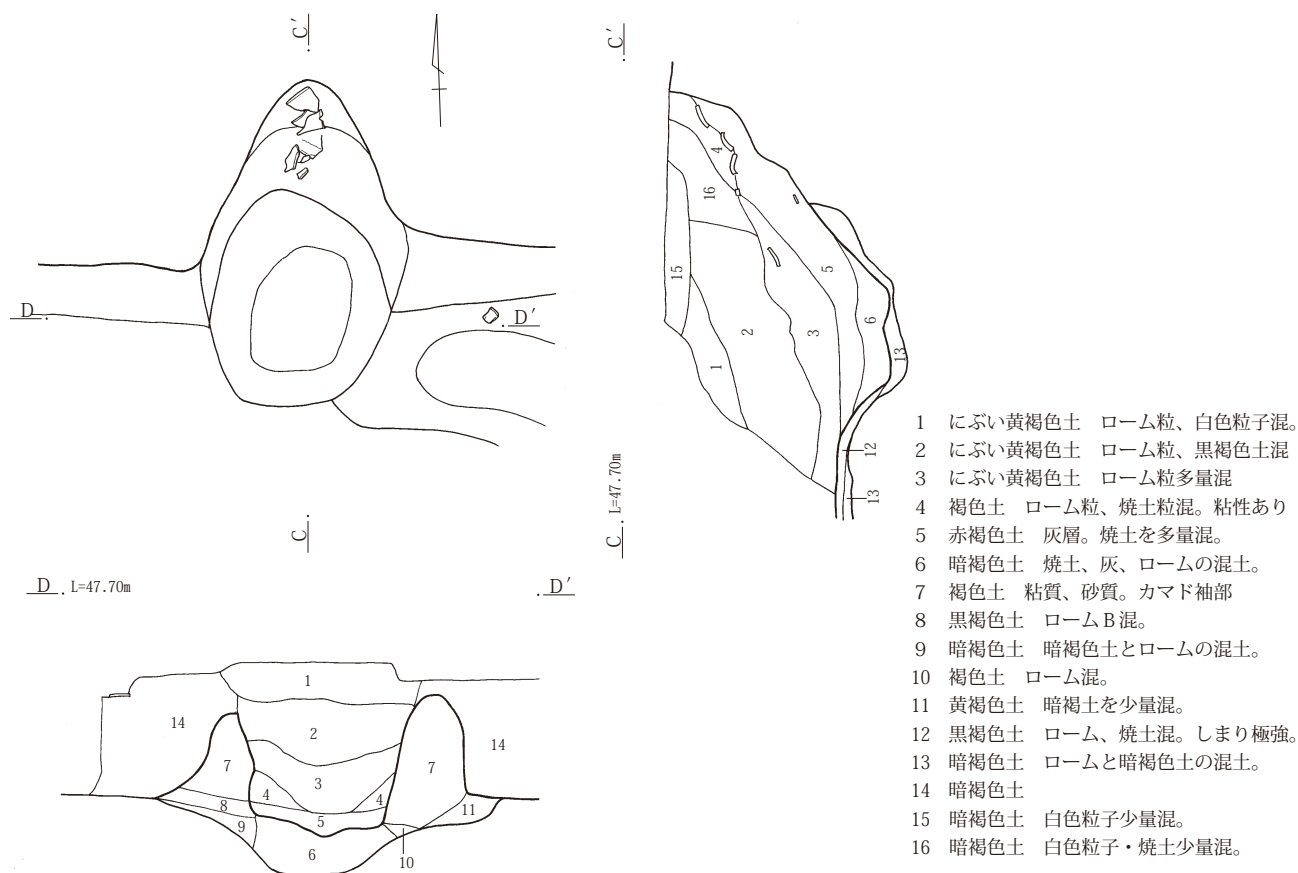




- 1 暗褐色土 白色粒子、黒褐色土B少量混。砂質。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム中・黄白色ローム小多量混。粘性やや強。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム多量混。
- 4 にぶい黄褐色土 ロームB中、黄白色ロームB小、黄褐色土B大混
- 5 にぶい黄褐色土 ローム主体。粘性やや強。
- 6 暗褐色土 黒褐色土、ロームB混。
- 7 黄褐色土 ローム、砂質土。
- 8 黒褐色土 灰、炭化物層。
- 9 にぶい黄褐色土 ローム、暗褐色土、黒褐色土混土。しまり強。
- 10 黄褐色土 砂質。
- 11 にぶい黄褐色土 黒褐色土、ローム混。
- 12 にぶい黄褐色土 黒褐色土少量混。
- 13 黄褐色土 砂質。褐色土少量混。しまり強。



第41図 1区3号住居使用面・掘り方



第42図 1区3号住居カマド

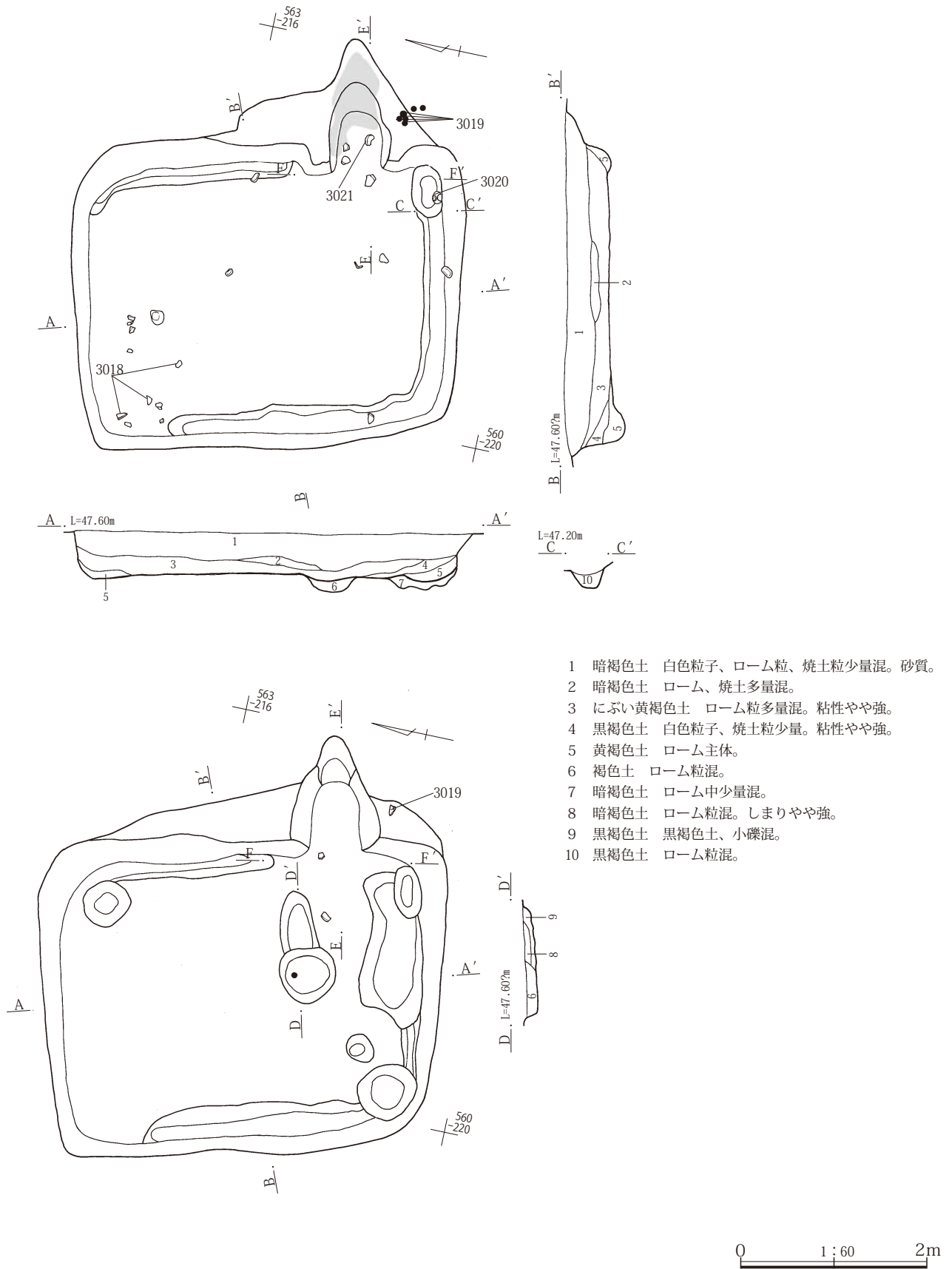
1区4号住居 (第43・44図 PL.29-1~4)

**位置** 560～564-216～221Gr **重複関係** 7号溝と重複。新旧不明 **平面形態** 主軸方向が短い隅丸長方形。 **長辺** 4.32m **短辺** 3.37m **長辺/短辺** 1.28 **壁高** 0.51m **面積** 14.85㎡ **床面積** 9.27㎡ **主軸方位** N-74°-E **周溝** 東壁・南壁～西壁 **貯蔵穴** なし **柱穴** なし **埋没土** ローム・焼土を含む褐色・暗褐色・黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。  
**床面状態** ほぼ水平で、やや軟弱。床下土坑・ピット以外は掘り方を床面とする。  
**遺物出土状況** 出土量は比較的多く、カマドや、北西部から多く出土している。南壁際出土3020およびカマド出土3021の須恵器杯・椀は遺棄遺物の可能性が高い。  
**掘り方** カマドの東側に、円形で断面皿状および楕円形の床下土坑が重複。北東隅と南西隅、南東隅に円形のピットあり。また、南壁際に楕円形の落ち込みあり。

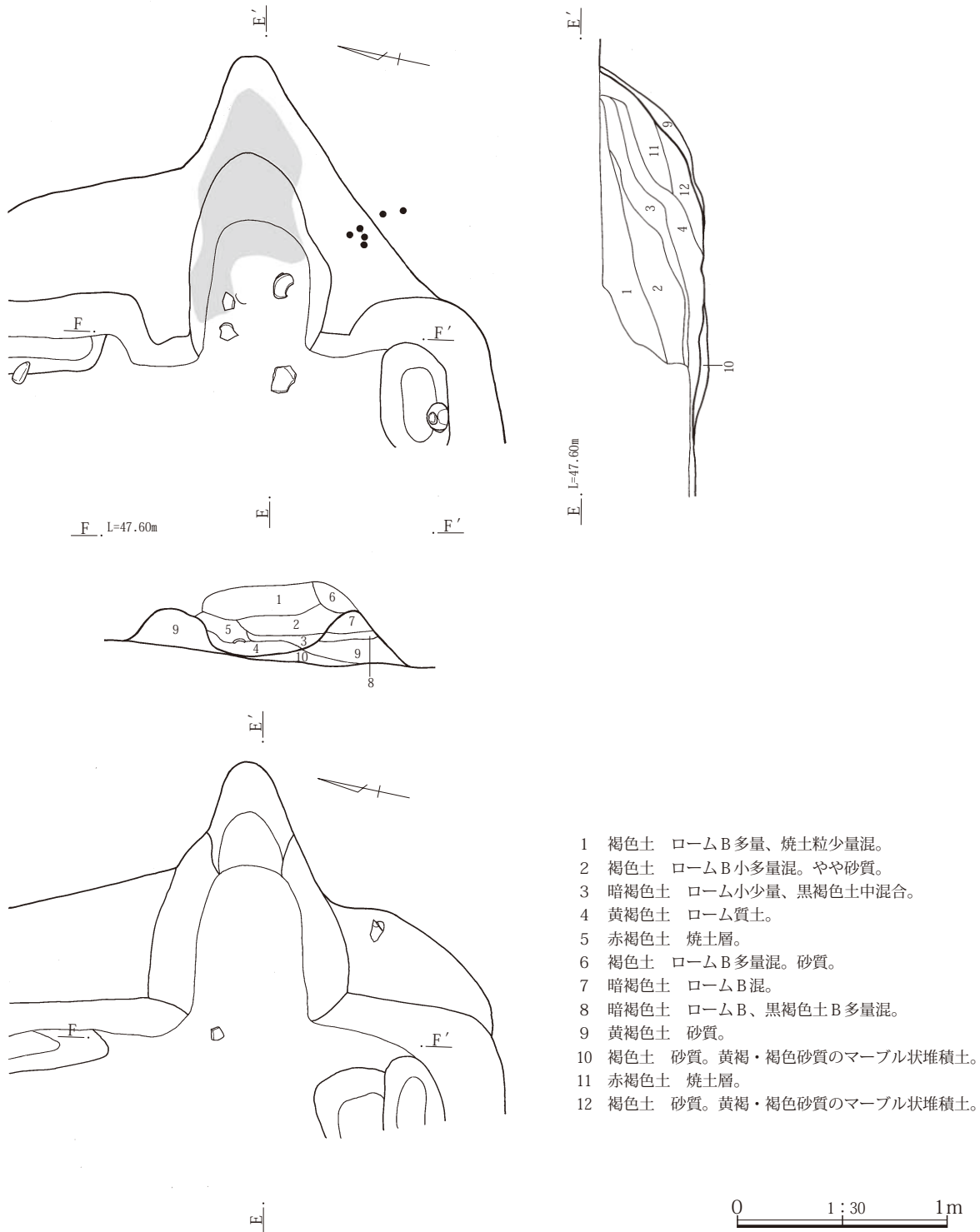
**カマド** 東壁南に位置し、全長0.93m幅1.20mで、煙道部長0.50m幅0.41mである。黄褐色粘質土で袖を構築。燃焼部内にはロームを含む黄褐色粘質土があり、天井部の崩れたものの可能性がある。焚き口部は若干くぼみ、灰層が見られる。燃焼部奥壁は38°で立ち上がる。燃焼部から、ほぼ完形の須恵器椀(3021)や、破片になってはいるがほぼ完形に復元できた須恵器杯(3019)等が出土している。

**所見** 住居壁の上とカマド煙道部張り出しの間に、段差が認められるが、柵状施設の可能性が考えられる。これを除いた住居のみの掘り込みを見ると、北西隅部が張り出す特異な形態となる。

**時期** 出土遺物から8世紀第2～第3四半紀と考えられる。



第43図 1区4号住居使用面・掘り方



第44図 1区4号住居カマド

**1区5号住居** (第45・46図 PL.29-5、30-1・2)  
 位置 570～574-221～226Gr  
 重複関係 6・7号溝と重複。新旧不明。  
 平面形態 主軸方向が短い隅丸長方形  
 長辺 4.60m 短辺 2.83m 長辺/短辺 1.63  
 壁高 0.54m 面積 12.61㎡ 床面積 8.09㎡  
 主軸方位 N-21°-E 周溝 カマドを除き全周。

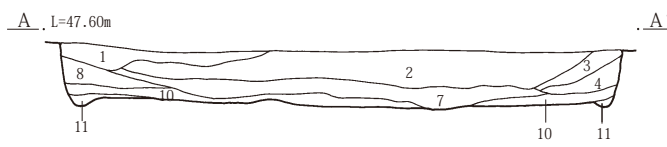
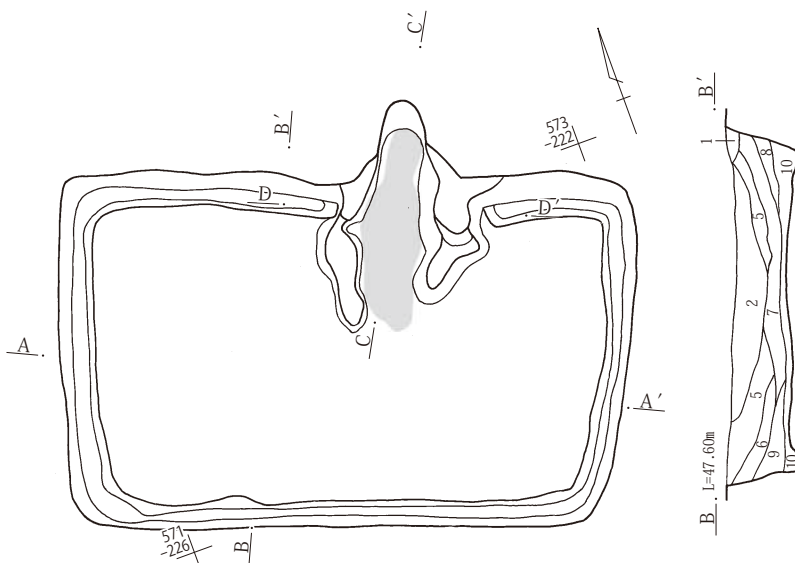
貯蔵穴 なし 柱穴 なし  
 埋没土 ロームブロックを含む暗褐色・褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。  
 埋没方向 不明。  
 床面状態 ほぼ水平でやや軟弱。掘り方を床面とする。  
 遺物出土状況 出土量は非常に少なく、土師器甕の破片が少量埋土中に散在しているだけである。

**掘り方** カマドの対面南壁際に小ピット2基あり。他は掘り方を床面とする。

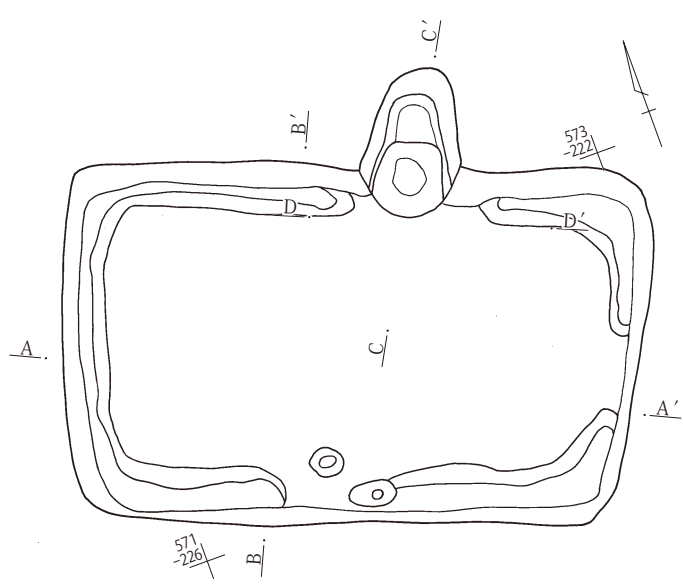
**カマド** 北壁やや東部に位置し、全長1.84m幅 1.37mである。黄褐色土を含む褐色砂質土で袖を構築。袖の前方にも同様な土が見られるが、カマドの構築材が流出した可能性あり。燃烧部に黄褐色粘質土と下部に焼土層があり、崩落した天井部と思われる。焚口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、灰層は見られない。奥壁は36°で立ち上がる。

**所見** カマドの反対側の壁面では、小ピットが検出されており、掘り方の周溝が切れていることから、出入り口の可能性があると考えられるが、東壁にも周溝が切れている部分があるため断定はできない。

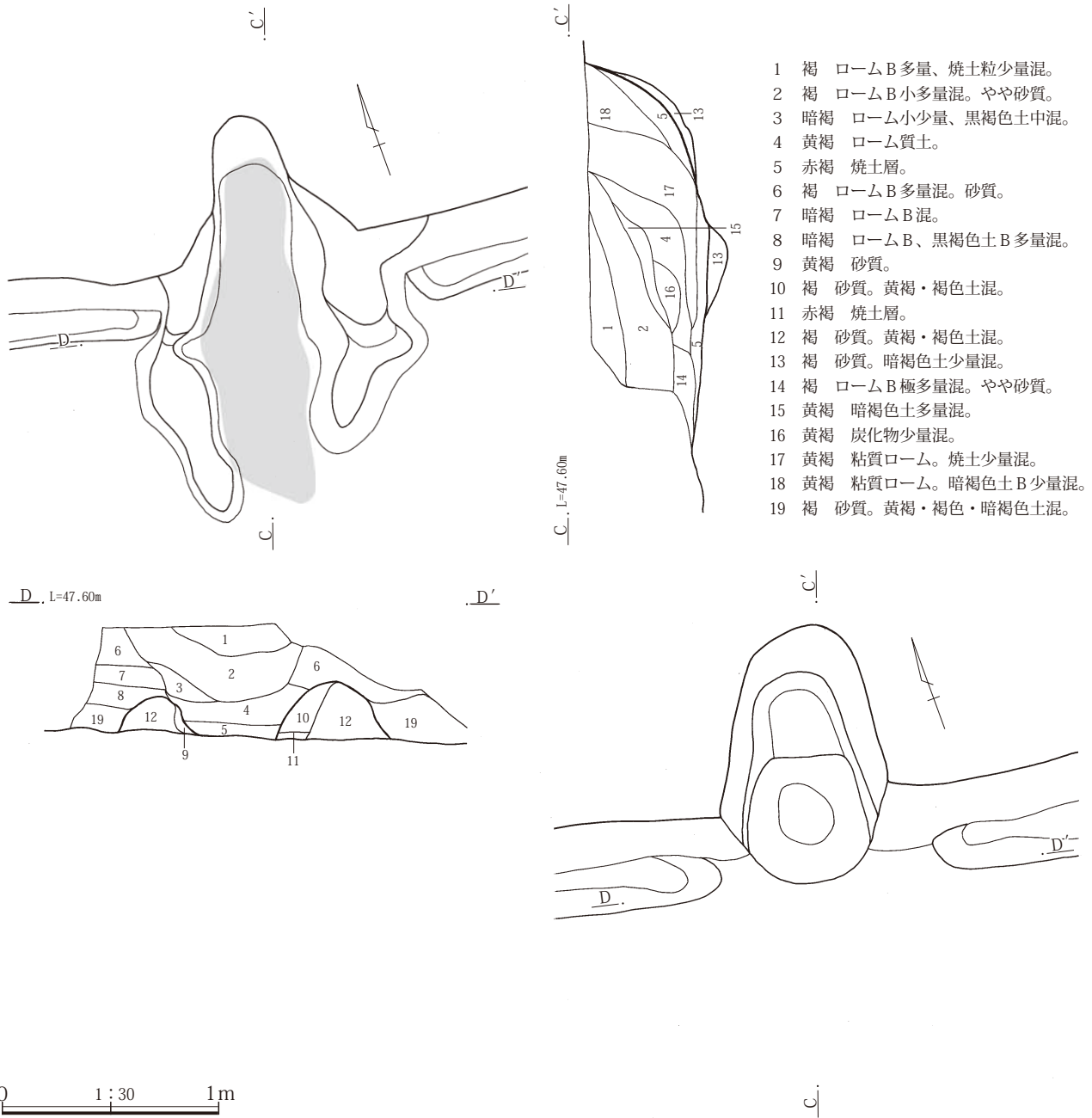
**時期** 出土遺物から8世紀第1～第2四半紀と考えられる。



- 1 褐色土 ロームB小混。
- 2 暗褐色土 ロームB中混。
- 3 黒褐色土 ローム粒、白色粒子混。
- 4 褐色土 ロームB小混。
- 5 にぶい黄褐色土 ロームB多量混。
- 6 暗褐色土 ロームB小混。
- 7 暗褐色土 ロームB、黒褐色土B中混。
- 8 暗褐色土 ロームB中少量混。
- 9 暗褐色土 ローム粒少量混。
- 10 にぶい黄褐色土 ローム大多量混。
- 11 黄褐色土 ローム主体。



第45図 1区5号住居使用面・掘り方



第46図 1区5号住居カマド

**1区6号住居** (第47・48図 PL.30-3~5、31-1・2)

**位置** 573~578-220~226Gr

**重複関係** 7号溝と重複。新旧不明。

**平面形態** 主軸方向が短い隅丸長方形

**長辺** 5.42m **短辺** 3.74m **長辺/短辺** 1.45

**壁高** 0.61m **面積** 19.09㎡ **床面積** 12.00㎡

**主軸方位** N-14°-E **周溝** カマドを除き全周。

**貯蔵穴** なし **柱穴** なし

**埋没土** ローム・焼土を含む暗褐色土が水平に堆積。壁際には、壁が崩落したと考えられる土等が三角堆積状にあり。

自然堆積と考えられるが確実ではない。埋没方向不明。

**床面状態** ローム主体の褐色・黄褐色土で一部を除き3~15cmの貼床とし、全体的に硬化。ほぼ水平で凹凸がない。

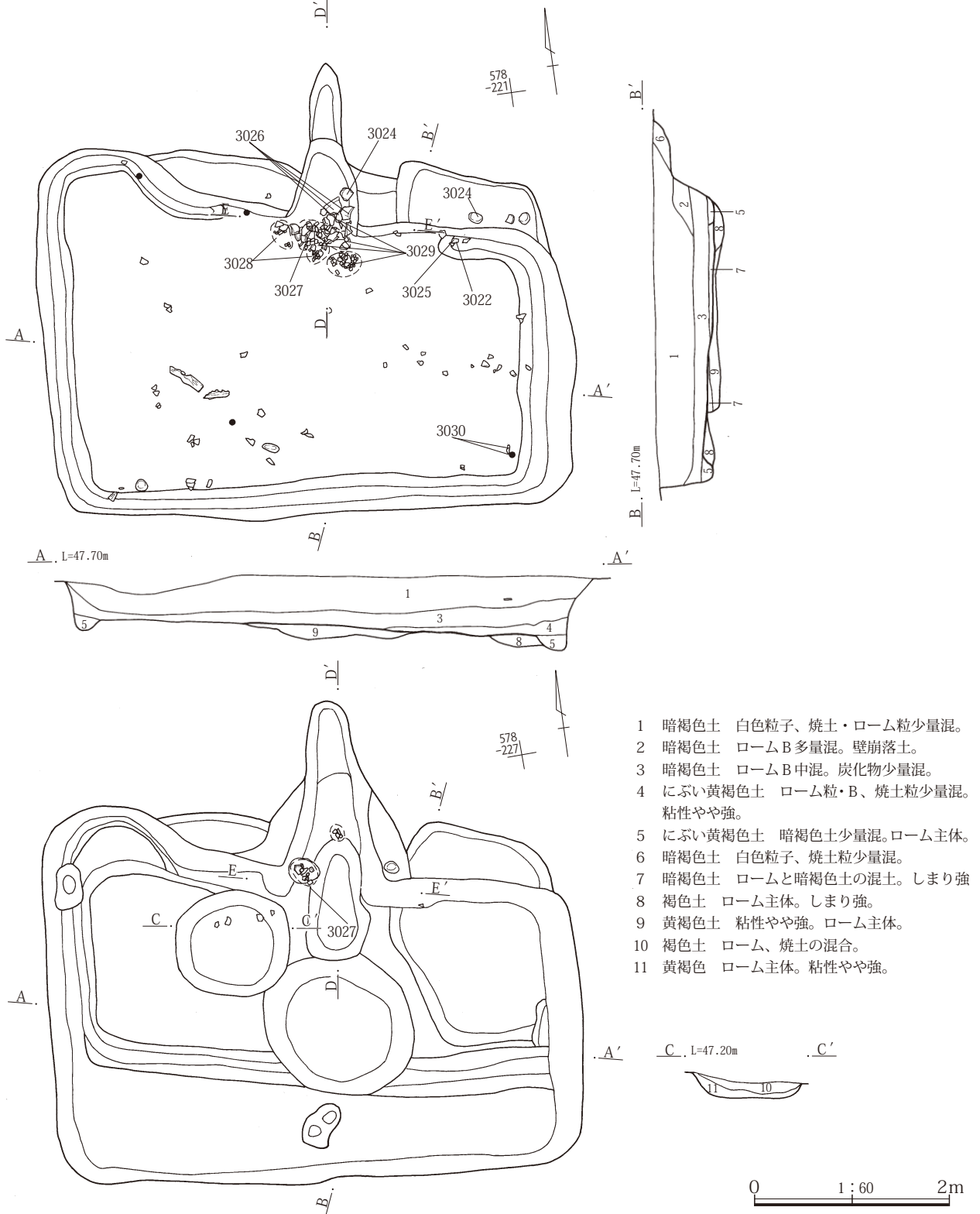
**遺物出土状況** 出土量は多く、ほぼ全面から出土している。3023の土師器杯はカマド右の棚状施設底面上の出土で、3022の土師器杯も棚場施設から落ちた状態であり、カマド出土の3024の土師器杯とともに遺棄遺物と考えられる。

**掘り方** ほぼ中央に、円形の床下土坑が検出されている。

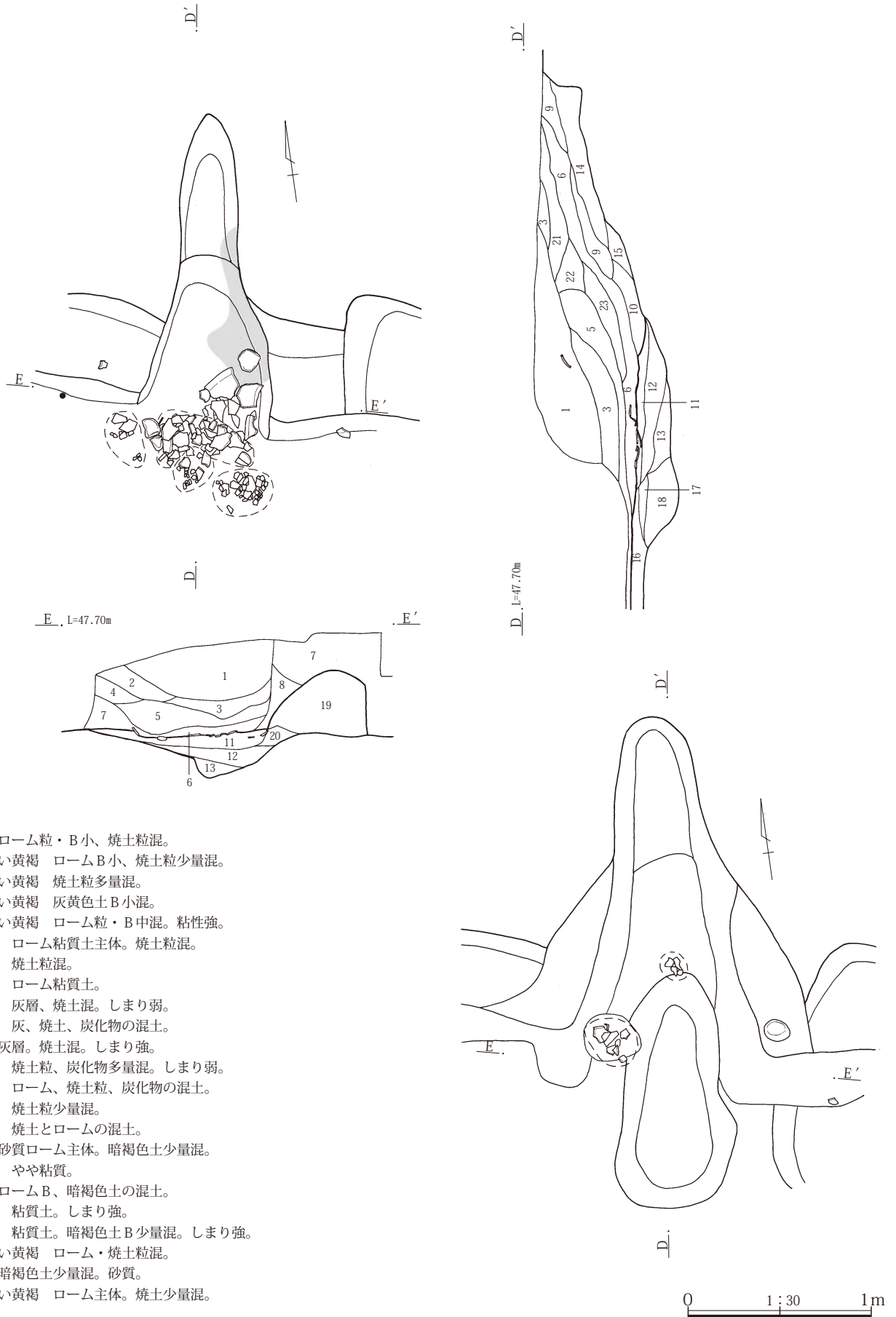
その他にカマドの西側と北東隅にも一段下がった土坑状掘り込みが検出された。また、中央やや南に東西方向の溝が検出され、旧周溝の可能性ある。

**カマド** 北壁中央部に位置し、全長1.74m幅0.72mで、煙道部全長0.76m幅0.30mである。黄褐色粘質土で袖を構築。焚口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、灰層が見

られる。燃烧部には天井部が崩落したと思われるにぶい黄褐色土が存在する。燃烧部奥壁の立ち上がりは21°で、煙道部底面はさらに緩やかに立ち上がる。焚き口部に土師甕の破片が多量に出土し(3026～3029)、天井部の補強材が崩れたものと思われる。燃烧部からも、土師器杯・甕の破片が出土している。



第47図 1区6号住居使用面・掘り方



- 1 褐 ローム粒・B小、焼土粒混。
- 2 にぶい黄褐 ロームB小、焼土粒少量混。
- 3 にぶい黄褐 焼土粒多量混。
- 4 にぶい黄褐 灰黄色土B小混。
- 5 にぶい黄褐 ローム粒・B中混。粘性強。
- 6 黄褐 ローム粘質土主体。焼土粒混。
- 7 暗褐 焼土粒混。
- 8 黄褐 ローム粘質土。
- 9 暗褐 灰層、焼土混。しまり弱。
- 10 暗褐 灰、焼土、炭化物の混土。
- 11 灰 灰層。焼土混。しまり強。
- 12 暗褐 焼土粒、炭化物多量混。しまり弱。
- 13 黄褐 ローム、焼土粒、炭化物の混土。
- 14 暗褐 焼土粒少量混。
- 15 黄褐 焼土とロームの混土。
- 16 褐 砂質ローム主体。暗褐色土少量混。
- 17 黄褐 やや粘質。
- 18 褐 ロームB、暗褐色土の混土。
- 19 黄褐 粘質土。しまり強。
- 20 黄褐 粘質土。暗褐色土B少量混。しまり強。
- 21 にぶい黄褐 ローム・焼土粒混。
- 22 褐 暗褐色土少量混。砂質。
- 23 にぶい黄褐 ローム主体。焼土少量混。

第48図 1区6号住居カマド



**所見** 床面には、炭化材等があり、覆土中にも焼土粒などが多いことから、焼失家屋の可能性もある。床面下の掘り方で、東西方向の周溝が検出され、拡張されたと考えられるが、この形態だと著しく横長になるため、确实ではない。北壁のカマド周辺は、一段下がっていることから棚状施設と考えられる。

**時期** 出土遺物から8世紀第3～第4四半紀と考えられる。

**1区7号住居** (第49・50図 PL.31-3～5、32-1)

**位置** 587～591-210～215Gr **重複関係** なし

**平面形態** 主軸方向が短い隅丸長方形

**長辺** 4.35m **短辺** 3.30m **長辺/短辺** 1.32

**壁高** 0.82m **面積** 14.64㎡ **床面積** 9.20㎡

**主軸方位** N-22°-E **周溝** なし

**貯蔵穴** カマド左脇にある、68×44cmの楕円形の掘り込みが、貯蔵穴と思われる。 **柱穴** なし

**埋没土** ロームを含む暗褐色・褐色土が、レンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** 粘性のある褐色土・黄褐色土で2～27cmの貼床とする。中央部は平坦であるが、南東隅、南壁際、南西隅に、土坑状の掘り込みあり。南西隅のものは、断面図から住居が埋没途中で掘られ、住居に伴わない可能性が高い。他の掘り込みも住居に伴わない可能性がある。

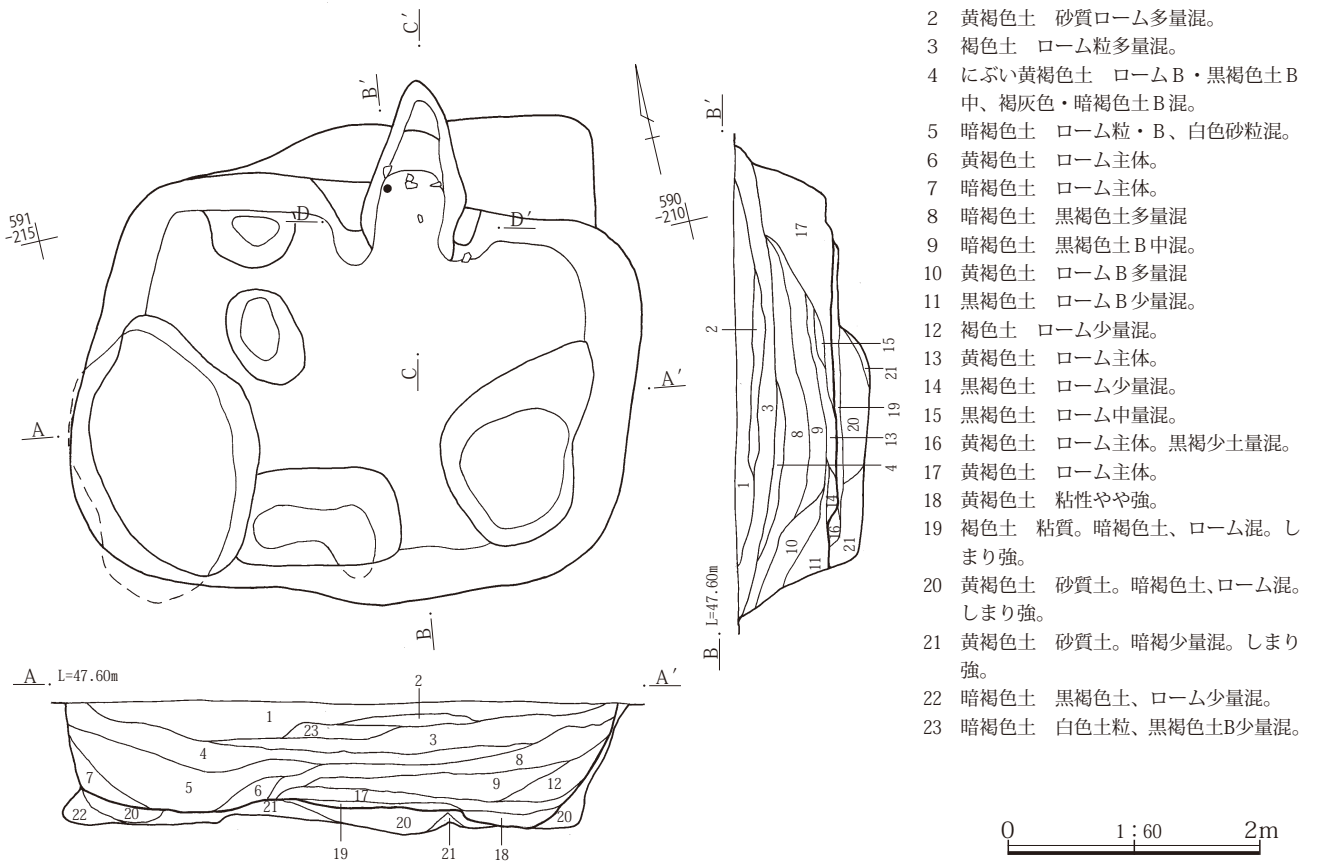
**遺物出土状況** 出土量は比較的少なく、埋土中に散在する。すべて小破片で、流入遺物がほとんどか。

**掘り方** 北部カマド周辺以外は、大きくくぼむ。底面はほぼ平坦である。

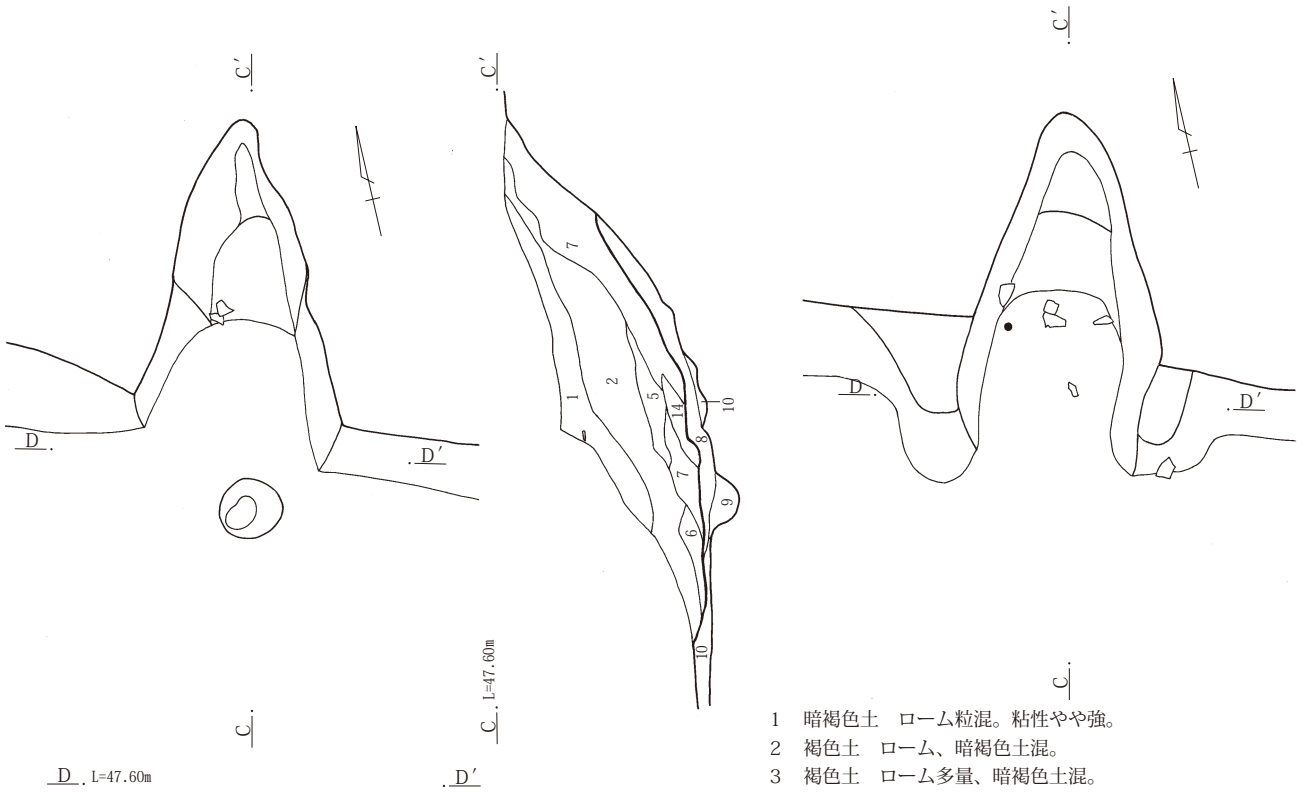
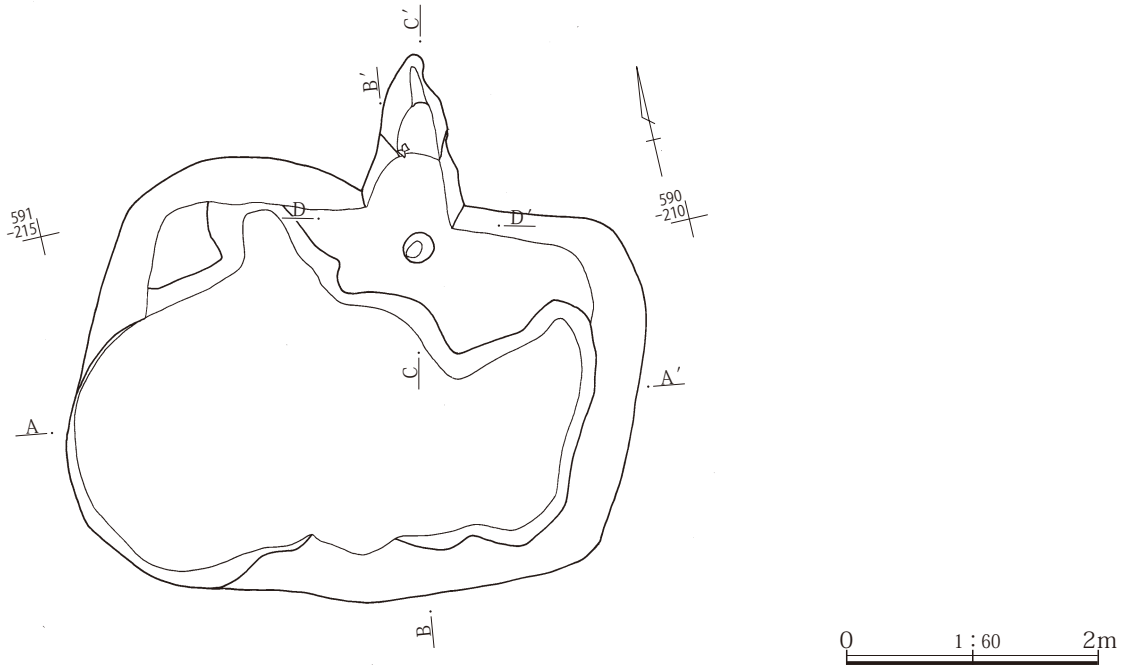
**カマド** 北壁やや東部に位置し、全長1.48m幅1.30mで、煙道部全長0.39m幅0.42mである。褐色砂質土で袖を構築する。燃烧部に天井部の崩落と思われるロームを主体とする土が存在し、左右壁面はよく焼けている。焚き口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、焼土・灰層がある。奥壁から煙道部にかけて32°で立ち上がる。

**所見** カマド右側の壁面外側に一段下がる部分は、棚状施設と考えられる。

**時期** 出土遺物少なく時期不明。

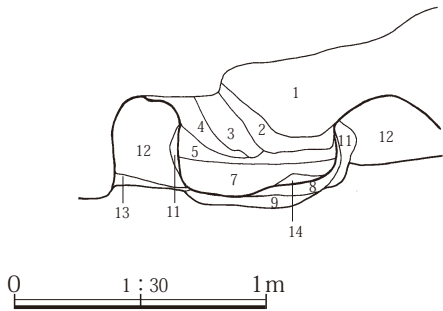


第49図 1区7号住居使用面



D, L=47.60m

C, L=47.60m



- 1 暗褐色土 ローム粒混。粘性やや強。
- 2 褐色土 ローム、暗褐色土混。
- 3 褐色土 ローム多量、暗褐色土混。
- 4 黄褐色土 ローム主体。
- 5 赤褐色土 焼土層。
- 6 黄褐色土 ローム主体。
- 7 にぶい黄褐色土 ローム主体。
- 8 赤褐色土 灰層。炭化物、焼土混。しまり弱。
- 9 暗褐色土 焼土粒、灰混。しまりやや弱。
- 10 黄褐色土 砂質。しまり強。
- 11 赤褐色土 焼土層。
- 12 褐色土 砂質。
- 13 黒褐色土 砂質。
- 14 赤褐色土 ローム、黒褐色土少量混。

第50 1区7号住居掘り方・カマド

4区26号住居 (第51図 PL.32-2)

位置 815～819-951～955Gr

重複関係 19.36.70土坑と重複。新旧不明。

平面形態 隅丸方形もしくは隅丸長方形か

長辺 [3.20]m 短辺 [2.70]m

壁高 0.43m 面積 [5.54]m<sup>2</sup>

床面積 [3.87]m<sup>2</sup>

主軸方位 N-87°-E 周溝 残存部分になし。

貯蔵穴 残存部分になし。 柱穴 残存部分になし。

埋没土 黄灰色ブロックを含む浅黄色土が堆積するが、重複が多く詳細不明。埋設方向不明。

床面状態 ほぼ平坦な床面であるが、重複が著しく詳細不明。南壁際に焼土の入ったピットあり。

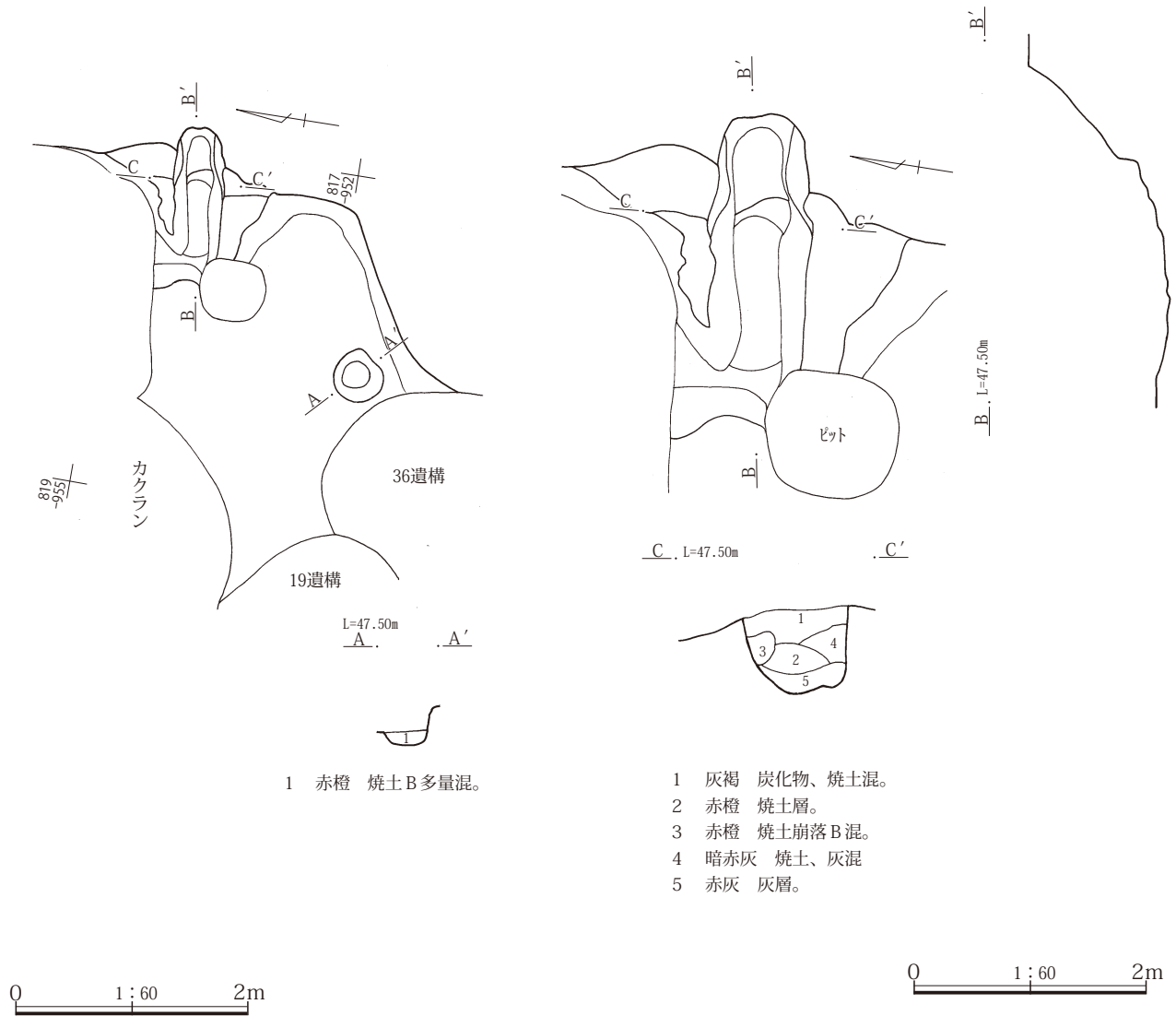
遺物出土状況 破片が少量出土。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方。

カマド 東壁に位置するが重複のため詳細位置不明。全長1.10m幅1.42mで、煙道部全長0.36m幅0.39m、燃烧部幅0.39mである。灰黄色土で袖を構築するが、残存状況悪く詳細不明。奥壁の立ち上がりは30°である。

所見 南壁に張出部があり、2基目のカマドの可能性も考えられるが、重複により詳細不明。

時期 時期のわかる出土遺物が少なく、はっきりしないが、8世紀後半～9世紀前半と考えられる。



第51図 4区26号住居

5区8号住居 (第52・53図 PL.33-1)

位置 819～822-926～932Gr 重複 2・5溝より旧。

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

長辺 4.86m 短辺 [3.20]m

壁高 0.29m 面積 [11.07]m<sup>2</sup> 床面積 [8.19]m<sup>2</sup>

主軸方位 N-24°-W 壁溝 残存部分になし。

貯蔵穴 残存部分になし。 柱穴 なし

埋没土 ローム・焼土を含む褐色・浅黄橙色・にぶい黄褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。埋設方向不明。

床面状態 ロームを含む褐色土で3～7cmの貼床とする。ほぼ水平で全体的に硬化。

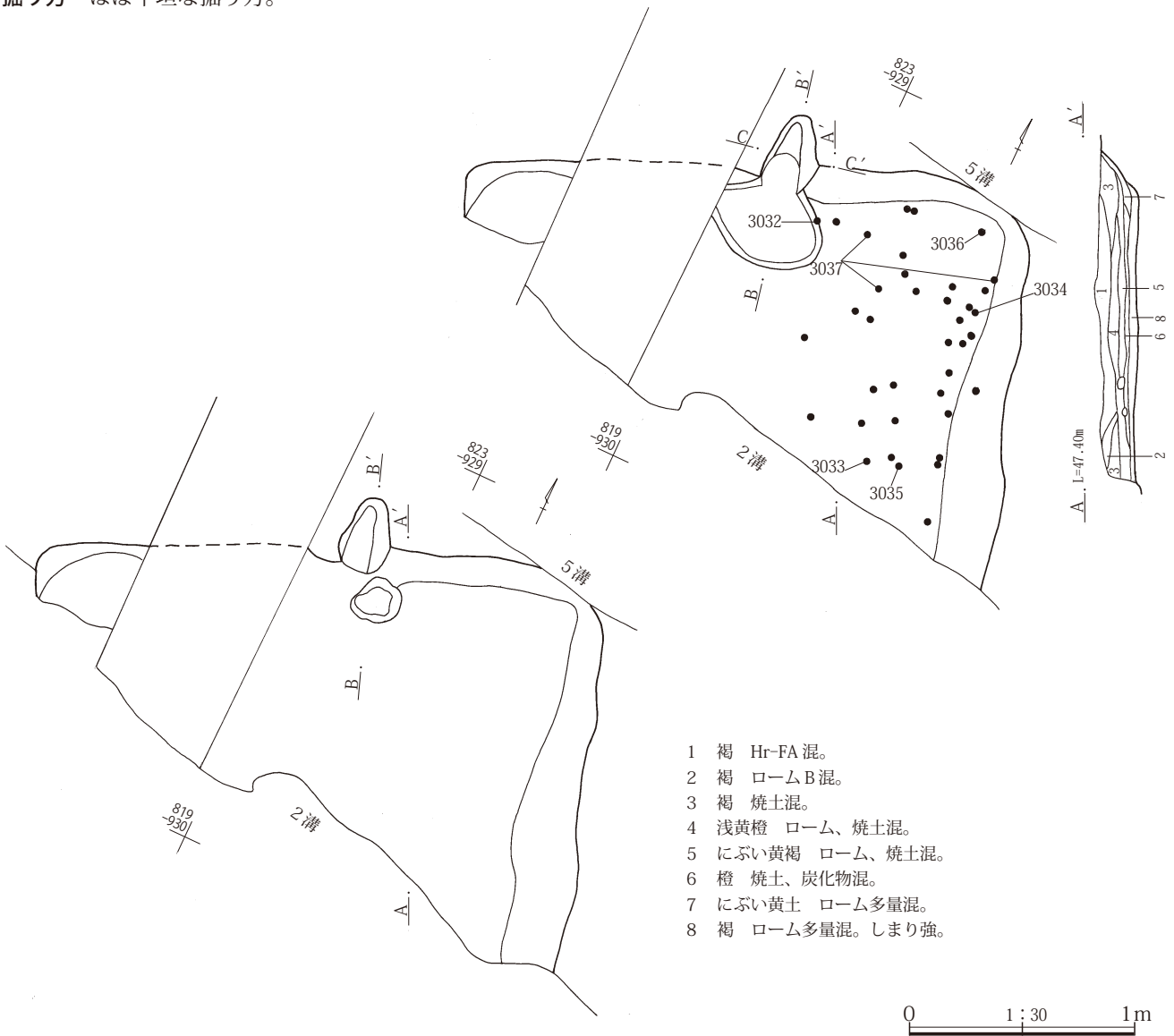
遺物出土状況 出土量は比較的少なく、東半部に集中して出土。破片が多く、廃棄・流入遺物がほとんどか。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方。

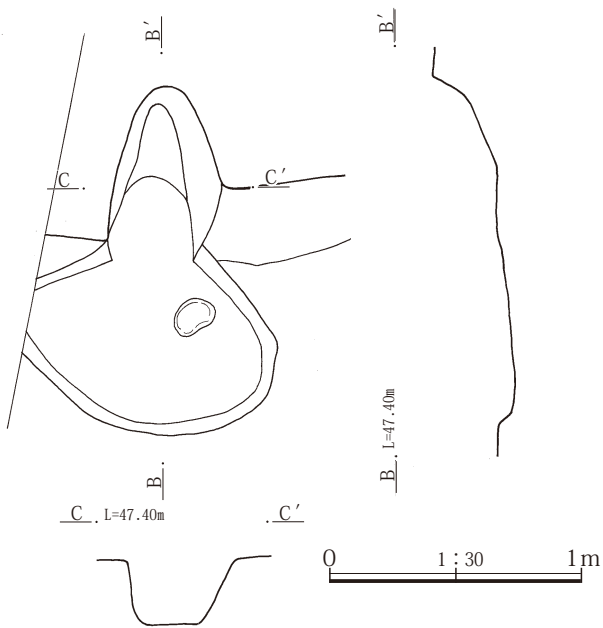
カマド 北壁中央に位置し、全長0.90m幅0.49mである。残存状況悪く袖構築材不明。焚口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、灰・焼け石・炭化物等が検出された。燃烧部右側壁はよく焼けており、奥壁は31°で立ち上がっている。自然礫が1点出土しており、袖部補強材の可能性もあるが、1点のみで袖部の残存状況が悪いため詳細は不明である。

所見 重複および遺構確認トレンチや削平により残存部分少なく、詳細不明な部分が多い。

時期 出土遺物から8世紀第2～第3四半紀と考えられる。



第52図 5区8号住居使用面・掘り方



第53図 5区8号住居カマド

5区43号住居 (第54・55図 PL.33-2)

位置 815～821-916～921Gr

重複 1溝より旧。

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形。

長辺 [5.25]m 短辺 [3.67]m

壁高 0.42m 面積 [15.26]m<sup>2</sup>

床面積 [13.05]m<sup>2</sup> 主軸方位 N-29°-W

壁溝 床面では検出されず、掘り方で北東部に壁溝状の掘り込みを確認。

貯蔵穴 なし

柱穴 位置的にややずれているため、確実に断定できないが、床面および掘り方検出の小ピット2基が柱穴の可能性はある。

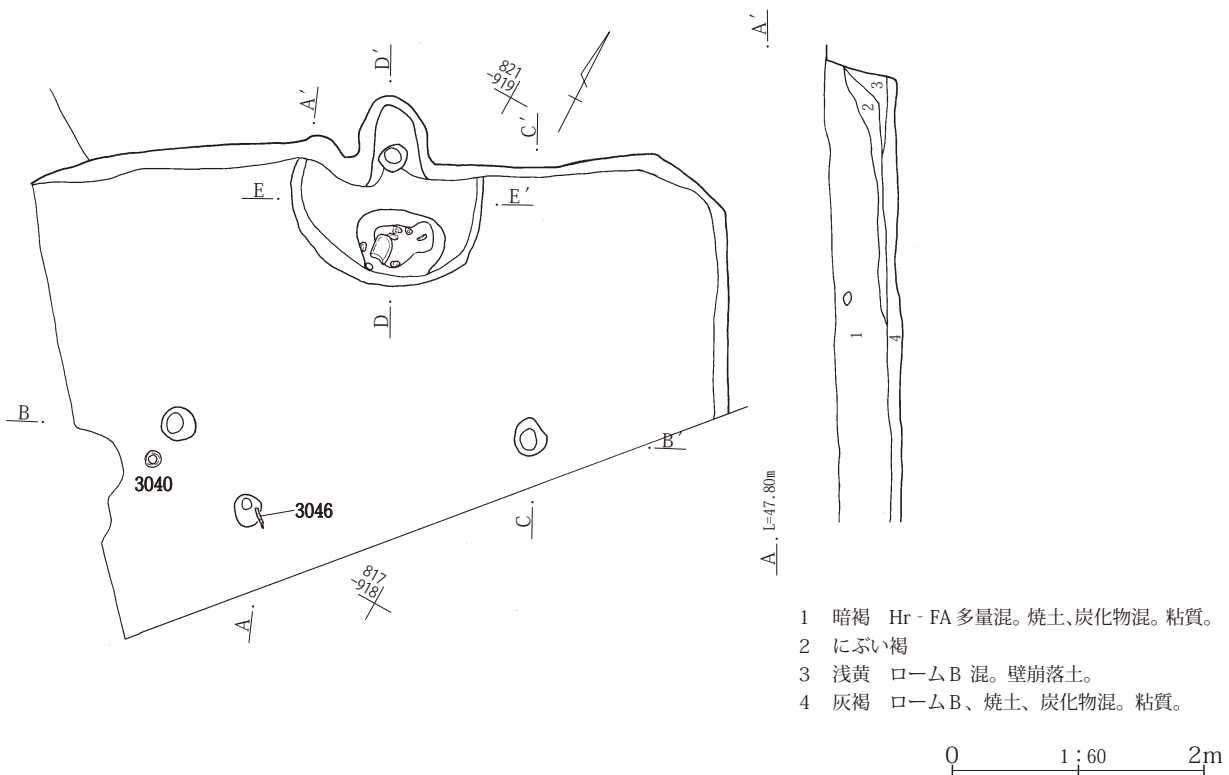
埋没土 焼土・炭化物・Hr-FAを含む暗褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋設方向不明。

床面状態 暗褐色土で5～15cmの貼床とする。ほぼ水平であるが、東部および西部に小ピットが3基存在する。

遺物出土状況 出土量は多く、ほぼ全面から出土。床面上の出土のものは少なく、ほとんどが廃棄・流入遺物か。3040の須恵器碗は、床面からやや浮いた状態の出土であるが、壁に近く遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 西部および北東隅に、浅い土坑状の掘り込みが3基あり。床面で確認された小ピットと同様のものが、さらに3基確認された。

カマド 北壁中央に位置し、全長1.51m幅0.61mである。残存状況悪く袖構築材不明。焚き口部は2段にくぼ



第54図 5区43号住居使用面

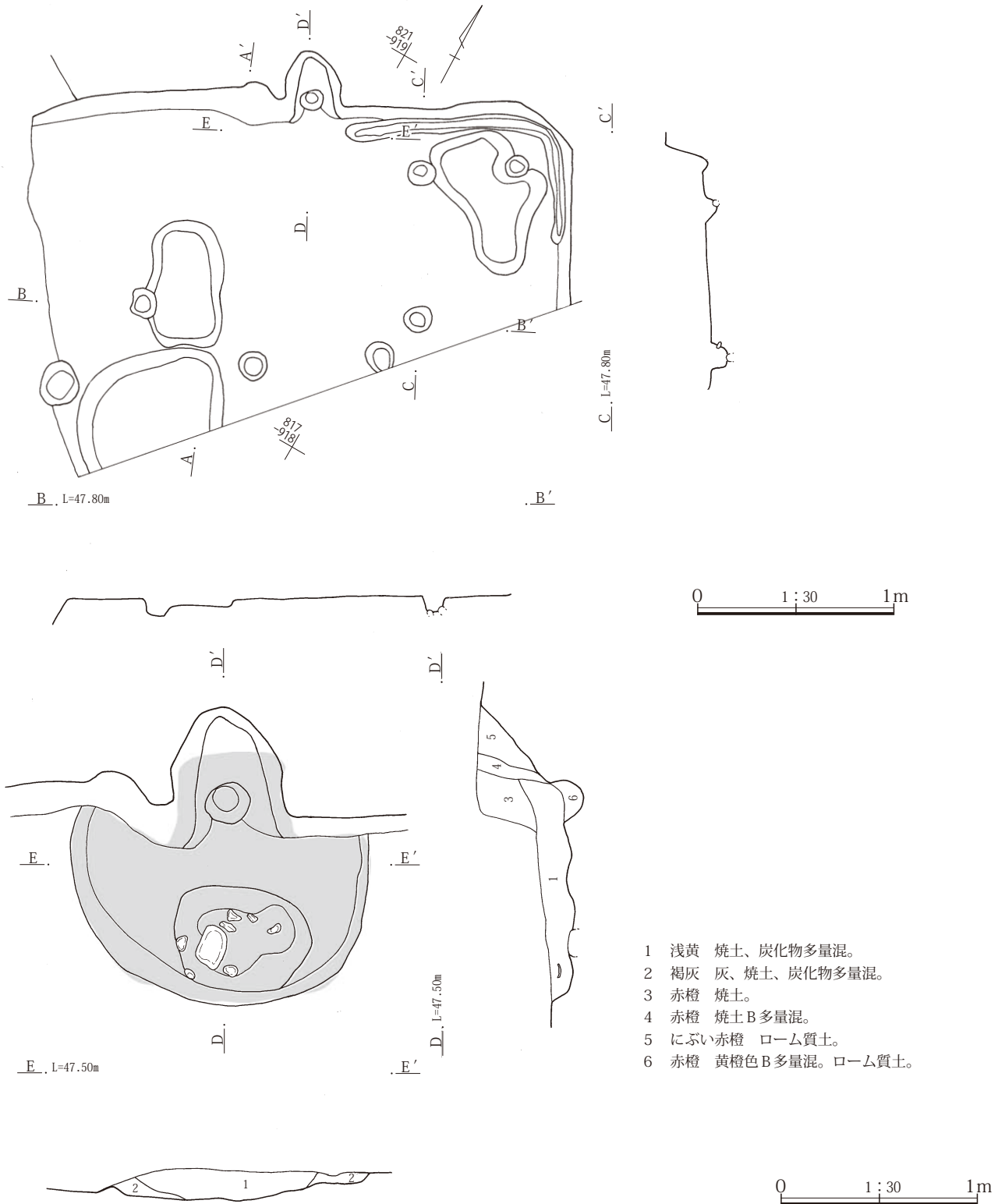
第三章 検出された遺構と出土遺物

み、燃烧部にはピットがあって、焼土・炭化物等が多量に出土。奥壁は41°で立ち上がる。焚口部から自然礫・小礫が出土。袖部等の補強材の可能性もあるが、詳細は不明。

所見 重複および調査区外により、南壁・西壁は検出で

きなかった。床面上の2基のピットが柱穴になると、縦長のかなり大規模な住居となるが、ピットは浅く小さいため、確実でない。

時期 出土遺物から8世紀第3～第4四半紀と考えられる。



第55図 5区43号住居掘り方・カマド

5区56号住居 (第56・57図 PL.33-4・4)

位置 830～834-907～910Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 3.07m

短辺 2.92m 長辺/短辺 1.05 壁高 0.44m

面積 8.42㎡ 床面積 5.40㎡

主軸方位 N-35°-W 壁溝 なし

柱穴 床面上にピットはあるが、浅く位置も不揃いで柱穴の可能性は低い。

貯蔵穴 カマドの両脇に浅いピットがあり、いずれも位置的には貯蔵穴と考えるが、規模が小さく確実でない。

埋没土 灰褐色土・黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 ロームを含む黄褐色土で5～28cmの貼床とする。北東から南西に6%下っており、全体的に硬化。浅いピットが数基検出されているが、規模・位置等から柱穴・貯蔵穴になる可能性は低い。

遺物出土状況 中心部やや広範囲に、完形・半完形の土器が多量に出土。床面付近のものが多いが、1・2層出土の床面から浮いたものもあるため、廃棄遺物の可能性

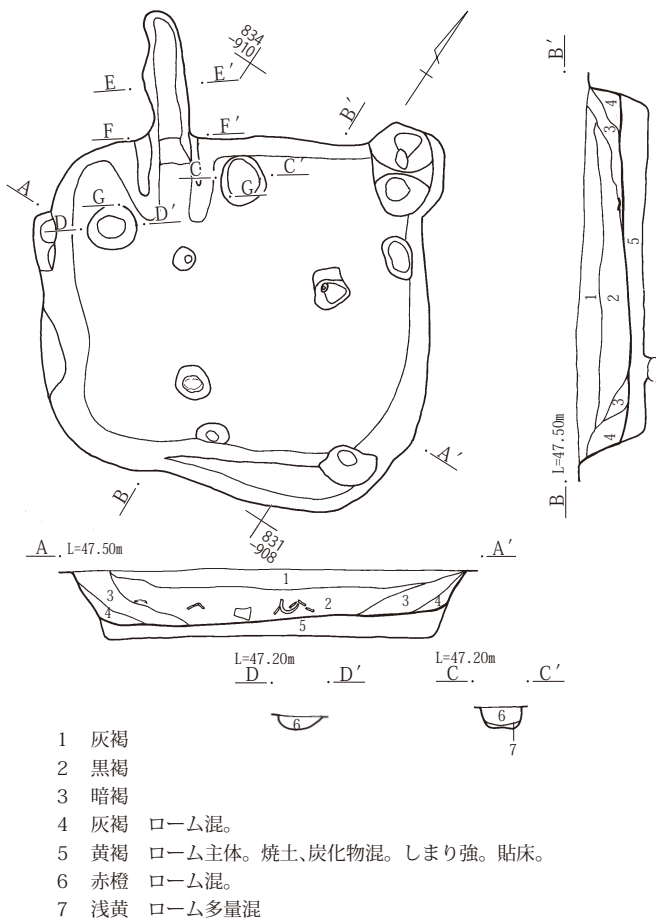
が高い。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方である。

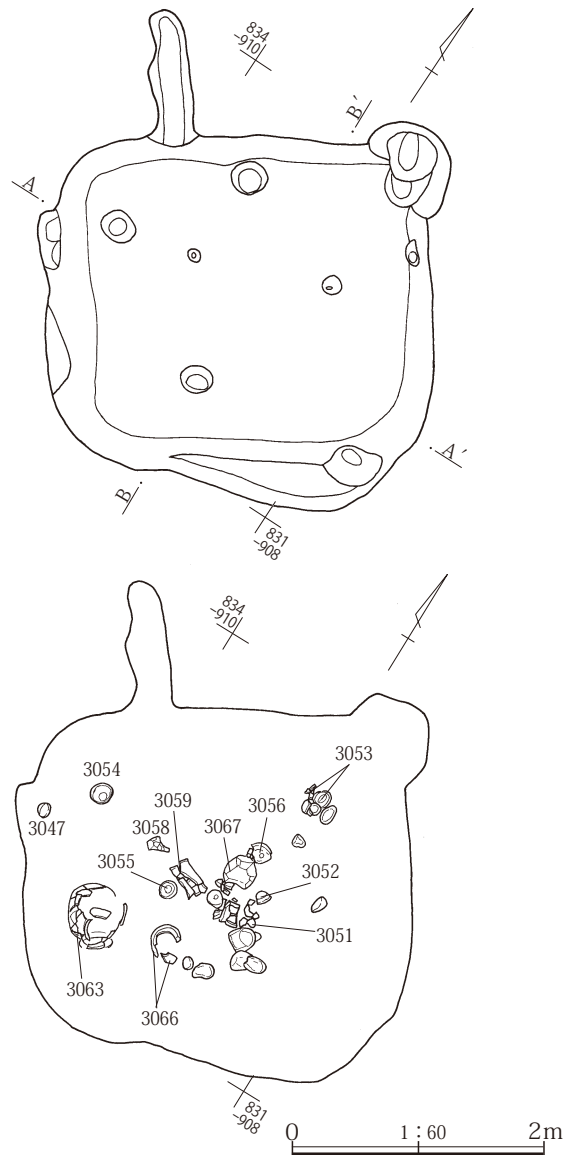
カマド 北壁西よりに位置し、全長1.65m幅0.84mで、煙道部全長0.9m幅0.33m、燃烧部幅0.38mである。にぶい黄褐色土で袖を構築し、焚き口部・燃烧部底面は平坦で、灰や炭化物、焼土粒などが検出された。煙道部の残りは良く、壁から1m程北へ延びている。

所見 中央部を中心として、完形に近い土器が多量に出土しているが、床面に置かれた状態のものは少なく、床面より上のももあるため、遺棄遺物ではなく、住居廃絶後の一括廃棄遺物と考えられる。

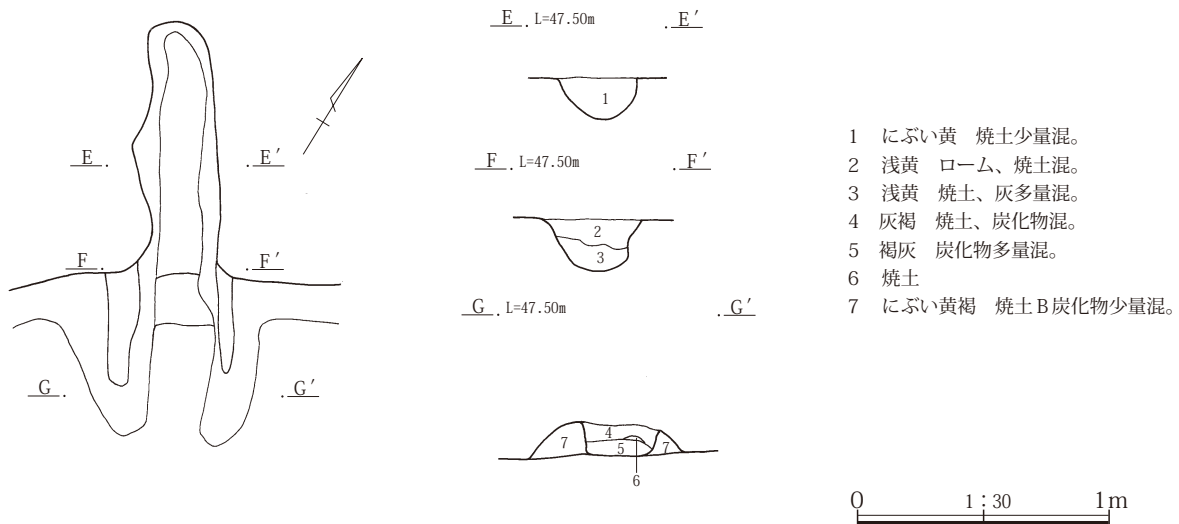
時期 出土遺物から7世紀第3～第4四半紀と考えられる。



- 1 灰褐
- 2 黒褐
- 3 暗褐
- 4 灰褐 ローム混。
- 5 黄褐 ローム主体。焼土、炭化物混。しまり強。貼床。
- 6 赤橙 ローム混。
- 7 浅黄 ローム多量混



第56図 5区56号住居使用面・掘り方・遺物出土状況



第57図 5区56号住居カマド

**5区99号住居** (第58図 PL.33-5・6)

位置 904~910-904~911Gr 重複 なし

平面形態 隅丸長方形か 長辺 5.25m

短辺 (3.37)m 長辺/短辺 (1.41)

壁高 0.61m 面積 (21.92)m<sup>2</sup>

床面積 (15.77)m<sup>2</sup>

主軸方位 N-59°-W 壁溝 残存部分になし。

柱穴 残存部分になし。 貯蔵穴 残存部分になし。

埋没土 ローム質の黄橙色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋設方向不明。

床面状態 攪乱により残存部が少なく、詳細は不明であるが、ほぼ水平な床面で、掘り方を床面としている。

遺物出土状況 中央やや南寄りに礫がまとまって出土している。床面上のものもあるが、4層出土のやや浮いた状態のものが多い。土器の出土量は、遺構の残存状態の割に多いが、床面上のものは少なく、廃棄・流入遺物がほとんどか。3074の須恵器杯は、完形で床面上の出土であるため、遺棄遺物と考えられる。

掘り方 掘り方を床面とする。

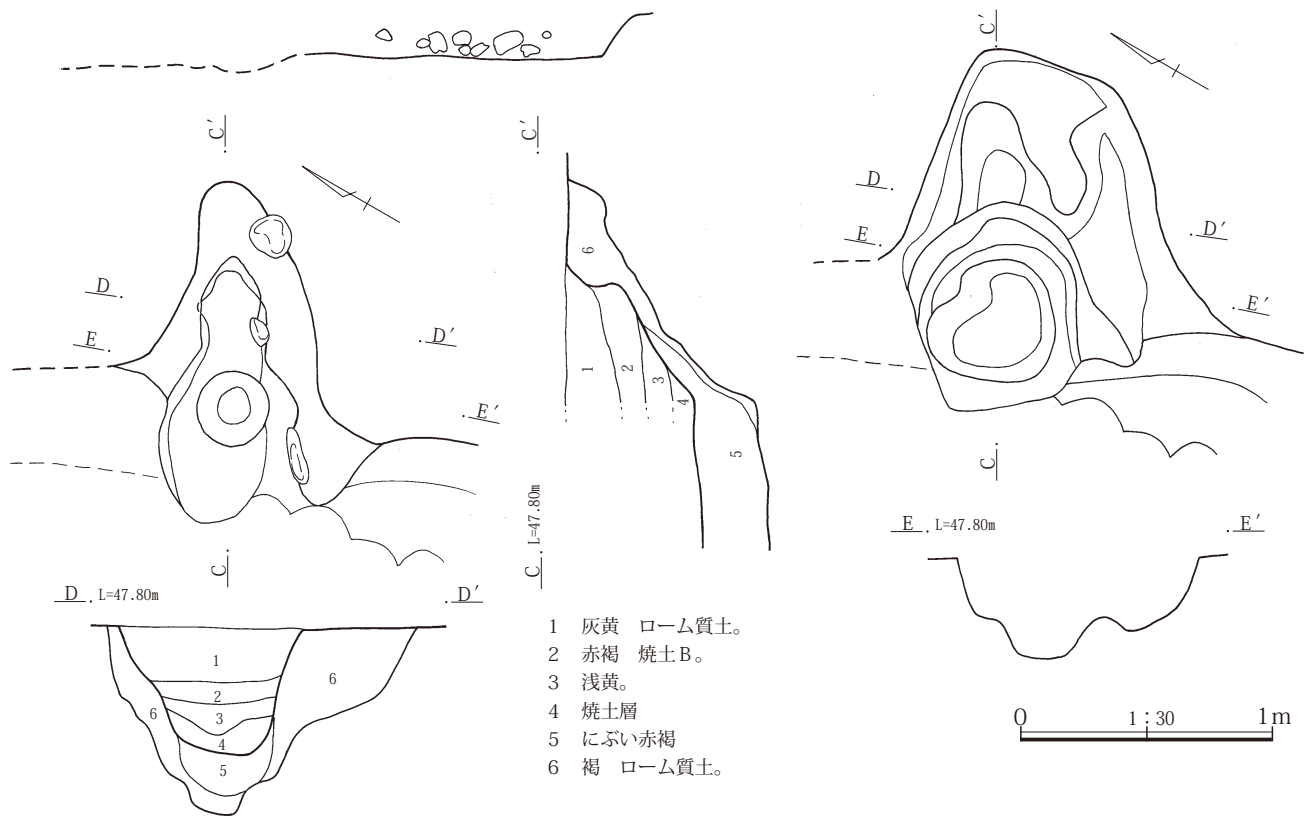
カマド 東壁南部に位置すると考えられ、全長1.36m幅0.90mである。扁平な礫を補強材として黄褐色土で袖を構築。燃烧部底面はややくぼみ、小ピットもある。焼土層があり、天井部の崩落の可能性がある。奥壁は39°で立ち上がっている。袖部の自然礫の他に自然礫が2点出土。側壁の補強材の可能性もあるが、出土点数が少なく

詳細は不明である。

所見 重機による攪乱のため、カマドと東側の壁の一部が確認されたのみである。中央南寄りから出土した礫は床面から浮いた状態のものも多いため、住居の埋没過程で廃棄された可能性が高い。

時期 出土遺物から8世紀第2~第3四半紀と考えられる。





第58図 5区99号住居

5区128号住居 (第59・60図 PL.33-7)

位置 890~896-909~915Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 5.19m

短辺 4.58m 長辺/短辺 1.13

壁高 0.61m 面積 22.92㎡ 床面積 19.07㎡

主軸方位 N-40°-W

壁溝 南東隅に浅い溝状の掘り込みが一部あるが、他はなし。

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 ロームを含む黄灰・灰黄・浅黄色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋設方向不明。

床面状態 ほぼ水平で、掘り方を直接床面としており、全体的に硬化。

遺物出土状況 出土量は比較的少なく、ほとんどが破片で埋土中の出土である。3081の土師器杯は、完形で床面

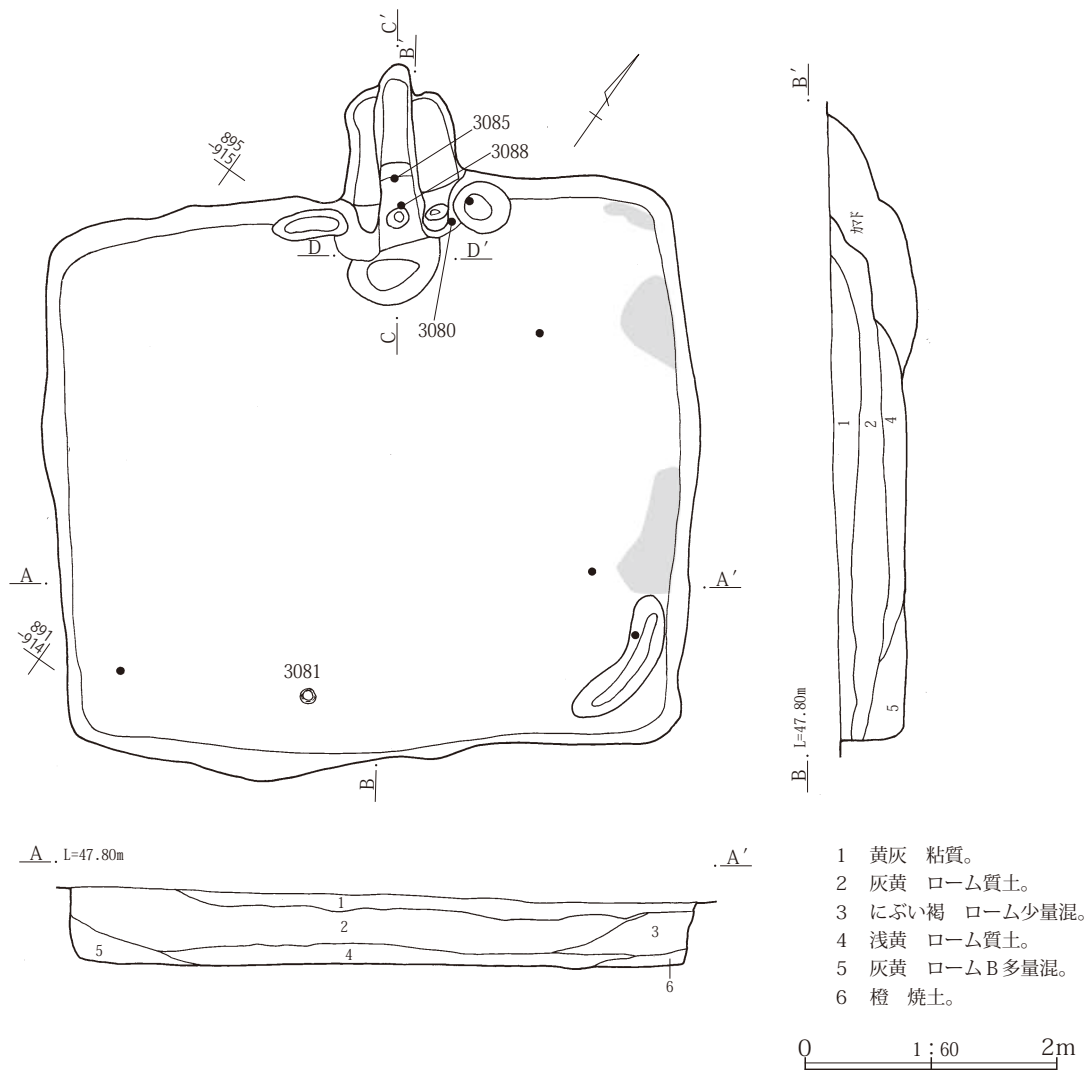
上の出土であり、遺棄遺物の可能性が高い。

掘り方 掘り方を床面とする。

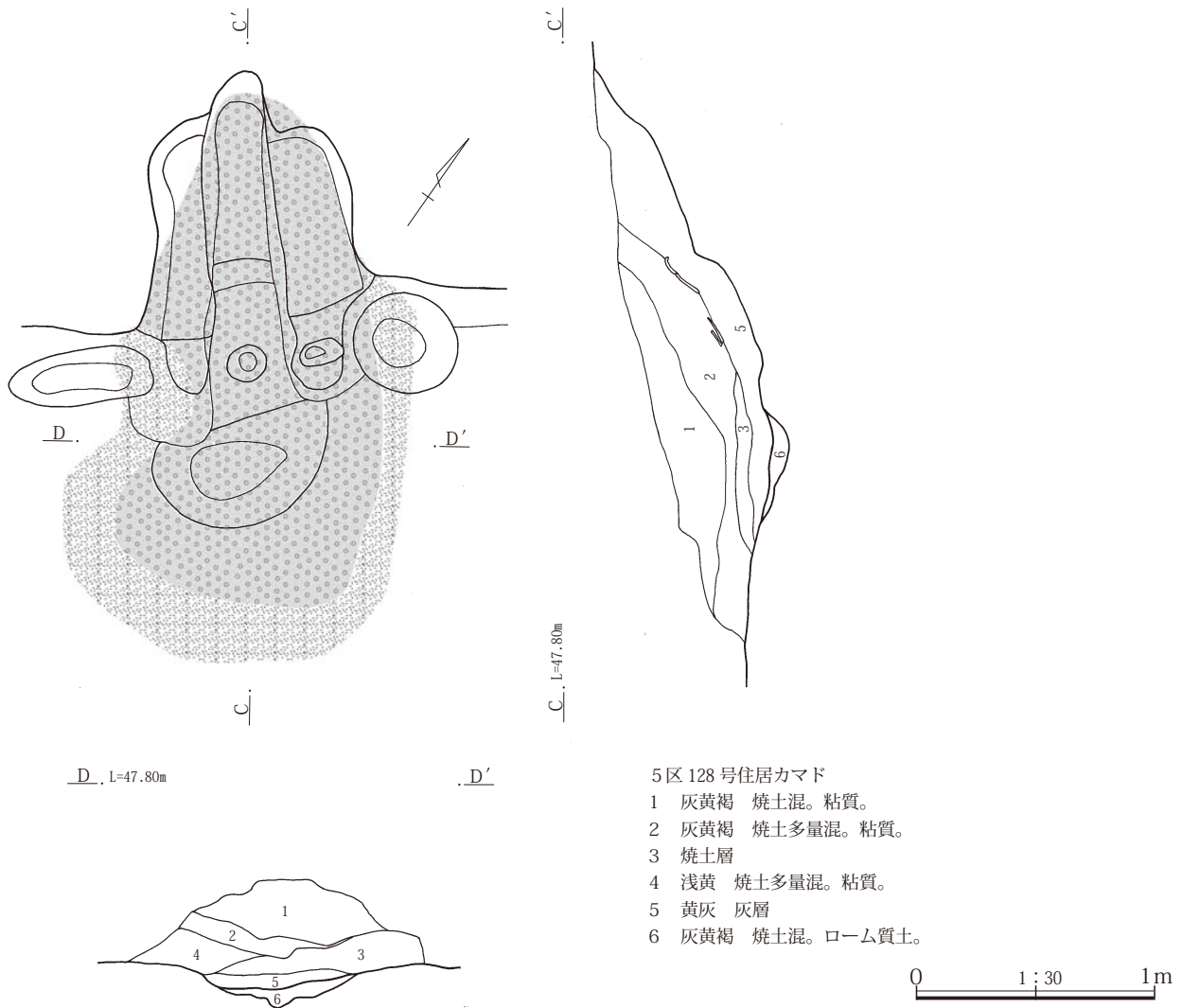
カマド 北壁やや東寄りに位置し全長1.90m幅1.01mで、煙道部全長0.78m幅0.31m、燃烧部幅0.39mである。黄褐色粘質土で袖を構築。燃烧部内には、天井崩落土と思われる粘質土が存在する。カマド焚き口部は、ややくぼみ、灰層が見られる。燃烧部底面は26°で緩やかに立ち上がり、煙道部も同様に立ち上がっている。

所見 カマド両脇にピットがあり、補強材の痕跡とも考えられるが、袖の外側にあり間隔がありすぎるため、その可能性は低く、性格は不明である。

時期 出土遺物から7世紀第1~第2四半紀と考えられる。



第59図 5区128号住居使用面



- 5区128号住居カマド
- 1 灰黄褐 焼土混。粘質。
  - 2 灰黄褐 焼土多量混。粘質。
  - 3 焼土層
  - 4 浅黄 焼土多量混。粘質。
  - 5 黄灰 灰層
  - 6 灰黄褐 焼土混。ローム質土。

第60図 5区128号住居カマド

**5区206号住居** (第61～63図 PL.33-8、34、35-1)  
**位置** 872～879-892～899Gr **重複** 1号掘立より旧。  
**平面形態** 隅丸方形 **長辺** 5.92m  
**短辺** 5.84m **長辺/短辺** 1.01  
**壁高** 0.69m **面積** 34.28㎡ **床面積** 29.82㎡  
**主軸方位** N-18°-W。  
**壁溝** 東壁北部。深さは、床面から3～6cmである。  
**柱穴** 4基。計測値は第17表参照。 **貯蔵穴** 北カマドの右脇にあり、平面形態は円形、断面は途中で段を持つやや深い皿状を呈す。径約70cm、深さ約30cm。  
**埋没土** 焼土・炭化物を含む褐灰・にぶい黄褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。  
**埋設方向** 不明。  
**床面状態** 土坑・ピット以外は掘り方を床面としている。

ほぼ水平で、カマドから南壁さらに南西部にかけて特に硬化している。

**遺物出土状況** 出土量は非常に多く、特に北カマドから土師器甕が、貯蔵穴から土師器杯が多数出土している。他は埋土中のものが多く、ほぼ全面から出土している。3108の須恵器杯は床面上の出土で、カマド・貯蔵穴出土の土器とともに遺棄遺物と考えられる。

**掘り方** 北西隅および東壁際南部に深さ約20cmの土坑状落ち込みがあり、ピットが数基検出されている。他は掘り方を床面としている。

**カマド** 北壁と東壁の2基検出された。北カマドが新しく、西カマドが古い。

北カマドは北壁やや東寄りに位置し、全長1.21m幅1.22mで、煙道部全長0.48m幅0.44m、燃烧部幅0.49

第三章 検出された遺構と出土遺物

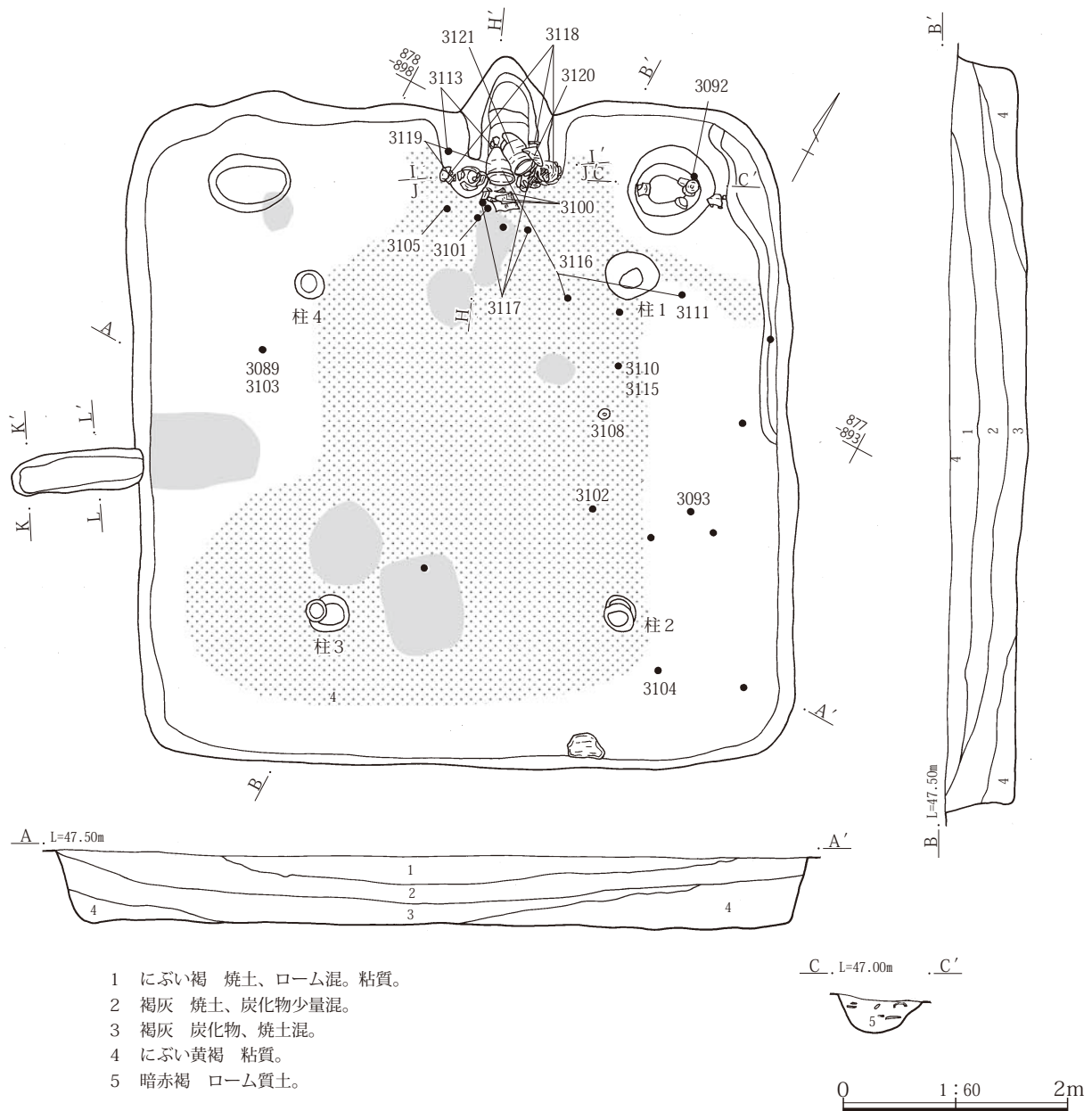
mである。土師器長胴甕を補強材とし粘土で両袖を構築している。焚き口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、奥壁は43°で立ち上がっている。両袖部補強材の土師器長胴甕の他に、燃烧部からほぼ完形の土師器長胴甕が2個体出土している。

西カマドは西壁中央に位置し、全長1.16m幅0.37mである。旧カマドのため袖部は不明。煙道部の残穴とカマ

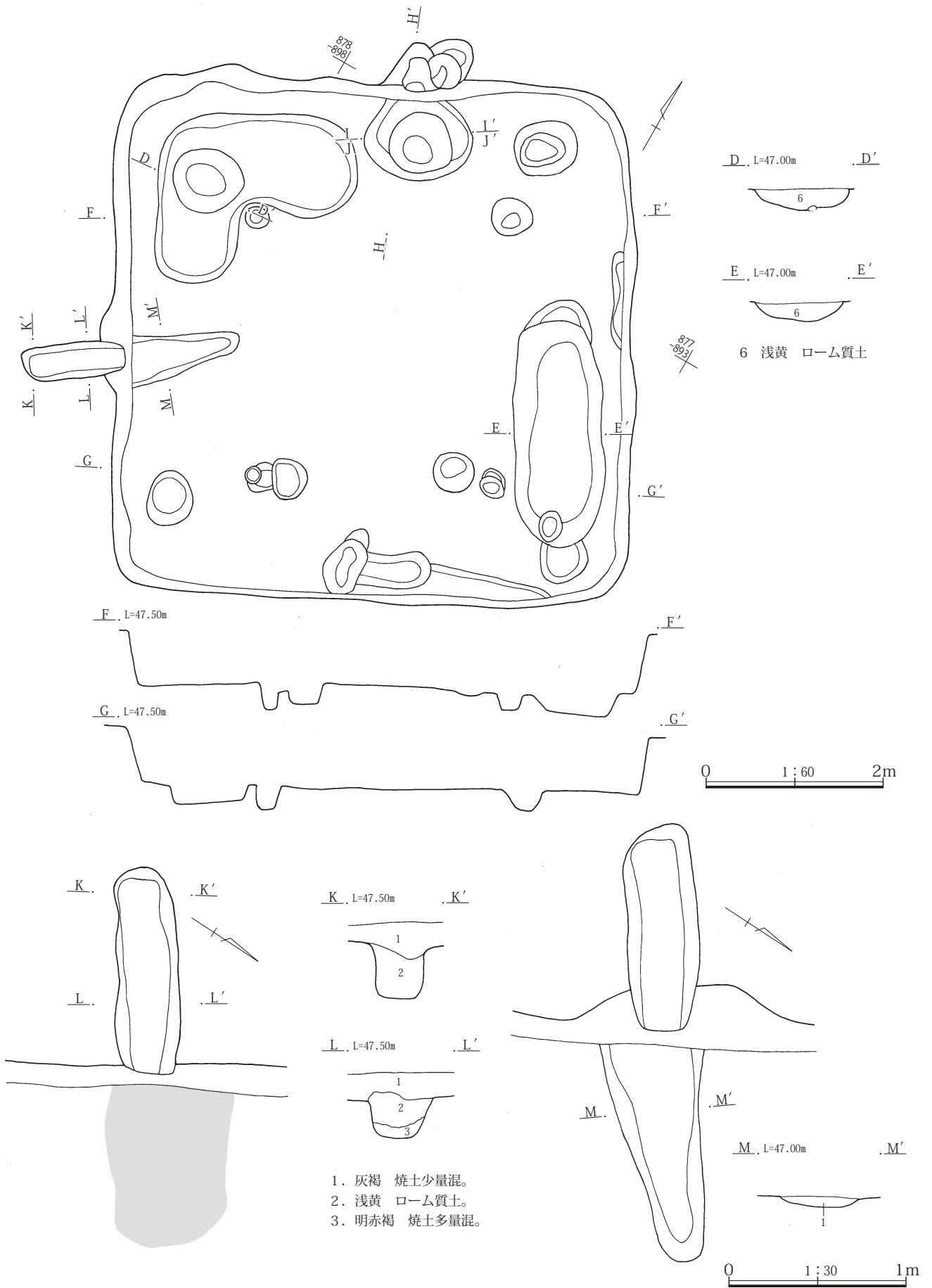
ド焚き口部から焼土が検出されている。

**所見** 北カマドの燃烧部から、長胴甕が2個体出土しているが、出土状況からは、天井部補強材ではなく、カマドにかかっていたものが倒れた可能性が高い。すなわち、1基のカマドに甕が2個同時にかかっていたことを示す。

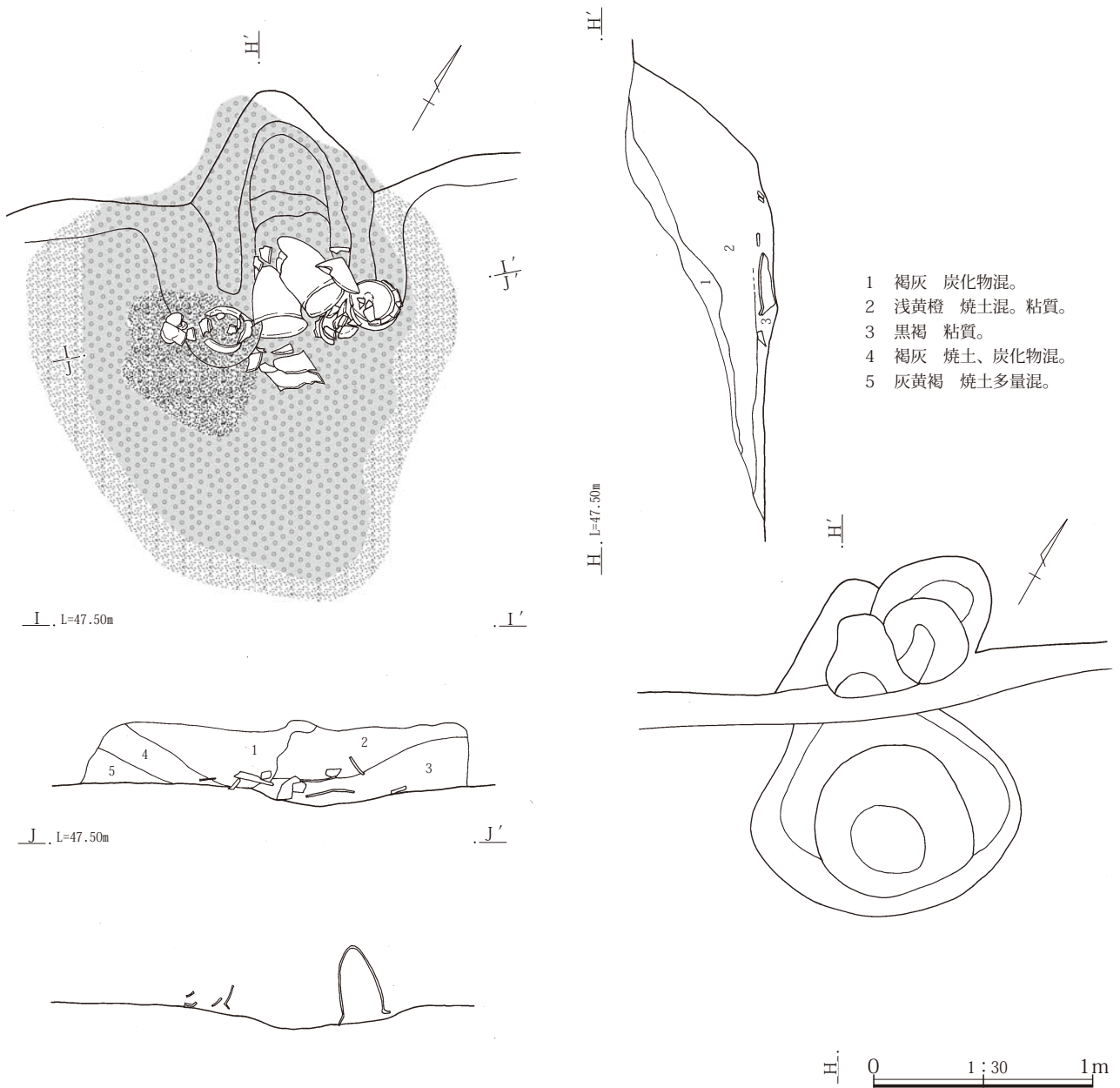
**時期** 出土遺物から7世紀第2～第3四半紀と考えられる。



第61図 5区206号住居使用面



第62図 5区206号住居掘り方・西カマド



第63図 5区206号住居北カマド

5区207号住居 (第64図 PL.35-2)

位置 894~898-908~911Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 (2.59)m

短辺 2.36m 長辺/短辺 (1.10) 壁高 0.28m

面積 [5.70㎡] 床面積 [4.91㎡]

主軸方位 N-53°-W 壁溝 調査範囲になし。

柱穴 なし 貯蔵穴 調査範囲になし。

埋没土 焼土・ロームを含む暗褐色・灰褐色土が主体で、外側に向かって上がるレンズ状堆積。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 掘り方を床面としており、ほぼ平坦で全体的

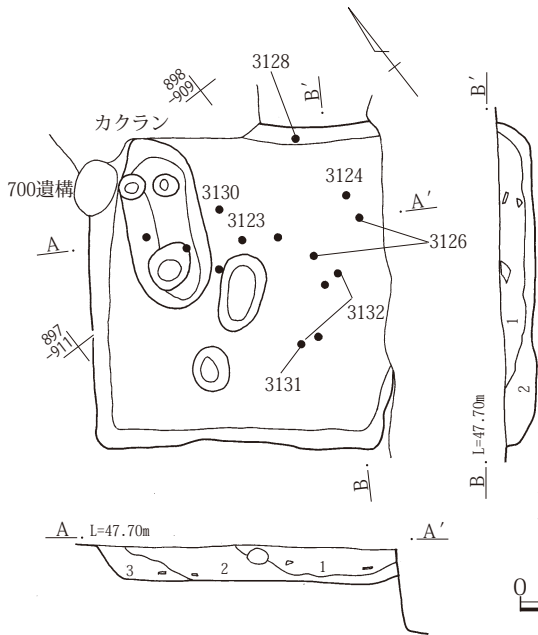
に硬化。

遺物出土状況 出土量は比較的少なく、中央部を中心に出土している。床面上から出土しているものは少なく、ほとんどが廃棄・流入遺物と考えられる。

掘り方 掘り方を床面とする。

所見 カマドは検出されていないが、東壁もしくは南壁にかかる攪乱により壊された可能性がある。他の住居の状況から、東壁にあった可能性が高い。

時期 出土遺物から7世紀第4~8世紀第1四半紀と考えられる。



第64図 5区207号住居

5区208号遺構 (第65図 PL.35-3)

位置 889～892-916～918Gr 重複 なし

平面形態 不整形 長辺 2.34m 短辺 2.10m

長辺/短辺 1.11 壁高 0.13m 面積 5.56㎡

床面積 4.33㎡ 主軸方位 N-60°-E

壁溝 確認されなかった。貯蔵穴 不明。

埋没土 焼土粒を含む褐色土が全面に薄く堆積していた。

床面状態 凹凸が多い。

所見 本遺構は、調査時の所見では住居に分類していたが、カマドや柱穴などが検出されておらず、床面も平坦ではなく凹凸が多いことから住居の可能性は低い。

カマド 不明

5区209号住居 (第66・67図 PL.35-4・5)

位置 898～902-908～912Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 3.40m

短辺 2.68m 長辺/短辺 1.27 壁高 0.39m

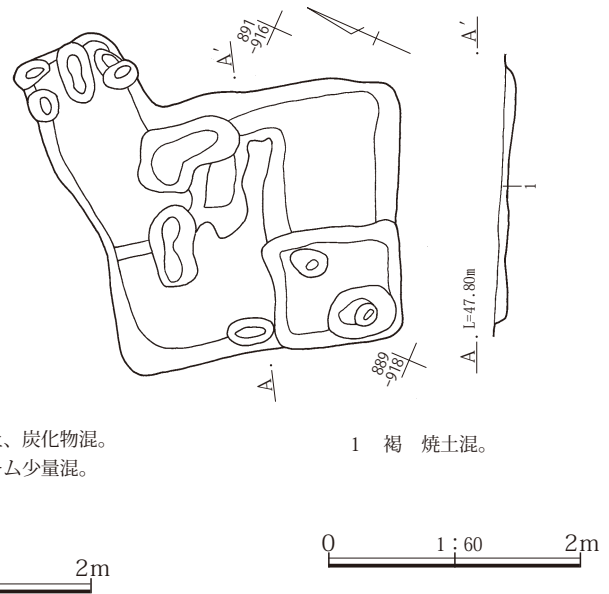
面積 9.27㎡ 床面積 6.82㎡

主軸方位 N-47°-W 壁溝 なし

柱穴 なし

貯蔵穴 カマド左脇に掘り込みがあるが、深さ3～7cmと浅く、貯蔵穴の可能性は低い。

埋没土 Hr-FA・焼土・炭化物を含む黄灰色土・淡黄色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

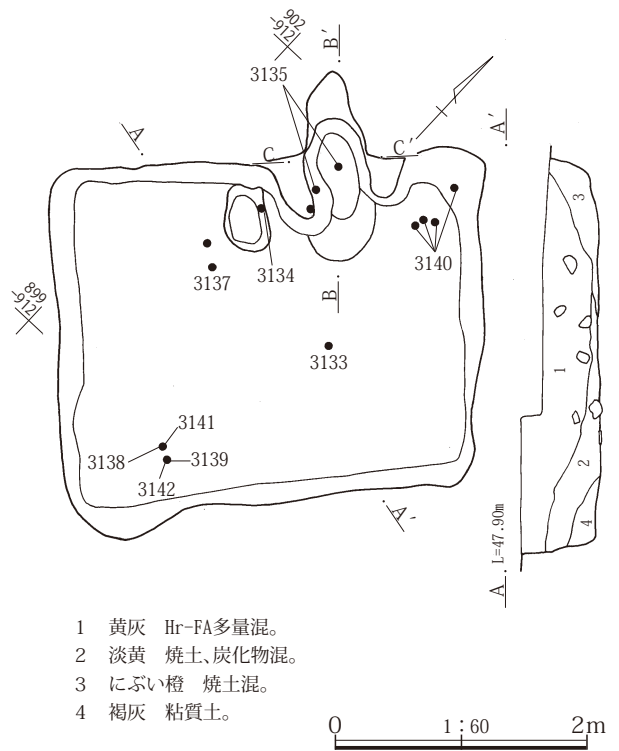


第65図 5区208号遺構

床面状態 掘り方を床面としている。ほぼ水平でやや軟弱。やや凹凸あり。

遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺を中心に出土。下層出土のものが多く、破片が多くほとんどが廃棄・流入遺物であると考えられる。他に床面付近から円礫がまとまって出土している。

掘り方 掘り方を床面とする。



第66図 5区209号住居使用面

第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

**カマド** 北壁東に位置し全長1.49m幅1.12mで、燃烧部幅0.51mである。黄褐色土で袖を構築し、焚口部・燃烧部はややくぼみ、灰層が見られる。奥壁の立ち上がりは50°である。

**時期** 出土遺物から8世紀第3～第4四半紀と考えられる。

5区210号住居 (第68・69図 PL.35-6)

**位置** 854～857-917～921Gr **重複** なし

**平面形態** 主軸方向が長い隅丸長方形

**長辺** 3.42m **短辺** 2.61m

**長辺/短辺** 1.31m **壁高** 0.46m

**面積** 8.48㎡ **床面積** 6.75㎡

**主軸方位** N-81°-E **壁溝** なし

**柱穴** なし **貯蔵穴** なし

**埋没土** 灰黄色・暗灰黄色粘質土がほぼ水平に堆積。レンズ状でないため、自然堆積ではない可能性がある。

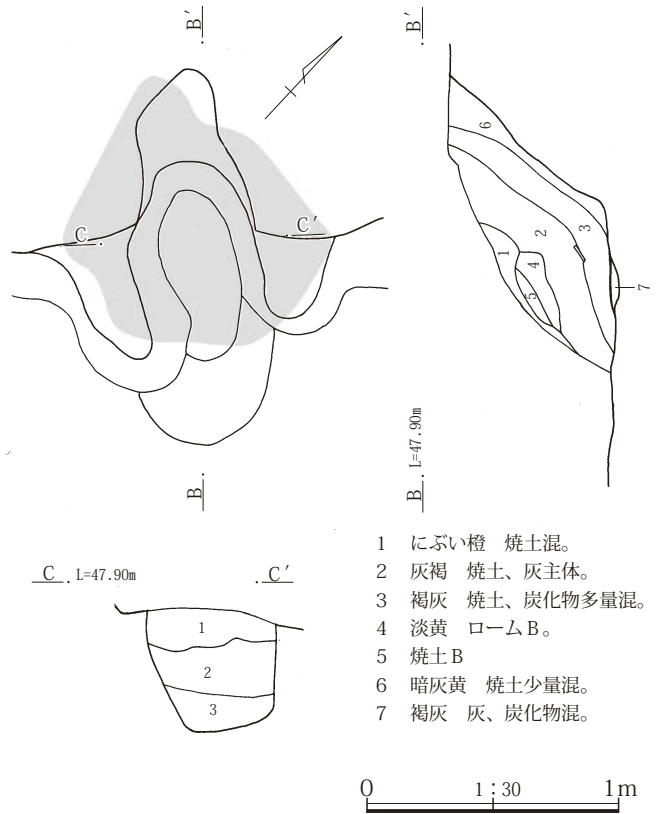
**床面状態** 掘り方を床面としており、特に中央から南東部カマド前にかけて強く硬化。ほぼ水平であるが、南東部で若干の凹凸あり。北東部を中心にピット4基検出しているが、小規模で性格は不明。

**遺物出土状況** 出土量は比較的少なく、カマド周辺を中心に出土。埋土中のものが多く、大部分が廃棄・流入遺物と考えられる。3144・3146の須恵器杯は、床面上で重なって出土しており、遺棄遺物と考えられる。

**掘り方** 掘り方を床面とする。

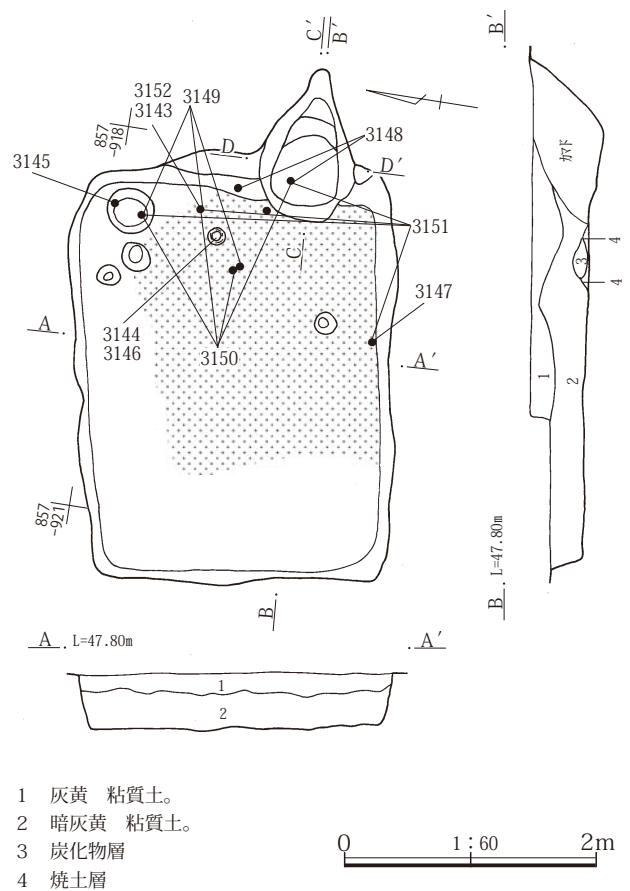
**カマド** 東壁南に位置し、全長1.21m幅0.81mである。残存状況悪く袖構築材不明。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層が見られる。奥壁は47°で立ち上がっている。

**時期** 出土遺物から8世紀第3～第4四半紀と考えられる。



- 1 にぶい橙 焼土混。
- 2 灰褐 焼土、灰主体。
- 3 褐灰 焼土、炭化物多量混。
- 4 淡黄 ロームB。
- 5 焼土B
- 6 暗灰黄 焼土少量混。
- 7 褐灰 灰、炭化物混。

第67図 5区209号住居カマド



- 1 灰黄 粘質土。
- 2 暗灰黄 粘質土。
- 3 炭化物層
- 4 焼土層

第68図 5区210号住居使用面



5区214号住居 (第70・71図 PL.35-7・8)

位置 860～865-898～904Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 4.28m

短辺 4.14m 長辺/短辺 1.03 壁高 0.56m

面積 17.56㎡ 床面積 14.14㎡

主軸方位 N-60°-E 壁溝 なし

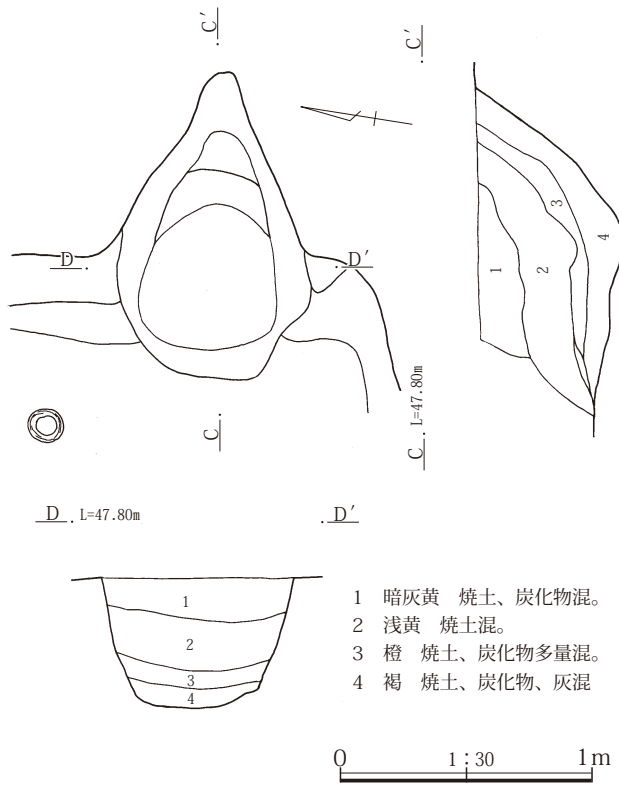
柱穴 なし

貯蔵穴 カマド前に円形、その右に楕円形のピットがあるが、いずれも浅く、貯蔵穴の可能性は低い。

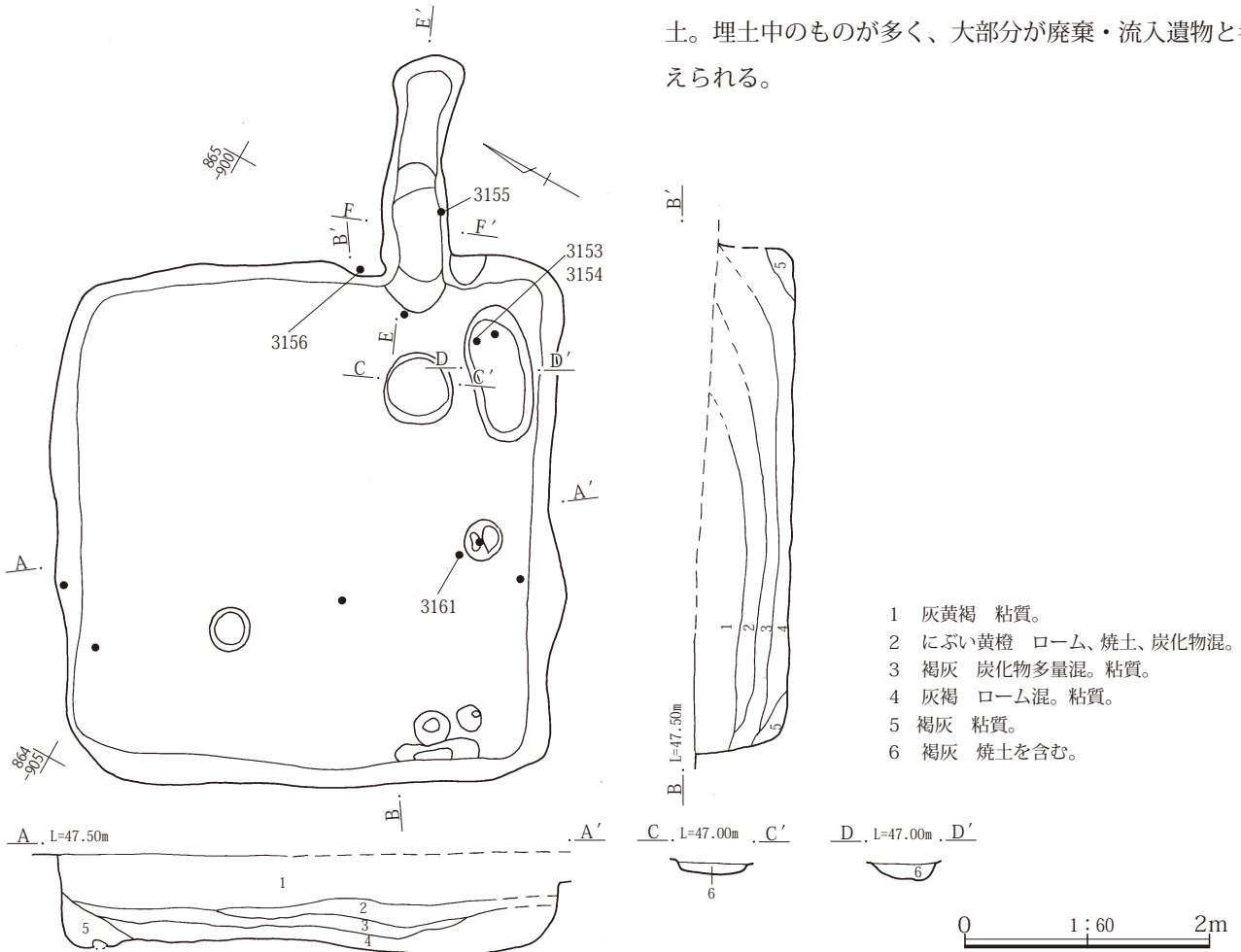
埋没土 炭化物・ロームを含む灰黄褐色・にぶい黄橙色・褐灰色粘質土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。住居東部は遺構確認トレンチにより削平されたため埋土は不明となっている。

床面状態 掘り方を床面としており、全体的に硬化。南東部でやや凹凸あり。小ピット数基検出するが位置的に柱穴とはならず性格不明。

遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺を中心に出土。埋土中のものが多く、大部分が廃棄・流入遺物と考えられる。



第69図 5区210号住居カマド



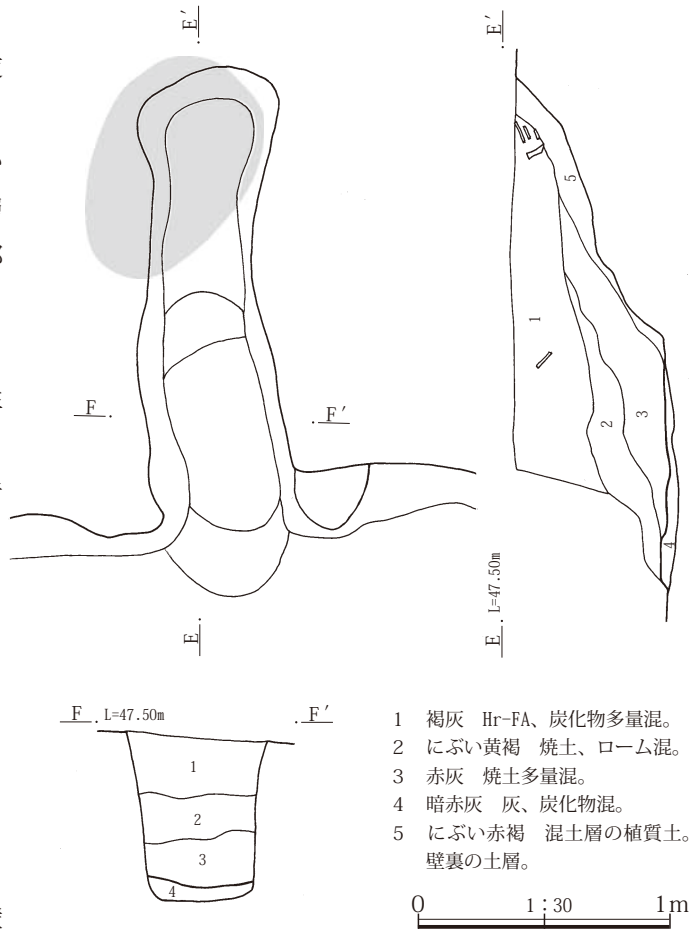
第70図 5区214号住居使用面

**掘り方** 掘り方を床面とするが、南東部で部分的に貼床を施す。

**カマド** 東壁南に位置し、全長2.09m幅0.61mで、煙道部全長0.88m幅0.56mである。遺構確認トレンチにより壊され、残存状況は悪いが、黄褐色土で袖を構築していると考えられる。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ灰層が見られる。燃烧部奥壁はやや急に立ち上がる。煙道部は比較的長く、底面は29°で立ち上がっている。

**所見** カマド前のピットは、床面上で検出されているが、位置的に不自然であるため、別遺構または床下の可能性も考えられる。

**時期** 出土遺物から7世紀第4～8世紀第1四半紀と考えられる。



**5区245号住居** (第72図 PL.36-1)

**位置** 860～863-881～885Gr **重複** なし

**平面形態** 隅丸方形 **長辺** 3.38m

**短辺** 3.22m **長辺/短辺** 1.05 **壁高** 0.42m

**面積** 10.80㎡ **床面積** 8.23㎡

**主軸方位** N-90°-E **壁溝** なし

**柱穴** 四隅に柱穴と考えられるピットが存在する。南壁に近接しており、柱間が不揃いな箇所もあるが、柱穴の可能性が高いと考えられる。

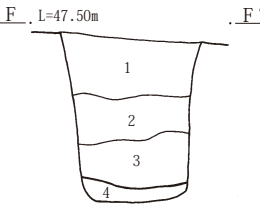
**貯蔵穴** カマド右脇に楕円形の掘り込みが2基重なって検出されている。北側のものは深さ40cmと比較的深いため、貯蔵穴の可能性はある。

**埋没土** Hr-FAを含む黄灰色土がレンズ状に堆積。壁際に黒褐色土の三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** 掘り方を床面とし、全体的に硬化。凹凸は少なく水平である。

**遺物出土状況** 出土量は少なく、破片が住居内に散在。3168の甕は、上半部のみ残存するが、カマドに近接して出土しているため、カマドの補強材の可能性もある。

**カマド** 北壁中央に位置し全長1.50m幅1.06mで、煙道部全長0.64m幅0.68mである。残存状況悪く袖構築材不明。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層が見られる。燃烧部途中からさらに1段下がっている。奥壁は30°で立ち上がっている。南壁際から須恵器杯(3165)が出土し



- 1 褐灰 Hr-FA、炭化物多量混。
- 2 にぶい黄褐 焼土、ローム混。
- 3 赤灰 焼土多量混。
- 4 暗赤灰 灰、炭化物混。
- 5 にぶい赤褐 混土層の植質土。壁裏の土層。

0 1:30 1m

第71図 5区214号住居カマド

ている。

**所見** 一般的な住居と異なり、住居の主軸に対し、カマドの主軸が30°以上ずれている。南側に段があるため、作りかえている可能性もある。

**時期** 出土遺物から8世紀第3～第4四半紀と考えられる。

5区286号住居 (第73図 PL.36-2・3)

位置 860～865-890～895Gr

重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 4.41m

短辺 4.18m 長辺/短辺 1.06

壁高 0.59m 面積 16.06m<sup>2</sup>

床面積 12.26m<sup>2</sup>

主軸方位 N-60°-E 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 焼土、炭化物を含む灰黄褐色・にぶい黄褐色土が全面に堆積。外側に向かってやや上がっており、自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 掘り方を床面とし、やや軟弱。凹凸が少なくほぼ平坦である。

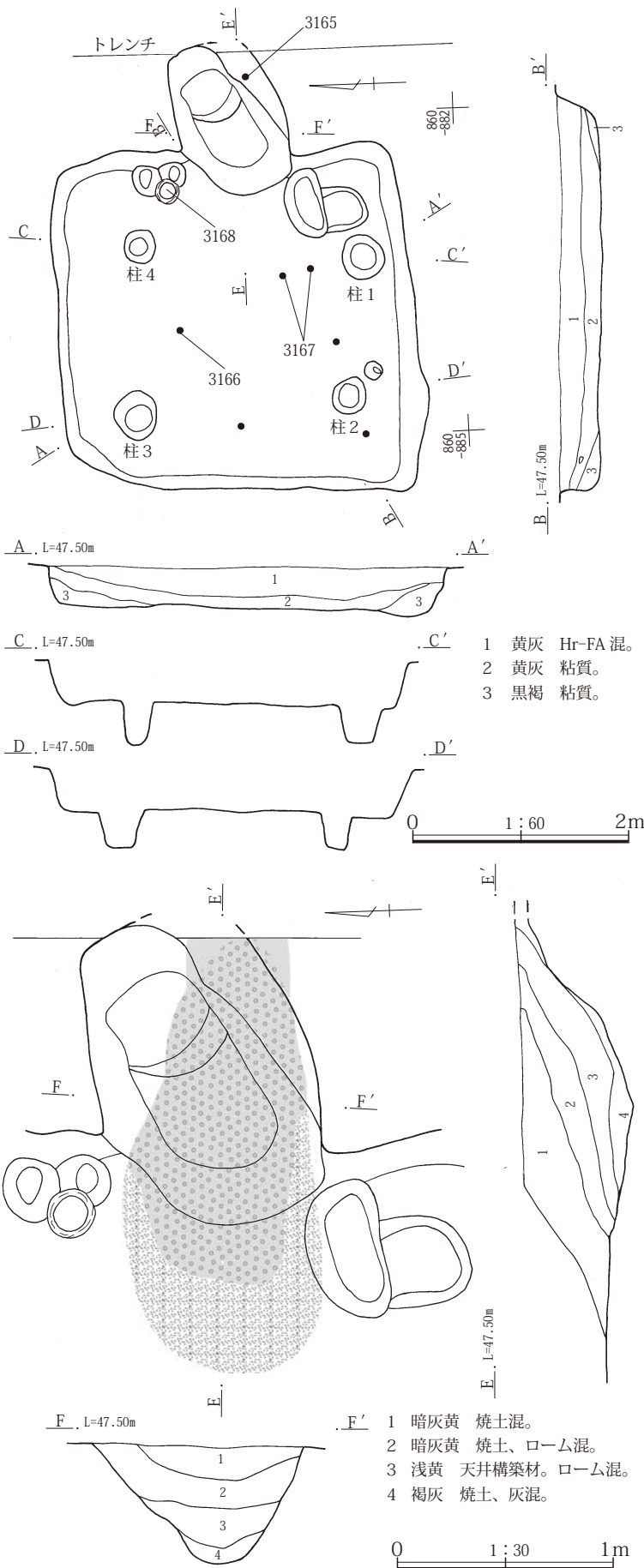
遺物出土状況 出土量は少ないが、北東部から南東部、南西部にかけてやや多く出土する。1・2層中の床面から浮いた状態のものが多く、廃棄・流入遺物がほとんどか。3170の土師器杯は、床面上の出土で遺棄遺物の可能性あり。

掘り方 掘り方を床面とする。

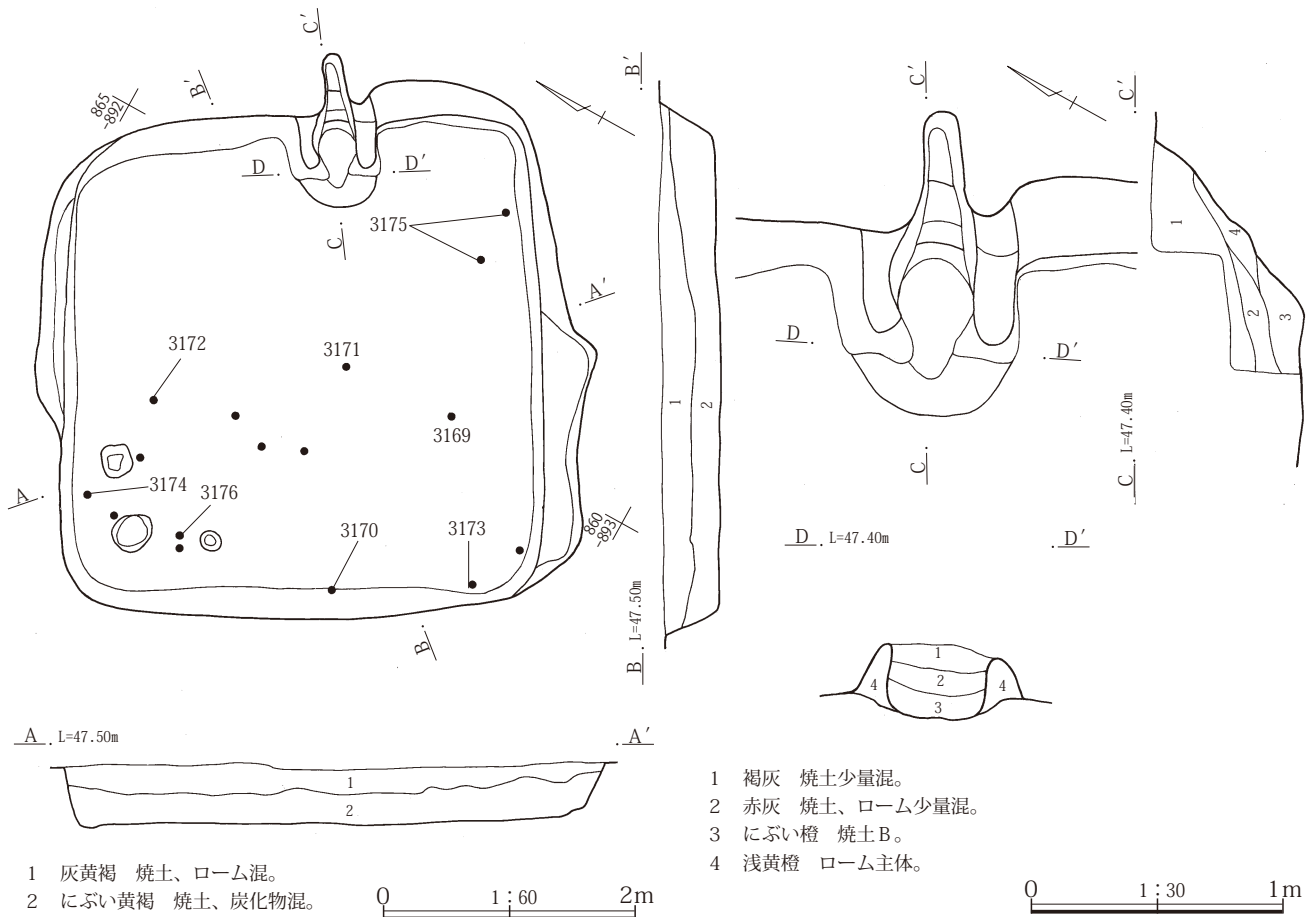
カマド 東壁やや南寄りに位置し、全長1.20m幅0.81mで、煙道部全長0.44m幅0.22m、燃烧部幅0.35mである。浅黄橙色土で袖を構築。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層は見られない。燃烧部奥壁から煙道部にかけて、段をもって42°立ち上がっている

所見 東壁南部から南壁、北壁に段があるため、古い住居がもう1軒重複している可能性もあるが、残存部分少なく詳細不明。

時期 出土遺物から7世紀第3～第4四半紀と考えられる。



第72図 5区245号住居



第73図 5区286号住居

5区304号住居 (第74・75図 PL.36-4・5)

位置 851~858-880~887Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 5.95m

短辺 5.40m 長辺/短辺 1.10 壁高 0.63m

面積 31.58㎡ 床面積 25.99㎡

主軸方位 N-54°-E 壁溝 なし

柱穴 4基。計測値は第17表参照。

貯蔵穴 カマド右脇に楕円形の掘り込みが2基重複して検出された。南側の掘り込みは、深さ20cmとやや浅いが、位置・規模等から貯蔵穴の可能性が高い。規模は、100cm×80cm深さ20cm程である

埋没土 Hr-FA・焼土・ロームを含む黄灰色・にぶい黄橙色・褐灰色土がレンズ状に堆積。壁際に灰黄褐・褐灰色土の三角堆積あり。自然堆積と思われる。埋没方向不明。床面状態 掘り方を床面とし、全体的に硬化。凹凸は少なく水平である。南壁際中央に楕円形のピットあり。浅いが入口施設に関係する可能性もある。

遺物出土状況 出土量は少ないが、ほぼ全面から出土。3177・3178・3180・3184の土師器杯は、床面上の出土で完形に近い。遺棄遺物と考えられる。

掘り方 掘り方を床面とする。

カマド 東壁と西壁に2基検出されている。東壁が新しく、西壁が古い。

東カマド(新カマド)は東壁やや南寄りに位置し、全長1.33m幅1.59mで、燃焼部幅0.8mである。燃焼部両脇に自然礫を配置して、黄灰色粘質土で袖を構築している。掘り方を見ると、焚口部に一对の円形の掘り込みがあるため、この部分にも礫・土師器甕等の補強材があった可能性がある。焚口部・燃焼部底面はややくぼみ、灰層は見られない。燃焼部に自然礫を用いた支脚がある。壁および、自然礫の補強材と同じラインから出土している。奥壁は51°で立ち上がっている。

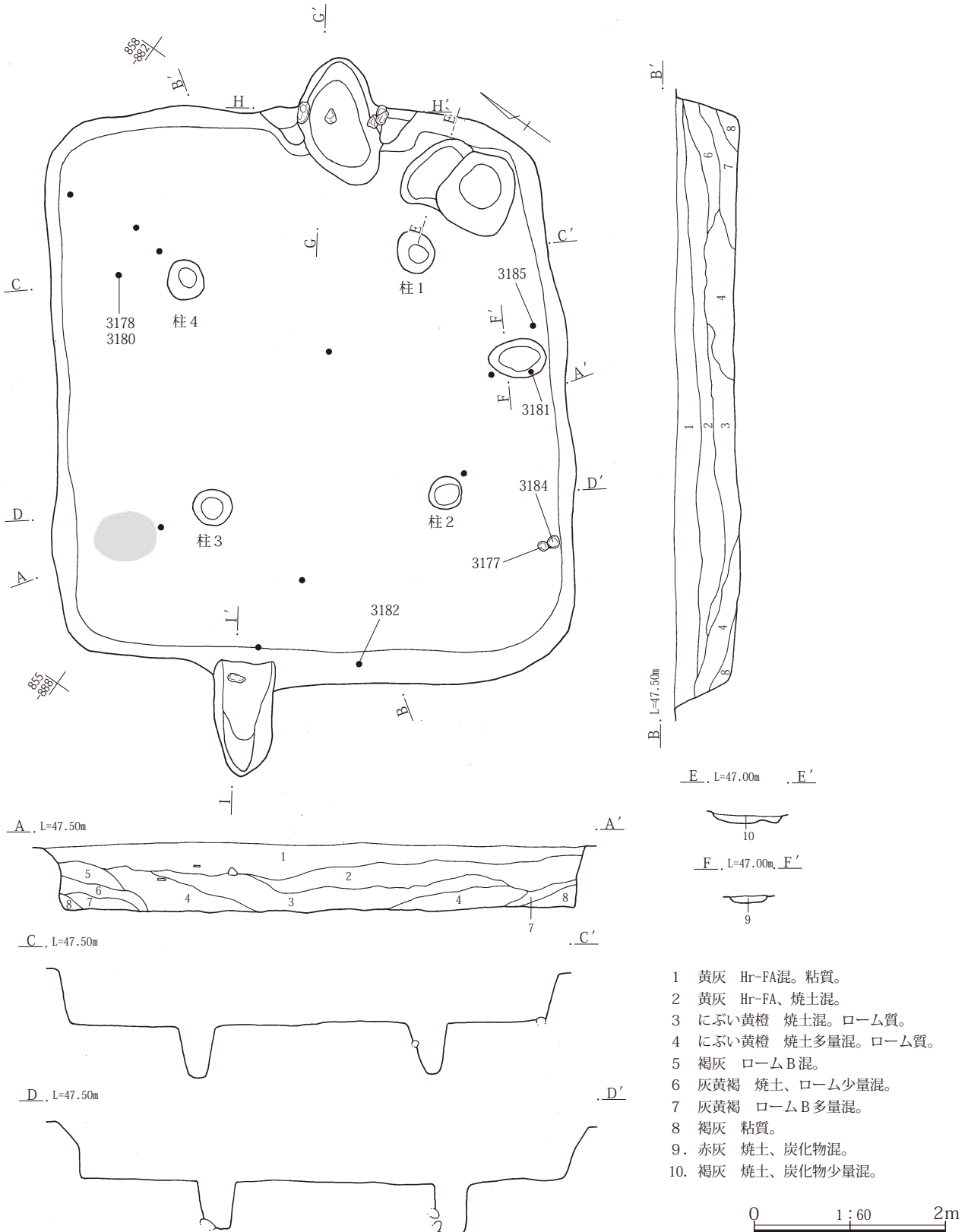
西カマド(旧カマド)は西壁北部に位置し、全長1.18m幅0.63mである。旧カマドのため、袖部・燃焼部・焚口

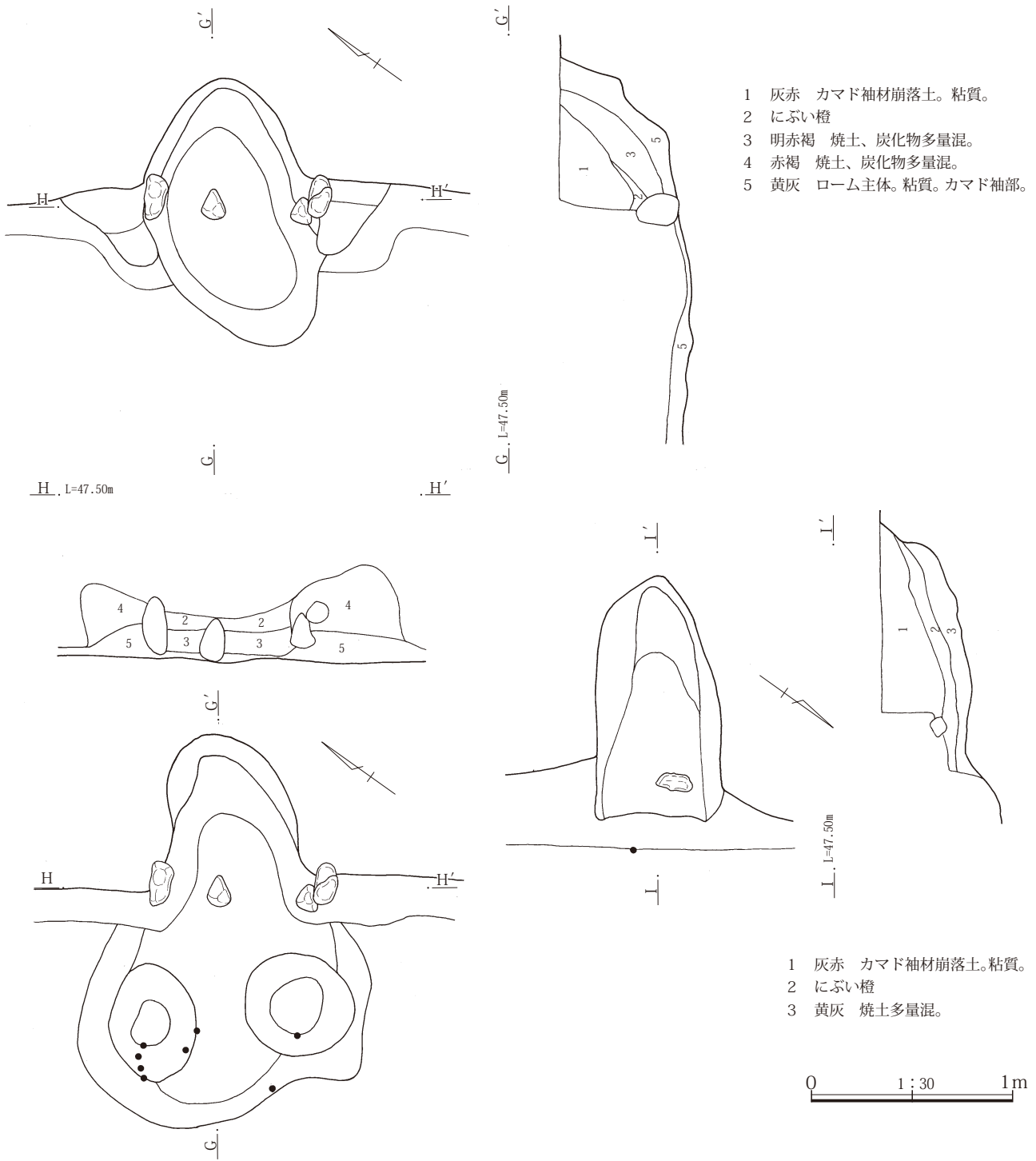
部等の詳細は不明。煙道部は残存し、底面がほぼ水平に延び奥壁は22°で立ち上がっている。

所見 カマドが2基検出されているが、カマドを2基持つ他の多くの住居と異なり、旧カマドの反対側の壁に作

り替えている。

時期 出土遺物から7世紀第3～第4四半紀と考えられる。





第75図 5区304号住居カマド

**5区430号住居** (第76・77図 PL.36-6・7)  
**位置** 848~853-888~894Gr  
**重複** なし **平面形態** 主軸方向が短い隅丸長方形  
**長辺** 5.18m **短辺** 4.18m **長辺/短辺** 1.24  
**壁高** 0.58m **面積** 20.17㎡ **床面積** 16.69㎡  
**主軸方位** N-32°-W  
**壁溝** なし **柱穴** なし

**貯蔵穴** カマド右側に2基の掘り込みあり。東側のものは隅丸方形で深さ約20cmあり貯蔵穴と考えられる。西側のものは深さ10cmと貯蔵穴としては浅く性格は不明である。

1号ピットは、80cm×58cm深さ10cm、2号ピットは、60cm×60cm深さ25cm。

**埋没土** Hr-FA・焼土褐色・灰黄褐・黒褐色土がレン

ズ状に堆積。壁際に黒褐色土の三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** 掘り方を床面とし全体的に硬化。凹凸は少なく水平である。

**遺物出土状況** 出土量は少なく、北部から中部中央、南部中央にかけて出土している。南西隅に細長い自然礫が3点並んで床面上から出土している。こも編石の可能性もあるが、数が少ないため断定できない。

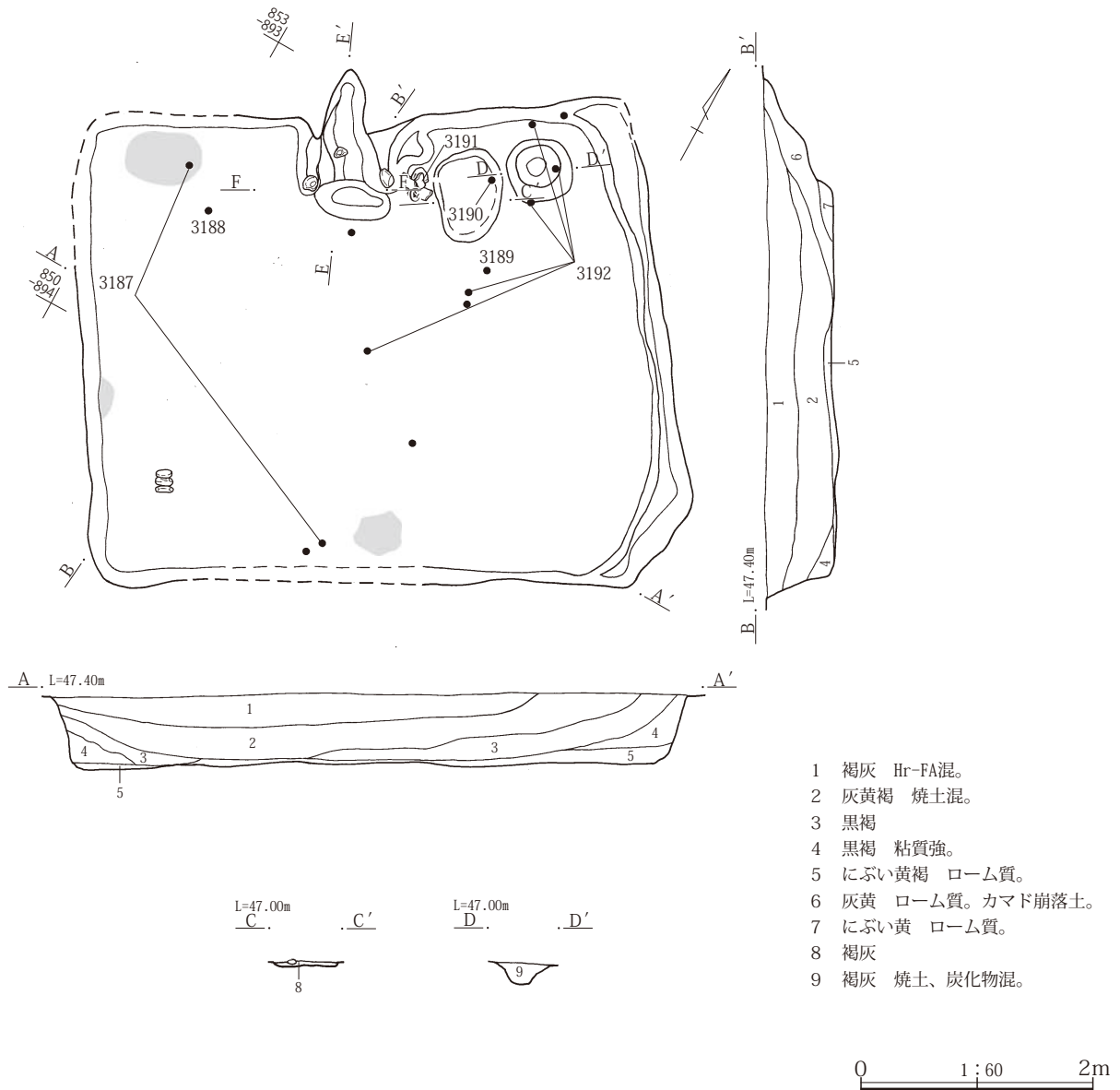
**掘り方** 掘り方を床面とする。

**カマド** 北壁中央に位置し、全長1.28m幅1.15mで、燃烧部幅は0.41mである。自然礫を補強材として黄灰色粘

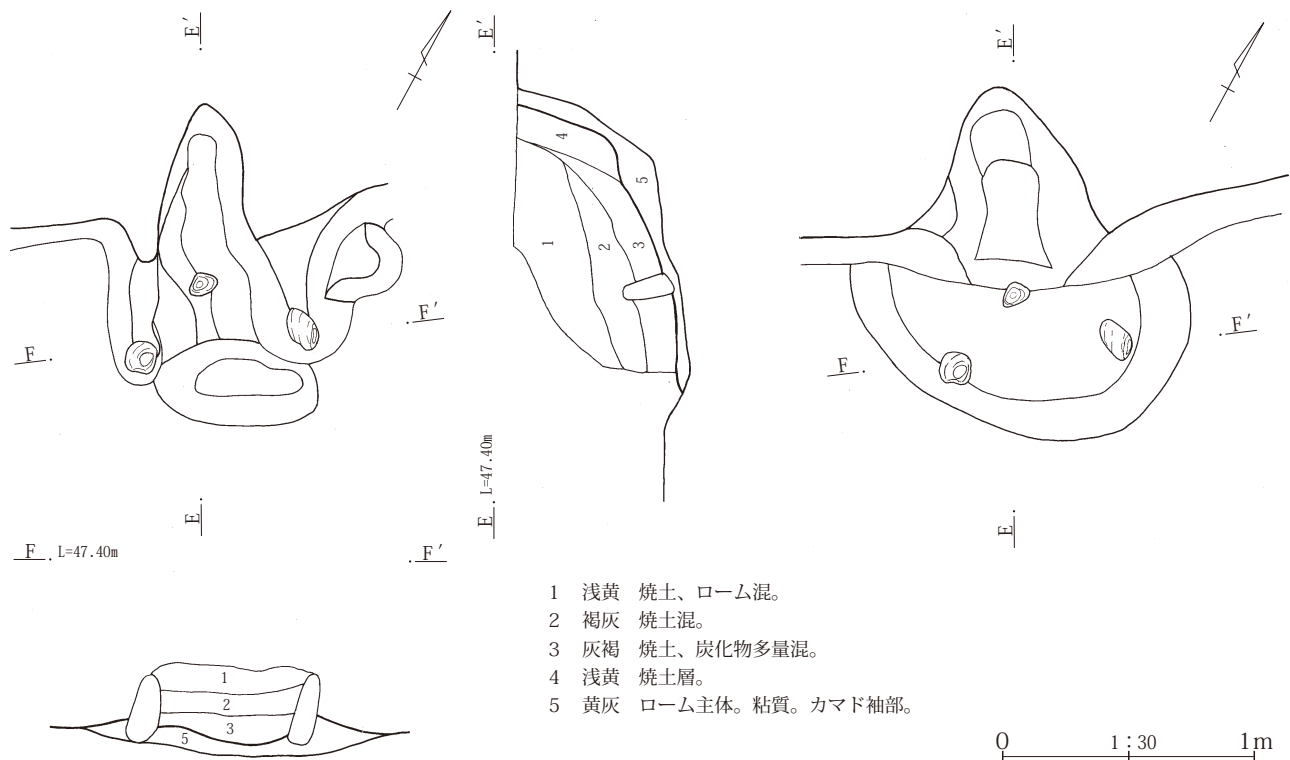
質土で袖を構築。燃烧部中央には、細長い自然礫があり、支脚と考えられる。焚口部底面はややくぼむが、燃烧部でいったん上がる。奥壁の立ち上がりは58°で、途中段をもっている。

**所見** 東壁に段があるが、この部分は風倒木が重複しており、壁がはっきりしないため、掘りすぎの可能性あり。

**時期** 時期のわかる出土遺物が少なくはっきりしないが、7世紀代の住居と考えられる。



第76図 5区430号住居使用面



- 1 浅黄 焼土、ローム混。
- 2 褐灰 焼土混。
- 3 灰褐 焼土、炭化物多量混。
- 4 浅黄 焼土層。
- 5 黄灰 ローム主体。粘質。カマド袖部。

第77図 5区430号住居カマド

**6区1号住居** (第78～81図 PL.36-8、37-1～3)

位置 920～928-862～870Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 6.45m

短辺 5.81m 長辺/短辺 1.11 壁高 0.79m

面積 35.88㎡ 床面積 28.66㎡

主軸方位 N-46°-W

壁溝 西壁。やや北寄りですべて切れる。深さ1～4cm。  
掘り方では南壁から東壁にかけても検出。

柱穴 4基。壁との間が比較的狭く内部が広い配置となっている。計測値は第17表参照。

貯蔵穴 カマド右に位置し、平面形態は円形で断面は丸みを帯びている。

埋没土 白色粒子を含む黒褐色・暗褐色土と、洪水起源と考えられる黄褐色土が、交互にレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 黒褐色土で部分的に2～10cmの貼床。ほぼ水平で、南部を中心に硬化。カマド左脇に3基、南壁際中央に1基ピットあり。南壁際のもの、入口施設に関係する可能性あり。

遺物出土状況 出土量は多く、ほぼ全面から出土しているが、床面上のものは少なく、3207の土師器甕がある程度である。3193・3198の土師器杯、3199の須恵器杯蓋は、

床面から浮いてはいるが、壁際のため遺棄遺物の可能性はある。

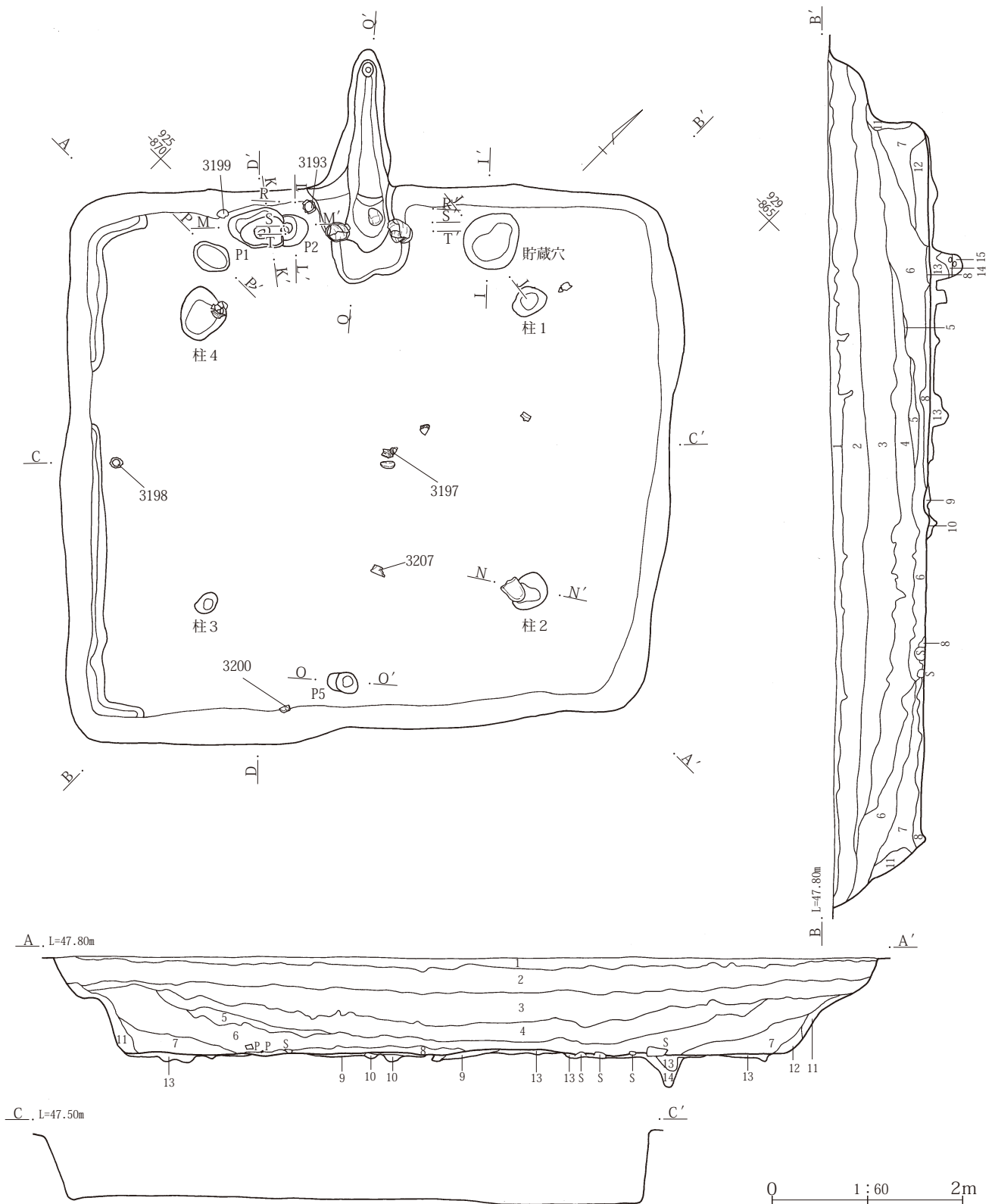
掘り方 ほぼ平坦な掘り方。一部掘り方を床面とする。南壁から東壁にかけて壁溝状の溝検出。

カマド 北壁中央に位置し、全長2.44m幅1.01mで、煙道部全長1.54m幅0.64m、燃烧部幅0.53mである。土師器甕を伏せたものを補強材として、にぶい黄橙色土で袖を構築。天井部も土師器甕を横につなげて補強材としており、崩れて焚口部に落ちている。燃烧部はややくぼみ、自然礫の支脚が出土している。燃烧部の立ち上がりは60°であるが低く、煙道部が長く続く。煙道部の底面は水平、一部下がりながら延び、立ち上がりは70°である。袖・天井部の土師器甕以外に、煙道部からも土師器甕が出土しているが、出土量は少なく煙道部の補強材とすることはできない。土師器甕(3212)はカマドにかかっていた可能性が高い。

所見 遺構の残存状況は良好で、平面図には表れていないが、壁の上部が斜めに立ち上がっており、垂直に立ち上がる壁が、斜めに崩落したことを示していると考えられる。

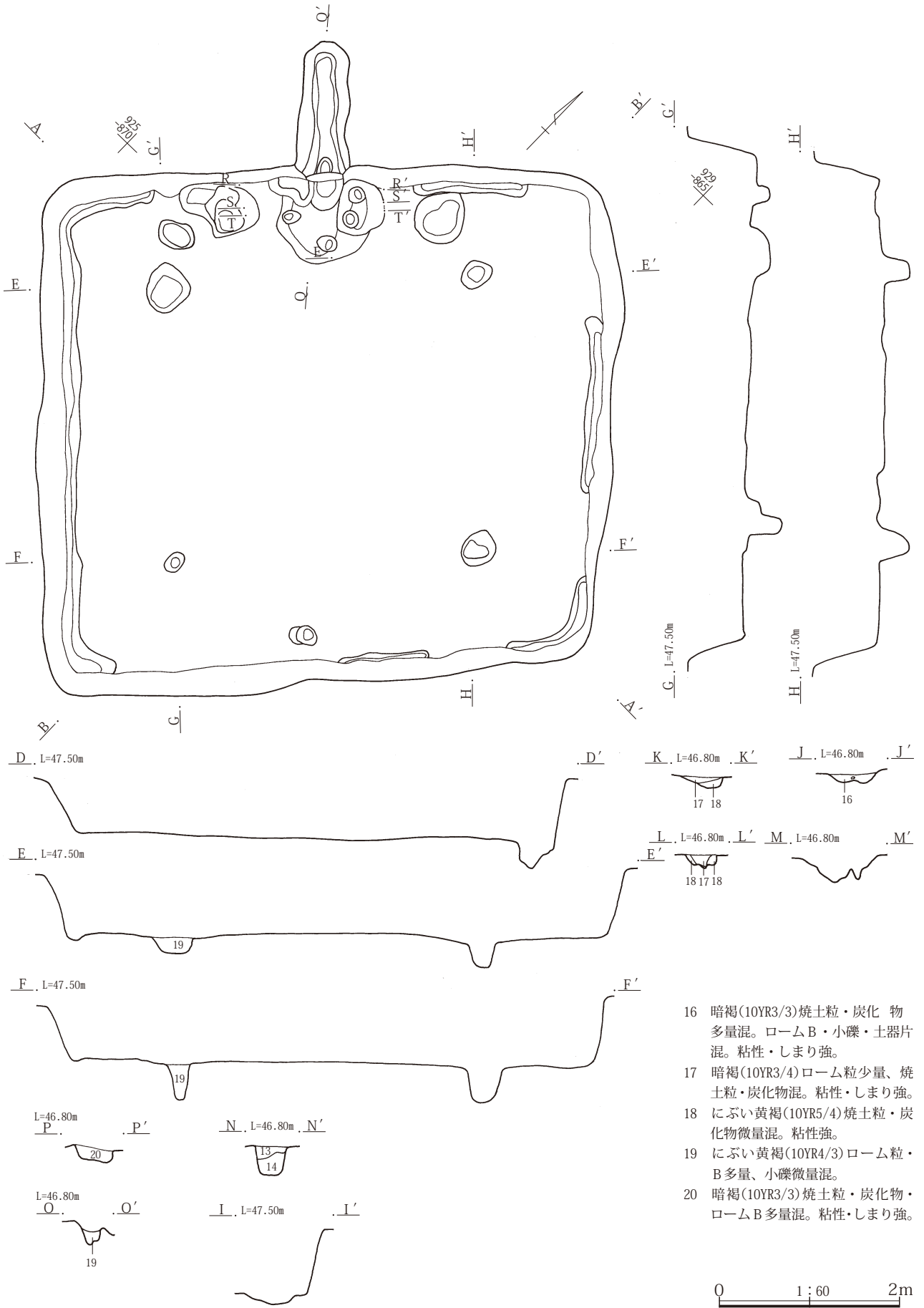
時期 出土遺物から7世紀第1～第2四半紀と考えられる。





- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1 にぶい黄褐(10YR5/4)シルト質。しまり強。洪水起源か。     | 9 オリーブ褐(2.5Y4/4)黒褐色土混。しまり強。貼床。           |
| 2 黒褐(10YR2/2)白色軽石少量混。粘性・しまり強。        | 10 黒褐(10YR3/2)黄褐色・オリーブ褐色ロームB小多量混。貼床。     |
| 3 暗褐(10YR3/3)白色軽石少量混。粘性・しまり強。        | 11 褐(10YR4/4)暗褐色・黒褐色土混。しまり弱。             |
| 4 黄褐(2.5Y5/3)シルト質。粘性・しまり強。洪水起源か。     | 12 黒褐(10YR3/2)褐色・黄褐色ローム混。しまり弱。           |
| 5 黒褐(10YR3/2)炭化物混。粘性弱。               | 13 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B多量、焼土粒・炭化物混。しまり強。貼床。 |
| 6 暗褐(10YR3/3)白色軽石・焼土・炭化物少量混。粘性・しまり弱。 | 14 明黄褐(10YR7/6)ローム粒・B多量混。粘性強。            |
| 7 黒褐(10YR3/2)焼土粒・炭化物多量混。粘性・しまり弱。     | 15 明黄褐(10YR7/6)ローム粒・B、小礫多量混。粘性強。         |
| 8 黒褐(10YR3/2)黄褐色・オリーブ褐色ロームB小混。       |  |

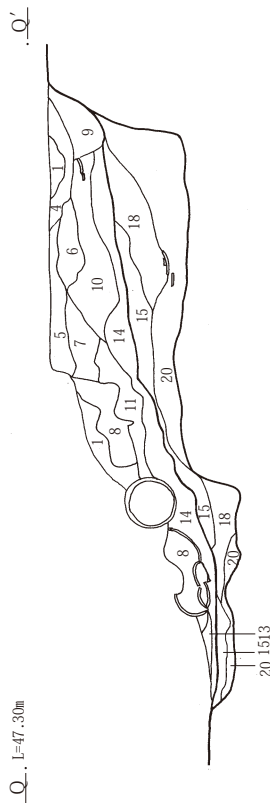
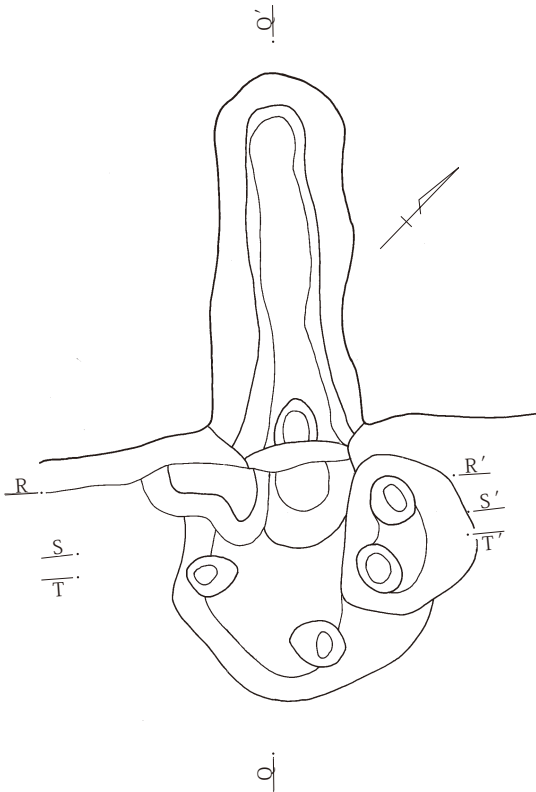
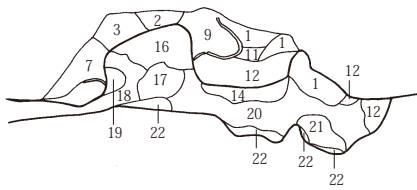
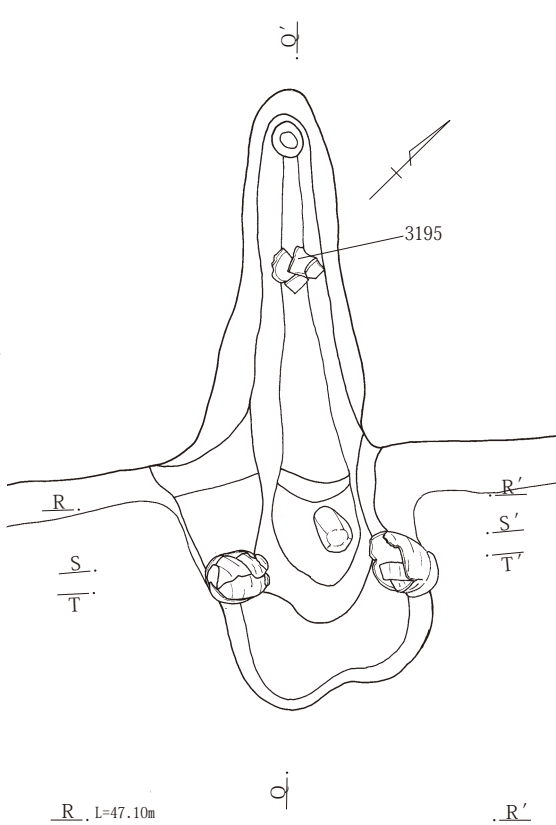
第78図 6区1号住居使用面



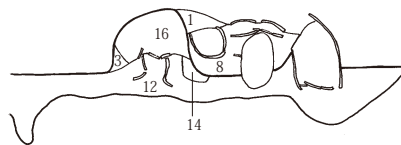
- 16 暗褐(10YR3/3)焼土粒・炭化物多量混。ロームB・小礫・土器片混。粘性・しまり強。
- 17 暗褐(10YR3/4)ローム粒少量、焼土粒・炭化物混。粘性・しまり強。
- 18 にぶい黄褐(10YR5/4)焼土粒・炭化物微量混。粘性強。
- 19 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・B多量、小礫微量混。
- 20 暗褐(10YR3/3)焼土粒・炭化物・ロームB多量混。粘性・しまり強。

第79図 6区1号住居掘り方

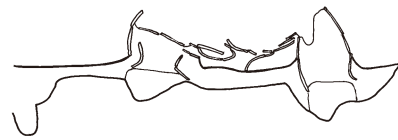
第4節 古墳時代後期～平安時代



S, L=47.10m



T, L=47.10m

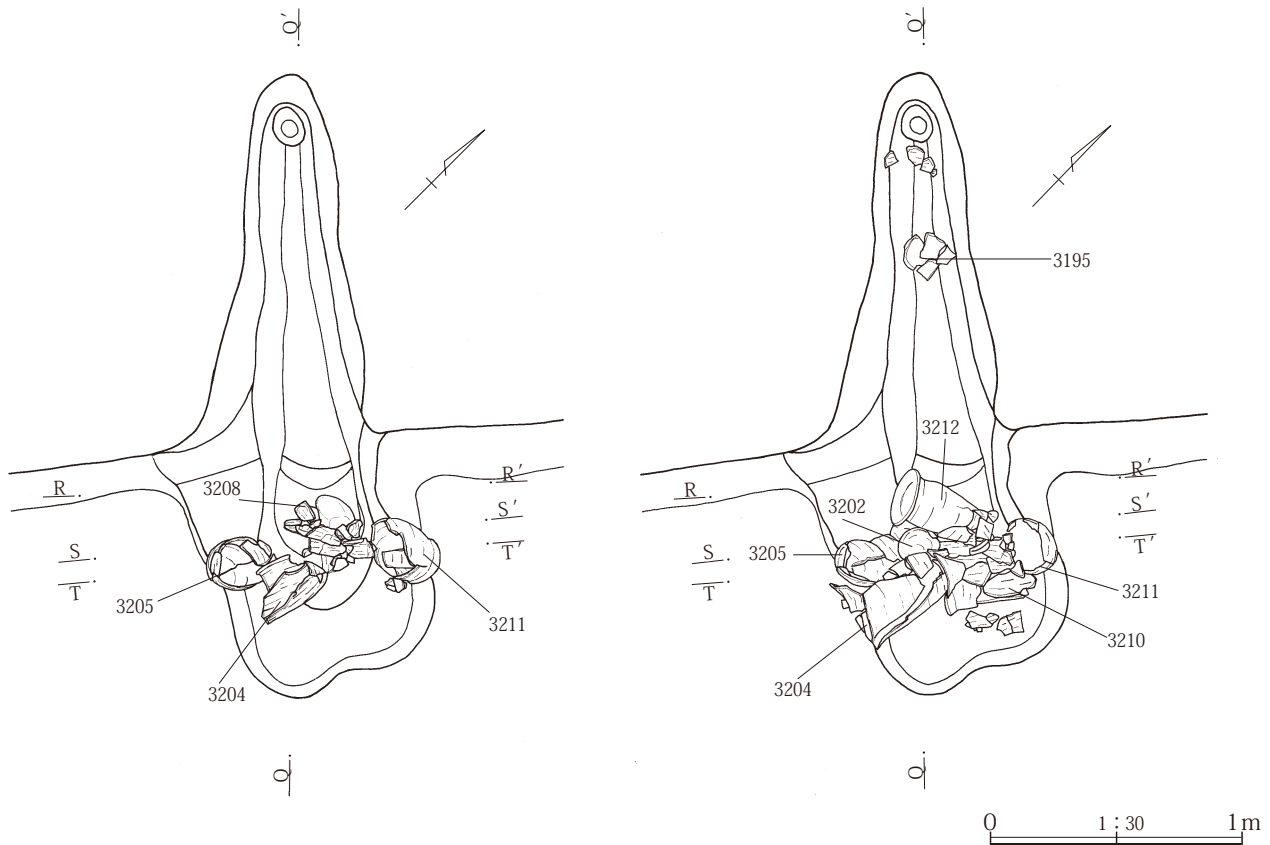


T'

- 1 にぶい黄橙(10YR6/4)焼土・炭化物少量混。粘性・しまり強。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)焼土微量混。天井部崩落土か。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒・炭化物微量混。
- 4 暗赤褐(5 YR3/2)焼土粒多量、粘質土・炭化物少量混。
- 5 暗褐(10YR3/3)焼土・炭化物少量混。
- 6 にぶい黄褐(10YR4/3)粘質土B多量混。煙道天井部か。
- 7 暗褐(10YR3/4)焼土粒混。粘性極弱・しまり弱。
- 8 黒褐(10YR2/3)焼土粒大・炭化物多量混。
- 9 暗赤褐(5 YR3/3)焼土粒多量混。
- 10 暗赤褐(5 YR3/3)焼土粒多量混。
- 11 にぶい黄橙(10YR5/4)焼土粒多量混。
- 12 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒混。
- 13 黒褐(10YR2/3)焼土粒・B、炭化物・ローム粒混。
- 14 暗褐(10YR3/4)焼土粒・B極多量、炭化物混。灰極微量混。
- 15 黒褐(10YR3/1)灰極多量、焼土粒多量混。
- 16 にぶい黄橙(10YR6/4)焼土・炭化物微量混。粘性・しまり強。
- 17 にぶい黄橙(10YR6/4)焼土・炭化物微量混。粘性・しまり極強。
- 18 褐(10YR4/4)焼土粒・B中量、炭化物少量、ローム粒・B混。
- 19 にぶい黄橙(10YR6/3)ローム主体。黒色土多量混。
- 20 にぶい黄橙(10YR6/3)ローム主体。焼土・炭化物少量混。
- 21 にぶい黄褐(10YR5/3)焼土B多量、炭化物・粘質土混。
- 22 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒混。

0 1:30 1m

第80図 6区1号住居カマド



第81図 6区1号住居カマド遺物出土状況

**6区2号住** (第82・83図 PL.37-4・5、38-1・2)

**位置** 894~898-858~863Gr **重複** なし

**平面形態** 隅丸方形 **長辺** 3.78m

**短辺** 3.58m **長辺/短辺** 1.06 **壁高** 0.69m

**面積** 12.89㎡ **床面積** 7.37㎡

**主軸方位** N-46°-W

**壁溝** 北カマド部分を除き全周。四隅の壁溝の外側に低いテラスあり。

**柱穴** なし

**貯蔵穴** 最終床面上にはないが、掘り方検出の土坑状掘り込みが、南東隅にあり。規模はやや大きい。旧カマドの右脇にあるため、旧貯蔵穴の可能性もあり。

**埋没土** ローム・白色粒子を含む黒褐色・暗褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。南壁際のみ水平に近い堆積のため北側からの土砂流入が多かった可能性がある。

**床面状態** ロームを含むにぶい黄褐色土で8~18cmの貼床。ほぼ水平でやや軟弱。凹凸少ない。

**遺物出土状況** 出土量は比較的少なく、北部を中心に

土。4層中の床面から浮いた状態のものが多く大部分が廃棄・流入遺物と考えられるが、3225の土師器杯は床面上の出土で、遺棄遺物の可能性がある。

**掘り方** 南東隅に旧貯蔵穴の可能性のある土坑状掘り込みがあり。他に北東隅から南壁中央にかけて段があり、西部が低くなる。

**カマド** 北壁と東壁の2基検出されている。北壁が新しく、東壁が古い。

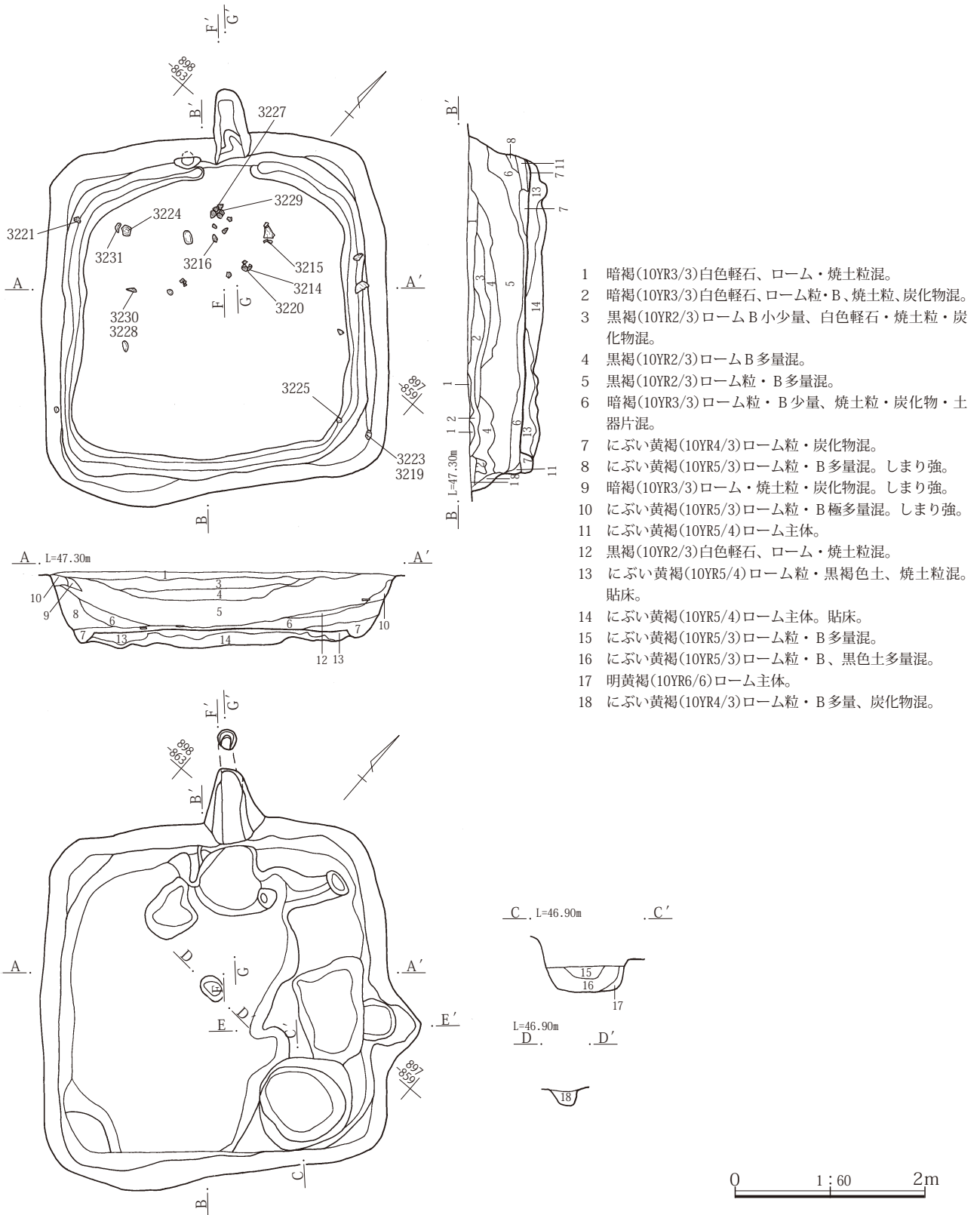
北カマド(新カマド)は北壁やや東寄りに位置し、全長0.78m幅0.37mで、煙道部全長0.41m幅0.33mである。残存状況悪く袖部構築材は不明である。焚口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、灰層が見られる。燃烧部立ち上がりは垂直であるが低く、煙道部が長く続く。煙道部天井が一部残存し、煙出しが円形に残る。径は約25cmである。煙道部奥壁も87°で立ち上がる。

東カマド(旧カマド)は東壁やや南寄りに位置し、全長0.5m幅0.62mである。旧カマドのため、袖構築材不明。焚口部・燃烧部はややくぼみ、灰層は見られない。奥壁は丸みを帯びて45°で立ち上がる。

所見 四隅に低いテラスのある、特異な形態の住居である。旧カマドがあるため、土層断面には表れていないが、上端まであった住居をやや小さく建替えた可能性も

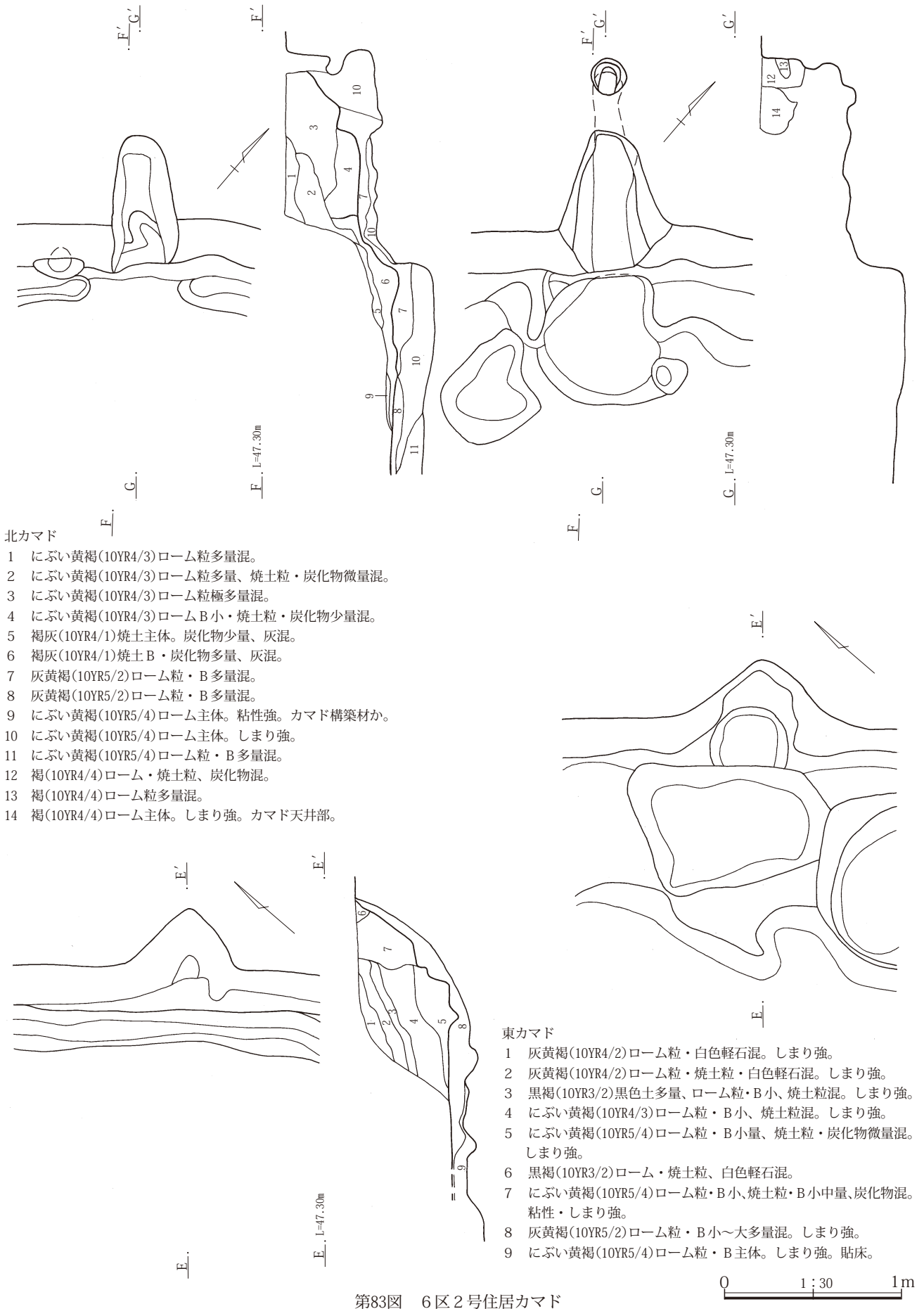
ある。

時期 出土遺物から8世紀第2～第3四半紀と考えられる。



- 1 暗褐(10YR3/3)白色軽石、ローム・焼土粒混。
- 2 暗褐(10YR3/3)白色軽石、ローム粒・B、焼土粒、炭化物混。
- 3 黒褐(10YR2/3)ロームB少量、白色軽石・焼土粒・炭化物混。
- 4 黒褐(10YR2/3)ロームB多量混。
- 5 黒褐(10YR2/3)ローム粒・B多量混。
- 6 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B少量、焼土粒・炭化物・土器片混。
- 7 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・炭化物混。
- 8 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・B多量混。しまり強。
- 9 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒・炭化物混。しまり強。
- 10 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・B極多量混。しまり強。
- 11 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。
- 12 黒褐(10YR2/3)白色軽石、ローム・焼土粒混。
- 13 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・黒褐色土、焼土粒混。貼床。
- 14 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。貼床。
- 15 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・B多量混。
- 16 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・B、黒色土多量混。
- 17 明黄褐(10YR6/6)ローム主体。
- 18 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・B多量、炭化物混。

第82図 6区2号住居使用面・掘り方



北カマド

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒多量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒多量、焼土粒・炭化物微量混。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒極多量混。
- 4 にぶい黄褐(10YR4/3)ロームB小・焼土粒・炭化物少量混。
- 5 褐灰(10YR4/1)焼土主体。炭化物少量、灰混。
- 6 褐灰(10YR4/1)焼土B・炭化物多量、灰混。
- 7 灰黄褐(10YR5/2)ローム粒・B多量混。
- 8 灰黄褐(10YR5/2)ローム粒・B多量混。
- 9 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。粘性強。カマド構築材か。
- 10 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。しまり強。
- 11 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B多量混。
- 12 褐(10YR4/4)ローム・焼土粒、炭化物混。
- 13 褐(10YR4/4)ローム粒多量混。
- 14 褐(10YR4/4)ローム主体。しまり強。カマド天井部。

東カマド

- 1 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・白色軽石混。しまり強。
- 2 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・焼土粒・白色軽石混。しまり強。
- 3 黒褐(10YR3/2)黒色土多量、ローム粒・B小、焼土粒混。しまり強。
- 4 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・B小、焼土粒混。しまり強。
- 5 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B小量、焼土粒・炭化物微量混。しまり強。
- 6 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、白色軽石混。
- 7 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B小、焼土粒・B小中量、炭化物混。粘性・しまり強。
- 8 灰黄褐(10YR5/2)ローム粒・B小～多量混。しまり強。
- 9 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B主体。しまり強。貼床。

6区3号住 (第84・85図 PL.38-3~5、39-1)

位置 867~870 - 859~864Gr

重複 3溝より旧。

平面形態 隅丸方形 長辺 3.68m

短辺 [3.38]m 壁高 0.63m

面積 [11.26]m<sup>2</sup> 床面積 [8.72]m<sup>2</sup>

主軸方位 N-51°-E 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 焼土・白色軽石を含む灰黄褐色土にぶい黄褐色土が交互にレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 にぶい黄褐色土で2~8cmの貼床とし、全体的に硬化。ほぼ水平な床面であるが、カマド手前に長径75cmのピットあり。位置的に貯蔵穴にはならないため性格不明。

遺物出土状況 出土量は多く、ほぼ全面から出土。完形・半完形のものが多く、3247・3248の須恵器擦鉢や3249の土師器台付鉢は床面上の出土であり、3235・3241・3242の土師器杯や3244の須恵器杯は床面からやや上だがカマ

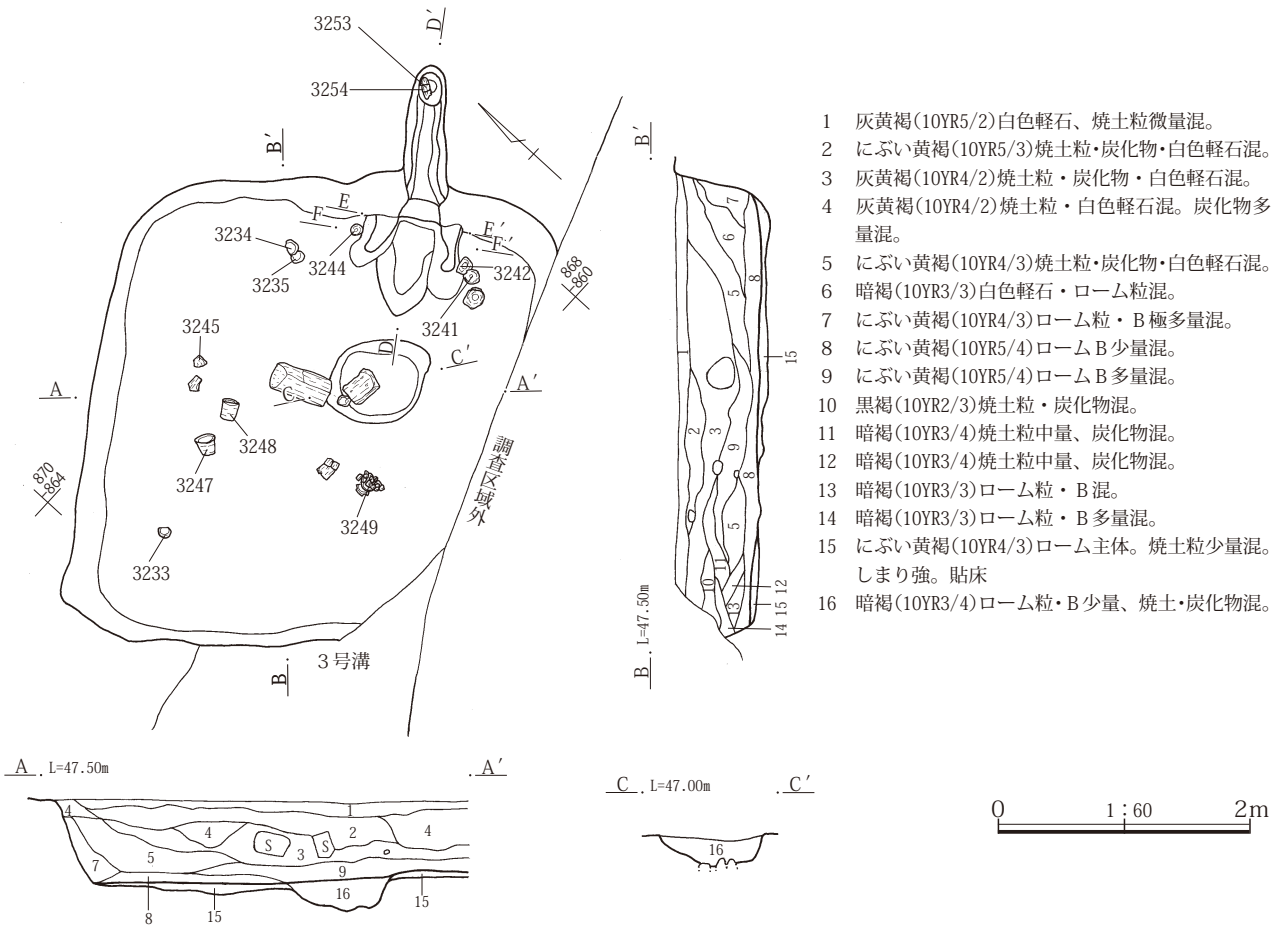
ド・壁に近い、いずれも遺棄遺物と考えられる。また、住居中央部から、規模の大きい自然礫が出土しているが、埋土中の出土であるため、廃棄遺物であろう。

掘り方 北東隅から中央部にかけて、浅い土坑状掘り込みがある以外は、平坦な掘り方である。

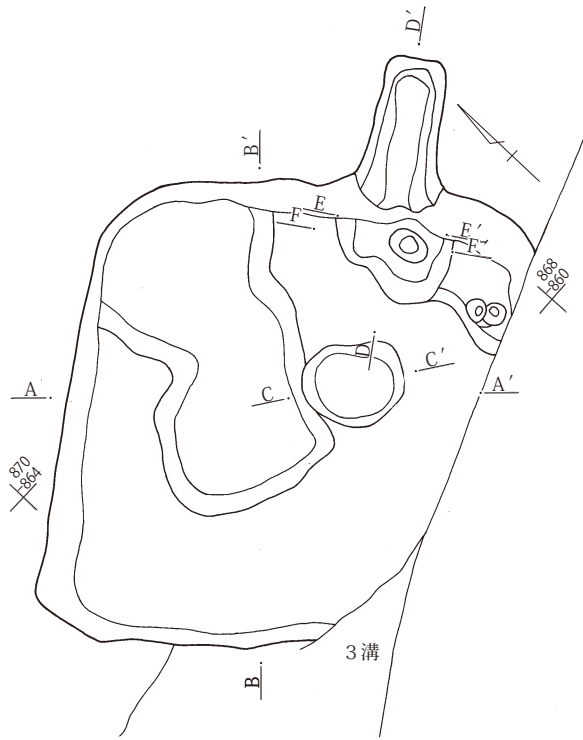
カマド 東壁南部に位置し、全長1.98m幅0.78mで、煙道部全長2.09m幅0.69mである。明黄褐色粘質土で袖を構築。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁は75°で立ち上がり、煙道部に続く。煙道部底面は水平に延び、奥壁は55°で立ち上がる。両袖の外側に完形・半完形の土師器・須恵器杯が出土しており、煙道部からは土師器甕の破片が出土しているが、補強材とするには量が少ない。

所見 3247・3248の須恵器擦鉢は、底部穿孔されており、他の住居からは出土していない。底部穿孔から、祭祀的な用途も想定でき、特殊な性格の住居であったとも考えられる。

時期 出土遺物から7世紀第1~第2四半紀と考えられる。



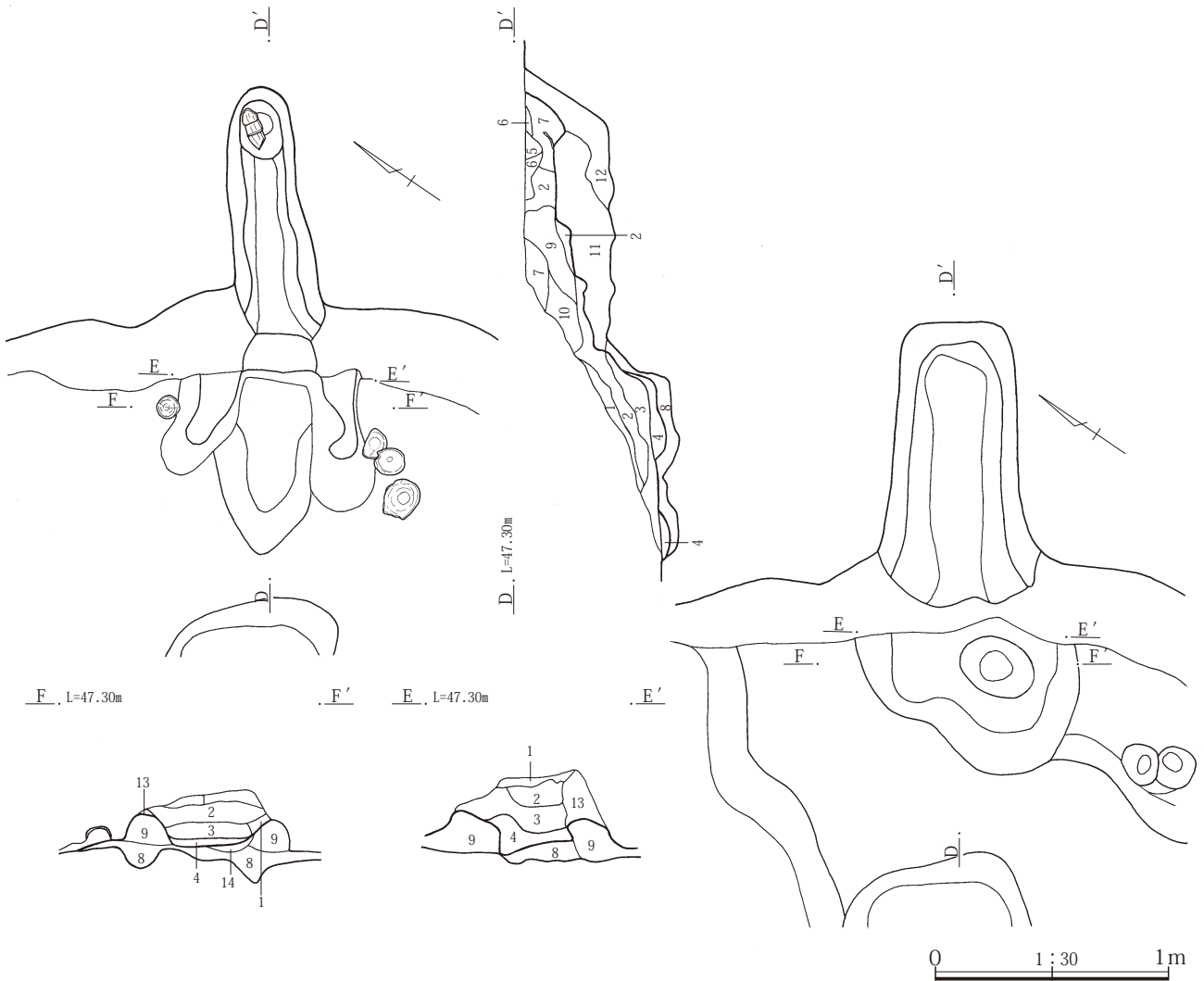
第84図 6区3号住居使用面



カマド

- 1 にぶい黄橙(10YR6/4)焼土・炭化物混。
- 2 暗褐(10YR3/4)焼土B主体。
- 3 暗褐(10YR3/4)焼土粒・B極多量、炭化物・灰混。
- 4 黒褐(10YR2/3)灰極多量、焼土粒・炭化物混。
- 5 黒褐(10YR2/2)灰主体。しまり弱。
- 6 黒褐(10YR3/2)焼土粒・灰混。
- 7 黒褐(10YR3/2)焼土粒・ローム粒・灰混。
- 8 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。焼土粒・灰混。
- 9 黒褐(10YR2/3)ローム・焼土粒、炭化物・灰混。
- 10 黒褐(10YR2/3)焼土粒多量、ローム・炭化物・灰混。
- 11 灰褐(5YR4/2)焼土主体。灰混。
- 12 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒極多量、焼土粒多量混。
- 13 にぶい黄褐(10YR5/4)粘質ローム多量、焼土粒・炭化物少量、灰混。
- 14 にぶい黄褐(10YR5/3)ロームと灰の混土。

0 1:60 2m



第85図 6区3号住居掘り方・カマド



6区4号住居 (第86～88図 PL.39-2、40-1～3)

位置 881～885-856～862Gr 重複 18土坑より新

平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形・隅丸方形

長辺 5.03m 短辺 4.21m 長辺/短辺 1.19

壁高 0.75m 面積 20.76㎡

床面積 13.78/9.69㎡ 主軸方位 N-82°-W

壁溝 カマドを除き全周。西部に南北方向のものがもう1条あり。

柱穴 なし

貯蔵穴 掘り方でカマド右脇に円形の掘り込みを検出。貯蔵穴の可能性が高いが、カマドに近接しすぎているため確実ではない。

埋没土 ローム・焼土を含む黒褐色・暗褐色・灰黄褐色土等がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。西部の三角堆積が他より大きいため、西側から土砂流入が多かった可能性がある。

床面状態 黒褐色土を含むにぶい黄褐色土で5～20cm

の貼床とし、全体的に硬化。ほぼ平坦であるが、西部に南北の溝あり。

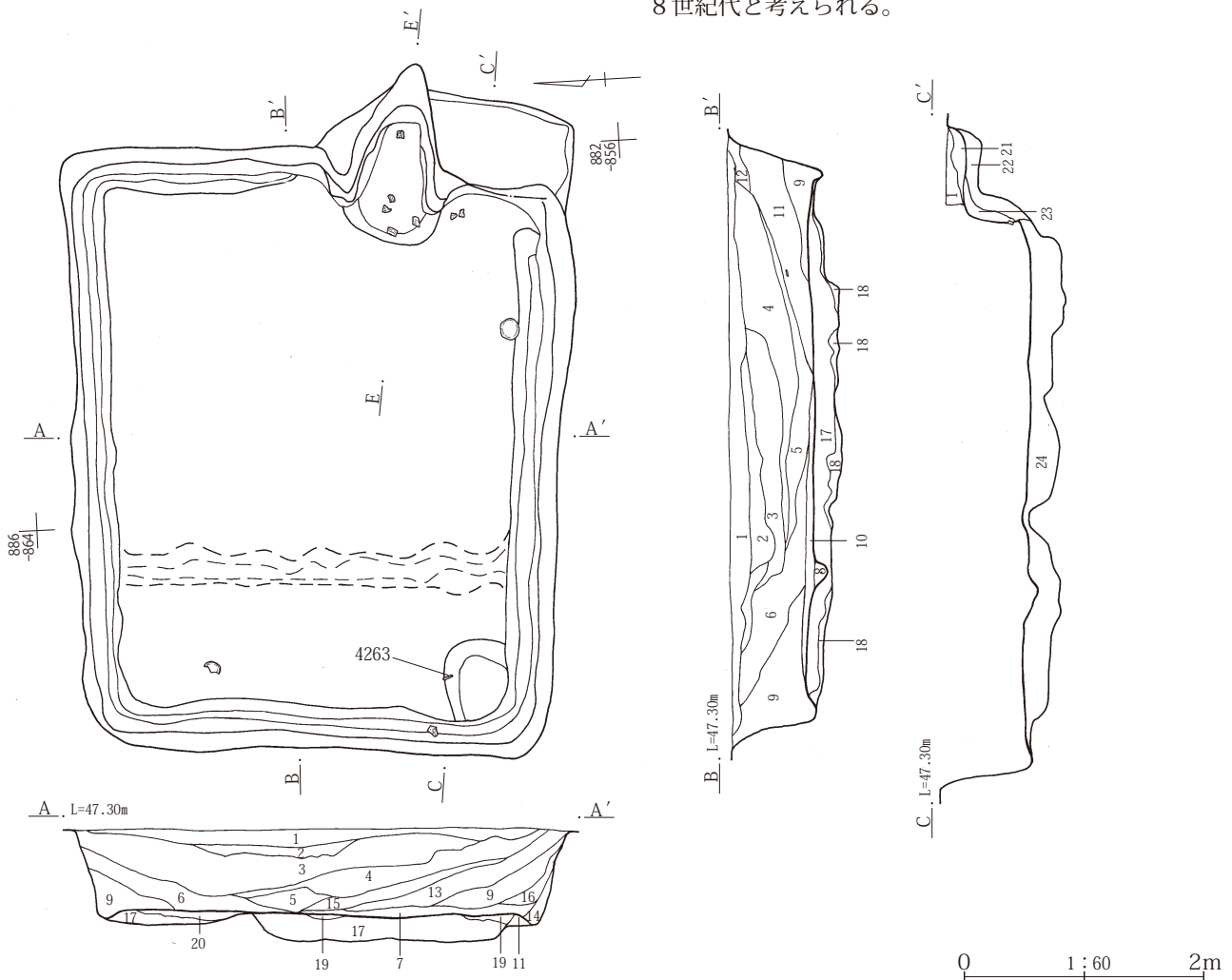
遺物出土状況 出土量は比較的多いが、大部分が埋土中出土の破片で、廃棄・流入遺物がほとんどである。

掘り方 南部を中心に、規模の大きい土坑状の掘り込みが多数あり。

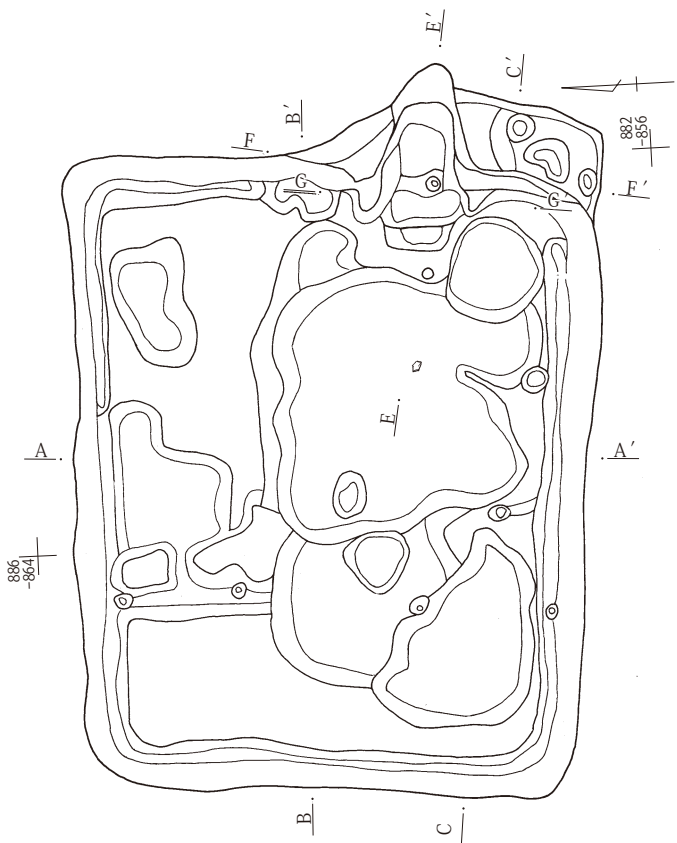
カマド 東壁南に位置し、全長1.48m幅1.26mで、燃焼部幅0.71mである。黄褐色土で袖を構築。焚口部・燃焼部はややくぼみ、灰層が見られる。奥壁はいったん垂直に低く立ち上がってから、さらに40°で立ち上がる。

所見 西部の床面上の溝は、壁溝と同形態であるため、旧壁溝で、住居を西側に拡張したものと考えがちであるが、掘り方は西部まで連続しているため、単純に拡張したとすることはできない。溝の両側の床面は同時に使用されており、間仕切りの機能を持っていたとする方が自然である。

時期 時期のわかる出土遺物が少なくはっきりしないが8世紀代と考えられる。

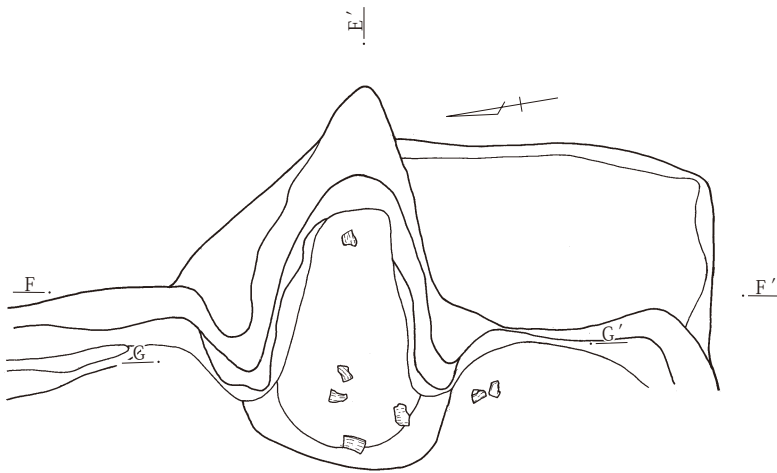


第86図 6区4号住居使用面

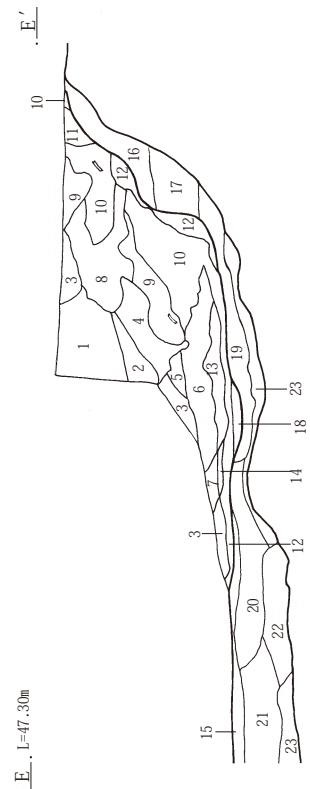
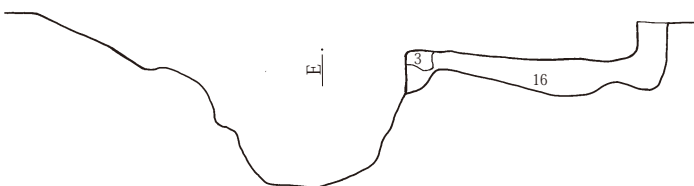


- 1 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒・炭化物・白色軽石混。
- 2 暗褐(10YR3/4)ローム粒・B多量、黒色土・焼土粒・白色軽石混。
- 3 黒褐(10YR2/3)ローム・焼土粒・炭化物・白色軽石混。
- 4 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B極多量、焼土粒・白色軽石混。
- 5 黒褐(10YR2/2)焼土粒微量、ローム粒・B混。
- 6 黒褐(10YR3/3)ローム粒・B、黒色土・白色軽石・焼土粒少量混。
- 7 黒褐(10YR2/2)下部に焼土粒混。粘性・しまり強。
- 8 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B微量混。周溝埋土。
- 9 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B、炭化物・白色軽石微量混。
- 10 黒褐(10YR2/2)ローム主体。下部に焼土粒混。
- 11 褐(10YR4/4)焼土粒多量、ローム粒・B中量混。
- 12 黒褐(10YR3/3)ローム粒・B、焼土粒少量混。
- 13 暗褐(10YR3/4)ローム粒・B中量、焼土粒・炭化物混。
- 14 黒褐(10YR2/2)焼土粒微量混。
- 15 黒褐(10YR3/3)ローム粒・B多量、焼土粒少量混。
- 16 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B、炭化物微量混。
- 17 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム多量、焼土粒・黒色土少量混。しまり強。貼床。
- 18 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム極多量混。しまり強。貼床。
- 19 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム・焼土粒・炭化物多量混。粘性・しまり強。貼床。
- 20 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム・焼土粒・炭化物極多量混。灰混。しまり強。貼床。
- 21 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。焼土粒・炭化物少量混。粘性・しまり強。
- 22 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム主体。棚状遺構の掘方。
- 23 明黄褐(10YR6/6)ローム主体。しまり強。
- 24 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒・炭化物混。住居貼床。

0 1:60 2m



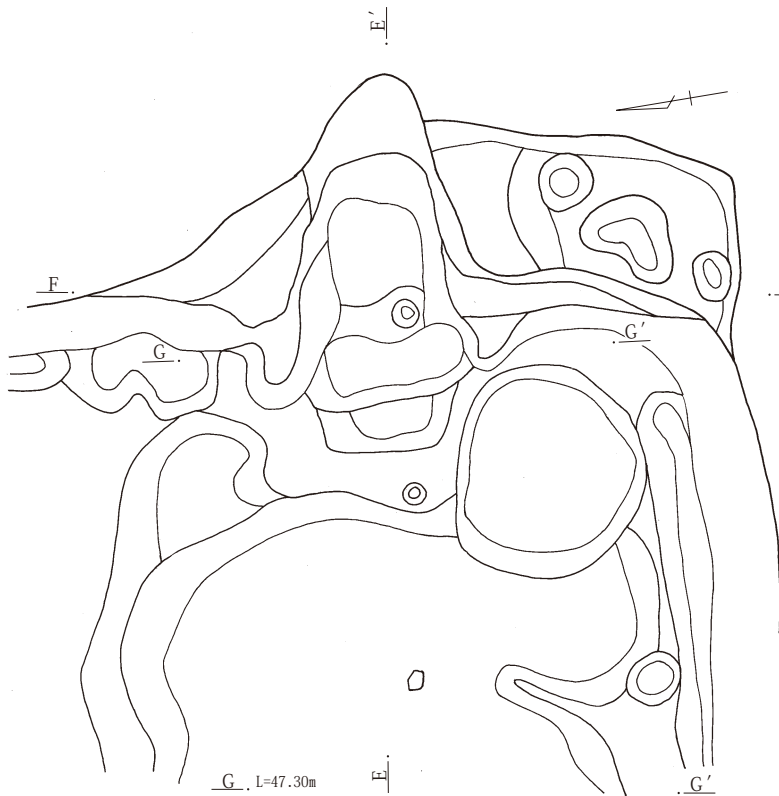
F, L=47.60m



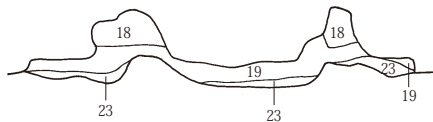
E, L=47.30m

0 1:30 1m

第87図 6区4号住居掘り方・カマド使用面



- 1 暗褐(10YR3/4)ロームB小、焼土粒・炭化物混。
- 2 黒褐(10YR3/2)ロームB小、焼土粒・炭化物混。
- 3 黒褐(10YR3/2)ロームB多量、焼土粒・炭化物混。
- 4 黒褐(10YR3/2)ロームB極多量混。
- 5 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。焼土粒混。
- 6 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。焼土B多量混。
- 7 にぶい黄褐(10YR5/4)焼土粒・B極多量混。
- 8 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。焼土粒・炭化物混。
- 9 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。焼土粒多量混。
- 10 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。焼土粒極多量、焼土B混。
- 11 褐灰(10YR4/1)焼土主体。ローム粒混。
- 12 褐灰(10YR4/1)焼土主体。ロームB少量、灰多量混。
- 13 褐灰(10YR4/1)焼土主体。ロームB少量、灰極多量混。
- 14 褐灰(10YR4/1)灰・ローム・焼土が交互に3層堆積。
- 15 褐灰(10YR4/1)灰とロームが交互に5層堆積。焼土粒混。
- 16 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。
- 17 褐(10YR4/4)ローム粒・B混。
- 18 明黄褐(10YR6/6)粘性、しまり強。カマド袖構築土。
- 19 明黄褐(10YR6/6)ロームB多量、焼土粒・灰混。粘性強。
- 20 明黄褐(10YR6/6)ロームB大極多量混。
- 21 黄褐(10YR5/6)ローム粒・B、焼土B混。
- 22 明黄褐(10YR6/6)ロームB大極多量、焼土粒混。
- 23 明黄褐(10YR6/6)ローム粒・B多量混。



0 1:30 1m

第88図 6区4号住居カマド掘り方

6区5号住居 (第89・90図 PL.40-4・5、41-1~3)

位置 883~888 - 841~845Gr 重複 なし

平面形態 主軸方向が短い隅丸長方形

長辺 [4.19]m 短辺 3.93m 壁高 0.45m

面積 [13.26]㎡ 床面積 [9.28]㎡

主軸方位 N-3°-W 壁溝 調査範囲内全周。

柱穴 調査範囲になし。 貯蔵穴 調査範囲なし。

埋没土 焼土・炭化物を含む暗褐色・黒褐色土が堆積。南西部の床面上には、特に焼土・炭化物を多く含む層あり。

床面状態 ロームを含む黒褐色土・にぶい黄褐色土で2~7cmの貼床。やや凹凸のある床面。床下土坑上にあるためか、東部中央は周囲より8cm低い。

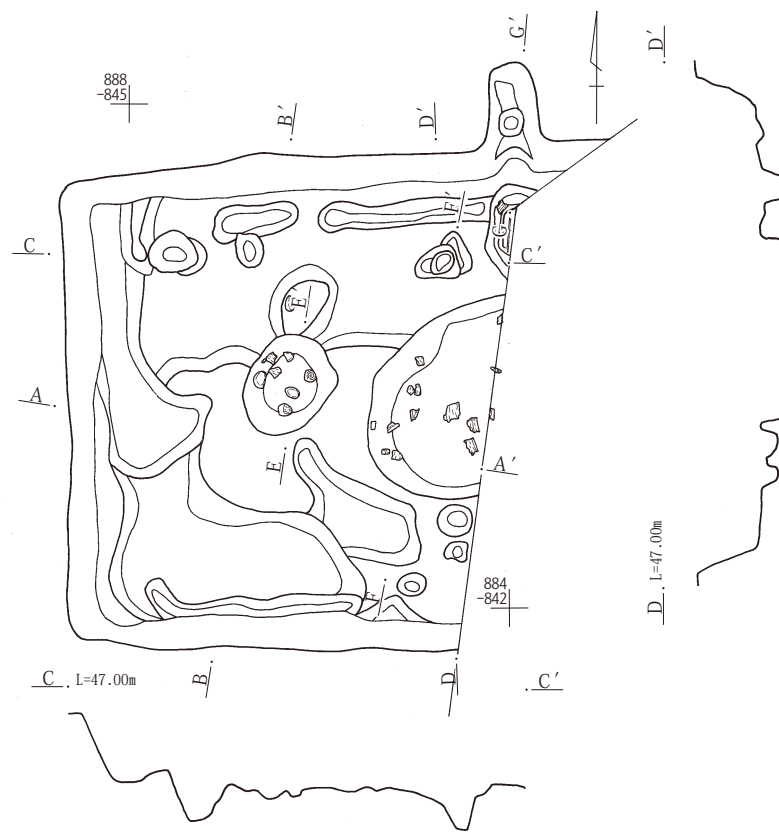
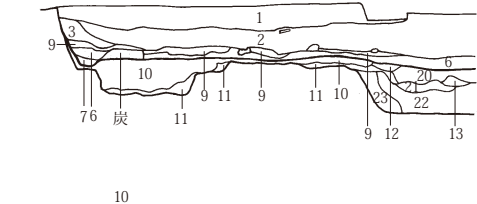
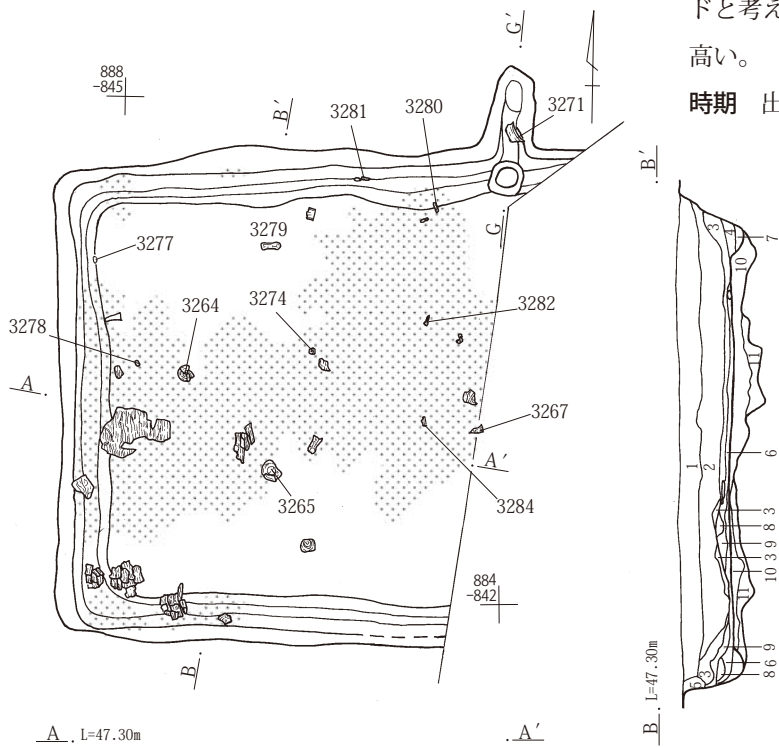
遺物出土状況 出土量は比較的多く、ほぼ全面から出土。床面上出土のものは少なく、ほとんどが、廃棄・流入遺物か。また、炭化材が、床面からやや浮いた状態で

多数出土。さらに、床下土坑からも、土器・自然礫が出土している。

掘り方 土坑状・溝状の掘り込多数あり。

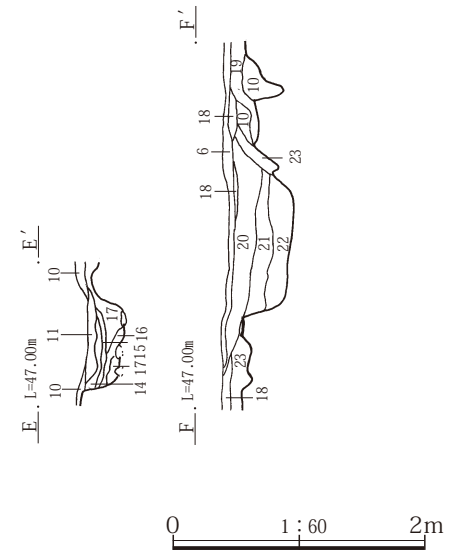
カマド 北壁に位置する。東部は調査区外であるが、西側の壁が長く続くため、東に寄っていると考えられる。全長1.01m幅0.47mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部底面はほぼ平坦で、燃燒部はピット状にくぼむ。灰層が見られる。燃燒部奥壁から煙道部底面は、緩やかに立ち上がり、いったん水平に延びてからさらに立ち上がる。燃燒部のくぼみ以外壁溝が続くため、旧カマドの可能性が高い。煙道部から土師器甕口縁部(3271)が出土しているが、煙道の補強材とするには出土量が少ない。

所見 床面近くの埋土中から、焼土、炭化材が多く出土しているため、火災住居の可能性があるが、完形の土器等はほとんどないため、確実ではない。カマドが旧カマ

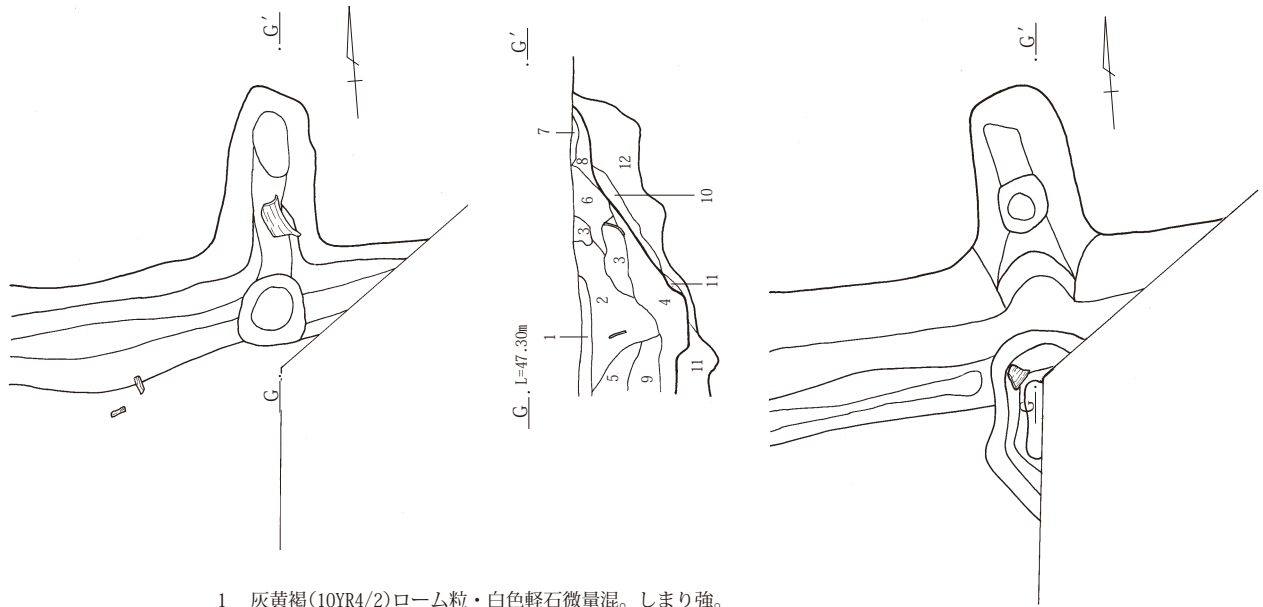


- 1 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒・炭化物・白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)粘性強。
- 3 黒褐(10YR2/2)ローム粒多量、焼土・炭化物中量混。
- 4 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・B多量、焼土粒・炭化物微量混。
- 5 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。
- 6 黒褐(10YR2/2)白色軽石微量、ローム・焼土粒混。
- 7 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B混。周溝埋土。
- 8 黒褐(10YR2/2)焼土B主体。炭化物混。
- 9 黒褐(10YR2/2)ローム粒・焼土多量、炭化物中量混。
- 10 黒褐(10YR3/1)ローム粒・B、焼土粒混。しまり強。貼床。
- 11 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。黒色土微量混。しまり強。貼床。
- 12 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、炭化物混。粘性・しまり強。貼床。
- 13 褐灰(10YR4/1)灰・ローム粒・焼土粒混。粘性・しまり強。貼床。
- 14 黒褐(10YR3/2)ローム粒混。
- 15 にぶい黄褐(10YR5/4)焼土粒・炭化物多量混。
- 16 黒褐(10YR2/2)炭化物極多量混。しまり弱。
- 17 褐(10YR4/6)ローム粒・炭化物混。粘性強。
- 18 黒褐(10YR2/2)白色軽石微量、ロームB・焼土粒混。
- 19 黒褐(10YR3/1)焼土粒多量、ローム粒・B混。
- 20 灰黄褐(10YR5/2)ロームB極多量、焼土粒・炭化物混。
- 21 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒・炭化物多量、ロームB少量混。
- 22 灰黄褐(10YR4/2)炭化物極多量混。ロームB少量混。
- 23 灰黄褐(10YR5/2)ロームB極多量混。

ドと考えられるため、東壁に新カマドがあった可能性が高い。  
 時期 出土遺物から9世紀第2～第3四半紀と考えられる。



第89図 6区5号住居使用面・掘り方



- 1 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・白色軽石微量混。しまり強。
- 2 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・白色軽石微量、焼土粒・炭化物混。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)カマド天井部に使用の粘質土主体。灰・焼土粒混。
- 4 褐灰(10YR4/1)焼土粒・B、灰主体。下部に炭化物混。
- 5 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒、白色軽石混。
- 6 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒・B極多量、灰混。
- 7 暗褐(10YR3/3)焼土粒混。
- 8 暗褐(10YR3/3)粘性のある黄色土微量、焼土粒・炭化物混。
- 9 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒混。白色軽石少量混。
- 10 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B・灰・焼土粒多量混。粘性・しまり強。
- 11 黒褐(10YR3/1)ローム粒・B、焼土粒・炭化物混。粘性・しまり強。
- 12 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒主体。粘性弱。

0 1:30 1m

第90図 6区5号住居カマド

**6区6号住居** (第91図 PL.41-4・5)

**位置** 889～892 - 836～841Gr **重複** 1溝より旧

**平面形態** 主軸方向が長い?隅丸長方形

**長辺** 3.96m **短辺** 3.01m **長辺/短辺** 1.28

**壁高** 0.41m **面積** (11.46)m<sup>2</sup>

**床面積** (9.30)m<sup>2</sup> **主軸方位** N-68° -W

**壁溝** 南壁。部分的に深くなっている。

**貯蔵穴** 調査範囲になし。

**埋没土** 焼土・炭化物を含む褐灰色・黒褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。

**床面状態** 黒褐色土を含む明黄褐色土で2～15cmの貼床。やや軟弱で、西部が約10cm下がる。床面上から土坑・ピット各2基検出。

**遺物出土状況** 出土量は少なく、ほとんどが、埋土中出土の破片で、廃棄・流入遺物であろう。

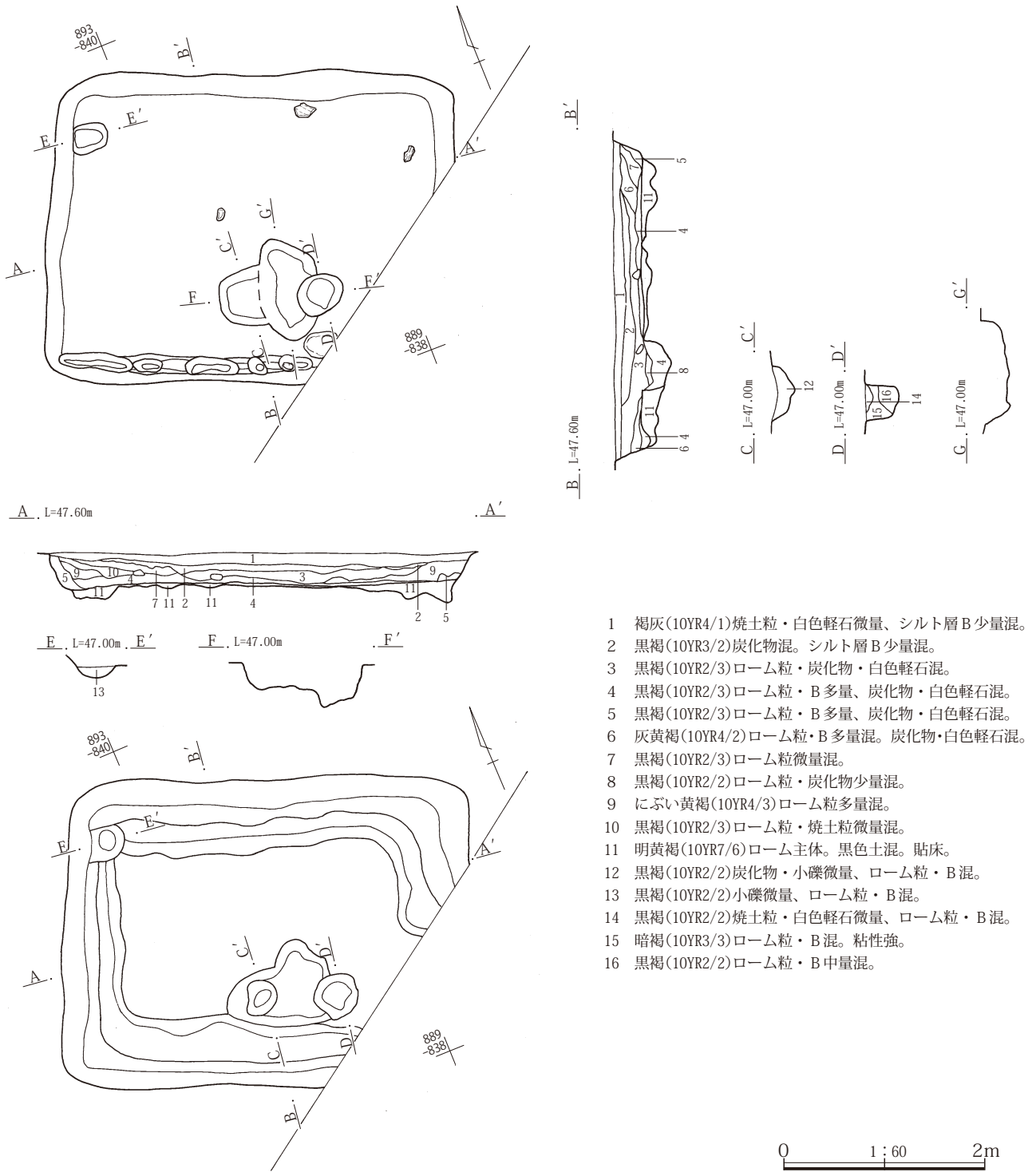
**掘り方** 周囲を溝状に掘りくぼめる掘り方。南東部は溝

が切れており、東壁にカマドがあった可能性が高い。

**カマド** 調査範囲にないが、東壁北部から南壁中央部までは壁が検出されているため、東壁南部にあった可能性が高い。

**所見** 床面上検出の土坑は、カマドが東壁南部にあったとすると、カマド前に位置することになり、不自然である。発掘調査時は床面上と認識していたが、新旧がある可能性もある。

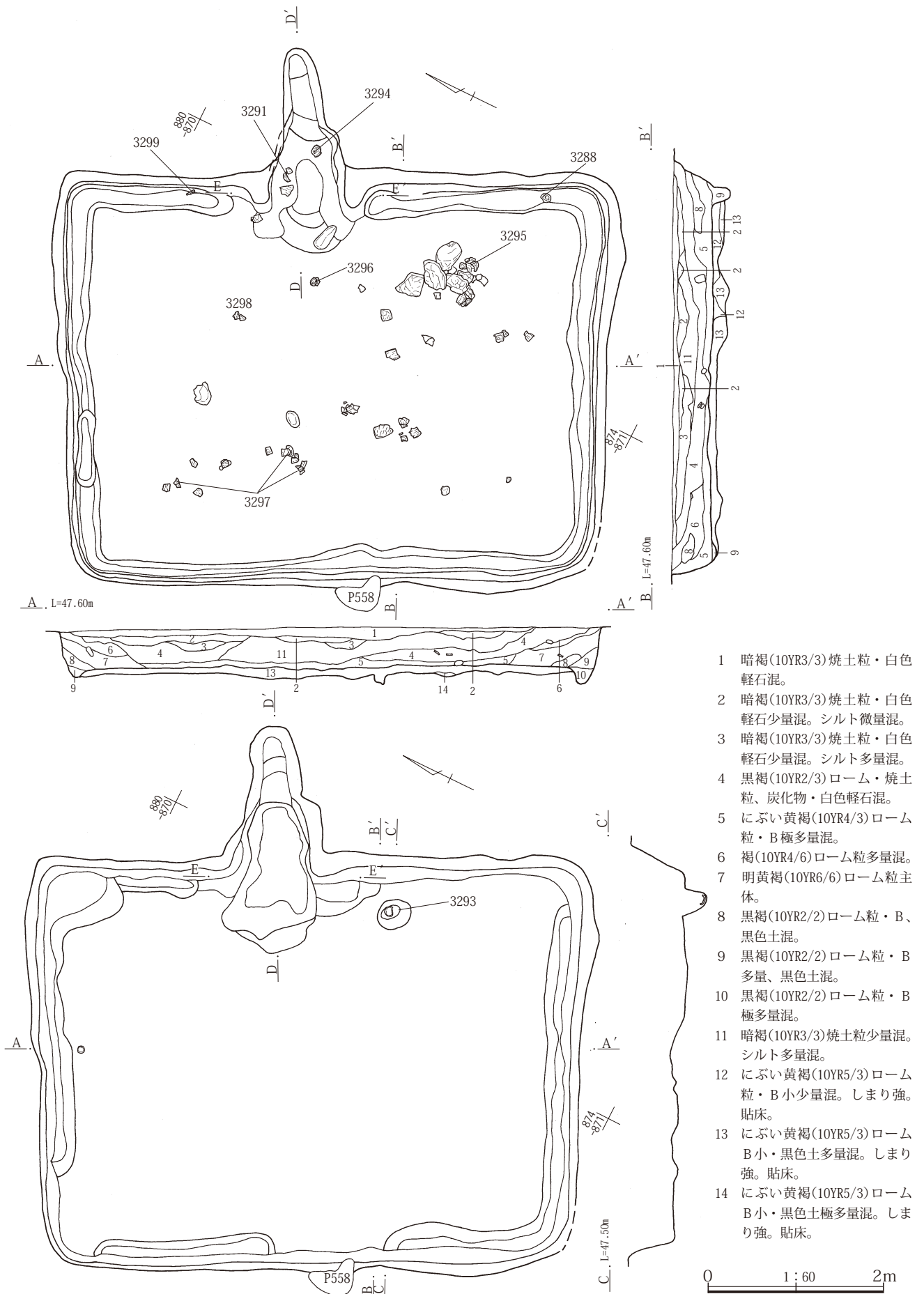
**時期** 時期のわかる出土遺物は少なくはっきりしないが9世紀代の住居と考えられる。



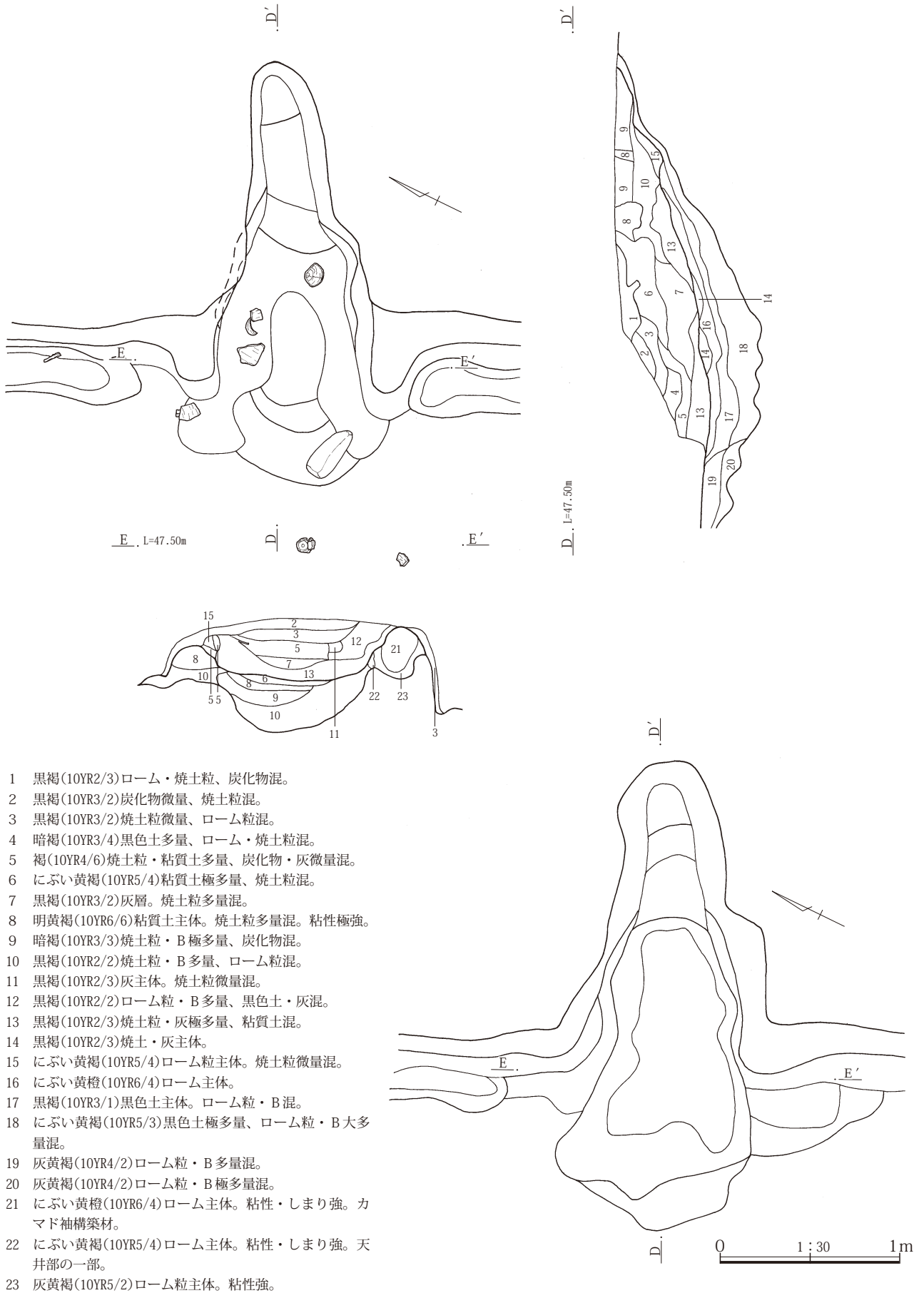
第91図 6区6号住居

**6区7号住居** (第92・93図 PL.42-1~4)  
**位置** 873~881 - 868~875Gr  
**重複** 558ピットと重複。新旧不明。  
**平面形態** 主軸方向が短い隅丸長方形  
**長辺** 6.52m **短辺** 4.66m **長辺/短辺** 1.40  
**壁高** 0.54m **面積** 29.78㎡ **床面積** 20.87㎡

**主軸方位** N-63°-E **壁溝** カマドを除き全周。  
**柱穴** なし  
**貯蔵穴** 掘り方で、カマド右脇にピットが検出されており、位置的に貯蔵穴の可能性もあるが、規模は小さいため可能性は低いか。  
**埋没土** 焼土・白色軽石を含む暗褐色・黒褐色土が堆積。



第92図 6区7号住居使用面・掘り方



- 1 黒褐(10YR2/3)ローム・焼土粒、炭化物混。
- 2 黒褐(10YR3/2)炭化物微量、焼土粒混。
- 3 黒褐(10YR3/2)焼土粒微量、ローム粒混。
- 4 暗褐(10YR3/4)黒色土多量、ローム・焼土粒混。
- 5 褐(10YR4/6)焼土粒・粘質土多量、炭化物・灰微量混。
- 6 にぶい黄褐(10YR5/4)粘質土極多量、焼土粒混。
- 7 黒褐(10YR3/2)灰層。焼土粒多量混。
- 8 明黄褐(10YR6/6)粘質土主体。焼土粒多量混。粘性極強。
- 9 暗褐(10YR3/3)焼土粒・B極多量、炭化物混。
- 10 黒褐(10YR2/2)焼土粒・B多量、ローム粒混。
- 11 黒褐(10YR2/3)灰主体。焼土粒微量混。
- 12 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B多量、黒色土・灰混。
- 13 黒褐(10YR2/3)焼土粒・灰極多量、粘質土混。
- 14 黒褐(10YR2/3)焼土・灰主体。
- 15 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒主体。焼土粒微量混。
- 16 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム主体。
- 17 黒褐(10YR3/1)黒色土主体。ローム粒・B混。
- 18 にぶい黄褐(10YR5/3)黒色土極多量、ローム粒・B多量混。
- 19 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B多量混。
- 20 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B極多量混。
- 21 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム主体。粘性・しまり強。カマド袖構築材。
- 22 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。粘性・しまり強。天井部の一部。
- 23 灰黄褐(10YR5/2)ローム粒主体。粘性強。

第93図 6区7号住居カマド



壁際に三角堆積もあり、自然堆積と考えられるが、土坑状の堆積状況を示す部分もあり、単純なレンズ状堆積ではない。上層には、洪水起源と考えられる、粘性のあるシルトが含まれる。埋没方向不明。

**床面状態** 黒色土を含むにぶい黄褐色土で5～17cmの貼床とし、全体的に硬化。細かい凹凸はあるが、全体的に水平な床面。

**遺物出土状況** 出土量は多く、住居中央部を中心として、ほぼ全面から出土。カマド右脇には、大型の礫が割れたものがまとまって出土。床面上のものは少なく、ほとんどが廃棄・流入遺物と考えられる。壁際出土の3288は遺棄遺物の可能性あり。

**掘り方** 全体的に平坦な掘り方。カマド右脇にピットがあり、底面上から完形の土師器杯出土。

**カマド** 東壁やや北寄りに位置し、全長2.35m幅1.12mで、煙道部全長0.76m幅0.42m、燃焼部幅0.78mである。にぶい黄褐色土で袖を構築。焚口部・燃焼部はややくぼみ、灰層が見られる。奥壁から煙道部底面にかけて28°で立ち上がっている。土師器杯の半完形品が2点(3288・3291)出土している。右袖部手前に自然礫が出土しており、袖補強材が倒れたものの可能性があるが、1点のみの出土のため確実ではない。

**所見** カマドの反対側の壁溝が切れており、入口に関係する可能性がある。

**時期** 出土遺物から8世紀第2～第3四半と考えられる。

#### 6区8号住 (第94・95図 PL.42-5・43-1～3)

**位置** 872～878-850～856Gr

**重複** 11・14・19土坑、398・405・406ピット

**平面形態** 隅丸方形 **長辺** 4.91m

**短辺** 4.53m **長辺/短辺** 1.08 **壁高** 0.65m

**面積** 21.52㎡ **床面積** 15.38㎡

**主軸方位** N-41°-E **壁溝** カマドを除き全周。

**柱穴** なし

**貯蔵穴** カマド右脇。平面形態は円形で、断面形態は台形。径約55cmで深さ約25cm。

**埋没土** ローム・焼土を含む灰黄褐色・暗褐色・黒褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。埋没方

向不明。

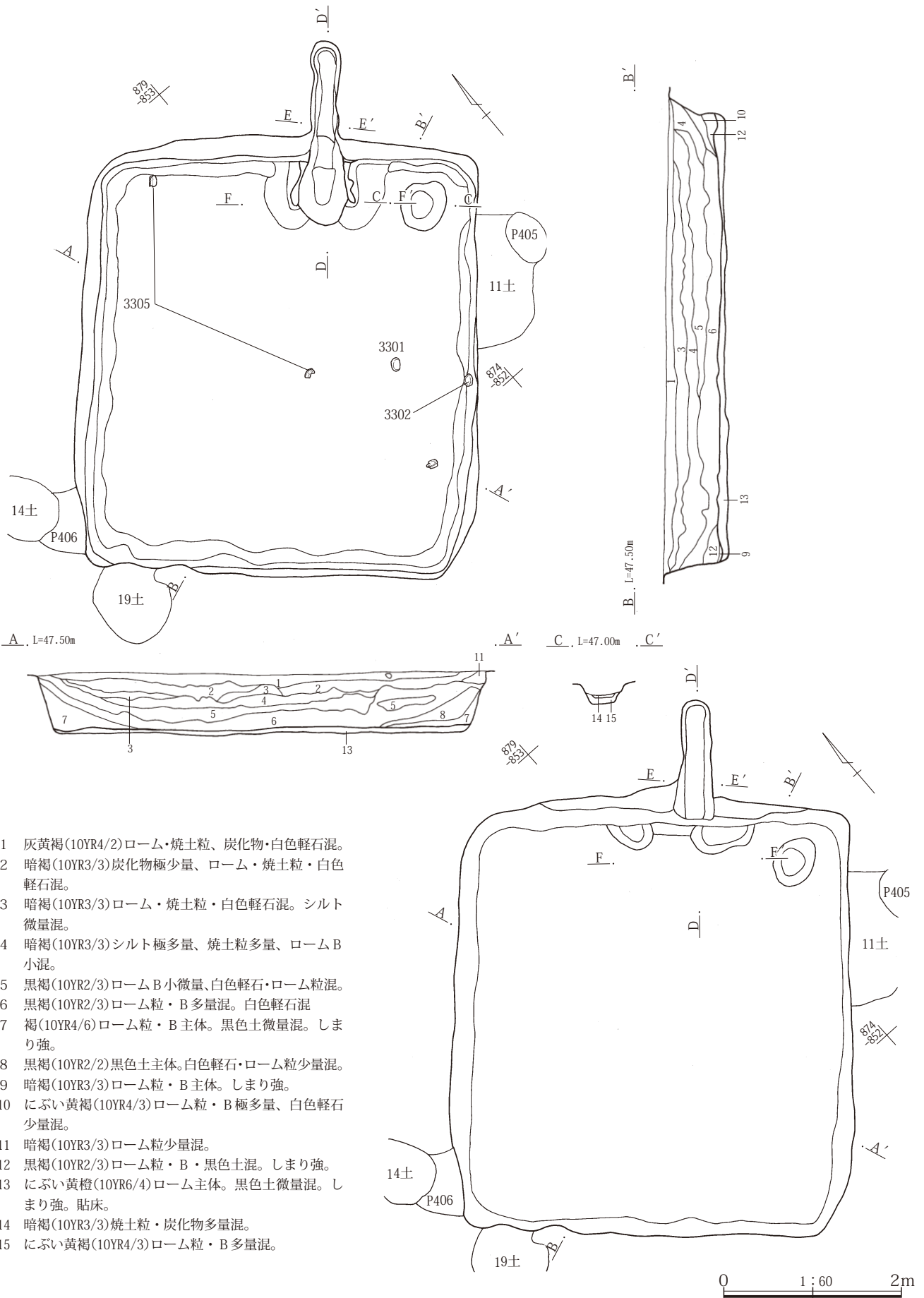
**床面状態** 黒色土を含むにぶい黄褐色土で2～10cmの貼床とし、全体的に硬化。やや凹凸はあるがほぼ水平な床面。

**遺物出土状況** 出土量は少なく、破片が埋土中に散在。廃棄・流入遺物がほとんどであるが、3302は壁溝上の出土で遺棄遺物の可能性あり。

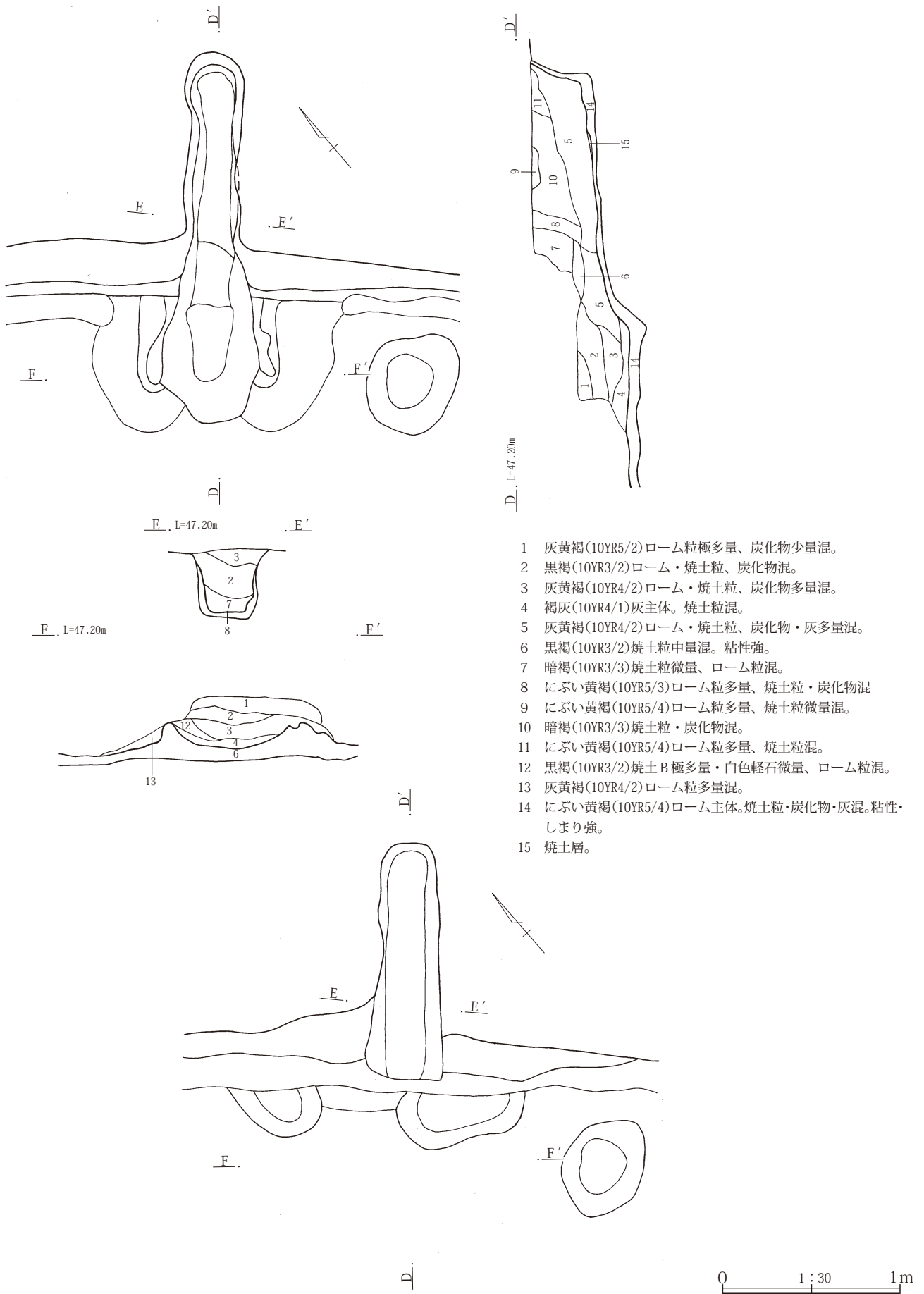
**掘り方** ほぼ平坦な掘り方。

**カマド** 東壁やや南寄りに位置し、全長2.14m幅1.34mで、煙道部全長1.05m幅0.28m、燃焼部幅0.51mである。にぶい黄褐色土で袖を構築する。焚口部・燃焼部はややくぼむがほぼ平坦で、灰層は見られない。燃焼部奥壁は低く立ち上がり、ごく緩やかに立ち上がる煙道部底部に続く。煙道部奥壁は80°で立ち上がっている。

**時期** 出土遺物から7世紀第1～第2四半紀と考えられる。



第94図 6区8号住居使用面・掘り方



- 1 灰黄褐(10YR5/2)ローム粒極多量、炭化物少量混。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、炭化物混。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒、炭化物多量混。
- 4 褐灰(10YR4/1)灰主体。焼土粒混。
- 5 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒、炭化物・灰多量混。
- 6 黒褐(10YR3/2)焼土粒中量混。粘性強。
- 7 暗褐(10YR3/3)焼土粒微量、ローム粒混。
- 8 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒多量、焼土粒・炭化物混
- 9 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量、焼土粒微量混。
- 10 暗褐(10YR3/3)焼土粒・炭化物混。
- 11 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量、焼土粒混。
- 12 黒褐(10YR3/2)焼土B極多量・白色軽石微量、ローム粒混。
- 13 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒多量混。
- 14 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。焼土粒・炭化物・灰混。粘性・しまり強。
- 15 焼土層。

第95図 6区8号住居カマド

6区9号住 (第96・97図 PL.43-4・5~45-1~3)

位置 877~882-842~848Gr

重複 14溝・17土坑より旧、21土坑より新、51溝、403・404・417ピットと重複。新旧不明。

平面形態 主軸方向が長い? 隅丸長方形

長辺 [5.58]m 短辺 5.04m 壁高 0.62m

面積 [25.78]m<sup>2</sup> 床面積 [22.15]m<sup>2</sup>

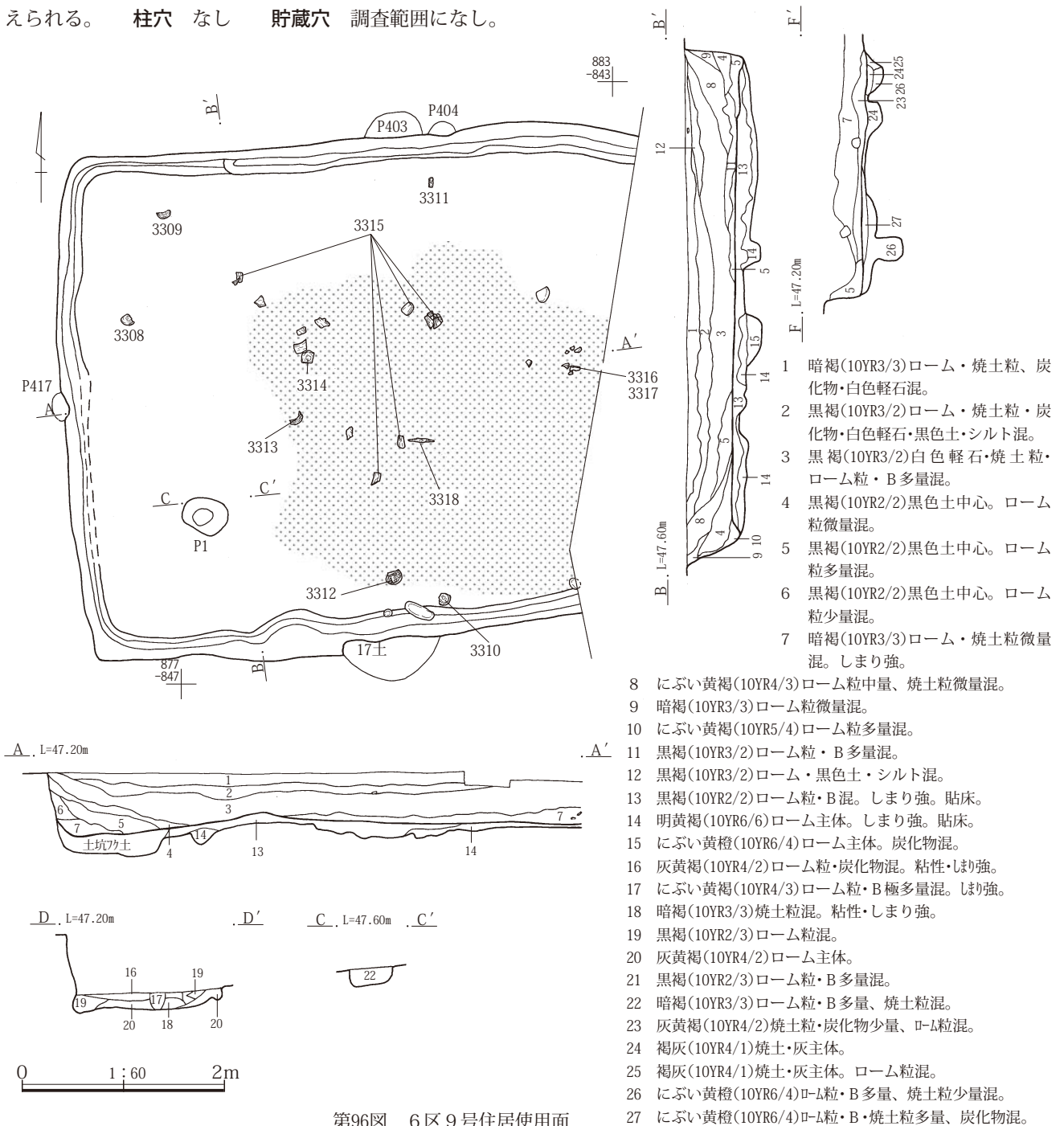
主軸方位 N-85°-E

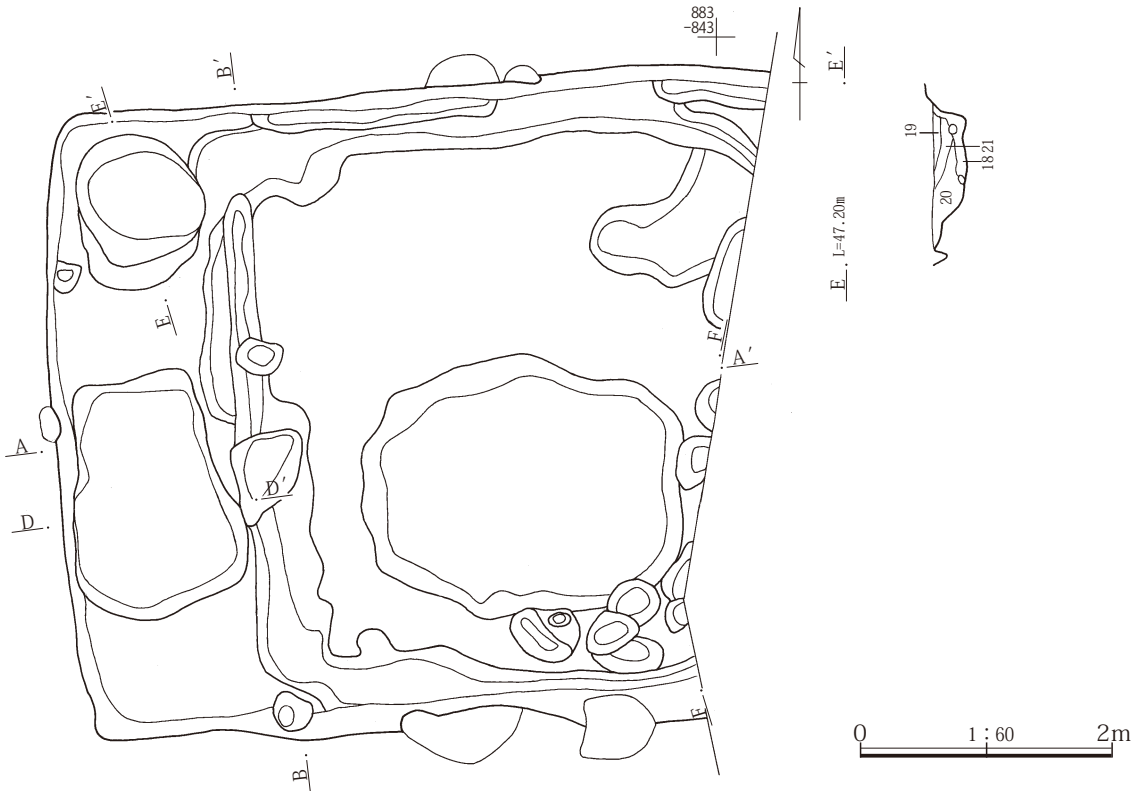
壁溝 調査範囲内全周。西壁中南部は床下土坑を先に掘ったため確認ができなかったが、本来は存在したと考えられる。柱穴 なし 貯蔵穴 調査範囲になし。

埋没土 ローム・焼土を含む暗褐色・黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 ローム主体の明黄褐色土・にぶい黄褐色土で4~15cmの貼床とし、中央部やや南寄りを中心として特に硬化。南西部が約20cm低くなる。

遺物出土状況 出土量は多く、中央部を中心ほぼ全面から出土。3309・3310の須恵器杯は床面上の出土で、遺棄遺物の可能性がある。3312は漆紙文書の入った土師器杯で、床面より約20cm上から出土している。





第97図 6区9号住居掘り方

**掘り方** 中央南寄りに大規模な土坑状掘り込みが、西部にも土坑が2基検出されている。南北の壁際に溝状の掘り込みがあるが、それが西壁まで続かずに途中で回るため、その溝の西部は拡張された可能性がある。

**カマド** 調査範囲になし。調査区外の東壁にあった可能性あり。

**所見** 漆紙文書の入った土師器杯は、床面よりかなり上にあるため廃棄遺物の可能性が高いが、壁際から出土しているため、壁上からの転落の可能性も考えられる。

**時期** 出土遺物から8世紀第3～第4四半紀と考えられる。

**6区10号住居** (第98・99図 PL.45-4・5・46)

**位置** 884～889-847～852Gr

**重複** 11住・43土坑より新、36・49土坑と重複、新旧不明。

**平面形態** 主軸方向が短い隅丸長方形

**長辺** (4.63)m **短辺** (3.38)m

**長辺/短辺** (1.37) **壁高** 0.09m

**面積** (14.34)m<sup>2</sup> **床面積** (11.13)m<sup>2</sup>

**主軸方位** N-30°-W

**壁溝** 南西隅部で確認。他は不明。

**柱穴** なしか。重複のためはっきりしない。

**貯蔵穴** なしか。

**埋没土** ロームを含む黒褐色・黒色土が堆積。重複が多く詳細不明。

**床面状態** やや凹凸あり。重複のためはっきりしない。

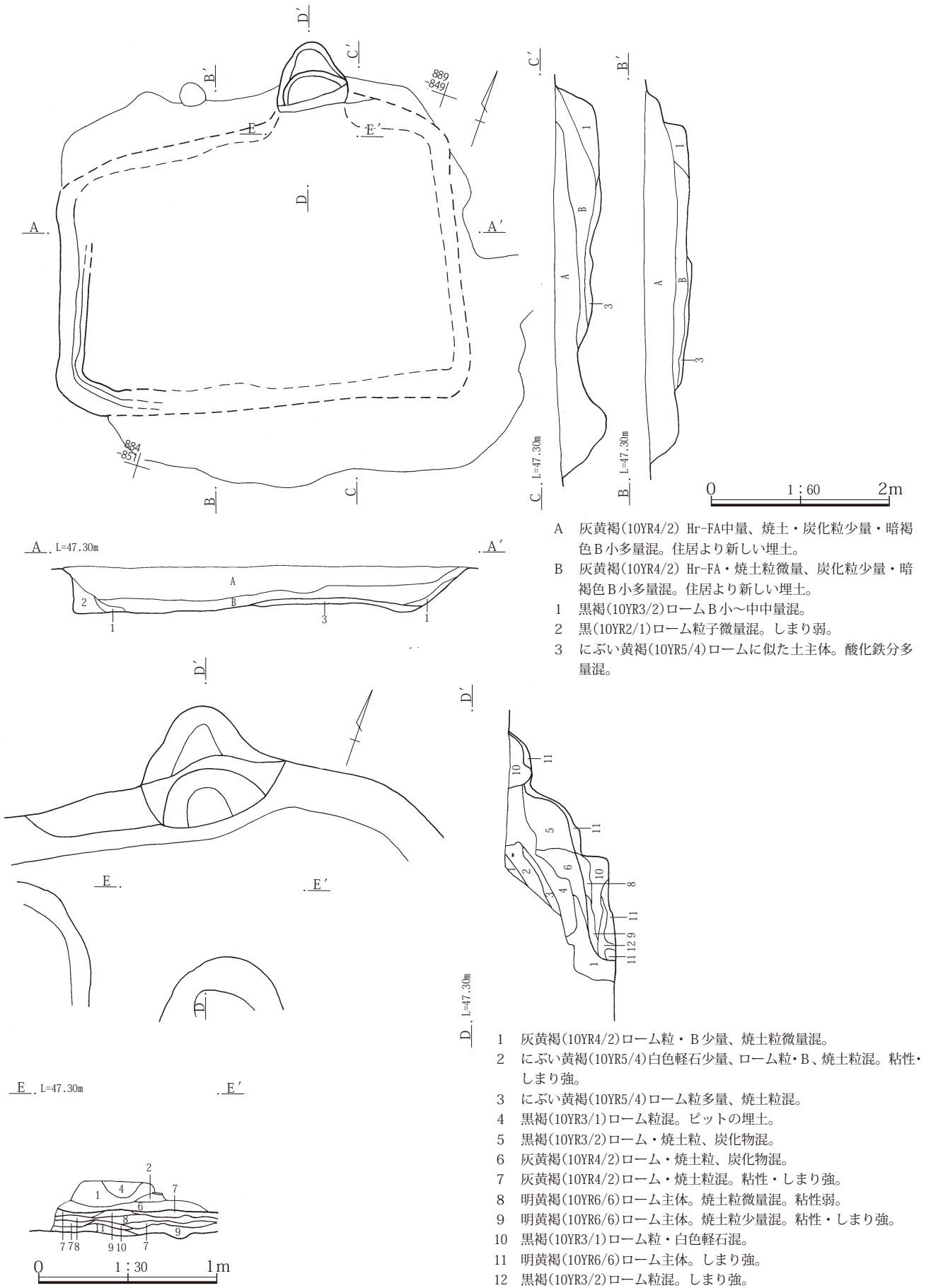
**遺物出土状況** 出土量は比較的多く、ほぼ全面から出土。完形・半完形のはほとんどなく、大部分廃棄・流入遺物と考えられる。

**掘り方** 重複のためはっきりしない。

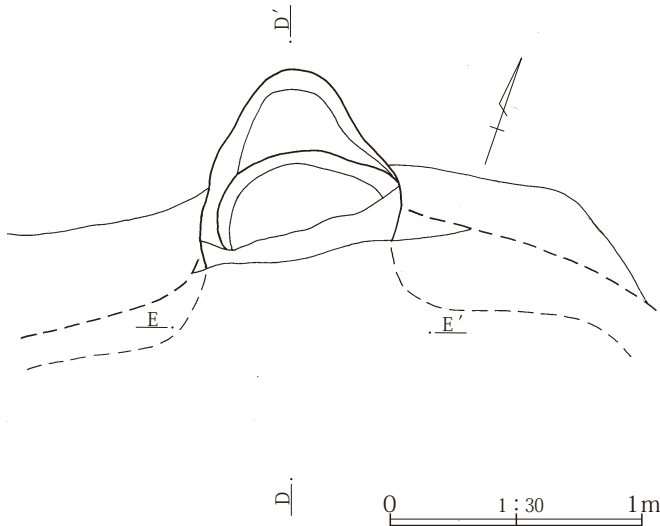
**カマド** 北壁東部に位置し、全長0.73m幅0.80mで、煙道部全長0.33m幅0.61mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部・燃焼部底面はほぼ平坦で、灰層は見られない。燃焼部奥壁は急に立ち上がる。煙道部底面は短く水平に延び、奥壁は40°で立ち上がる。

**所見** 11号住とほぼ全面が重複しており、さらに新しい掘り込みとも重複しているため、不明な部分が多い。

**時期** 時期のわかる遺物が少なく、11号住との重複のため帰属のはっきりしない遺物もあるため、推定が難しいが11号住同様7世紀第2～第3四半紀の可能性が高い。



第98図 6区10号住居・カマド使用面



第99図 6区10号住居カマド掘り方

**6区11号住居** (第100・101図 PL.47-1~4)

**位置** 884~888-846~852Gr

**重複** 10住、43・46・47土坑より旧、36・48・49土坑  
402・414ピット重複、新旧不明。

**平面形態** 隅丸方形か **長辺** 4.53m

**短辺** 4.47m **長辺/短辺** 1.01 **壁高** 0.69m

**面積** 19.10㎡ **床面積** 13.06㎡

**主軸方位** N-57°-E **壁溝** なし

**柱穴** なし **貯蔵穴** なし

**埋没土** ロームを含む黒褐色土が堆積。重複が多く詳細不明。  
**床面状態** ロームを含む灰黄褐色土で10~18cmの貼床。全体的にやや硬化。東から西に向かい、約5%下がる。

**遺物出土状況** 重複のため埋没土があまり残っておらず詳細不明。  
**掘り方** 床下土坑9基検出。他にもピットや小規模な掘り込みあり。

**カマド** 東壁南に位置し、全長1.90m幅1.86mで、燃焼部幅0.68mである。明黄褐色土で袖を構築。焚口部底面はわずかにくぼみ、灰層が見られる。燃焼部底面はごく緩やかに立ち上がり、奥壁は47°で立ち上がる。燃焼部から、土師器甕片が多数出土しているが、補強材や使用した甕としては量が少ない。

**所見** 10号住と大部分重複しているため、不明な部分が多い。

**時期** 出土遺物から7世紀第2~第3四半紀と考えられる。

**6区12号住居**(第102~104図 PL.47-5・48-1~4)

**位置** 899~904-842~847Gr

**重複** 651・652ピット

**平面形態** 隅丸方形 **長辺** 4.64m

**短辺** 4.33m **長辺/短辺** 1.07 **壁高** 0.74m

**面積** 19.13㎡ **床面積** 14.18㎡

**主軸方位** N-62°-E **壁溝** なし

**柱穴** 4基。計測値は第17表参照。 **貯蔵穴** なし

**埋没土** ローム・焼土・炭化物を含むにぶい黄褐色土が堆積。壁際に三角堆積があり、自然堆積と考えられるが、土坑状にくぼむ堆積の部分もあり、単純な自然堆積でない可能性もある。

**床面状態** ロームを主体とする灰黄褐色・明黄褐色土で5~10cmの貼床。ほぼ水平で、全体的に硬化。

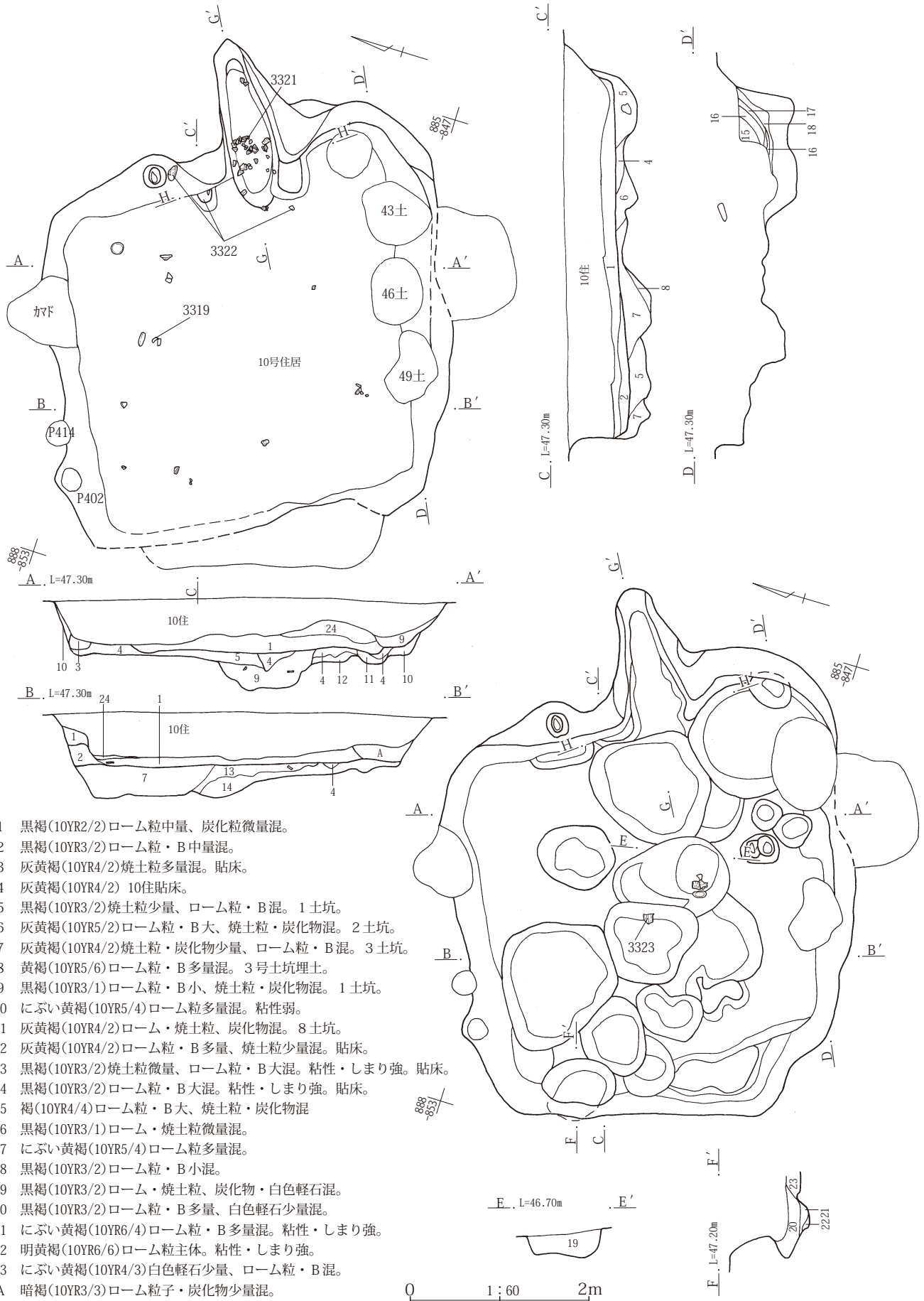
**遺物出土状況** 出土量が多いが、土師器がほとんどで須恵器はごく少量しか出土していない。カマド周辺と北東部を中心として出土している。床面上出土のものは少なく、3335の紡錘車がある程度である。3326の土師器杯は、カマド壁に近いので、遺棄遺物の可能性もある。

**掘り方** 床下土坑7基検出。他にピットや浅い掘り込みあり。

**カマド** 東壁やや南よりに位置し、全長1.40m幅1.14mで、煙道部全長0.37m幅0.47m、燃焼部幅0.62mである。自然礫を補強材として、明黄褐色土で袖を構築。焚口部・燃焼部は、若干くぼむがほぼ平坦で、燃焼部奥壁は緩やかに立ち上がり、短い煙道部に続く。灰層が見られる。煙道部底面はさらに緩やかに立ち上がり、奥壁は47°で立ち上がる。両袖補強材の礫は、倒れた状態で出土している。その間の左寄りに、土師器甕が潰れた状態(3334)で出土し、燃焼部からは、支脚と考えられる自然礫が、立った状態で出土している。

**所見** カマド袖石間出土の甕は、天井部補強材の可能性もあるが、1個体しか出土していないため確実ではなく、カマドにかかっていた甕が倒れてこの位置になったとも考えられる。

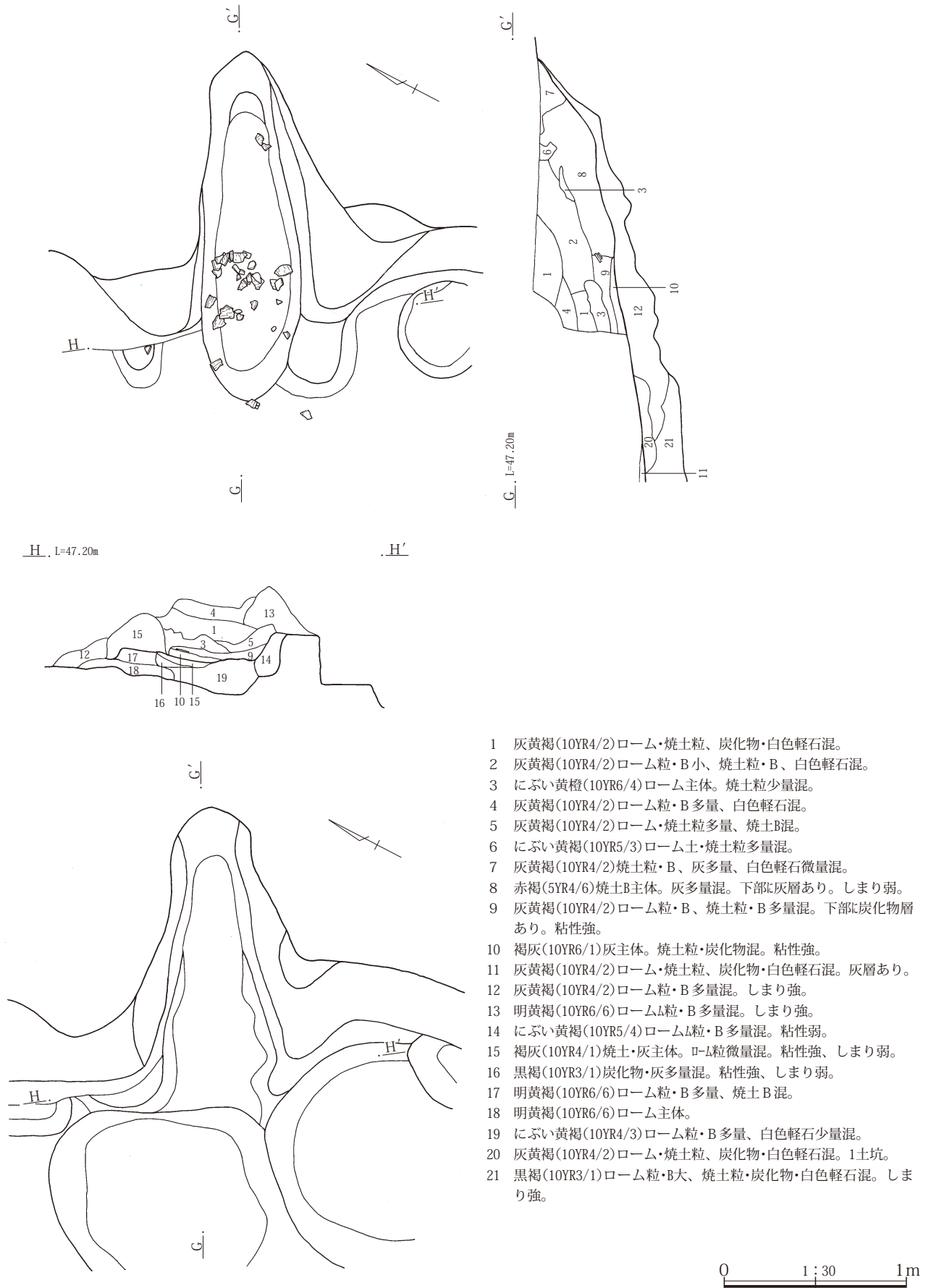
**時期** 出土遺物から7世紀第2~第3四半紀と考えられる。



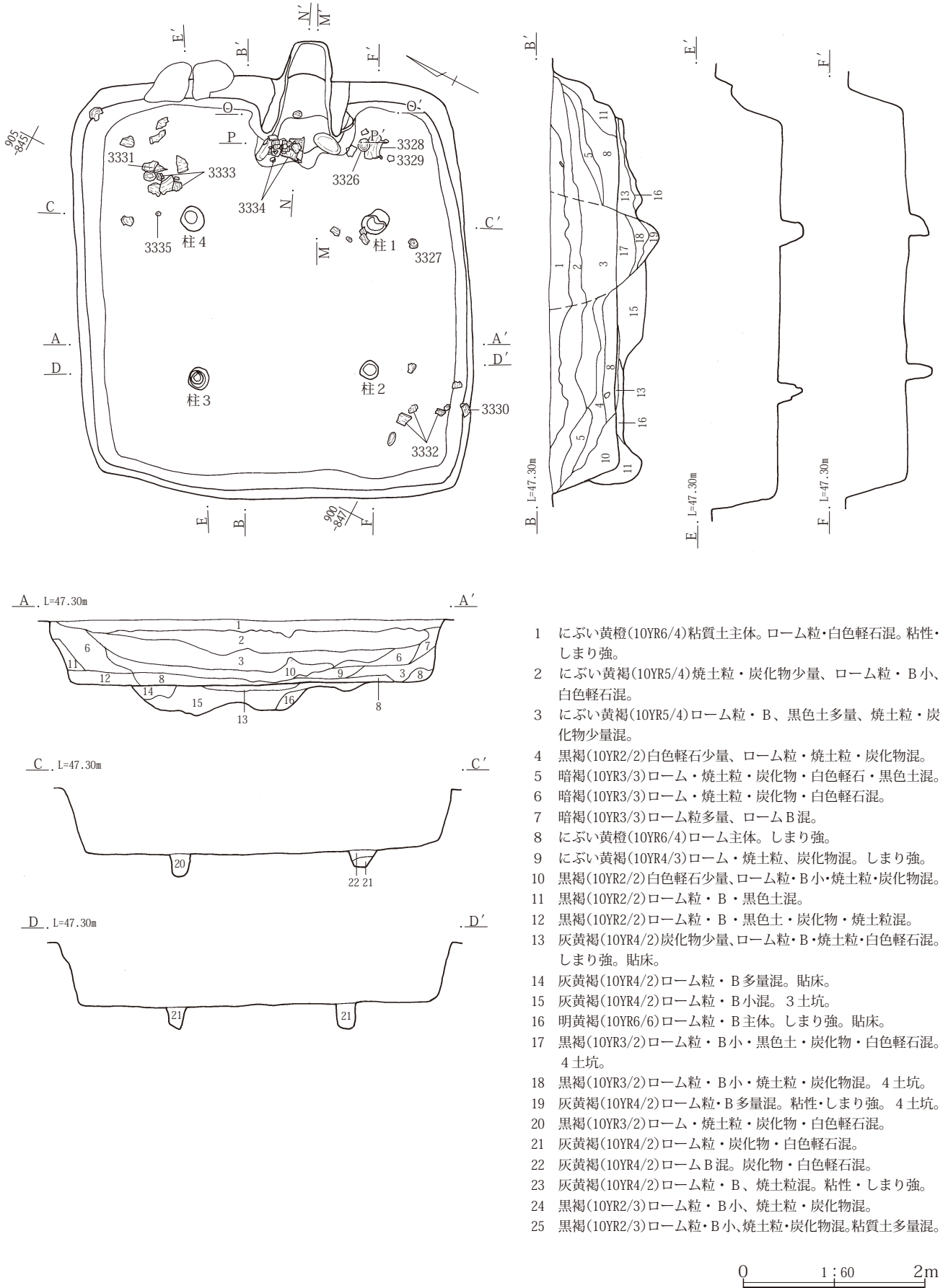
- 1 黒褐(10YR2/2)ローム粒中量、炭化粒微量混。
  - 2 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B中量混。
  - 3 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒多量混。貼床。
  - 4 灰黄褐(10YR4/2) 10住貼床。
  - 5 黒褐(10YR3/2)焼土粒少量、ローム粒・B混。1土坑。
  - 6 灰黄褐(10YR5/2)ローム粒・B大、焼土粒・炭化物混。2土坑。
  - 7 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒・炭化物少量、ローム粒・B混。3土坑。
  - 8 黄褐(10YR5/6)ローム粒・B多量混。3号土坑埋土。
  - 9 黒褐(10YR3/1)ローム粒・B小、焼土粒・炭化物混。1土坑。
  - 10 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。粘性弱。
  - 11 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒、炭化物混。8土坑。
  - 12 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B多量、焼土粒少量混。貼床。
  - 13 黒褐(10YR3/2)焼土粒微量、ローム粒・B大混。粘性・しまり強。貼床。
  - 14 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B大混。粘性・しまり強。貼床。
  - 15 褐(10YR4/4)ローム粒・B大、焼土粒・炭化物混
  - 16 黒褐(10YR3/1)ローム・焼土粒微量混。
  - 17 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒多量混。
  - 18 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B小混。
  - 19 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、炭化物・白色軽石混。
  - 20 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B多量、白色軽石少量混。
  - 21 にぶい黄褐(10YR6/4)ローム粒・B多量混。粘性・しまり強。
  - 22 明黄褐(10YR6/6)ローム粒主体。粘性・しまり強。
  - 23 にぶい黄褐(10YR4/3)白色軽石少量、ローム粒・B混。
- A 暗褐(10YR3/3)ローム粒子・炭化物少量混。

第100図 6区11号住居使用面・掘り方



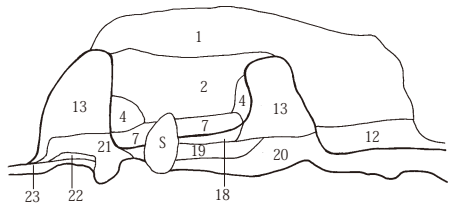
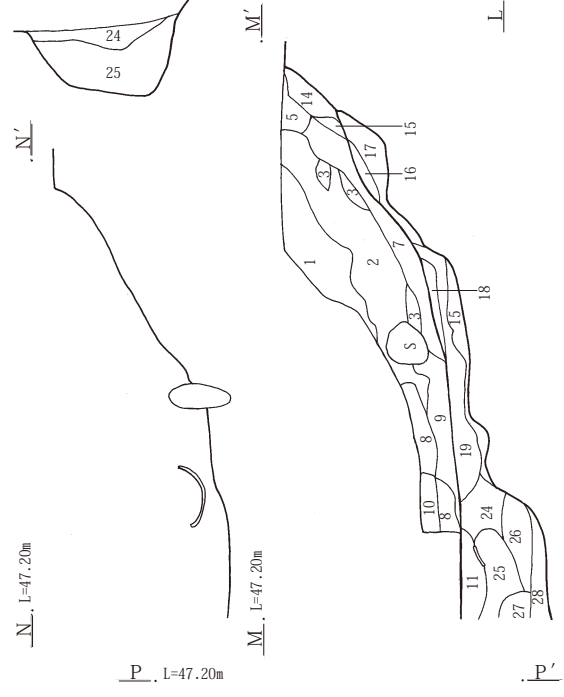
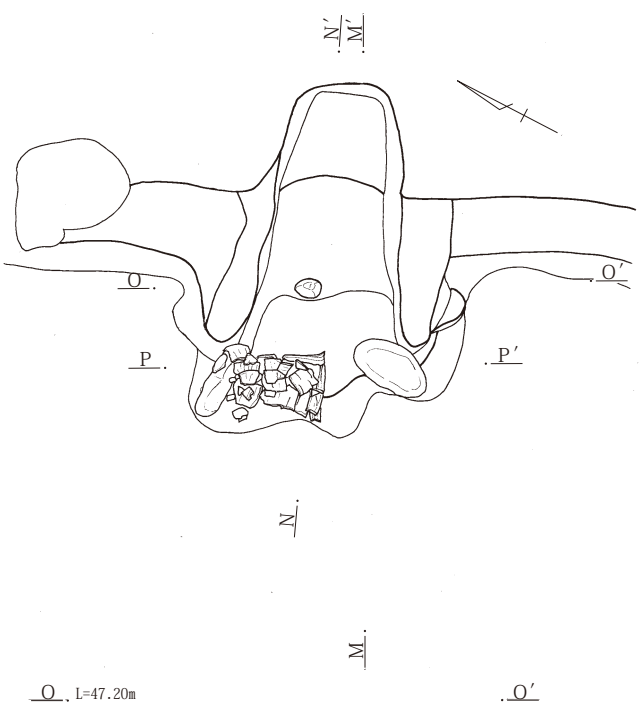
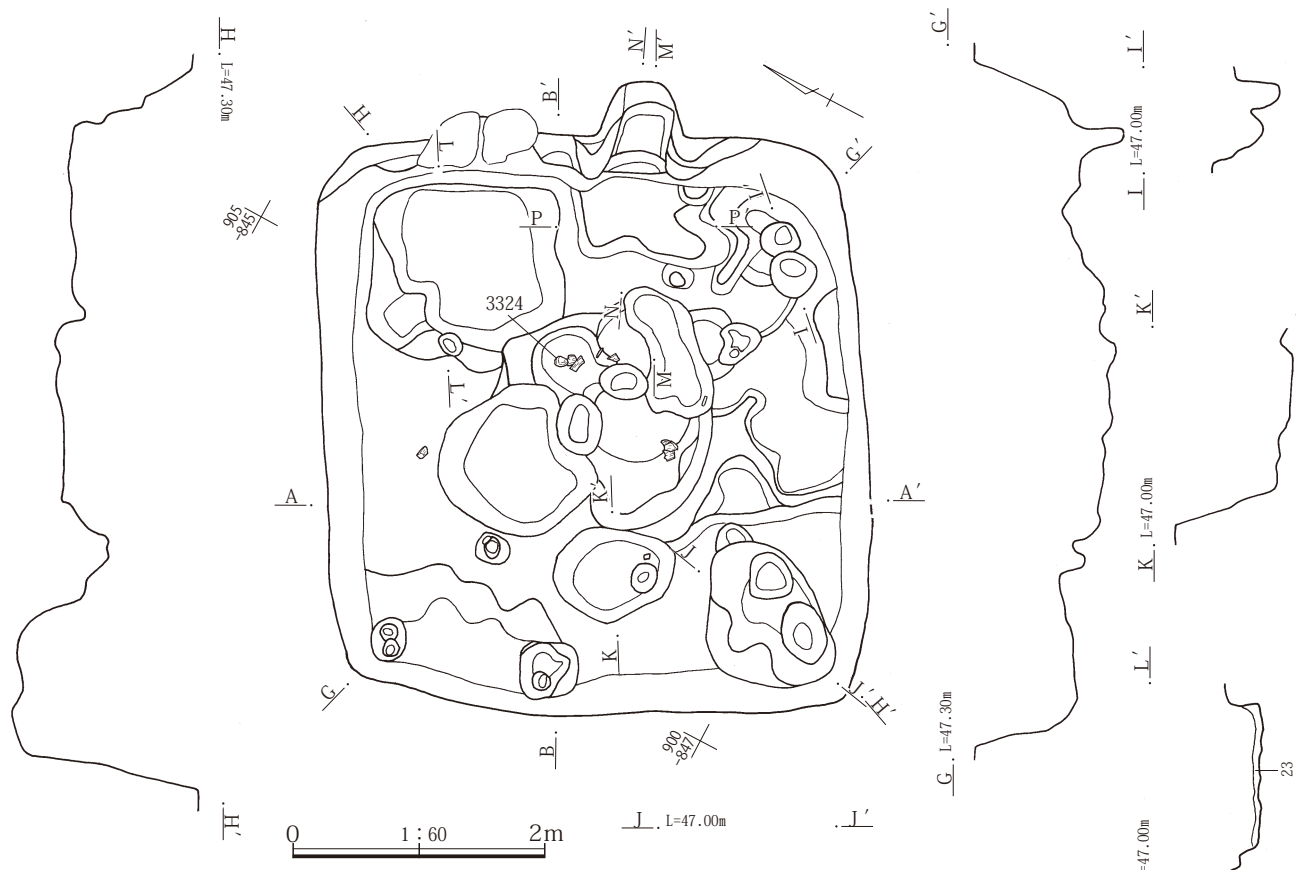


第101図 6区11号住居カマド

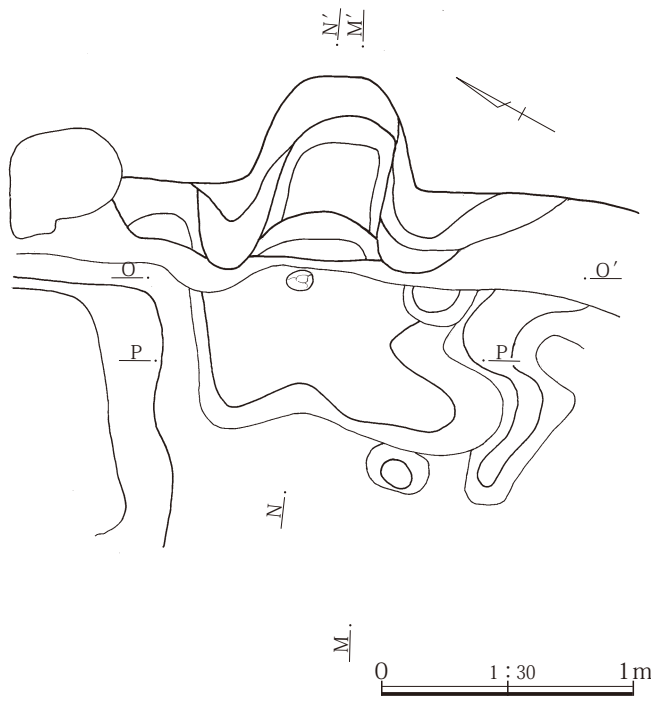


- 1 にぶい黄橙(10YR6/4)粘質土主体。ローム粒・白色軽石混。粘性・しまり強。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)焼土粒・炭化物少量、ローム粒・B小、白色軽石混。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B、黒色土多量、焼土粒・炭化物少量混。
- 4 黒褐(10YR2/2)白色軽石少量、ローム粒・焼土粒・炭化物混。
- 5 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒・炭化物・白色軽石・黒色土混。
- 6 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒・炭化物・白色軽石混。
- 7 暗褐(10YR3/3)ローム粒多量、ロームB混。
- 8 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム主体。しまり強。
- 9 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム・焼土粒・炭化物混。しまり強。
- 10 黒褐(10YR2/2)白色軽石少量、ローム粒・B小・焼土粒・炭化物混。
- 11 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B・黒色土混。
- 12 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B・黒色土・炭化物・焼土粒混。
- 13 灰黄褐(10YR4/2)炭化物少量、ローム粒・B・焼土粒・白色軽石混。しまり強。貼床。
- 14 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B多量混。貼床。
- 15 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B小混。3土坑。
- 16 明黄褐(10YR6/6)ローム粒・B主体。しまり強。貼床。
- 17 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B小・黒色土・炭化物・白色軽石混。4土坑。
- 18 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B小・焼土粒・炭化物混。4土坑。
- 19 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B多量混。粘性・しまり強。4土坑。
- 20 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒・炭化物・白色軽石混。
- 21 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・炭化物・白色軽石混。
- 22 灰黄褐(10YR4/2)ロームB混。炭化物・白色軽石混。
- 23 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B、焼土粒混。粘性・しまり強。
- 24 黒褐(10YR2/3)ローム粒・B小・焼土粒・炭化物混。
- 25 黒褐(10YR2/3)ローム粒・B小・焼土粒・炭化物混。粘質土多量混。

第102図 6区12号住居使用面



第103図 6区12号住居掘り方・カマド使用面



- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・B多量、焼土粒混。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・B、焼土粒多量、焼土B混。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)焼土主体。
- 4 明黄褐(10YR6/6)焼土B主体。ローム土混。しまり強。
- 5 灰黄褐(10YR4/2)焼土B多量、ローム粒・B混。
- 7 褐灰(10YR5/1)灰主体。焼土粒混。
- 8 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B、焼土粒・炭化物混。
- 9 にぶい黄褐色(10YR4/3)ローム粒・B、焼土粒・炭化物混。
- 10 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、炭化物混。
- 11 黒褐(10YR3/2)ローム粒多量混。炭化物混。
- 12 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒混。しまり弱。
- 13 明黄褐(10YR6/6)ローム主体。粘性・しまり強。カマド袖。
- 14 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒微量混。
- 15 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒多量、ロームB混。
- 16 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒、灰多量混。粘性・しまり強。
- 17 暗褐(10YR3/3)ローム粒混。
- 18 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒微量混。灰層面。
- 19 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B、焼土粒・炭化物混。粘性・しまり強。
- 20 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム粒・B主体。しまり強。
- 21 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム主体。焼土粒混。しまり強。
- 22 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B、焼土粒・炭化物混。
- 23 明黄褐(10YR6/6)ローム主体。しまり強。
- 24 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・B小、焼土粒混。5土坑。
- 25 にぶい黄褐(10YR5/4)焼土粒少量、ローム粒・B混。5土坑。
- 26 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒少量、ローム粒・B混。5土坑。
- 27 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒少量、ローム粒・B混。5土坑。
- 28 明黄褐(10YR6/6)ローム土主体。下部に焼土B多量混

第104図 6区12号住居カマド掘り方

6区13号住居 (第105図 PL48-5・49-1~4)

位置 945~949-775~780Gr

重複 59溝より新

平面形態 主軸方向が短い隅丸長方形

長辺 3.66m 短辺 2.73m 長辺/短辺 1.34

壁高 0.44m 面積 9.63㎡ 床面積 7.67㎡

主軸方位 N-39°-E 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし 埋没土 ローム・シルトを含む灰黄褐色・暗褐色・黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋設方向不明。

床面状態 シルト・地山ブロックを含むにぶい黄橙色・灰黄褐色土で2~7cmの貼床とし、中央部を中心として硬化。ほぼ水平である。

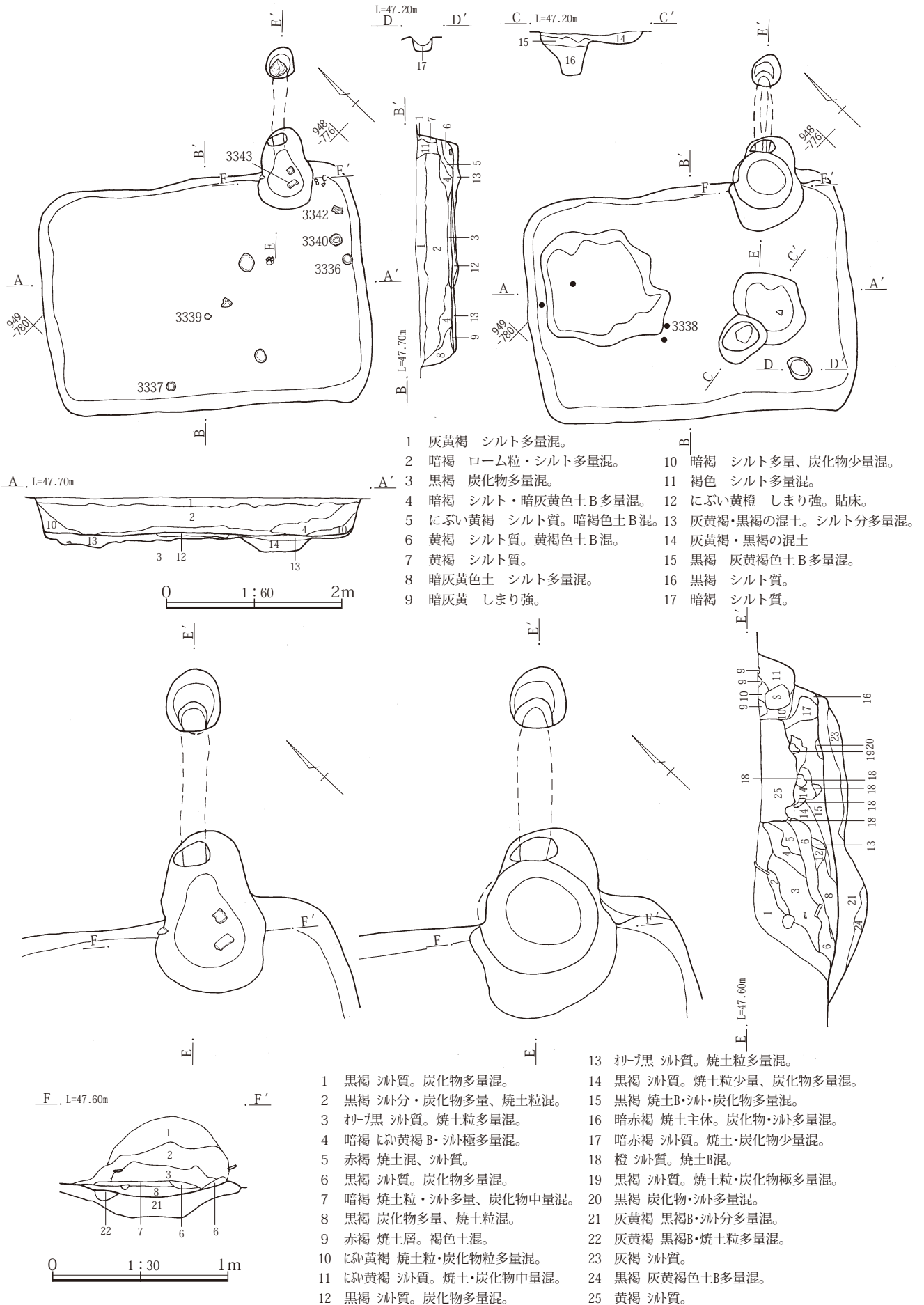
遺物出土状況 出土量は少ないが、カマド周辺から住居中央部にかけて、完形・半完形の土器が出土している。3336・3337・3340の須恵器杯・黒色土器碗は、床面よりやや上の出土であるが、壁際であるため、遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 南部カマド前方に土坑2基、ピット1基あり、

北部に浅い土坑状の掘り込みがある。他はほぼ平坦な掘り方。

カマド 東壁南に位置し、全長1.83m幅0.62mで、煙道部全長1.12m幅0.31mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部・燃焼部はややくぼみごく緩やかに上がりながら煙道部へ続く。灰層は見られない。煙道部底面はほぼ水平に延び、奥壁は段を持って立ち上がる。煙道部の残存状況は良く、天井部が残存する。煙道の径は約25cmである。

時期 出土遺物から10世紀第3~第4四半紀と考えられる。



第105図 6区13号住居

6区14号住居 (第106・107図 PL.49—5・50—1~4)

位置 931~936-790~795Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 4.11m

短辺 3.80m 長辺/短辺 1.08

壁高 0.35m 面積 14.93㎡

床面積 12.39㎡ 主軸方位 N-46°-E

壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 カマド右脇に位置し、平面形は円形で断面形は丸みを帯びた台形である。径約30cmと規模は小さい。

埋没土 ローム・焼土を含むにぶい黄褐色土が堆積。壁際に一部三角堆積あり。自然堆積と考えられる。西壁際に三角堆積があり、他にないため西方向から埋没した可能性がある。

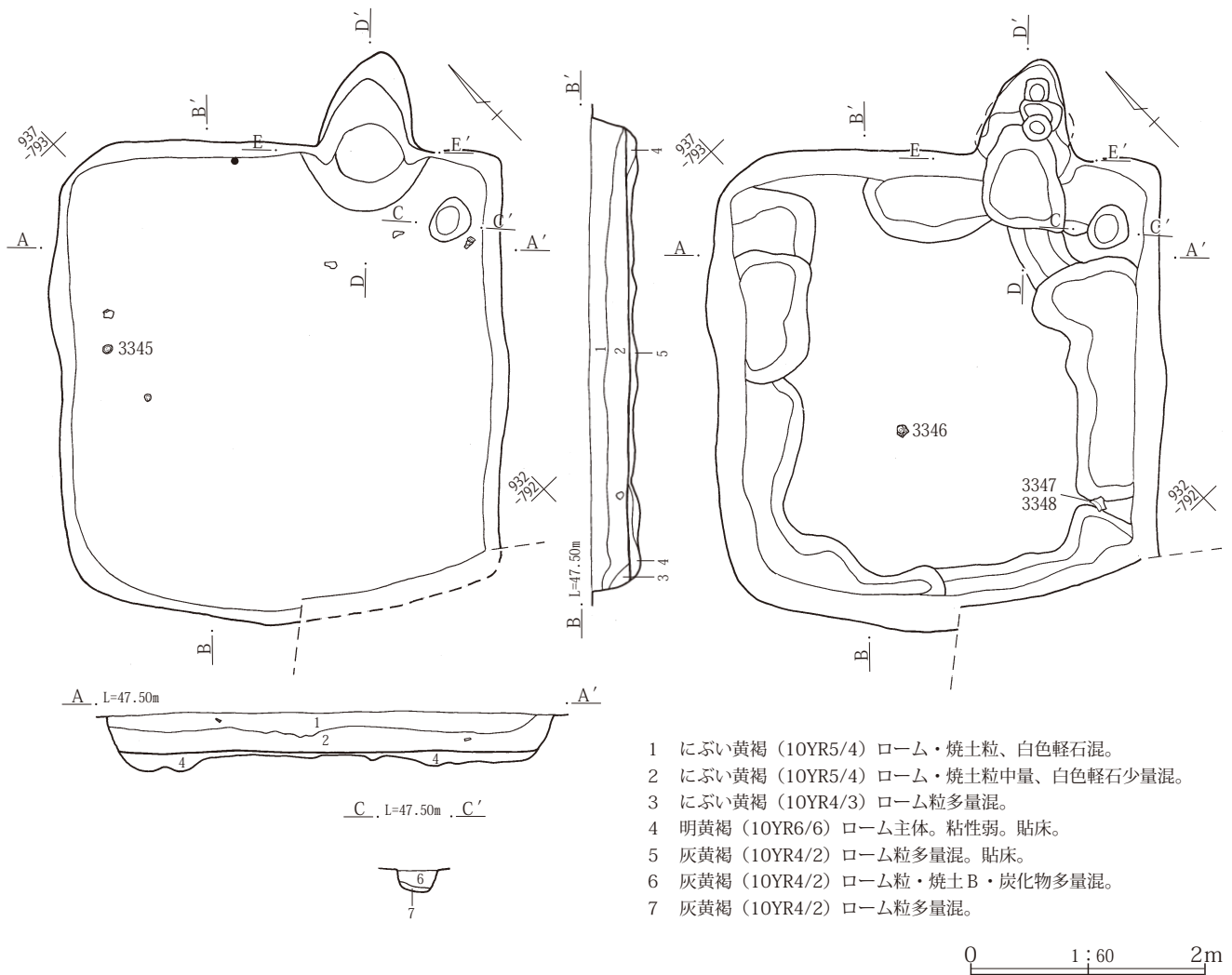
床面状態 ロームを含む灰黄褐色・明黄褐色土で2~12cmの貼床とする。ほぼ水平でやや軟弱。凹凸少ない。

遺物出土状況 出土量は比較的少なく、大部分が埋土中の出土で、廃棄・流入遺物がほとんどである。3345の灰釉陶器椀は床面上の出土で、底部のみであるが、遺棄遺物の可能性もある。

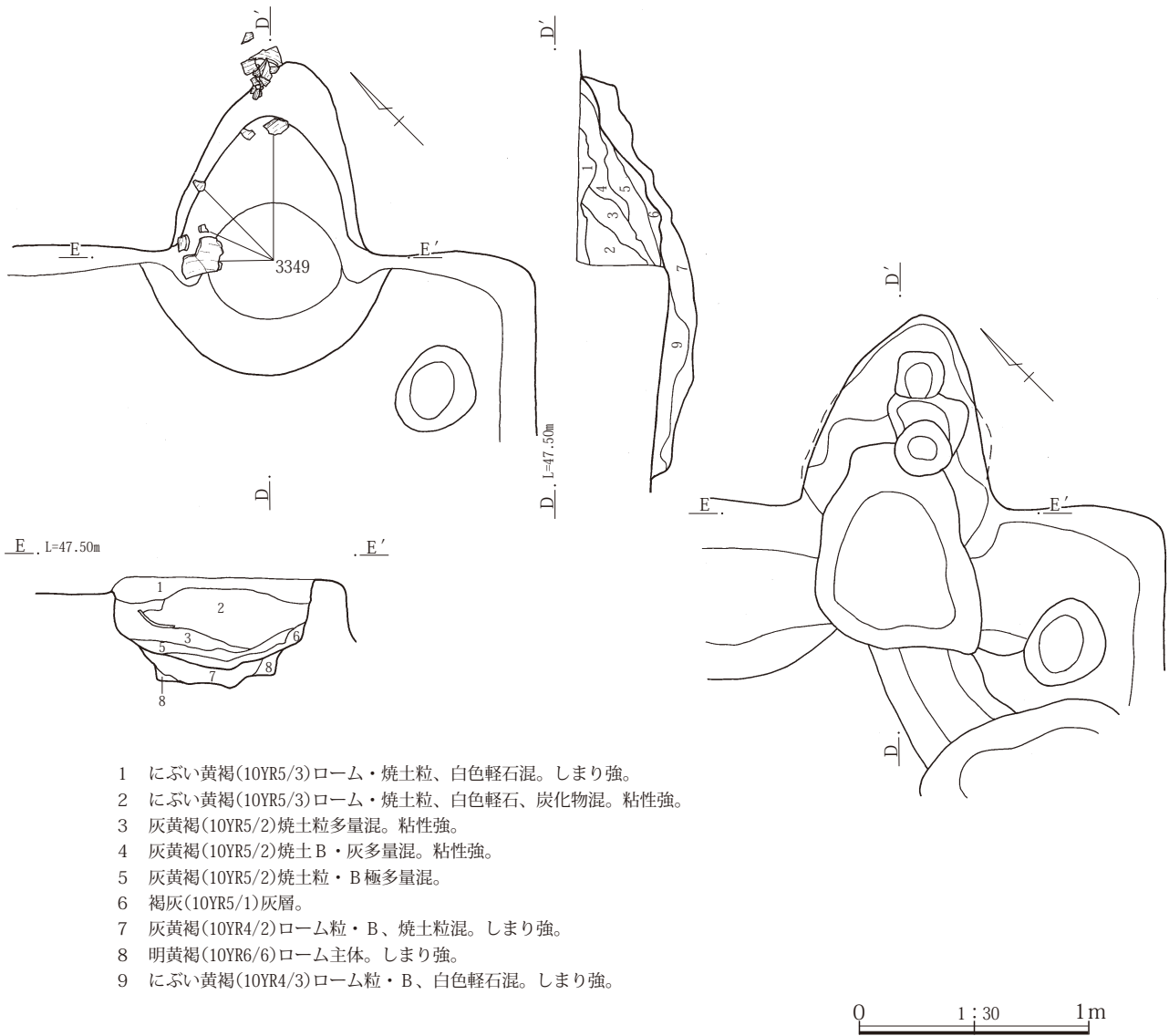
掘り方 東壁北部および南東隅部以外は、壁際に溝状に掘りくぼめる掘り方。中央部はほぼ平坦である。

カマド 東壁南部に位置し、全長1.36m幅1.08mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部・燃烧部はややくぼみ、灰層が見られる。奥壁は26°で立ち上がる。

時期 出土遺物から9世紀第3~第4四半紀と考えられる。



第106図 6区14号住居使用面・掘り方



第107図 6区14号住居カマド

6区15号住居 (第108図 PL.50-5~7)

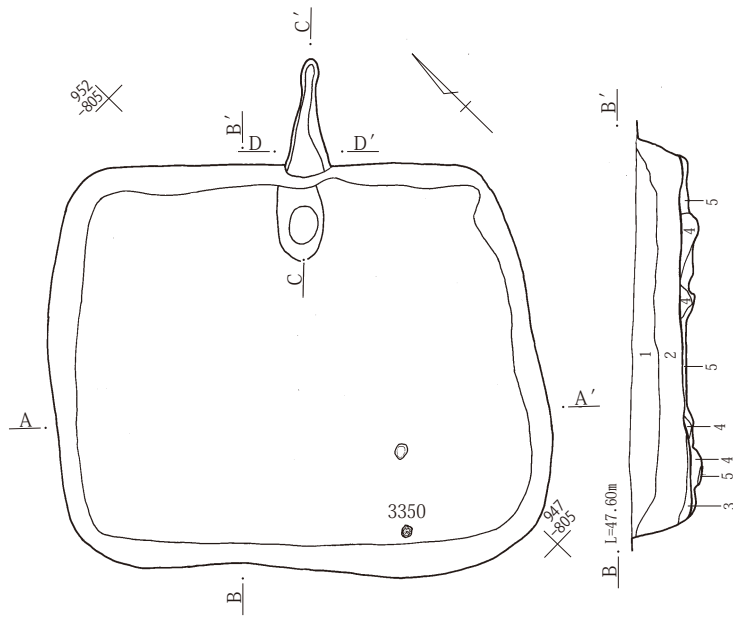
**位置** 947~951-803~807Gr **重複** なし  
**平面形態** 隅丸方形 **長辺** 3.88m  
**短辺** 3.28m **長辺/短辺** 1.18 **壁高** 0.47m  
**面積** 11.8㎡ **床面積** 9.18㎡  
**主軸方位** N-44°-E **壁溝** なし  
**柱穴** なし **貯蔵穴** なし  
**埋没土** ローム・焼土を含むにぶい黄褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。  
**床面状態** ロームを含む灰黄褐色・明黄褐色土で2~15cmの貼床とする。ほぼ平坦であるが、中央部が約5cm高くなる。  
**遺物出土状況** 出土量は非常に少なく、埋土中に散在。

ほとんどが廃棄・流入遺物である。

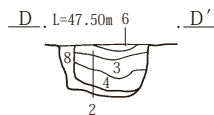
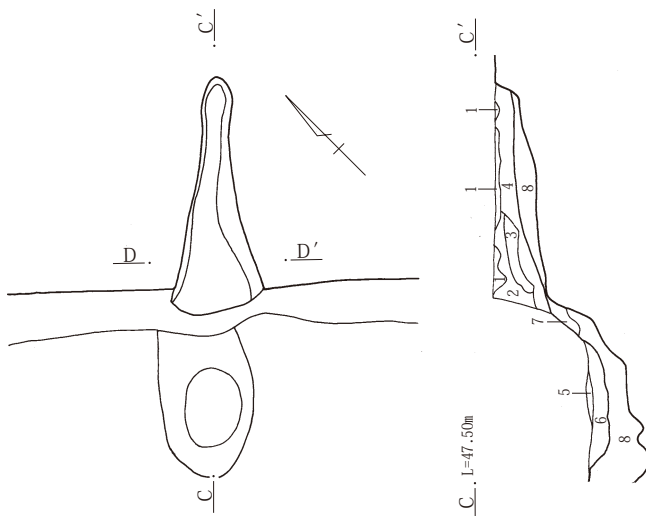
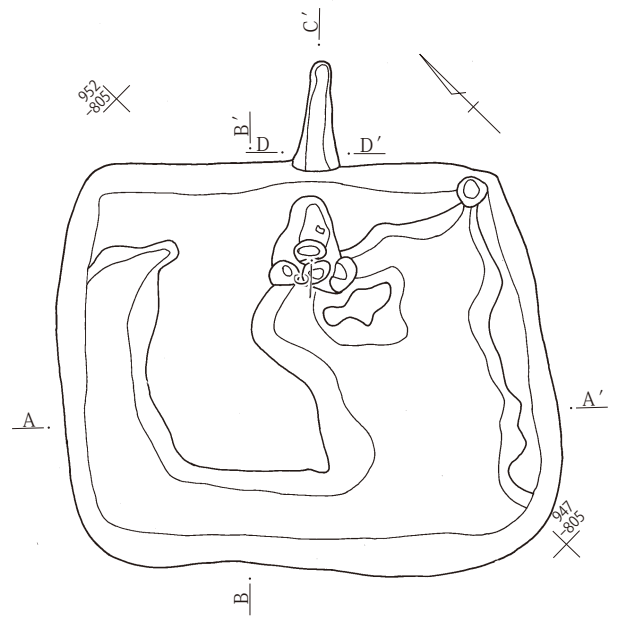
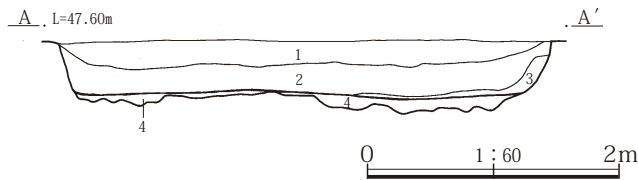
**掘り方** 北壁際から西壁際にかけて溝状に、住居東部は広範囲にくぼむ掘り方。

**カマド** 東壁中央部に位置し、全長1.57m幅0.37mで、煙道部全長0.92m幅0.37mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部・燃焼部はややくぼみ、灰層が見られる。燃焼部奥壁は60°で立ち上がり、煙道部に続く。煙道部底面は5°で立ち上がり、奥壁は60°で立ち上がる。

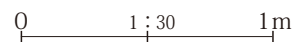
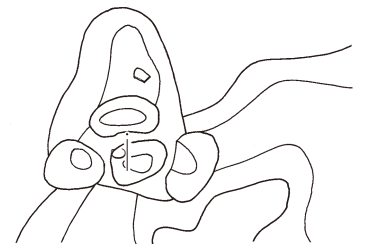
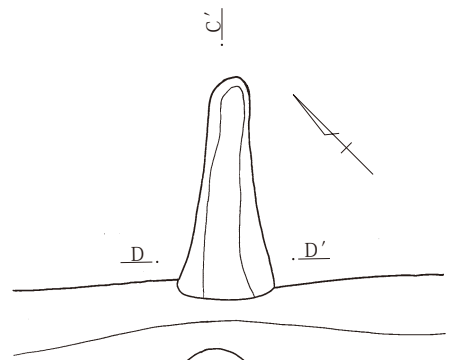
**時期** 時期のわかる出土遺物が少なくはっきりしないが、9世紀代と考えられる。



- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム・焼土粒、白色軽石混。粘性・しまり強。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム・焼土粒中量、白色軽石少量混。しまり強。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒多量混。しまり弱。
- 4 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒多量混。貼床。
- 5 明黄褐(10YR6/6)ローム主体。粘性弱。貼床



- 1 6号畠
- 2 にぶい黄褐(10YR5/3)白色軽石・ローム粒混。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/3)粘質ロームB多量、焼土粒混。粘性強。
- 4 灰黄褐(10YR4/2)焼土多量、灰少量混。
- 5 黒褐(10YR3/2)焼土B・灰多量混。
- 6 灰黄褐(10YR4/2)灰多量、ローム・焼土粒混。粘性強。
- 7 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒少量混。
- 8 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B混。しまり強。



第108図 6区15号住居



6区16号住居 (第109～111図 PL.50-8・51-1～4)

位置 944～948-809～815Gr 重複 なし

平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 5.17m 短辺 3.96m 長辺/短辺 1.31

壁高 0.5m 面積 18.88㎡ 床面積 13.07㎡

主軸方位 N-67°-E 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 ローム・焼土を含むぶい黄褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。

埋没方向不明。 床面状態 ロームを含む灰黄褐色土で5～25cmの貼床とし、全体的に硬化。東部が約5cm低くなっている。南東隅および南西隅にピットが検出されているが、他にないため柱穴とすることはできず、性格は不明である。

遺物出土状況 出土量は多く、特に土師器甕の割合が高くなっている。完形・半完形のは少なく、埋土中

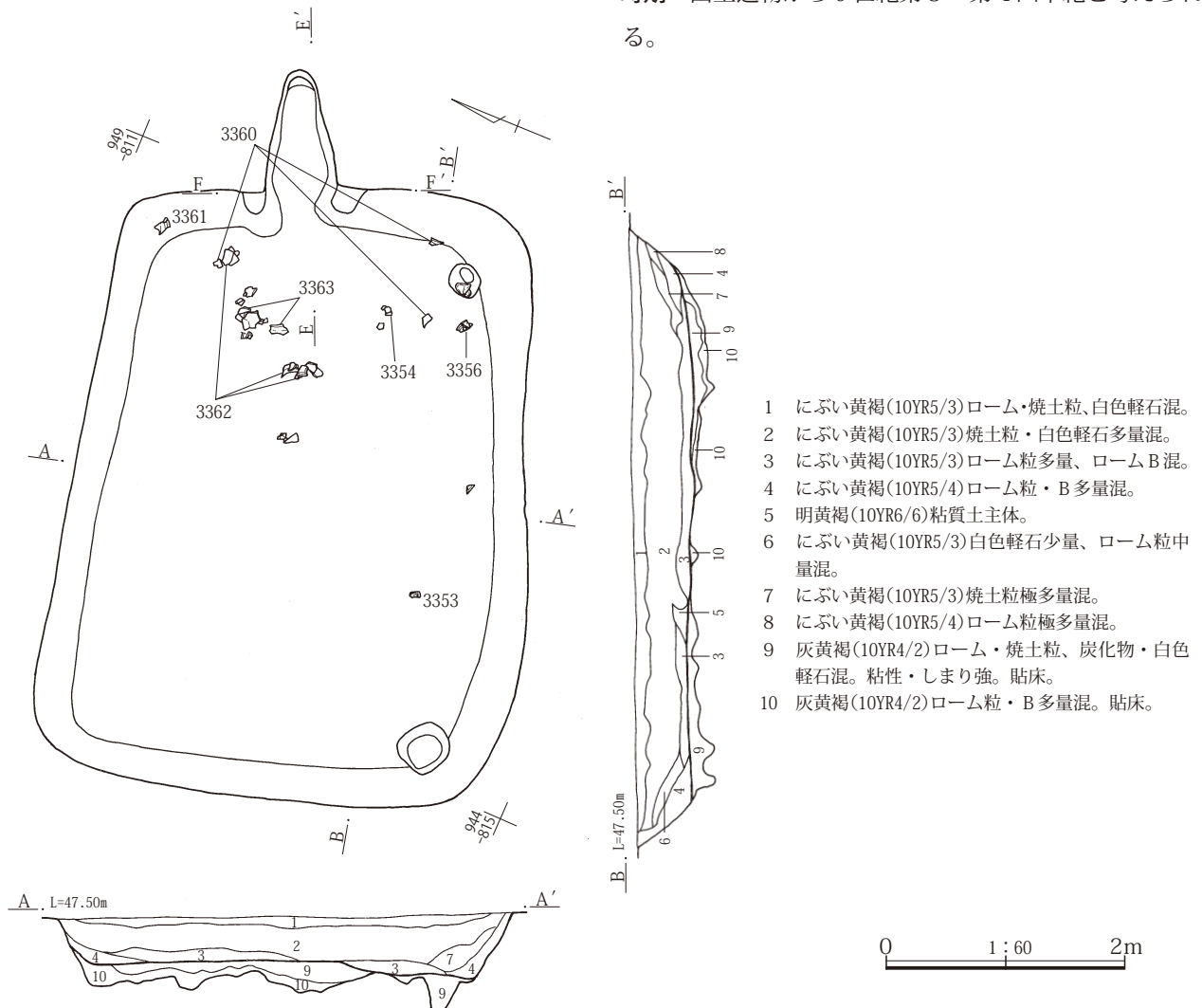
の破片が多い。床面上のものもあるが、土師器甕の破片がほとんどであり、大部分廃棄・流入遺物である。

掘り方 土坑状掘り込み・ピットが多数検出されている他に、北壁および南壁際が溝状に掘り込まれている。

カマド 東壁やや北寄りに位置し、全長2.01m幅0.90mで、煙道部全長0.96m幅0.60m、燃烧部幅0.29mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部・燃烧部はほぼ平坦で、灰混土が見られる。燃烧部奥壁から煙道部にかけて25°で立ち上がっている。右袖部に扁平な礫が出土しているが、形状や左袖にはないことから、袖補強材とは考えにくい。燃烧部から土師甕の破片が多く出土しており、接合しているものもあるが(3360・3361)、袖補強材とするには量が少ない。

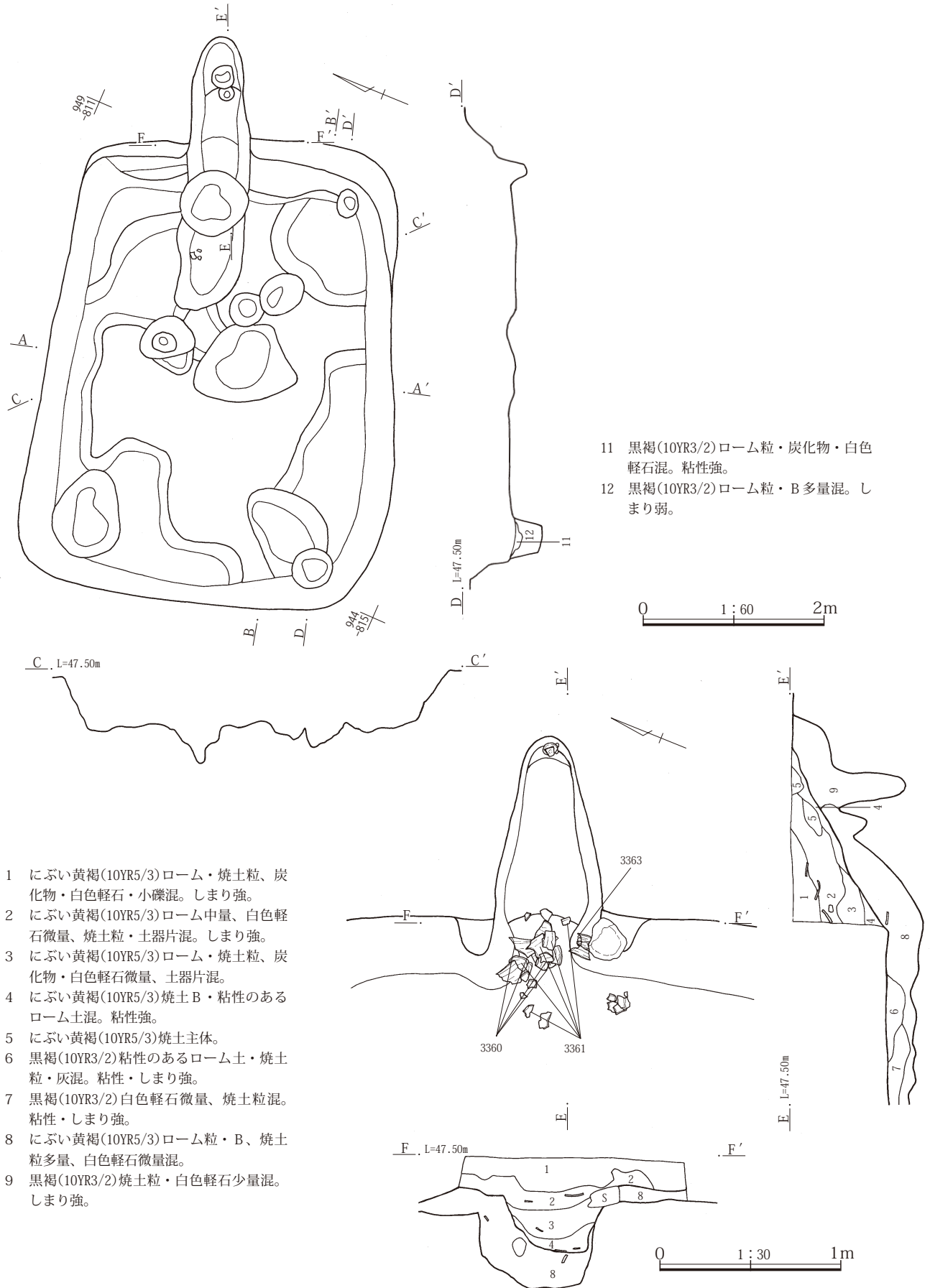
所見 南東および北東隅にピットが検出されている。他の隅部にはないため主柱穴とすることはできないが、それに類する何らかの施設であった可能性はある。

時期 出土遺物から9世紀第3～第4四半紀と考えられる。



- 1 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム・焼土粒、白色軽石混。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/3)焼土粒・白色軽石多量混。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒多量、ロームB混。
- 4 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B多量混。
- 5 明黄褐(10YR6/6)粘質土主体。
- 6 にぶい黄褐(10YR5/3)白色軽石少量、ローム粒中量混。
- 7 にぶい黄褐(10YR5/3)焼土粒極多量混。
- 8 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒極多量混。
- 9 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土粒、炭化物・白色軽石混。粘性・しまり強。貼床。
- 10 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B多量混。貼床。

第109図 6区16号住居使用面



第110図 6区16号住居掘り方・カマド使用面

参照。 **貯蔵穴** カマド右、北東隅部。平面形は楕円形で、断面は段のある皿状を呈す。上端の外が土手状に盛り上がる構造である。長径約95cm、深さ約30cm。

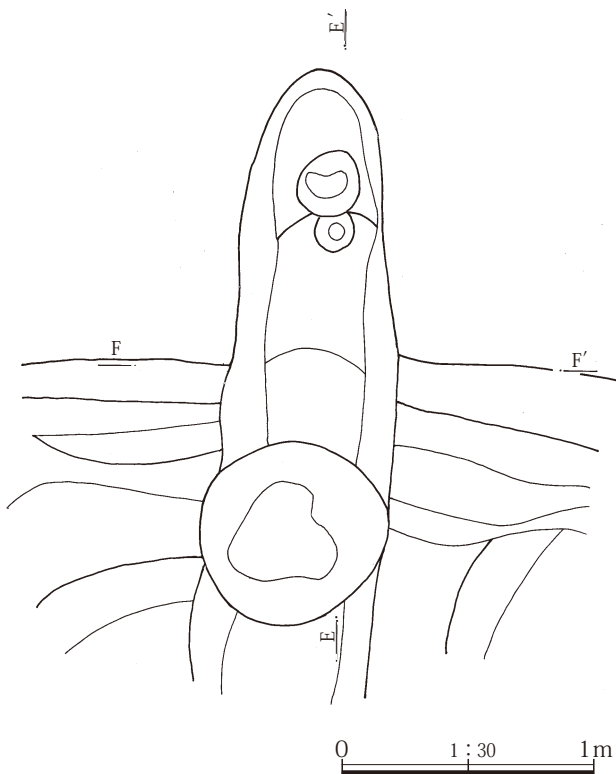
**埋没土** にぶい黄褐色洪水層・Hr-FAを含む黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** ロームを含む暗褐色・褐色土で5～28cmの貼床とし、住居中央から南壁にかけて硬化。ほぼ水平で凹凸少ない。

**遺物出土状況** 出土量は比較的多く、ほぼ全面から出土している。完形・半完形のものもあるが、床面上からの出土は破片が多い。完形品である、3364の土師器杯、3372の須恵器播鉢、3375の須恵器小瓶は、床面より上の出土であるが、いずれも壁際であるため、遺棄遺物の可能性がある。

**掘り方** 北壁際、南壁際に土坑状掘り込み・ピットが数基検出されている。他は若干の凹凸はあるがほぼ平坦な掘り方である。

**カマド** 北壁中央部に位置し、全長1.45m幅1.07mで、煙道部全長0.69m幅0.49m、燃烧部幅0.57mである。暗褐色粘質土で袖を構築。焚口部・燃烧部はややくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁は低く斜めに立ち上がり、煙道部に続く。煙道部底面は5°と緩やかに立ち上がる。  
**時期** 出土遺物から7世紀第4～8世紀第1四半紀と考えられる。



第111図 6区16号住居カマド掘り方

**6区17号住居** (第112～114図 PL.51-5・52)

**位置** 923～934-794～803Gr **重複** なし

**平面形態** 隅丸方形 **長辺** 7.78m

**短辺** 7.58m **長辺/短辺** 1.03 **壁高** 0.63m

**面積** 57.03㎡ **床面積** 50.60㎡

**主軸方位** N-45°-W

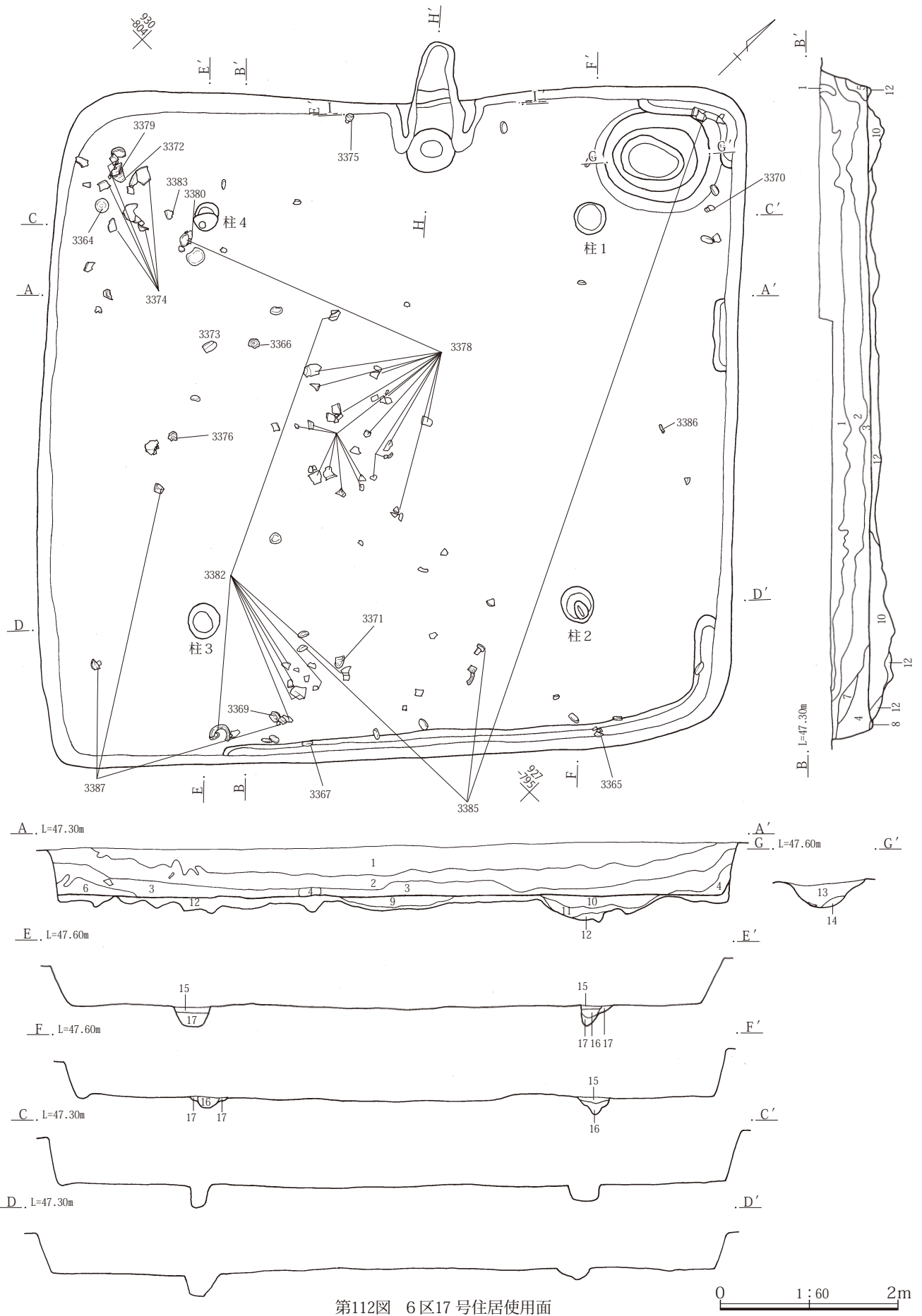
**壁溝** 南壁・東壁一部。掘り方では西壁にも検出。

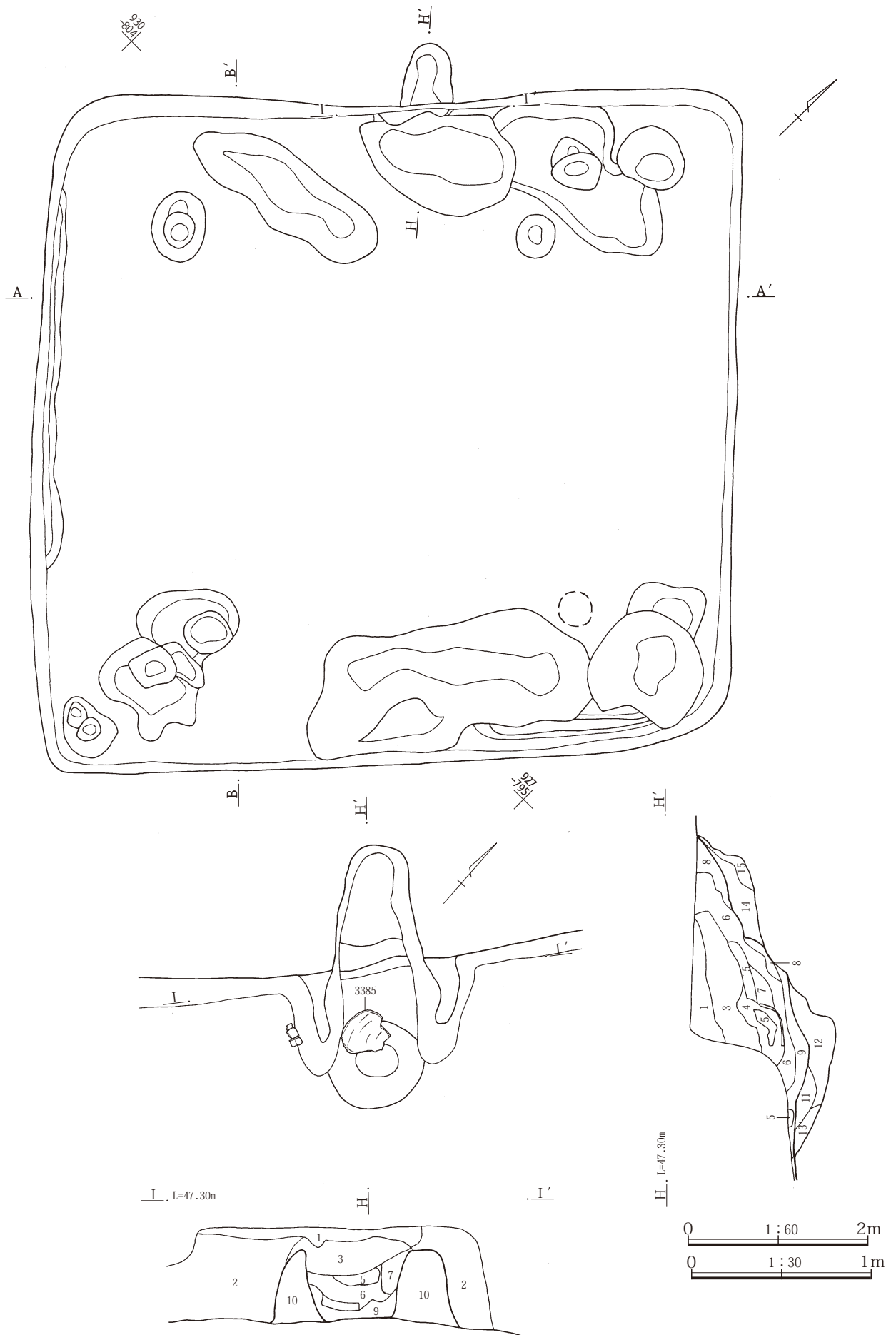
**柱穴** 4基。住居の規模が大きいためか、壁との間が比較的狭く内部が広い配置となっている。計測値は第17表

6区17住土層注記

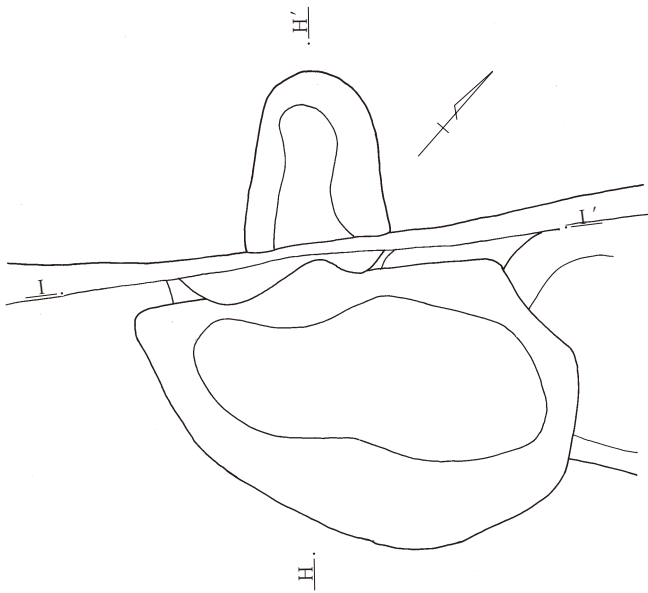
- 1 にぶい黄褐(10YR4/3) HR-FA・褐色粒子・炭化物粒微量、小礫混。洪水層。
- 2 黒褐(10YR2/3) HR-FA多量、褐色・ローム粒子少量、炭化物微量混。粘性強。
- 3 黒褐(10YR2/3)HR-FA少量。ロームB多量混。ローム・褐色粒子中量混。粘性強。
- 4 暗褐(10YR3/4)ロームB・黒色土B混。
- 5 褐(10YR4/4)粘性・しまり弱。
- 6 黒褐(10YR2/2)ローム粒子・B少量、褐色粒子・炭化物微量混。しまり弱。
- 7 黒褐(10YR2/3)粘性強。
- 8 暗褐(10YR3/3)ローム粒子・B中量混。しまり弱。周溝。

- 9 暗褐(10YR3/3)粘質土多量混。貼床。
- 10 暗褐(10YR3/3)ロームB大・黒色土多量、粘質土微量混。貼床。
- 11 黒褐(10YR2/2)ロームB多量混。粘性強、しまり弱。
- 12 褐(10YR4/4)ロームB多量、黒色土混。貼床。
- 13 黒褐(10YR2/3)ローム粒子・B少量、白色粒子微量混。
- 14 暗褐(10YR3/3)ローム粒子多量混
- 15 暗褐(10YR3/3)ローム粒子・B多量混。粘性弱。
- 16 黒褐(10YR2/3)ローム粒子・B多量混。しまり弱。
- 17 暗褐(10YR3/4)ローム粒子・B多量混。粘性弱。





第113図 6区17号住居掘り方・カマド使用面



- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)洪水層。焼土B少量混。シルト質。
- 2 暗褐(10YR3/3) Hr-FA少量、ローム粒子・B中量混。
- 3 暗褐(10YR3/3) Hr-FA少量、焼土粒子・B、炭化物中量混。
- 4 黒褐(10YR2/3)焼土粒子・B中量、炭化物少量混。粘性弱。
- 5 褐(10YR4/4)焼土B・黒色土少量混。粘性弱、しまり強。
- 6 にぶい赤褐(5YR4/4)焼土層。黒褐色土・灰混。炭化物少量混。しまり弱。
- 7 にぶい赤褐(5YR4/4)ロームB・黒色土混。
- 8 灰黄褐(10YR4/2)灰層。焼土B一部混入。粘性強、しまり弱。
- 9 暗褐(10YR3/4)焼土粒混。しまり弱。
- 10 暗褐(10YR3/3)粘質土。焼土混。粘性・しまり強。
- 11 黒褐(10YR2/2)ローム・焼土粒少量、ロームB微量混。
- 12 暗褐(10YR3/3)焼土少量混。ロームB多量混。粘性・しまり弱。
- 13 暗褐(10YR3/3)焼土・ロームB少量混。
- 14 暗褐(10YR3/3)ローム焼土B少量混。粘性弱。
- 15 暗褐(10YR3/3)粘質土。粘性強、しまり弱。

0 1:30 1m

第114図 6区17号住居カマド掘り方

**6区18号住居** (第115・116図 PL.53)

**位置** 936~941-844~849Gr **重複** なし

**平面形態** 隅丸長方形 **長辺** 4.32m

**短辺** 3.77m **長辺/短辺** 1.15 **壁高** 0.57m

**面積** 15.52㎡ **床面積** 12.09㎡

**主軸方位** N-16°-W

**壁溝** なし **柱穴** なし **貯蔵穴** なし

**埋没土** Hr-FAを含む黒褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。住居が完全に埋没する前に、As-Bを含む洪水層に埋められている。

**床面状態** 礫を含む黒褐色土で3~10cmの貼床とする。全体的に軟弱。凹凸が多い床面で最大で約10cmの差がみられる。

**遺物出土状況** 出土量は比較的多く、ほぼ全面から出土している。床面上出土のものは少なく、半完形のものも埋土中の出土であるため、廃棄・流入遺物がほとんどであろう。

**掘り方** 北部に土坑状掘り込み・ピットが数基あり。他はやや凹凸の多い掘り方である。

**カマド** 北壁と東壁の2基検出されている。北カマドが新しく、東カマドが古い。

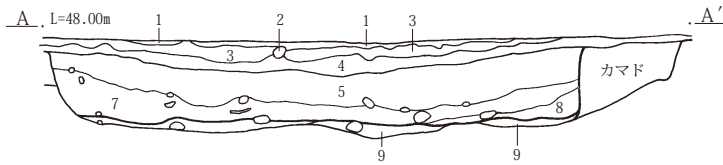
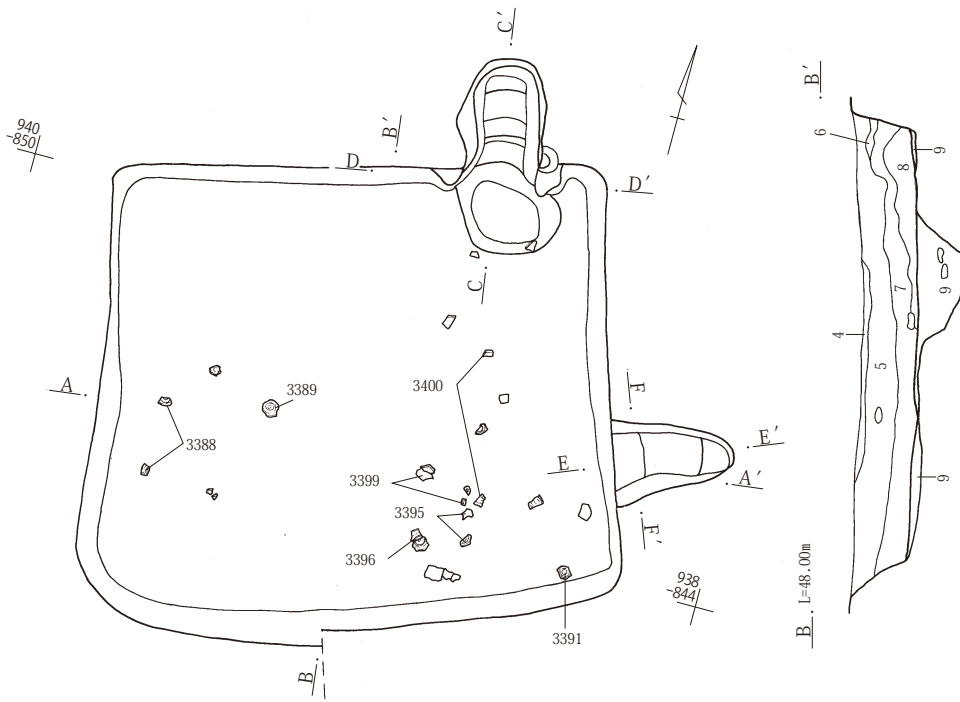
北カマド(新カマド)は、北壁東部に位置し、全長1.54m幅0.74mで、煙道部全長0.62m幅0.62m、燃焼部幅0.62

mである。褐色土で袖を構築する。焚口部・燃焼部はややくぼみ、灰層は見られない。燃焼部奥壁は低く30°で立ち上がり、煙道部底面が、段を持って30°で立ち上がっている。

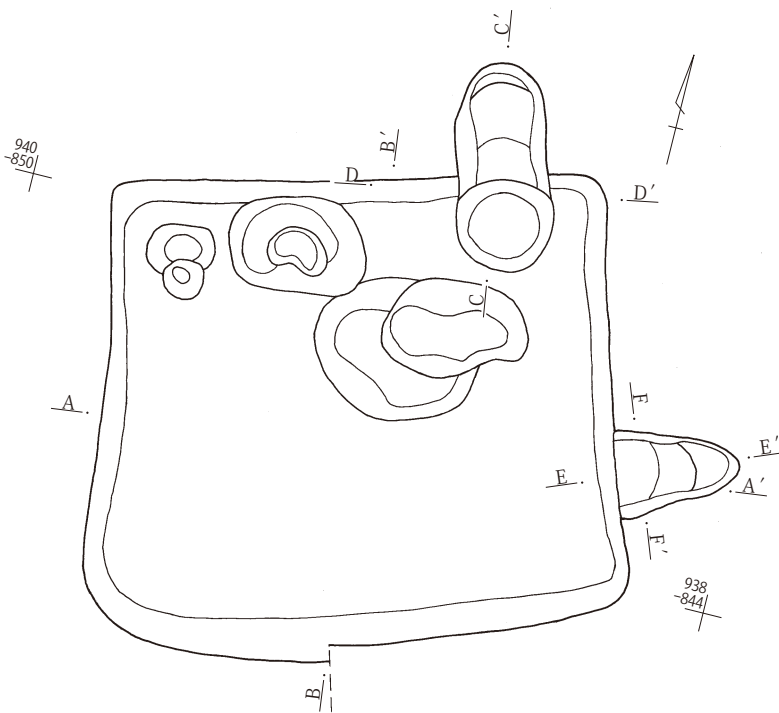
東カマド(旧カマド)は、東壁南部に位置し、全長0.95m幅0.69mで、煙道部全長0.90m幅0.67mである。旧カマドのため、袖・焚口部は不明。燃焼部から煙道部底面にかけて30°で立ち上がり、煙道部奥壁は60°で立ち上がる。支脚と考えられる自然礫や、土師器甕の破片が出土している。

**所見** 東カマドからは、出土状況から支脚と考えられる自然礫が出土しているが、壁よりもかなり外側に位置し、燃焼部の幅もかなり狭くなってしまうため、この位置に支脚があったとするには疑問も残る。

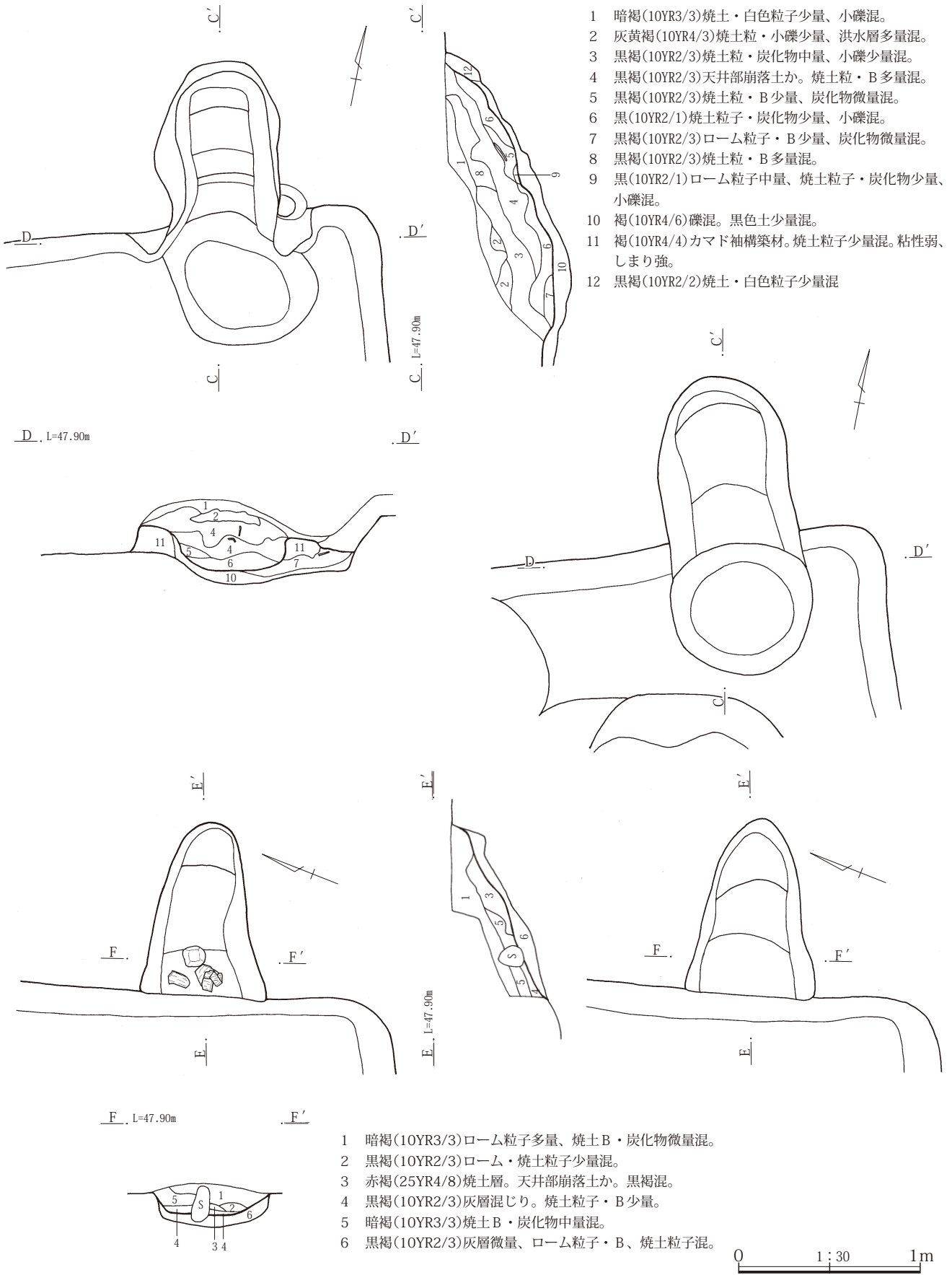
**時期** 出土遺物から9世紀第3~第4四半紀と考えられる。



- 1 As-B層。
- 2 As-B アッシュ
- 3 暗褐(10YR3/4) As-B、白色・褐色粒子、小礫少量混。シルト質。洪水層。粘性弱。
- 4 暗褐(10YR3/3)シルト質。白色・褐色粒子極微量混。洪水層。粘性弱。
- 5 黒褐(10YR3/1) Hr-FA・褐色粒・亜円礫少量混。
- 6 黒褐(10YR2/3) 4層B混。
- 7 黒褐(10YR3/1) Hr-FA・焼土粒・炭化物・円礫大量混。粘性強、しまり弱。
- 8 黒褐(10YR2/3)焼土粒・炭化物多量、HR-FA微量混。粘性強、しまり弱。
- 9 黒褐(10YR2/2)礫大量、黒色土混。粘性強、しまり弱。貼床。



第115図 6区18号住居使用面・掘り方



第116図 6区18号住居カマド



6区19号住居 (第117～119図 PL.54)

位置 916～920-801～805Gr 重複 なし

平面形態 隅丸長方形 長辺 3.90m

短辺 2.82m 長辺/短辺 1.38 壁高 0.41m

面積 10.90㎡ 床面積 7.50㎡

主軸方位 N-16°-W 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 洪水起源と考えられるシルト質暗褐色土と、ロームを含む黒褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 ロームを含む黒褐色・褐色土で5～22cmの貼床とし全体的に硬化。ほぼ平坦ではあるが、西部が約10cm低くなっている。

遺物出土状況 出土量は比較的多く、ほぼ全面から出土している。床面上出土のものは少なく、大部分が埋土中の出土で、廃棄・流入遺物がほとんどである。

掘り方 土坑・ピットが数基検出され、北東隅部が広い溝状に掘り込まれている。他の部分は、細かい凹凸があるが、全体的には平坦な掘り方である。

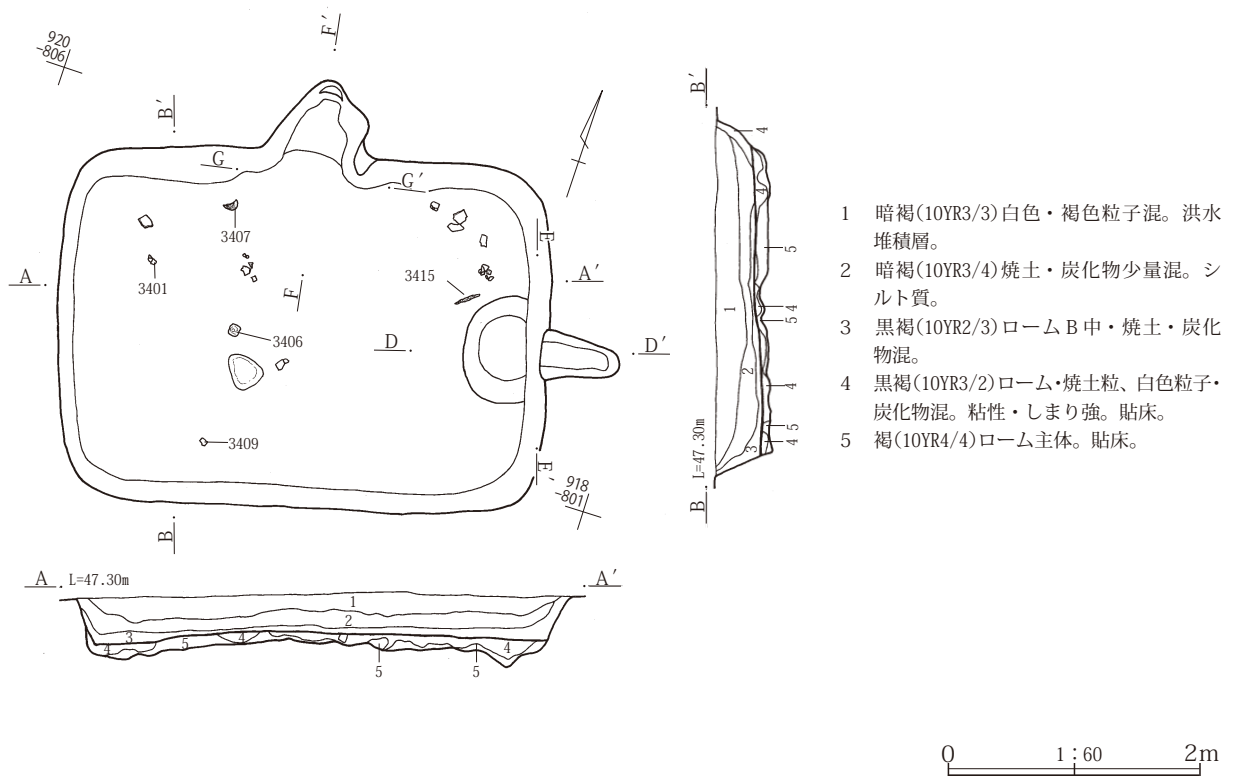
カマド 北壁と東壁の2基検出されている。北カマドが新しく、東カマドが古い。

北カマドは、北壁中央部に位置し、全長1.45m幅0.84mである。袖部残存状況悪く構築材は不明である。焚口部・燃烧部はほぼ平坦で、燃烧部奥壁から煙道部にかけて45°で立ち上がる。燃烧部および煙道部から土師器甕が数個体分出土している(3412～3414)。完形になるものはなく、出土状況からも袖や天井の補強材にはならないと考えられる。

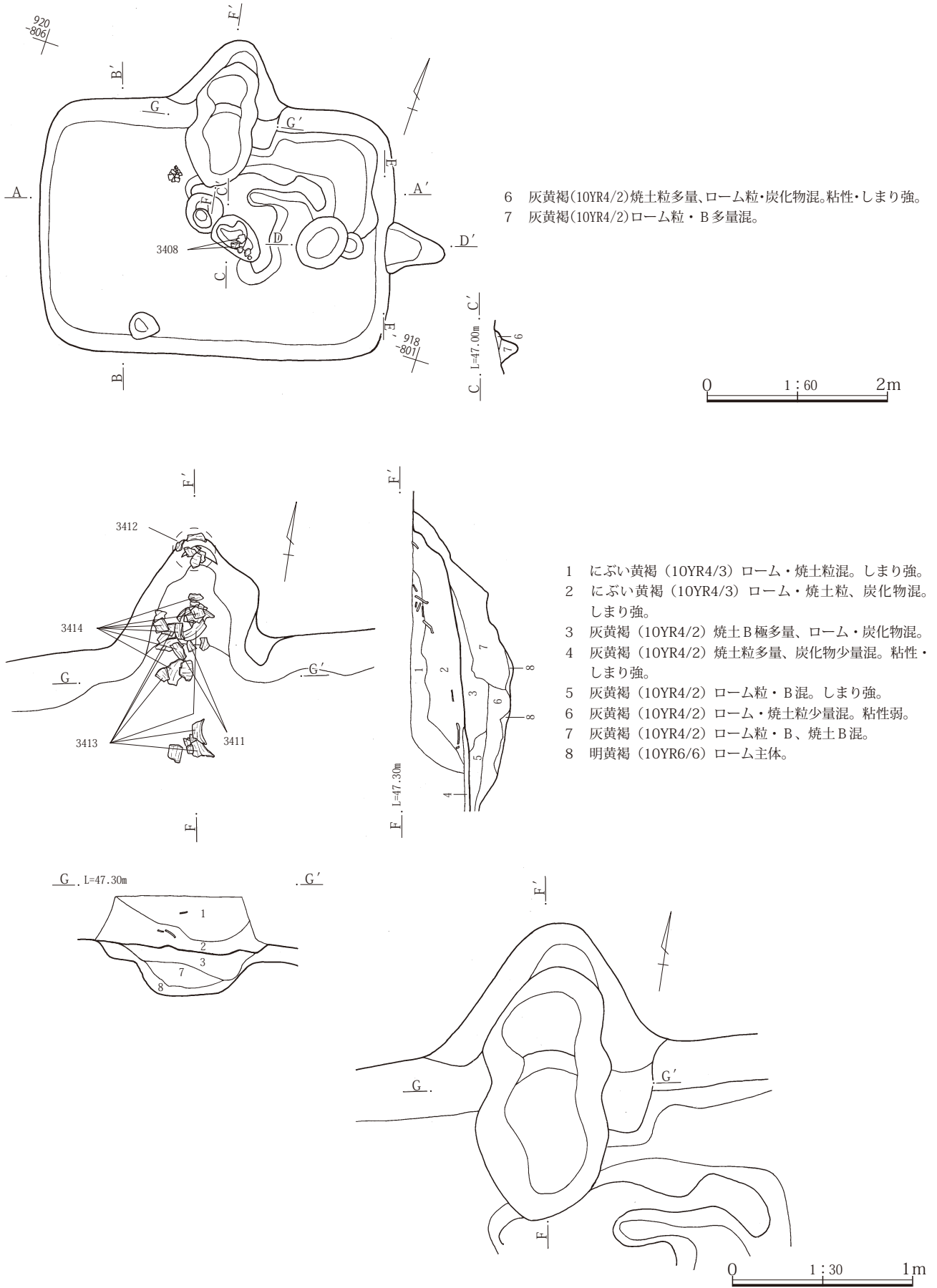
東カマドは東壁やや南寄りに位置し、全長1.23m幅0.86mで、煙道部全長0.63m幅0.40mである。旧カマドのため袖構築材は不明である。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、煙道部底面は20°で立ち上がっている。

所見 2基のカマドは、発掘調査時点では同時に調査しているが、袖・燃烧部等や遺物の残存状況などから、北カマドが新しく、東カマドが古い可能性が高い。

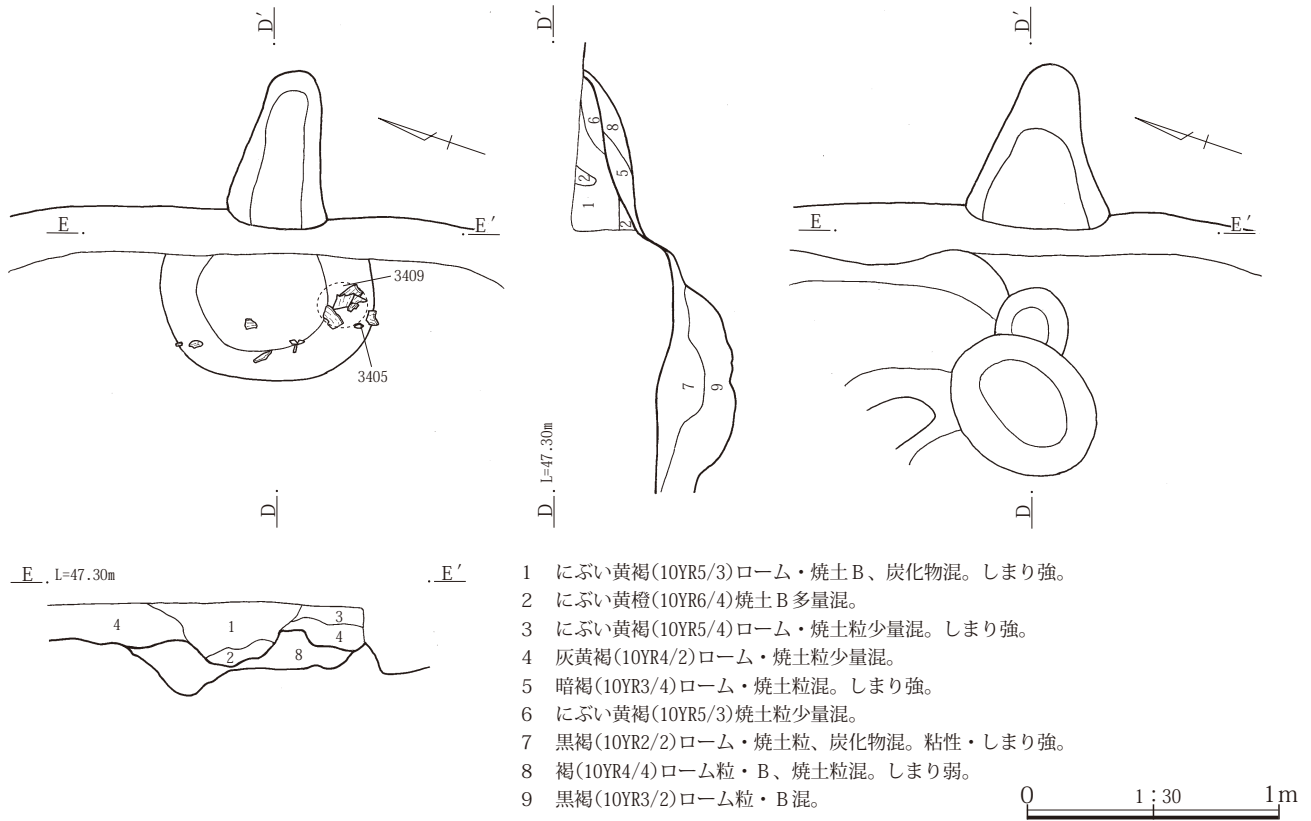
時期 出土遺物から9世紀第3～第4四半紀と考えられる。



第117図 6区19号住居使用面



第118図 6区19号住居掘り方・北カマド



第119図 6区19号住居東カマド

6区20号住居 (第120図 PL.55)

位置 920～924-807～811Gr

重複 11掘立より旧

平面形態 隅丸長方形 長辺 3.74m

短辺 3.24m 長辺/短辺 1.15 壁高 0.37m

面積 11.49㎡ 床面積 9.26㎡

主軸方位 N-32°-W 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 ロームを含む黒色・黒褐色・暗褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 ローム主体のにぶい黄褐色土で3～20cmの貼床とする。ほぼ水平で軟弱。凹凸少ない。

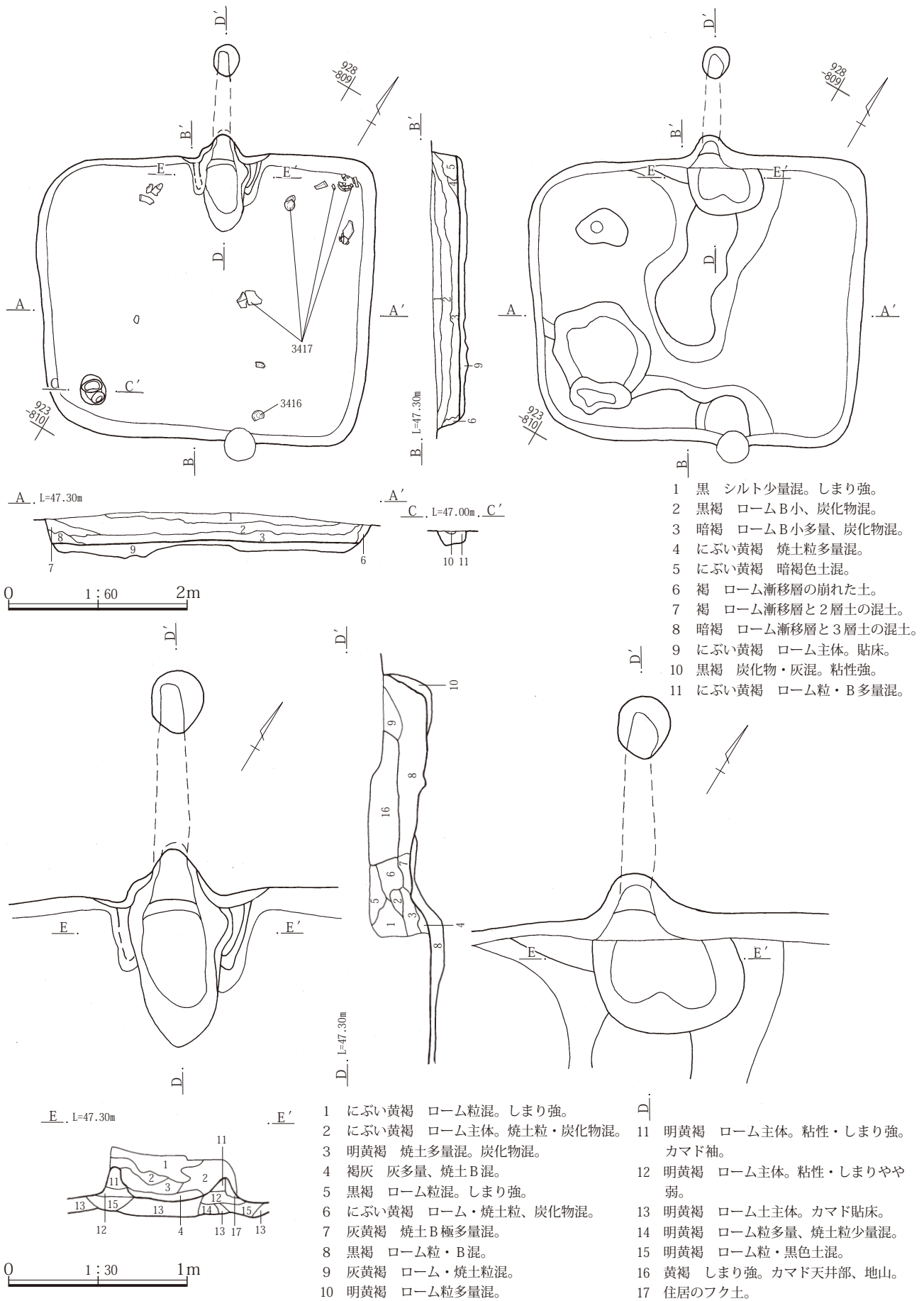
遺物出土状況 出土量は少なく、北部から住居中央にかけて、土師器甕を中心に出土。須恵器は出土していない。3416の土師器杯は床面上の出土で、遺棄遺物と考えられる。

掘り方 土坑・ピットが数基ある他、中央部および南壁際が帯状に高く、他が低くなる掘り方。

カマド 北壁中央部に位置し、全長2.09m幅0.85mで、煙道部全長1.27m幅0.30m、燃烧部幅0.59mである。明黄褐色土で袖を構築する。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁は30°でなだらかに立ち上がり、煙道部へ続く。煙道部底面は水平もしくはやや下がりながら延び、奥壁は60°で立ち上がる。地山掘り残しの煙道部天井が残存しており、径は20～25cmである。

所見 煙道部の天井が残存するが、天井と底面間が非常に狭く、細かったことが判明した。

時期 出土遺物から8世紀第1～第2四半紀と考えられる。



- 1 黒 シルト少量混。しまり強。
- 2 黒褐 ロームB小、炭化物混。
- 3 暗褐 ロームB小多量、炭化物混。
- 4 にぶい黄褐 焼土粒多量混。
- 5 にぶい黄褐 暗褐色土混。
- 6 褐 ローム漸移層の崩れた土。
- 7 褐 ローム漸移層と2層土の混土。
- 8 暗褐 ローム漸移層と3層土の混土。
- 9 にぶい黄褐 ローム主体。貼床。
- 10 黒褐 炭化物・灰混。粘性強。
- 11 にぶい黄褐 ローム粒・B多量混。

- 1 にぶい黄褐 ローム粒混。しまり強。
- 2 にぶい黄褐 ローム主体。焼土粒・炭化物混。
- 3 明黄褐 焼土多量混。炭化物混。
- 4 褐灰 灰多量、焼土B混。
- 5 黒褐 ローム粒混。しまり強。
- 6 にぶい黄褐 ローム・焼土粒、炭化物混。
- 7 灰黄褐 焼土B極多量混。
- 8 黒褐 ローム粒・B混。
- 9 灰黄褐 ローム・焼土粒混。
- 10 明黄褐 ローム粒多量混。
- 11 明黄褐 ローム主体。粘性・しまり強。カマド袖。
- 12 明黄褐 ローム主体。粘性・しまりやや弱。
- 13 明黄褐 ローム土主体。カマド貼床。
- 14 明黄褐 ローム粒多量、焼土粒少量混。
- 15 明黄褐 ローム粒・黒色土混。
- 16 黄褐 しまり強。カマド天井部、地山。
- 17 住居のフク土。

第120図 6区20号住居

6区21号住居 (第121・122図 PL.56)

位置 929～934-814～819Gr 重複 26住より新

平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 4.71m 短辺 3.52m 長辺/短辺 1.34

壁高 0.64m 面積 16.30㎡ 床面積 12.65㎡

主軸方位 N-51°-E 壁溝 なし

柱穴 なし

貯蔵穴 カマド右脇。平面形は楕円形で、断面形は丸みを帯びた台形である。長径約40cm深さ10cmと規模は小さい。

埋没土 Hr-FA・ロームを含む黒褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。北壁際の三角堆積が大きくなっているため、北方向から埋没した可能性がある。

床面状態 ロームを含む褐色土で6～21cmの貼床とする。ほぼ平坦でやや軟弱。凹凸少ない。

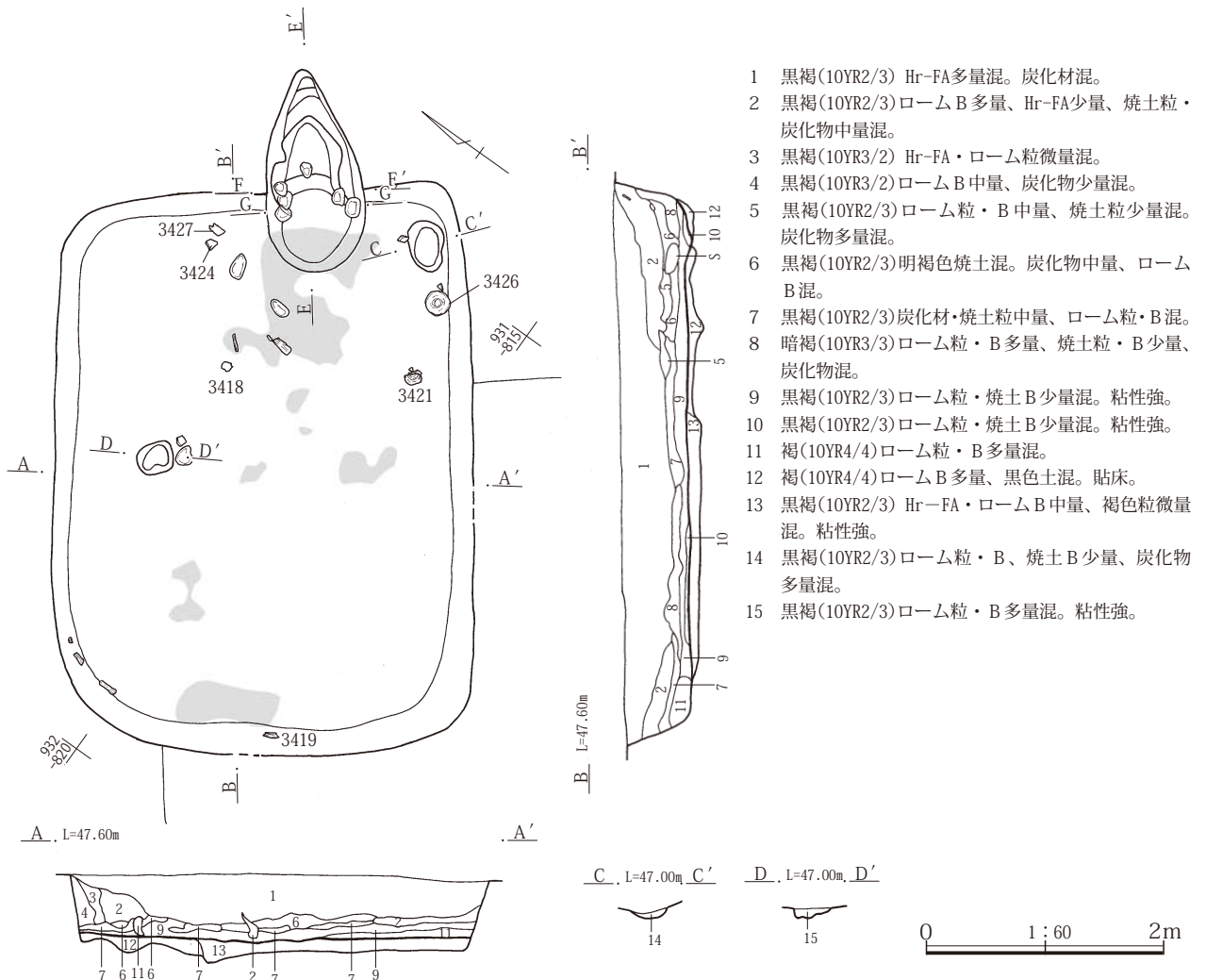
遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺を中心に

土。床面上の出土のものは少なく埋土中のものがほとんどで、大部分廃棄・流入遺物と考えられる。3419の須恵器皿、3426の須恵器長頸壺は壁際出土で、遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 土坑状の掘り込みが4基北部で検出されている。他は、細かい凹凸は多いが、全体的に平坦な掘り方。

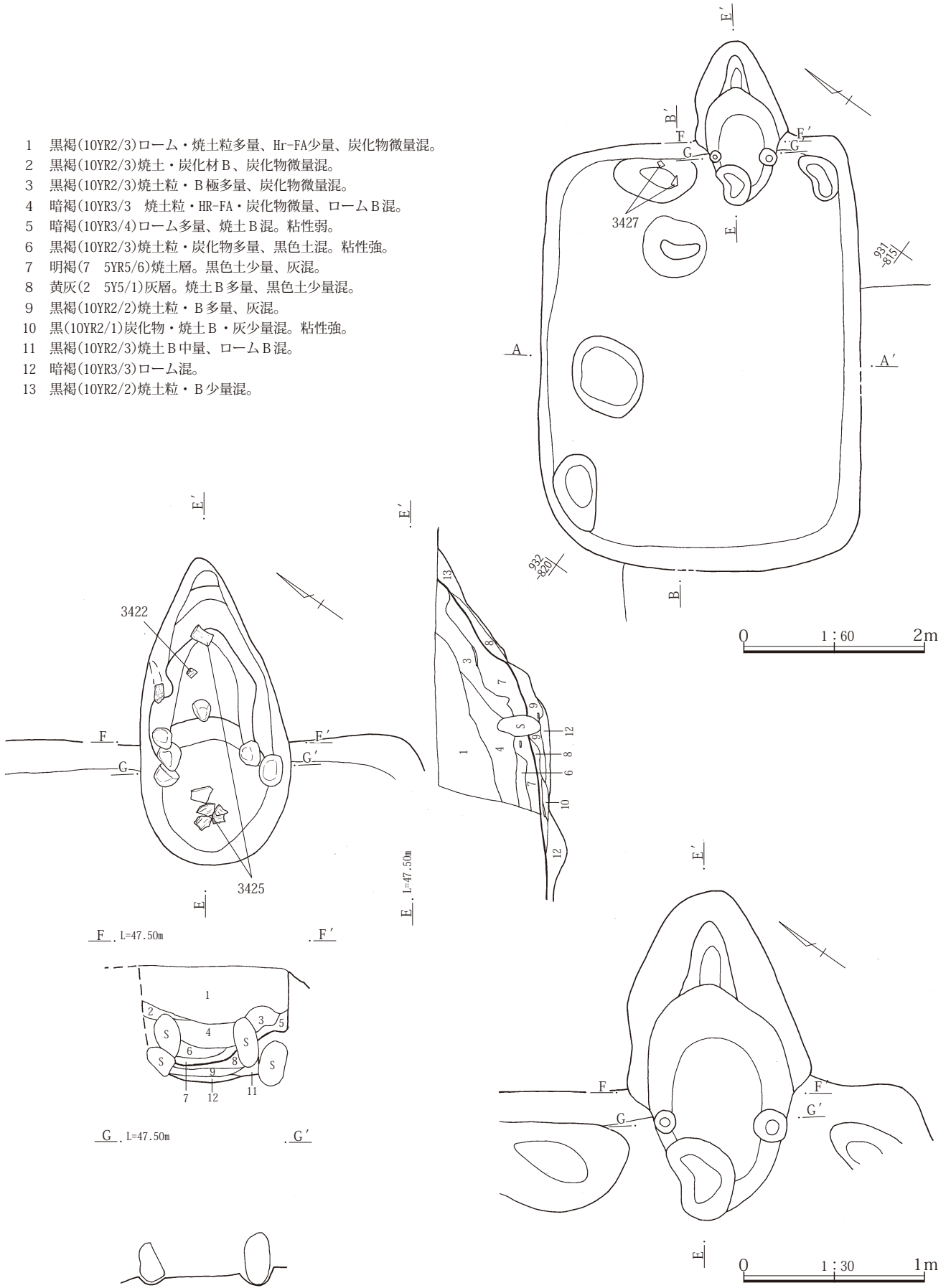
カマド 東壁南部に位置し、全長1.69m幅0.82mで、煙道部全長0.39m幅0.53m、燃烧部幅0.45mである。細長い自然礫を右で2個、左で3個ややずらして並べ、袖石としている。焚口部・燃烧部はややくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁から煙道部にかけて、30°で段を持って立ち上がる。燃烧部には袖石と同様な自然礫を用いた支脚が出土している。

時期 出土遺物から9世紀第2～第3四半紀と考えられる。



第121図 6区21号住居使用面

- 1 黒褐(10YR2/3)ローム・焼土粒多量、Hr-FA少量、炭化物微量混。
- 2 黒褐(10YR2/3)焼土・炭化材B、炭化物微量混。
- 3 黒褐(10YR2/3)焼土粒・B極多量、炭化物微量混。
- 4 暗褐(10YR3/3) 焼土粒・HR-FA・炭化物微量、ロームB混。
- 5 暗褐(10YR3/4)ローム多量、焼土B混。粘性弱。
- 6 黒褐(10YR2/3)焼土粒・炭化物多量、黒色土混。粘性強。
- 7 明褐(7 5YR5/6)焼土層。黒色土少量、灰混。
- 8 黄灰(2 5Y5/1)灰層。焼土B多量、黒色土少量混。
- 9 黒褐(10YR2/2)焼土粒・B多量、灰混。
- 10 黒(10YR2/1)炭化物・焼土B・灰少量混。粘性強。
- 11 黒褐(10YR2/3)焼土B中量、ロームB混。
- 12 暗褐(10YR3/3)ローム混。
- 13 黒褐(10YR2/2)焼土粒・B少量混。



第122図 6区21号住居掘り方・カマド

6区22号住居 (第123・124図 PL.57)

位置 930～933-783～789Gr 重複 なし

平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 4.14m 短辺 3.42m 長辺/短辺 1.21

壁高 0.35m 面積 12.83㎡ 床面積 9.79㎡

主軸方位 N-66°-E 壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 床面上になし。掘り方でカマド右脇にピット状の掘り込みが検出されたが、やや位置が手前にずれており、貯蔵穴と断定はできない。

埋没土 焼土・炭化物を含む暗褐色シルト質土が堆積。ほぼ水平に堆積しているが、壁際に壁体崩落土のある箇所もあるため、自然堆積の可能性が高い。埋没方向不明。

床面状態 ロームを含む灰黄褐色土で3～18cmの貼床とする。ほぼ水平な床面でやや軟弱。凹凸は少ない。

遺物出土状況 出土量は比較的少なく、完形・半完形のものも少ない。埋土中出土のものがほとんどで、大部分廃棄・流入遺物と考えられる。3432の土師器甕は、床面

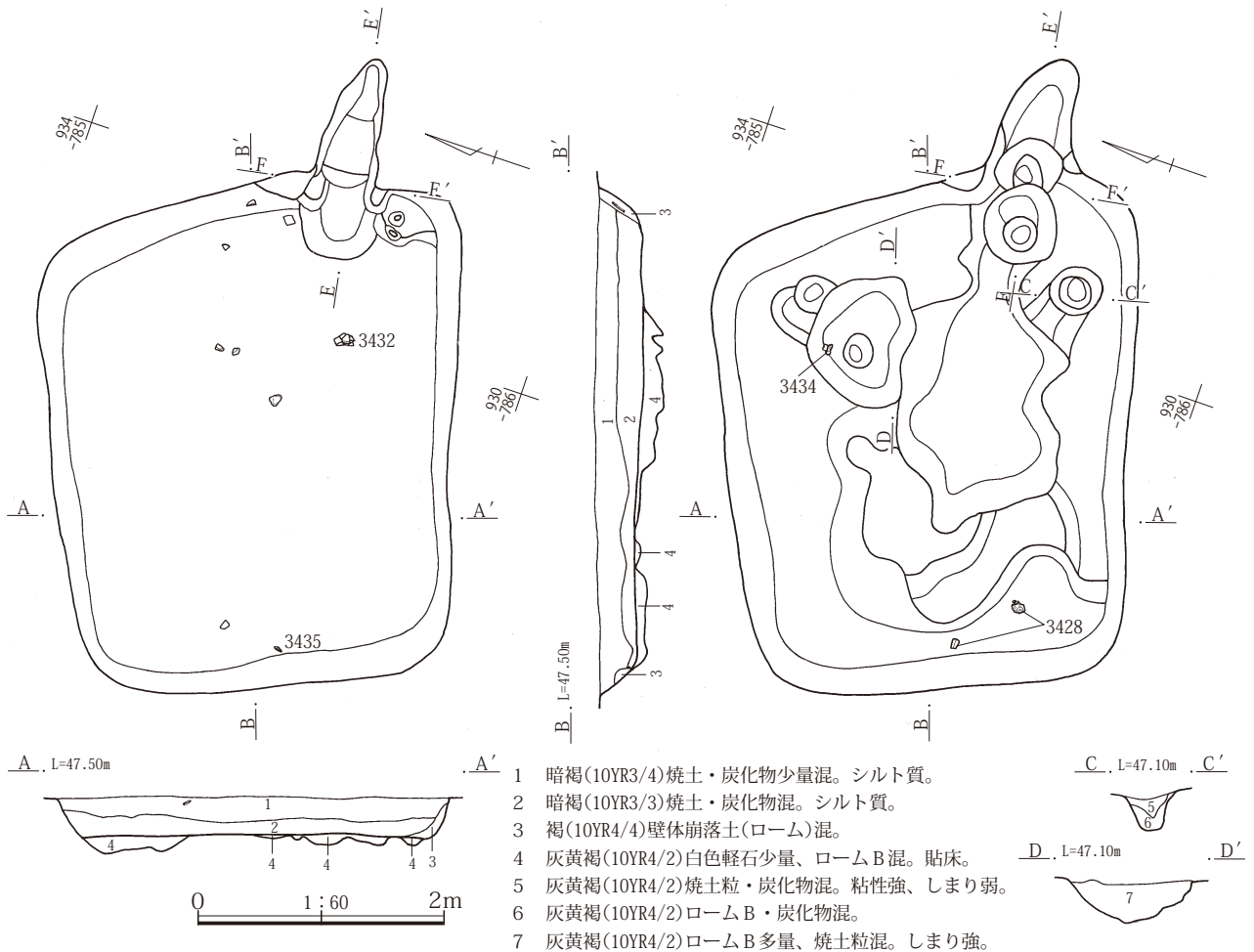
上の出土であるが、破片であるため遺棄遺物の可能性は低い。

掘り方 土坑・ピットが数基検出されており、カマド前から住居中央部にかけて浅い掘り込みが検出されている。他は、中央部がやや高くなり、外周がくぼむ掘り方である。

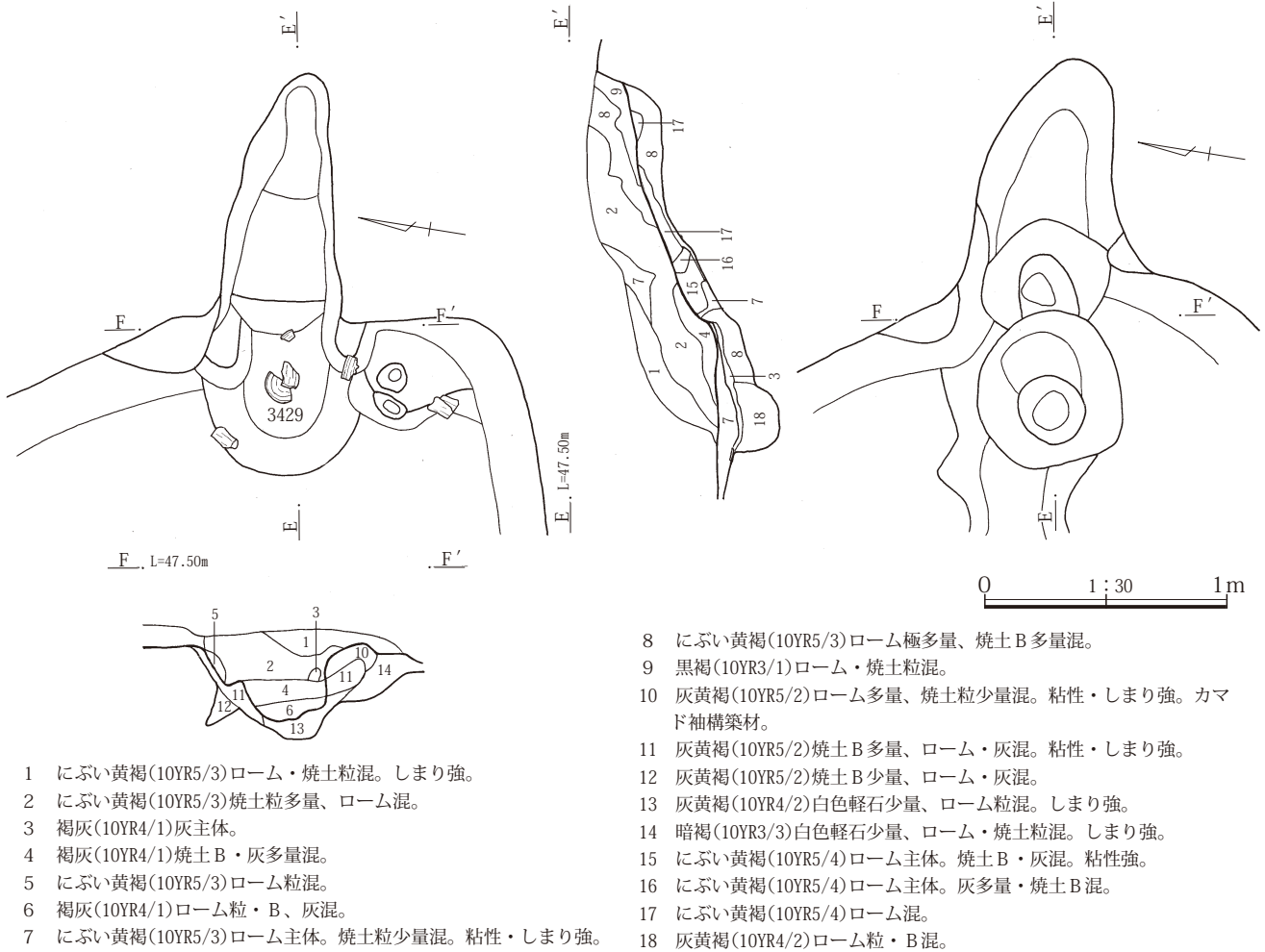
カマド 東壁南部に位置し、全長1.64m幅0.76mで、煙道部全長0.93m幅0.57m、燃烧部幅0.42mである。灰黄褐色粘質土で袖を構築する。焚口部・燃烧部はややくぼみ、燃烧部奥壁は低く立ち上がり煙道部に続く。煙道部底面は段を持って25°で立ち上がり、奥壁は60°で立ち上がる。燃烧部から須恵器の皿(3429)が出土している。

所見 住居の主軸に対し、カマドの主軸が20°ずれている。理由は不明であるが、カマド位置が隅に近く、コーナーにカマドを作る形態に近くなっているといえる。

時期 出土遺物から9世紀第3～第4四半紀と考えられる。



第123図 6区22号住居使用面・掘り方



第124図 6区22号住居カマド

6区23号住居 (第125図 PL.58-1~4)

位置 938 ~ 942-799 ~ 804Gr

重複 24住より新

平面形態 隅丸台形か 長辺 (4.05)m

短辺 3.80m 長辺/短辺 (1.07) 壁高 0.34m

面積 (12.96)m<sup>2</sup> 床面積 (9.00)m<sup>2</sup>

主軸方位 N-37°-E 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 ローム・焼土・炭化物を含むにぶい黄褐色土が水平に堆積。自然堆積かどうかは不明である。

床面状態 やや凹凸のある床面で、南東部が約5cm低くなっている。西部中央に焼土塊あり。やや軟弱。

遺物出土状況 出土量は多く、ほぼ全面から出土。特に、中央やや東寄りの、床面上および埋土中から多量に出土している。比較的大きな破片が多いため、住居埋没途中に一括して廃棄された可能性が高い。3411の須恵器皿は

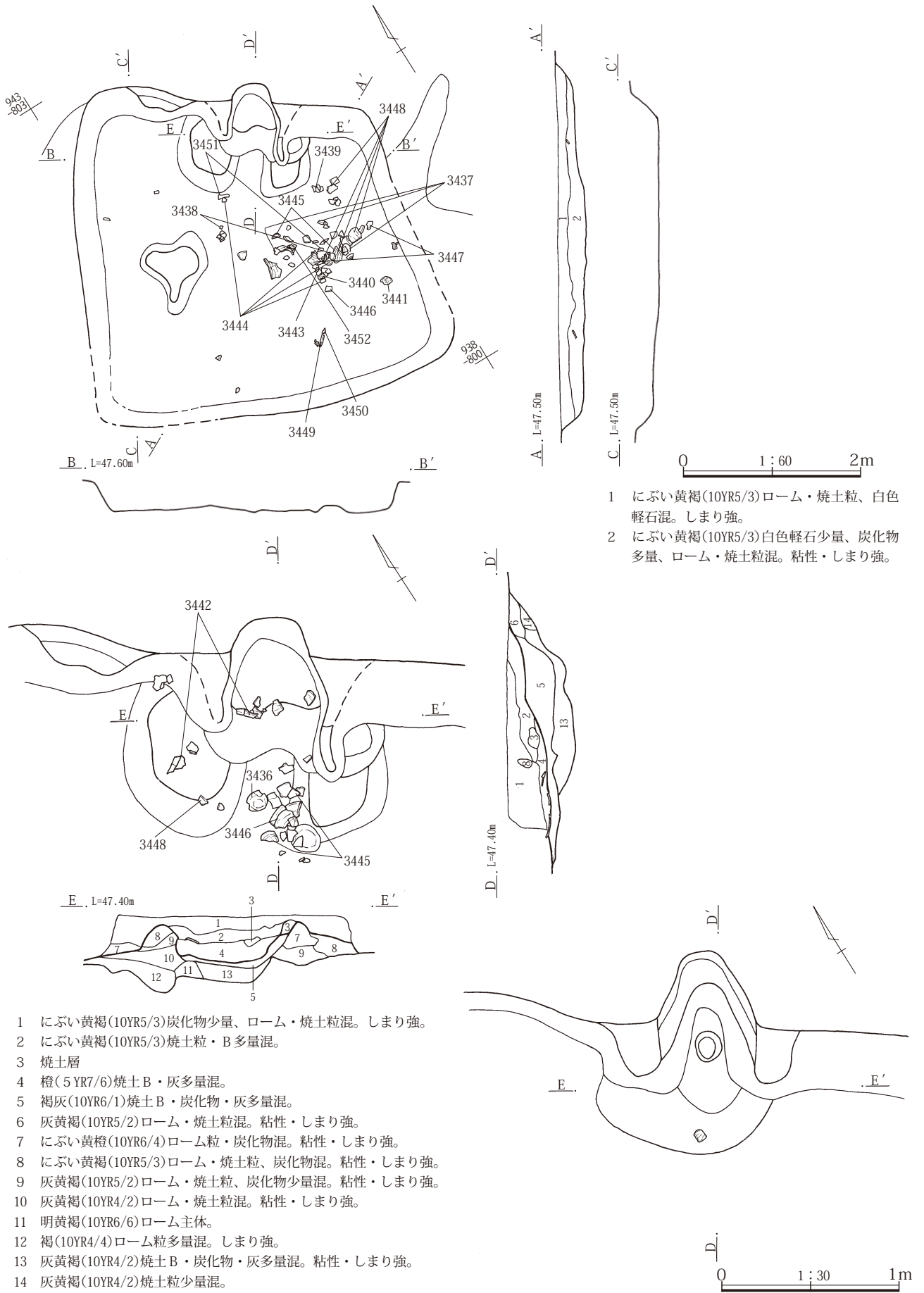
完形に近く、遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 24号住と重複するため、掘り方不明。

カマド 北壁中央部に位置し、全長1.24m幅1.38mで、燃烧部幅0.57mである。にぶい黄褐色粘質土で袖を構築する。焚口部・燃烧部はほぼ平坦で、灰層が見られる。奥壁は50°で立ち上がっている。焚口部から半完形の須恵器杯・椀(3436・3445)や須恵器甕の破片(3451)が出土している

時期 出土遺物から9世紀第3~第4四半紀と考えられる。





第125図 6区23号住居

6区24号住居 (第126～129図 PL.58-5・59)

位置 934～942-798～806Gr

重複 23住より旧、200土坑より新

平面形態 隅丸方形 長辺 6.52m 短辺 6.31m

長辺/短辺 1.03 壁高 0.83m 面積 39.67㎡

床面積 31.56㎡ 主軸方位 N-50°-E

壁溝 南壁東部に一部検出。

柱穴 4基。計測値は第17表参照。

貯蔵穴1 東カマド右脇。平面形は楕円形で断面形は丸みを帯びた台形である。長径約80cm、深さ約15cmで完形の土師器杯が出土。

貯蔵穴2 北カマド左手前。平面形は楕円形で断面形は丸みを帯びた楕円形。長径約100cm、深さ約50cm。

埋没土 ローム・焼土を含むにぶい黄褐色・灰黄褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 ロームを含むにぶい黄褐色土で3～20cmの貼床。ほぼ水平で、やや軟弱。凹凸が少ない。北東部に浅い土坑あり。

遺物出土状況 出土量は比較的多く、北部から東部を中心として出土。床面上出土のものは少なく、大部分が埋土中の出土で、廃棄・流入遺物がほとんどである。3463の土師器杯は床面上の出土であるが、1/2程度の残存であるため、廃棄遺物の可能性が高いか。

掘り方 土坑状掘り込み・ピットが全面から多数出土している。3454の土師器杯は、完形品が割れた状態で出土している。

カマド 東壁と北壁に2基検出されている。新旧は不明である。

東カマドは東壁やや南寄りに位置し、全長2.44m幅0.95mで、煙道部全長1.44m幅0.74mである。残存状況悪く、袖構築材は不明である。焚口部・燃烧部底面はやくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁は30°で立ち上がる。これに続く煙道部底面は5°で立ち上がりながら延び、奥壁は60°で立ち上がる。燃烧部奥壁の上部から土師器杯の完形・半完形品が4点(3457・3460・3462・3465)出土している。カマド上層に杯類が遺棄されたとは考えにくいいため、廃棄または壁上からの転落の可能性が高い。

北カマドは北壁やや西寄りに位置し、全長2.40m幅

1.12mで、煙道部全長1.41m幅0.60mである。残存状況悪く、袖構築材は不明である。焚口部・燃烧部底面はやくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁は35°で立ち上がる。煙道部底面は5°で立ち上がりながら延び、奥壁は65°で立ち上がる。焚口部・燃烧部から土師器甕の破片が数個体(3476・3477・3478)出土している。

所見 カマドが2基存在するが、いずれも袖部の残りが悪いが、明確に壁で切れている痕跡もないため、新旧を比定できない。東カマドが壁の南寄り、北カマドが西寄り、位置が離れて作られているため、場合によっては2基同時に存在した可能性もある。

時期 出土遺物から7世紀第2～第3四半紀と考えられる。

6区25号住居 (第130図 PL.60)

位置 919～927-824～831Gr 重複 61溝より旧

平面形態 隅丸方形 長辺 5.91m

短辺 5.64m 長辺/短辺 1.05 壁高 0.66m

面積 (32.67)㎡ 床面積 (28.39)㎡

主軸方位 N-41°-W 壁溝 なし

貯蔵穴 北東部。カマド右脇か。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈す。長径約80cmで深さ約20cm。

柱穴 4基。計測値は第17表参照。

埋没土 白色粒子を含む暗褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。南壁際の三角形堆積が北より大きいため、南方向からの土砂流入が多かった可能性がある。

床面状態 砂層を含む暗褐色土で2～8cmの貼床とする。ほぼ水平な床面であるが、全体的に軟弱。

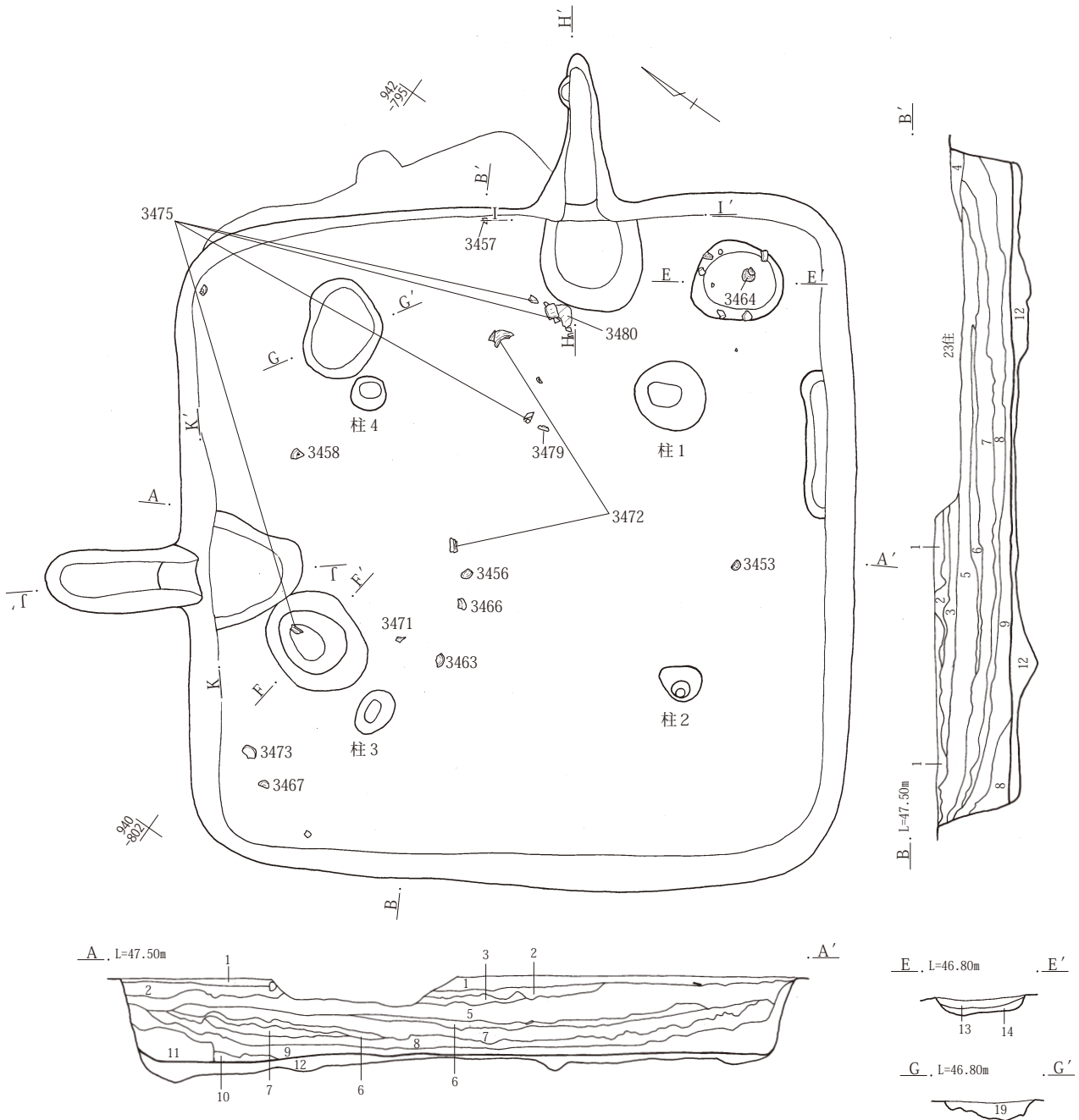
遺物出土状況 出土量は少なく、埋土中に散在。床面上出土のものは少なく、大部分が埋土中の出土で、半完形のものもあるが、廃棄・流入遺物がほとんどである。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方。

カマド 残存部分になし。

所見 カマドは検出されていないが、貯蔵穴の位置から、61号溝に切られた北壁にあった可能性が高い。

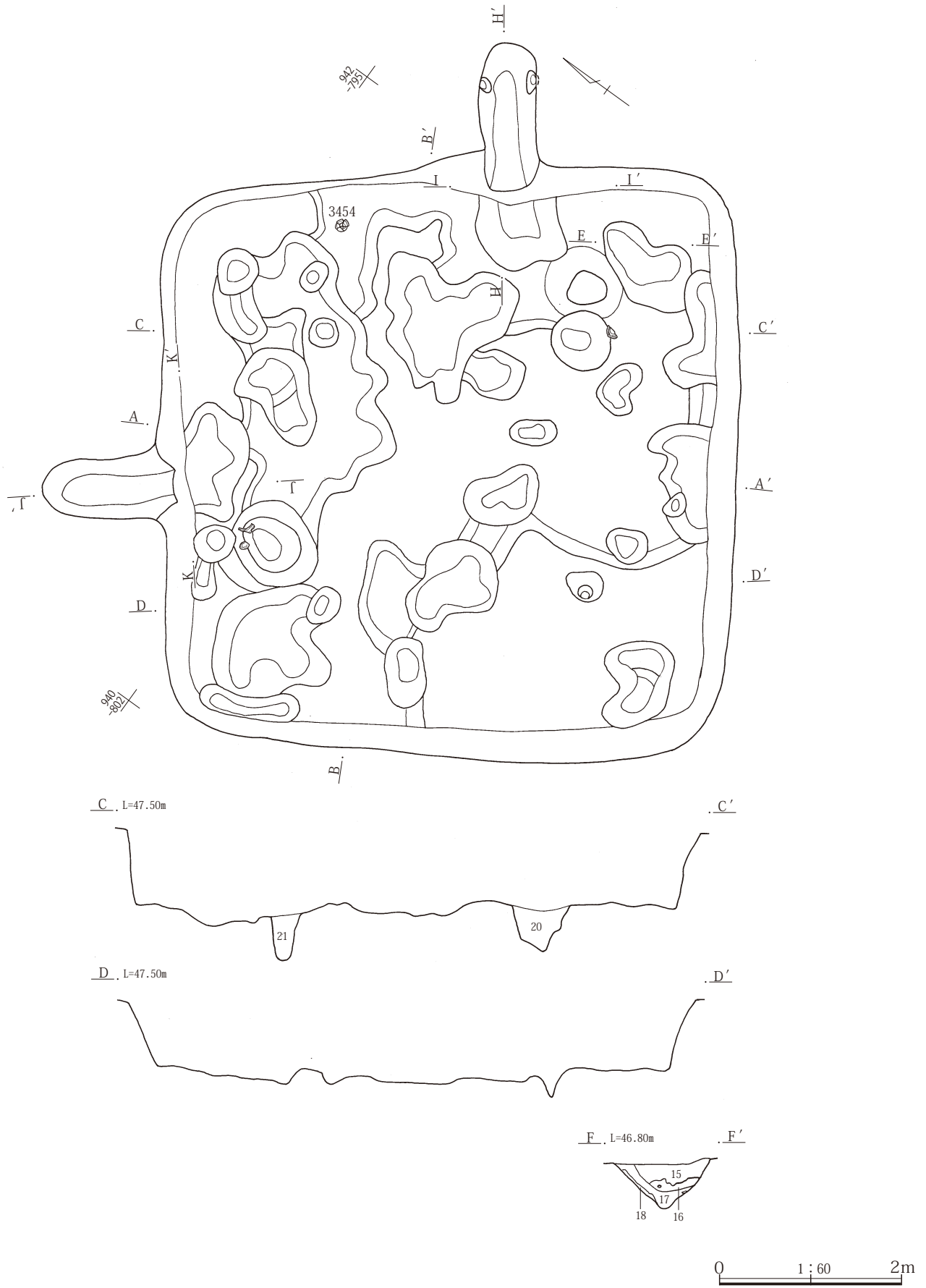
時期 出土遺物から7世紀第2～第3四半紀と考えられる。



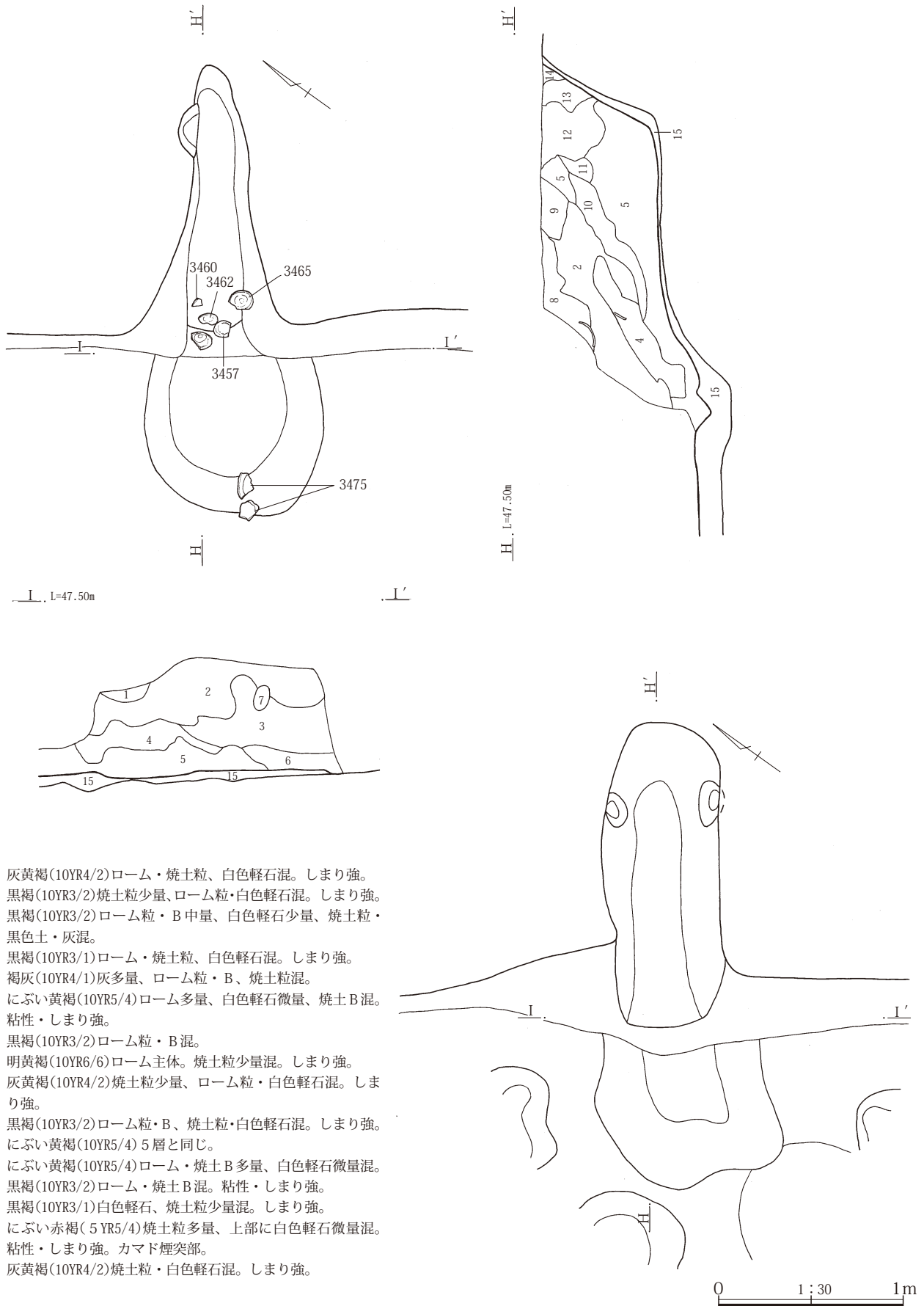
- |   |  |
|---|--|
| 1 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム・焼土粒、白色軽石混。しり強。          | 12 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム粒・B多量、焼土粒・炭化物混。粘性強。貼床。 |
| 2 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・白色軽石多量混。               | 13 にぶい黄褐(10YR5/3)焼土B・ローム多量混。粘性・しり強。        |
| 3 にぶい黄褐(10YR4/3)ロームB・黒色土多量、焼土粒少量混。しり強。      | 14 明黄褐(10YR6/6)ロームB多量、焼土粒少量混。              |
| 4 灰黄褐(10YR4/2)ロームB・焼土粒・炭化物・灰混。しり強。          | 15 黒褐(10YR3/1)灰多量、ローム・焼土粒、炭化物混。しり強。        |
| 5 灰黄褐(10YR4/2)灰多量、ロームB、焼土粒・炭化物・黒色土混。粘性・しり強。 | 16 明黄褐(10YR6/6)ローム主体。粘性・しり強。               |
| 6 灰黄褐(10YR4/2)灰・黒色土多量、ロームB、焼土粒・炭化物混。粘性・しり強。 | 17 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B混。粘性強。                |
| 7 灰黄褐(10YR4/2)黒色土少量、ロームB、焼土粒・炭化物混。粘性・しり強。   | 18 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B多量混。                  |
| 8 灰黄褐(10YR4/2)黒色土多量、灰混。                     | 19 黒褐(10YR3/1)灰多量、ローム粒・B、白色軽石混。しり強。        |
| 9 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒・炭化物多量、灰混。                 | 20 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B、焼土粒・炭化物混。粘性・しり強。     |
| 10 灰黄褐(10YR4/2)ローム混。がら崩落土。                  | 21 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・B多量、黒色土少量混。          |
| 11 黒褐(10YR3/1)焼土B・灰多量、ローム粒・B混。粘性・しり強。       |  |

0 1:60 2m

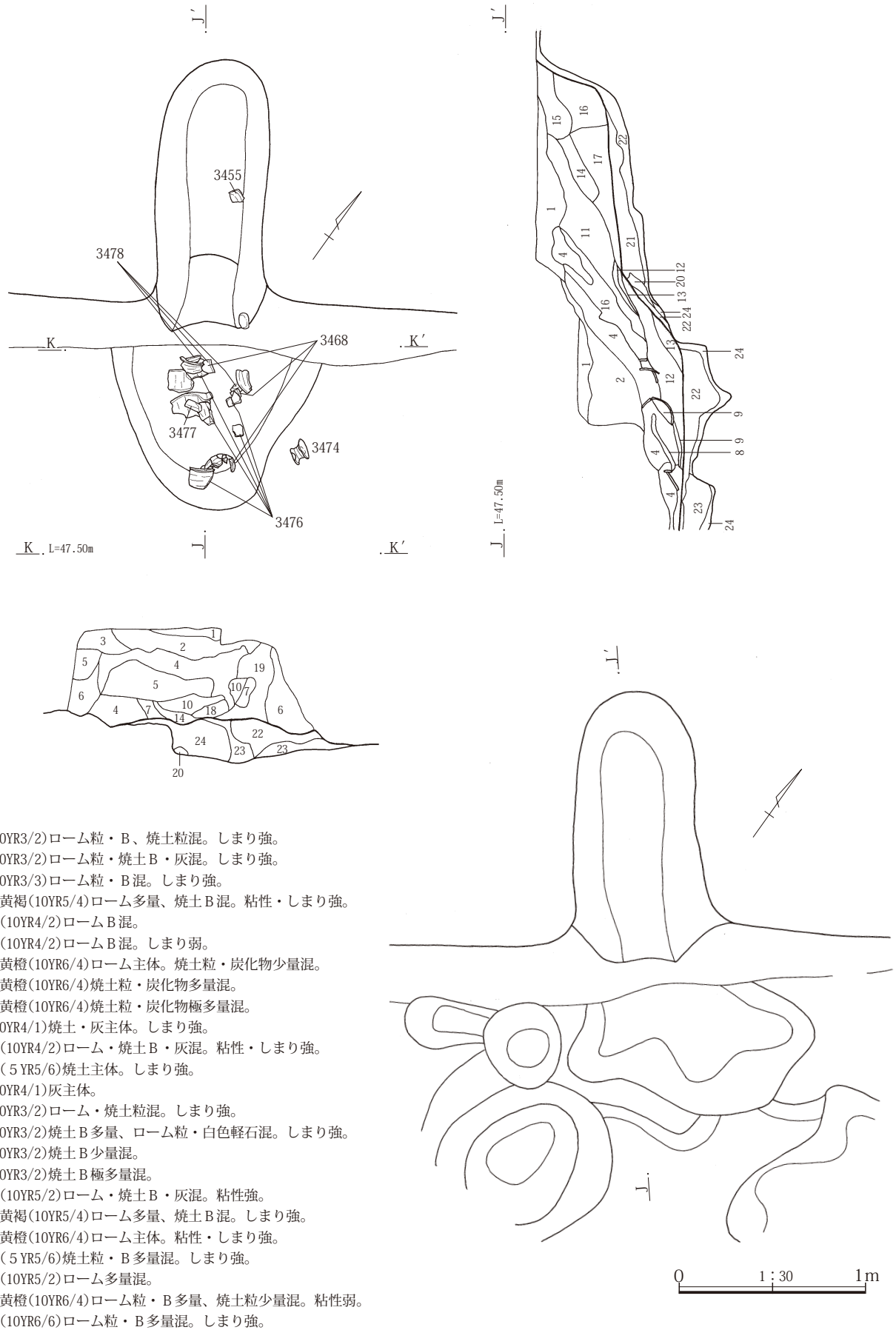
第126図 6区24号住居使用面



第127図 6区24号住居掘り方

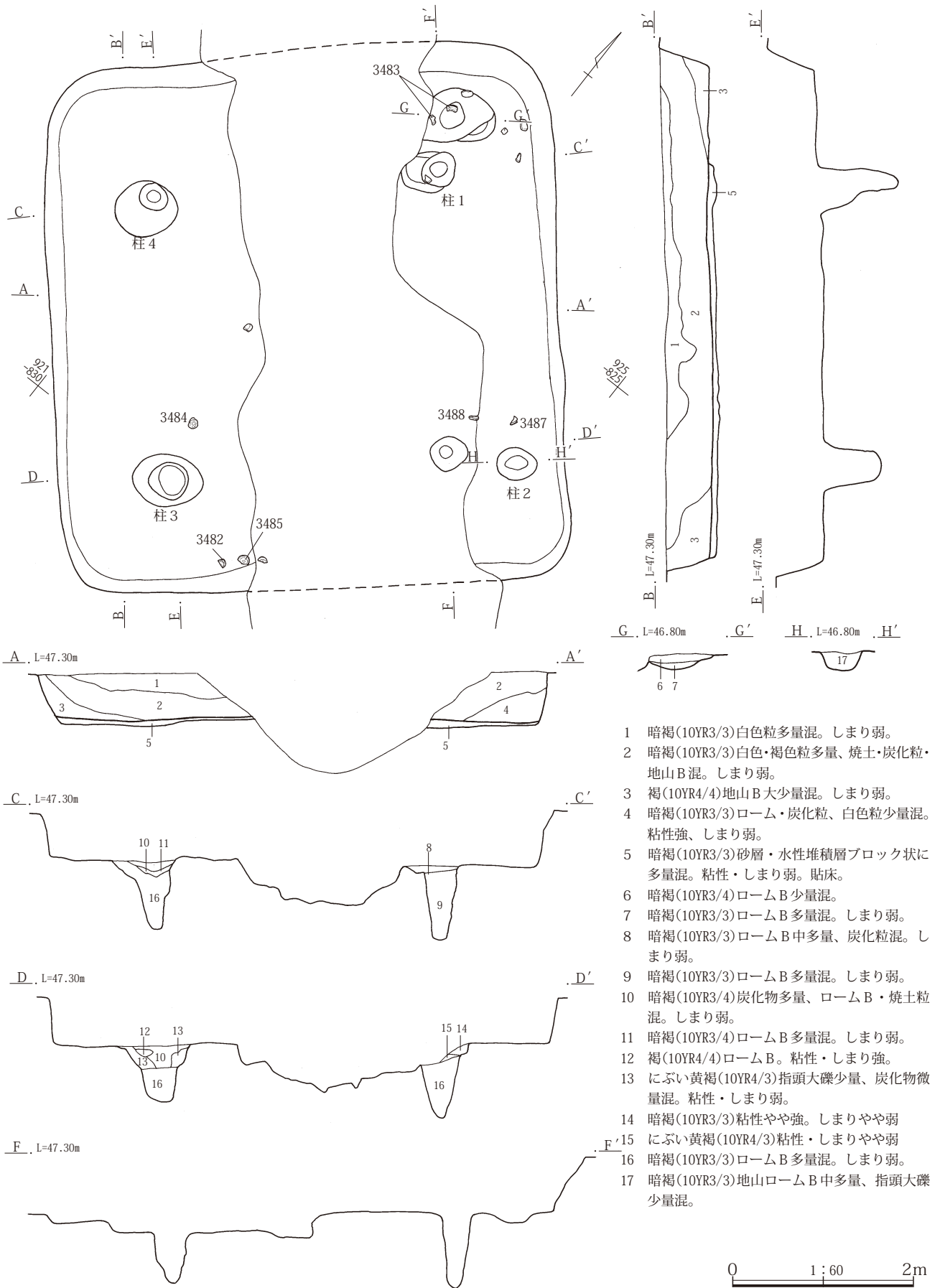


第128図 6区24号住居東カマド



- 1 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B、焼土粒混。しまり強。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム粒・焼土B・灰混。しまり強。
- 3 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B混。しまり強。
- 4 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム多量、焼土B混。粘性・しまり強。
- 5 灰黄褐(10YR4/2)ロームB混。
- 6 灰黄褐(10YR4/2)ロームB混。しまり弱。
- 7 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム主体。焼土粒・炭化物少量混。
- 8 にぶい黄橙(10YR6/4)焼土粒・炭化物多量混。
- 9 にぶい黄橙(10YR6/4)焼土粒・炭化物極多量混。
- 10 褐灰(10YR4/1)焼土・灰主体。しまり強。
- 11 灰黄褐(10YR4/2)ローム・焼土B・灰混。粘性・しまり強。
- 12 明赤褐(5YR5/6)焼土主体。しまり強。
- 13 褐灰(10YR4/1)灰主体。
- 14 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒混。しまり強。
- 15 黒褐(10YR3/2)焼土B多量、ローム粒・白色軽石混。しまり強。
- 16 黒褐(10YR3/2)焼土B少量混。
- 17 黒褐(10YR3/2)焼土B極多量混。
- 18 灰黄褐(10YR5/2)ローム・焼土B・灰混。粘性強。
- 19 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム多量、焼土B混。しまり強。
- 20 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム主体。粘性・しまり強。
- 21 明赤褐(5YR5/6)焼土粒・B多量混。しまり強。
- 22 灰黄褐(10YR5/2)ローム多量混。
- 23 にぶい黄橙(10YR6/4)ローム粒・B多量、焼土粒少量混。粘性弱。
- 24 明黄褐(10YR6/6)ローム粒・B多量混。しまり強。

第129図 6区24号住居北カマド



第130図 6区25号住居

6区26号住居 (第131～133図 PL.61)

位置 925～932-814～821Gr

重複 21住より旧 平面形態 隅丸方形

長辺 5.63m 短辺 5.39m

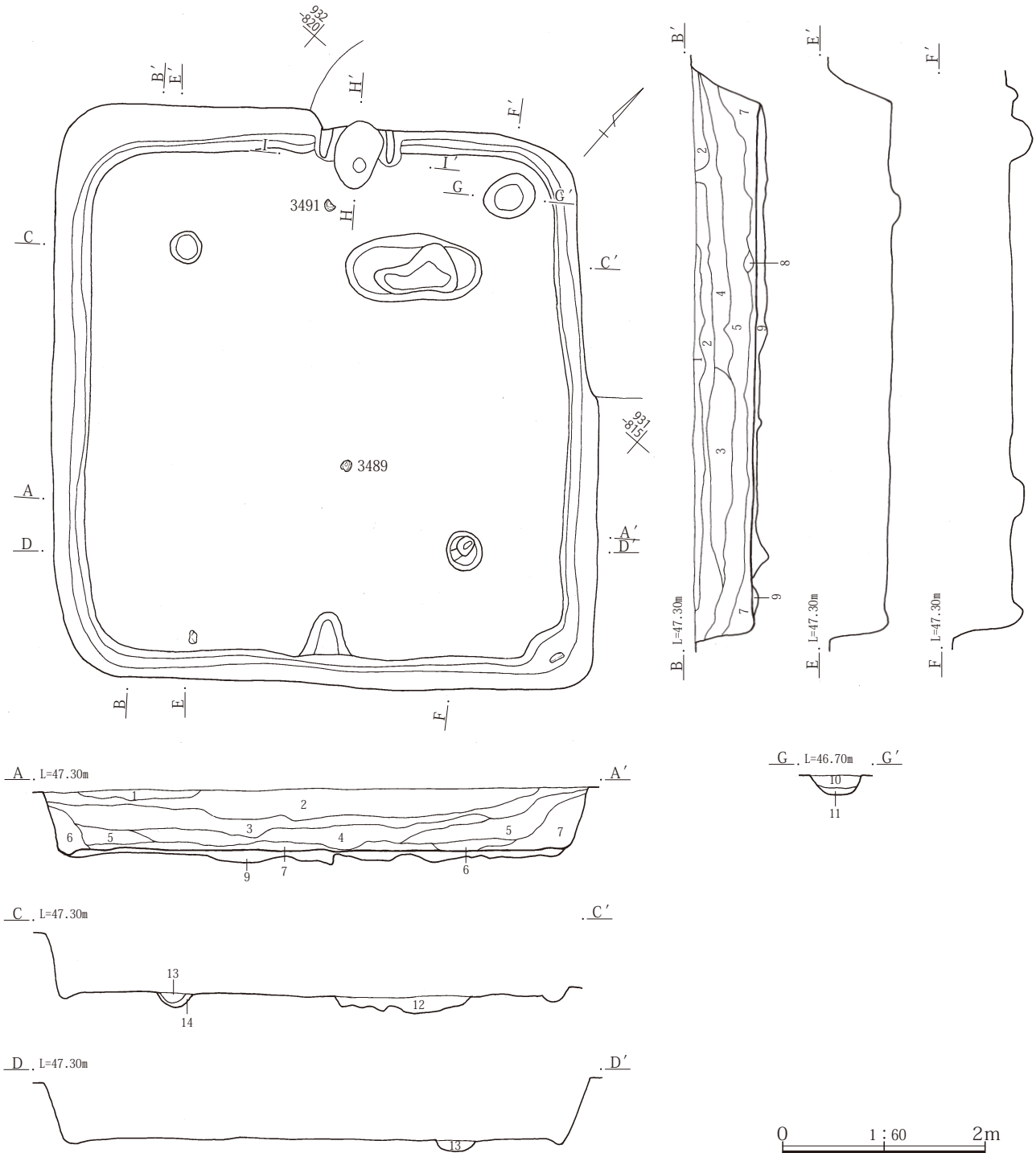
長辺/短辺 1.04 壁高 0.65m

面積 28.87㎡ 床面積 22.45㎡

主軸方位 N-36°-W 壁溝 カマドを除き全周。

柱穴 床面上にピットが2基、土坑が1基あり、位置的に柱穴としてもおかしくないが、非常に浅く3基しかないため柱穴とすることはできず性格は不明である。

貯蔵穴 カマド右脇。平面形態は楕円形で、断面形は丸みを帯びた台形である。長径約50cm、深さ約20cm。



第131図 6区26号住居使用面



**埋没土** ロームを含む暗褐色・黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** ローム・黒色土を含む暗褐色土で5～20cmの貼床とする。ほぼ水平でやや軟弱。凹凸少ない。

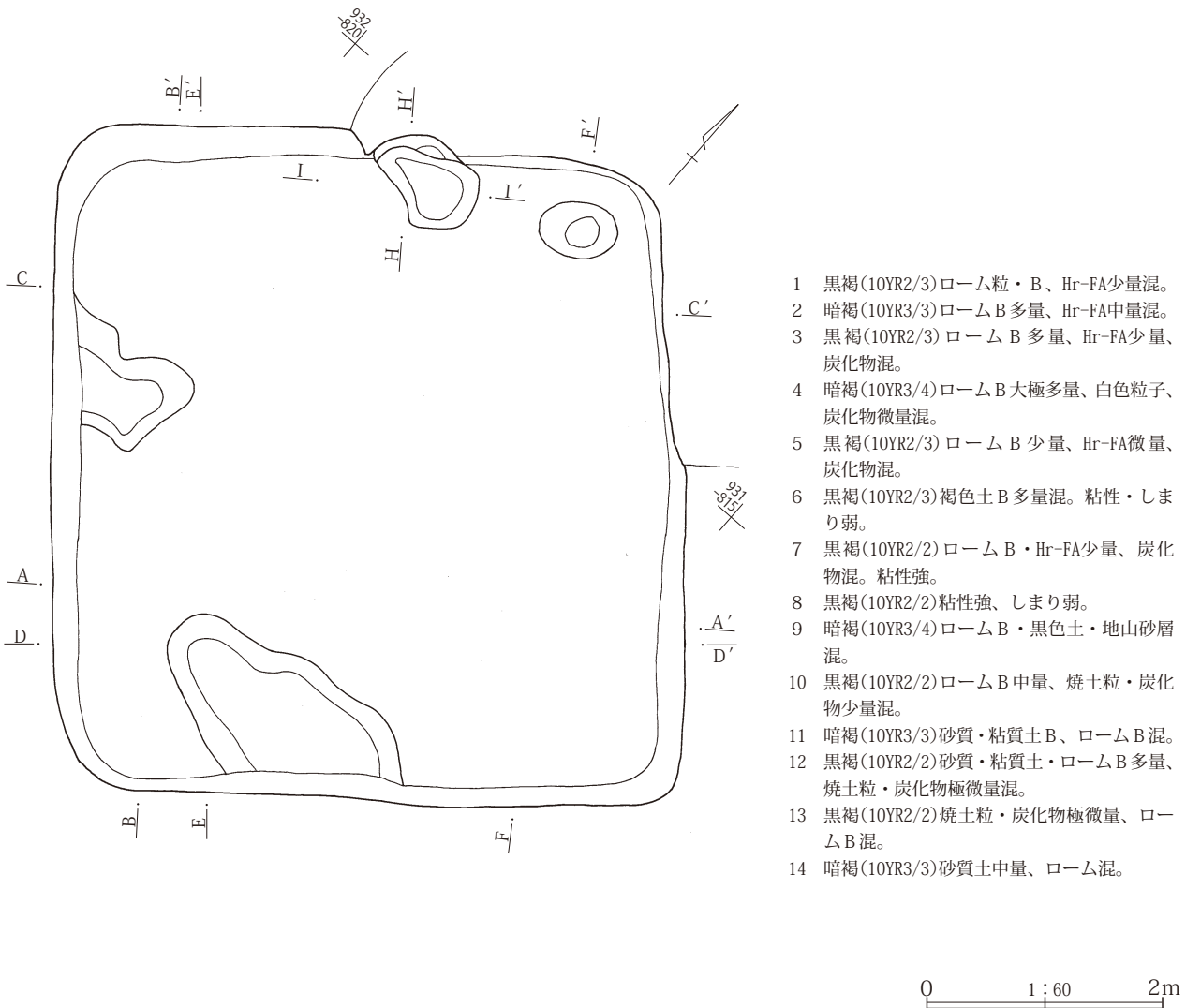
**遺物出土状況** 出土量は比較的少なく、埋土中に散在。床面上出土のものは少なく、大部分が廃棄・流入遺物と考えられる。

**掘り方** 土坑状掘り込みが2基あり。他は細かい凹凸はあるが、全体的に平坦な掘り方。

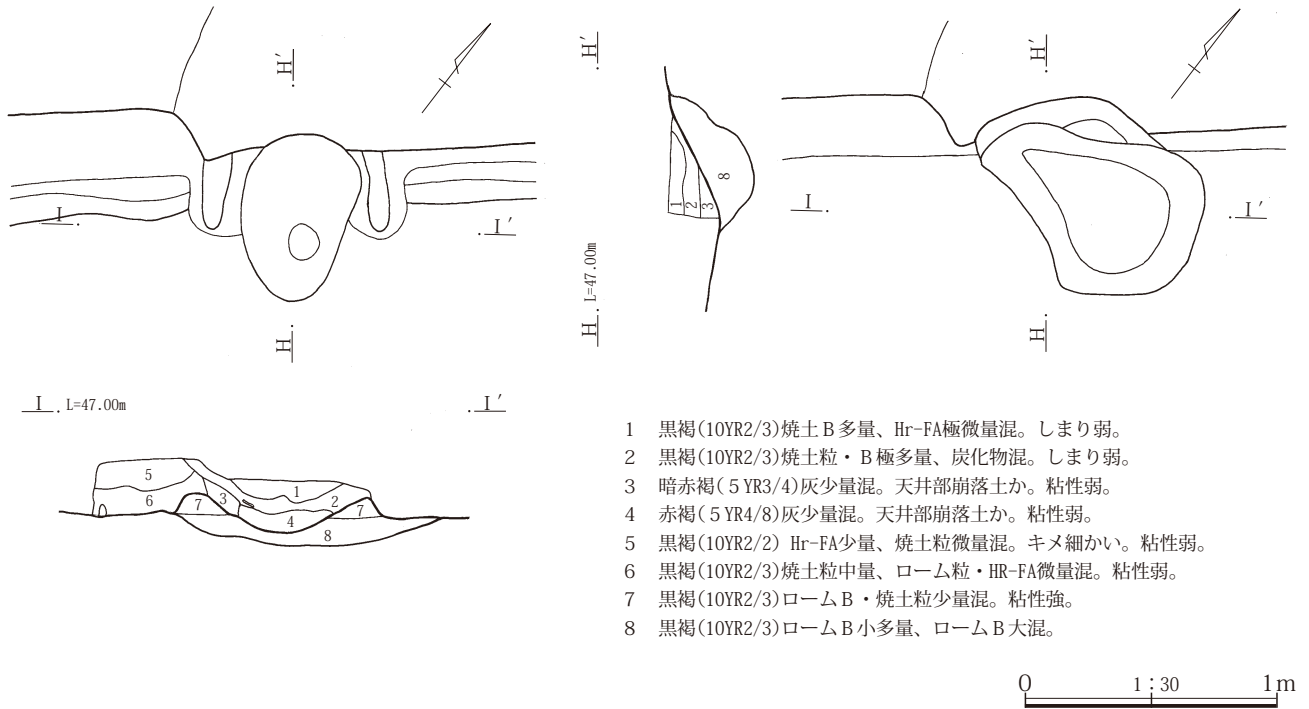
**カマド** 北壁やや東寄りに位置し、全長0.66m幅0.85mである。残存状況は悪いが、黒褐色土で袖を構築していると考えられる。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、明確な灰層は見られない。奥壁は20°で直線的に立ち上がっている。重複のため煙道部不明。

**所見** 南壁中央部に壁溝に接して浅いピットあり。入口施設に関する可能性もあるが、形態が三角形に近く、特異な形であるため、確実ではない。

**時期** 出土遺物から7世紀第2～第3四半紀と考えられる。



第132図 6区26号住居掘り方



第133図 6区26号住居カマド

6区27号住居 (第134・135図 PL.62)

位置 920～927-893～901Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 6.05m

短辺 5.98m 長辺/短辺 1.01 壁高 0.71m

面積 34.58㎡ 床面積 28.68㎡

主軸方位 N-43°-W

壁溝 床面上になし。掘り方では東壁・西壁の一部で壁溝上の掘り込みを検出。

柱穴 4基。壁との間が比較的狭く内部が広い配置となっている。計測値は第17表参照。

貯蔵穴 カマド右脇。平面形態は楕円形で、断面形は丸みを帯びた台形となっている。若干ではあるが、上端の外が土手状に盛り上がっている。

埋没土 礫を多く含む黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。南・東壁際に三角堆積があるため、南東方向からの土砂流入が多かった可能性がある。

床面状態 ロームを含む暗褐色土で部分的に薄く貼床。ほぼ水平で全体的にやや軟弱。

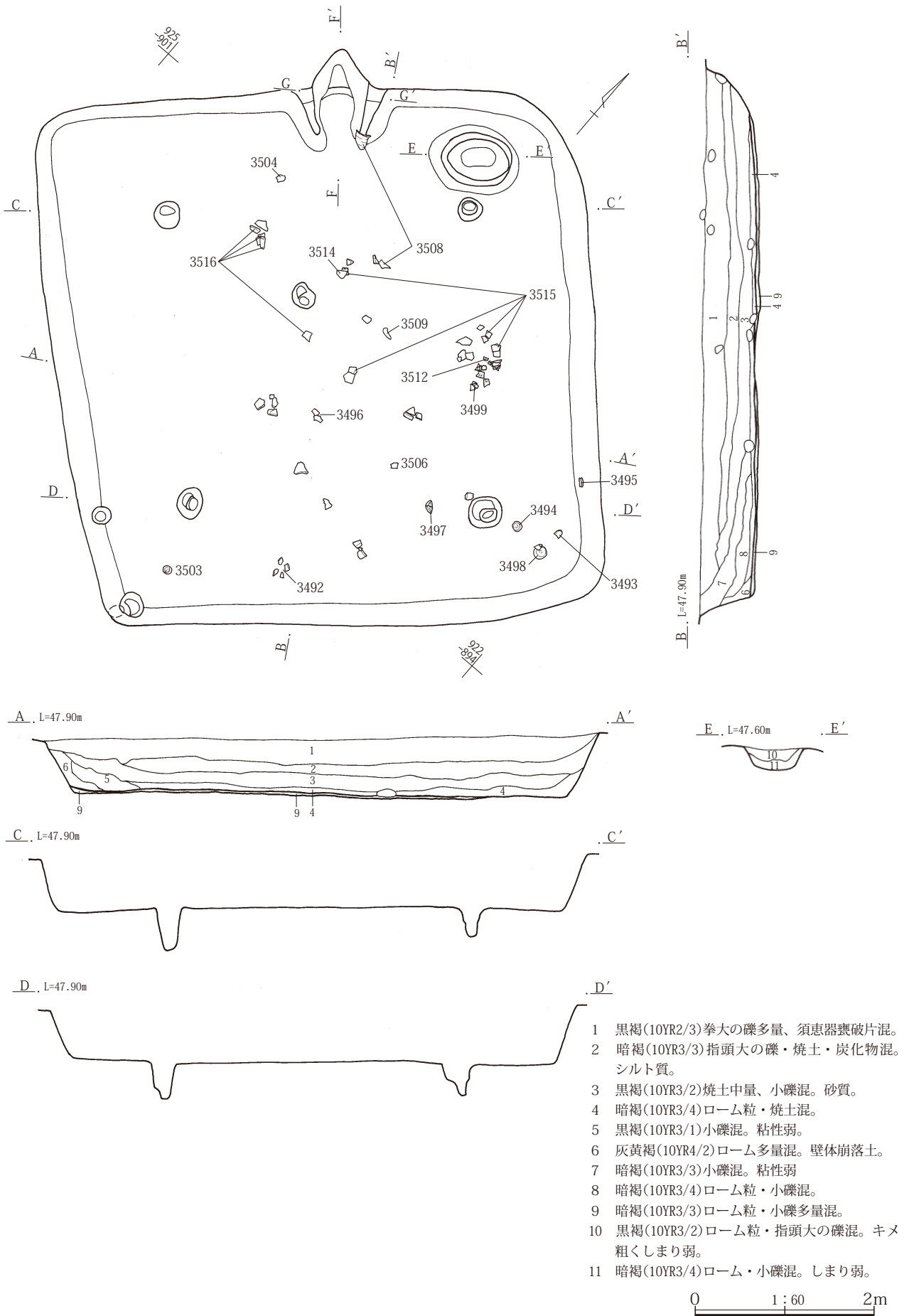
遺物出土状況 出土量は非常に多く、特に須恵器の甕が上層から多量に出土している。3492・3496・3497・

3506等は床面上の出土であるが、破片である。完形品である3494・3498は、ほぼ床面上の出土で、同じく3495・3503は壁際のため、遺棄遺物の可能性がある。

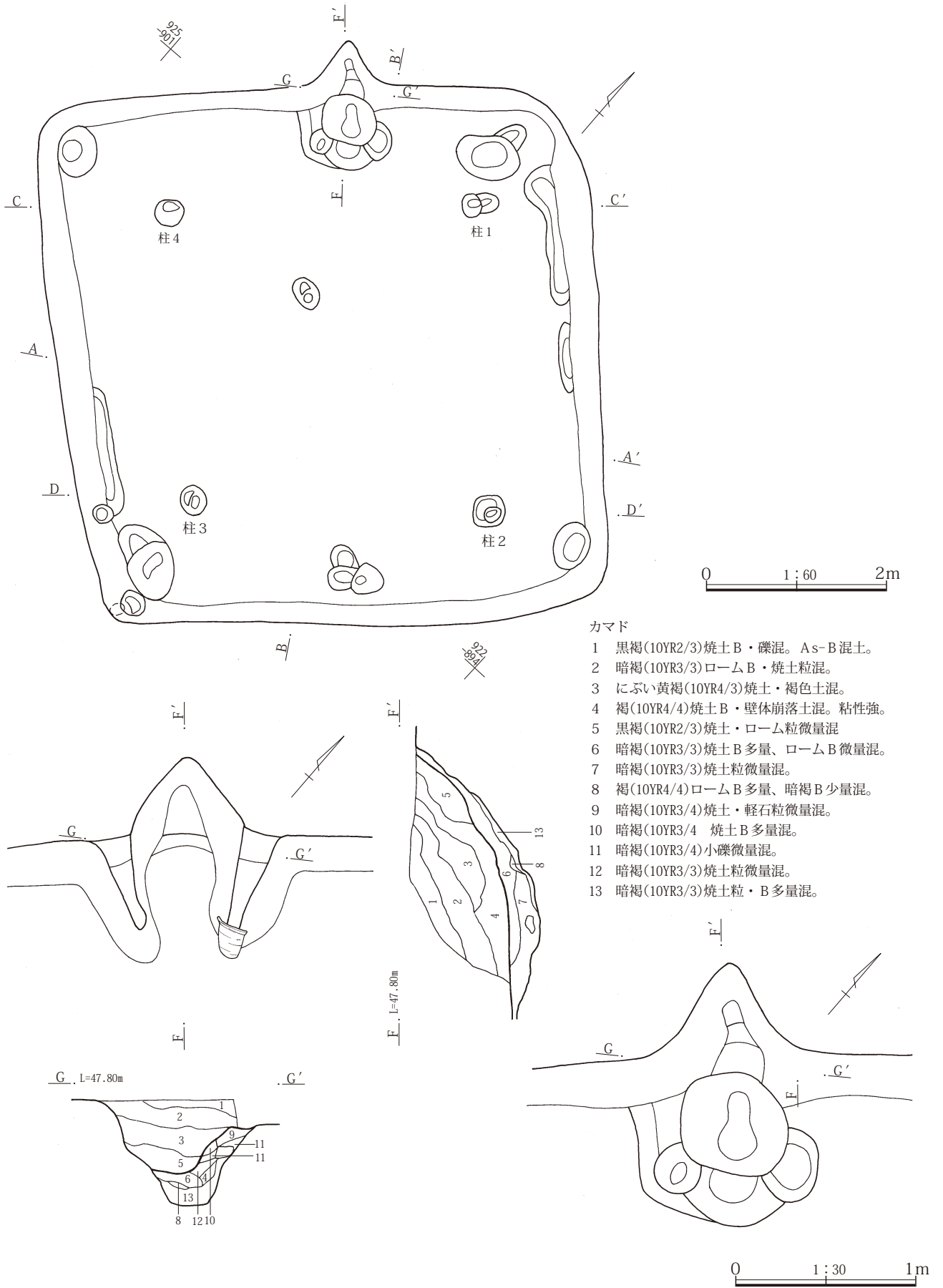
掘り方 北東隅を除く各コーナーの壁際にピット検出。南壁際中央にもピットあり。入口関係施設の可能性あり。他は平坦な掘り方。

カマド 北壁やや東寄りに位置し、全長1.34m幅1.07mで、煙道部全長0.56m幅0.63m、燃烧部幅0.58mである。焚口部・燃烧部底面は平坦で燃烧部奥壁は低く40°で立ち上がり、短い煙道部に続く。灰層は見られない。煙道部底面は30°で立ち上がり、奥壁もそのまま30°で立ち上がる。右袖部から土師器甕の破片(3508)が出土しているが、左袖部にはなく破片であるため、袖補強材とすることはできない。

時期 出土遺物から8世紀第2～第3四半紀と考えられる。



第134図 6区27号住居使用面



第135図 6区27号住居掘り方・カマド

6区28号住居 (第136・137図 PL.63)

位置 928～932-888～893Gr 重複 なし

平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 4.33m 短辺 [3.53]m

壁高 0.6m 面積 [14.66]m<sup>2</sup>

床面積 [11.67]m<sup>2</sup> 主軸方位 N-69°-E

壁溝 南壁中央に一部検出。 柱穴 なし

貯蔵穴 なし

埋没土 ロームを含む黒褐色・暗褐色土が堆積。水平に近い堆積であるが、下層は外側に向かって上がるため、自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

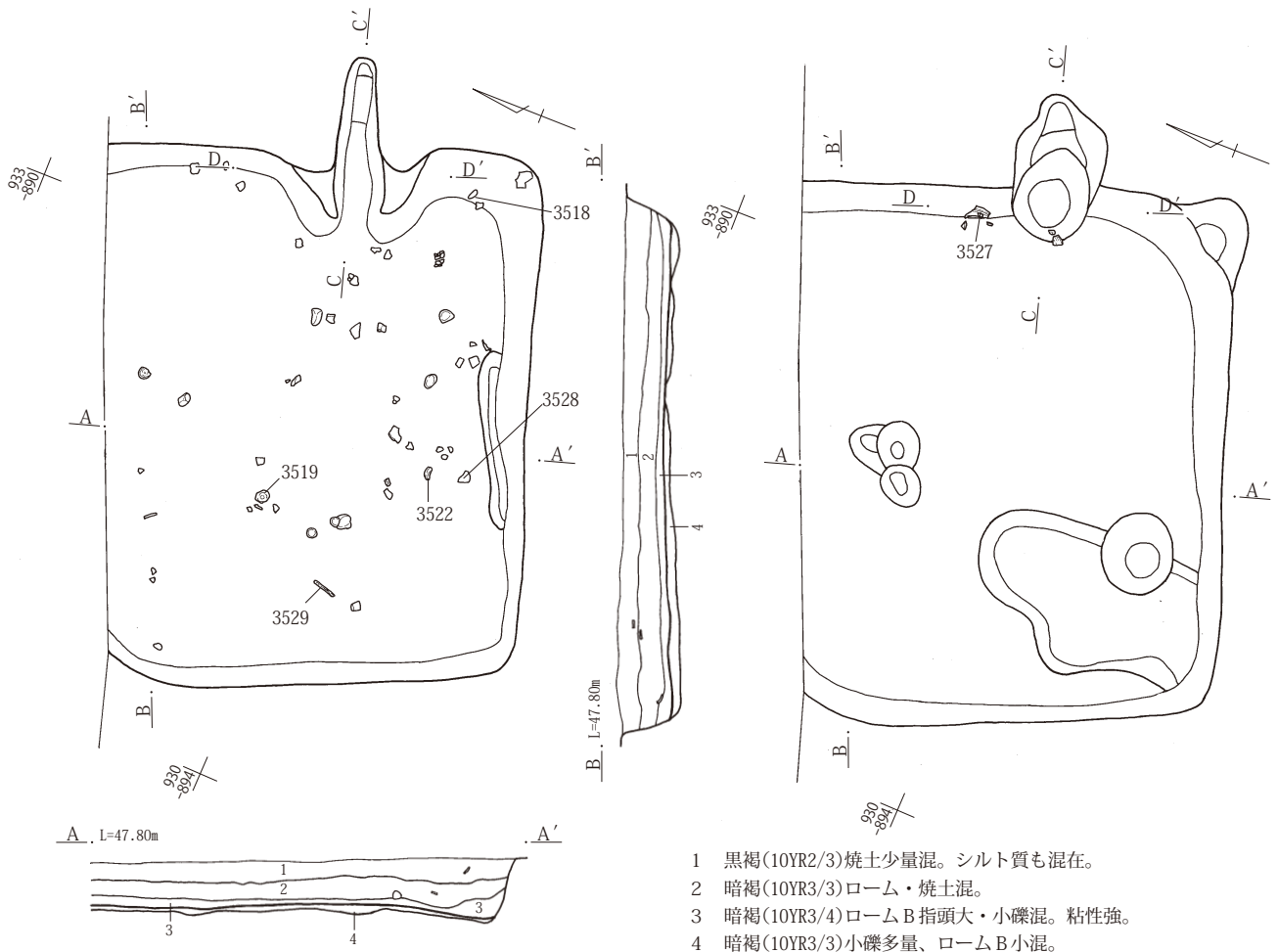
床面状態 礫を含む暗褐色土で3～10cmの貼床。全体的に軟弱。南東部が約5cm下がる。

遺物出土状況 出土量は多く、ほぼ全面から出土。床面上出土のものは少なく、大部分が埋土中の出土で、廃棄・流入遺物がほとんどである。

掘り方 南西部に浅い土坑状の掘り込みが1基、ピットが4基検出されている。他はほぼ平坦な掘り方。

カマド 東壁やや南寄りに位置し、全長1.52m幅1.12mで、煙道部全長0.53m幅0.29m、燃烧部幅0.56mである。褐色・にぶい黄褐色土で袖を構築する。焚口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、灰層は見られない。燃烧部奥壁・煙道部底面は40°で立ち上がる。

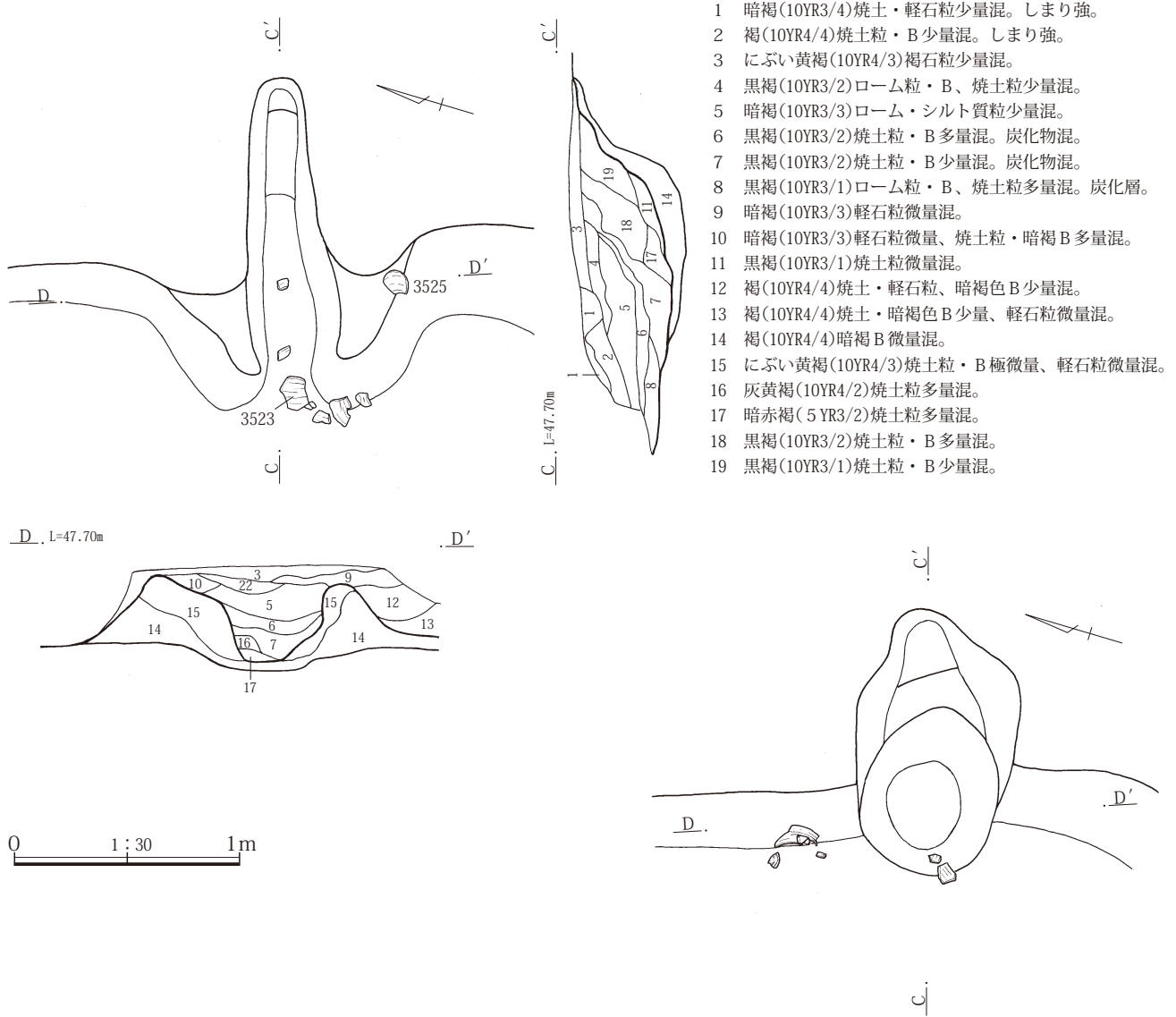
時期 出土遺物から8世紀第2～第3四半紀と考えられる。



- 1 黒褐(10YR2/3)焼土少量混。シルト質も混在。
- 2 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土混。
- 3 暗褐(10YR3/4)ロームB指頭犬・小礫混。粘性強。
- 4 暗褐(10YR3/3)小礫多量、ロームB小混。

0 1:60 2m

第136図 6区28号住居使用面・掘り方



- 1 暗褐(10YR3/4)焼土・軽石粒少量混。しまり強。
- 2 褐(10YR4/4)焼土粒・B少量混。しまり強。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)褐石粒少量混。
- 4 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B、焼土粒少量混。
- 5 暗褐(10YR3/3)ローム・シルト質粒少量混。
- 6 黒褐(10YR3/2)焼土粒・B多量混。炭化物混。
- 7 黒褐(10YR3/2)焼土粒・B少量混。炭化物混。
- 8 黒褐(10YR3/1)ローム粒・B、焼土粒多量混。炭化層。
- 9 暗褐(10YR3/3)軽石粒微量混。
- 10 暗褐(10YR3/3)軽石粒微量、焼土粒・暗褐B多量混。
- 11 黒褐(10YR3/1)焼土粒微量混。
- 12 褐(10YR4/4)焼土・軽石粒、暗褐色B少量混。
- 13 褐(10YR4/4)焼土・暗褐色B少量、軽石粒微量混。
- 14 褐(10YR4/4)暗褐B微量混。
- 15 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒・B極微量、軽石粒微量混。
- 16 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒多量混。
- 17 暗赤褐(5YR3/2)焼土粒多量混。
- 18 黒褐(10YR3/2)焼土粒・B多量混。
- 19 黒褐(10YR3/1)焼土粒・B少量混。

第137図 6区28号住居カマド

6区29号住居 (第138・139図 PL.64)

位置 927～931-880～885Gr

重複 31住より新

平面形態 隅丸方形 長辺 4.21m

短辺 4.12m 長辺/短辺 1.02 壁高 0.61m

面積 15.46㎡ 床面積 11.07㎡

主軸方位 N-65°-E 壁溝 北壁から西壁一部

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 ロームを含む黒褐色土が堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 ロームを含む黒褐色土で2～16cmの貼床。ほぼ水平で全体的に軟弱。

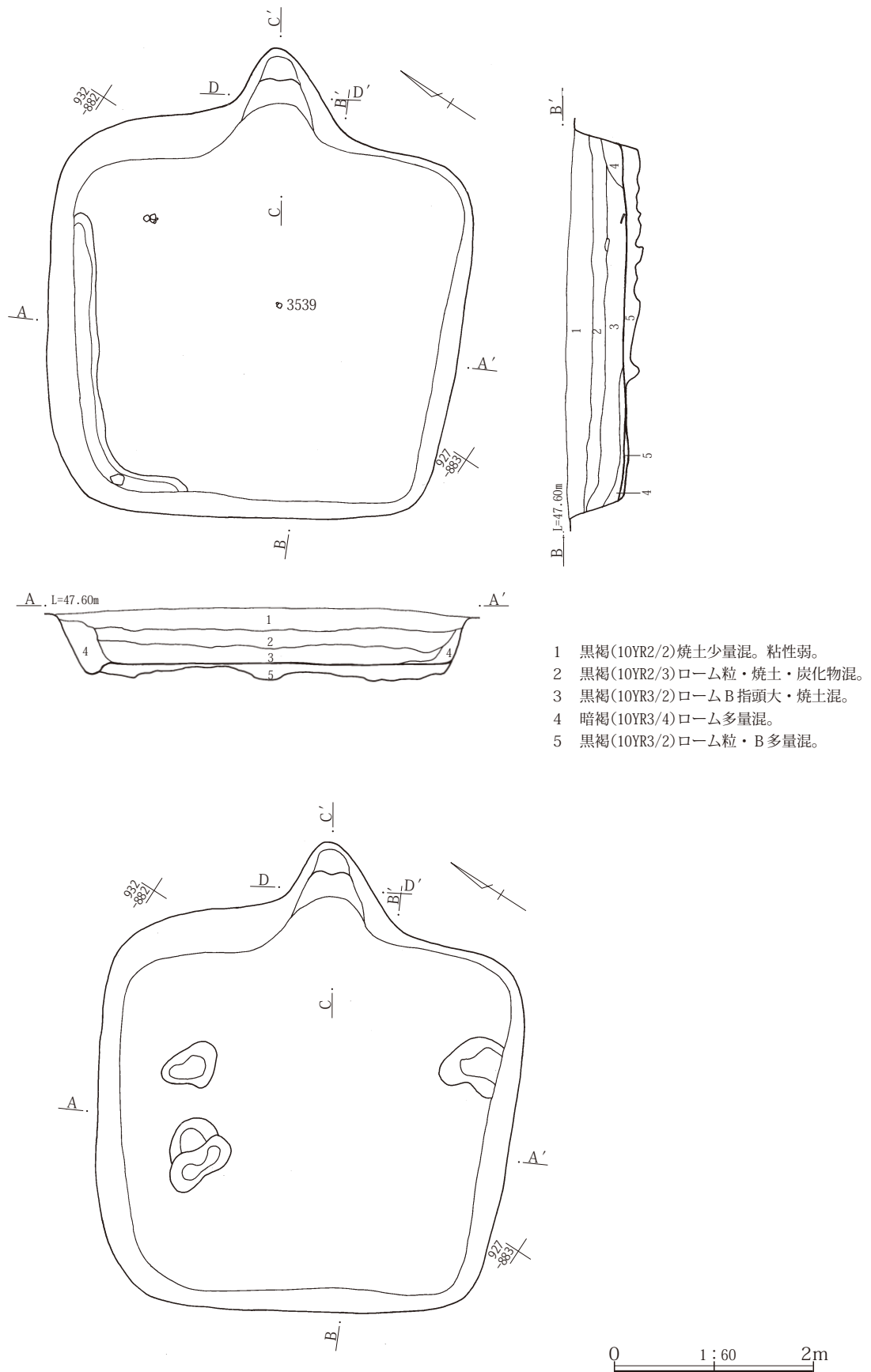
遺物出土状況 出土量は比較的多いが、床面上のものは少なく、ほとんど埋没土中の出土で、大部分が廃棄・流

入遺物である。

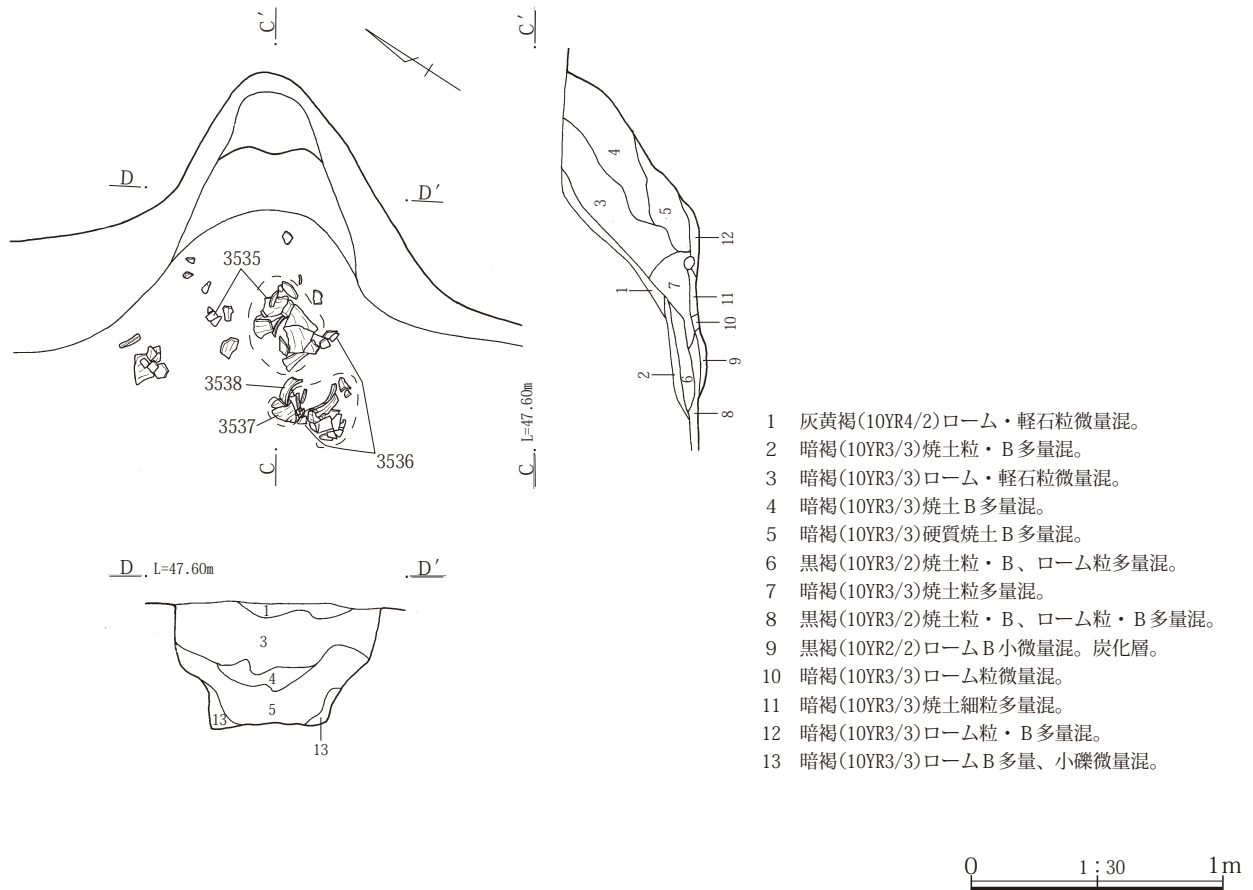
掘り方 小規模な土坑状の掘り込みが数基検出されている。他はほぼ平坦な掘り方である。

カマド 東壁中央部に位置し、全長1.50m幅1.01mで、煙道部全長1.18m幅0.52m、燃烧部幅0.58mである。残存状況悪く袖構築材不明。焚口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、灰層は見られない。燃烧部奥壁は40°で立ち上がる。焚口部・燃烧部から土師器甕片がまとまって出土(3535・3537・3538)している。出土状況から袖部補強材とは考えにくく、カマドにかけた甕が潰れたものと考えられる。

時期 出土遺物から8世紀第4～9世紀第1四半紀と考えられる。



第138図 6区29号住居使用面・掘り方



第139図 6区29号住居カマド

**6区30号住居** (第140・141図 PL.65)

**位置** 923～927-875～880Gr

**重複** 31住より新

**平面形態** 主軸方向が短い隅丸長方形

**長辺** 4.31m **短辺** 2.72m **長辺/短辺** 1.58

**壁高** 0.39m **面積** 11.28㎡ **床面積** 8.69㎡

**主軸方位** N-16°-W **壁溝** なし

**柱穴** なし

**貯蔵穴** 北東部に浅い土坑状掘り込みあり。位置的に貯蔵穴の可能性はあるが、規模が大きく一般的な貯蔵穴ではない。

**埋没土** 焼土・ロームを含む黒褐色・暗褐色土が堆積。一部ではあるが、外側に向かって上がっているため、自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** 掘り方を床面とする。ほぼ水平で全体的に軟弱。

**遺物出土状況** 出土量は比較的少ないが、完形・半完形のものや、大形の破片が多い。床面上出土のものも多く、

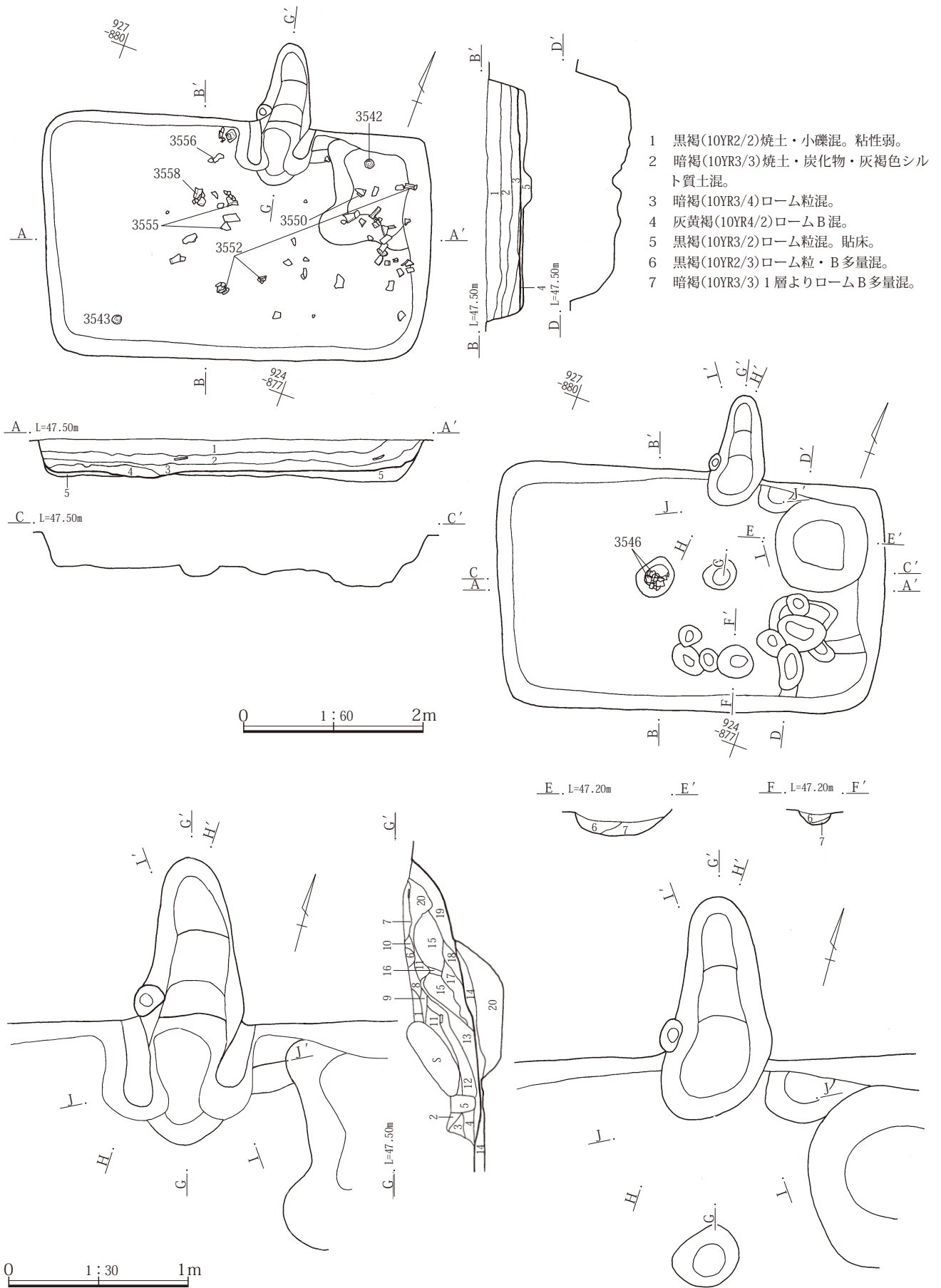
3542・3543・3552は完形・半完形で遺棄遺物と考えられる。

**掘り方** 中央から東部にかけてピットが多数検出されている。他は掘り方を床面とする。

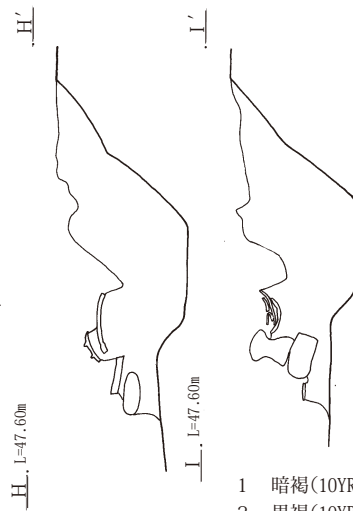
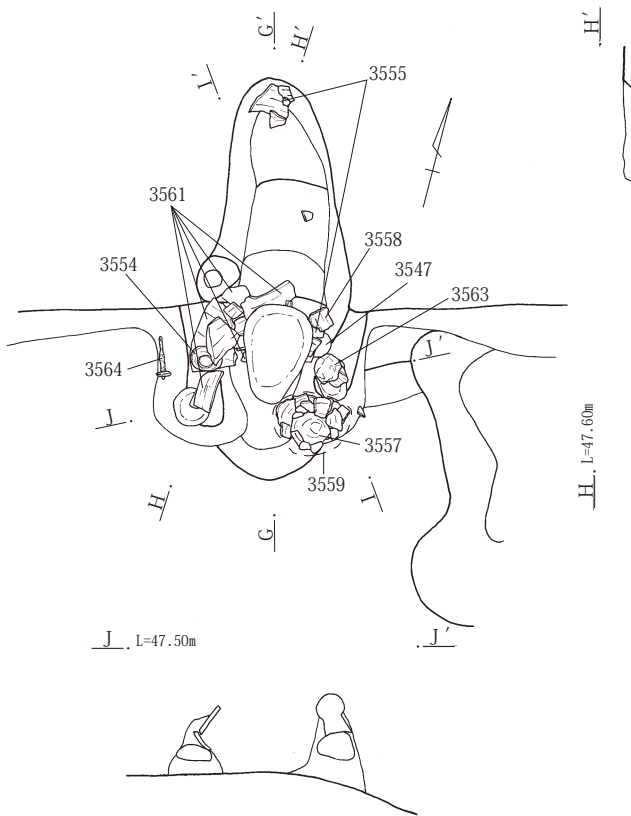
**カマド** 北壁東部に位置し、全長1.46m幅0.90mで、煙道部全長0.86m幅0.59m、燃烧部幅0.42mである。自然礫を補強材として袖を構築。比較的扁平な自然礫が燃烧部と右袖上部から出土しており、天井部に使用したと考えられる。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層は見られない。燃烧部奥壁から煙道部底面にかけて、段を持って15°で立ち上がる焚口部・燃烧部から、多量の土師器甕片(3555～3559)や黒色土器皿・須恵器杯の完形品(3551・3554)が出土。土師器甕はカマドにかけたものと考えられるが、袖上部からも多く出土しているため、補強材として礫と一緒に使用した可能性もある。

**時期** 出土遺物から9世紀第1～第2四半紀と考えられる。

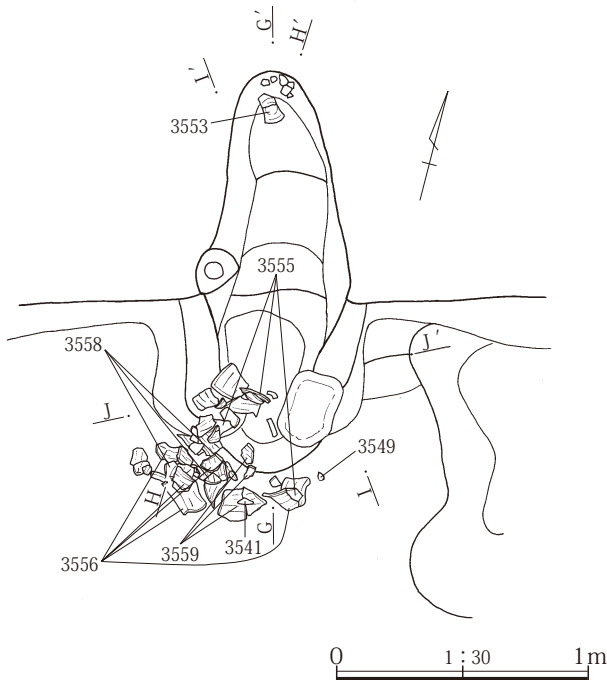




第140図 6区30号住居



- 1 暗褐色(10YR3/3)焼土・軽石粒微量混。
- 2 黒褐色(10YR3/2)焼土粒・B多量混。
- 3 黒褐色(10YR3/2)焼土・軽石粒微量混。
- 4 黒褐色(10YR3/2)軽石粒微量混。
- 5 黒褐色(10YR3/1)焼土粒・B多量、ロームB少量混。
- 6 暗褐色(10YR3/3)焼土B多量、粘土B少量混。
- 7 暗褐色(10YR3/3)焼土粒・B、粘土B少量混。
- 8 黒褐色(10YR3/2)ローム・焼土粒多量混。
- 9 黒褐色(10YR3/2)粘土粒多量、ローム・焼土粒微量混。
- 10 暗褐色(10YR3/3)焼土B多量混。
- 11 黒褐色(10YR3/2)ローム・焼土粒微量混。
- 12 暗褐色(10YR3/3)焼土B極多量混。
- 13 黒褐色(10YR3/2)ローム粒・B、焼土粒多量混。
- 14 黒褐色(10YR3/2)シルトB小・焼土粒微量混。
- 15 赤褐色(5YR4/6)焼土B多量、黒褐色土B少量混。
- 16 赤褐色(5YR4/6)焼土B・黒褐色土B多量混。
- 17 暗褐色(10YR3/4)焼土・炭化粒、ロームB少量混。
- 18 暗褐色(10YR3/4)焼土粒多量、ロームB少量混。
- 19 暗褐色(10YR3/3)焼土粒少量混。
- 20 黒褐色(10YR3/2)



6区31号住居 (第142～144図 PL.66)

位置 924～932-875～883Gr

重複 29・30住

平面形態 隅丸方形 長辺 (6.48)m

短辺 6.25m 長辺/短辺 (1.04) 壁高 0.61m

面積 (38.36)m<sup>2</sup> 床面積 (33.76)m<sup>2</sup>

主軸方位 N-38°-W

壁溝 重複により床面が不明な北西部と南西部に、掘り方で検出。

柱穴 4基。計測値は第17表参照。

貯蔵穴 床面上になし。掘り方でカマド右脇にピットが検出されているが規模が小さく、貯蔵穴と断定はできない。

埋没土 ロームを含む暗褐色・黒褐色・灰黄褐色・にぶい黄褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 灰黄褐色土ブロックを含む暗褐色土で5～25cmの貼床。ほぼ水平でやや軟弱。

第141図 6区30号住居カマド遺物出土状況

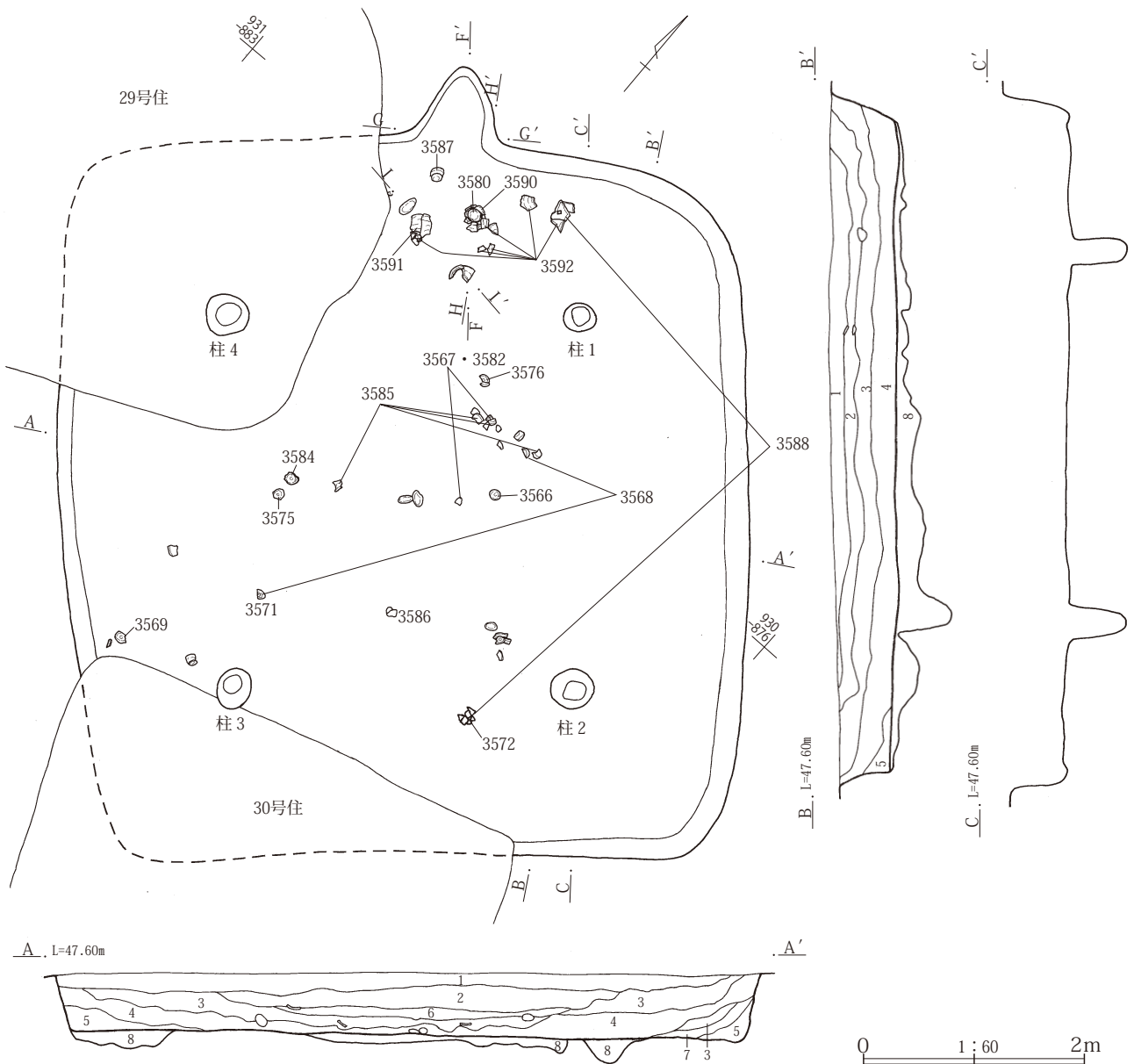
**遺物出土状況** 出土量は多く、住居中央部を中心に出土。床面上出土のものもあるが、破片が多く、3566・3569・3572・3575等の土師器杯は、いずれも床面よりやや上で出土しており、遺棄遺物と断定はできない。

**掘り方** 土坑状掘り込み・ピットが、ほぼ全面から多数検出されている。他の部分も凹凸の多い掘り方である。

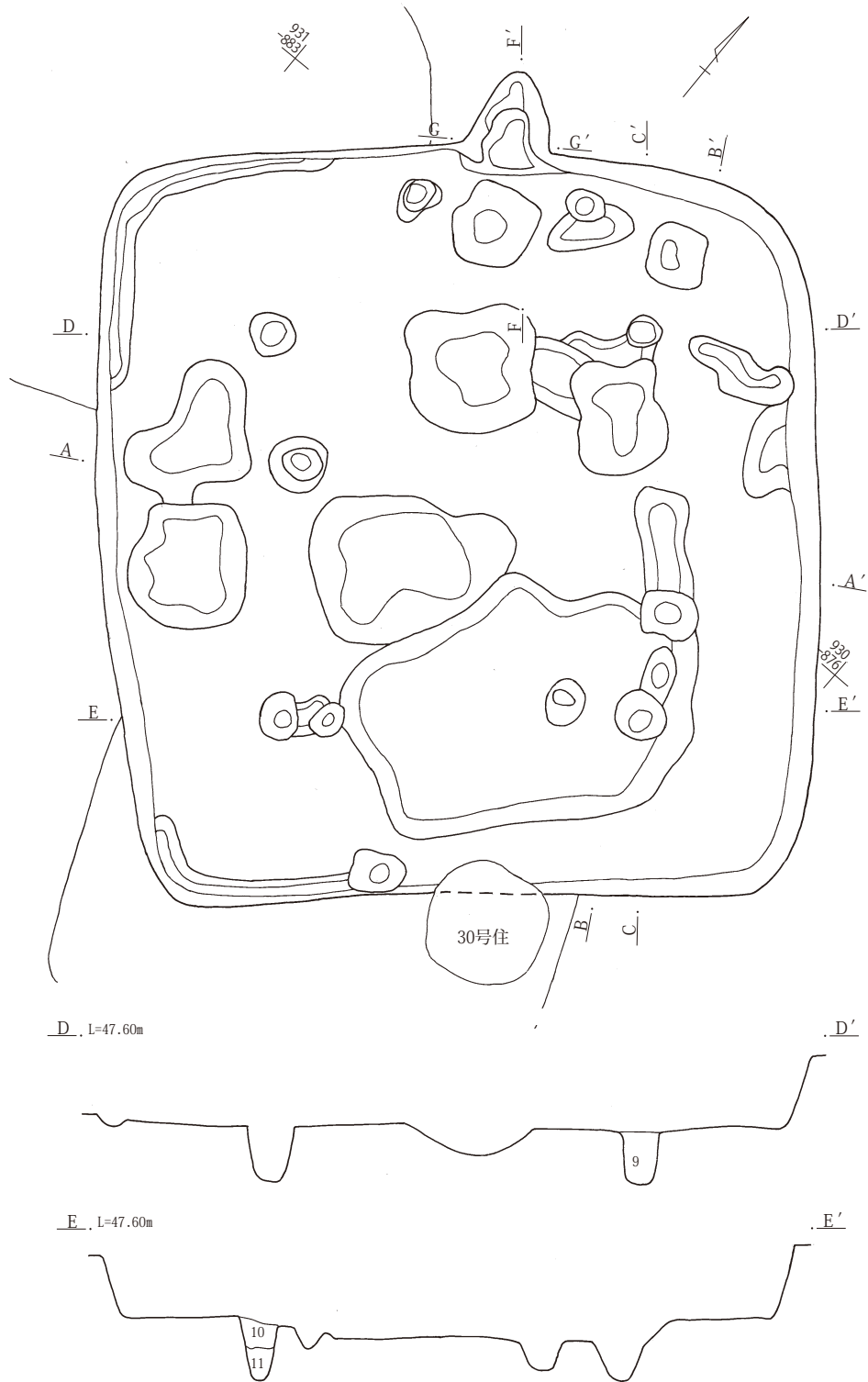
**カマド** 北壁やや東に位置し、全長2.04m幅0.92mで、煙道部全長0.60m幅0.69mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部・燃烧部底面は、やや凹凸があるが全体的には平坦で、灰層は見られない。燃烧部奥壁

は40°、煙道部底面は20°で立ち上がっている。掘り方において、焚口部の両脇にピットが検出されている。袖補強材の埋設痕とも考えられるが、間隔がやや離れている。焚口部手前から、土師器甕(3587)・土師器台付鉢(3580)の他土師器甕片が多く出土している。

**時期** 出土遺物から7世紀第2～第3四半紀と考えられる。



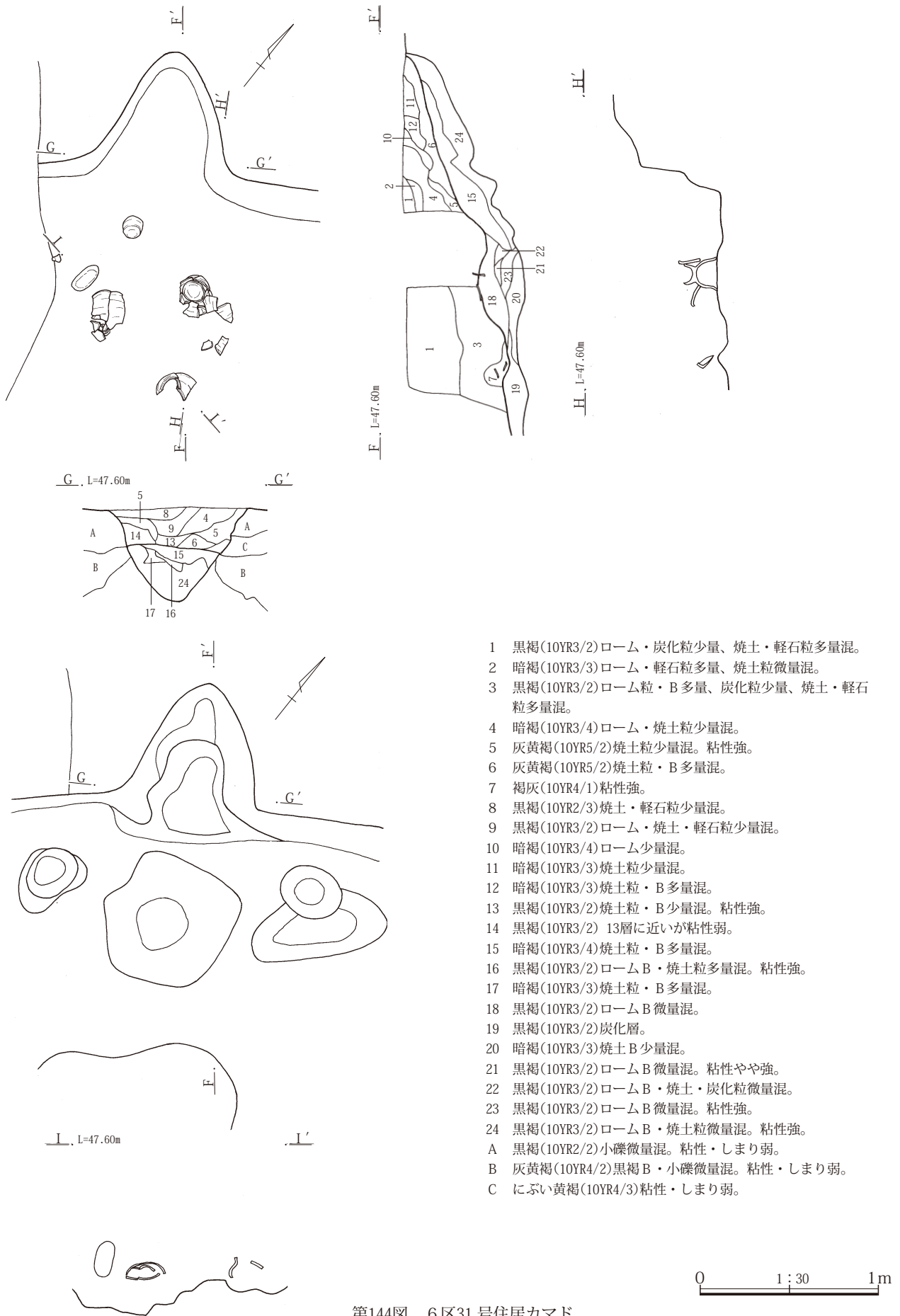
第142図 6区31号住居使用面



- 1 暗褐(10YR3/3)焼土少量、シルト質土混。
- 2 黒褐(10YR2/3)ローム・炭化物混。粘性弱。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B指頭大量混。
- 4 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム多量混。
- 5 黒褐(10YR2/2)ローム混。粘性弱。
- 6 黒褐(10YR3/1)ローム粒・焼土・炭化物混。粘性強。
- 7 黒褐(10YR2/3)ローム粒・炭化物少量混。
- 8 暗褐(10YR3/3)灰黄褐色B多量、ロームB少量混。
- 9 灰黄褐(10YR4/2)ローム・暗褐B、軽石粒混。
- 10 黒褐(10YR3/2)ローム粒少量混。
- 11 灰黄褐(10YR5/2)小礫少量混。

第143図 6区31号住居掘り方

0 1:60 2m



- 1 黒褐(10YR3/2)ローム・炭化粒少量、焼土・軽石粒多量混。
- 2 暗褐(10YR3/3)ローム・軽石粒多量、焼土粒微量混。
- 3 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B多量、炭化粒少量、焼土・軽石粒多量混。
- 4 暗褐(10YR3/4)ローム・焼土粒少量混。
- 5 灰黄褐(10YR5/2)焼土粒少量混。粘性強。
- 6 灰黄褐(10YR5/2)焼土粒・B多量混。
- 7 褐灰(10YR4/1)粘性強。
- 8 黒褐(10YR2/3)焼土・軽石粒少量混。
- 9 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土・軽石粒少量混。
- 10 暗褐(10YR3/4)ローム少量混。
- 11 暗褐(10YR3/3)焼土粒少量混。
- 12 暗褐(10YR3/3)焼土粒・B多量混。
- 13 黒褐(10YR3/2)焼土粒・B少量混。粘性強。
- 14 黒褐(10YR3/2) 13層に近いが粘性弱。
- 15 暗褐(10YR3/4)焼土粒・B多量混。
- 16 黒褐(10YR3/2)ロームB・焼土粒多量混。粘性強。
- 17 暗褐(10YR3/3)焼土粒・B多量混。
- 18 黒褐(10YR3/2)ロームB微量混。
- 19 黒褐(10YR3/2)炭化層。
- 20 暗褐(10YR3/3)焼土B少量混。
- 21 黒褐(10YR3/2)ロームB微量混。粘性やや強。
- 22 黒褐(10YR3/2)ロームB・焼土・炭化粒微量混。
- 23 黒褐(10YR3/2)ロームB微量混。粘性強。
- 24 黒褐(10YR3/2)ロームB・焼土粒微量混。粘性強。
- A 黒褐(10YR2/2)小礫微量混。粘性・しまり弱。
- B 灰黄褐(10YR4/2)黒褐B・小礫微量混。粘性・しまり弱。
- C にぶい黄褐(10YR4/3)粘性・しまり弱。

第144図 6区31号住居カマド

6区32号住居 (第145・146図 PL.67)

位置 936～941-867～873Gr

重複 41住より旧か

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

長辺 5.58m 短辺 [3.24]m

壁高 0.52m 面積 [15.22]m<sup>2</sup>

床面積 [13.36]m<sup>2</sup> 主軸方位 N-42°-E

壁溝 西壁から南壁西部 貯蔵穴 残存部分になし。

柱穴 掘り方で南東部・南西部にピットが検出されたが、南西部のものは浅く、確実に柱穴とすることはできない。

埋没土 ローム・Hr-FAを含む灰黄褐色・暗褐色土が堆積。やや不規則ではあるが、外側に向かって上がる堆積のため、自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 掘り方を床面としている。ほぼ水平でやや軟弱。西部を中心に床面上に炭化物が分布。

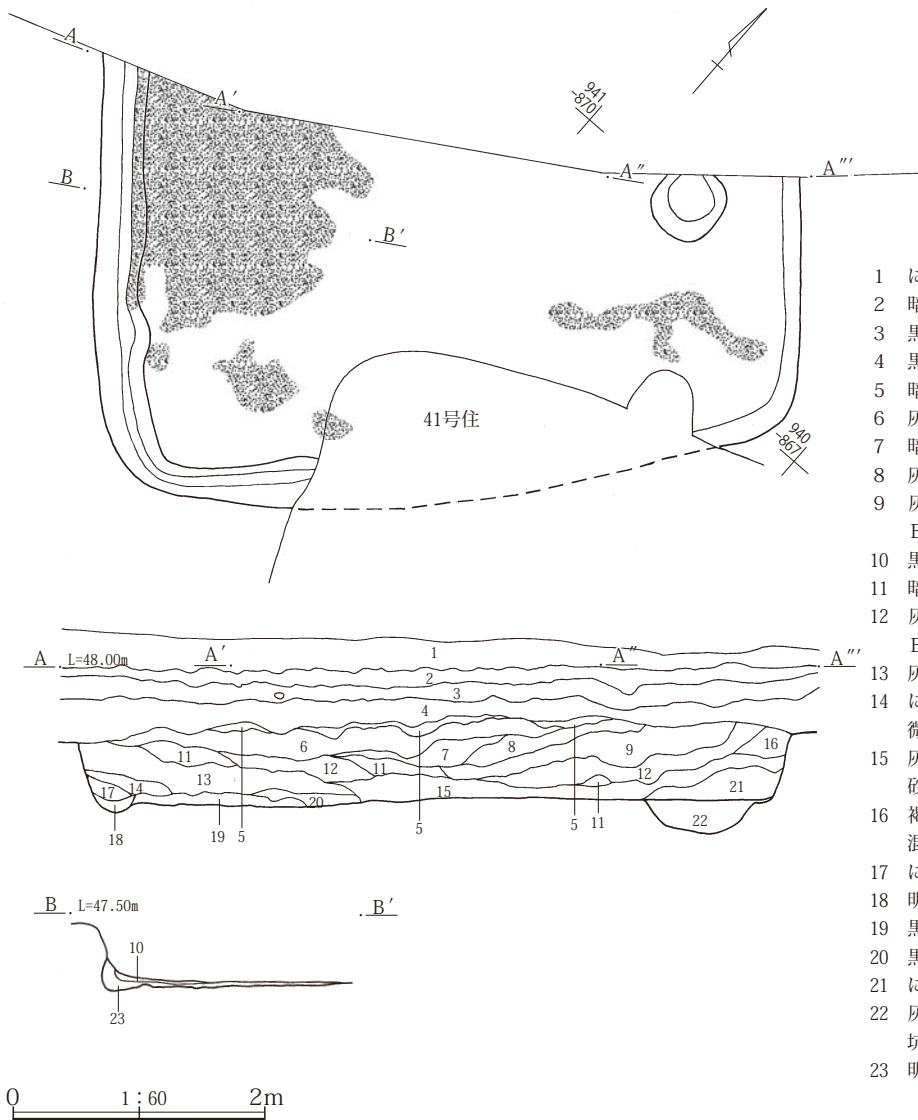
遺物出土状況 出土量は比較的少なく、埋土中に散在。床面上出土のものはほとんどなく、大部分が廃棄・流入遺物か。

掘り方 土坑状掘り込み、ピットが数基検出されている。南壁際には壁溝が広がった状態の掘り込みがあるが、重複する41住の掘り方が残っている可能性もある。

カマド 残存部分になし。

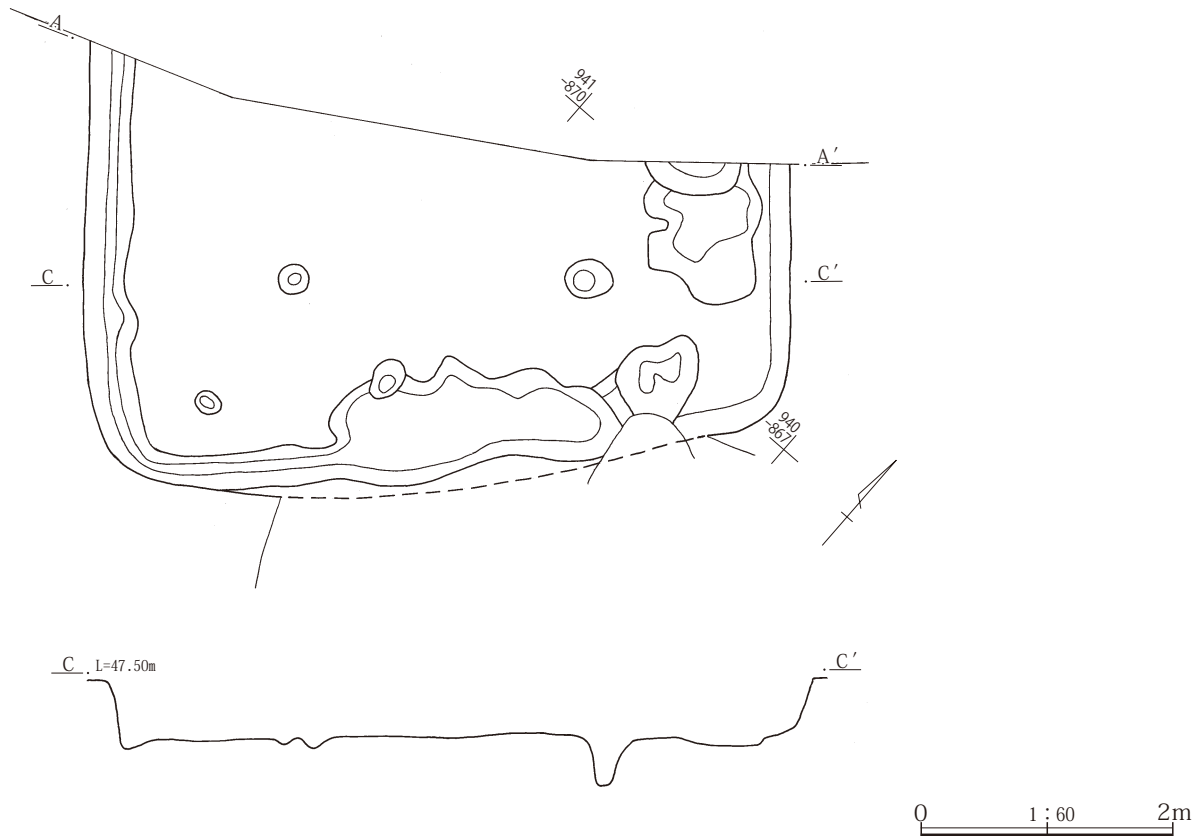
所見 調査時には重複する41住が新しいとしていたが、出土遺物からは逆の可能性も考えられる。

時期 時期のわかる出土遺物が少なくはっきりしないが、8世紀代と考えられる。



- 1 にぶい黄褐(10YR4/3) As-B混。鉄分沈着。
- 2 暗褐(10YR3/3) As-B少量混。鉄分微量沈着。
- 3 黒褐(10YR3/2)シルト質土B・Hr-FA混。
- 4 黒褐(10YR3/2) Hr-FA混。
- 5 暗褐(10YR3/3)ローム粒少量、Hr-FA微量混。
- 6 灰黄褐(10YR4/2)ロームB・Hr-FA多量混。
- 7 暗褐(10YR3/4)ロームB、Hr-FA少量混。
- 8 灰黄褐(10YR4/2)ロームB、焼土粒微量混。
- 9 灰黄褐(10YR4/2)ロームB・Hr-FA・暗褐色土B多量混。
- 10 黒(10YR2/1)炭化物層
- 11 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B微量混。
- 12 灰黄褐(10YR4/2)ロームB・Hr-FA・暗褐色土B多量混。
- 13 灰黄褐(10YR4/2)ロームB・暗褐色土B多量混。
- 14 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム主体。暗褐色土B微量混。
- 15 灰黄褐(10YR4/2)ロームB・暗褐色土B多量混。砂質。
- 16 褐灰(10YR4/1)シルト質土B少量、軽石粒微量混。
- 17 にぶい黄褐(10YR5/3)灰黄褐色土B多量混。
- 18 明黄褐(10YR6/6)砂礫・灰褐色土B多量混。
- 19 黒褐(10YR3/2)炭化物層。
- 20 黒褐(10YR2/3)炭化物多量、焼土少量混。
- 21 にぶい黄褐(10YR5/3)砂礫・黒褐色土B少量混。
- 22 灰黄褐(10YR5/2)黄橙色土B大多量混。床下土坑か？
- 23 明黄褐(10YR6/6)粘質土。灰黄褐埴土Bや量混。

第145図 6区32号住居使用面



第146図 6区32号住居掘り方

**6区33号住居** (第147図 PL.68-1・2)

**位置** 939～942-764～768Gr **重複** なし

**平面形態** 隅丸長方形 **長辺**3.18m

**短辺** 2.91m **長辺/短辺** 1.09 **壁高** 0.27m

**面積** 8.49㎡ **床面積** 6.97㎡

**主軸方位** N-45°-W **壁溝** なし

**柱穴** なし **貯蔵穴** なし

**埋没土** 洪水砂を含む暗褐色土およびロームを含む黒褐色土がレンズ状に堆積。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** 灰褐色粒子を含む黒褐色土で2～12cmの貼床。ほぼ平坦な床面であるが、南部がやや高くなっている。

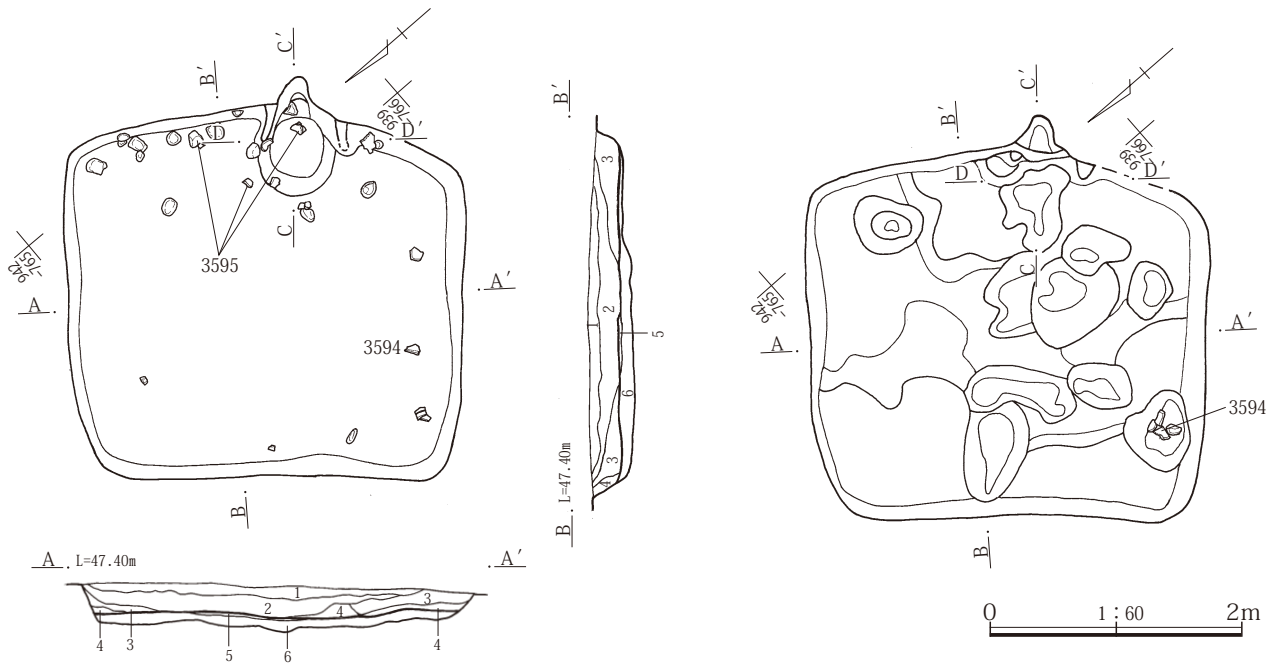
**遺物出土状況** 出土量は比較的少なく、完形・半完形のものほとんどない。3594の土師器甕は床面上の出土であるが、破片であるため遺棄遺物の可能性は低い。カマド左南壁際を中心として、自然礫が多数出土している。

**掘り方** 浅い土坑状掘り込み・ピットが多数検出されている。他の部分も凹凸が多い掘り方となっている。

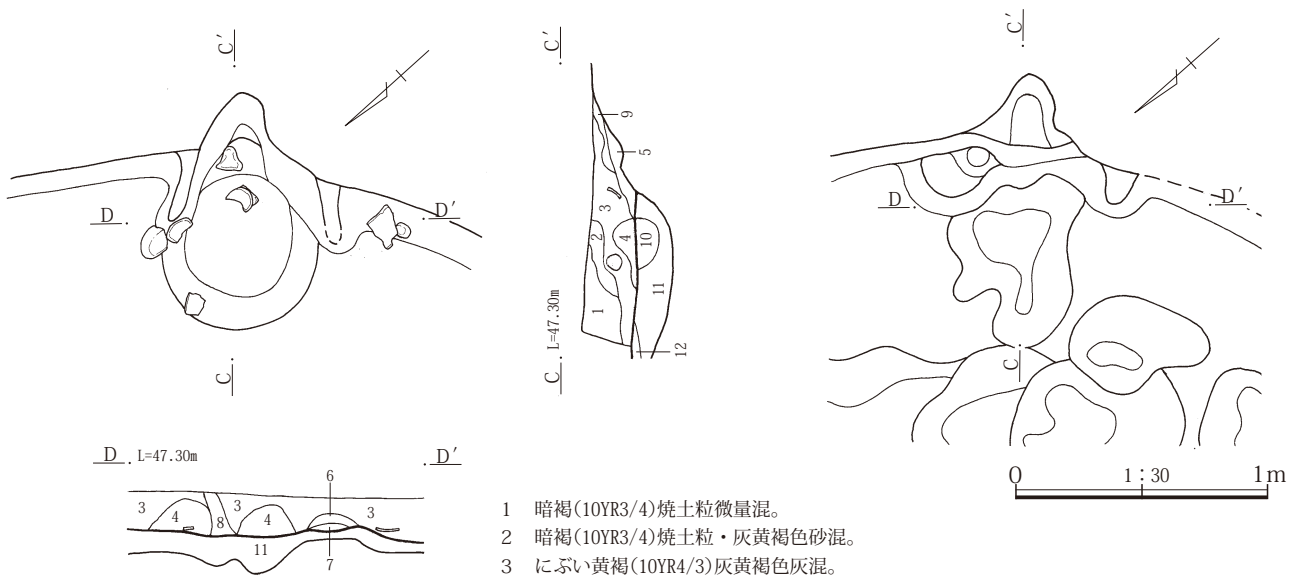
**カマド** 南壁やや西寄りに位置し、全長0.93m幅0.79mで、煙道部全長0.17m幅0.28m、燃烧部幅0.53mである。暗褐色土で袖を構築する。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、燃烧部奥壁は段を持って20°で立ち上がっている。焚口部・燃烧部から、須恵器羽釜(3595)等の土器片や自然礫が検出されている。

**所見** 住居内出土の自然礫は、特に南壁際に横並びで出土しているため、何らかの人為的な活動の痕跡であると考えられるが、詳細は不明である。

**時期** 時期のわかる遺物が少なく、はっきりしないが、10世紀代と考えられる。



- 1 暗褐(10YR3/3)洪水砂混土。ローム漸移層B小~大混。
- 2 暗褐(10YR3/3)洪水砂混土。炭化物少量、ローム漸移層B大混。
- 3 暗褐(10YR3/4)洪水砂混土。ローム漸移層B少量混。
- 4 黒褐(10YR2/3)ローム漸移層B・Hr-FA混。
- 5 黒褐(10YR3/2)炭化物・焼土混。カマドからの流出。
- 6 黒褐(10YR3/1)黄褐色ロームB少量、灰褐色粒子多量混。



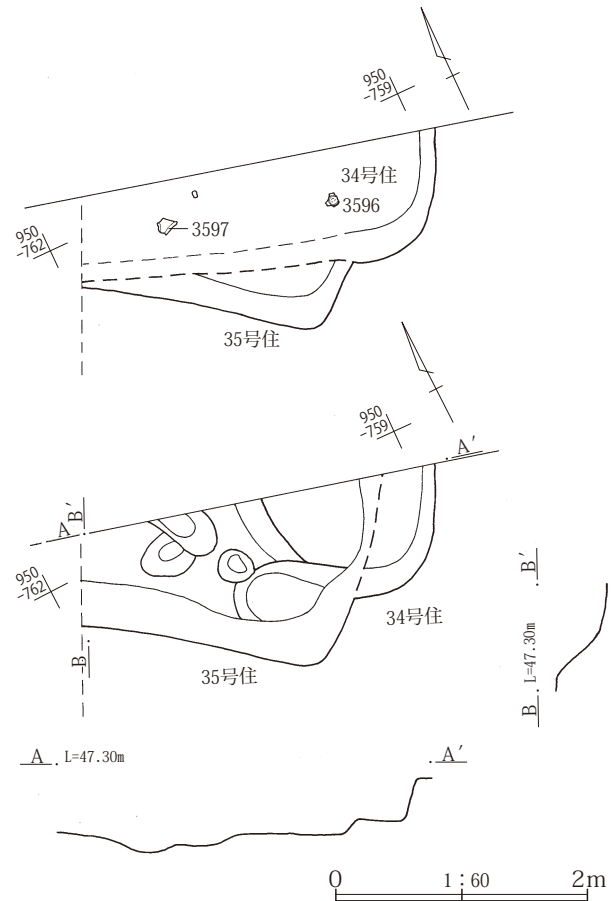
- 1 暗褐(10YR3/4)焼土粒微量混。
- 2 暗褐(10YR3/4)焼土粒・灰黄褐色砂混。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)灰黄褐色灰混。
- 4 暗褐(10YR3/4)粘質土。焼土粒・炭化物混。
- 5 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒・炭化物・灰混。
- 6 暗褐(10YR3/3)焼土B・炭化物混。
- 7 灰黄褐(10YR4/2)炭化物混。
- 8 暗褐(10YR3/4)焼土粒・炭化物多量混。灰混。
- 9 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土B小混。
- 10 黄褐(10YR5/6)焼土B小多量混。
- 11 黒褐(10YR3/2)黄褐色・灰褐色粒子多量混。
- 12 黒褐(10YR2/2)炭化物多量、焼土粒少量混。粘性・しまり強。

第147図 6区33号住居



6区34号住居 (第148図 PL.68-3・4)

位置 948～950-758～761Gr 重複 35住より新  
 平面形態 隅丸方形または隅丸長方形か  
 長辺 [2.78]m 短辺 [0.94]m  
 壁高 0.31m 面積 [2.27]㎡ 床面積 [1.72]㎡  
 主軸方位 N-70°-W  
 壁溝 残存部分になし。  
 柱穴 残存部分になし。  
 貯蔵穴 残存部分になし。  
 埋没土 不明  
 床面状態 ほぼ平坦な床面。やや軟弱。  
 遺物出土状況 出土量は非常に少なく、4点のみである。  
 3596・3597の土師器甕・台付甕は床面上の出土であるが、  
 破片のため遺棄遺物ではないと考えられる。  
 掘り方 35号住と重複するためほとんど不明。  
 カマド 残存部分になし。  
 時期 出土遺物から9世紀第4～10世紀第1四半期と  
 考えられる。



第148図 6区34・35号住居

6区35号住居 (第148図 PL.68-3・4)

位置 948～950-759～761Gr  
 重複 34住より旧  
 平面形態 隅丸方形または隅丸長方形か  
 長辺 [2.18]m 短辺 [1.52]m  
 壁高 0.35m 面積 [2.43]㎡  
 床面積 [1.77]㎡ 主軸方位 N-55°-W  
 壁溝 残存部分になし。  
 柱穴 掘り方で、南東隅に柱穴の可能性のあるピットが  
 検出されているが、柱穴としては壁に近すぎるため確実  
 ではない。  
 貯蔵穴 残存部分になし。  
 埋没土 不明  
 床面状態 重複・調査区外のため不明。  
 遺物出土状況 34号住と重複するためほとんど不明。  
 掘り方 土坑状掘り込み・ピットが数基検出されている。  
 カマド 残存部分になし。  
 時期 時期のわかる出土遺物がほとんどなく不明である  
 が、34住より古いため、10世紀第1四半期以前と考えら  
 れる。

6区36号住居 (第149～151図 PL.68-5・69-1～4)

位置 904～910-826～832Gr重複  
 平面形態 隅丸方形 長辺 5.37m 短辺 4.91m  
 長辺/短辺 1.09 壁高 0.54m 面積 25.37㎡  
 床面積 21.13㎡ 主軸方位 N-46°-W  
 壁溝 なし  
 柱穴 4基。計測値は第17表参照。  
 貯蔵穴 カマド左脇。平面形態は隅丸方形で、断面形は  
 やや丸みを帯びた台形となっている。底部に小ピット2  
 基あり。  
 埋没土 ローム・焼土を含む黒褐色・暗褐色土がレンズ  
 状に堆積。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。  
 床面状態 ロームを含む褐色土で2～10cmの貼床とし、  
 全体的に硬化。やや凹凸があるが、全体的に水平な床面  
 である。北東部カマド右脇に浅い土坑が検出されてい  
 るが、性格は不明である。  
 遺物出土状況 出土量は比較的多く、中央から北東部を  
 中心に出土している。完形・半完形のもの、床面上出  
 土のものは少なく、廃棄・流入遺物がほとんどである。

3607の土師器杯は床面上の出土で、遺棄遺物の可能性はある。

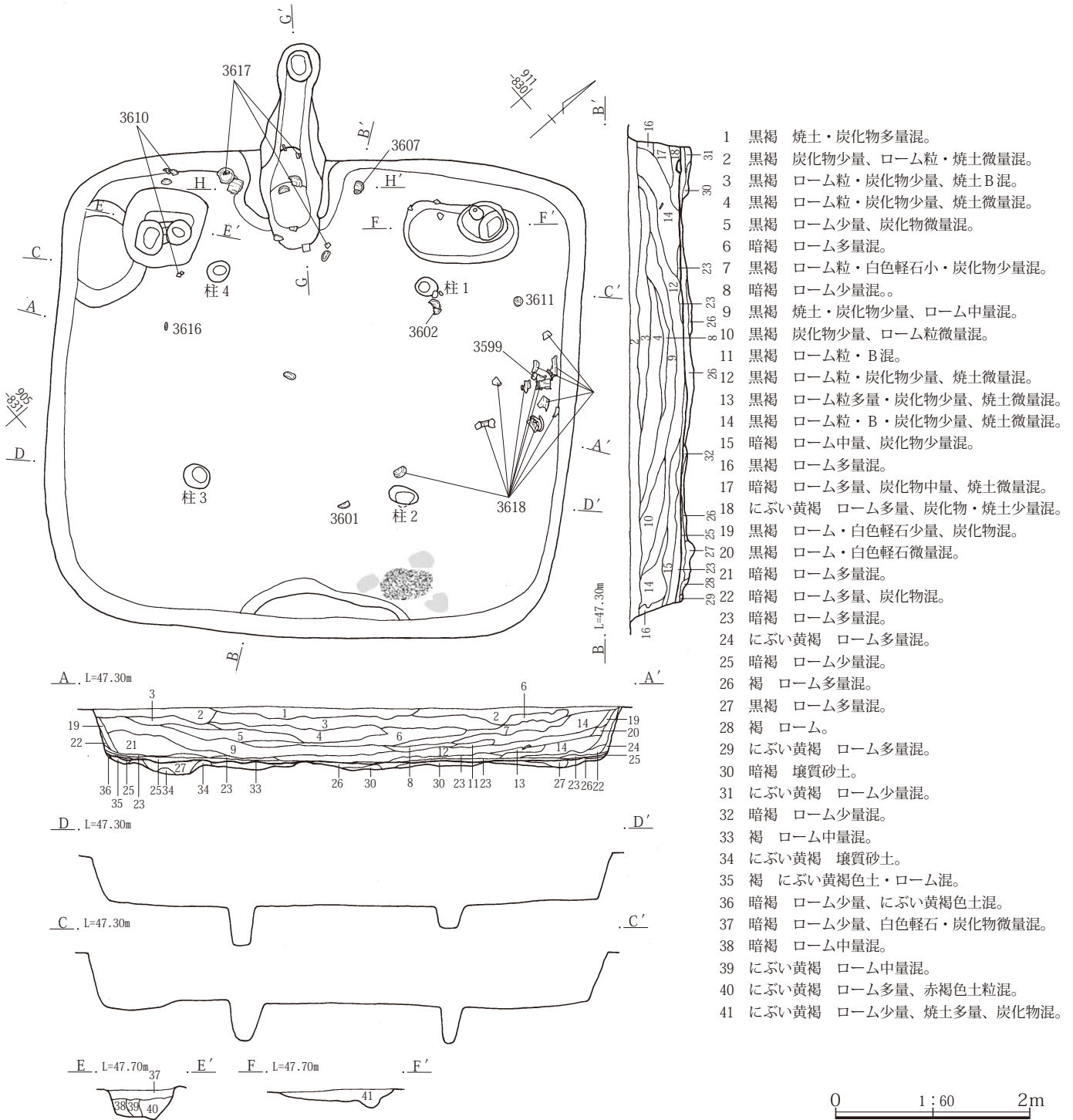
**掘り方** 土坑状掘り込み・ピットが数基ある他、壁のやや内側に、溝状の掘り込みがカマド部分を除いてほぼ全周している。

**カマド** 北壁やや西寄りに位置し、全長2.09m幅1.14mで、煙道部全長1.06m幅0.67m、燃烧部幅0.62mで

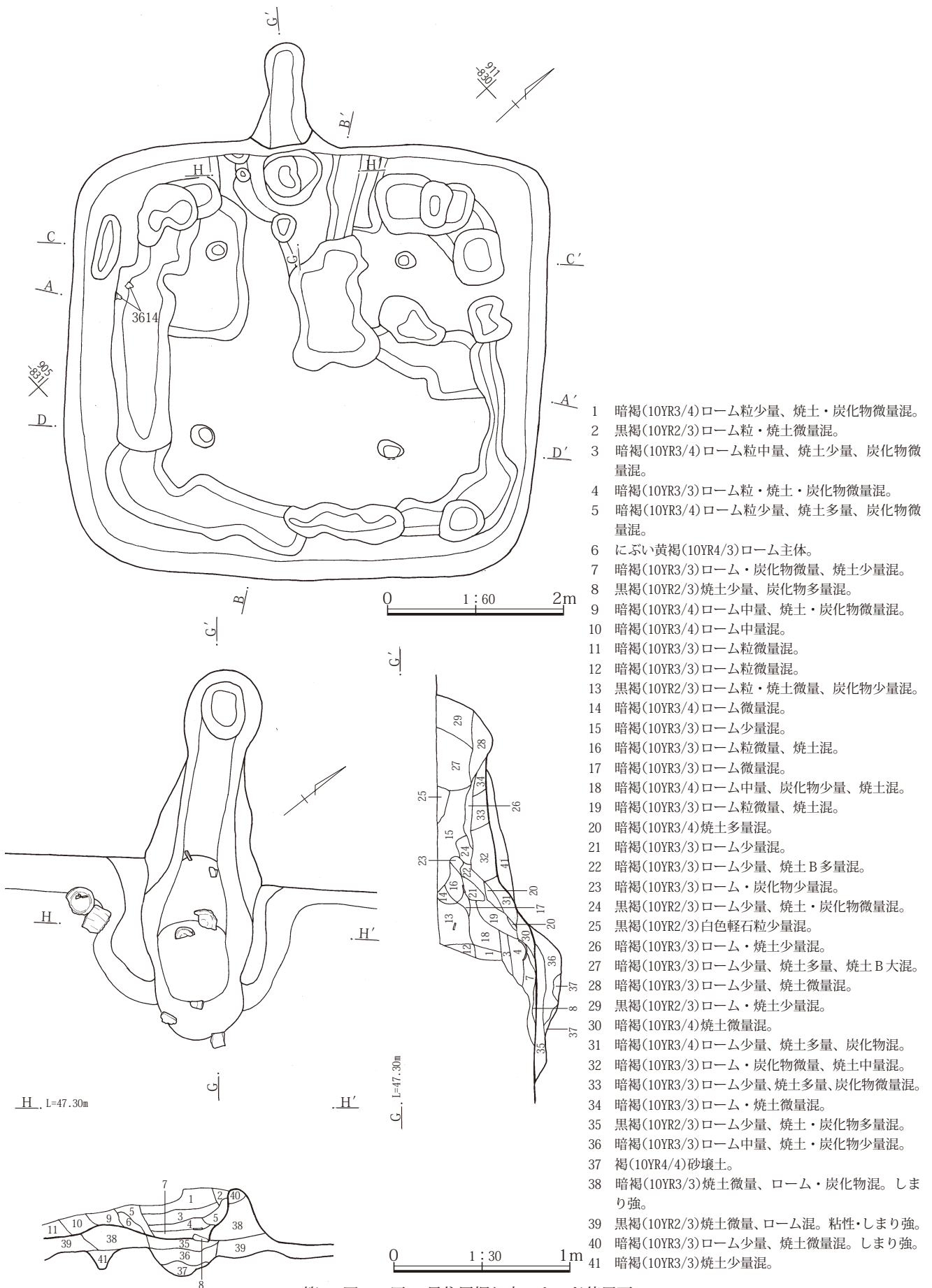
ある。ロームを含む暗褐色土で袖を構築。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、燃烧部奥壁は緩やかに立ち上がる。煙道部底面は水平に延び、奥壁は50°で立ち上がる。左袖西部から土師器甕(3617)が出土している。

**所見** 掘り方で、全周する溝状の掘り込みがあるため、拡張された可能性も考えられる。

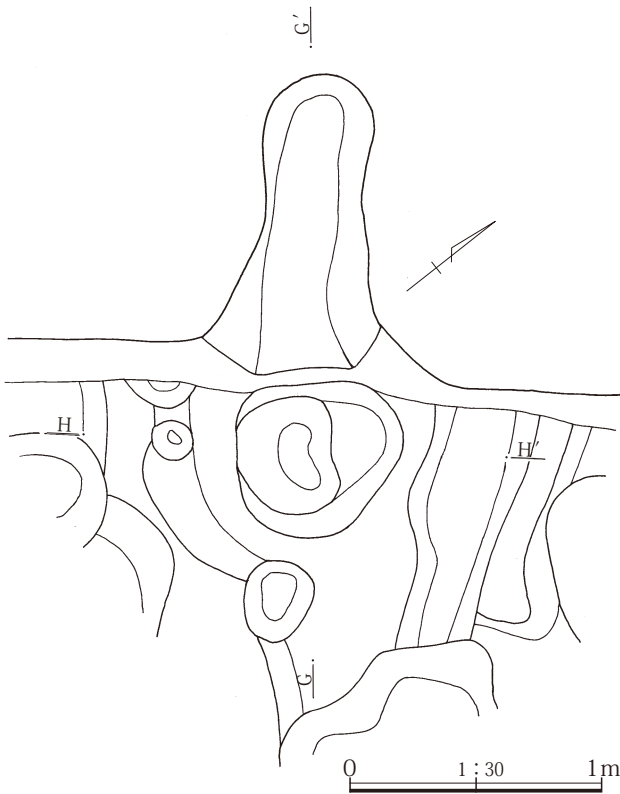
**時期** 出土遺物から7世紀第2～第3四半期と考えられる。



第149図 6区36号住居使用面



第150図 6区36号住居掘り方・カマド使用面



第151図 6区36号住居カマド掘り方

**6区37号住居** (第152～154図 PL.69-5・70)

位置 915～920-835～841Gr 重複 なし

平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 5.80m 短辺 3.78m 長辺/短辺 1.53

壁高 0.49m 面積 20.74㎡ 床面積 15.98㎡

主軸方位 N-88°-W 壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 カマド左脇。平面形は楕円形で、断面形は丸みを帯びた台形。

**埋没土** ローム・焼土を含む暗褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。 **床面状態** ローム・焼土・炭化物を含む暗褐色土で2～12cmの貼床とし、全体的に硬化。凹凸の多い床面である。北東部が約5cm下がる。中央やや西にピット2基あり。位置的に柱穴とはならず性格不明。

**遺物出土状況** 出土量は多く、ほぼ全面から出土。床面上出土の遺物もあるが、完形・半完形品は少なく、大部分が、廃棄・流入遺物と考えられる。

**掘り方** 床下土坑4基の他、土坑状掘り込み・ピット

数基、北壁際に溝状の掘り込みあり。

**カマド** 東壁中央部に位置し、全長1.71m 幅1.46mで、煙道部全長0.78m幅0.77mである。地山を芯として袖を構築。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁から煙道部にかけて37°で立ち上がる。左袖部から須恵器杯・椀(3620・3621)が出土し、燃烧部・煙道部から土師器甕片(3630～3632・3634・3636)が多数出土しているが、補強材の甕としては量が少ない。

**所見** カマド煙道部の土師器甕は、煙道部補強材の可能性もあるが、完形・半完形になるものが少ないため確実ではない。検出された2基のピットは袋状の掘り方で埋土上面に石がのる特異なもので、性格は不明である。

**時期** 出土遺物から9世紀第2～第3四半期と考えられる。

**6区38号住居** (第155図 PL.71-1～4)

位置 923～925-837～840Gr 重複 なし

平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 2.42m 短辺 2.09m 長辺/短辺 1.16

壁高 0.39m 面積 4.89㎡ 床面積 3.39㎡

主軸方位 N-59°-E 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

**埋没土** Hr-FA・ロームを含む黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** 暗褐色土を含むにぶい黄褐色土で10～20cmの貼床。ほぼ平坦でやや軟弱。凹凸少ない。

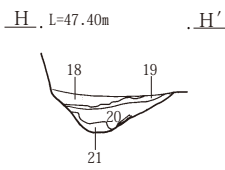
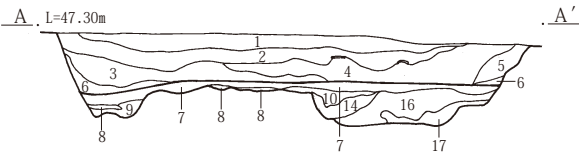
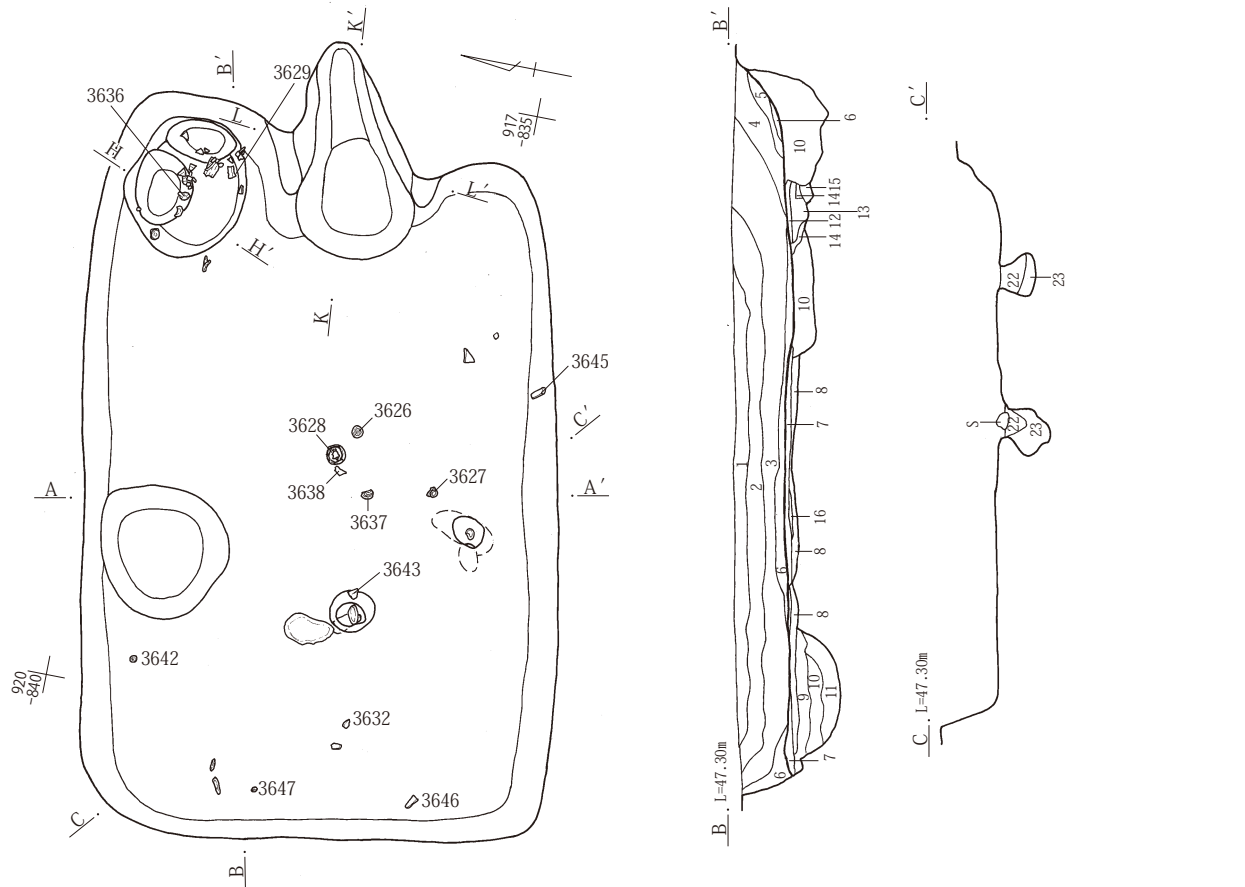
**遺物出土 状況** 出土量は少なく、中央部を中心に出土。床面上のものは少なく、大部分が埋没土中の出土で、廃棄・流入遺物がほとんどである。

**掘り方** ピット多数あり。北東隅から南壁中央のラインで一段下がる。

**カマド** 東壁やや南に位置し、全長0.75m幅0.83mである。残存状況悪く袖構築材は不明。焚口部・燃烧部底面は深くくぼみ、灰層が見られない。燃烧部奥壁から煙道部にかけて段を持って41°で立ち上がる。

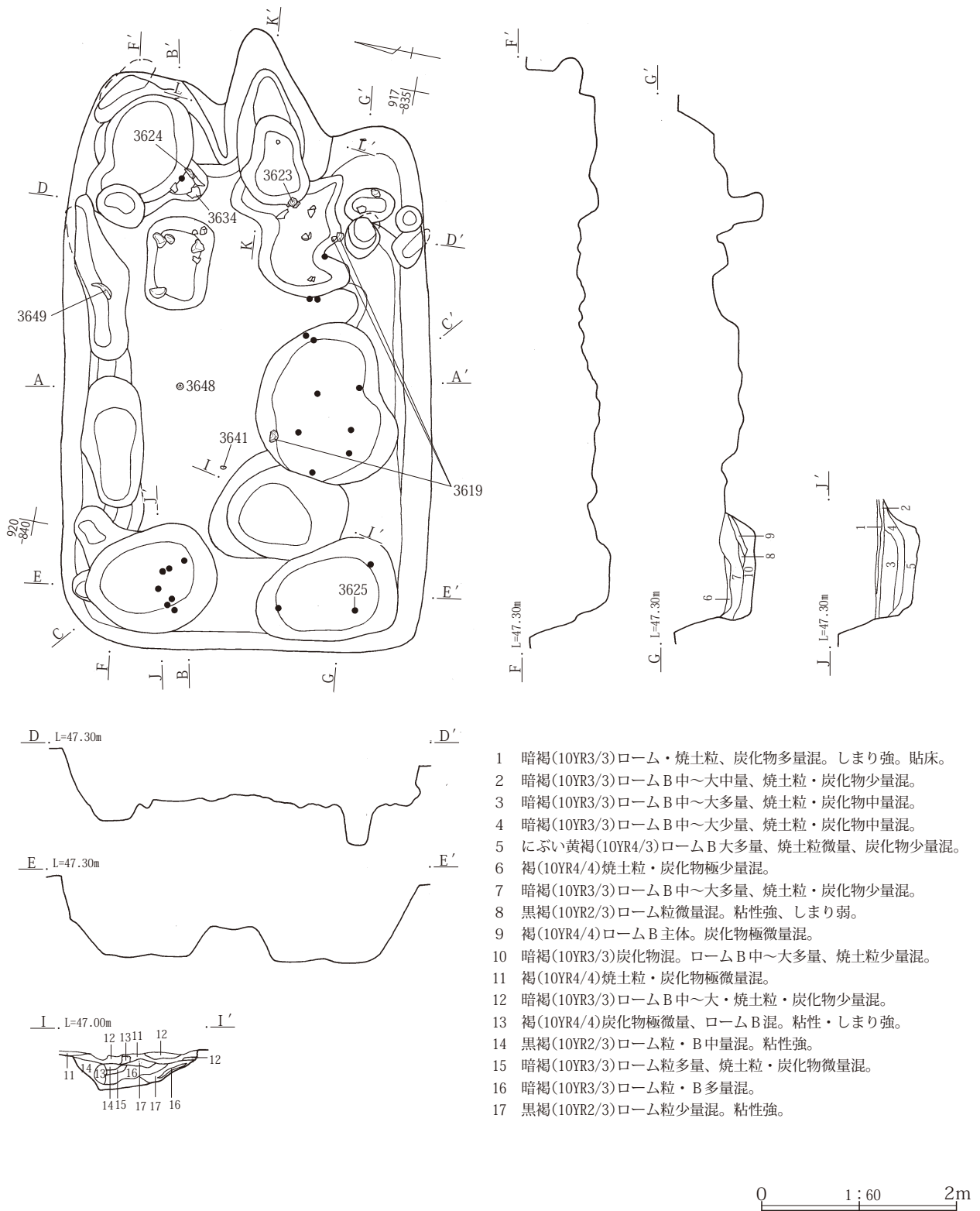
**所見** 面積が5㎡以下の小規模な住居であるが、カマド・貼床等があるため一般的な住居と考えられる。

**時期** 出土遺物から9世紀第2～第3四半期と考えられる。

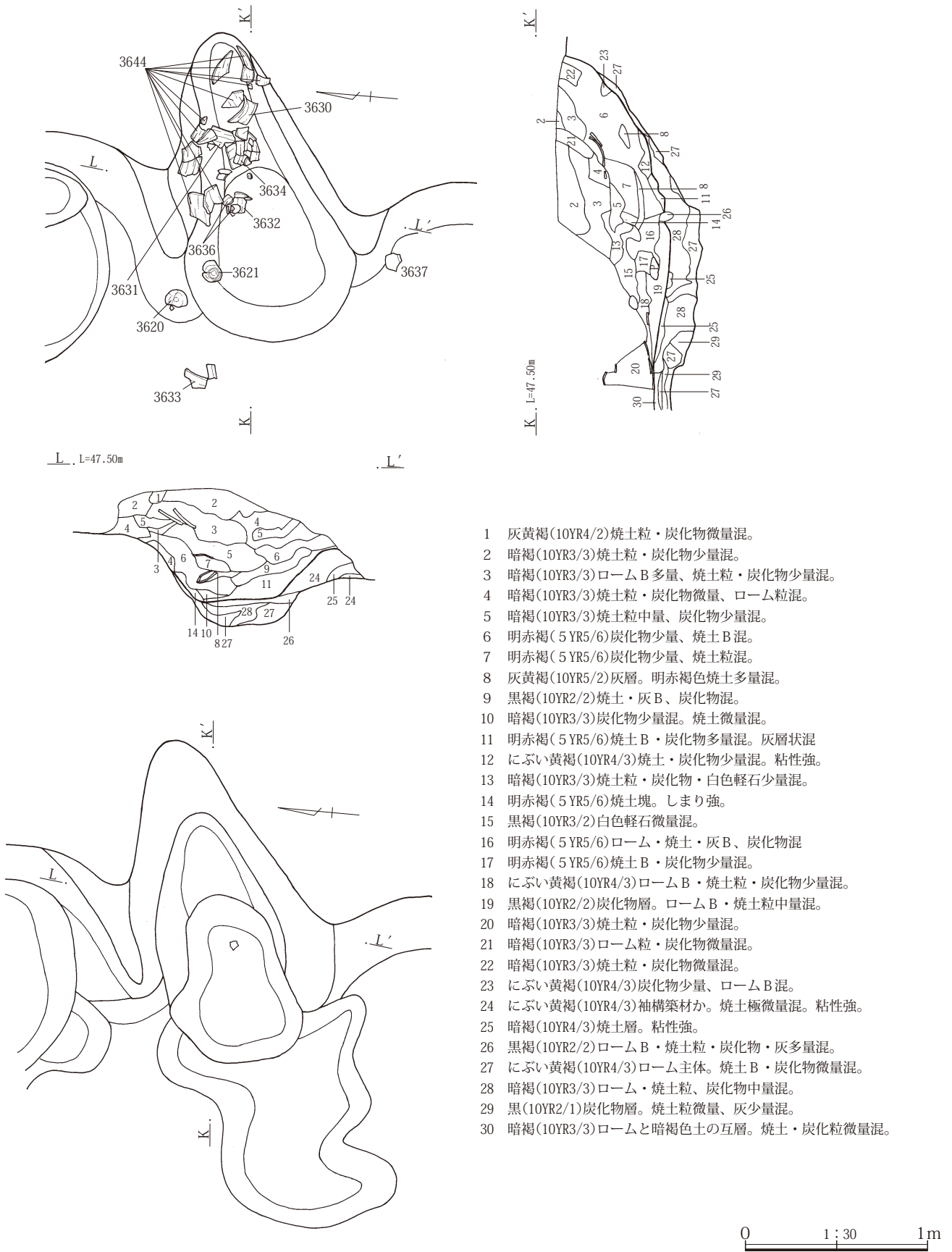


- 1 暗褐(10YR3/4)炭化物少量、白色粒子混。粘性弱。
- 2 暗褐(10YR3/3)ロームB、焼土・炭化粒子中量混。
- 3 暗褐(10YR3/3)焼土・炭化粒子少量混。
- 4 暗褐(10YR3/4)ロームB多量、焼土・炭化粒子中量混。粘性強、しまり弱。
- 5 黒褐(10YR2/3)炭化物少量混。粘性・しまり強。
- 6 褐(10YR4/4)ロームB多量混。粘性強、しまり弱。
- 7 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒、炭化物多量混。しまり強。貼床。
- 8 暗褐(10YR3/3)ロームB小・焼土粒・炭化物中量混。貼床。
- 9 暗褐(10YR3/3)ロームB小多量、焼土粒・炭化物中量混。
- 10 暗褐(10YR3/3)ロームB小少量、焼土粒・炭化物中量混。
- 11 にぶい黄褐(10YR4/3)ロームB大多量、焼土粒・炭化物少量混。
- 12 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒中量、焼土粒・炭化物微量混。粘性弱、しまり強。
- 13 暗褐(10YR3/3)焼土粒極多量、炭化物・灰中量混。
- 14 黒褐(10YR2/3)ローム・焼土粒、炭化物少量混。
- 15 暗褐(10YR3/3)焼土粒極多量混。
- 16 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B多量混。
- 17 黒褐(10YR2/3)ローム粒少量混。粘性強。
- 18 明赤褐(10YR5/6)焼土B多量、炭化物少量混。粘性弱。
- 19 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土・炭化物混。粘性強、しまり弱。
- 20 暗褐(10YR3/4)ロームB大多量、焼土・炭化物少量混。粘性・しまり強。
- 21 にぶい黄褐(10YR4/3)地山のローム中に黒褐B少量混。粘性強、しまり弱。
- 22 暗褐(10YR3/3)ロームB中量、焼土粒少量、炭化物微量混。
- 23 黒褐(10YR2/2)ローム粒少量混。

第152図 6区37号住居使用面

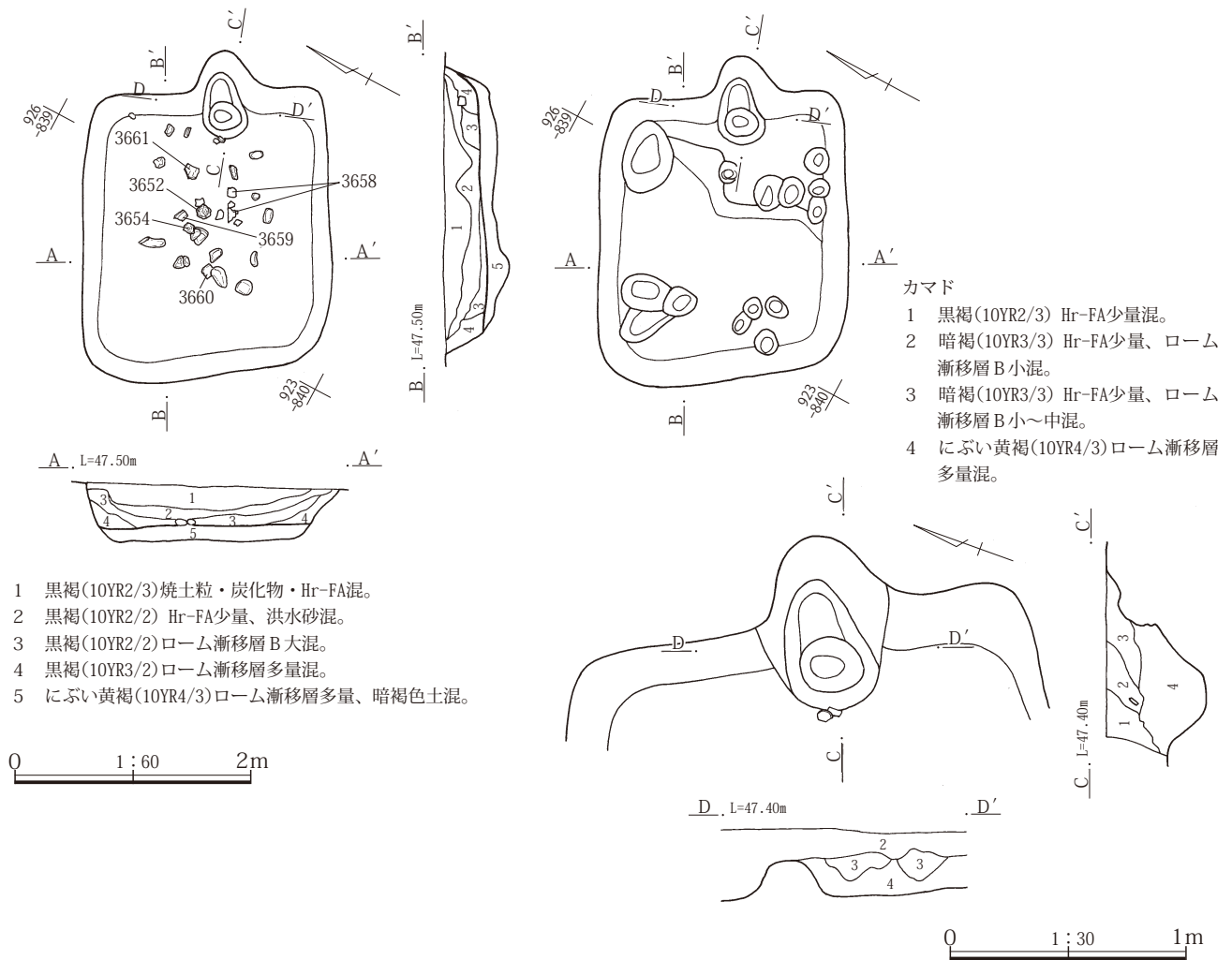


第153図 6区37号住居掘り方



- 1 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒・炭化物微量混。
- 2 暗褐(10YR3/3)焼土粒・炭化物少量混。
- 3 暗褐(10YR3/3)ロームB多量、焼土粒・炭化物少量混。
- 4 暗褐(10YR3/3)焼土粒・炭化物微量、ローム粒混。
- 5 暗褐(10YR3/3)焼土粒中量、炭化物少量混。
- 6 明赤褐(5YR5/6)炭化物少量、焼土B混。
- 7 明赤褐(5YR5/6)炭化物少量、焼土粒混。
- 8 灰黄褐(10YR5/2)灰層。明赤褐色焼土多量混。
- 9 黒褐(10YR2/2)焼土・灰B、炭化物混。
- 10 暗褐(10YR3/3)炭化物少量混。焼土微量混。
- 11 明赤褐(5YR5/6)焼土B・炭化物多量混。灰層状混
- 12 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土・炭化物少量混。粘性強。
- 13 暗褐(10YR3/3)焼土粒・炭化物・白色軽石少量混。
- 14 明赤褐(5YR5/6)焼土塊。しまり強。
- 15 黒褐(10YR3/2)白色軽石微量混。
- 16 明赤褐(5YR5/6)ローム・焼土・灰B、炭化物混
- 17 明赤褐(5YR5/6)焼土B・炭化物少量混。
- 18 にぶい黄褐(10YR4/3)ロームB・焼土粒・炭化物少量混。
- 19 黒褐(10YR2/2)炭化物層。ロームB・焼土粒中量混。
- 20 暗褐(10YR3/3)焼土粒・炭化物少量混。
- 21 暗褐(10YR3/3)ローム粒・炭化物微量混。
- 22 暗褐(10YR3/3)焼土粒・炭化物微量混。
- 23 にぶい黄褐(10YR4/3)炭化物少量、ロームB混。
- 24 にぶい黄褐(10YR4/3)袖構築材か。焼土極微量混。粘性強。
- 25 暗褐(10YR4/3)焼土層。粘性強。
- 26 黒褐(10YR2/2)ロームB・焼土粒・炭化物・灰多量混。
- 27 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム主体。焼土B・炭化物微量混。
- 28 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒、炭化物中量混。
- 29 黒(10YR2/1)炭化物層。焼土粒微量、灰少量混。
- 30 暗褐(10YR3/3)ロームと暗褐色土の互層。焼土・炭化粒微量混。

第154図 6区37号住居カマド



第155図 6区38号住居

6区39号住居 (第156・157図 PL.71-5・72-1~4)

位置 926~930-848~853Gr 重複 199土坑より新  
 平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 3.75m 短辺 2.74m 長辺/短辺 1.37

壁高 0.55m 面積 10.04㎡ 床面積 7.86㎡

主軸方位 N-77°-E 壁溝 なし

柱穴 床面上にピットが5基検出されているが、位置から柱穴とは考えられない。

貯蔵穴 カマド右脇。平面形は円形で、断面形は丸みを帯びた台形を呈す。径約50cm、深さ約30cm。

埋没土 洪水砂・Hr-FA・ローム漸移層を含む黒褐色・暗褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 黒褐色土を含む暗褐色土で2~10cmの貼床。中央がやや低く、壁際が約10cm高くなっている。

遺物出土状況 出土量は少なく、埋土中に散在。流入遺

物が多いと考えられる。

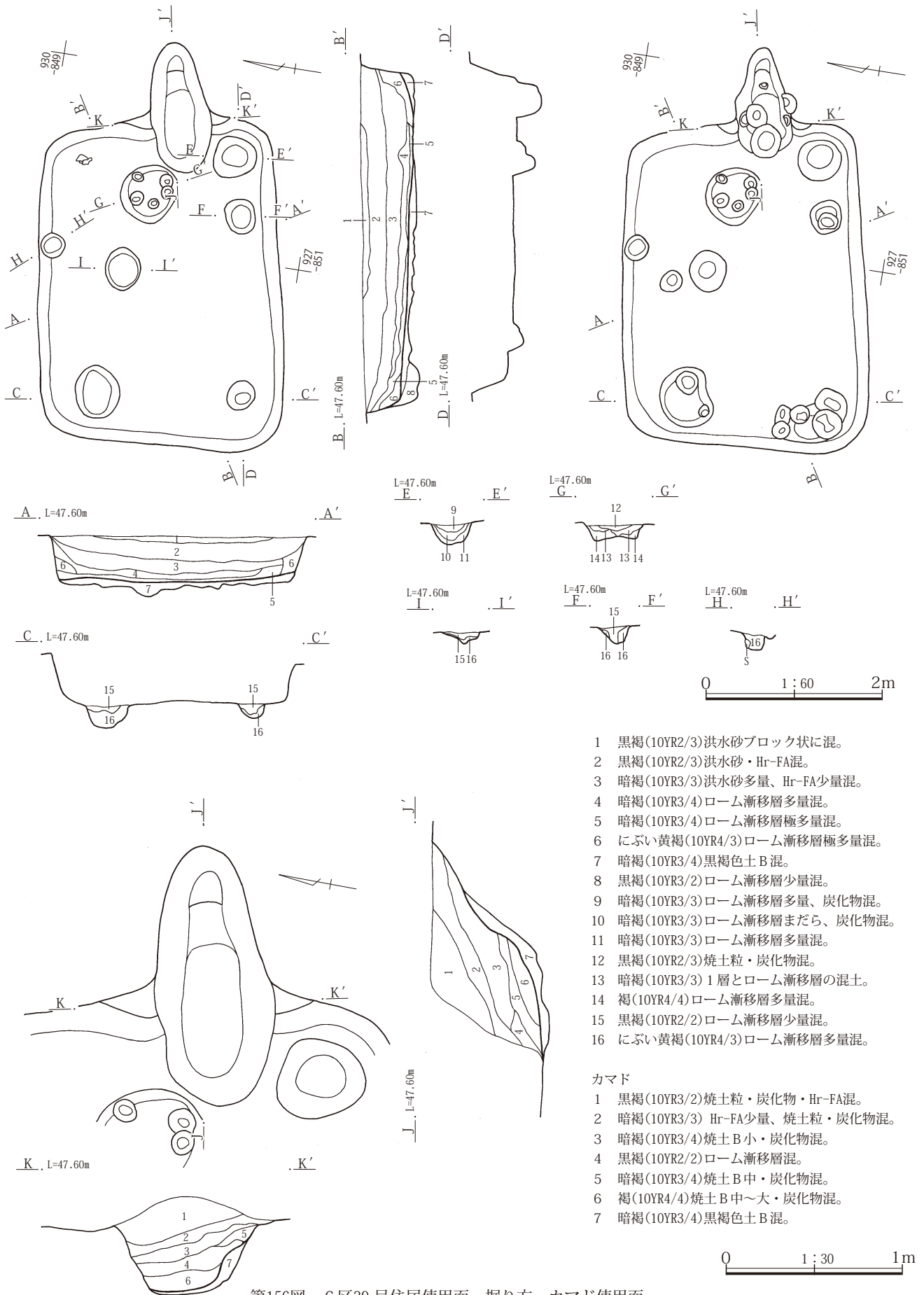
掘り方 床面上検出のピット以外は、ほぼ平坦な掘り方である。

カマド 東壁やや南寄りに位置し、全長1.42m幅1.23mで、煙道部全長0.32m幅0.43mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層は見られない。燃烧部奥壁から煙道部にかけて、段を持って42°で立ち上がる。

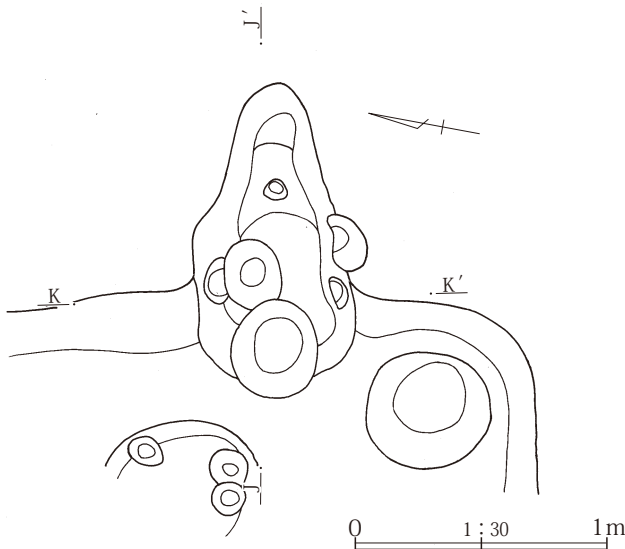
所見 床面上のP1・2・3は、ほぼ直角に位置し、柱穴と考えられないこともないが、4基目のピットが検出されず、壁にも近すぎるため、柱穴の可能性は低く、性格は不明である。

時期 時期のわかる出土遺物が少なくはっきりしないが、8世紀後半~9世紀前半と考えられる。





第156図 6区39号住居使用面・掘り方・カマド使用面



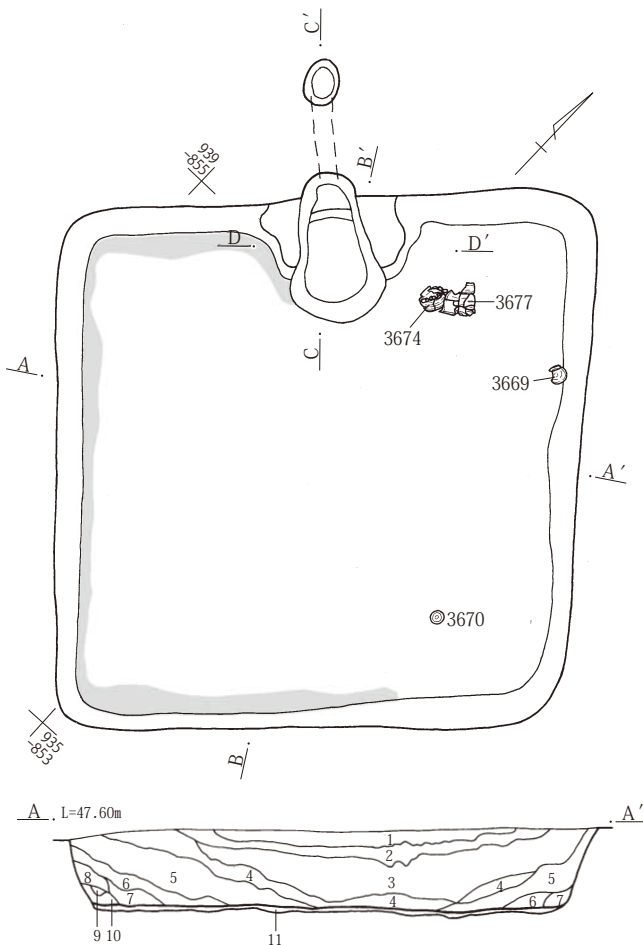
第157図 6区39号住居カマド掘り方

6区40号住居 (第158・159図 PL.72-5・73)

位置 935～940-850～855Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 4.26m

短辺 4.23m 長辺/短辺 1.01 壁高 0.68m



第158図 6区40号住居使用面

面積 17.19㎡ 床面積 13.29㎡

主軸方位 N-46°-W 壁溝 なし

柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 洪水砂・Hr-FAを含む灰黄褐色・黒褐色・暗褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

床面状態 ローム漸移層を含む黒褐色土で2～5cmの貼床。ほぼ水平な床面。北壁西部から西壁・南壁西部にかけて、壁に沿って焼土検出。

遺物出土状況 出土量は比較的少なく、大部分が埋土中の出土で、廃棄・流入遺物がほとんどである。3669・3674・3677は床面上の出土で、遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 ほぼ平坦な掘り方。

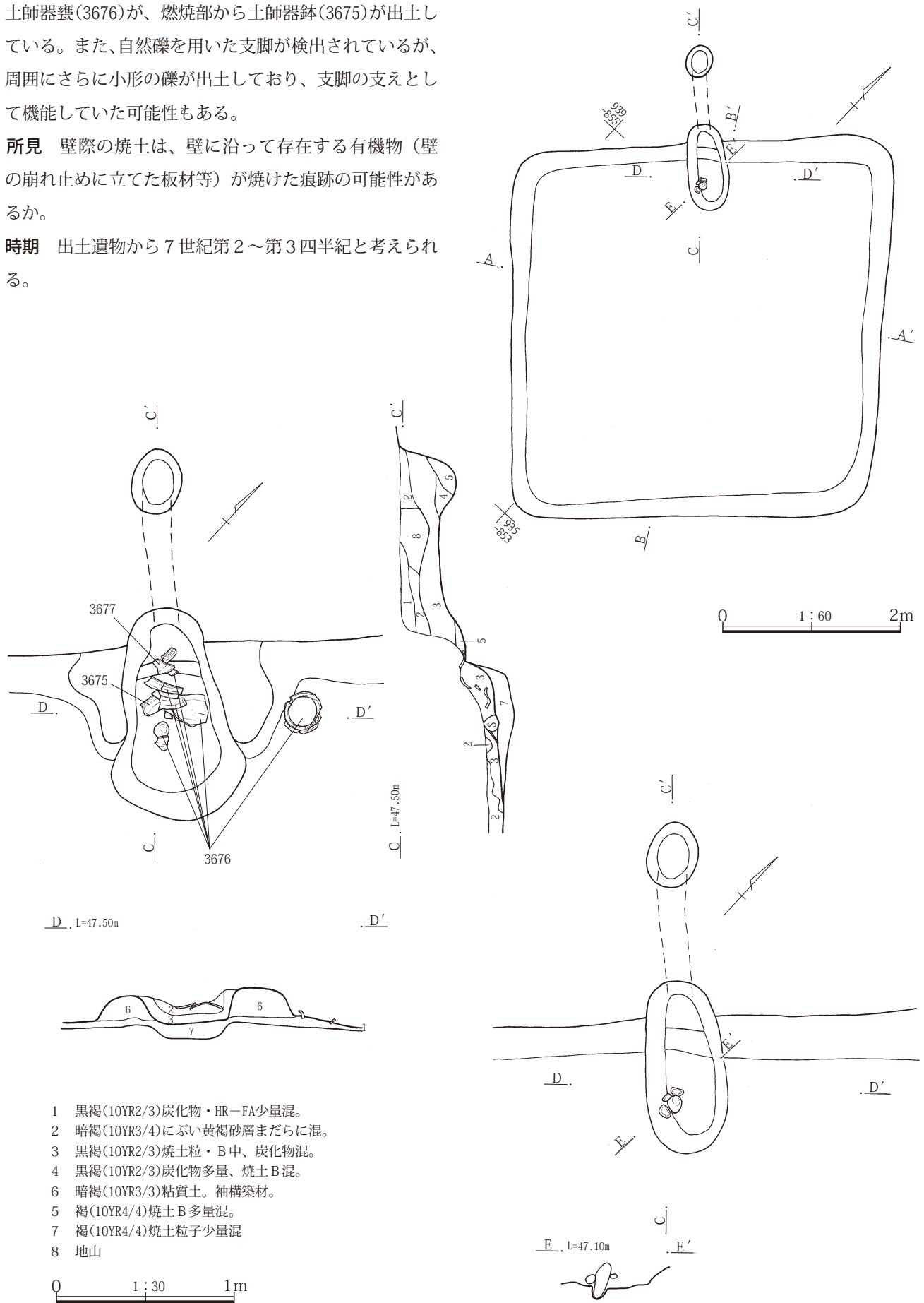
カマド 北壁中央部に位置し、全長2.08m幅1.24mで、煙道部全長1.19m幅0.42m、燃烧部幅0.63mである。暗褐色粘質土で袖を構築する。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層は見られない。燃烧部奥壁は低く急に立ち上がり、煙道部へ続く。煙道部底面はほぼ水平に延び、奥壁は66°で立ち上がる。煙道部天井が残存しており、一部地山をくり抜いて作っている。右袖脇と燃烧部から

- 1 灰黄褐(10YR4/2)褐灰色洪水砂多量、Hr-FA小少量混。
- 2 黒褐(10YR2/3)褐灰色洪水砂少量、Hr-FA中量混。
- 3 黒褐(10YR2/3)焼土粒・炭化物少量混。Hr-FA小多量混。
- 4 暗褐(10YR3/3)にぶい黄褐色の洪水砂多量、Hr-FA小・炭化物混。
- 5 暗褐(10YR3/3)にぶい黄褐色の洪水砂極多量混。
- 6 黒褐(10YR2/3)にぶい黄褐色の洪水砂多量、焼土粒・炭化物混。
- 7 にぶい黄褐(10YR4/3)にぶい黄褐色の洪水砂多量、焼土粒・炭化物混。
- 8 暗褐(10YR3/4)焼土多量、炭化物少量混。
- 9 黒褐(10YR2/3)橙色焼土B。
- 10 黒褐(10YR2/3)炭化物ブロック状に混。
- 11 黒褐(10YR2/3)炭化物・ローム漸移層混。

土師器甕(3676)が、燃烧部から土師器鉢(3675)が出土している。また、自然礫を用いた支脚が検出されているが、周囲にさらに小形の礫が出土しており、支脚の支えとして機能していた可能性もある。

**所見** 壁際の焼土は、壁に沿って存在する有機物（壁の崩れ止めに立てた板材等）が焼けた痕跡の可能性はあるか。

**時期** 出土遺物から7世紀第2～第3四半紀と考えられる。



- 1 黒褐(10YR2/3)炭化物・HR-FA少量混。
- 2 暗褐(10YR3/4)にぶい黄褐砂層まだらに混。
- 3 黒褐(10YR2/3)焼土粒・B中、炭化物混。
- 4 黒褐(10YR2/3)炭化物多量、焼土B混。
- 6 暗褐(10YR3/3)粘質土。袖構築材。
- 5 褐(10YR4/4)焼土B多量混。
- 7 褐(10YR4/4)焼土粒子少量混
- 8 地山

第159図 6区40号住居掘り方・カマド

6区41号住居 (第160～162図 PL.74)

位置 934～940-863～870Gr

重複 32住より新か

平面形態 隅丸方形 長辺5.39m

短辺 4.92m 長辺/短辺 1.10 壁高 0.51m

面積 25.52㎡ 床面積 21.88㎡

主軸方位 N-22°-W 壁溝 なし

柱穴 4基。壁から比較的離れており、柱穴間の距離が短い。計測値は第17表参照。 貯蔵穴 カマド右北東隅部。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈す。

埋没土 ロームを含む褐灰色・黒褐色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。

床面状態 ロームを含む灰黄褐色土で3～20cmの貼床。ほぼ平坦な床面である。

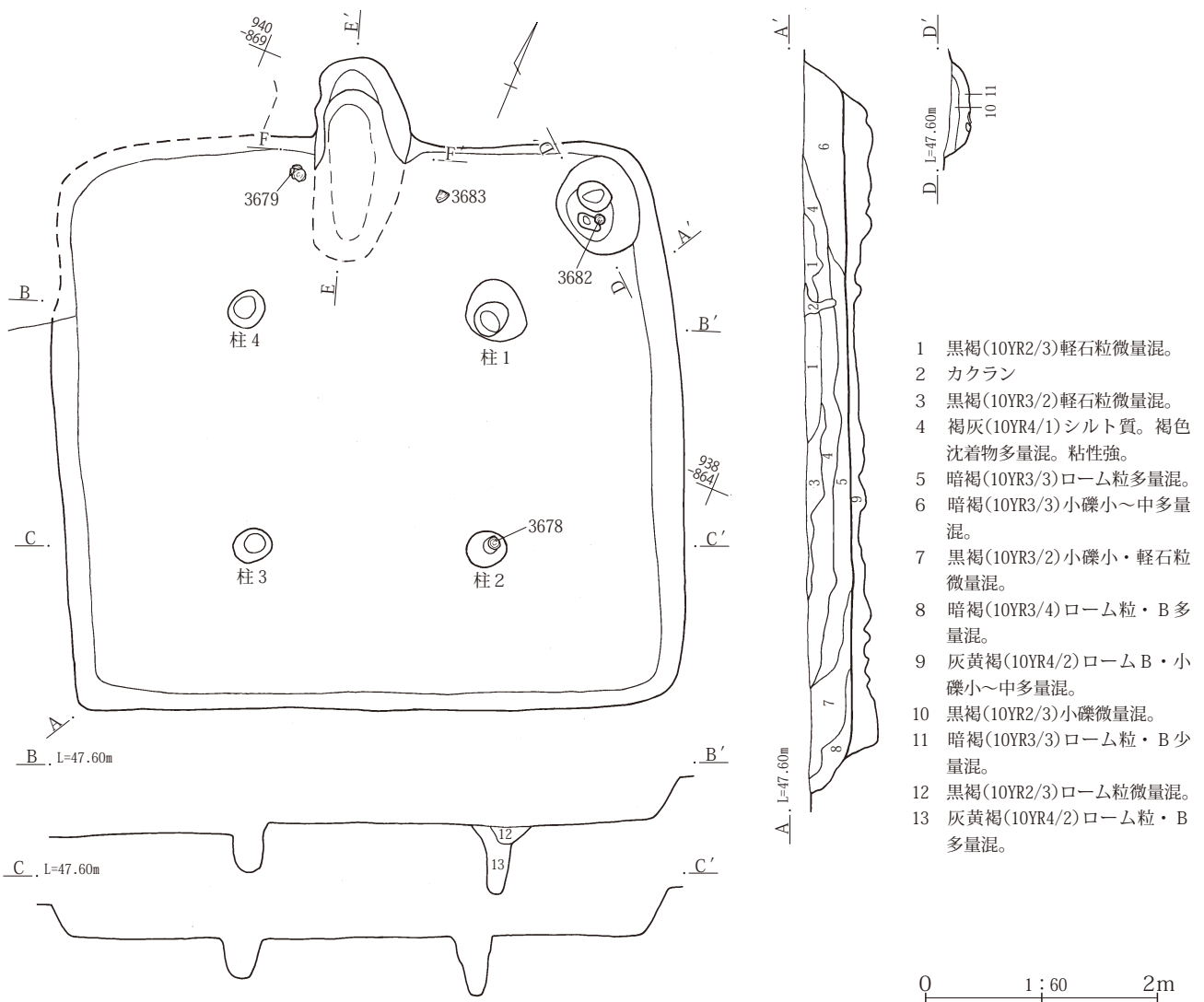
遺物出土状況 出土量は少なく、大部分が埋土中の出土で、廃棄・流入遺物がほとんどである。3682の須恵器杯蓋は貯蔵穴内、3678の土師器杯は柱穴上面の出土で、いずれも遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 浅い土坑状掘り込み・ピットが数基検出されている。他は細かい凹凸があるが、全体的に平坦である。

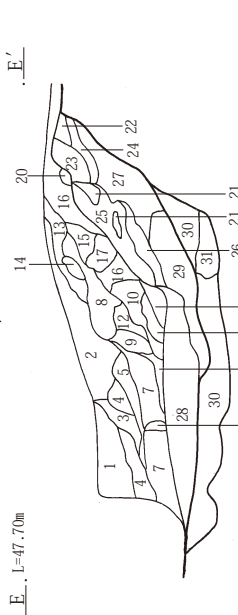
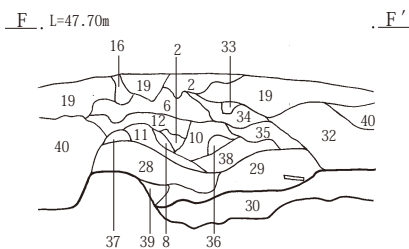
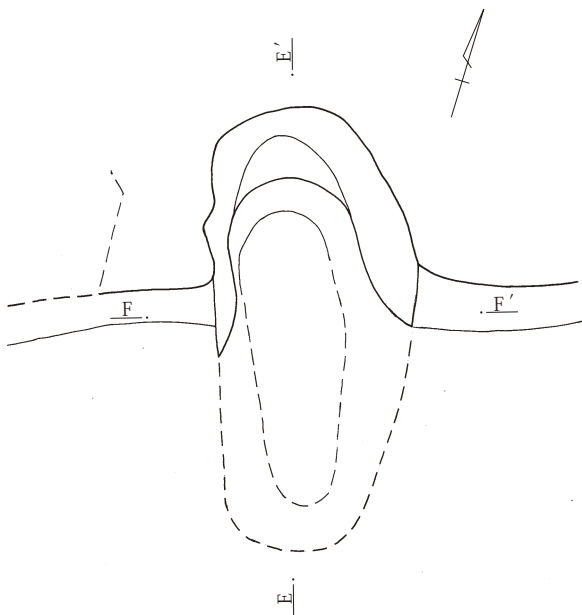
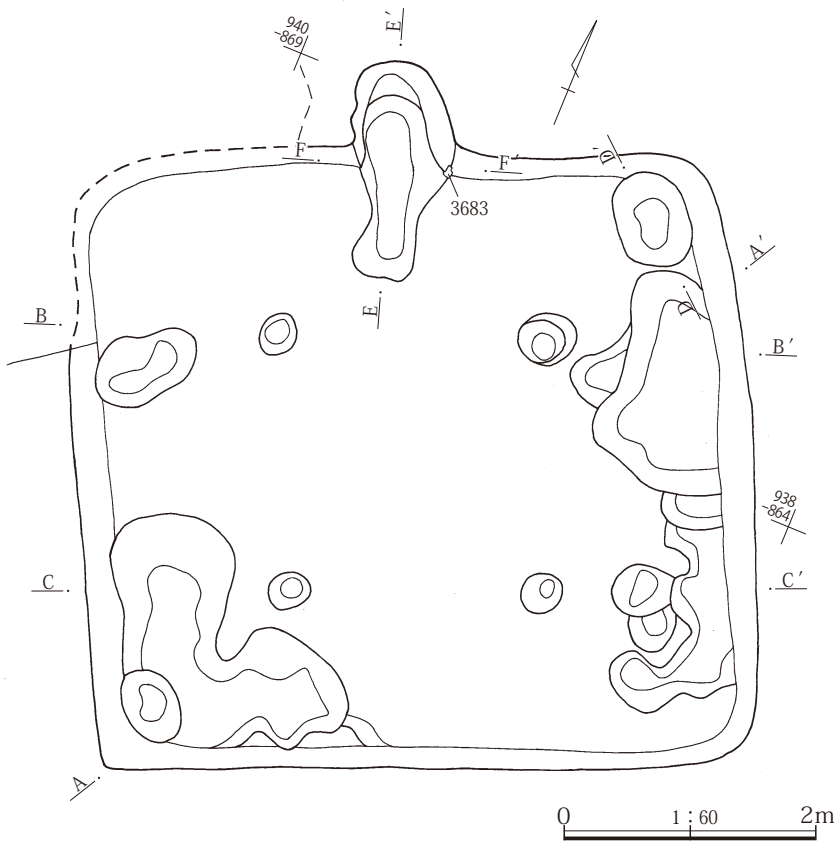
カマド 北壁中央部に位置し、全長1.16m 幅1.01mで、煙道部全長0.27m 幅0.65mである。残存状況悪く袖構築材は不明である。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層は見られない。燃烧部奥壁は50°で立ち上がる。

所見 32住より新しい住居として調査したが、出土遺物等から逆の可能性がある。

時期 出土遺物から7世紀第4～8世紀第1四半紀と考えられる。

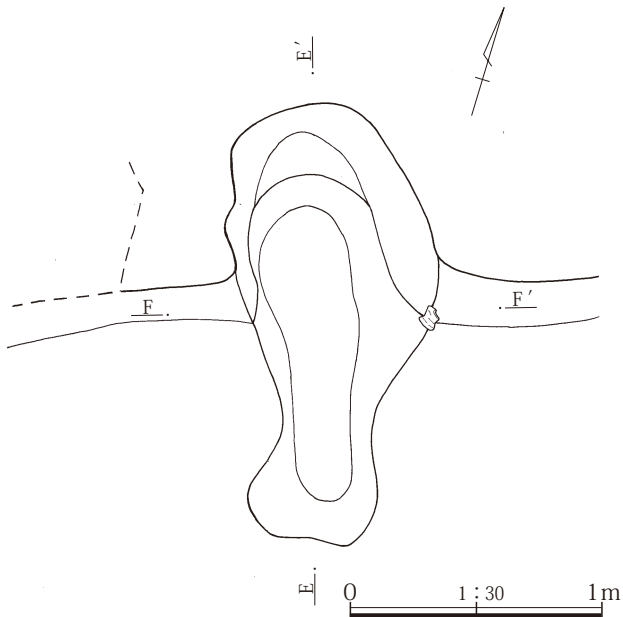


第160図 6区41号住居使用面



- 1 褐灰(10YR4/1)赤褐色粒多量混。粘性強。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム・軽石粒微量混。
- 3 褐灰(10YR4/1)粘性強。
- 4 黒褐(10YR3/2)黒色B・炭化層多量混。
- 5 灰黄褐(10YR4/2)粘性強。
- 6 黒褐(10YR2/2)炭化層。
- 7 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒・B小多量混。粘性強。
- 8 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム・黒褐色B混。
- 9 暗褐(10YR3/4)焼土粒・B多量混。
- 10 暗褐(10YR3/3)焼土粒・B微量混。
- 11 黒褐(10YR3/2)炭化粒混。粘性強。
- 12 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム・黒褐色B混。粘性強。
- 13 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒少量混。
- 14 黒褐(10YR3/2)炭化粒多量混。
- 15 にぶい黄褐(10YR4/3)白色粘土粒多量混。
- 16 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒多量混。
- 17 にぶい黄褐(10YR4/3)黒褐色粒多量混。砂質。
- 18 暗褐(10YR3/4)焼土粒・B、炭化粒多量混。
- 19 暗褐(10YR3/3)ローム・シルト粒微量混。
- 20 灰黄褐(10YR5/2)砂質。
- 21 灰黄褐(10YR4/2)焼土層。
- 22 暗褐(10YR3/4)焼土粒微量混。
- 23 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒多量混。
- 24 黒褐(10YR2/3)焼土粒微量混。
- 25 灰黄褐(10YR4/2)焼土B多量混。しまり強。
- 26 黒褐(10YR3/2)焼土粒・B、炭化粒多量混。
- 27 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒微量混。
- 28 暗褐(10YR3/4)焼土層。炭化物混。
- 29 暗褐(10YR3/3)焼土粒微量混。
- 30 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・B少量混。
- 31 灰黄褐(10YR4/2)炭化粒多量、ローム粒・B少量混。
- 32 暗褐(10YR3/3)ローム粒多量、焼土粒・シルト粒微量混。
- 33 黒褐(10YR3/1)炭化物層。
- 34 暗褐(10YR3/4)ローム・焼土・炭化粒少量混。
- 35 灰黄褐(10YR4/2)焼土粒多量、黒色粒微量混。
- 36 黒褐(10YR3/1)炭化物層。焼土粒混。
- 37 灰黄褐(10YR4/2)焼土・黒色粒微量混。粘性強。
- 38 暗褐(10YR3/4)ローム・焼土・黒褐色粒多量混。
- 39 暗褐(10YR3/3)焼土粒多量混。
- 40 暗褐(10YR3/3)ローム粒多量、シルト粒微量混。

第161図 6区41号住居掘り方・カマド使用面



第162図 6区41号住居カマド掘り方

6区42号住居 (第163図 PL.75)

位置 938 ~ 942-862 ~ 865Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形 長辺 3.17m

短辺 3.06m 長辺/短辺 1.04 壁高 0.39m

面積 9.21㎡ 床面積 7.47㎡

主軸方位 N-42°-W

壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 なし

埋没土 ローム・礫を含む暗褐色・黒褐色土が堆積。一部レンズ状堆積を呈す。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

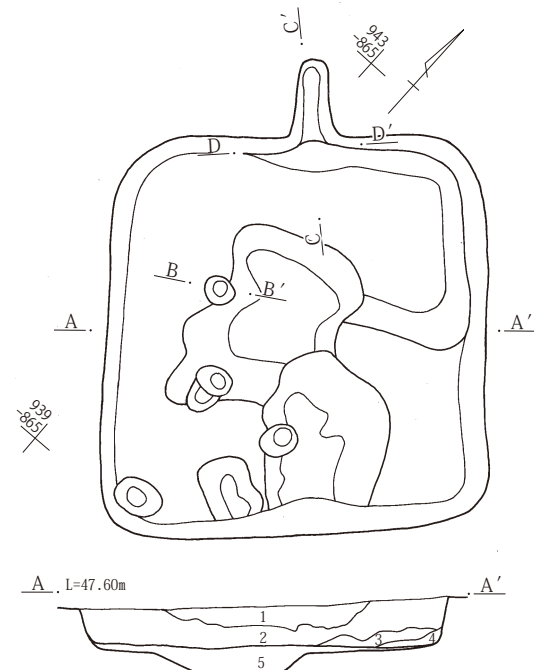
床面状態 軟弱ではっきりと検出できなかった。断面からはほぼ水平な床面と考えられる。

遺物出土状況 出土量は少なく埋土中に散在。大部分が流入遺物と考えられる。

掘り方 土坑状掘り込み・ピットが数基検出されている。

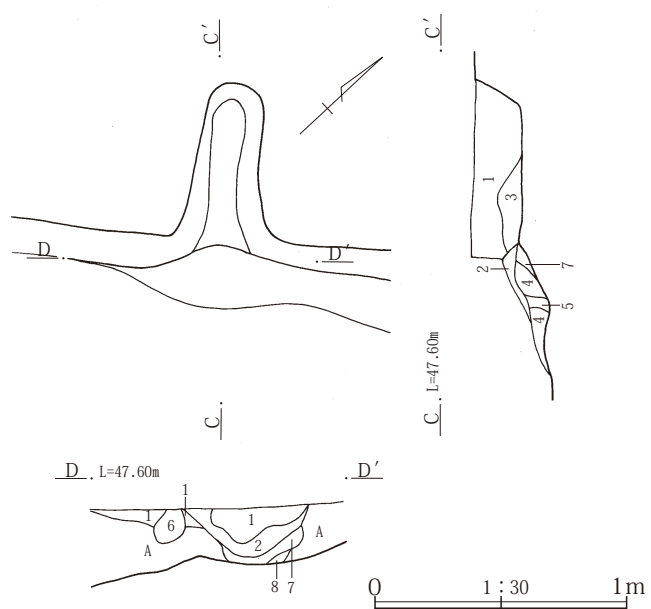
カマド 北壁中央部に位置し、全長1.13m幅0.73mで、煙道部全長0.64m幅0.32mである。残存状況悪く袖構築材や焚口部は不明である。燃烧部奥壁はやや緩やかに立ち上がり、煙道部に続く。煙道部底面は水平に延び、奥壁は63°で立ち上がる。

時期 時期のわかる遺物が少なくはっきりしないが、8世紀代の可能性がある。



- 1 暗褐(10YR3/3)ローム粒・小礫多量混。
- 2 黒褐(10YR2/3)小礫多量混。
- 3 暗褐(10YR3/4)粘性・しまり弱。
- 4 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒多量混。
- 5 暗褐(10YR3/4)貼床
- 6 黒褐(10YR2/3)小礫少量混。粘性弱。

0 1:60 2m



- 1 黒褐(10YR2/3)ローム粒・B、焼土粒微量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)粘性強。
- 3 黒褐(10YR2/3)ローム粒・B多量、焼土粒微量混。
- 4 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒多量混。
- 5 黒褐(10YR2/3)粘性弱。
- 6 黒褐(10YR2/3)ローム粒少量混。
- 7 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒微量混。
- 8 にぶい黄褐(10YR4/3)粘性弱、しまり強。
- A にぶい黄褐(10YR4/3)粘性・しまり弱。

第163図 6区42号住居

7区1号住居 (第164図 PL.76-1・2)

位置 972～975-788～791Gr 重複 なし

平面形態 不明

長辺 2.32m 短辺 [1.88]m

壁高 0.24m 面積 [3.99]m<sup>2</sup> 床面積 [3.58]m<sup>2</sup>

主軸方位 N-47°-W 壁溝 残存部分になし。

柱穴 残存部分になし。 貯蔵穴 残存部分になし。

埋没土 暗褐色微砂質土が堆積。ほぼ全面同質の層で埋没しており、洪水等で一気に埋没した可能性あり。

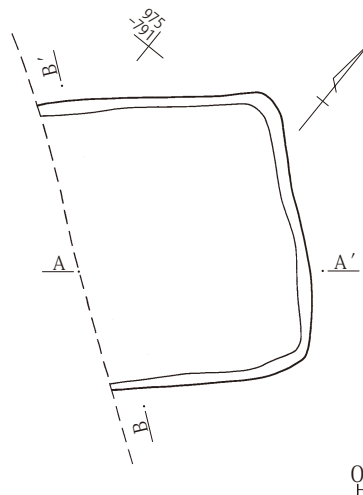
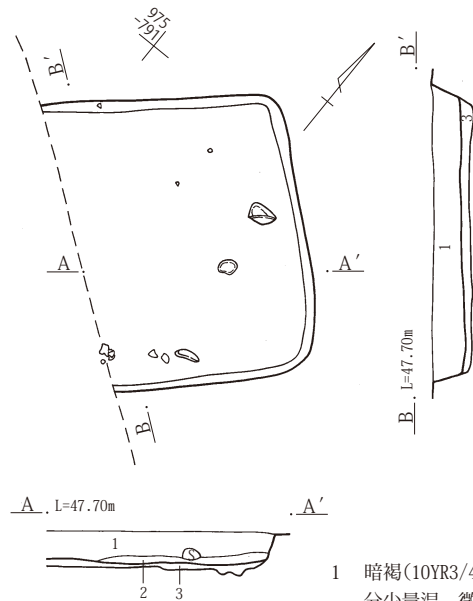
床面状態 黒褐色土を含む暗褐色土で2～10cmの貼床とし、全体的に硬化。ほぼ水平な床面。

遺物出土状況 出土量は少なく、埋土中に散在。大部分流入遺物と考えられる。

掘り方 凹凸少なく平坦な掘り方。

カマド 残存部分になし。西壁または南壁にあった可能性あり。

時期 時期のわかる出土遺物がなく不明である。



第164図 7区1号住居

7区2号住居 (第166図 PL.76-3～5・77-1・2)

位置 976～981-792～796Gr 重複 5土坑より新

平面形態 主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 4.34m 短辺 3.13m 長辺/短辺 1.39

壁高 0.21m 面積 12.71m<sup>2</sup> 床面積 11.12m<sup>2</sup>

主軸方位 N-46°-E 壁溝 なし

柱穴 なし

貯蔵穴 カマド右脇。平面形は楕円形で、断面形は丸みを帯びた台形である。長径約70cm、深さ約20cmである。

埋没土 にぶい黄褐色砂質土が堆積。ほぼ全面同質の層で埋没しており、洪水で一気に埋没した可能性がある。

床面状態 黒褐色土を含む暗褐色土で3～16cmの貼床とし、全体的に硬化。水平な床面。

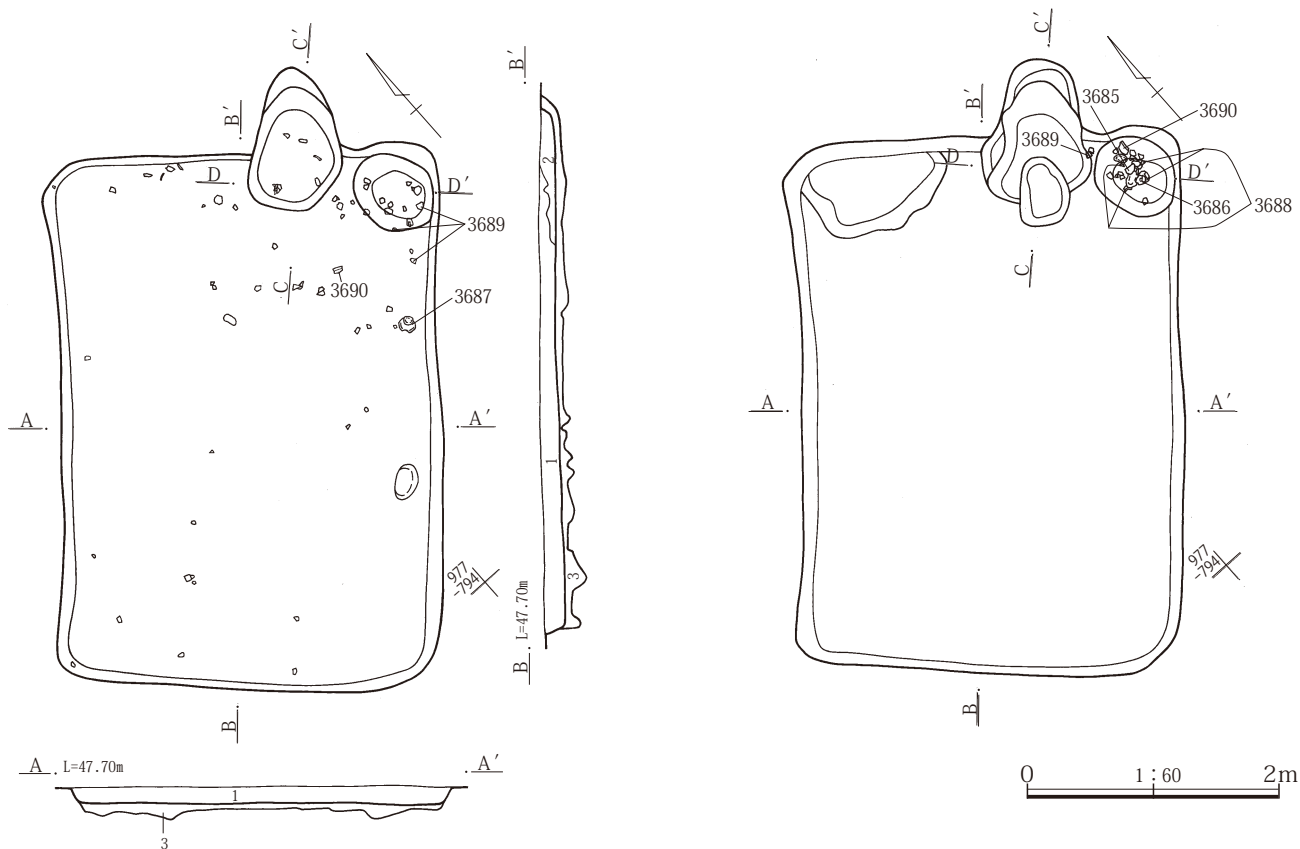
遺物出土状況 出土量は比較的少ないが、ほぼ全面から出土しており、特に貯蔵穴から多く出土している。完形・半完形のは少なく、ほとんどが廃棄・流入遺物と考えられる。3687の須恵器椀は床面上の、3685・3686の須恵器椀は貯蔵穴の出土であり、遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 土坑状掘り込み1基検出。他は細かい凹凸はあるが、全体的に平坦な掘り方。

カマド 東壁南部に位置し、全長1.13m幅0.72mで、煙道部全長0.15m幅0.37mである。残存状況悪く袖構築材

不明。焚口部・燃烧部底面はややくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁から煙道部にかけて32°で立ち上がる。焚口部・燃烧部から、土師器片が出土している。

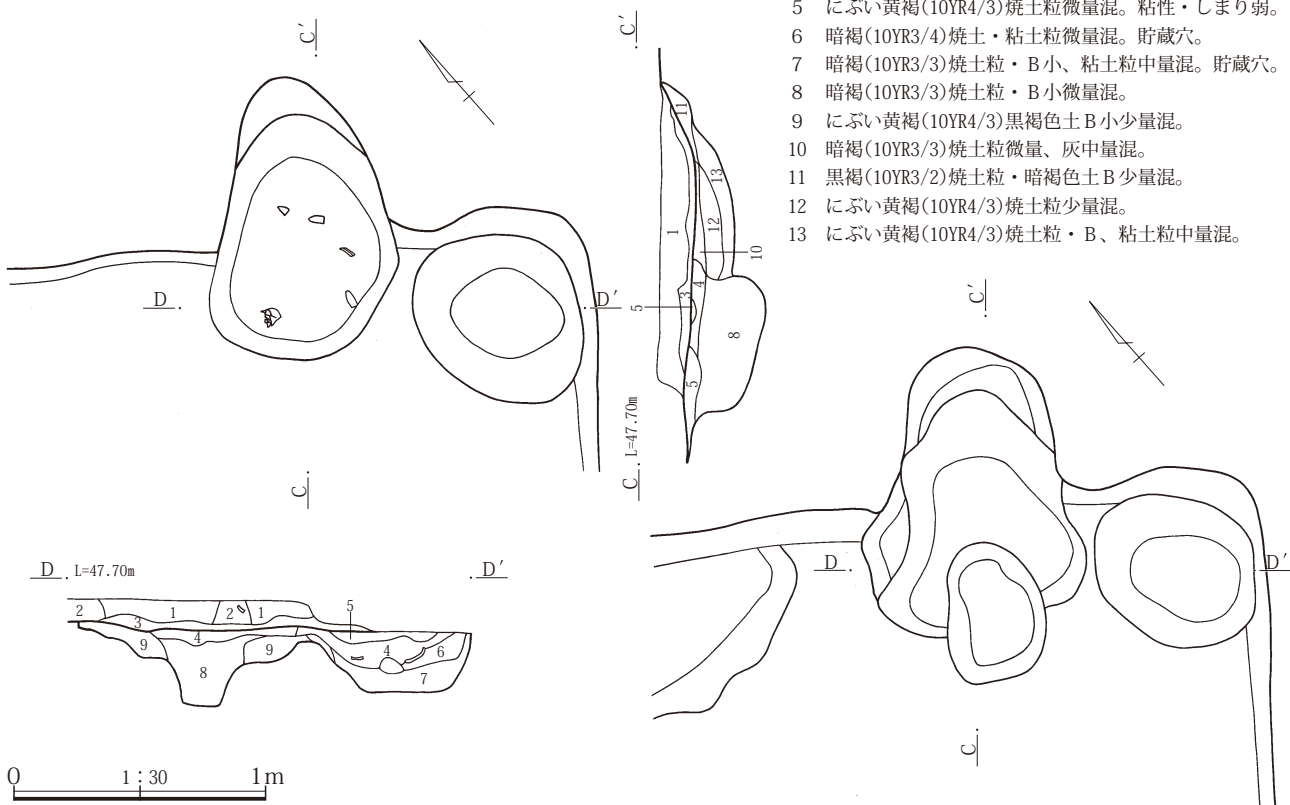
時期 出土遺物から9世紀第2～第3四半紀と考えられる。



- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土(洪水層か?)。白色軽石少量、酸化鉄分多量混。粘性・しまり弱。
- 2 黒褐(10YR3/2)焼土・炭化物多量混。しまり弱。
- 3 暗褐(10YR3/3)黒褐色土B極多量混。しまり強。貼床。

カマド

- 1 暗褐(10YR3/4)焼土粒少量混。微砂質。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒微量混。微砂質。
- 3 黒褐(10YR2/3)焼土粒中量、灰少量混。
- 4 黒褐(10YR2/2)灰中量混。
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒微量混。粘性・しまり弱。
- 6 暗褐(10YR3/4)焼土・粘土粒微量混。貯蔵穴。
- 7 暗褐(10YR3/3)焼土粒・B小、粘土粒中量混。貯蔵穴。
- 8 暗褐(10YR3/3)焼土粒・B小微量混。
- 9 にぶい黄褐(10YR4/3)黒褐色土B小少量混。
- 10 暗褐(10YR3/3)焼土粒微量、灰中量混。
- 11 黒褐(10YR3/2)焼土粒・暗褐色土B少量混。
- 12 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒少量混。
- 13 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒・B、粘土粒中量混。



第165図 7区2号住居



7区3号住居 (第166・167図 PL.77-3～5・78-1・2)

位置 980～984-798～801Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形または主軸方向が長い隅丸長方形

長辺 [2.67]m 短辺 2.43m

壁高 0.26m 面積 [6.27]m<sup>2</sup>

床面積 [5.16]m<sup>2</sup> 主軸方位 N-44°-E

壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 掘り方において、カマド右脇にピットが検出されたが、規模が小さく貯蔵穴と断定することはできない。

埋没土 にぶい黄褐色砂質土が堆積。大部分同質の層で埋没しており、洪水で一気に埋没した可能性がある。

床面状態 黒褐色土を含む暗褐色土で3～15cmの貼床

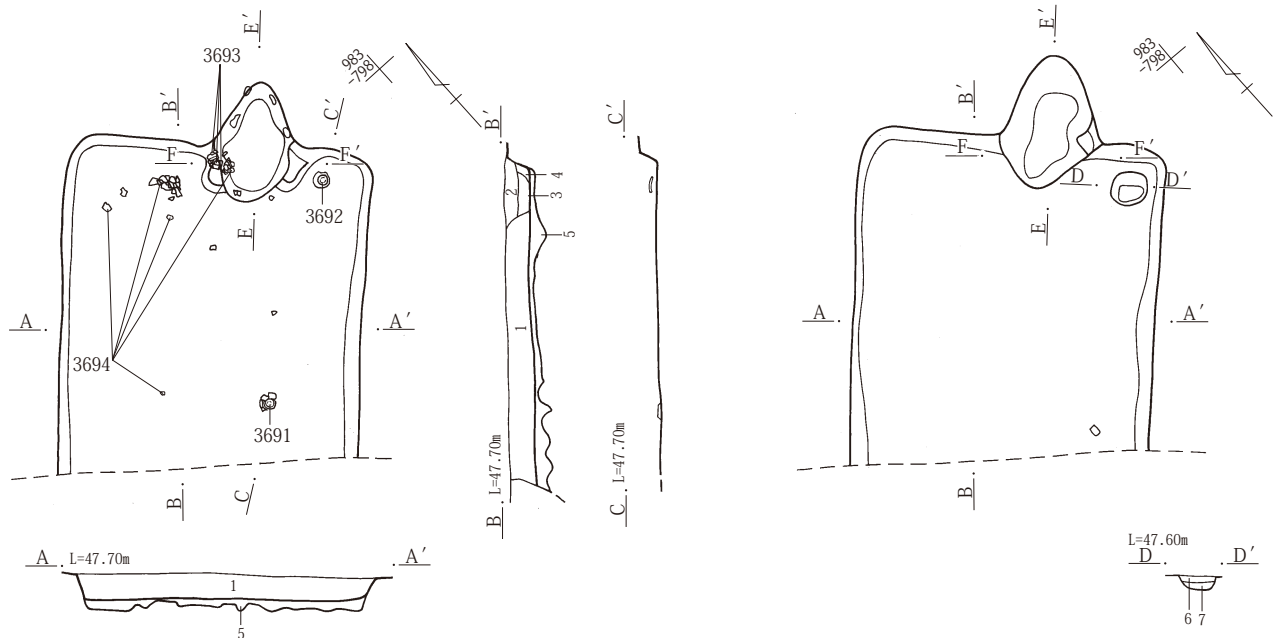
とし、全体的に硬化。水平な床面。

遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺を中心に出土。破片が多く、廃棄・遺棄遺物が多いと考えられるが、3691・3692は床面上出土で、遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 細かい凹凸はあるが、全体的に平坦な掘り方。

カマド 東壁南部に位置し、全長0.96m幅0.87mである。にぶい黄褐色粘質土で袖を構築する。焚口部・燃烧部底面はわずかにくぼみ、灰層が見られる。燃烧部奥壁から煙道部は27°で立ち上がっている。燃烧部西側から左袖にかけて、土師器甕片(3693)が出土している。

時期 出土遺物から9世紀第2～第3四半紀と考えられる。

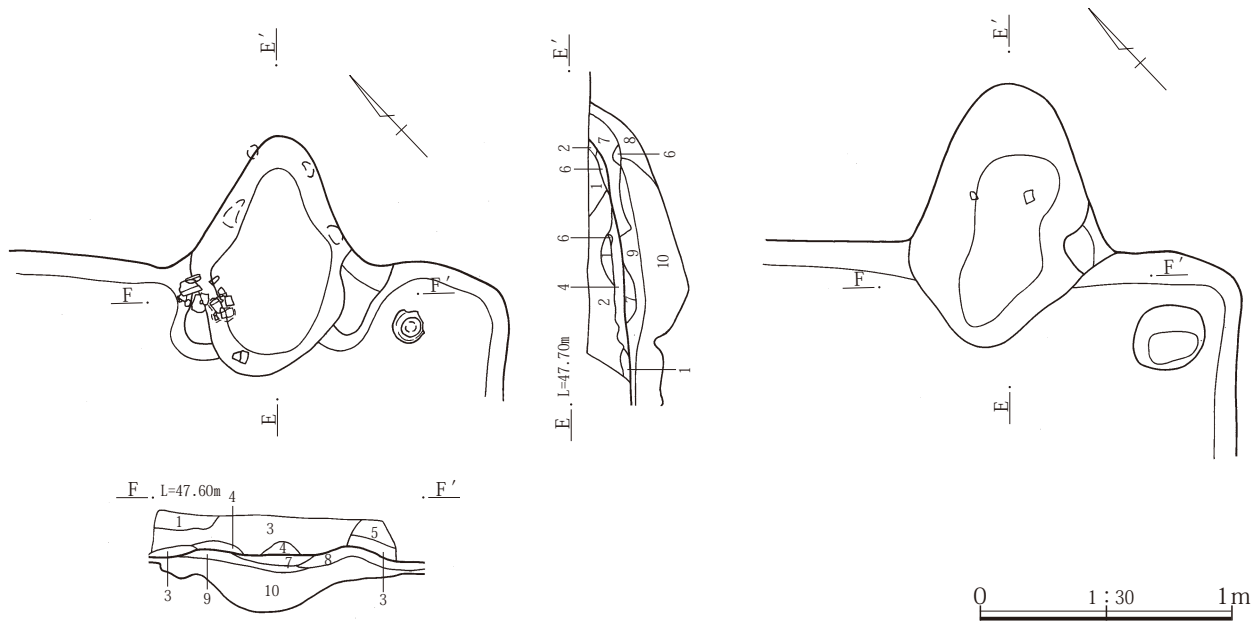


- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土。(洪水層か?)部分的に酸化鉄分混。粘性・しまり弱。
- 2 褐(10YR4/4)焼土・炭化物少量混。粘性・しまり弱。カマド粘土の流出か。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土。酸化鉄分少量混。粘性・しまり弱。
- 4 褐(10YR4/4)焼土少量混。粘性・しまり弱。
- 5 暗褐(10YR3/3)黒褐色土B極多量混。しまり強。貼床。
- 6 暗褐(10YR3/4)焼土・炭化物少量混。
- 7 暗褐(10YR3/2)粘性・しまり弱。

カマド

- 1 褐(10YR4/4)カマドに貼った粘土。白色軽石少量混。
- 2 暗褐(10YR3/3)焼土・炭化物少量、酸化鉄分全面に混。
- 3 暗褐(10YR3/3)微砂質。粘性・しまり弱。
- 4 黒褐(10YR2/3)焼土粒中量、灰少量混。
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)袖部粘土。白色軽石少量混。
- 6 にぶい赤褐(5YR4/4)焼土層。暗褐色土B少量混。
- 7 黒褐(10YR2/3)焼土・炭化粒微量、灰多量混。粘性・しまり弱。
- 8 暗褐(10YR3/3)炭化粒微量混。
- 9 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。
- 10 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。粘性・しまり弱。

第166図 7区3号住居使用面・掘り方



第167図 7区3号住居カマド

**7区4号住居** (第168図 PL.78-3 ~ 5・79-1)

**位置** 974 ~ 977-806 ~ 808Gr

**重複** 8・13溝より旧

**平面形態** 不明

**長辺** [1.88]m **短辺** [1.84]m

**壁高** 0.45m **面積** [2.74]m<sup>2</sup>

**床面積** [1.98]m<sup>2</sup> **主軸方位** N-28°-E

**壁溝** 東壁南部から南壁東部。他は不明。

**柱穴** 残存部分になし。

**貯蔵穴** カマド右脇。平面形は楕円形で、断面形は丸みを帯びた台形。長径約75cm、深さ約25cm。

**埋没土** 褐色土を含む黒褐色・暗褐色土が堆積。残存部分少ないが、壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

**床面状態** 暗褐色土を含む褐色土で部分的に2~6cmの貼床。ほぼ水平で全体的に硬化。

**遺物出土状況** 残存部分が少ないため出土量はあまり多くないが、ほぼ全面から出土。床面上出土のものもあるが、破片が多く、廃棄・流入遺物が多いか。3695の土師器杯は床面上の出土で遺棄遺物と考えられる。また、カマド右脇の床下からピットが検出され、そこから土師器甕(3698)の半完形品が出土。

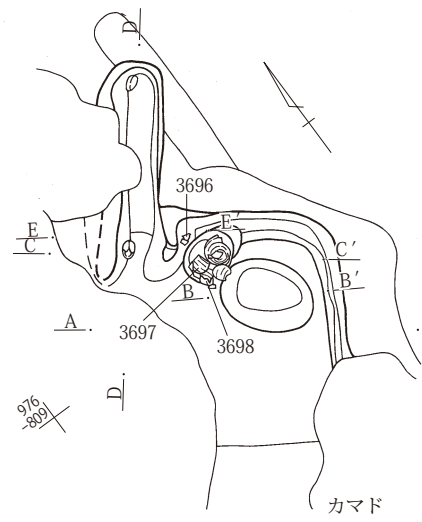
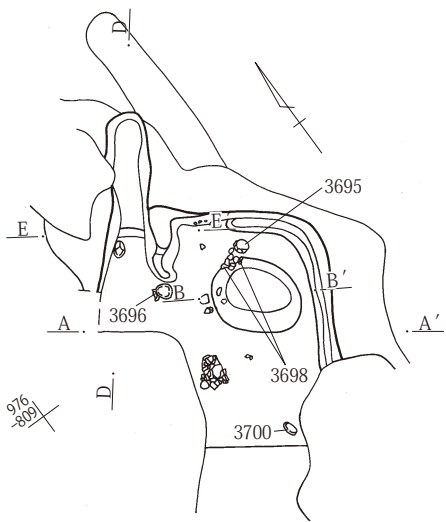
**掘り方** 残存部分少なく全体が不明であるが、一部掘り

方を床面としており、全体的に平坦な床面である。

**カマド** 東壁に位置するが、重複のため詳細な位置は不明。全長1.36m幅は現長で0.53m、煙道部全長0.91m幅0.33m、燃烧部幅0.42mである。地山を芯として袖を構築する。焚口部・燃烧部底面はほぼ平坦で、灰層が見られる。燃烧部奥壁は、低く急に立ち上がり、煙道部へ続く。煙道部底面は水平に延び、奥壁は83°で立ち上がる。燃烧部から自然礫を使用した支脚が検出されている。

**所見** 重複により住居の半分以上壊されているため不明な部分が多い。

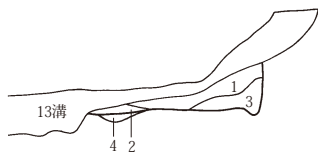
**時期** 出土遺物から7世紀第1~第2四半紀と考えられる。



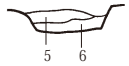
- 1 黒褐(10YR2/3) HR-FA・褐色土B・白色灰層(?)B少量混。
- 2 黒褐(10YR2/3)焼土粒微量、褐色地山B小少量混。
- 3 暗褐(10YR3/3)褐色地山B小中量混。
- 4 褐(10YR4/4)褐色地山主体。暗褐色土B中量混。貼床。
- 5 黒褐(10YR2/3)褐色地山B少量混。
- 6 暗褐(10YR3/3)褐色地山B多量混。

A. L=47.60m

C. L=46.90m



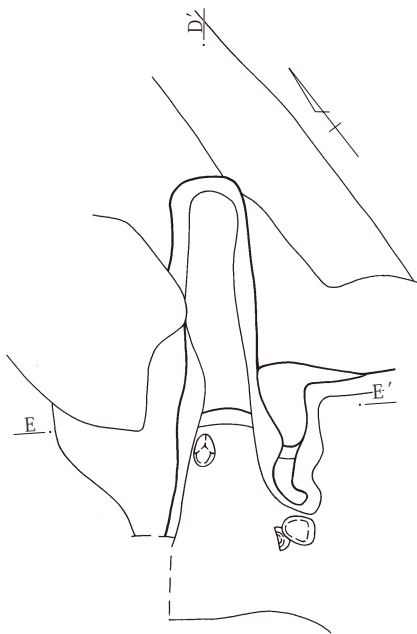
B. L=46.80m



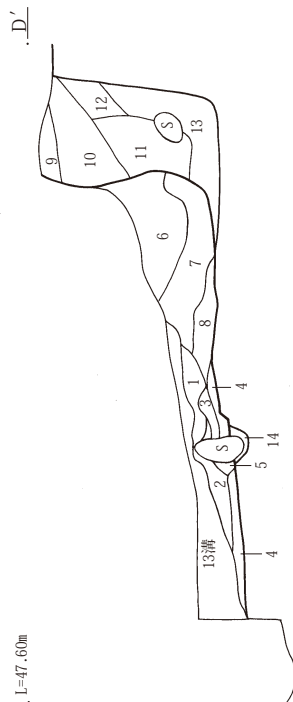
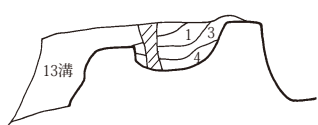
0 1:60 2m

カマド

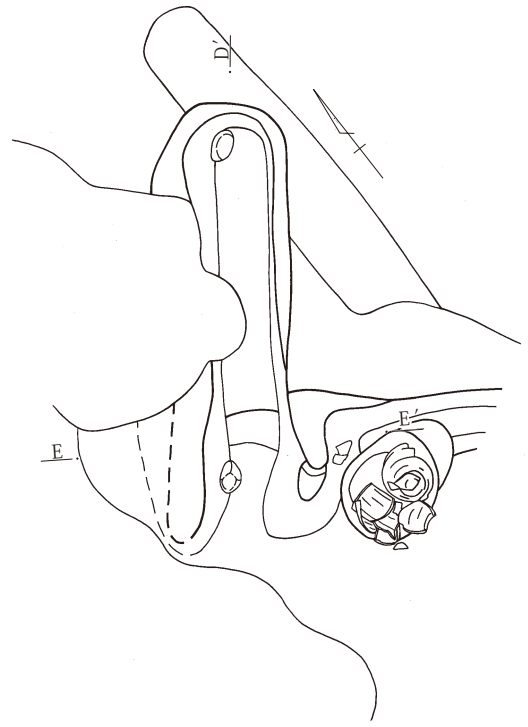
- 1 暗褐(10YR3/3)焼土粒・B小中量混。
- 2 褐(10YR4/4)焼土粒少量、褐色土B微量混。粘土層。粘性・しまり強。
- 3 にぶい赤褐(5YR4/4)焼土層。暗褐色土B微量混。粘性弱、しまり強。
- 4 黒褐(10YR2/3)焼土粒少量、灰多量混。粘性・しまり弱。
- 5 暗褐(10YR3/3)焼土・粘土粒微量混。
- 6 暗褐(10YR3/4)焼土粒微量混。
- 7 暗褐(10YR3/4)焼土B小～中多量混。
- 8 にぶい黄褐(10YR4/3)焼土粒少量混。
- 9 暗褐(10YR3/4) HR-FA少量混。
- 10 暗褐(10YR3/4)褐色地山B極多量混。
- 11 褐(10YR4/4)暗褐色土B少量混。
- 12 暗褐(10YR3/3)褐色地山B少量混。
- 13 暗褐(10YR3/4)焼土B・灰少量混。しまり弱。
- 14 褐(10YR4/4)崩れた地山主体。焼土粒微量混。粘性・しまり弱。



E. L=47.00m



D. L=47.60m



0 1:30 1m

第168図 7区4号住居

7区5号住居 (第169図 PL.79-2)

位置 965～967-818～822Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形または隅丸長方形

長辺 4.01m 短辺 2.73m 長辺/短辺 1.47

壁高 0.09m 面積 [7.73]m<sup>2</sup>

床面積 [6.98]m<sup>2</sup> 主軸方位 N-69°-E

壁溝 残存部分になし。柱穴 残存部分になし。

貯蔵穴 カマド右脇。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈す。長径約55cm、深さ約10cm。

埋没土 削平により不明。

床面状態 削平により不明。黒褐色・にぶい黄褐色土で5～15cm程度の貼床とする。

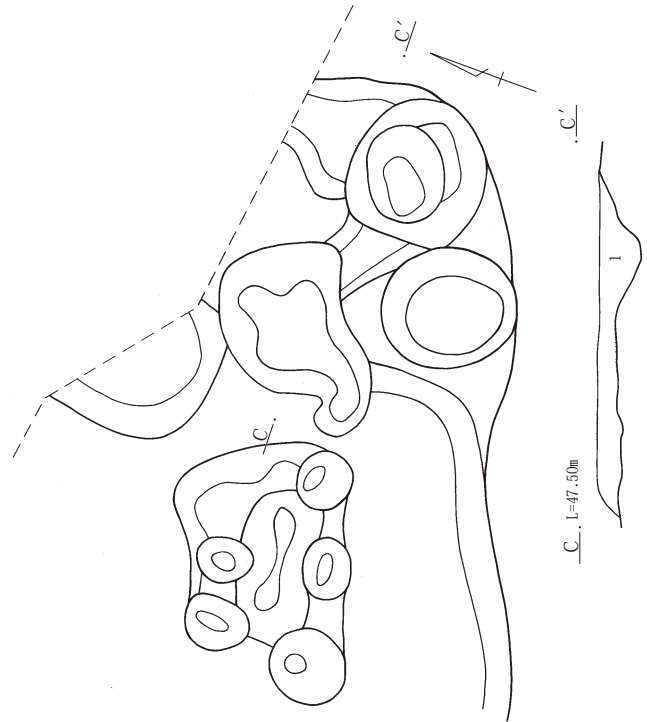
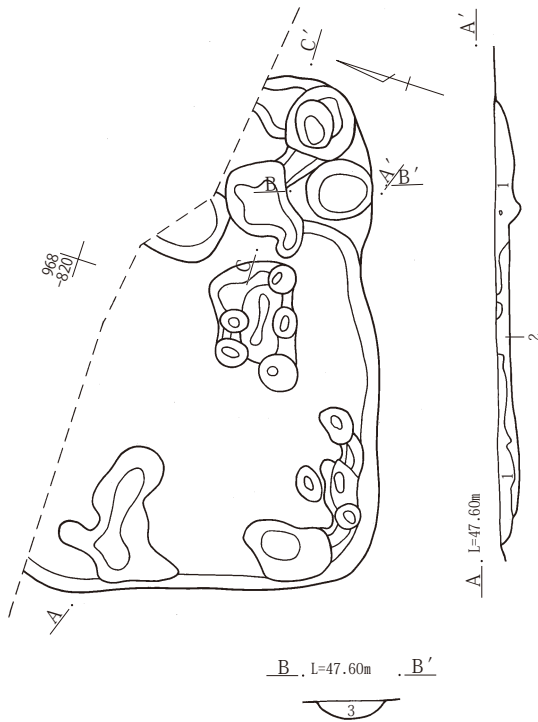
遺物出土状況 出土遺物なし。

掘り方 土坑状掘り込み・ピット多数あり。他は平坦な掘り方。

カマド 東壁に位置するが、削平や攪乱により詳細不明。

所見 上部が削平され、掘り方のみ残存するだけで、出土遺物もないため、詳細は不明である。

時期 出土遺物がないため不明。



- 1 黒褐(10YR2/3)黄褐色・橙色粒子、砂礫多量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)黄褐色・黄橙色・灰褐色粒子中量混。
- 3 褐灰(10YR4/1)黄褐色・赤褐色・灰白色粒子多量、砂粒極少量混。

- 1 黒褐(10YR2/2)赤褐色焼土・炭化物B小、黄褐色・灰褐色粒子多量混。

0 1:60 2m

0 1:30 1m

第169図 7区5号住居

7区6号住 (第170図 PL.79-3~5)

位置 954~957-777~781Gr 重複 なし

平面形態 隅丸方形か 長辺 3.75m

短辺 3.58m 長辺/短辺 1.05 壁高 0.73m

面積 [9.46]m<sup>2</sup> 床面積 [6.81]m<sup>2</sup>

主軸方位 N-64°-E 壁溝 残存部分全周。

柱穴 残存部分になし。

貯蔵穴 南東隅部に土坑状の掘り込みがあり、位置的に貯蔵穴の可能性もあるが、非常に浅く、貯蔵穴と断定できない。

埋没土 黒褐色・灰黄褐色・褐灰色土がレンズ状に堆積。壁際に三角堆積あり。自然堆積と考えられる。埋没方向不明。

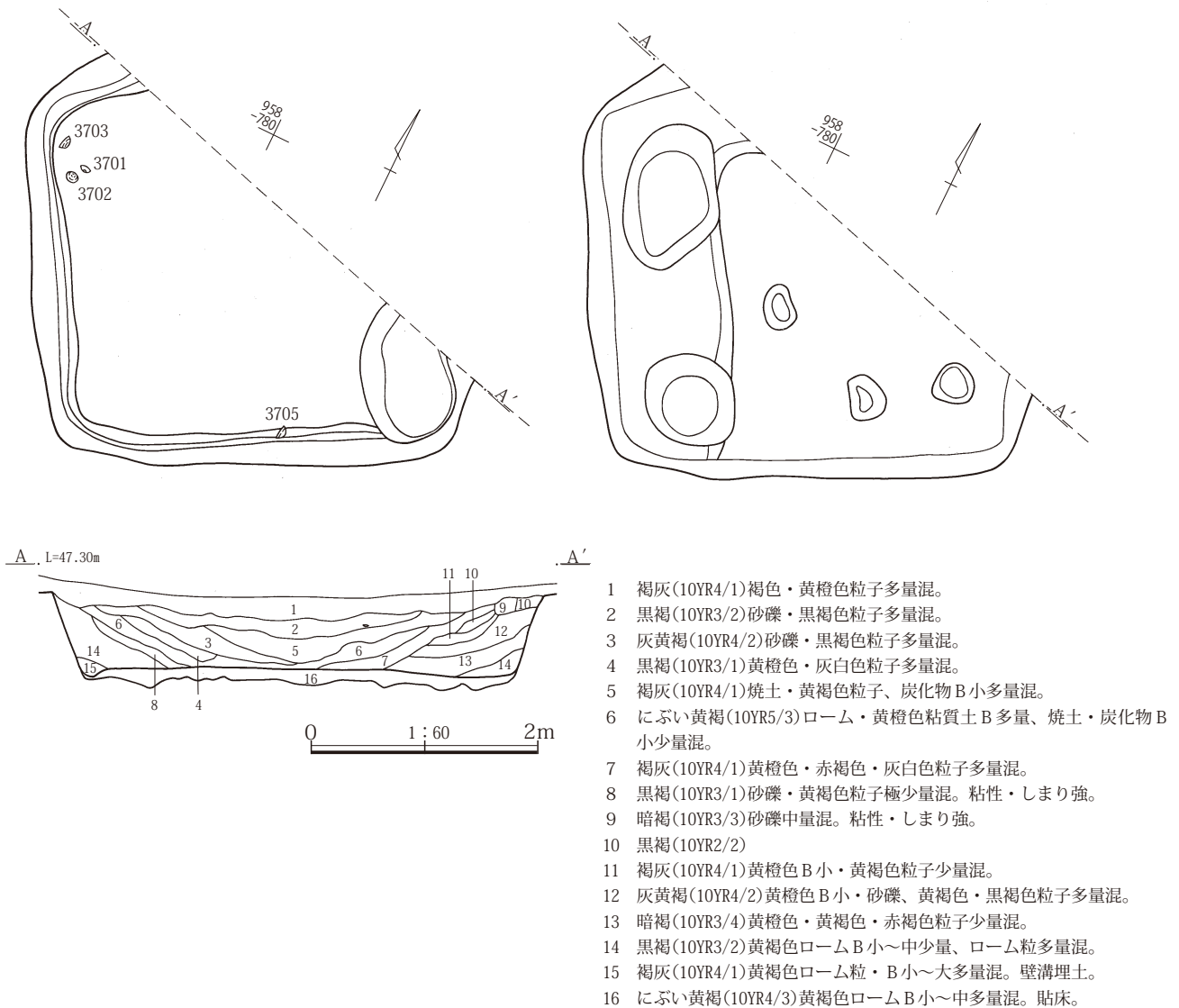
床面状態 ロームを含むにぶい黄褐色土で貼床。ほぼ平坦な床面。

遺物出土状況 出土量は非常に少なく、埋土中に散在。北西部に3個体、南壁際に1個体、土師器・須恵器杯の半完形品が出土。床面よりやや浮いているが、いずれも壁際であるため遺棄遺物の可能性がある。

掘り方 土坑状掘り込み・ピット数基検出。また、西壁際から北壁際にかけて溝状に掘り込まれている。

カマド 残存部分になし。北壁または東壁にあった可能性あり。

時期 出土遺物から7世紀第1~第2四半紀と考えられる。



第170図 7区6号住居

(3) 掘立柱建物 (第171～181図、PL.80・81)

掘立柱建物は15棟検出されている。ただし、5区5号掘立は、規模が小さく柱穴も不揃いであり、6区8号掘立は、柱の並びが平行でないため、掘立柱建物にならない可能性がある。

①分布 調査区北東部の5・6区に集中しており、他の区からは検出されていない。5区北東部に5棟、6区南西部に4棟、6区北東部に6棟と3つの群を形成している(順に1、2、3群とする。)

②形態・規模 不確実な2棟を除き、全体の形状が判明するものは13棟で、1×2間が、6区3・5・10号の3棟、

2×2間総柱が5区2号・6区2号の2棟、2×2間側柱が6区4・6号の2棟、2×3間総柱が6区11号の1棟、2間×3間側柱が6区7号の1棟、2×4間側柱が5区3号・4号の2棟、2×5間側柱が5区1号の1棟、3間×4間側柱が6区9号の1棟となっており、側柱が7棟、総柱が3棟、1間×2軒が3棟となっている。群ごとにみると、1群は2×5間側柱1・2×4間側柱2・2×2間総柱1、2群は2×2間側柱1・2×2間総柱1・1×2間2、3群は3×4間側柱1・2×3間側柱1・2×3間総柱1・1×2間1となっている。

規模は、1×2間が長辺3.63～2.17m面積6.38～4.00㎡、2×2間が長辺7.54～5.01m面積29.02～22.66㎡、

第19表 古墳～平安時代掘立柱建物一覧表

区	No.	位置(Gr)	重複	長辺 m	短辺 m	長辺/ 短辺	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14		
5	1	877~888-893~901	223・299円形周溝遺構、65溝	10.25	5.85	1.75	61.07	N-11° -W	長径cm 短径cm 深さcm	76 73 70	86 82 23	124 82 67	83 82 69	68 58 96	98 76 97	71 51 79	79 72 70	94 90 80	79 61 82	113 93 69	116 68 73	94 81 69	72 71 49		
5	3	872~878-904~914	56・57・58溝、4掘立	7.54	3.95	1.91	29.02	N-75° -E	長径 短径 深さ	82 76 61	128 112 102	89 89 58	132 82 63	86 83 67	89 84 56	96 84 84	123 104 52	102 82 59	90 76 63	74 (70) 70	96 93 54				
5	2	872~881-892~889		6.56	5.21	1.26	30.39	N-13° -W	長径 短径 深さ	154 73 96	68 56 50	106 81 97	110 76 43	126 85 83	106 70 79	152 66 111	104 69 48	(114) 64 82							
5	4	877~885-901~907	3掘立 48・49・50溝	7.04	4.73	1.49	33.27	N-10° -W	長径 短径 深さ	71 58 85	66 58 68	71 52 81	64 58 82	52 52 92	58 56 52	98 65 85	70 66 49	75 64 51	68 67 60	66 55 86	95 70 77				
5	5	896~899-913~916		2.00	1.36	1.47	2.73	N-3° -W	長径 短径 深さ	112 110 43	59 49 61	54 52 88	50 48 52	52 50											
6	2	901~907-848~854	5掘立	5.22	5.15	1.01	26.42	N-88° -W	長径 短径 深さ	65 47 33	61 46 43	98 73 48	81 70 36	79 67 43	84 72 41	93 58 45	60 72 34	114 72 33							
6	3	888~890-857~861		3.63	1.58	2.30	5.77	N-87° -E	長径 短径 深さ	46 35 37	36 35 21	36 32 35	31 25 28	42 62 29	36 29										
6	4	892~898-849~856		5.14	4.57	1.12	22.66	N-18° -W	長径 短径 深さ	39 37 73	51 48 52	41 33 81	57 46 25	84 64 66	64 54 60	83 71 77	49 38 27								
6	5	906~908-849~852	2掘立	3.25	1.98	1.64	6.38	N-84° -W	長径 短径 深さ	52 51 39	40 37 44	46 44 15	34 32 27	36 34 20	31 29 19										
6	6	915~922-811~818	7掘立	5.01	4.67	1.07	23.19	N-65° -E	長径 短径 深さ	59 44 41	48 37 25	67 47 54	29 27 17	48 46 42	45 33 26	46 40 30	36 31 26								
6	7	919~926-811~818	6掘立	5.81	3.57	1.63	20.29	N-58° -E	長径 短径 深さ	53 45 17	45 42 14	63 51 47	55 51 34	69 48 38	91 63 43	63 51 42	41 38 40	57 54 24	38 36 30						
6	8	927~933-837~844		5.71	3.32	1.72	17.58	N-63° -E	長径 短径 深さ	35 29 23	34 32 26	39 37 23	44 42 26	52 40 29	41 39 39	41 38 31	34 32 36								
6	9	929~939-818~828		8.66	5.39	1.61	48.77	N-53° -E	長径 短径 深さ	50 45 42	68 58 62	58 57 50	57 51 54	63 44 45	49 44 40	48 45 32	56 46 47	48 47 41	47 47 68	50 49 50	64 63 62	54 50 51	53 46 41		
6	10	932~935-828~831	180土坑	2.17	1.86	1.17	4.00	N-58° -E	長径 短径 深さ	45 40 41	33 32 27	63 38 40	49 42 37	34 30 32	58 55 39										
6	11	917~924-800~808	20住	5.78	4.52	1.28	25.59	N-48° -W	長径 短径 深さ	34 30 53	28 25 48	38 33 37	38 35 35	34 32 36	26 25 11	35 34 31	33 30 41								

2×3間が長辺5.81～5.78m面積25.59～20.29㎡、2×4間が長辺7.56～7.04m面積33.27～30.39㎡、2×5間が長辺10.25m面積61.07㎡、3×4間が長辺8.66m面積48.77㎡となっている。

③**主軸方位** 長辺の方向で北に近い方を主軸とする。南北を向くものが5区1・4・5・6区4号の4棟、東西を向くものが9棟で東西のものが圧倒的に多い。北から42°～101°の間で東(東西を向くものは短辺方向)に振れている。

④**柱穴** 柱穴の平面形は、円形・楕円形のもの(A類)と隅丸方形・隅丸長方形のもの(B類)に大別でき、円形・楕円形のもの、長径120～50cmの大規模なもの(A-1類)と、50～20cmの小規模なもの(A-2類)に分けられる。A-1類は主に5区1号・3号・4号・5号、6

区2号・4号・7号・9号の7基に存在し、A-2類は主に6区3号・5号・6号・8号・10号・11号の6基に存在している。B類は5区2号にのみ存在し、長径152～68cmと大規模である。A-1類およびB類の断面形は、底部が平坦で箱形・逆台形を呈するもの、底部に段あるいはピットがあり、さらに下がるものが多く、A-2類の断面形は底部が丸みを帯びるものが多くなっている。

柱痕または抜き取り痕のある柱穴は、確実なものは5区2号P1、5区4号P5だけであり、径はそれぞれ21cmと15cmである。柱間距離は、3.93m～1.03mと、建物により差が大きい。

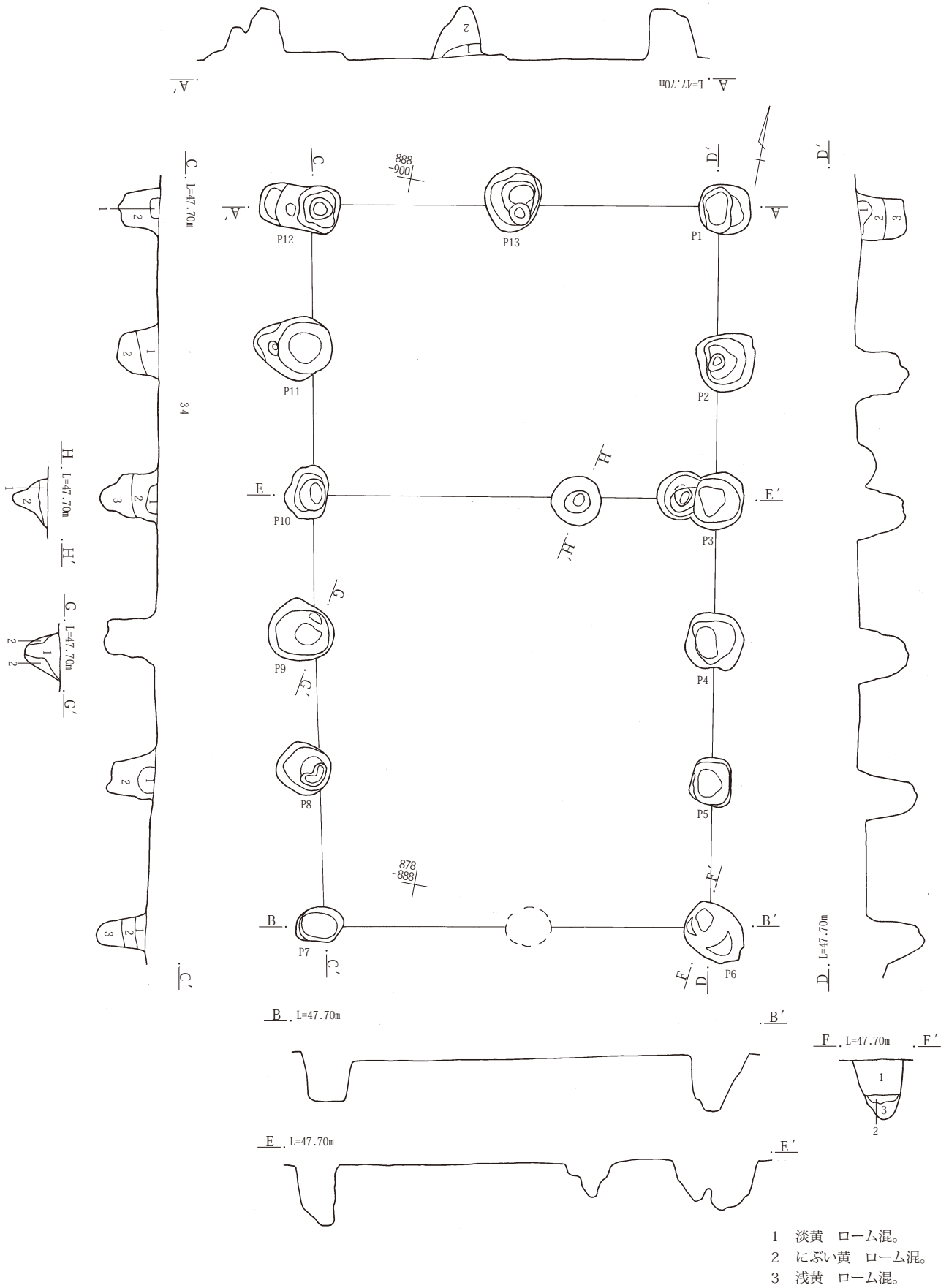
⑤**時期** 出土遺物が少ないため、詳細な時期は不明である。竪穴住居との重複関係や出土遺物から、8世紀以降のものが多いと考えられる。

第20表 古墳～平安時代掘立柱建物柱間一覧表

区	No.	柱間	柱間距離 (m)														
			P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9	P9-P10	P10-P11	P11-P12	P12-P13	P13-P14	P14-P15	P15-P16
5	1	2×5間側柱	2.22	2.00	2.02	2.03	2.16	(5.68)	2.26	1.95	2.10	2.12	1.98	2.98	P13-P14 3.09	P14-P15 2.00	P15-P16 3.93
5	2	2×2間総柱	3.39	3.12	3.17	2.17	3.15	2.75	2.36	3.16	P9-P10 3.00	P8-P11 2.68	P6-P9 2.42				
5	3	2×4間側柱	2.15	1.68	1.76	1.94	1.72	2.00	1.85	1.90	1.80	1.91	2.13	P12-P13 1.85			
5	4	2×4間側柱	1.58	2.06	1.83	1.65	2.42	2.26	1.61	1.89	1.90	1.65	2.27	P12-P13 2.35			
5	5	1×2間?	1.32	1.08	0.83	0.80	P5-P6 2.08										
6	2	2×2間総柱	2.59	2.42	2.52	2.46	2.25	2.93	2.75	2.76	P4-P8 2.34						
6	3	1×2間	1.86	1.78	1.61	1.67	1.83	P6-P11 1.68									
6	4	2×2間側柱	2.54	2.50	2.16	2.38	2.38	2.23	2.21	P8-P11 2.31							
6	5	1×2間?	1.66	1.55	1.91	1.55	1.64	P6-P11 1.84									
6	6	2×2間側柱	2.54	2.42	2.45	2.34	2.50	2.50	2.09	P8-P11 2.69							
6	7	2×3間側柱	1.81	1.96	1.71	1.68	1.86	1.82	1.85	1.91	1.71	P10-P11 1.85					
6	8	1×3間	1.91	1.73	1.82	2.97	2.20	1.78	1.76	P8-P11 3.42							
6	9	3×4間側柱	1.71	2.47	2.58	1.82	1.76	1.64	1.81	1.72	2.45	2.32	2.07	1.64	1.79	P14-P15	
6	10	1×2間	1.04	1.12	1.79	1.03	1.13	P6-P11 1.88									
6	11	2×3間総柱	1.92	1.95	1.86	—	1.80	2.28	2.08	P7-P11 2.15	P8-P12 2.36	P5-P8 2.38					

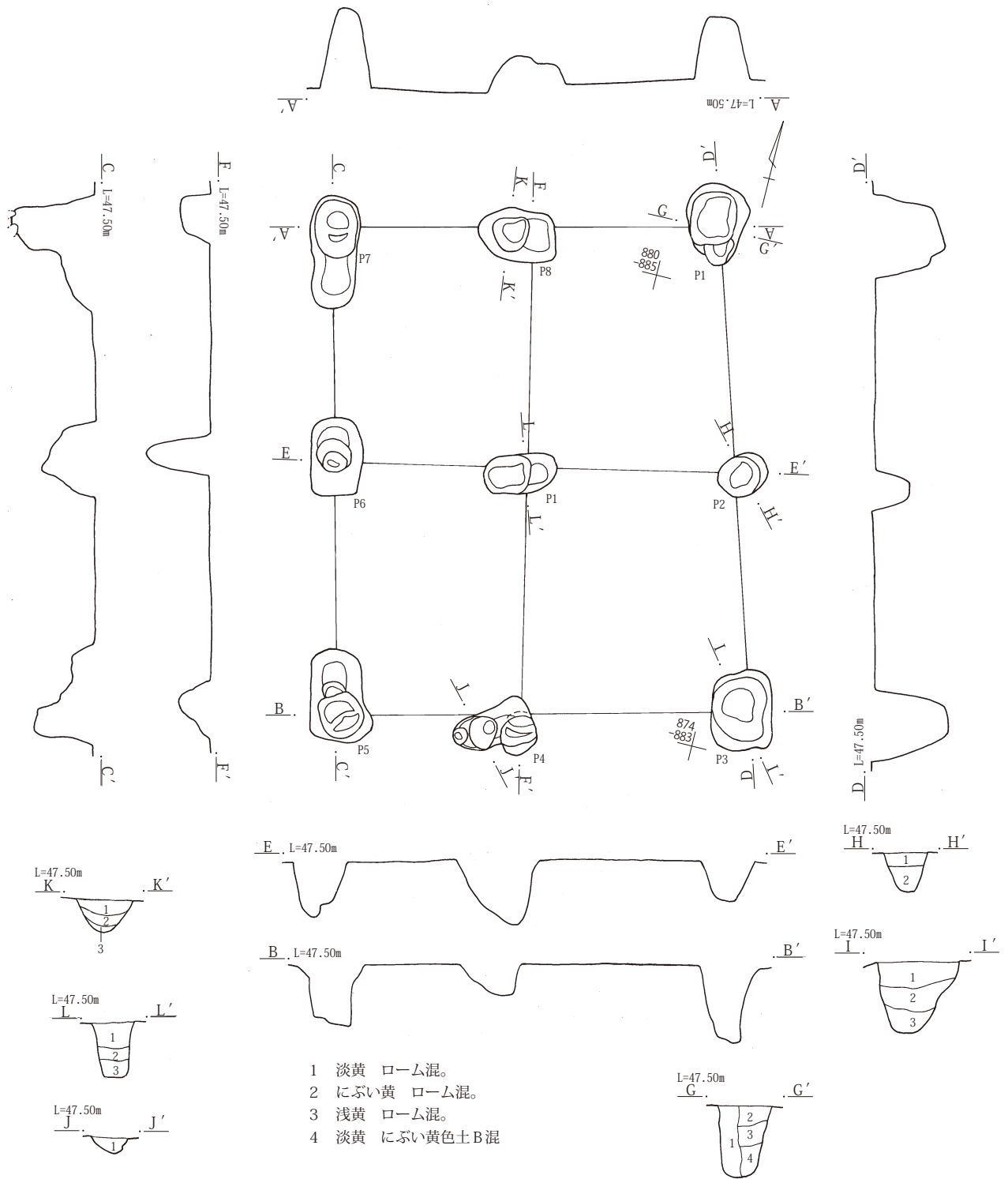
第21表 古墳～平安時代掘立柱建物出土土器重量表

区	No.	土師器			須恵器			計
		甕(g)	杯(g)	小計	甕(g)	杯(g)	小計	
5	1	200	40	240		10	10	250
5	2	100	20	120				120
5	3	720	110	830				830
5	4	30	30	60				60
5	5	60		60		20	20	80
6	2	60		60		2	2	62
6	3	50		50		2	2	52
6	4	60	20	80	10		10	90
6	5			0		3	3	3
6	6	80		80				80
	計	1360	220	1580	10	37	47	1627

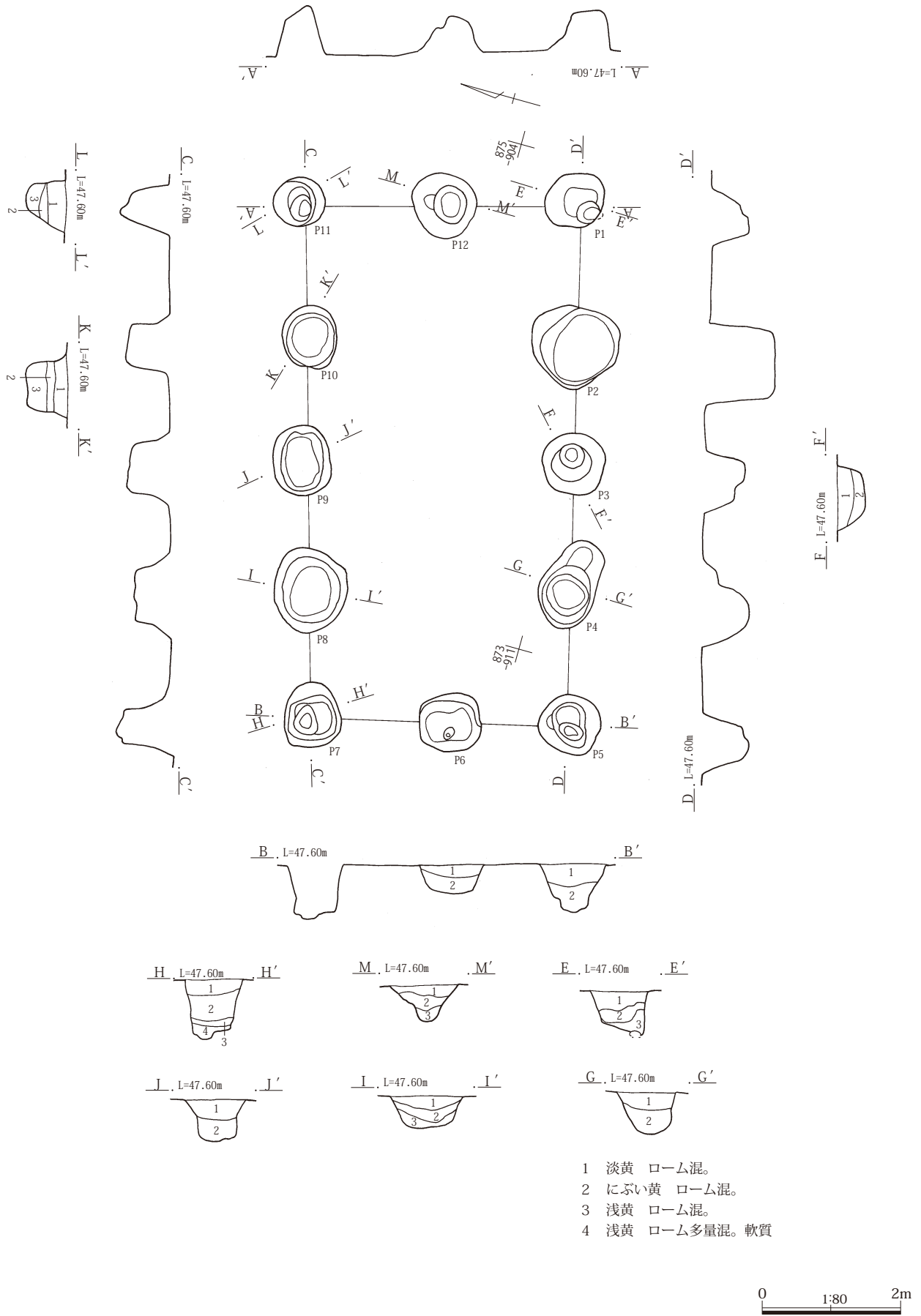


第171図 5区1号掘立柱建物

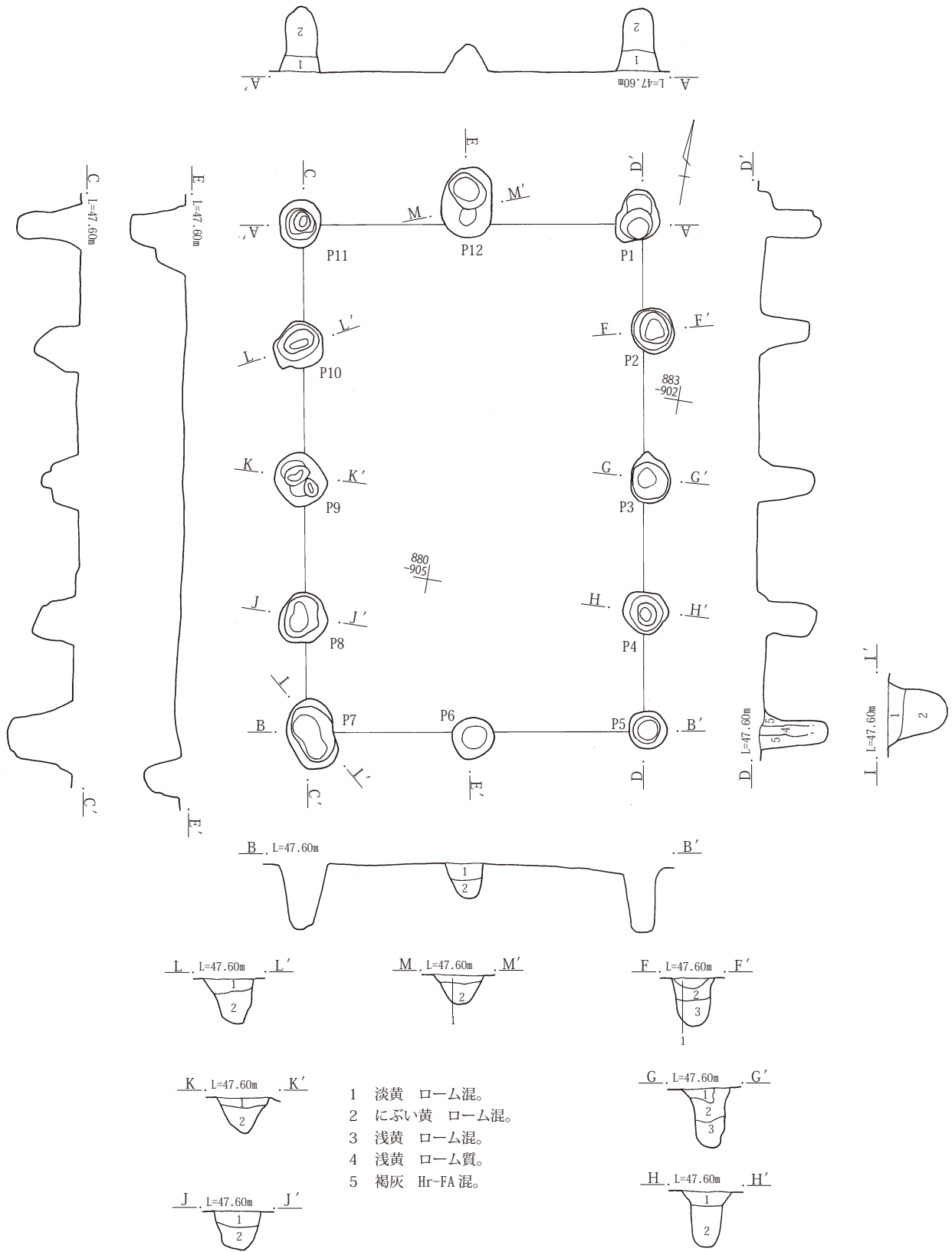




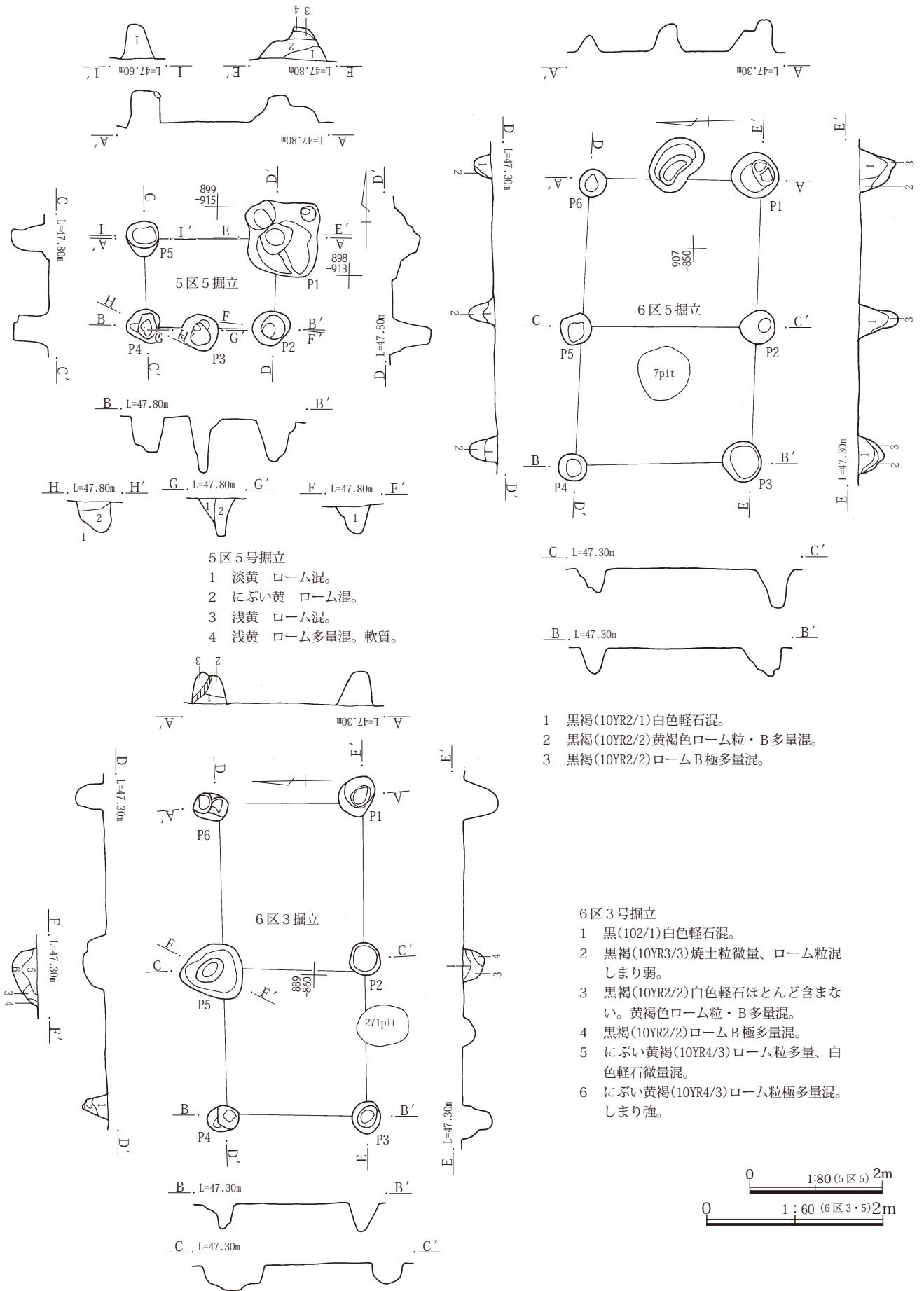
第172図 5区2号掘立柱建物



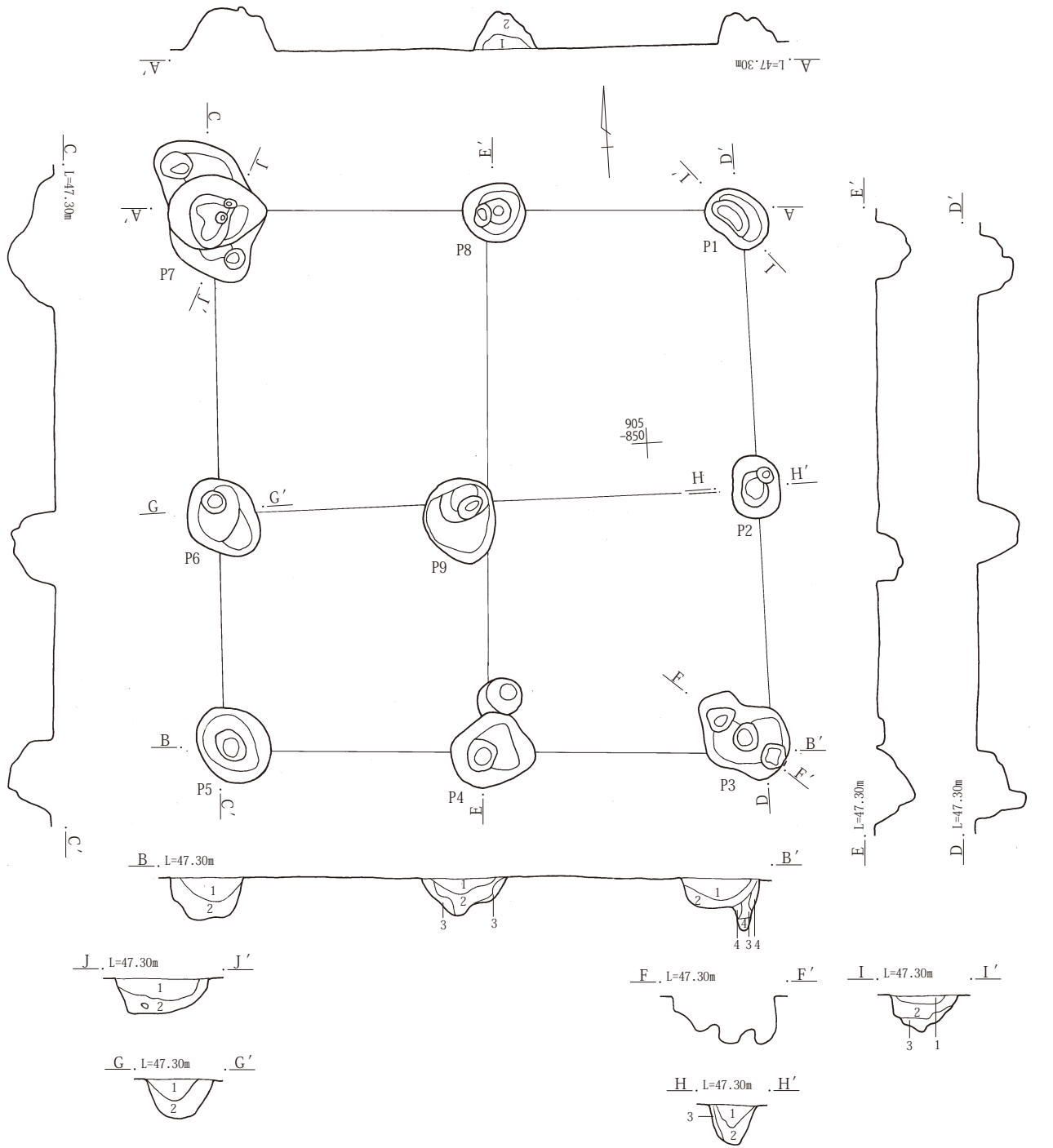
第173図 5区3号掘立柱建物



第174図 5区4号掘立柱建物

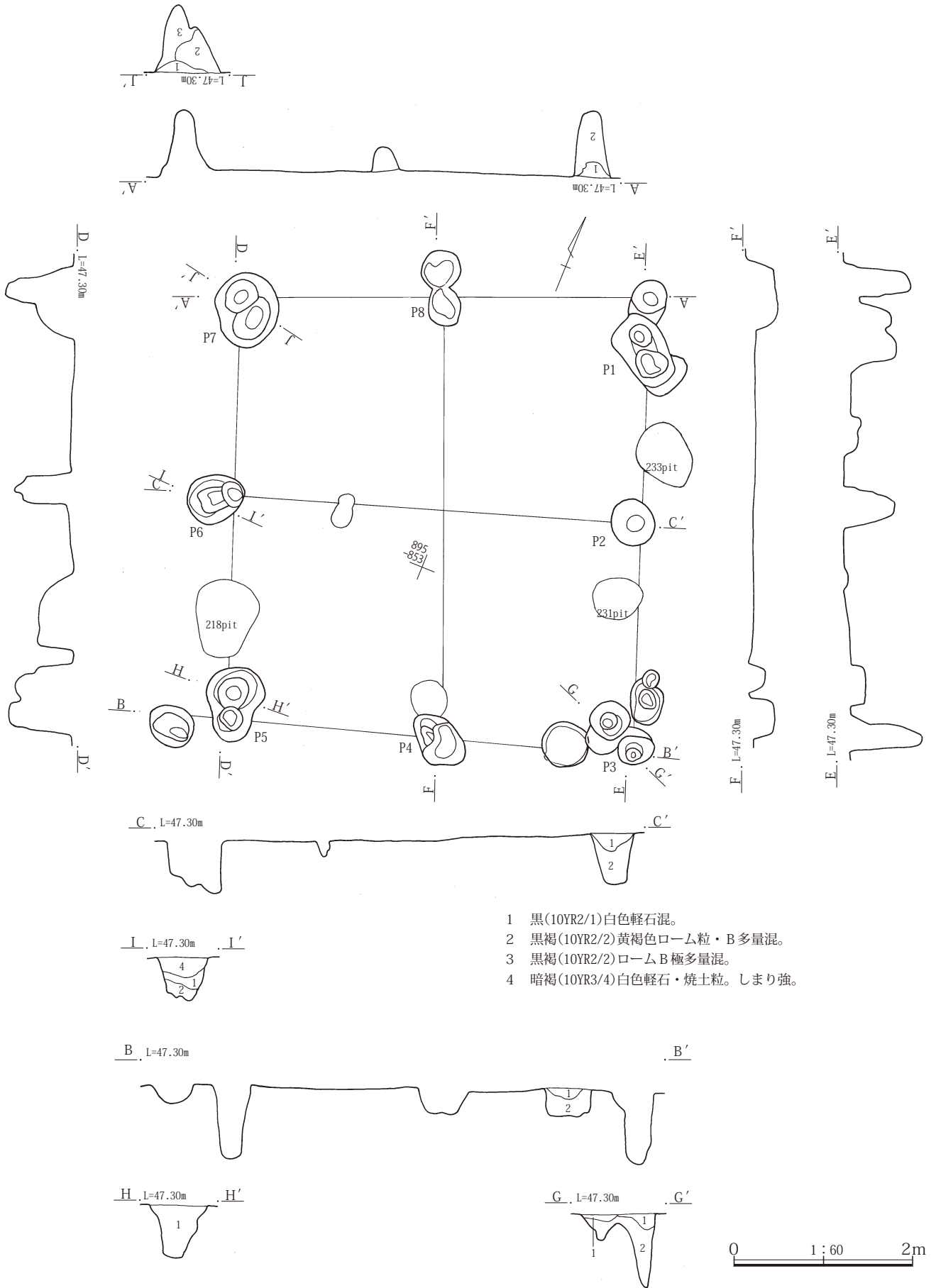


第175図 5区5・6区3・5号掘立柱建物

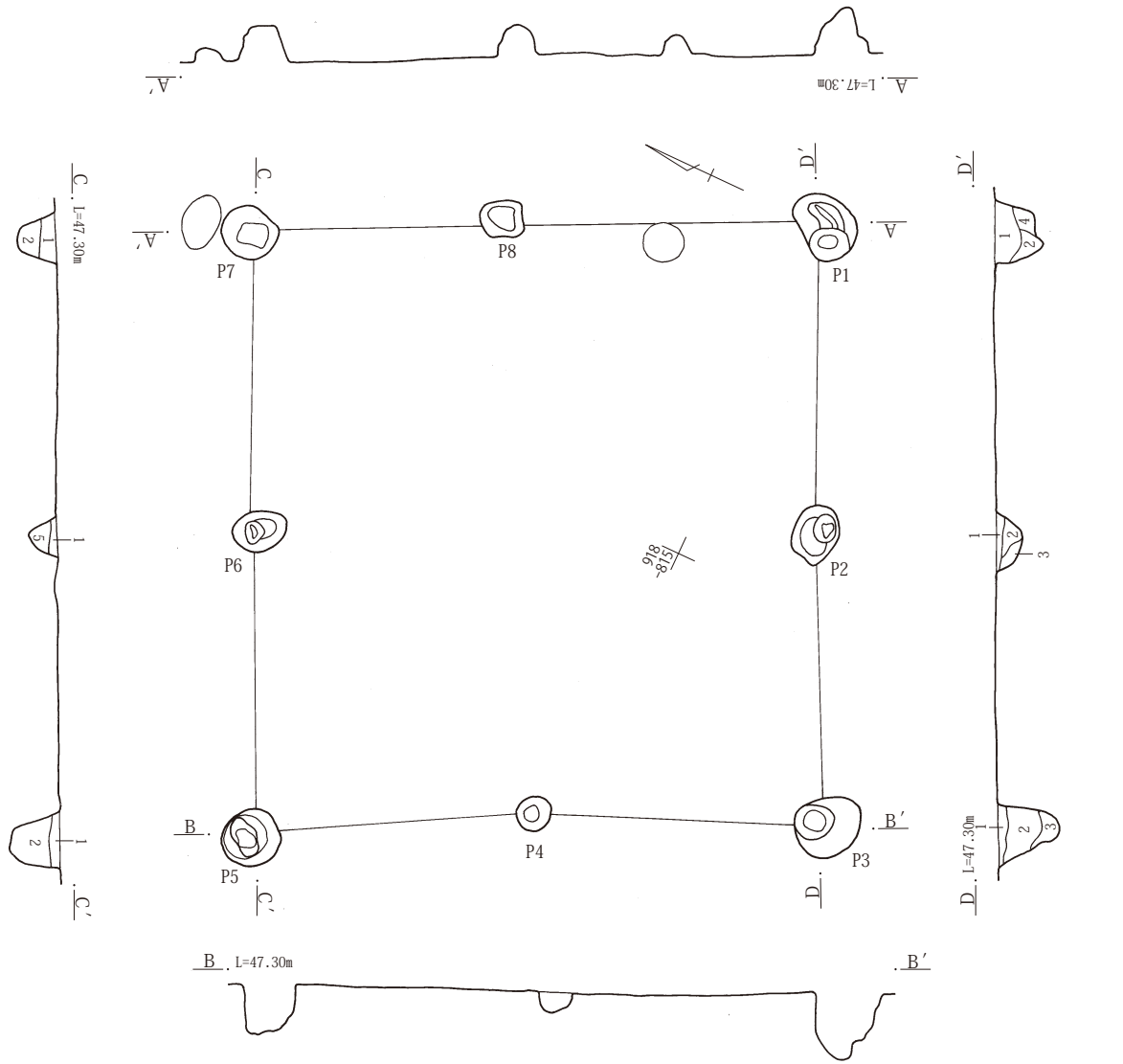


- 1 黒(10YR2/1)焼土粒・炭化物・白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。
- 4 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム主体。しまり強。

第176図 6区2号掘立柱建物



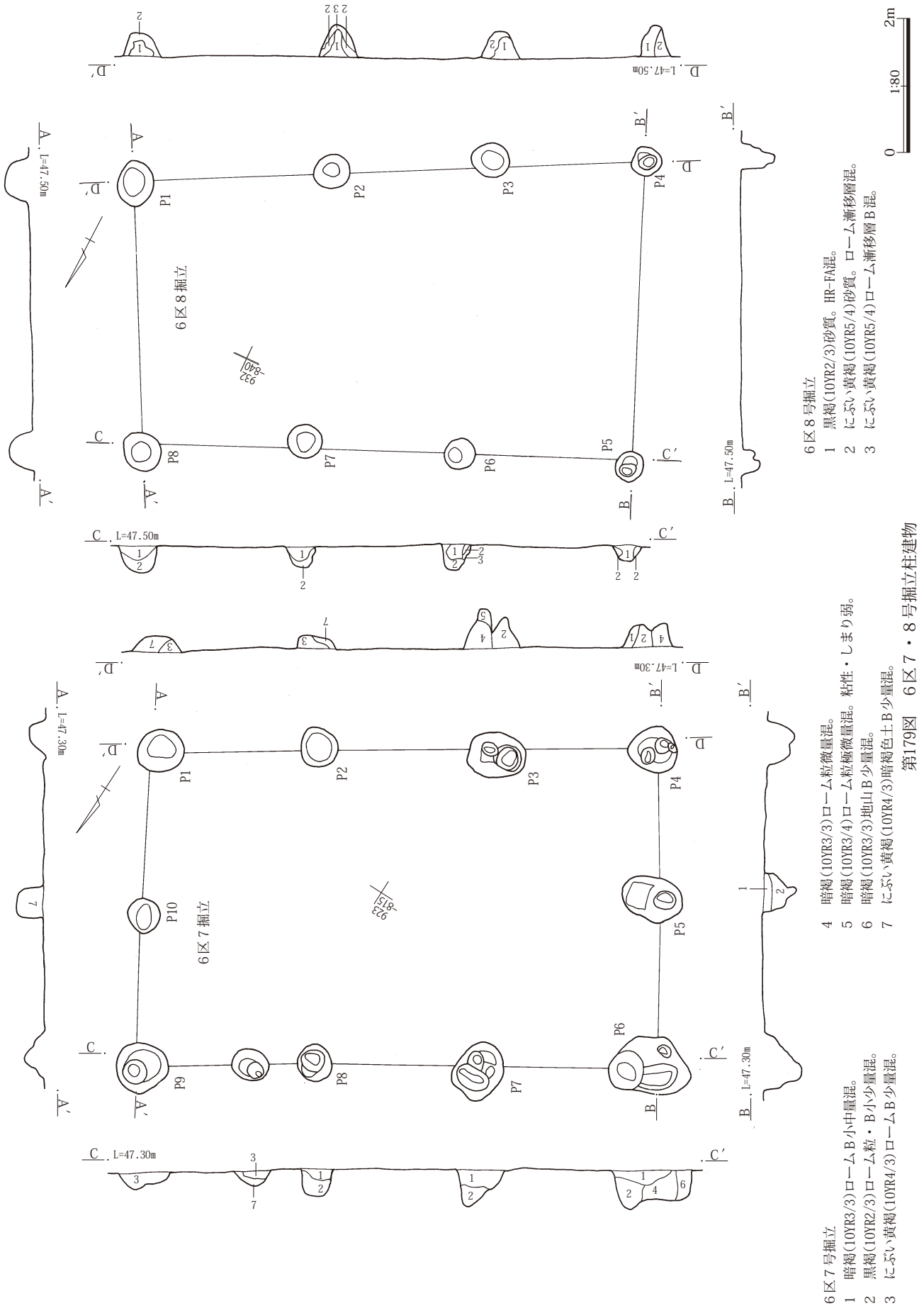
第177図 6区4号掘立柱建物



- 1 黒褐(10YR2/3)ローム粒・Hr-FA微量混。
- 2 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B少量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B小中量混。しまり弱。
- 4 黒褐(10YR2/2)ローム粒微量混。しまり弱。
- 5 褐(10YR4/4)ローム主体。黒褐B中量混。

0 1:60 2m

第178図 6区6号掘立柱建物



6区7号掘立

- 1 暗褐色(10YR3/3)ロームB小中量混。
- 2 黒褐色(10YR2/3)ローム粒・B小少量混。
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3)ロームB少量混。

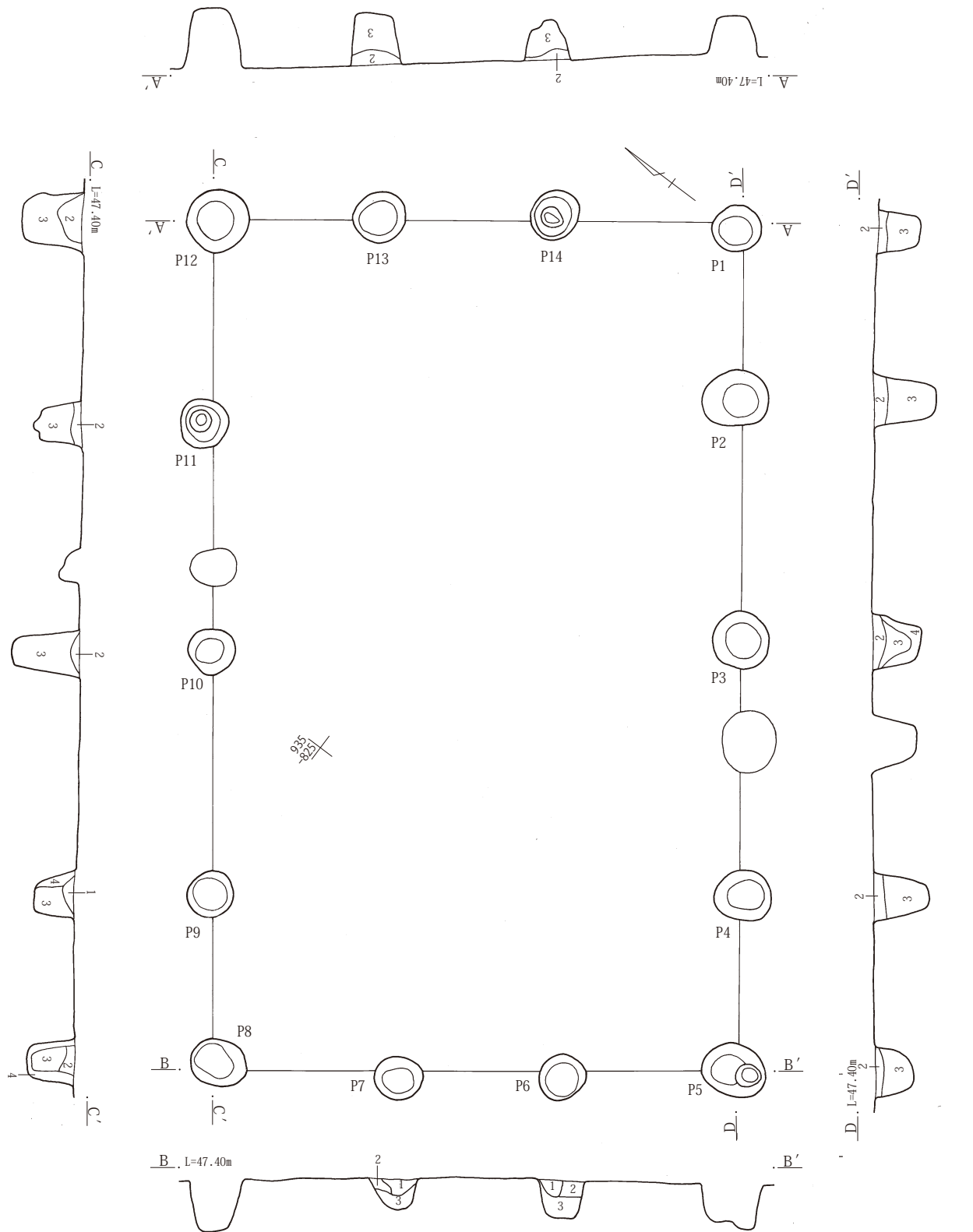
6区8号掘立

- 4 暗褐色(10YR3/3)ローム粒微量混。
- 5 暗褐色(10YR3/4)ローム粒極微量混。粘性・しまり弱。
- 6 暗褐色(10YR3/3)地山B少量混。
- 7 にぶい黄褐色(10YR4/3)暗褐色土B少量混。

6区8号掘立

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂質。HR-F混。
- 2 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質。ローム漸移層混。
- 3 にぶい黄褐色(10YR5/4)ローム漸移層B混。

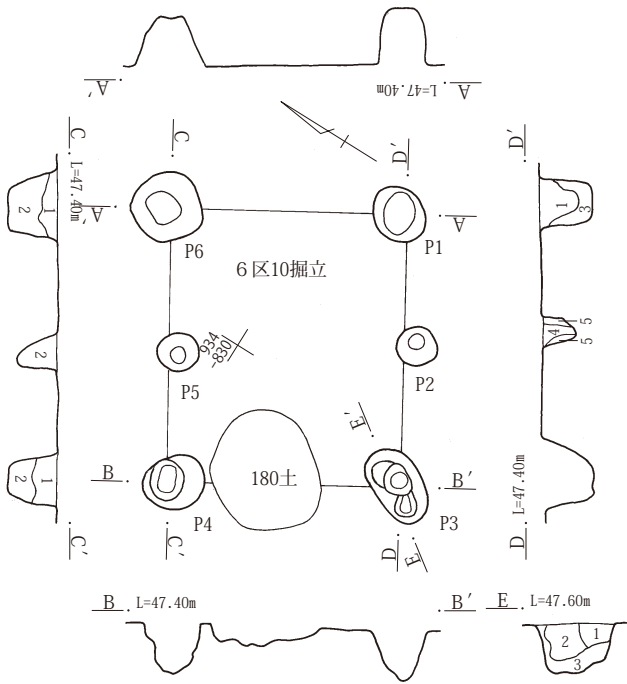




- 1 黒褐(10YR3/2)粒子ほとんど含まず。粘性弱、しまり強。
- 2 黒褐(10YR2/3) Hr-FA混土。ローム粒・B小中量、褐色粒子微量混。粘性弱、しまり強。
- 3 黒褐(10YR2/2)ロームB中多量混。しまり弱。
- 4 暗褐(10YR3/3)ロームB・ローム層・黒色土混。粘性・しまり弱。

0 1:60 2m

第180図 6区9号掘立柱建物

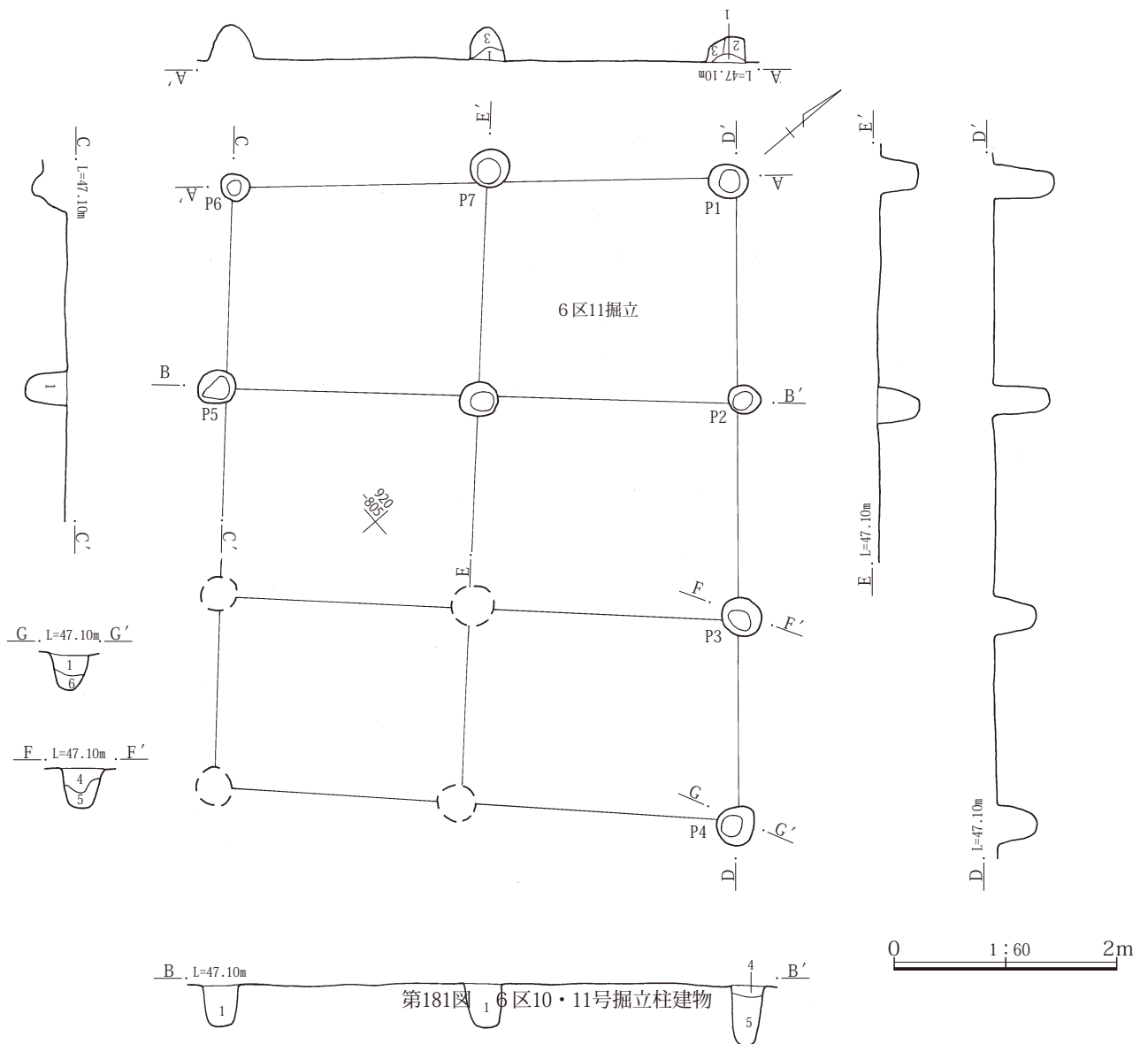


6区10号掘立

- 1 黒褐(10YR2/3)ローム粒・B中量、HR-FA少量混。
- 2 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B多量混。しまり弱。
- 3 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B極多量混。粘性・しまり弱。
- 4 灰黄褐(10YR4/2)ローム粒・白色軽石混。別番
- 5 にぶい黄褐(10YR5/2)ローム粒・B多量混。別番

6区11号掘立

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム少量、ロームB混。しまり強。
- 2 暗褐(10YR3/3)ローム少量混。しまり強。
- 3 暗褐(10YR3/3)ロームB大混。しまり強。
- 4 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B、白色軽石混。
- 5 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B多量混。
- 6 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム主体。しまり強。



第181図 6区10・11号掘立柱建物

## (4) 溝 (第182～208図・PL.81～94)

溝は86条検出されている。

①**分布** 1区で4条、3区で10条、4区で5条、5区で22条、6区で32条、7区で16条検出されている。この内、5区3溝と6区3溝、6区58溝と7区9溝、6区59溝と7区8溝は区をまたいで存在する同一の溝と考えられるため、合計は86条となる。調査区北東部の5～7区に集中している。

②**規模** 規模により大きく2類に分けられる。1つは、幅が広く深さもあり、調査区外へ続く大規模なもので、3区2溝、5区6区3溝、6区587区9溝、6区61溝、7区1溝・3溝・12溝である。7区4溝・10溝・11溝も、規模はやや小さく調査区外や重複で調査範囲が狭いため不確実ではあるが、同じ分類とすることができ、計11条である。(A類とする)最大幅4.98～1.23m、深さ119～67cmとなっている。後述するように、水路となるものが多いと考えられる。

他の溝は、幅が狭く浅いもので、調査区内で切れているものが多い。計74条である。(B類とする)最大幅2.84～0.21m、深さ63～1cmと、A類との規模の差は明確である。これも後述するように、耕作関係の溝が多いと考えられる。他に、7区13溝は幅・深さ等の規模は大きい長さは11.7mと短く、他の溝とは性格を異にしていると考えられる。

③**埋没土** 前期A類の溝では、3区2溝が黄褐色シルト層・砂質土層、5区6区3溝が暗褐色細砂層、6区587区9溝が灰褐色砂層・シルト層、6区597区8溝が暗褐色細砂層、6区61溝が黄褐色砂層、7区1溝・3溝が暗褐色細砂・粗砂・シルト層と、いずれも水性堆積と考えられる層で下層が埋没している。他のA類の溝も砂質土層で埋没しているものがほとんどである。

B類の溝は、Hr-FAに比定される白色軽石や、ローム粒子を含む黒褐・暗褐・黄褐色土で埋没するものも多く、6区15～21・23～25溝等は、洪水起源によるシルトを混入しており、耕作により攪乱された土が入っている可能性が高い。

④**断面形態** 削平が著しく断面形態がはっきりしないものも多いが、形態の判明する大規模な溝をみると、7区3溝3面等の半円形、3区2溝・5区6区3溝・7区3

溝2面等の逆台形、6区587区9溝・6区597区8溝・7区1溝1面等の、狭い底部からいったん垂直に近く立ち上がり、その後斜めに立ち上がる形態のもの等がある。

⑤**走向・傾斜** 走向は、溝の走向方向で北に近い方とした。南北方向と東西方向および斜め方向を比べると、南北が15条、東西が30条、北東から南西が42条、北西から南東が9条で、北東から南西が最も多く、次が東西で、この2つで全体の75%を占めている。

底面の傾斜は、標高差で62～1cm、勾配でみると6.17～0.23%である。矢部遺跡全体の地形は、北西から南西に向かい緩やかに傾斜している。溝の位置により微細な傾斜の違いはあるが、大きくみて地形の傾斜と同方向の傾斜のものは、1区6・7溝・3区7溝・6区2・7・61溝・7区3・12・14・15溝等40条あり、逆方向の傾斜のものは1区27溝、3区8・16・17溝7区1溝等22条、傾斜と直角に近い方向のものが、3区18溝・6区18溝等27条となっており、確認面と同方向のものが最も多いが、逆方向のものも同方向の半数以上とかなりある。3区2号溝と5区6区3号溝は、傾斜に関係なくほぼ東西南北を向いており、それぞれ北と東に延長すると直角に交わるため、同時期に存在していた可能性が高い。6区58溝7区9溝、6区59溝7区8溝、6区61溝、7区1溝、7区3溝等の他の大規模な溝は、地形の傾斜と同方向に走っている。

⑥**機能・時期** 溝の機能として考えられるのは、水路および土地区画(またはその両方)が代表的なものであるが、小規模なものや整然としていないものは、機能・性格の同定が難しい。当遺跡の溝も小規模なものが主体を占め、判別できないものが多い。

底面が傾斜し規模が大きく(調査区内で完結する程度)のものは「流す」ことにならない。最低でも調査区外に続くもの、水性堆積層で埋没している溝は、水路の可能性が高いと考えられる。調査区外に続く大規模なものは、3区2溝、5区3溝6区3溝、6区58溝7区9溝、6区59溝7区8溝、6区61溝、7区1溝、7区3溝であり、6区58溝7区9溝、6区59溝7区8溝、6区61溝、7区3溝は、調査区の南にある竜舞山前停車場線の矢部遺跡の調査区から、その続きと考えられる溝が検出されていて、さらに南に続くことが確認されている。底面の勾配は、順に0.64%、0.65%、0.52%、0.73%、1.02%、0.29%、

0.30%となっている。6区61溝以外はいずれも1%以下であるが、大規模で多量の水が入ることを考えれば、水が流れた可能性は高い。また前述のように、3区2溝、5区6区3溝、6区587区9溝、6区61溝、7区1溝・3溝は、水性堆積と考えられる土層で埋没しており、水が流れたことを裏付けている。

6区58溝7区9溝、6区59溝7区8溝、7区1溝、7区3溝は、洪水起源と考えられる土で埋没し、再び掘り直して使用することを繰り返しており、使用面が3～4面確認された。いずれの溝にも、埋土中に、後述する818（弘仁9）年の地震に伴う斜面崩壊あるいは地すべりに伴う泥流堆積物と考えられるものが確認されており（第Ⅳ章参照）、これらの溝はほぼ同時期に存在した可能性が高い。

他に、1区6・7溝はほぼ並行しており、幅は心々間距離で2.2mあるため、道路の側溝の可能性も考えられるが、両溝で規模に差がある、路面と考えられる部分の幅が側溝よりも狭い、片側の溝は途中で確認できなくなる等の理由で道路ではない可能性が高く、性格は不明である。

また、小規模で数条が平行している4区2～6溝、5区9・11～13溝、5区15～19溝、6区15～21溝は、畝の畝間の可能性もあるが、畝間にしては個々の距離がややありすぎ確実ではないため、溝に含めた。

時期の判明する溝は少なく、多くの溝は埋土の状況等からこの時期の溝としているが、前述の6区58溝7区9溝、6区59溝7区8溝、7区1溝、7区3溝は、818年の泥流が堆積しており、掘削時期はそれ以前とすることができ。また、7区1溝、7区3溝の埋土上層からは、9世紀後半代の遺物が出土しているため、この時期まで溝が存在していた可能性が高い。6区61溝からも、9世紀初頭～10世紀前半の遺物が出土しているため、この時期の間に存在していたと考えられる。

⑦**出土遺物** 出土遺物は少ない溝が多いが、図示できた残りのよい遺物が出土しているものをあげる。溝の性格上、遺構の存在した時期のものだけでなく、広範囲な時期の遺物が出土しているため、出土遺物の時期は幅を持たせた表記となっている。7世紀代の遺物は、7区13溝から土師器杯・須恵器甕(3785～3790)が、7世紀後半～8世紀後半の遺物は、5区6区3溝から土師器杯・

甕・台付甕・須恵器蓋・杯・高盤・甕・把手付横瓶(3709～3735)が、8世紀後半～9世紀後半の遺物は、6区61溝から土師器杯・須恵器杯・椀・鉢・長頸壺(3742～3766)が、9世紀前半の遺物は、6区56溝から、土師器甕(3738)が、9世紀前半～後半の遺物は、7区1溝から土師器甕・須恵器椀・杯・杯蓋・灰釉陶器手付瓶(3760～3755)が、7区3溝から土師器甕・須恵器杯・杯蓋(3781～3784)が出土している。9世紀後半の遺物は、6区587区9溝から須恵器杯・鉄族・針子？(3739～3741・3780)が出土し、他に9世紀代の須恵器椀が3区21溝(3708)と6区597区8溝(3779)から出土している。

この他に土師器甕片・杯片、須恵器甕片・杯片が出土している溝は、5区6区3溝、6区587区9溝、6区61溝、7区1溝、7区15溝で、土師器甕片・杯片、須恵器杯片が出土している溝は、6区26溝・56溝、7区3溝・17溝で、土師器甕片、須恵器甕片・杯片が出土している溝は、5区40溝、7区16溝で、土師器杯片、須恵器甕片・杯片が出土している溝は、6区2溝で、土師器甕片・杯片、灰釉陶器が出土している溝は、6区597区8溝で、土師器甕片・杯片が出土している溝は、5区55溝・6区54溝、7区13溝で、土師器甕片のみ出土している溝は、3区2溝・8溝、4区5溝、5区19溝・56溝、6区7溝・14溝、7区10溝・14溝で、土師器杯片のみ出土している溝が、4区6溝、5区8溝・12溝、6区11溝・13溝である。

第22表 古墳～平安時代溝一覧表

区	No.	位置(Gr)	重複	長さ m	最大幅 m	最小幅 m	深さ cm	底面標 高差cm	底面 勾配	底面傾斜 方向	確認面傾斜	走 向	備考
1	6	551～571-215～226	5住居、303土坑	23.58	0.76	0.42	1	10	0.42%	北西～南東	西～東	N-23° -W	
1	7	551～589-213～224	4・5・6住居、303土坑	40.50	1.54	0.46	23	13	0.32%	北西～南東	西～東	N-20° -W	
1	24	600～606-233～239	277土坑、23溝	9.86	0.92	0.43	25	36	3.65%	南～北	南～北	N-85° -W N-9° -E	
1	27	564～566-283～293		10.55	—	—	11	13	1.23%	西～東	北東～南西	N-76° -W	
3	2	711～792-047～054	8・18・19・20・22溝	79.74	4.98	1.10	83	51	0.64%	北～南	北東～南西	N-4° -W	
3	7	713～721-029～038		11.66	0.64	0.36	22	9	0.77%	北西～南東	北西～南東	N-42° -W	
3	8	737～772-033～049	2号溝	39.00	0.99	0.45	61	9	0.23%	南東～北西	北東～南西	N-30° -W	
3	16	739～776-054～063		39.08	0.44	0.16	6	30	0.77%	南～北	北東～南西	N-17° -W	
3	17	742～778-054～062		36.64	1.60	0.45	12	36	0.98%	南～北	北東～南西	N-16° -W	
3	18	740～752-037～050	19・20号溝	17.75	1.78	0.55	15	8	0.45%	北西～南東	北東～南西	N-34° -W	
3	19	750～754-047～050	18・20号溝	3.75	1.26	0.57	8	14	3.73%	北～南	北～南	N-42° -W	
3	20	752～756-045～050	18・19号溝	5.83	0.46	0.30	19	5	0.86%	南東～北西	北～南	N-64° -W	
3	21	740・741-038・039		1.62	0.43	0.33	23	10	6.17%	北～南	北東～南西	N-28° -E	
3	22	761～765-047～049		4.32	0.72	0.42	3	26	6.02%	南東～北西	北～南	N-35° -W	
4	2	794～797-961～967		6.26	0.53	0.27	11	7	1.12%	南西～北東	南西～北東	N-70° -E	
4	3	797・798-963～967		3.30	0.37	0.26	8	4	1.21%	南西～北東	南西～北東	N-72° -E	
4	4	799・800-964～966		2.92	0.71	0.26	4	2	0.68%	北東～南西	南西～北東	N-72° -E	
4	5	801～802-964～969		4.44	0.52	0.38	8	1	0.23%	北東～南西	南西～北東	N-73° -E	
4	6	803～805-964～969		5.23	0.44	0.26	7	4	0.76%	北東～南西	南西～北東	N-72° -E	
5	3	863～869-873～953	1・2・7溝、 6区3住より旧	93.20	3.20	1.20	89	51	0.00%	西～東	北～南	N-87° -E	
5	6	866～873-953～956	15遺構	7.39	0.67	0.41	24	15	2.03%	北西～南東	北東～南西	N-25° -W	
5	7	864～872-943～948	3号溝	9.02	0.30	0.26	2	11	1.22%	北東～南西	北西～南東	N-33° -E	
5	8	871～877-946～950	15・16溝	5.01	1.82	1.55	14	11	2.20%	南東～北西	北西～南東	N-49° -W	
5	10	829～931-927～929	1溝	2.68	0.43	0.24	9	4	1.49%	北西～南東	北東～南西	N-78° -E N-46° -W N-22° -E	
5	11	867～873-951～954		6.09	0.37	0.24	12	5	0.82%	北西～南東	北東～南西	N-34° -W	
5	12	870～875-950～953		5.67	0.61	0.28	16	10	1.76%	北西～南東	北東～南西	N-31° -W	
5	13	870～874-948～951		5.12	0.61	0.28	6	4	0.78%	南東～北西	北東～南西	N-30° -W	
5	15	876～878-948～949	8溝	2.40	0.36	0.28	7	4	1.67%	北～南	北～南	N-9° -W	
5	16	874～877-947・948	8溝	3.12	0.44	0.34	7	2	0.64%	北～南	北～南	N-18° -W	
5	17	872～878-944～947	14溝	6.30	0.42	0.29	17	8	1.27%	北～南	北～南	N-23° -W	
5	18	871～876-942～943	14溝	4.98	0.47	0.36	1	12	2.41%	北～南	北～南	N-13° -W	
5	19	870～874-940・941		3.90	0.48	0.34	9	7	1.79%	南～北	北～南	N-10° -W	
5	40-1	900～904-916～919	40-2溝	4.14	0.31	0.19	8	12	2.90%	北西～南東	北～南	N-42° -W	
5	40-2	900～904-916・917	40-1溝	3.65	0.40	0.24	14	14	3.84%	北西～南東	北～南	N-22° -W	
5	52	848～850-916～920	326土坑	3.97	0.35	0.23	7	4	1.01%	南西～北東	西～東	N-62° -E	
5	55	875～877-891～893	1掘立	2.54	0.51	0.40	21	8	3.15%	南東～北西	北東～南西	N-52° -W	
5	56	875-905～908	3掘立	2.62	0.45	0.22	7	2	0.76%	西～東	西～東	N-81° -E	
5	57	876-906～908	3掘立	2.13	0.28	0.23	7	5	2.35%	南西～北東	西～東	N-75° -E	
5	58	877-908～911	3掘立	3.68	0.43	0.30	7	5	1.36%	西～東	西～東	N-82° -W N-83° -E	
5	60	863-888～890		2.98	0.34	0.28	12	7	2.35%	北西～南東	北西～南東	N-40° -W	
5	65	879～883-898～900	1掘立	3.98	0.31	0.21	6	5	1.26%	北西～南東	北～南	N-30° -W	
6	2	875～884-872～882		39.89	1.72	0.67	30	33	0.83%	西～東	西～東	N-79° -W	
6	7	902～919-866～869	1畠より新	17.69	0.63	0.27	17	13	0.73%	北～南	北西～南東	N-9° -W	
6	8	896～898-869～874	419ピットより旧	5.36	0.36	0.16	11	7	1.31%	南西～北東	北西～南東	N-68° -E	
6	9	892～894-869～873		4.51	0.34	0.15	13	5	1.11%	南西～北東	北西～南東	N-76° -E	
6	10	888・889-870・871		1.02	0.34	0.18	9	2	1.96%	西～東	南東～北西	N-85° -E	
6	11	884・885-869～871	199ピットより旧	1.95	0.21	0.13	13	12	6.15%	南西～北東	南東～北西	N-72° -E	
6	12	880～882-869～875	598ピット	5.26	0.37	0.07	10	8	1.52%	西～東	東～西	N-75° -E	
6	13	881～885-860～862	3住	4.72	0.32	0.26	15	9	1.91%	北～南	西～東	N-33° -W	
6	14	874～883-847～849	9住	9.96	0.35	0.22	10	19	1.91%	北～南	南西～北東	N-9° -E	
6	15	924・925-853～856		3.00	0.32	0.18	3	1	0.33%	東～西	北～南	N-77° -E	
6	16	922～924-852～857		4.75	0.34	0.14	17	6	1.26%	北東～南西	北～南	N-71° -E	
6	17	920～928-851～854		3.35	0.46	0.19	15	7	2.09%	南西～北東	北～南	N-64° -E	
6	18	914～920-849～859	22・23溝より新	11.82	0.38	0.14	13	7	0.59%	南西～北東	北西～南東	N-56° -E	
6	19	915・916-855・856		1.73	0.25	0.13	4	3	1.73%	北東～南西	北西～南東	N-53° -E	
6	20	913～917-848～855		8.63	0.34	0.23	11	8	0.93%	南西～北東	北西～南東	N-58° -E	
6	21	914・915-850・851		1.74	0.22	0.16	7	3	1.72%	北東～南西	北西～南東	N-63° -E	
6	22	913～919-858～863	18溝より旧	8.02	0.35	0.18	14	6	0.75%	南東～北西	北西～南東	N-34° -W	
6	23	915～919-857～860	18溝より旧	4.87	0.38	0.26	6	11	2.26%	北西～南東	北西～南東	N-31° -W	

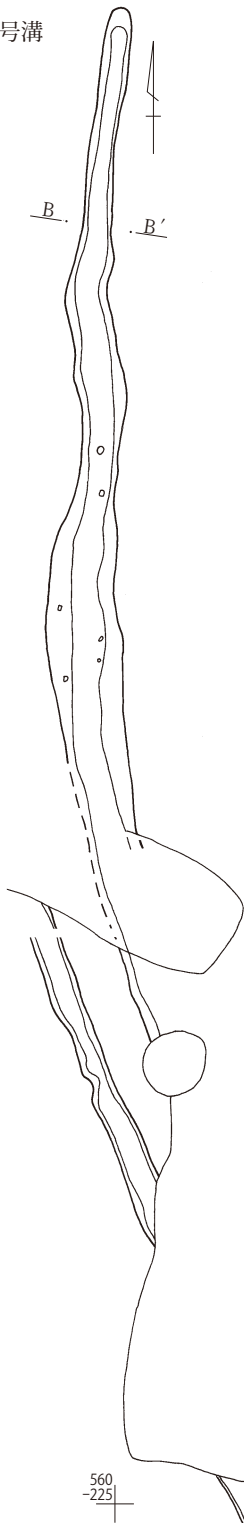
第三章 検出された遺構と出土遺物

区	No.	位置(Gr)	重複	長さ m	最大幅 m	最小幅 m	深さ cm	底面標 高差cm	底面 勾配	底面傾斜 方向	確認面傾斜	走 向	備考
6	24	910~913-845~848		4.62	0.27	0.15	5	5	1.08%	北西~南東	北西~南東	N-38° -W	
6	25	911~913-845~847		2.81	0.28	0.16	4	2	0.71%	北西~南東	北西~南東	N-35° -W	
6	26	936~950-775~794	50・54・55・57・60溝より新、58溝より旧	23.95	1.95	1.32	63	13	0.54%	北西~南東	北西~南東	N-53° -W	
6	50	935~945-773~783	26溝より旧	13.82	0.41	0.20	11	13	0.94%	北西~南東	北西~南東	N-49° -W	
6	51	874~877-845~847	9住より旧、50土坑	3.69	0.26	0.18	11	10	2.71%	北東~南西	西~東	N-20° -E	
6	54	949・950-789~793	26溝より旧・60溝より新	4.16	[0.83]	[0.50]	26	6	1.44%	東~西	北西~南東	N-81° -W	
6	55	942~947-784~789	26溝より旧	7.14	[1.13]	[0.56]	10	6	0.84%	北西~南東	北西~南東	N-41° -W	
6	56	942~947-784~789	26・58溝より旧	7.24	[1.17]	[0.16]	15	17	2.35%	北西~南東	北東~南西	N-37° -W	
6	57	949・950-787~790	26溝より旧	1.26	2.22	1.73	10	5	3.97%	北西~南東	北西~南東	N-29° -W	
6	58	934~950-772~793	6区26・56溝より新、7区15溝より旧、7区16・17溝より新	65.35	1.42	0.88	70	11		北西~南東	南西~北東	N-46° -W	
7	9	955~979-798~823											
6	59	937~950-768~784	6区13住、7区16・17溝より新、7区13溝	67.45	3.23	1.25	89	15	0.00%	北西~南東	南西~北東	N-47° -W	
7	8	953~984-784~819											
6	60	949~951-790~793	26・54溝より旧	3.05	1.13	0.99	39	6	1.97%	北西~南東	北~南	N-72° -W	
6	61	907~952-814~850	25住、187土坑より新	60.59	3.85	1.54	119	62	1.02%	北西~南東	北西~南東	N-39° -W	
7	1	958~997-740~799	10溝、2土坑より新	68.43	2.43	1.15	109	20	0.29%	南東~北西	西~東	N-59° -W	
7	3	960~994-757~803		56.15	2.68	1.43	106	17	0.30%	北西~南東	西~東	N-52° -W	
7	4	988~992-797~805	3溝より旧、3・4畠より新	8.83	1.42	1.25	73	5	0.57%	東~西	西~東	N-70° -W	
7	5	971~974-746~748	2溝	3.90	0.45	0.32	11	5	1.28%	南東~北西	南~北	N-39° -W	
7	6	974~978-817~823		6.26	1.02	0.78	16	6	0.96%	南東~北西	北東~南西	N-57° -W	
7	7	964~969-741~745	1・12溝より旧、17畠より新	6.02	0.46	0.25	9	6	1.00%	南西~北東	南~北	N-43° -E	
7	10	985~996-787~799	1・3溝、2土坑	15.56	1.45	0.92	86	8	0.51%	南東~北西	北~南	N-41° -W	
7	11	992~995-794~800	10溝より旧	6.41	1.23	0.90	78	10	1.56%	北西~南東	南西~北東	N-72° -W	
7	12	963~976-734~747	7溝より新、2溝	17.08	2.75	1.42	86	8	0.47%	南東~北西	南~北	N-44° -W	
7	13	973~982-805~814	32・35畠より新、8溝	11.97	(3.78)	(2.84)	99	29	2.42%	南東~北西	北東~南西	N-41° -W	
7	14	957~966-745~757	7土坑・4ピットより旧、31・36・40畠より新、39畠	15.22	0.52	0.12	14	16	1.05%	北西~南東	北西~南東	N-54° -W	
7	15	957~963-798~830	16溝より新	33.08	2.84	1.56	52	29	0.88%	東~西	南東~北西	N-80° -E	
7	16	954~960-773~815	17溝より新、15溝より旧	43.16	1.12	0.35	28	21	0.49%	西~東	南東~北西	N-82° -W	
7	17	953~958-773~809	16溝より旧	36.58	0.56	0.34	22	12	0.33%	西~東	南東~北西	N-86° -W	

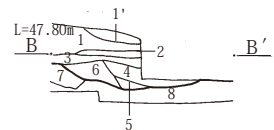
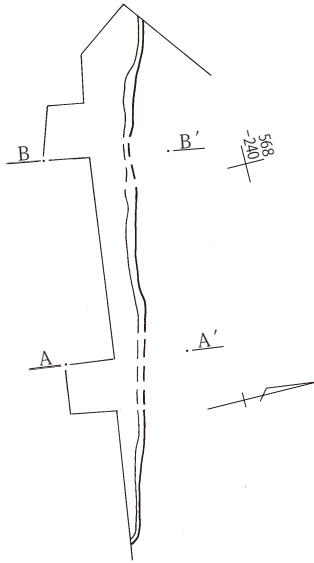
第23表 古墳~平安時代溝出土土器重量表

区	No.	土師器			須恵器			灰釉陶器 g	計	区	No.	土師器			須恵器			灰釉陶器 g	計
		甗 g	杯 g	小計	甗 g	杯 g	小計					甗 g	杯 g	小計 g					
3	2	42		42			5	5	47	6	24	10		10			0	10	
3	8	1		1				0	1	6	26	100	40	140		20	20	160	
4	3	3		3				0	3	6	50		20	20			0	20	
4	5	10		10				0	10	6	54	20	5	25			0	25	
4	6		3	3				0	3	6	56	80	10	90		15	15	105	
5	3	10000	960	10960	1600	170	1770		12730	6	58	70	60	130	15	15	15	145	
6	3	770	30	800		180	180		980	7	9			0	110	70	180	180	
5	8		8	8				0	8	6	59	20		20			0	20	
5	12		5	5				0	5	7	8		30	30			0	36	
5	19	2		2				0	2	6	61	3880	900	4780	2150	1040	3190	7970	
5	40	280		280	50	5	55		335	7	1	450	50	500	100	160	260	760	
5	55	15	20	35				0	35	7	3	770	150	920		790	790	1710	
5	56	10		10				0	10	7	10	90		90			0	90	
5	58		2	2	20		20		22	7	13	600	30	630			0	630	
6	2		310	310	220	90	310		620	7	14	80		80			0	80	
6	7	60		60		15	15		75	7	15	300	90	390	40	10	50	440	
6	11		5	5				0	5	7	16	140		140	30	20	50	190	
6	13		3	3				0	3	7	17	450	35	485		50	50	535	
6	14	25		25			0		25										

1区6・7号溝

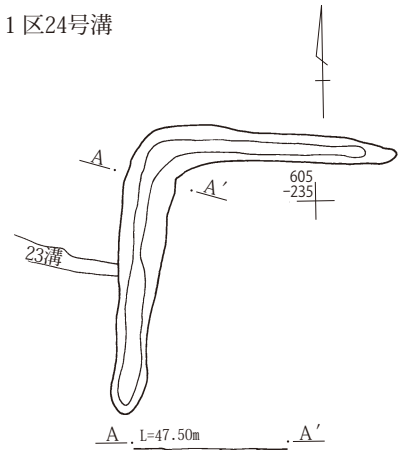


1区27号溝



- 1' 黄褐 盛土(客土)
- 1 褐灰 盛土(客土)
- 2 暗褐白色・黄色・橙色粒子混。As-B混土。
- 3 灰黄褐 白色・橙色粒子少量混。
- 4 暗褐 ローム粒、黒褐色土B混。
- 5 にぶい黄褐 ローム粒多量混。粘性やや強。
- 6 黒褐 白色粒子少量混。
- 7 暗褐 白色粒子少量混。粘性強。
- 8 黄褐 砂質ローム(ローム漸位層)。黒褐、暗褐色土混。
- 9 黄褐 砂質ローム。

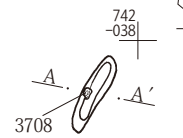
1区24号溝



A, L=47.50m A'

- 1 にぶい黄褐 ロームB中少量混。
- 2 にぶい黄褐 ロームB中量混。

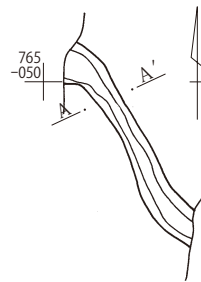
3区21号溝



A, L=47.50m A'

- 1. 黄褐 砂質、シルト。

3区22号溝



A, L=48.00m A'

0 1:80 2m

0 1:150 4m

B, L=47.60m B'

2

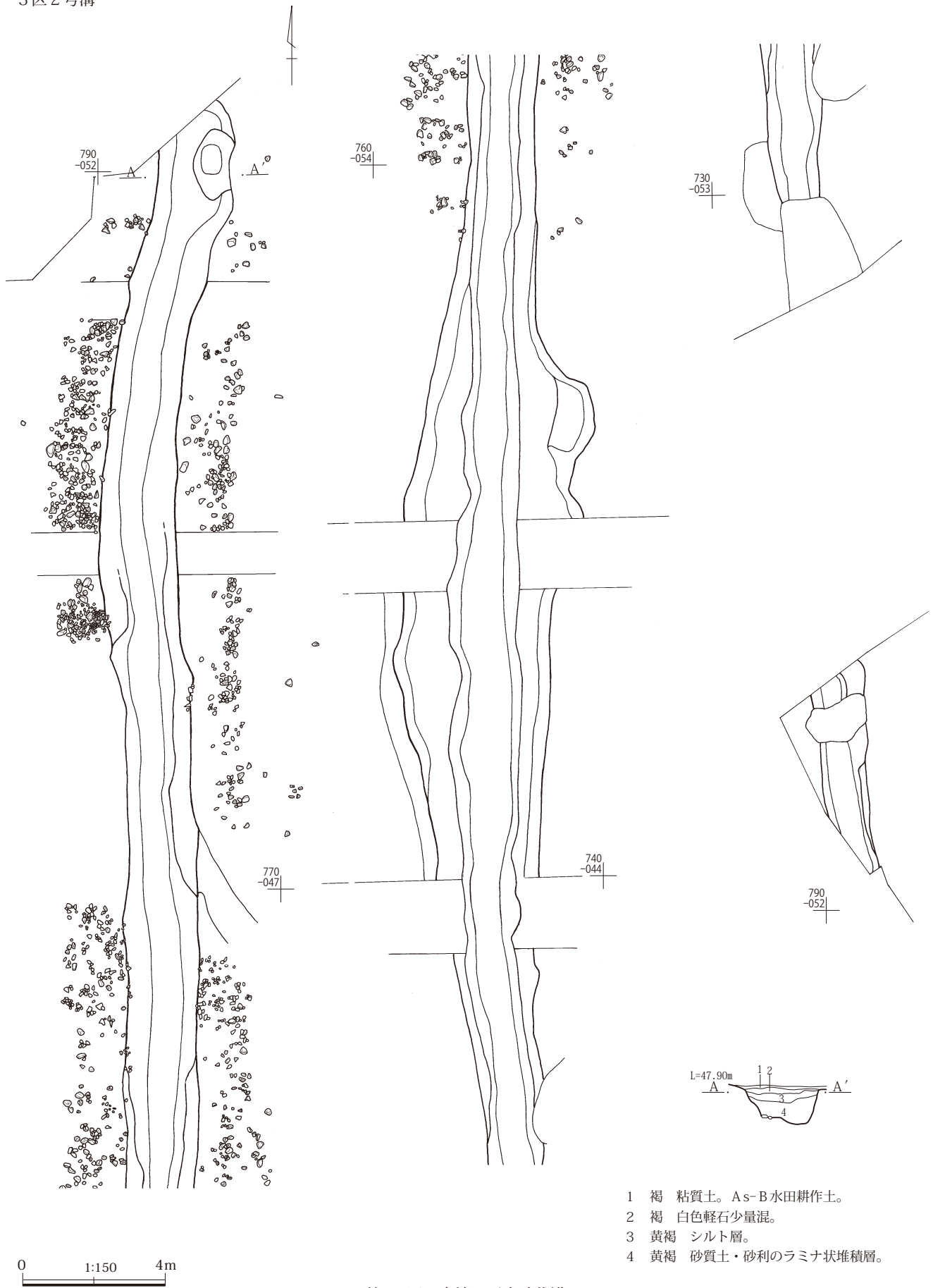
A, L=47.60m A'

1

- 1 褐灰 ローム粒・白色粒子少量混。砂質。
- 2 灰褐 粘性やや強。

第182図 古墳～平安時代溝1

3区2号溝

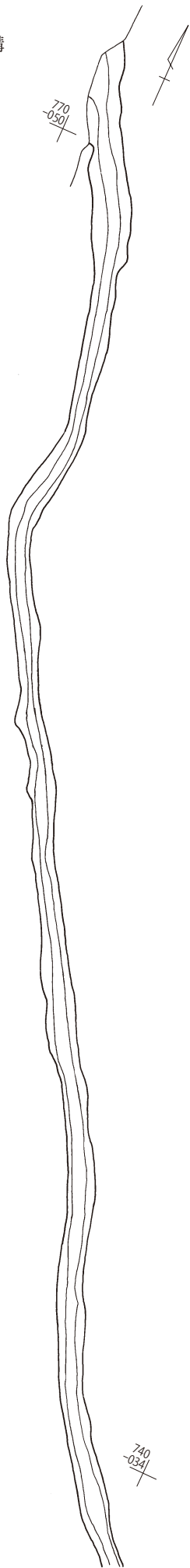


- 1 褐 粘質土。As-B水田耕作土。
- 2 褐 白色軽石少量混。
- 3 黄褐 シルト層。
- 4 黄褐 砂質土・砂利のラミナ状堆積層。

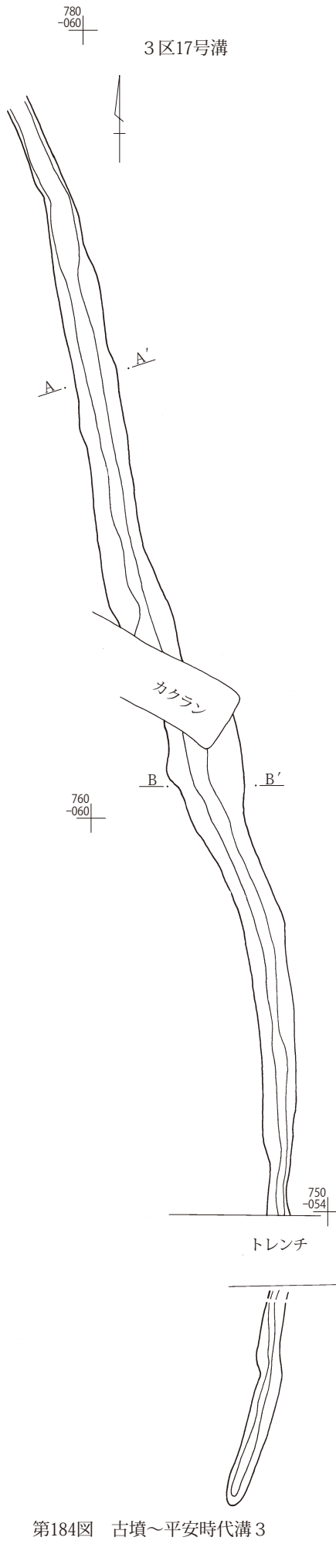
第183図 古墳～平安時代溝2



3区8号溝

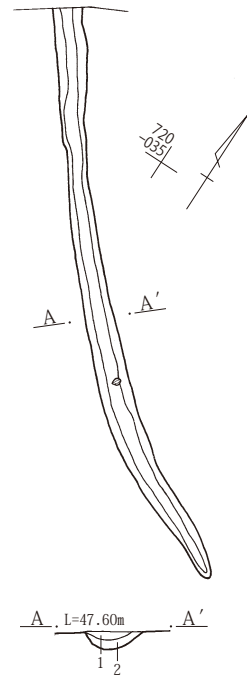


3区17号溝



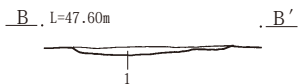
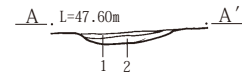
第4節 古墳時代後期～平安時代

3区7号溝



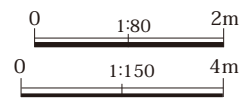
3区7号溝

- 1 暗褐 にぶい黄褐B多量混。粘性強。
- 2 黒褐 Hr-FA混土主体。にぶい黄褐B少量混。

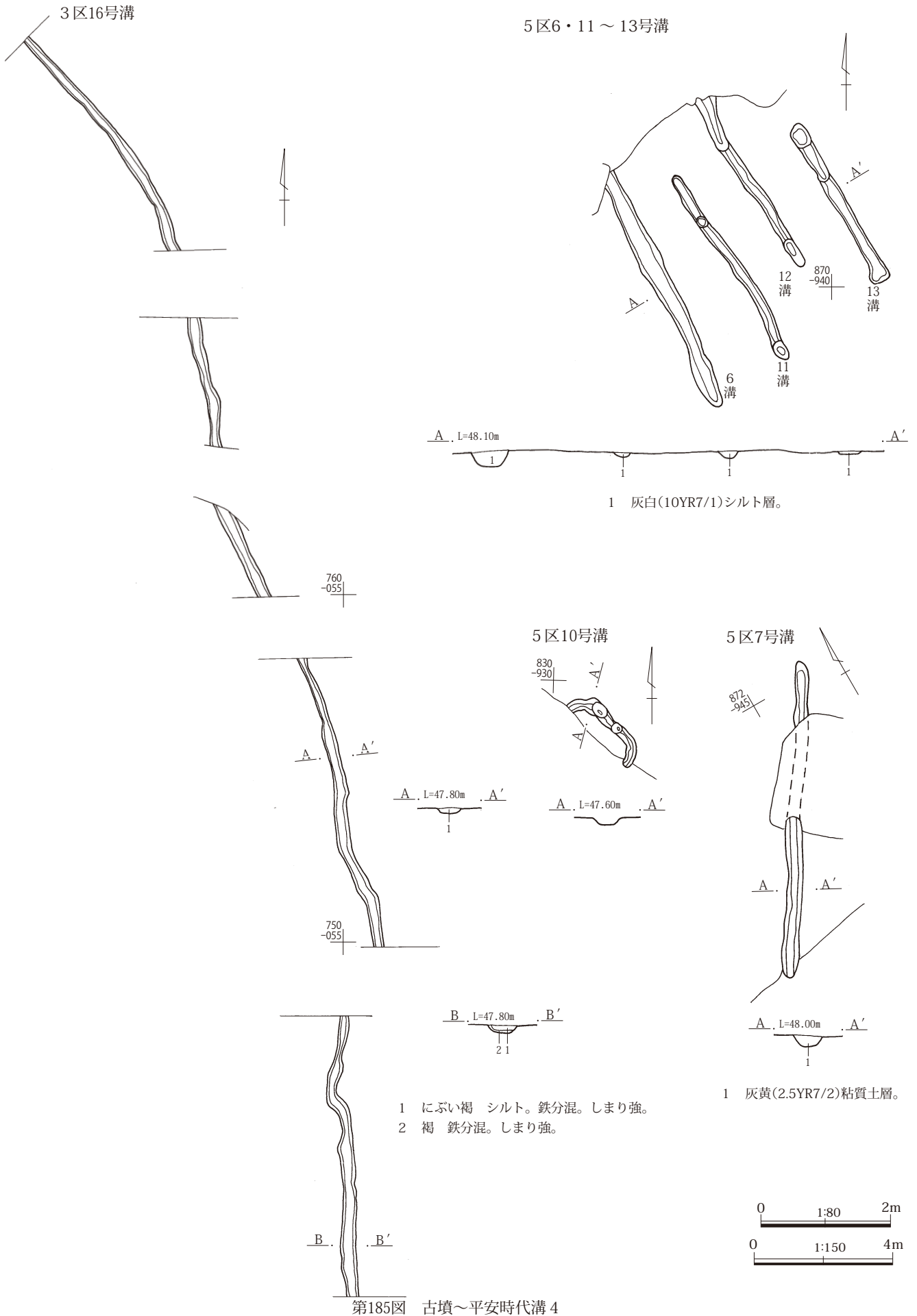


3区17号溝

- 1 橙 砂質、シルト。
- 2 黒褐 シルト。砂混。粘性強。

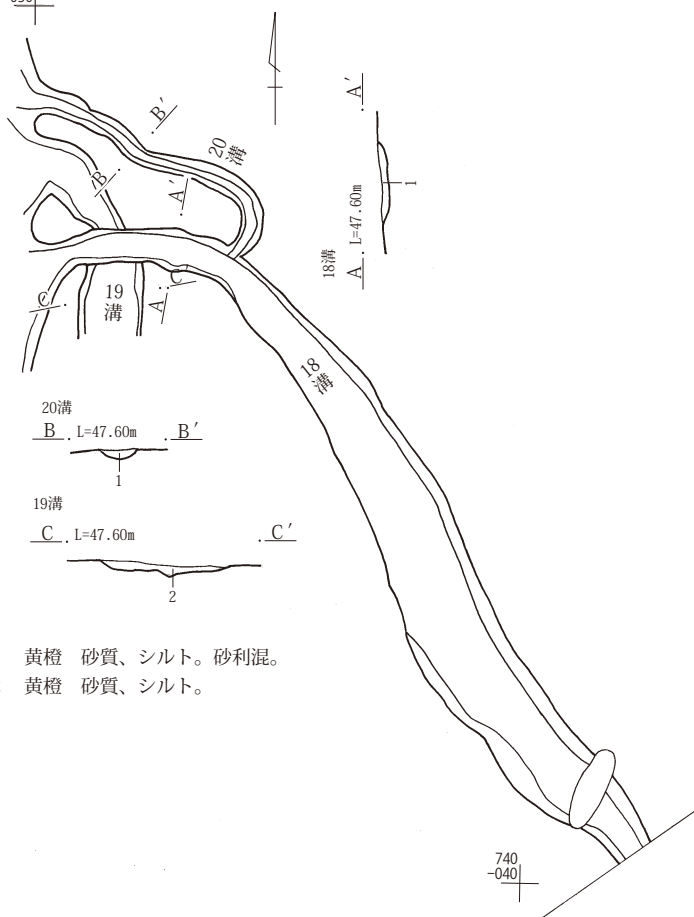


第184図 古墳～平安時代溝3



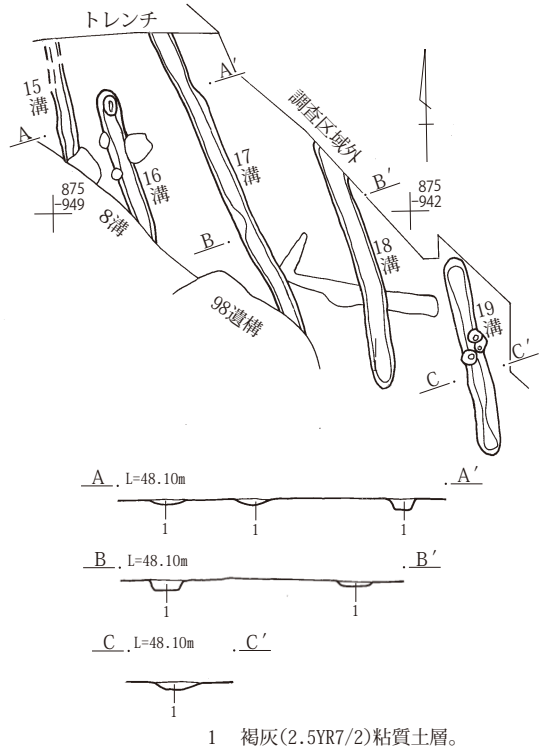
第185図 古墳～平安時代溝 4

757 3区18・19・20号溝



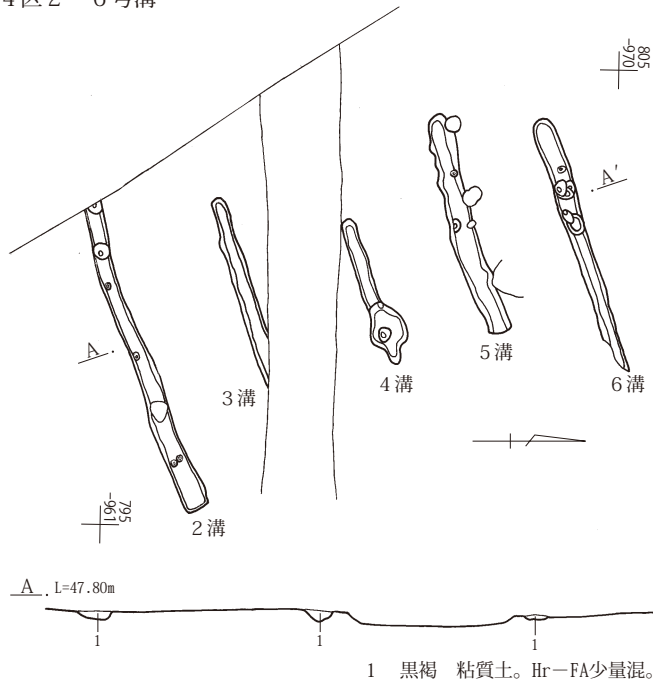
- 1 黄橙 砂質、シルト。砂利混。
- 2 黄橙 砂質、シルト。

5区15～19号溝



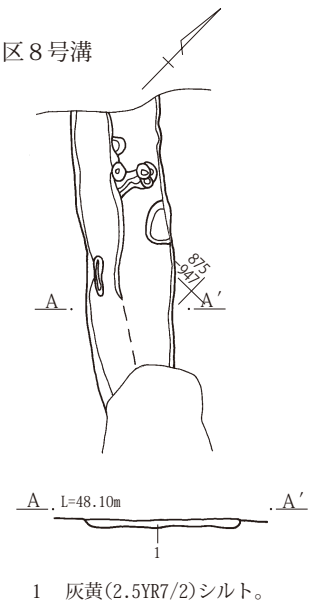
- 1 褐灰(2.5YR7/2)粘質土層。

4区2～6号溝

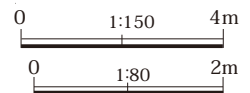


- 1 黒褐 粘質土。Hr-FA少量混。

5区8号溝

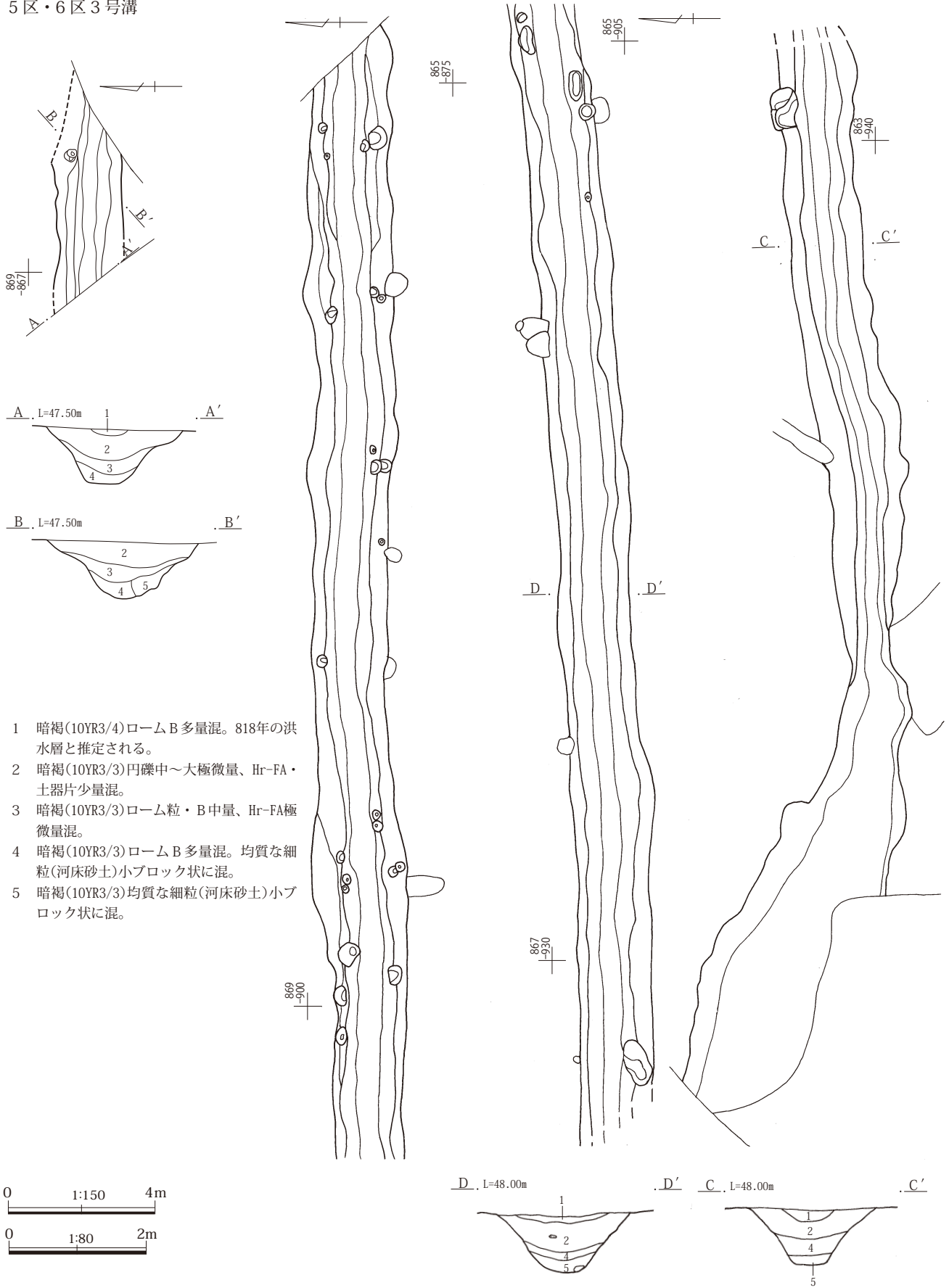


- 1 灰黄(2.5YR7/2)シルト。

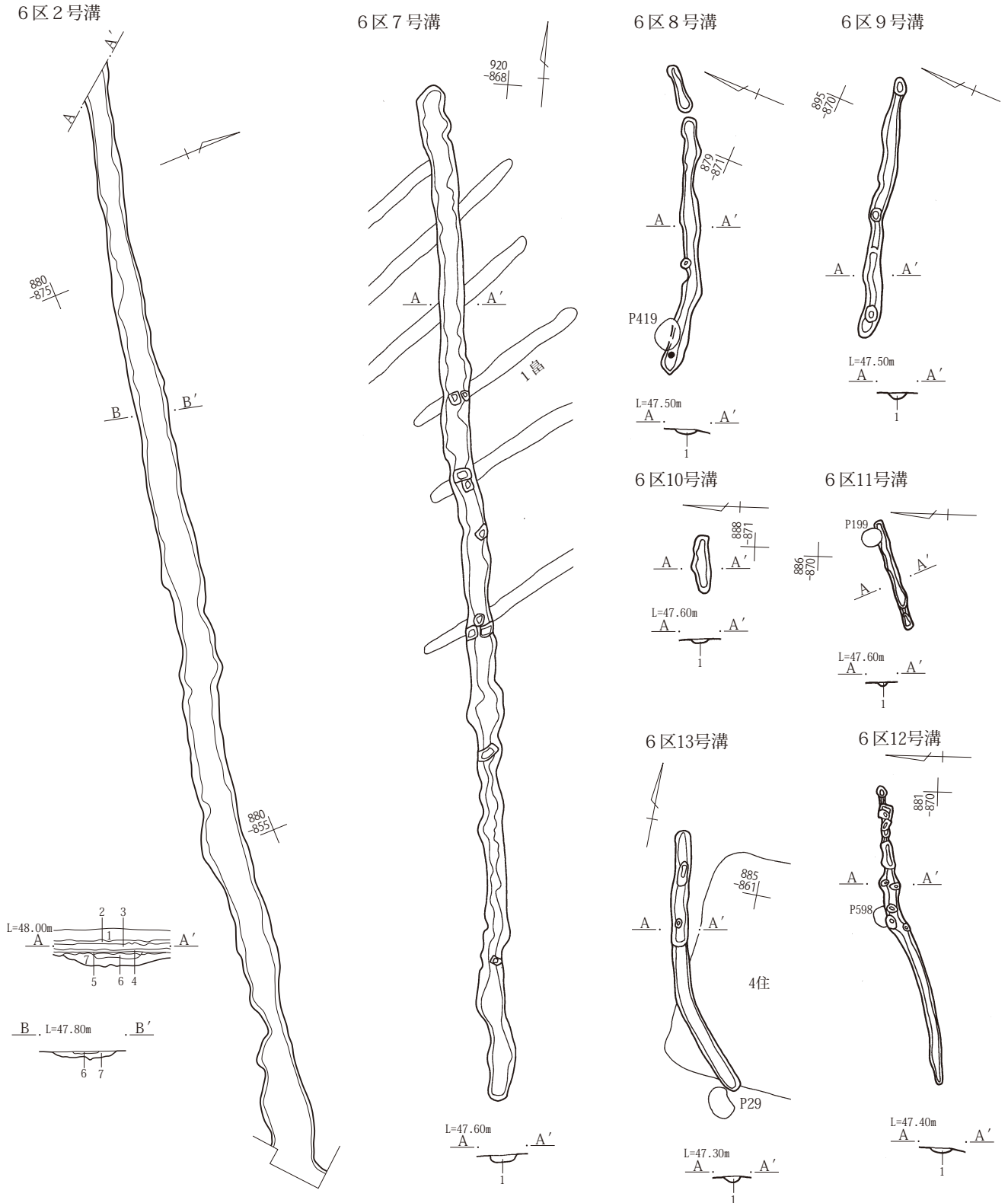


第186図 古墳～平安時代溝5

5区・6区3号溝



第187図 古墳～平安時代溝6



6区2号溝

- 1 褐灰(10YR5/1)表土。現代の土地改良に伴う土。
- 2 灰黄褐(10YR5/2)表土。現代の耕作土。1・3層の土混。
- 3 灰黄褐(10YR5/2)表土。現代の耕作土。上面に酸化鉄分多量沈着。
- 4 灰黄褐(10YR4/2)As-B混土。
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂多量混。しまり弱。
- 6 にぶい黄褐(10YR5/3)細砂主体。黒褐色砂多量混。
- 7 灰黄褐(10YR4/2)白色軽石、6層の砂微量混。小礫多量、拳大礫混。

6区7号溝

- 1 黒褐(10YR2/3)焼土・炭化物・白色軽石混。ローム粒中量混。

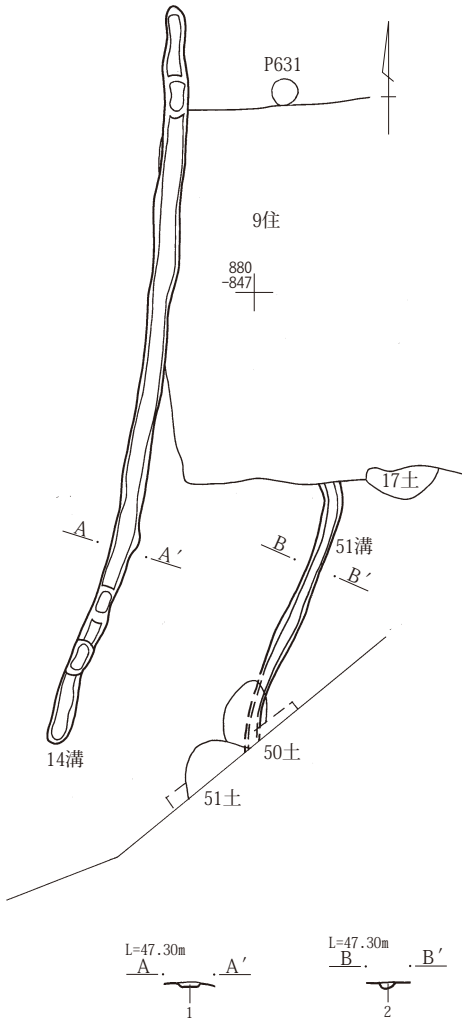
6区8～13号溝

- 1 黒褐(10YR2/3)ローム粒・白色軽石混。ローム漸移層を掘り込んだ溝。

0 1:100 4m

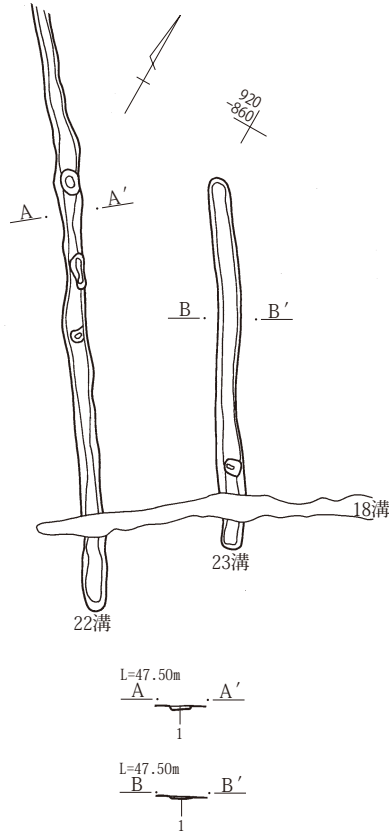
第188図 古墳～平安時代溝7

6区14・51号溝



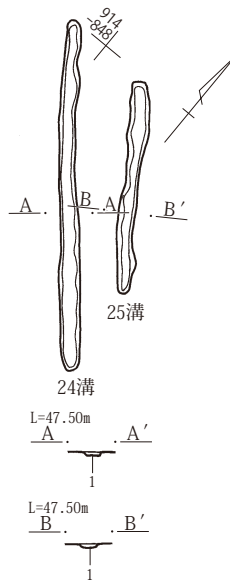
- 1 黒褐(10YR2/3)ローム粒・白色軽石混。ローム漸移層を掘り込んだ溝。
- 2 暗褐(10YR3/3)ローム・焼土粒、白色軽石混

6区22・23号溝



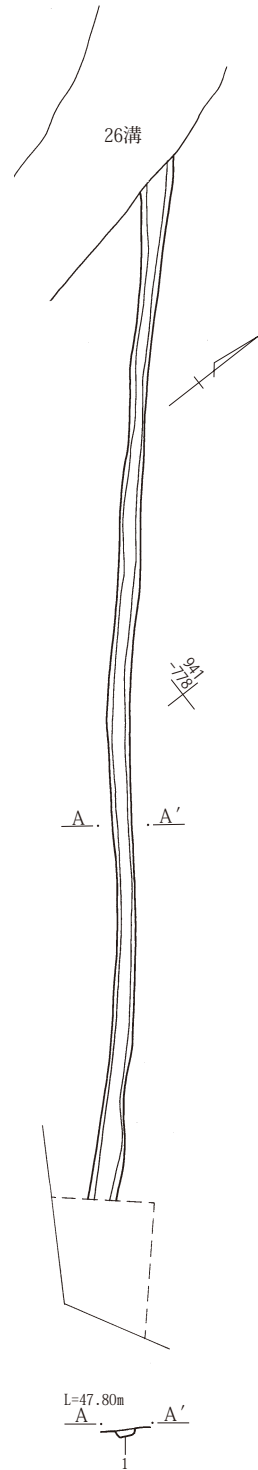
- 1 褐灰(10YR4/1)白色軽石・耕作土混。洪水起源によるシルト混。粘性・しまり強。

6区24・25号溝



- 1 褐灰(10YR4/1)白色軽石・耕作土混。洪水起源によるシルト混。粘性・しまり強。

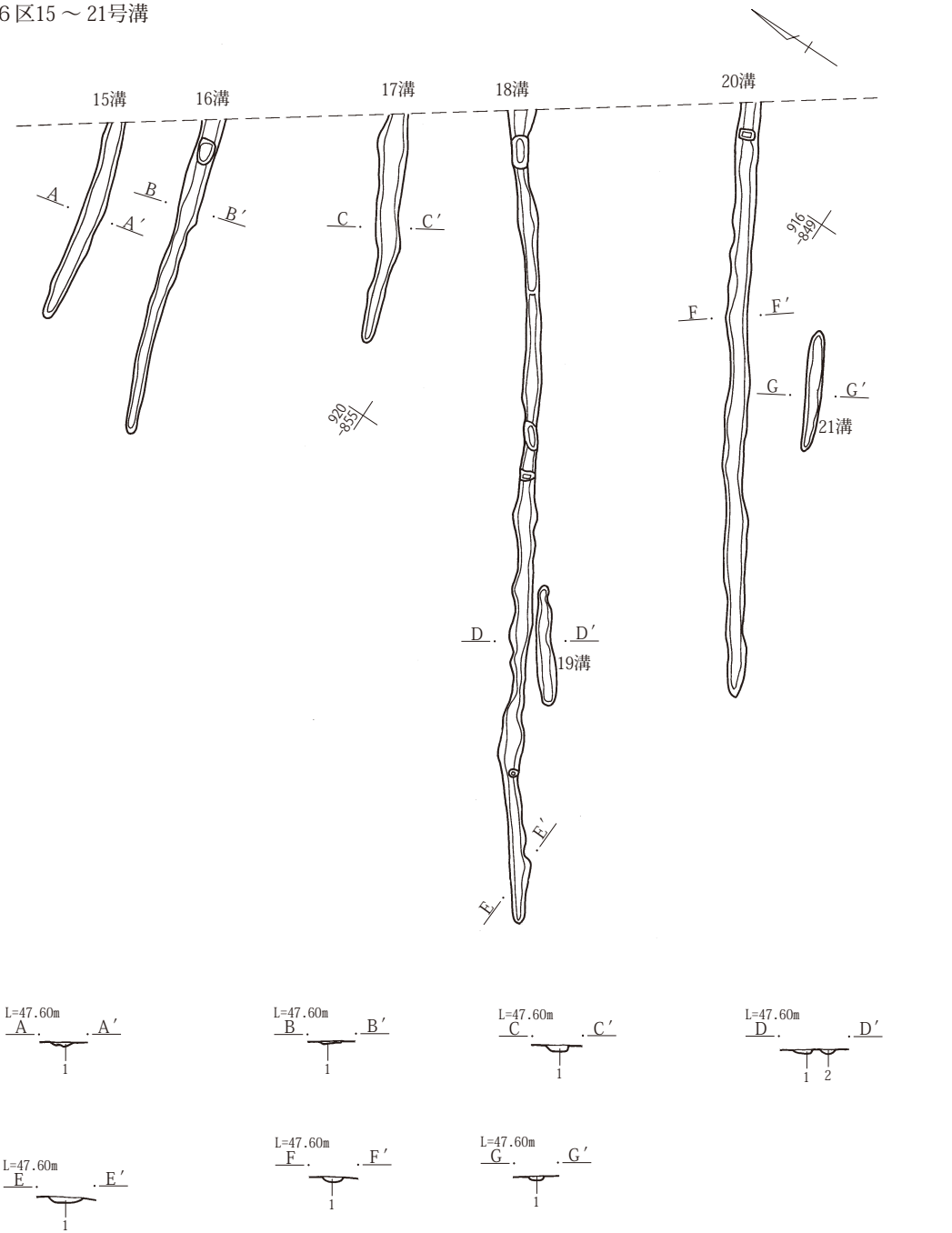
6区50号溝



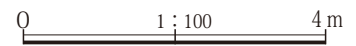
- 1 オリーブ褐(2.5Y4/3)シルト質。砂粒

第189図 古墳～平安時代溝 8

6区15～21号溝

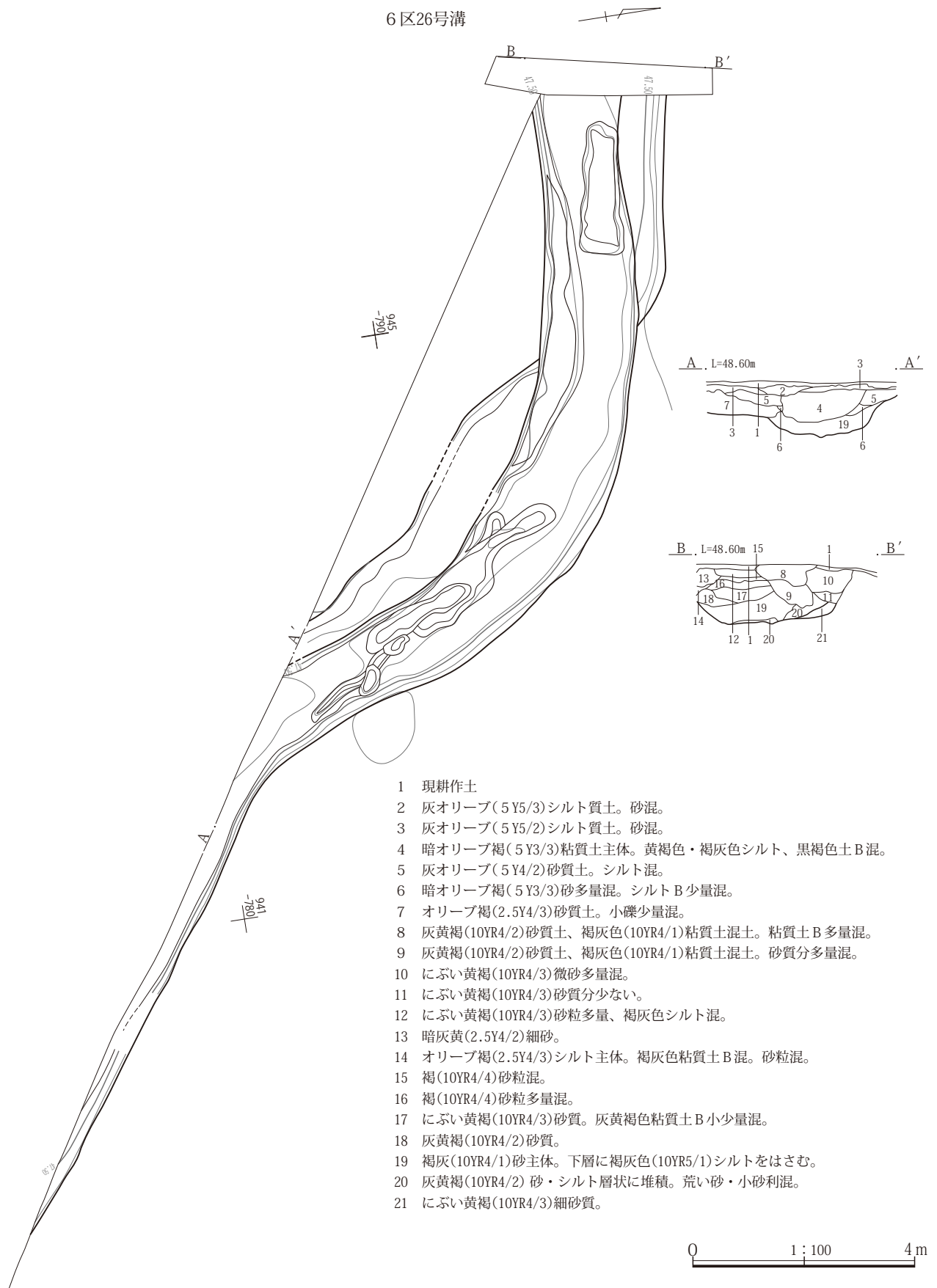


- 1 褐灰(10YR4/1)白色軽石・耕作土混。洪水起源によるシルト混。粘性・しまり強。
- 2 褐灰(10YR4/1)白色軽石・耕作土混。洪水起源によるシルト多量混。粘性・しまり強。



第190図 古墳～平安時代溝9

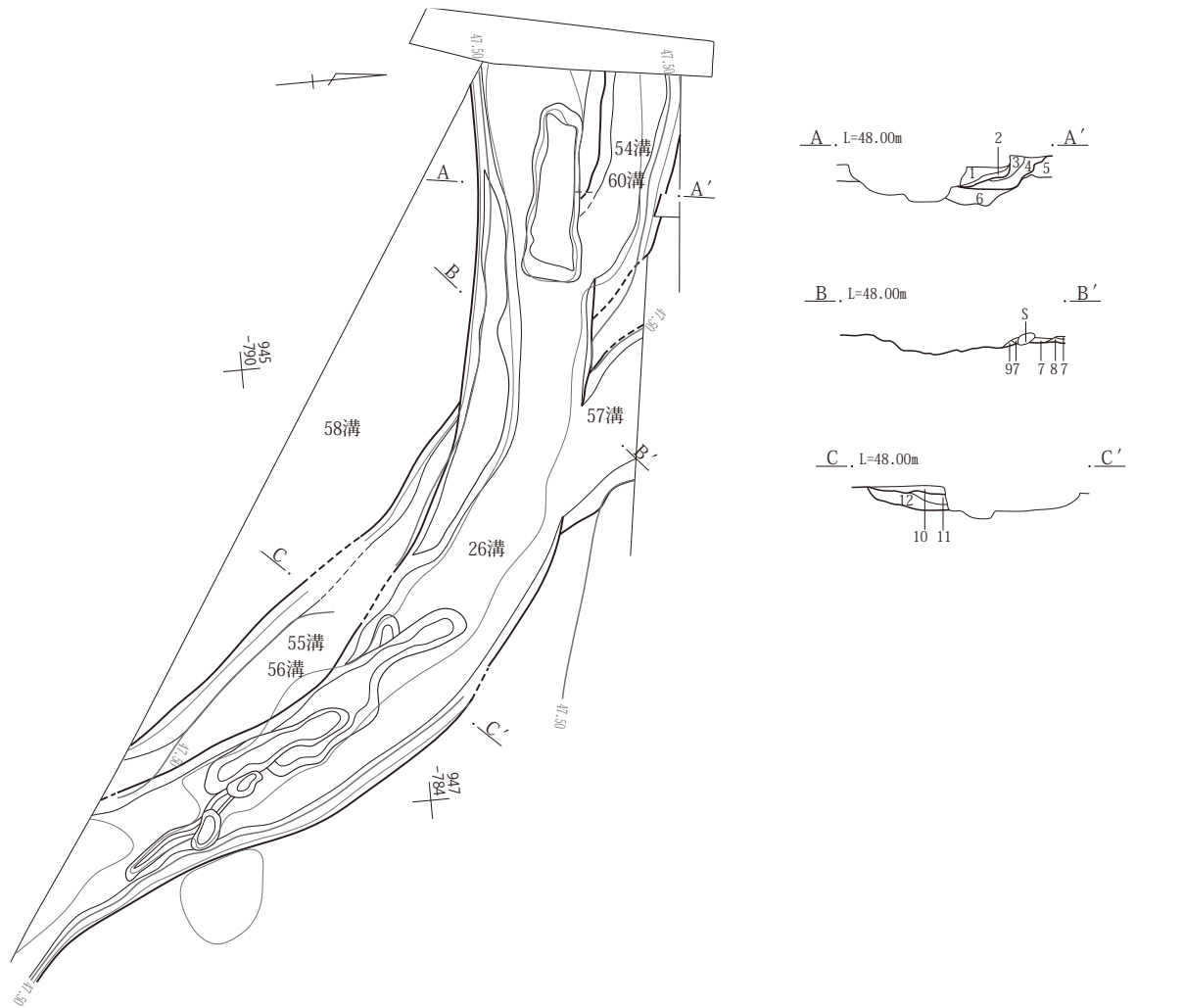
6区26号溝



第191図 古墳～平安時代溝10



6区54～57・60号溝

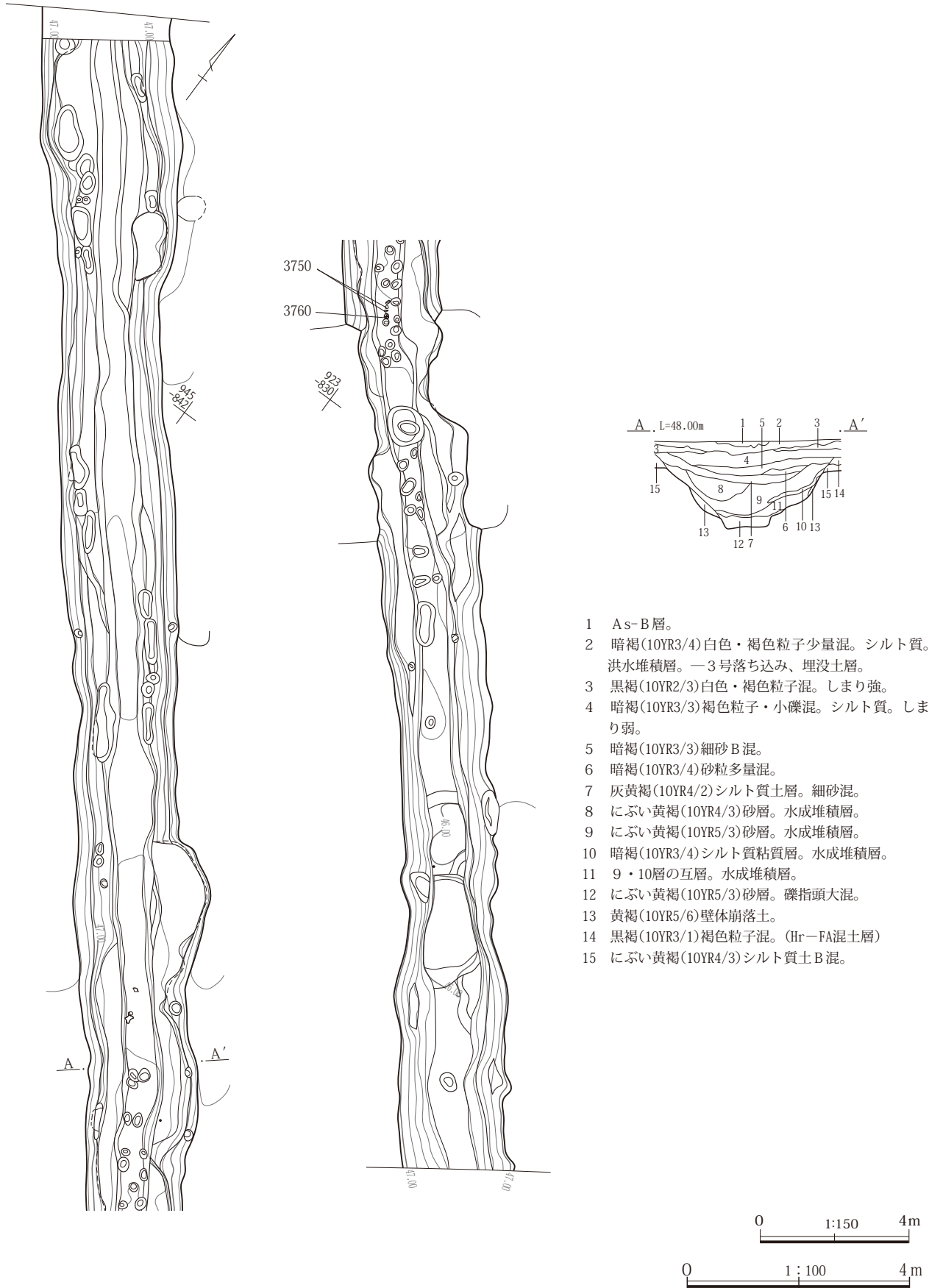


- 1 にぶい黄褐(10YR5/4)シルト質。砂粒混。54溝
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)砂質土。シルト混。54溝
- 3 灰黄褐(10YR4/2)シルト質。60溝
- 4 暗褐(10YR3/3)シルト質。下部に砂粒多量混。60溝
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質土。砂質分多量混。
- 6 暗褐 シルト質。58溝
- 7 暗オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト質。微砂混。57溝
- 8 黒褐(2.5Y3/2)砂質土。円礫大多量、シルト混。57溝
- 9 暗褐(10YR3/4)シルト質。57溝
- 10 褐(10YR4/4)シルト質土。左端砂粒混じり。55溝
- 11 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質。下端砂粒混じり。しまり強。56溝
- 12 オリーブ褐(2.5Y4/3)シルト質。

0 1 : 100 4 m

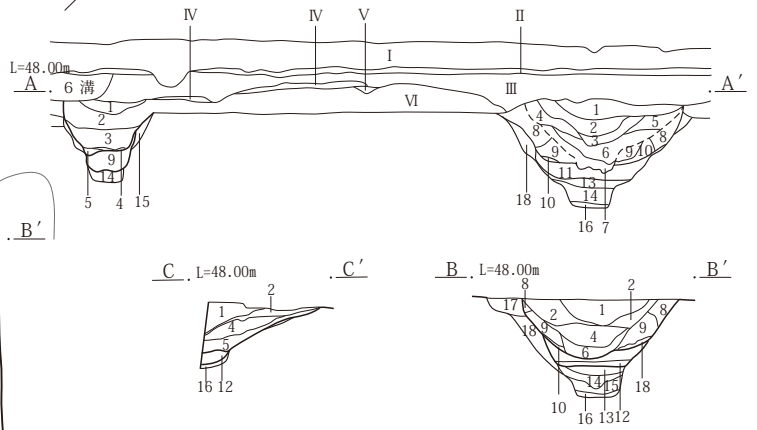
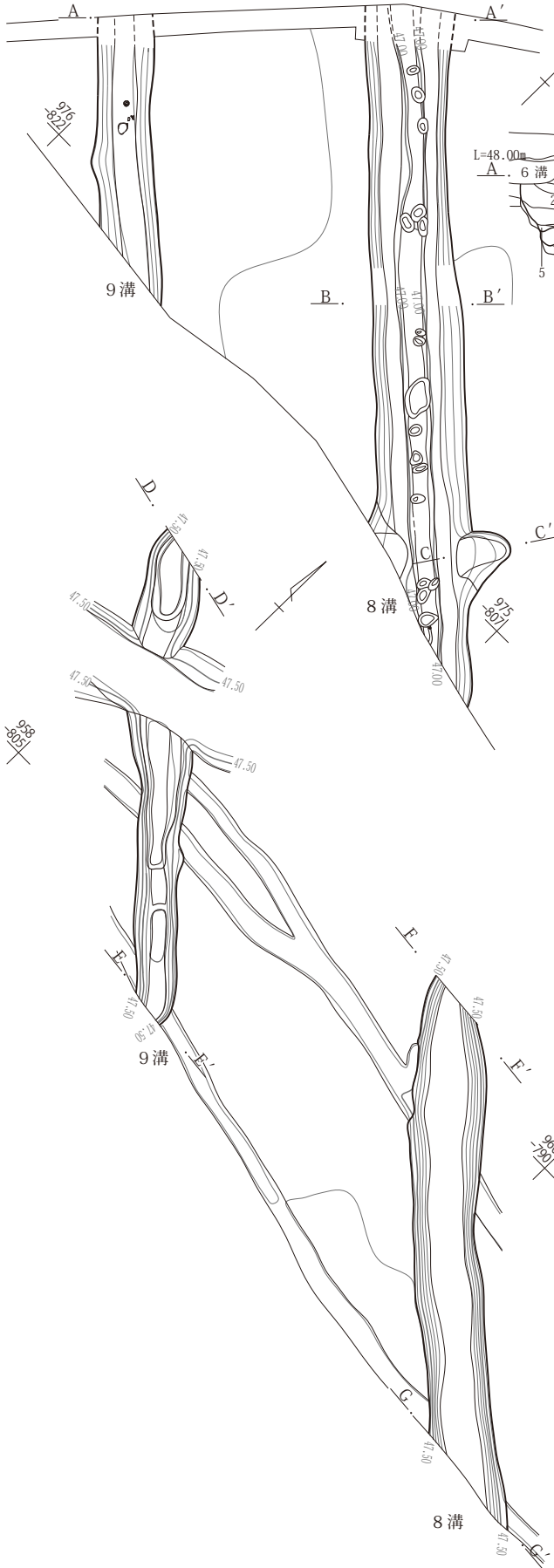
第192図 古墳～平安時代溝11

6区61号溝



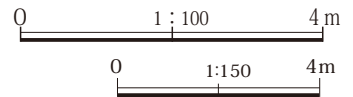
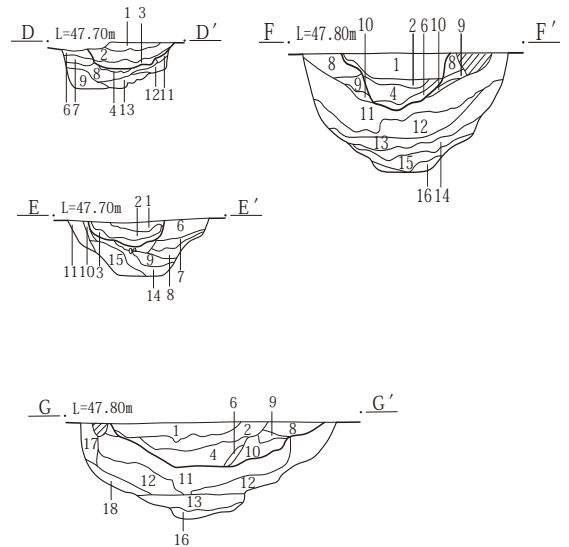
第193図 古墳～平安時代溝12

7区8・9号溝1面



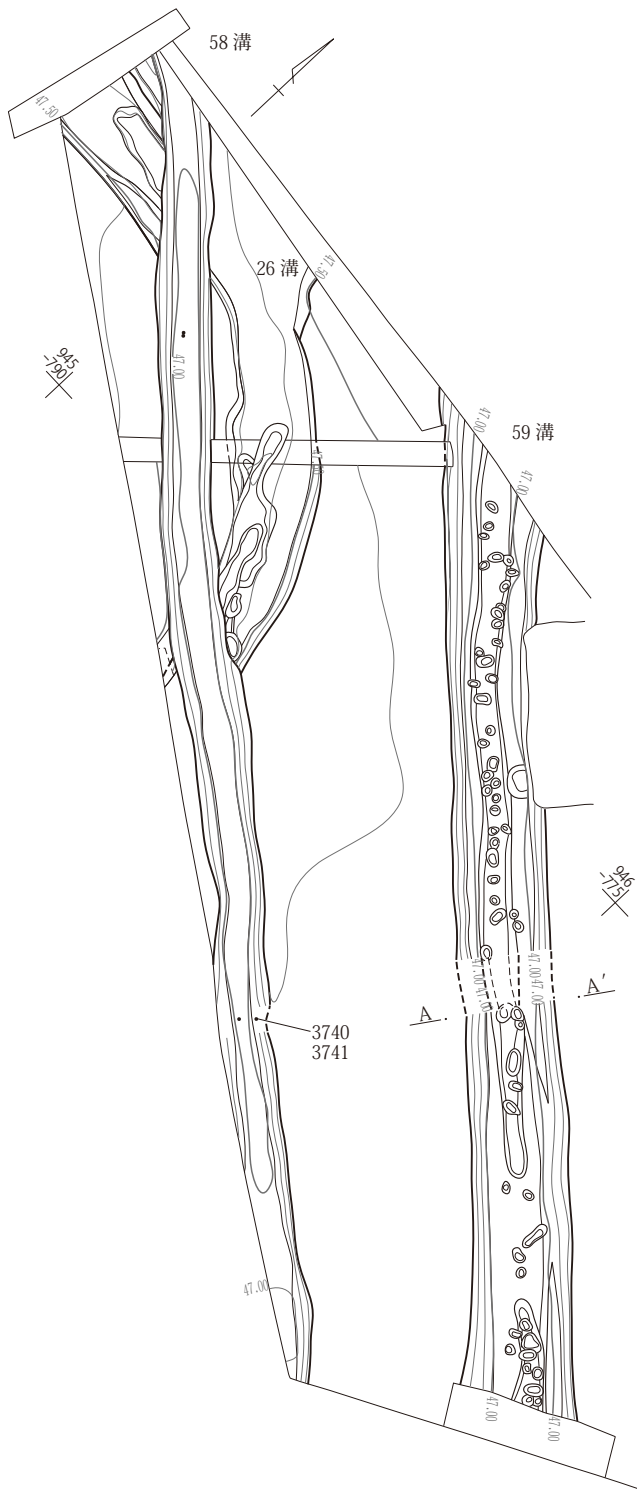
6区58溝7区9号溝

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)小礫・茶色粒子・Hr-FA微量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)小礫微量、黄色粒子少量混。しまり強。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層・シルト層B中量混。しまり強。
- 4 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層。シルト質B少量混。粘性極弱、しまり弱。
- 5 暗褐(10YR3/3)シルト層B中量混。
- 6 黄褐(2.5Y5/3)灰黄褐色・黄褐色粒子微量混。
- 7 暗灰黄(2.5Y4/2)シルト質。にぶい橙色粘質土B多量混。
- 8 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質。灰白色・黄褐色粒子、砂粒多量混。
- 9 にぶい黄褐(10YR5/4)シルト質。微砂多量混。
- 10 にぶい黄橙(10YR7/2)粘質土。黄褐色・黄橙色粒子中量混。
- 11 暗褐(10YR5/3)黄褐色粒子中量混。
- 12 暗灰黄褐色砂質土(2.5Y5/2)
- 13 灰(7.5YR4/1)シルト質。砂粒混
- 14 暗褐(10YR3/3)褐色土B少量混。
- 15 にぶい黄褐(10YR5/3)シルト質。灰白色・黒褐色粒子、砂礫少量混



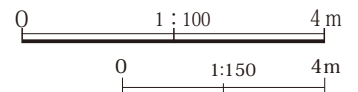
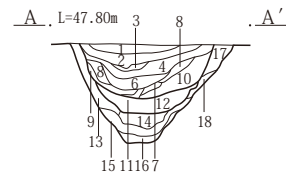
第194図 古墳～平安時代溝13

6区58・59号溝 1面



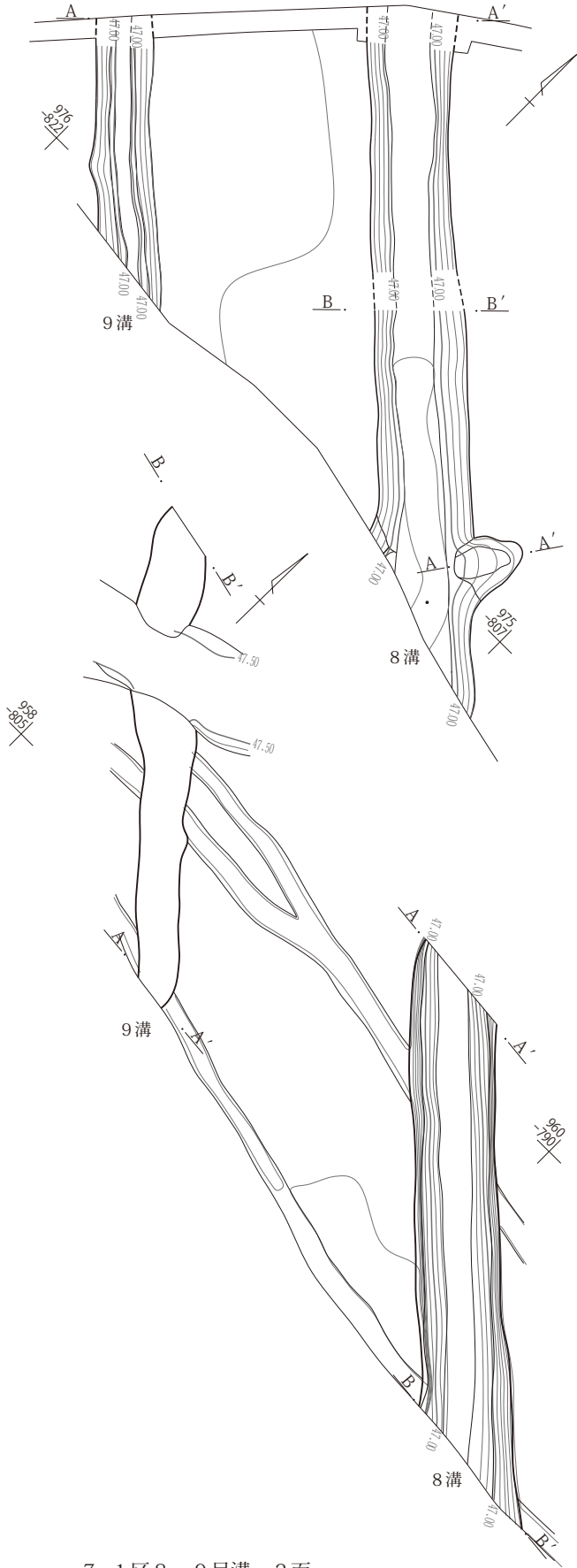
6区59溝7区8号溝

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3) HR-FA・小礫・細砂層B少量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4) HR-FA・暗褐色土B少量混。シルト質。
- 3 暗褐(10YR3/3)小礫・微砂少量混
- 4 にぶい黄褐(10YR5/3)細砂層B多量混。シルト質。
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)小礫少量混
- 6 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト層・微砂層・細砂層・褐色粘質土層混土。粘性弱。
- 7 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質 細砂・微砂層B少量混。
- 8 にぶい黄褐(10YR4/3)褐色土B少量混。
- 9 褐(10YR4/4)シルト・微砂層状に混。
- 10 にぶい黄褐(10YR5/4)シルト層状に混。
- 11 褐(10YR4/4)粘質土。黄色・褐色粒子少量混。粘性・しまり強。
- 12 褐(10YR4/4)粘質土。黄色・褐色粒子、粗砂・細砂多量混。粘性・しまり強。
- 13 褐(10YR4/4)粗砂・細砂層。粘性・しまり極弱。
- 14 暗褐(10YR3/4)細砂多量混。粘性弱、しまり強。
- 15 暗褐(10YR3/3)細砂・微砂少量混。粘性弱。
- 16 暗褐(10YR3/3)細砂層。粘性・しまり極弱。
- 17 にぶい黄褐(10YR4/3) HR-FA・細砂極微量混。
- 18 暗褐(10YR3/3)灰褐色土・黄褐色土B少量混。



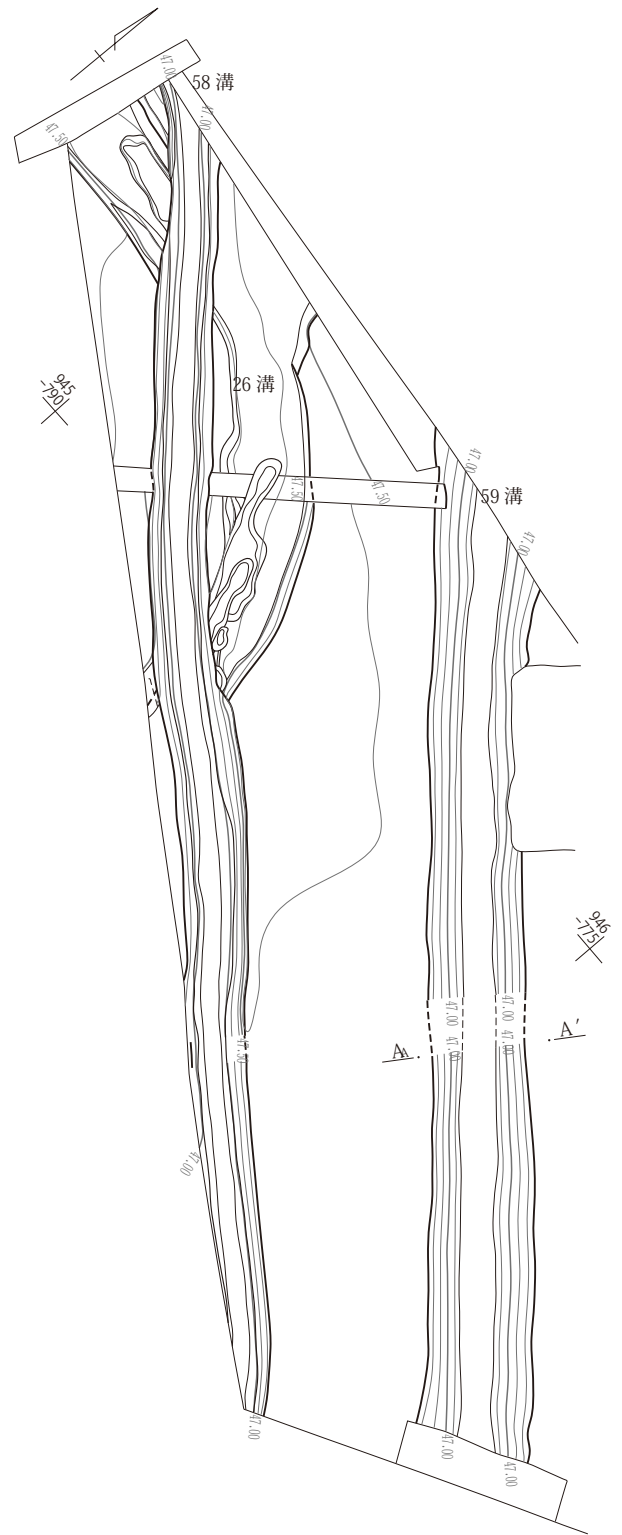
第195図 古墳～平安時代溝14

7区8・9号溝 2面



7-1区8・9号溝 2面

6区58・59号溝 2面



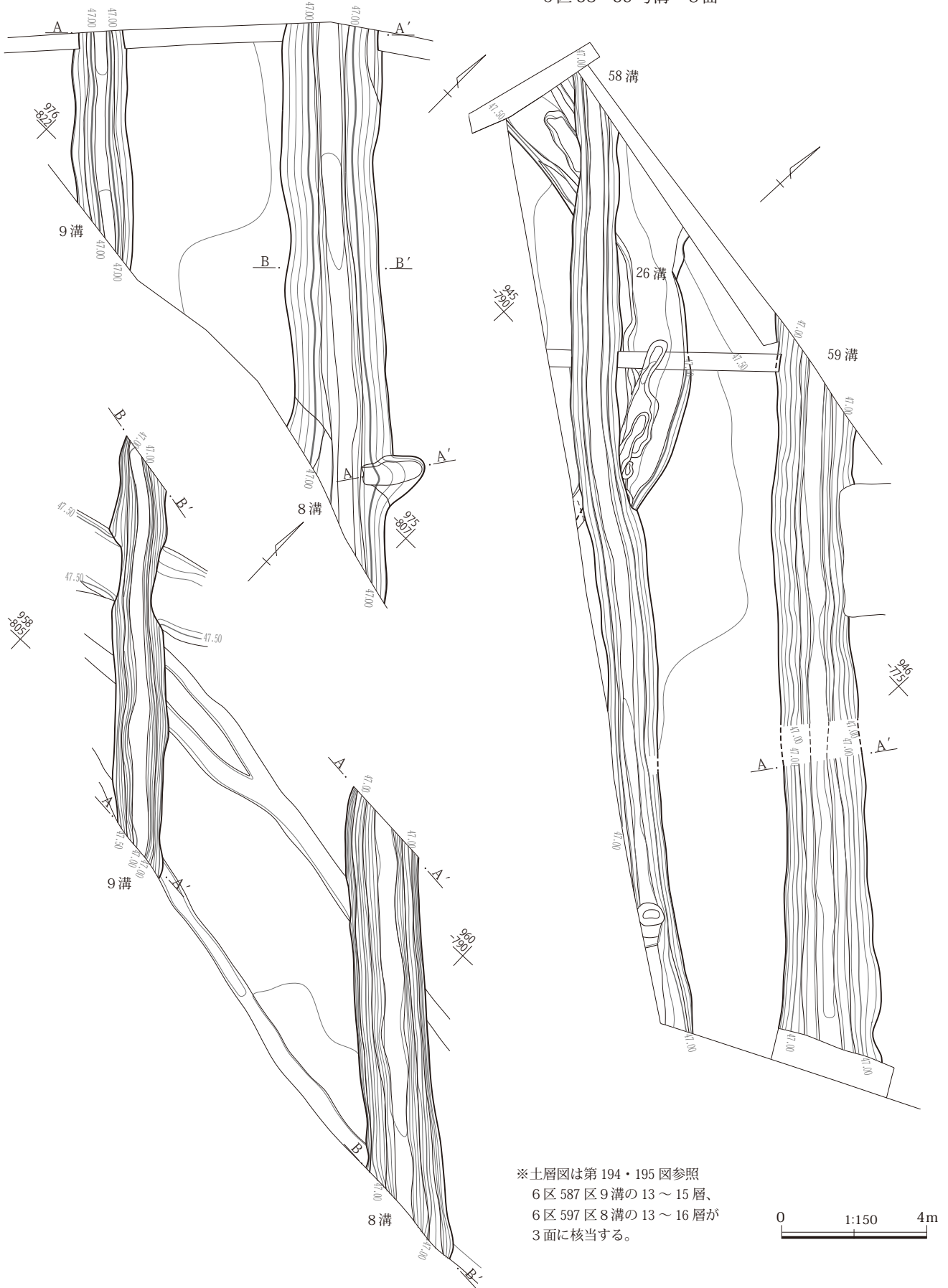
※土層図は第194・195図参照  
 6区587区9溝の9～12層、  
 6区597区8溝の8～12層が  
 2面に核当する。



第196図 古墳～平安時代溝15

7区8・9号溝 3面

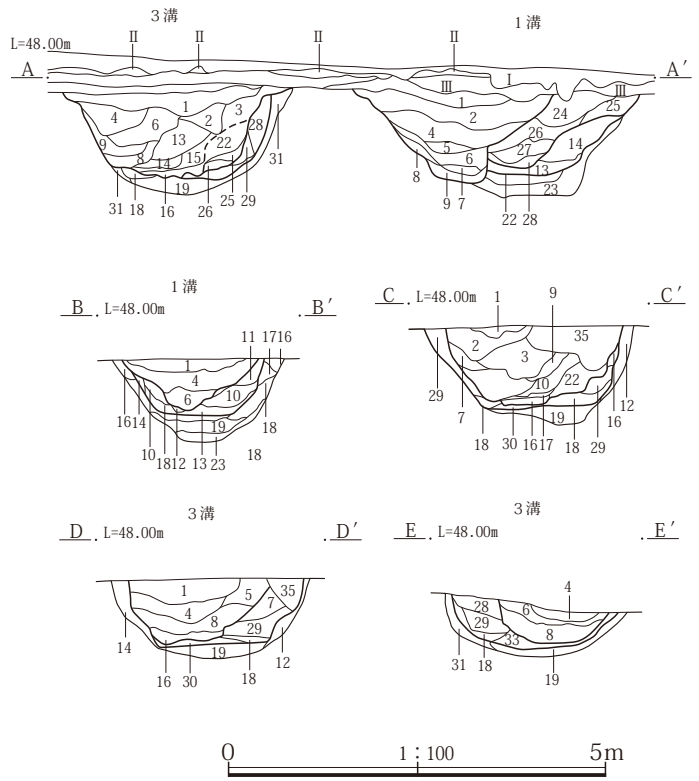
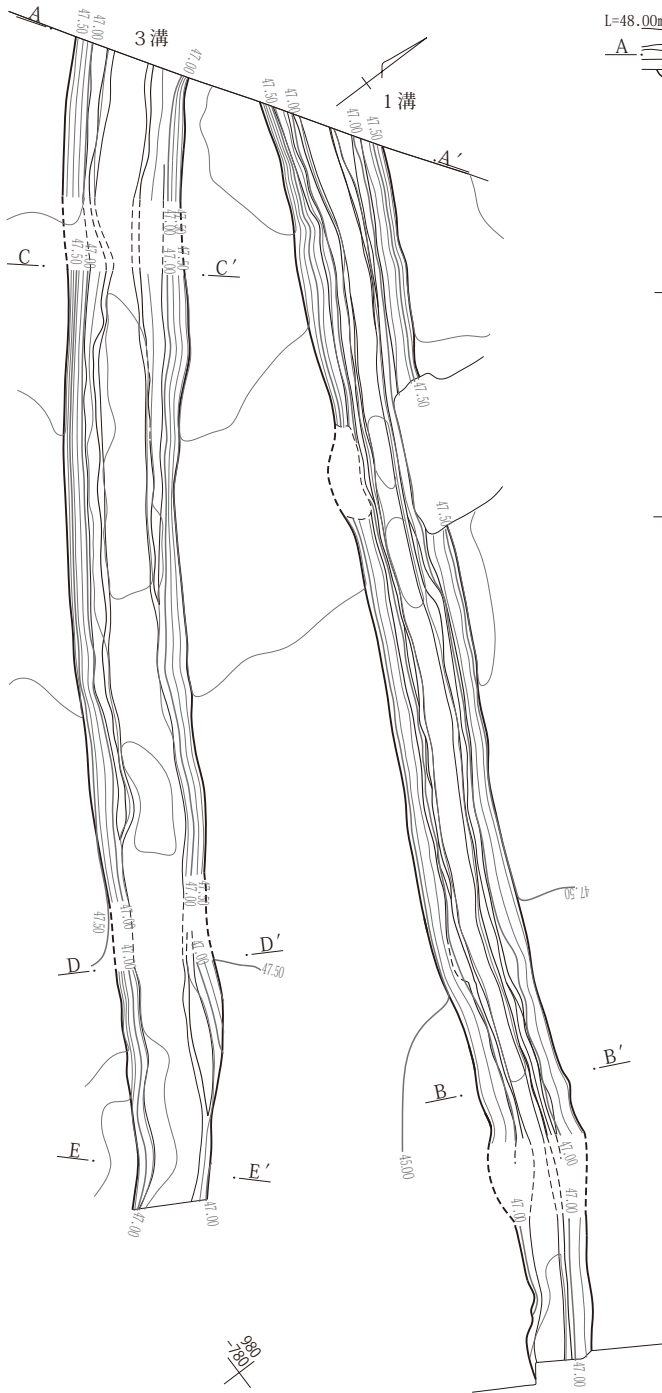
6区58・59号溝 3面



※土層図は第194・195図参照  
 6区587区9溝の13～15層、  
 6区597区8溝の13～16層が  
 3面に核当する。

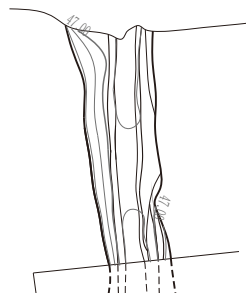
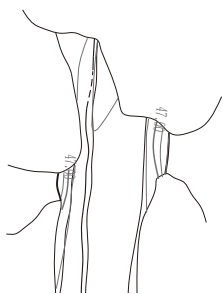
第197図 古墳～平安時代溝16

7区1・3号溝1面-1

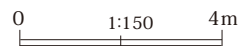


7区1号溝

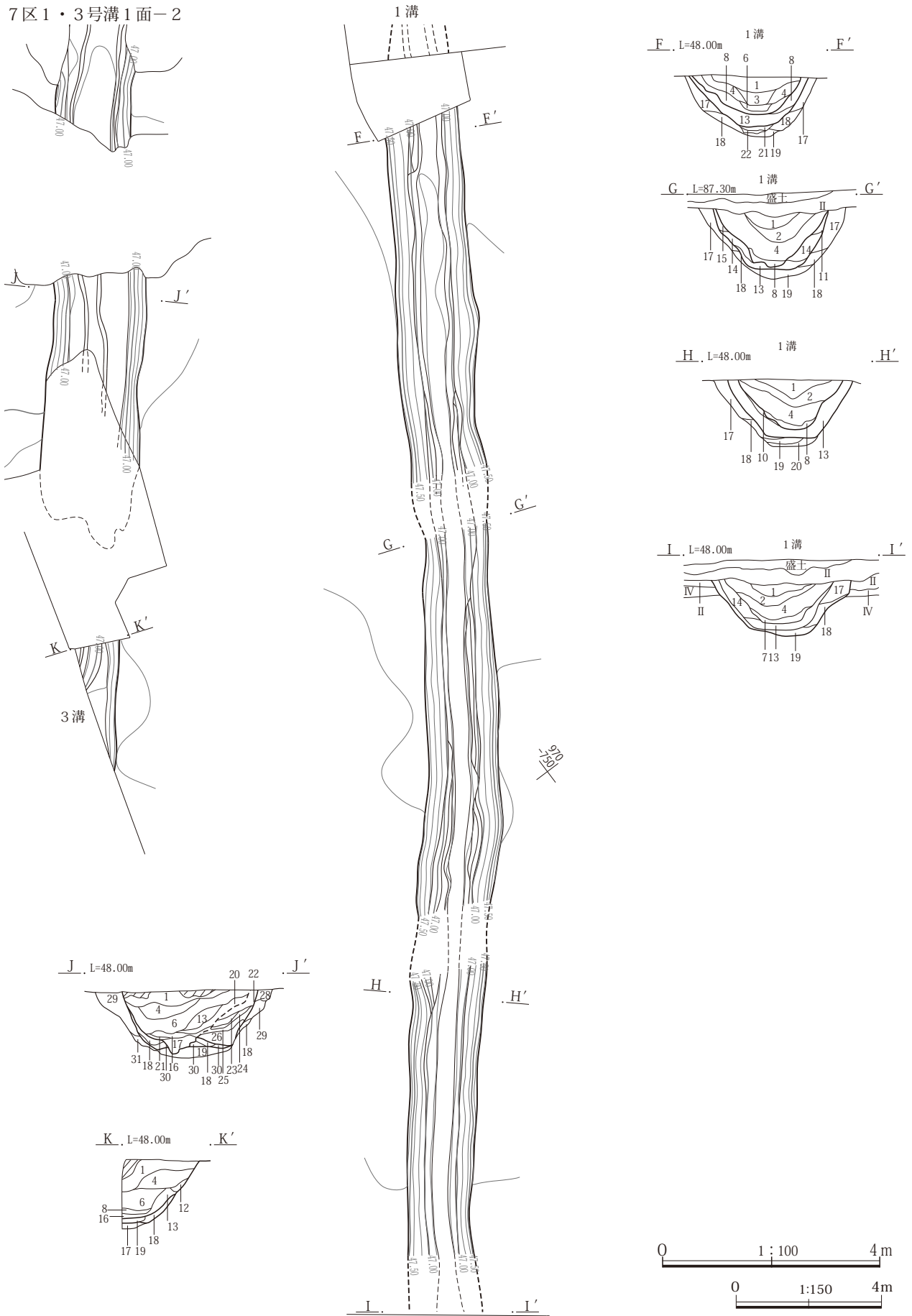
- 1 暗褐(10YR3/3)砂粒・酸化鉄分少量混。
- 2 暗褐(10YR3/3)酸化鉄分多量、炭化粒子・砂粒微量混。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)砂粒・酸化鉄分多量混。
- 4 灰黄褐(10YR4/2)酸化鉄分極多量混。炭化粒子・砂粒微量混。
- 5 灰黄褐(10YR4/2)小礫・砂粒中量混。粘性弱。
- 6 灰黄褐(10YR4/2)酸化鉄分中量、細砂粒層状に混。しまり強。
- 7 黒褐(10YR3/2)細砂・微砂少量混。
- 8 灰黄褐(10YR4/2)細砂粒・酸化鉄分中量混。
- 9 灰黄褐(10YR4/2)細砂・微砂多量混。粘性弱。
- 10 にぶい黄褐(10YR4/3)酸化鉄分中量混。(2面洪水層)
- 11 にぶい黄褐(10YR5/3)微砂層。粘性弱。
- 12 灰黄褐(10YR4/2)微砂層。粘性・しまり弱。
- 13 褐(10YR4/4)黄色・白色粒子、砂粒多量混。しまり強。
- 14 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質。細砂層状に混。
- 15 暗褐(10YR3/3)シルト層B少量混。
- 16 灰黄褐(10YR4/2)細砂・粗砂粒多量混。(3面洪水層)
- 17 にぶい黄褐(10YR4/3)砂粒少量混。
- 18 暗褐(10YR3/3)シルト質。細砂少量混。
- 19 黒褐(10YR2/3)微砂・細砂・粗砂層状に混。粘性弱・しまり強。
- 20 灰黄褐(10YR4/2)微砂質。細砂層状に混。粘性弱。
- 21 暗褐(10YR3/4)細砂・粗砂混土。地山B少量混。粘性弱。
- 22 細砂・粗砂層
- 23 暗褐(10YR3/3)細砂層。粗砂・地山B中量混。粘性弱。
- 24 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。酸化鉄分多量混。粘性弱。
- 25 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層B多量混。粘性弱。
- 26 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質・細砂層状に混。粘性弱。
- 27 にぶい黄褐(10YR5/3)微砂・細砂・シルト層状に混。粘性弱。
- 28 にぶい黄褐(10YR4/3)粗砂・細砂シルト層状に混。粘性弱、しまり強。



第198図 古墳～平安時代溝17



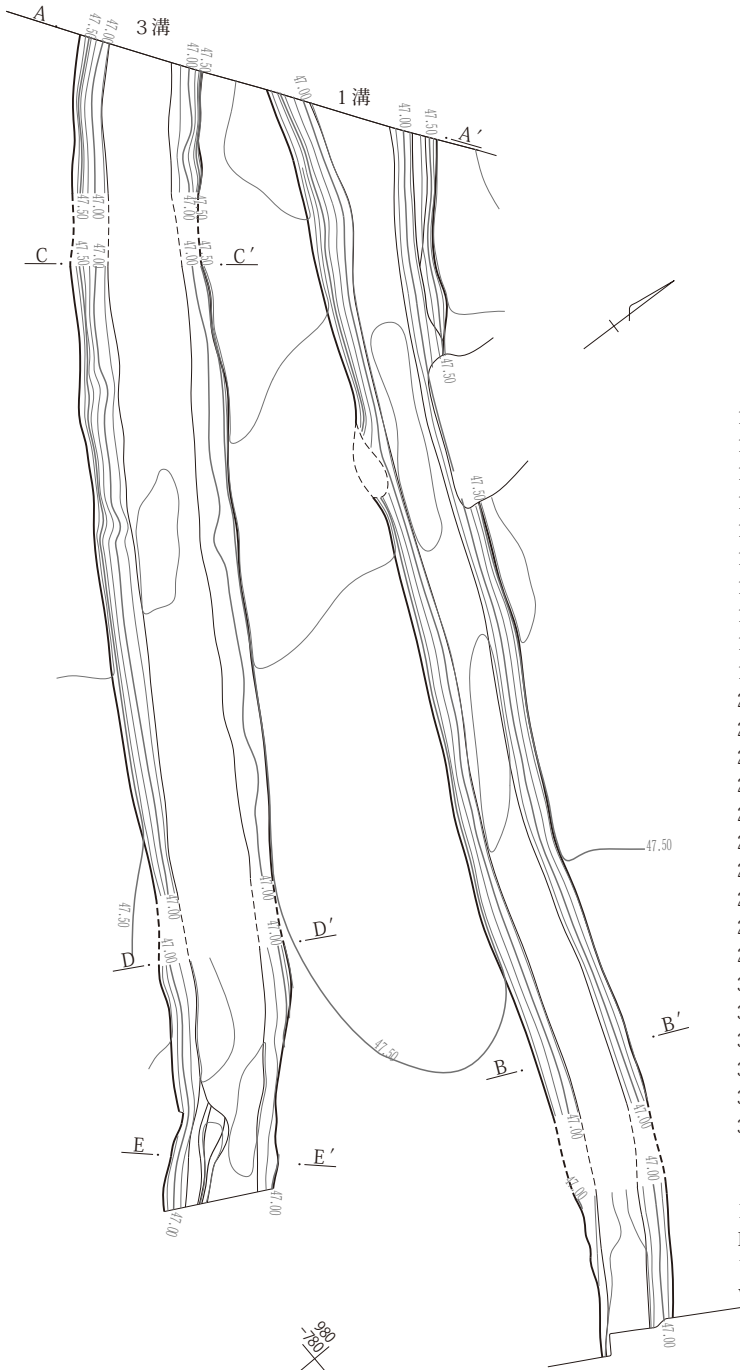
7区1・3号溝1面-2



第199図 古墳～平安時代溝18

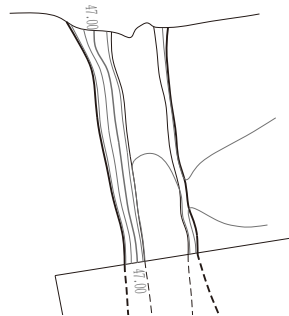
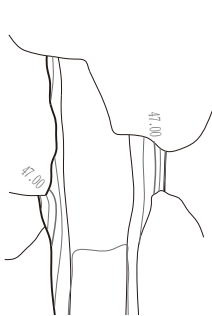


7区1・3号溝2面-1



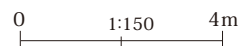
7区3号溝

- 1 暗褐(10YR3/3)砂粒・酸化鉄分少量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)小礫・砂礫少量混。
- 3 褐(10YR4/4)小礫・砂粒中量混。
- 4 暗褐(10YR3/3)砂粒少量、酸化鉄分中量混。
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)砂粒・酸化鉄分少量混。しまり強。
- 6 灰黄褐(10YR4/2)酸化鉄分多量、細砂粒中量混。
- 7 暗褐(10YR3/3)細砂・粗砂・酸化鉄分少量混。
- 8 暗褐(10YR3/3)細砂層。シルト層B少量、微砂層状に混。粘性弱、しまり強。
- 9 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層状に混。
- 10 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質・細砂層状に多量混。
- 11 灰黄褐(10YR4/2)微砂層。細砂層状に混。粘性弱。
- 12 灰黄褐(10YR4/2)黒褐色土山B極多量混。
- 13 にぶい黄褐(10YR4/3)酸化鉄分多量、細砂粒少量混。
- 14 灰黄褐(10YR4/2)微砂層。小礫・細砂中量混。粘性弱。
- 15 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂層。細砂層状に多量混。粘性弱。
- 16 黒褐(10YR2/3)細砂中に小礫中量混。粘性弱。
- 17 黒褐(10YR2/2)粗砂・小礫層。粘性弱。
- 18 褐(10YR4/4)黄色・褐色粒子、砂粒多量混。粘性強、しまり極強。
- 19 黒褐(10YR2/3)細砂中に小礫多量混。粘性弱。
- 20 灰黄褐(10YR4/2)微砂層。粘性弱。1面
- 21 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂多量混。1面
- 22 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト層。酸化鉄分少量混。1-2面。
- 23 灰黄褐(10YR4/2)微砂層。酸化鉄分少量混。1-2面。
- 24 暗褐(10YR3/3)微砂層。粘性弱。1-2面。
- 25 灰黄褐(10YR4/2)微砂層。粘性弱。1-2面。
- 26 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層。粘性・しまり弱。1-2面。
- 27 小礫・粗砂・細砂混土。粘性極弱。
- 28 暗褐(10YR3/4)細砂粒微量混。2面。
- 29 にぶい黄褐(10YR5/3)シルト質。細砂粒少量混。2面。
- 30 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂粒多量混。しまり強。2面。
- 31 暗褐(10YR3/3)シルト質。酸化鉄分多量混。3面。
- 32 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質。
- 33 黒褐(10YR2/2)粗砂層。細砂層状に混。粘性・しまり極強。
- 34 暗褐(10YR3/3)シルト質。細砂・粗砂少量混。
- 35 暗褐(10YR3/3)褐色B少量混。
- I 灰黄褐(10YR4/2)細砂少量混。洪水層地山。
- II 灰黄褐(10YR4/2)細砂多量混。洪水層地山。
- III 灰黄褐(10YR4/2)きめ細かい粘質土。洪水層地山。
- IV 黒褐(10YR2/3)HR-FA(?)少量混。
- V 暗褐(10YR3/3)細砂・小礫少量混。地山。
- VI 暗褐(10YR3/3)細砂・小礫微量混。地山。



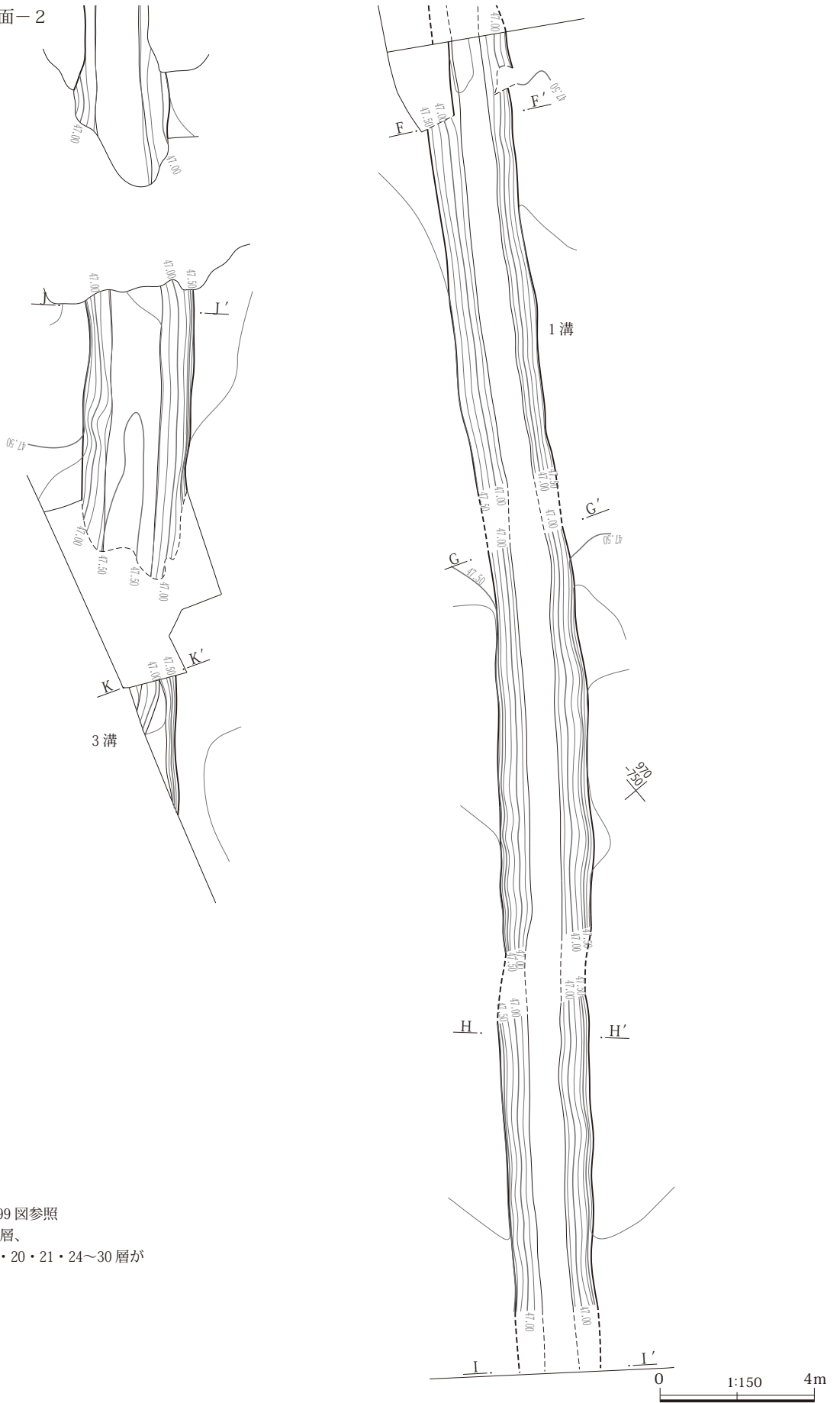
※土層図は第198・199図参照

7区1溝の10～15層、  
7区3溝の16～18・20・21・24～30層が  
2面に核当する。



第200図 古墳～平安時代溝19

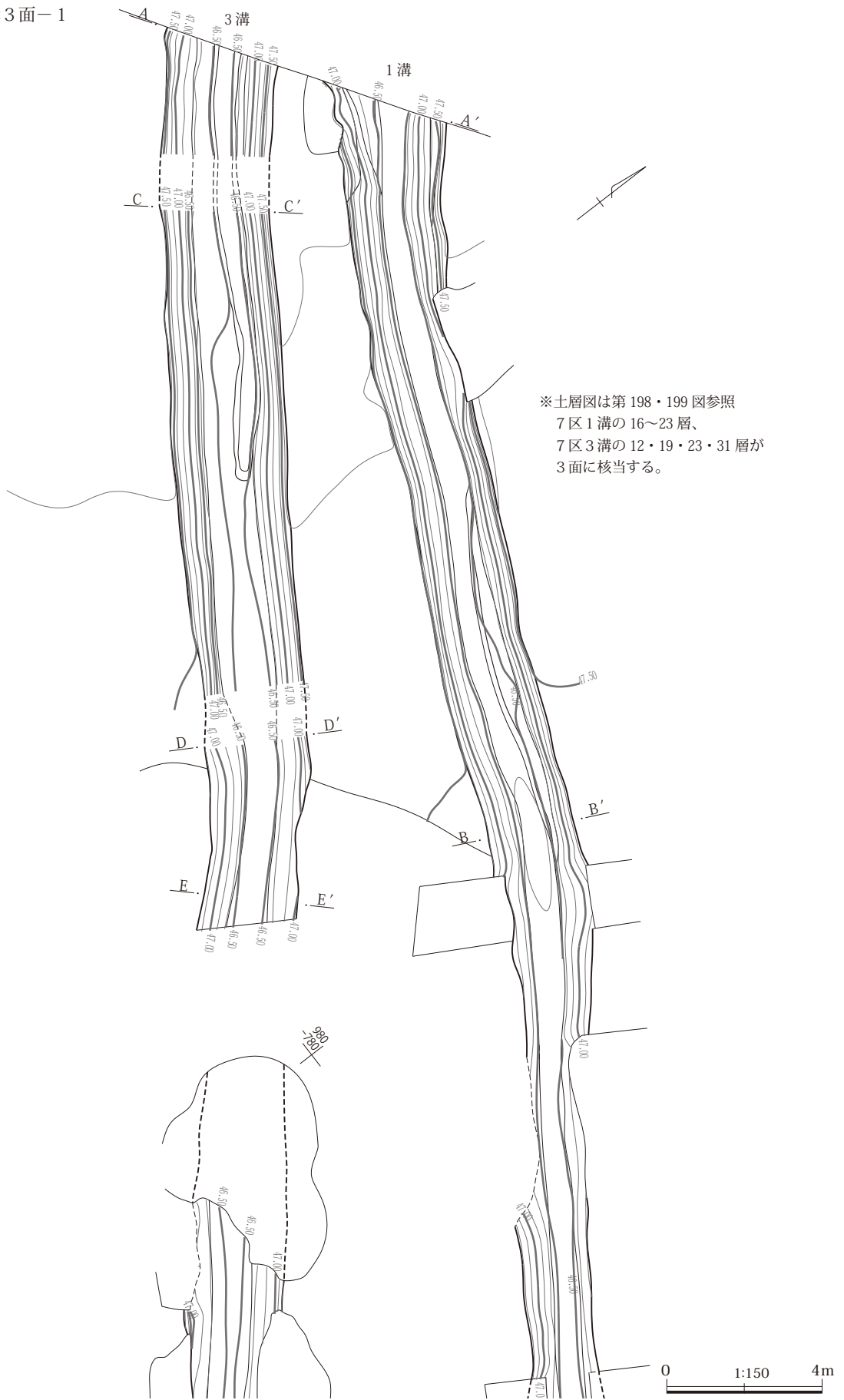
7区1・3号溝2面-2



※土層図は第198・199図参照  
 7区1溝の10～15層、  
 7区3溝の16～18・20・21・24～30層が  
 2面に核当する。

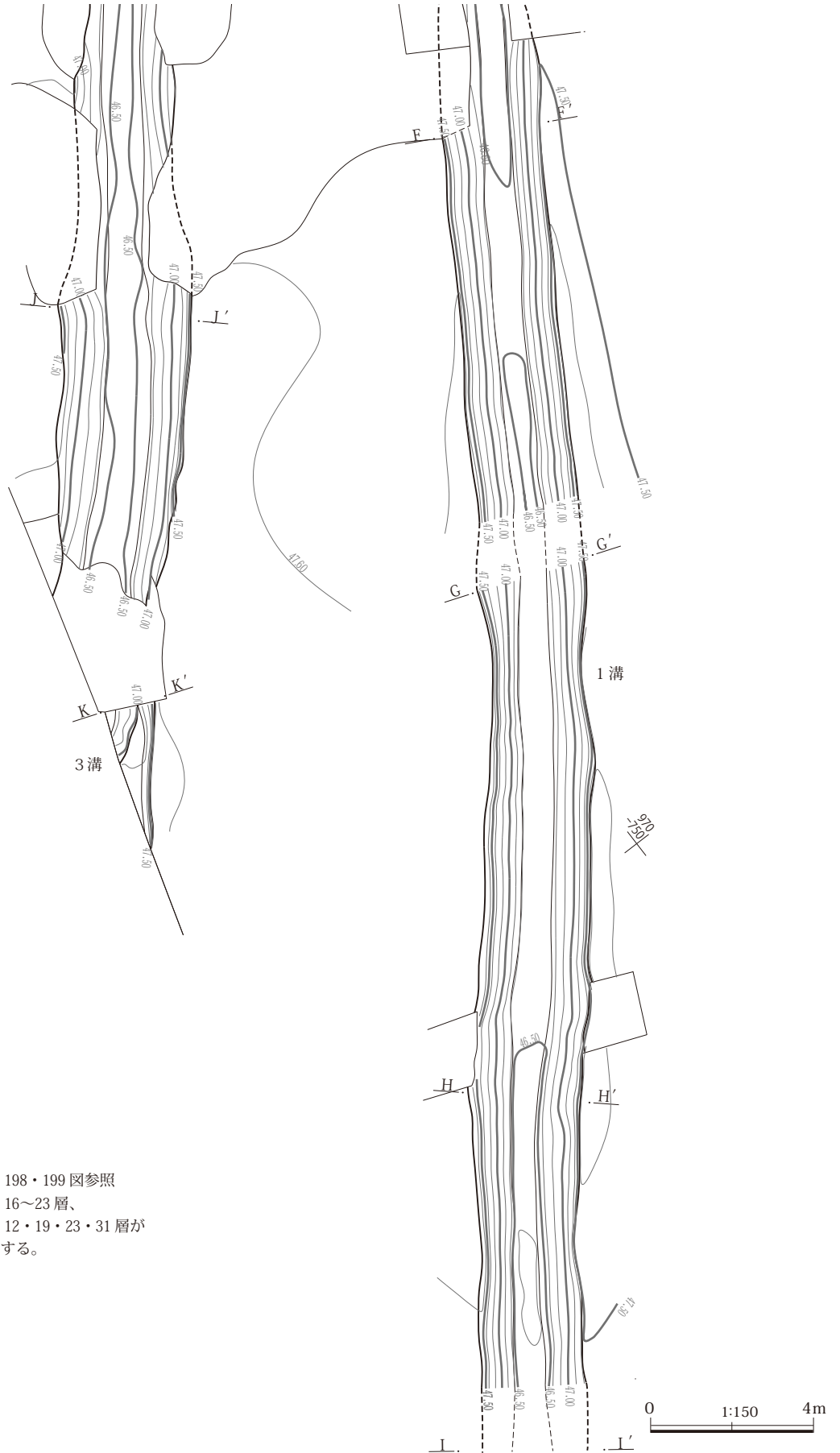
第201図 古墳～平安時代溝20

7区1・3号溝3面-1



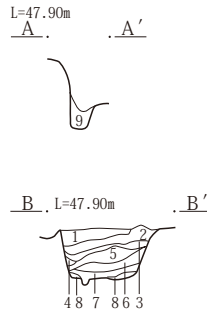
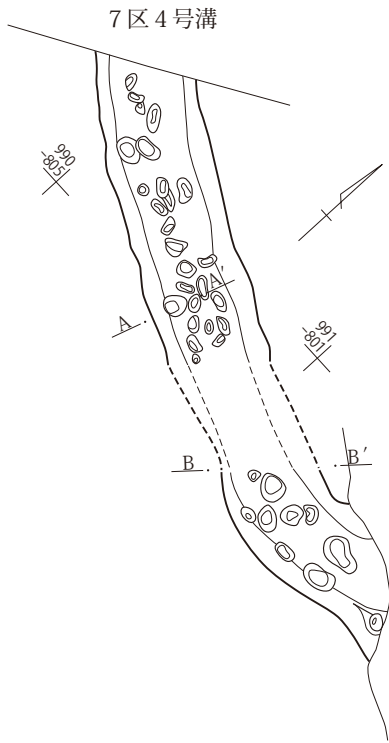
第202図 古墳～平安時代溝21

7区1・3号溝3面-2



※土層図は第198・199図参照  
 7区1溝の16～23層、  
 7区3溝の12・19・23・31層が  
 3面に核当する。

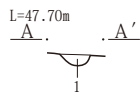
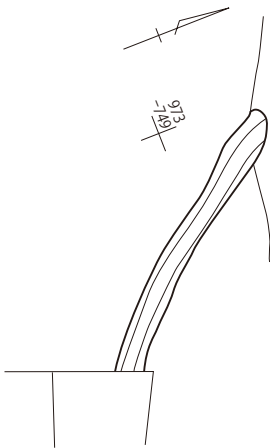
第203図 古墳～平安時代溝22



7区4号溝

- 1 暗褐(10YR3/3)細砂粒・酸化鉄分中量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂粒多量、酸化鉄分少量、黄色粒子微量混。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/3)シルト質。細砂粒・酸化鉄分少量混。
- 4 暗褐(10YR3/3)細砂粒少量混。
- 5 にぶい黄褐(10YR5/3)微砂層。黒褐色土B少量混。粘性弱。
- 6 灰黄褐(10YR4/2)細砂層。灰黄褐・にぶい黄褐砂層互層。粘性弱。
- 7 灰黄褐(10YR4/2)細砂層。粒子やや粗い。灰黄褐・にぶい黄褐砂互層。粘性・しまり弱。
- 8 暗褐(10YR3/3)微砂少量混。
- 9 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂微量混。

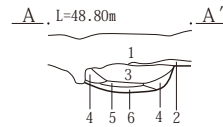
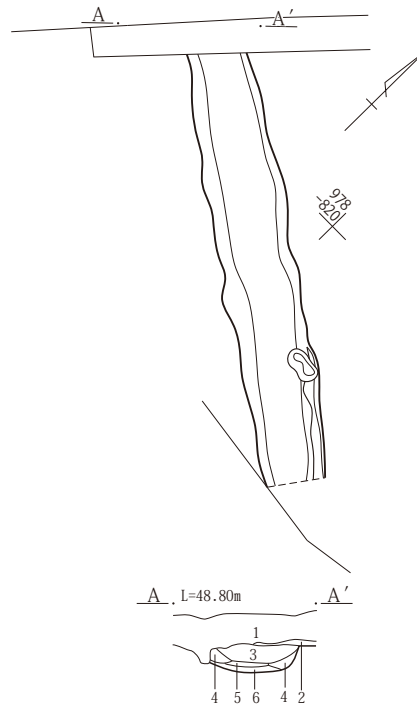
7区5号溝



7区5号溝

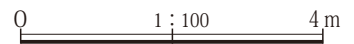
- 1 暗褐(10YR3/4)細砂層。粘性・しまり弱。

7区6号溝



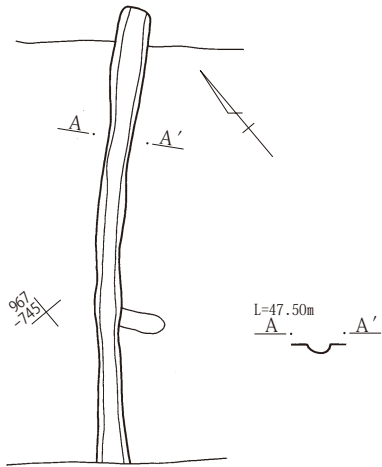
7区6号溝

- 1 耕作土
- 2 As-B混土
- 3 暗褐(10YR3/3)細砂(As-B含むか?)多量混。粘性弱・しまり強。
- 4 暗褐(10YR3/3)細砂中量混。しまり強。
- 5 暗褐(10YR3/3)細砂層状に多量混。粘性弱。
- 6 暗褐(10YR3/3)シルト・微砂互層。細砂B混。粘性弱。

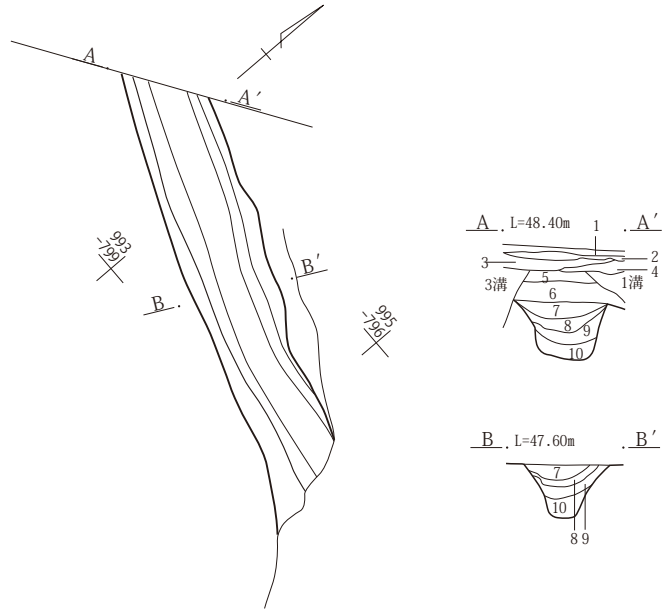


第204図 古墳～平安時代溝23

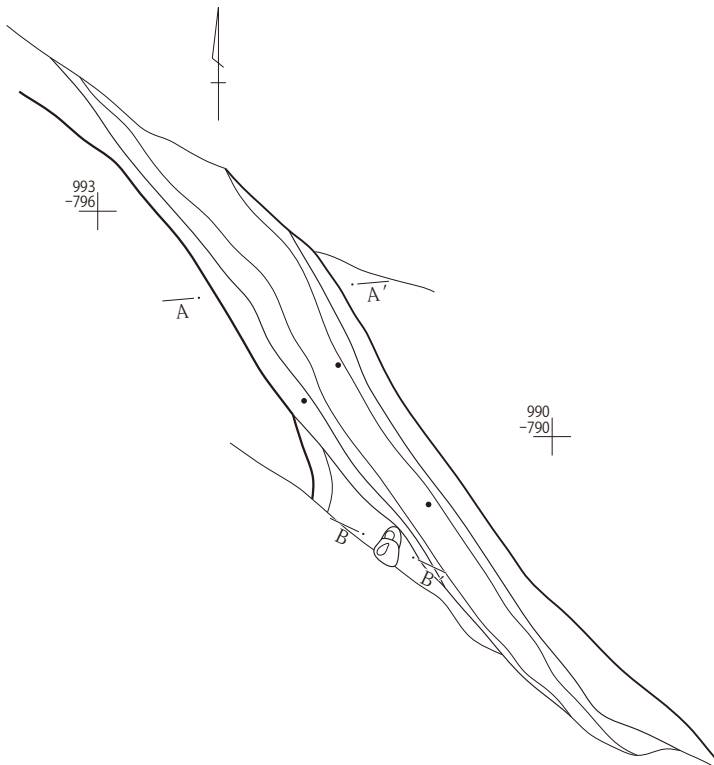
7区7号溝



7区11号溝

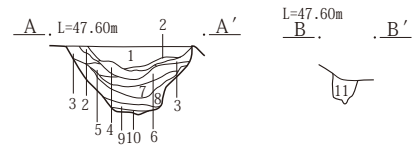


7区10号溝



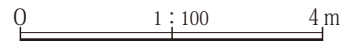
7区11号

- 1 耕作痕
- 2 As-B混土。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)キヌ細かい粘質土洪水層地山。
- 4 暗褐(10YR3/3)砂粒。酸化鉄分少量混。
- 5 褐(10YR4/4)微砂質。酸化鉄分多量混。粘性弱。
- 6 褐(10YR4/4)微砂質。小礫・細砂多量混。粘性弱。
- 7 にぶい黄褐(10YR4/3)暗褐色・黒褐色B小～中多量混。
- 8 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂多量、暗褐色・黒褐色B中量混。
- 9 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。暗褐色B少量混。
- 10 にぶい黄褐(10YR4/3)黒褐色B中量混。粘性・しまり弱。



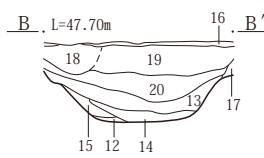
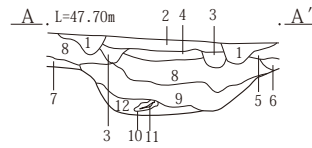
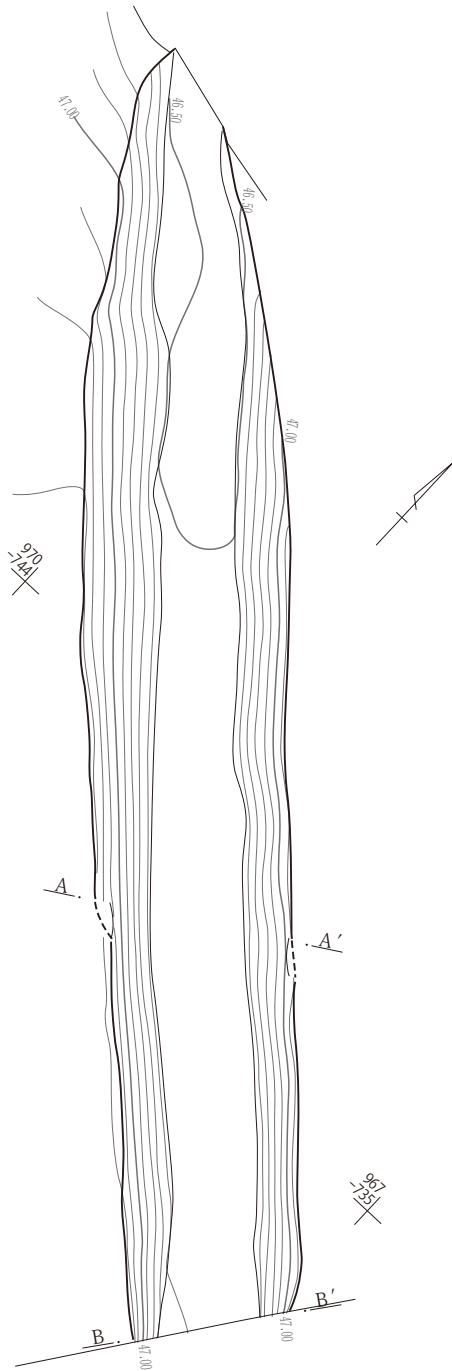
7区10号溝

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)暗褐・黒褐色土B小～中多量混。
- 2 黒褐(10YR2/3)白色粒子(HR-FA?)少量混。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。
- 4 灰黄褐(10YR4/2)微砂・シルト層状に重なる。粘性弱。
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂、暗褐色・黒褐色B多量混。
- 6 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。黒褐色B少量混。
- 7 暗褐(10YR3/3)黒褐色土・灰黄褐色土B多量混。
- 8 黒褐(10YR2/3)灰黄褐色土B中量混。
- 9 暗褐(10YR3/3)細砂多量混。
- 10 黒褐(10YR2/3)地山。褐色土B極多量混。
- 11 にぶい黄褐(10YR4/3)酸化鉄分中量混。



第205図 古墳～平安時代溝24

7区12号溝



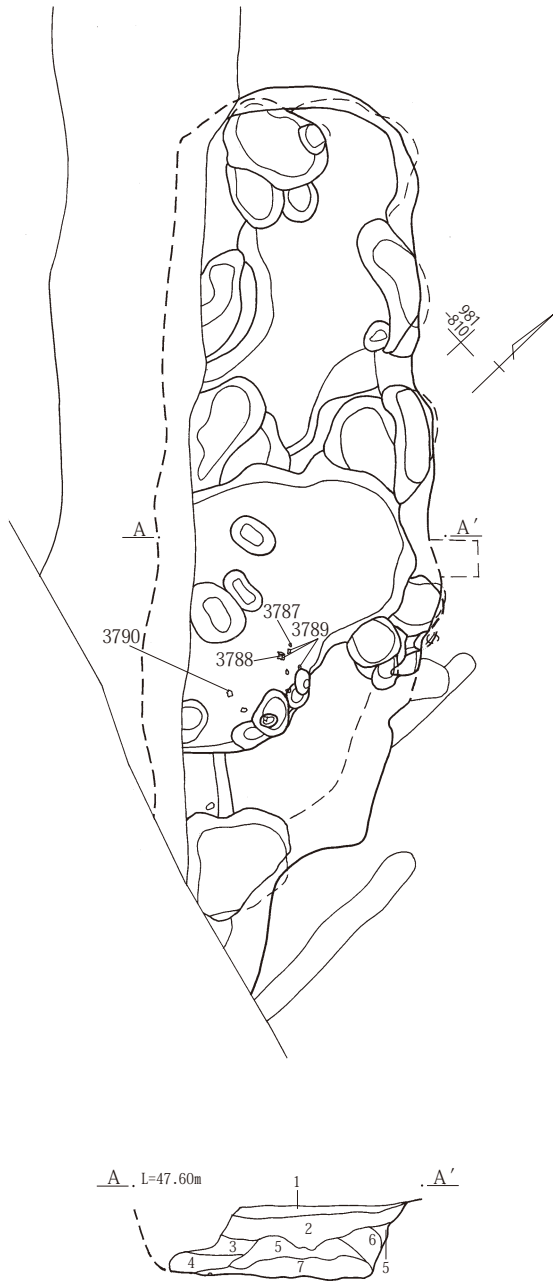
7区12号溝

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。礫小～中多量混。粘性弱、しまり強。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)褐色粘土多量、礫小少量混。しまり強。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)礫小中量混。
- 4 にぶい黄褐(10YR4/3)礫小少量、酸化鉄分多量混。しまり強。
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層ブロック状に多量、礫小少量混。粘性弱。
- 6 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂層、下面に粗砂・礫混入。粘性・しまり弱。
- 7 にぶい黄褐(10YR4/3)礫小～大・粗砂・細砂混土。
- 8 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層。酸化鉄分混。粘性弱。
- 9 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層。酸化鉄分多量混。粘性弱。
- 10 にぶい黄褐(10YR4/3)砂粒多量、酸化鉄分混。粘性・しまり弱。
- 11 黒(10YR2/1)微砂層。砂鉄か？粘性・しまり弱。
- 12 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂層。酸化鉄分多量混。粘性弱。
- 13 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質。酸化鉄分多量混。
- 14 細砂層。粘性・しまり極弱。
- 15 にぶい黄褐(10YR4/3)酸化鉄分少量混。
- 16 灰黄褐(10YR4/2)酸化鉄分多量混。しまり強。
- 17 にぶい黄褐(10YR4/3)B層に細砂多量混。
- 18 にぶい黄褐(10YR4/3)。細砂層。礫多く含む。
- 19 暗褐(10YR3/3)細砂粒多量混。粘性弱。
- 20 暗褐(10YR3/3)細砂多量、小礫少量混。



第206図 古墳～平安時代溝25

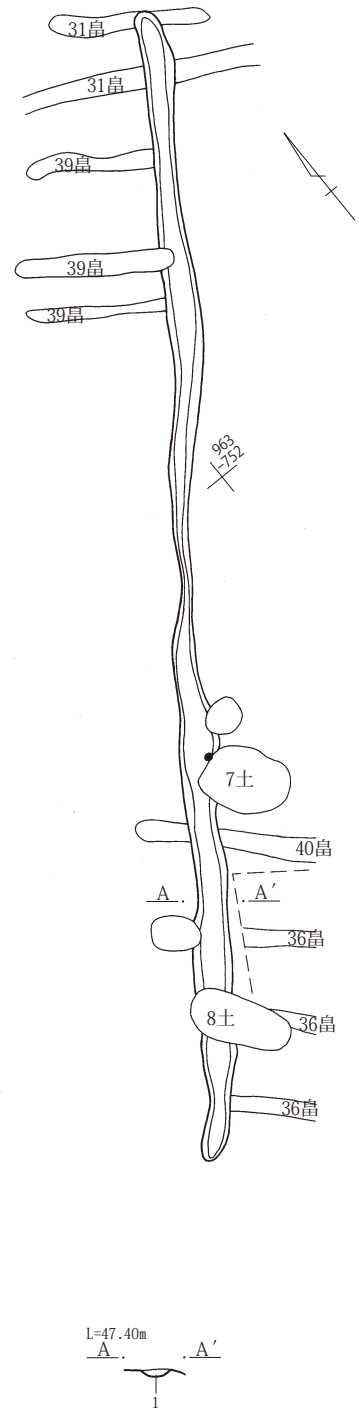
7区13号溝



7区13号溝

- 1 暗褐(10YR3/3)酸化鉄分・HR-FA少量混。下部洪水層。
- 2 黒褐(10YR2/3)・暗褐(10YR3/3)混土。灰黄褐灰層B・HR-FA少量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)褐色地山B層状に中量混。
- 4 褐(10YR4/4)地山主体。暗褐・黒褐色土B中量混。
- 5 黒褐(10YR2/3)地山B少量。Hr-FA微量混。
- 6 崩れた地山。
- 7 褐(10YR4/4)褐色地山主体。黒褐・暗褐色土層状に混。

7区14号溝



7区14号溝

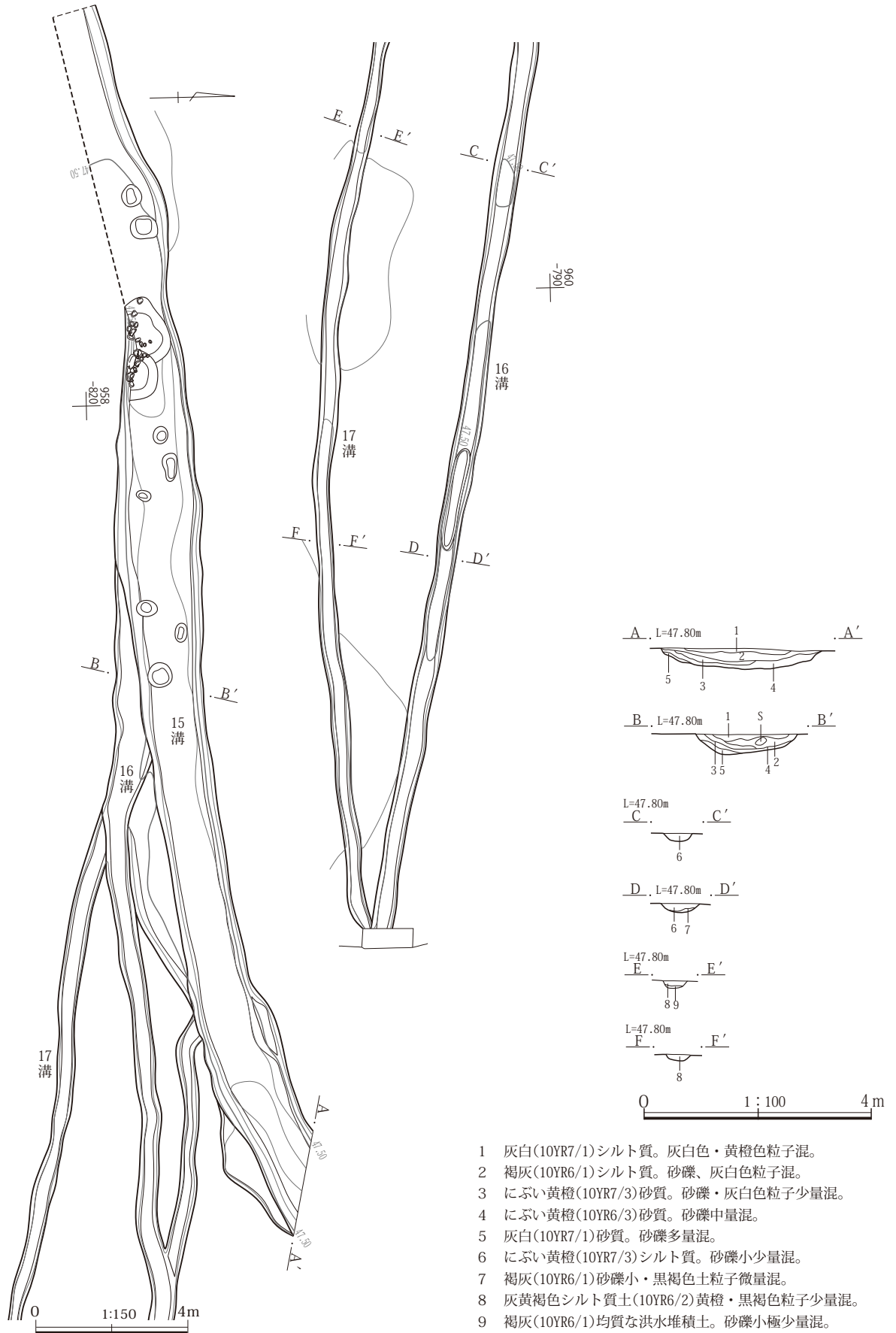
- 1 暗褐(10YR3/3) HR-FA中量、焼土・炭化粒少量混。しまり弱。

0 1 : 100 4 m

第207図 古墳～平安時代溝26



7区 15～17号溝



第208図 古墳～平安時代溝27

(5)井戸 (第209・210図・PL.94)

井戸は3基検出されている。

①分布 調査区北東部の5区から2基、6区から1基検出されており、他の区には存在していない。

②形態 平面形態が確実に判明しているのは、1区305号1基だけである。他の2基は調査区外等で遺構全体は判明していないが、残存部分の形態から、1区303号は円形、6区1号は楕円形と推定される。断面形態は、

1区303・305号は、狭い底部から大きく開いて壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部はあまり開かない形態であるが、6区1号は底部が未検出であるため詳細は不明であるが、上部が大きく開く形態となっている。

③規模 長径3.53～2.32m、深さ276～135cmである。

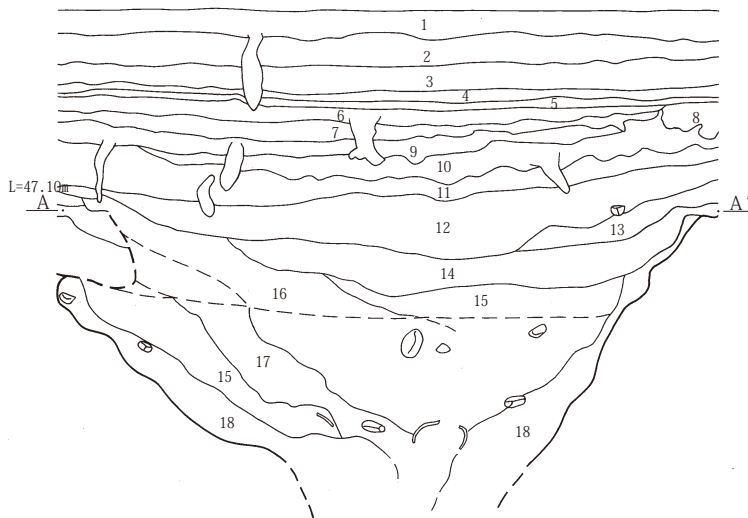
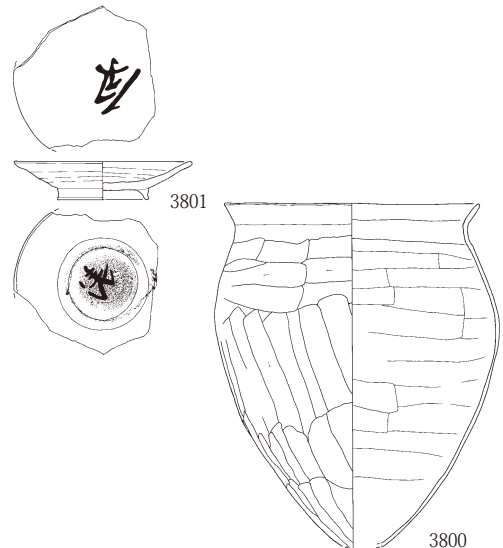
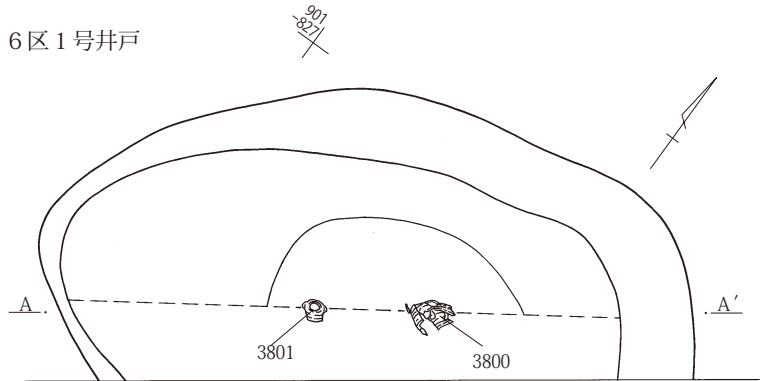
④時期 井戸の性格上出土遺物が必ずしも遺構の時期を示すとは限らないが、出土土器から8～10世紀の井戸と考えられる。

第24表 古墳～平安時代井戸一覧表

区	No	位置(Gr)	重複	平面形態	長径m	短径m	深さcm	面積㎡	主軸方位	時期
1	30	550～552-214～216		円形か	2.32	(1.50)	246	[2.78]	N-75°-W	8世紀
1	305	573～576-211～214		楕円形	3.20	2.58	276	6.57	N-65°-W	8世紀
6	1	898～901-824～827		楕円形か	3.53	[1.56]	[135]	[4.30]	N-66°-E	10世紀

第25表 古墳～平安時代井戸出土土器重量表

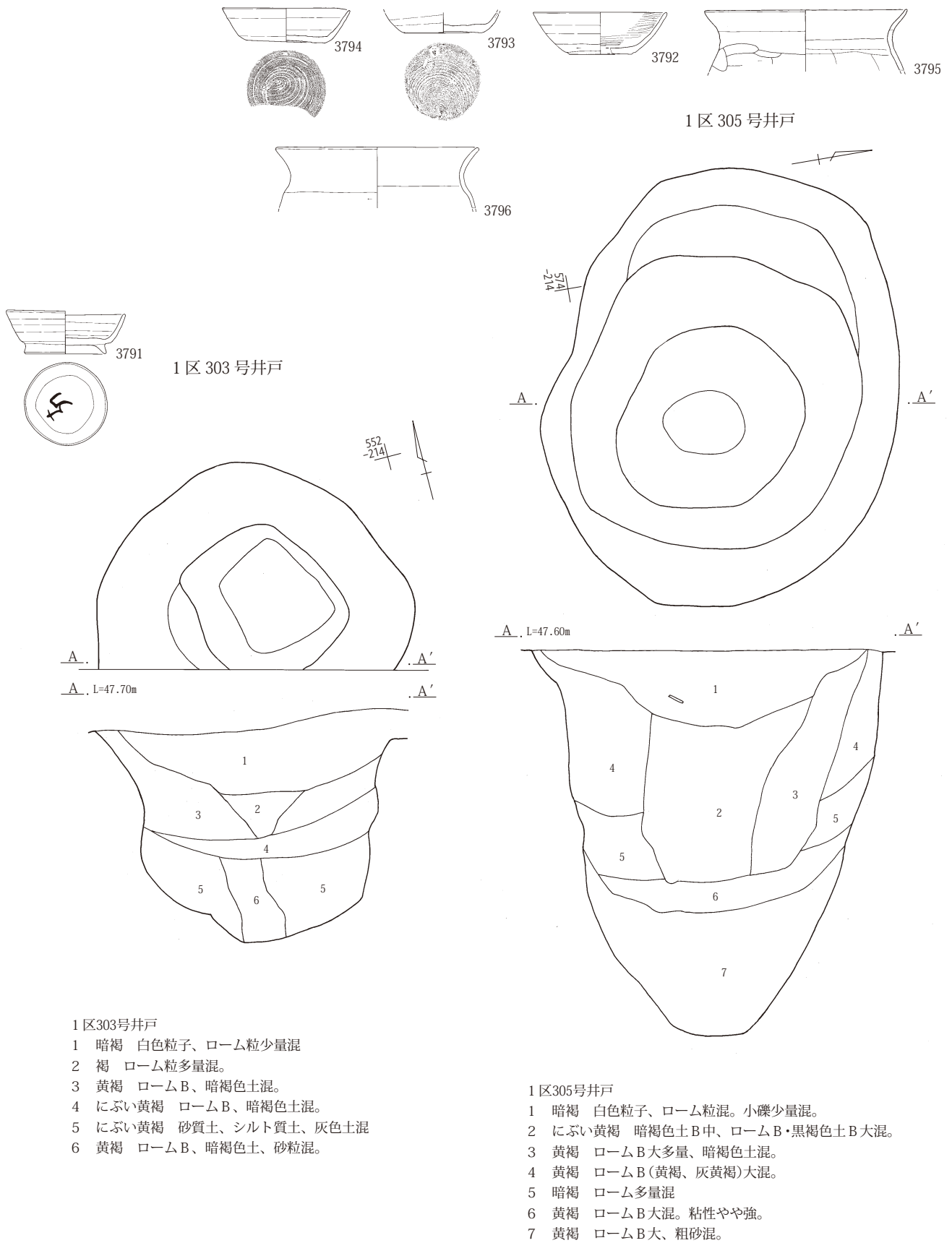
区	No.	土師器(g)			須恵器(g)			計
		甃	杯	小計	甃	杯	小計	
1	303	30		30			0	30
1	305	1020	110	1130	210	70	280	1410
6	1	60		60	720	100	820	880



6区1号井戸

- 1 現耕作土 水田耕土。
- 2 鉄分沈着層 水田耕土床土
- 3 灰黄褐(10YR4/2)シルト質土層主体。As-B少量混。
- 4 褐灰(10YR4/1)シルト質層。As-B混。
- 5 黒褐(10YR2/3) As-B混土層。軽石多量混。
- 6 暗褐(10YR3/3) As-B混土層。5層より軽石多量混。砂質感ある層。
- 7 暗褐(10YR3/4) 1次堆積ではないがAs-Bがカクランを受け、井戸埋没後の凹みに堆積したため残存。
- 8 黒褐(10YR2/2) As-B多量混。しまり強。
- 9 黒褐(10YR3/2)シルト質。褐色シルトをブロック状に含む。
- 10 灰黄褐(10YR4/2) HR-FA混土・褐色シルト質土混在。
- 11 暗褐(10YR3/3) HR-FA混土層。粘性強、しまり弱。
- 12 黒褐(10YR2/3)礫指頭大少量混。軟弱。
- 13 黒褐(10YR2/2) HR-FA混土。軟弱な流入土。
- 14 黒褐(10YR3/2) HR-FA混土。焼土粒微量混。軟弱。
- 15 灰黄褐(10YR4/2) HR-FA・ローム混土。
- 16 暗褐(10YR3/3)礫指頭大・ローム混。
- 17 褐(10YR4/4)ローム・礫・暗褐色土混。埋没土層。
- 18 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム多量混。壁体崩落土。

第209図 古墳～平安時代井戸1



第210図 古墳～平安時代井戸2

0 1:40 1m

(6)土坑 (第211～227図、PL.94～109)

土坑は187基検出されている。また、ピットとして調査したもので、残りの良い遺物が出土している2基も掲載した。他のピット(2241基検出)はほとんど時期を特定できないため、第5節で一覧表のみ掲載した。

①**分布** 区別にみると、1区6基、2区1基、3区19基、4区5基、5区42基、6区106基、7区8基となっており、調査区北東部の5・6区に集中している。これは竪穴住居の分布と同様の傾向にある。

②**形態** 平面形態がA～Fの6形態、断面形態がa～gの7形態に分類できる。

平面形態

- A 円形のもの(短軸：長軸が1：1.2未満)
- B 楕円形のもの(短軸：長軸が1：1.2以上)
- C 方形・隅丸方形のもの(短軸：長軸が1：1.2未満)
- D 長方形・隅丸長方形のもの(短軸：長軸が1：1.2以上)
- E 溝状に長いもの(短軸：長軸が1：2以上)
- F 不正形のもの、その他
- G 不明のもの

断面形態

- a 底部が平らで壁が垂直に近く立ち上がるもの
- b 底部が平らで壁が外側に傾斜して立ち上がるもの
- c 底部が丸みを帯びるもの
- d 底部が狭く壁が直線的に立ち上がるもの
- e 底部が部分的にもう一段下がるもの
- f 深さが深いもの(長径：深さが1以上)
- g 不正形のもの、その他

平面形態は、Bの楕円形のもの39%で最も多く、次にAの円形のもの33%で続いており、この2形態で70%以上を占めている。方形・隅丸方形、長方形・隅丸長方形のものは、6%、7%で、他の形態はすべて5%である。

断面形態は、e類が35%で最も多く、続いてc類(25%)、b類(21%)、a類(13%)、d類(4%)、f類・g類(1%)の順となっている。

次に平面形態ごとの断面形態を見ることにする。

**A円形** 断面形は、a類が、1区16・17・18・3区3・5区743・744・6区3・49土坑の8基である。長径平均0.83mで、規模差がやや大きい。深さは平均26cmで比較的浅いが、規模の小さい5区743・744・6区49土坑は、相対的に深く

なっている。1区17・18土坑は、埋土中に多数の礫を含んでいる。b類は1区20・3区7・20・4区36・5区474・475・6区149～151・158・167・180・182土坑の13基である。長径平均1.13mで、a類よりも規模が大きい。深さは平均23cmで浅いものが多い。1区20・6区151・180土坑は、断面形態が比較的整然としてきれいな掘り方である。他の土坑はやや崩れている。4区36土坑は規模が大きく、底部に一部掘り込まれた部分もあるため、他と性格を異にしている。c類は、1区13・3区17・5区211・215・357・6区118・139・140・141・148・153土坑等20基で最も多い。長径平均1.12mでb類と同程度であるが、0.36～6.02mと規模差が大きい。深さは平均37cmでb類より深い。5区211土坑は、規模が極めて大きく、底部中央にある215土坑と同一遺構の可能性があり、性格は不明であるが、他の土坑とは違った特異なものとなる。(長径6mある遺構を土坑に分類するのは適当でないかもしれないが、機能・用途が不明であり、他の遺構に分類できないため、土坑として扱った。)5区357・6区139・140・141・161土坑等、整然とした掘り方のものが多い。d類は2基と少なく、3区13・5区504土坑のみで、規模は長径0.44・1.14m、深さ25・48cmである。e類は、5区428・740・742・6区6・9・11・13・35・44・142土坑等17基と多い。長径0.59～1.24mでb・c類よりもやや規模が小さく、規模差も小さい。深さは15～70cmで、b類より深くなっているが規模差は小さい。5区428・6区145土坑等くぼみが1個で底部の片側によるもの、5区742・6区13・188土坑等底部に複数くぼみがあるもの等があるが、6区11・35・142・168・171・184土坑等、中央部がやや大きく掘り込まれているものが比較的よくある。f類は5区580土坑1基のみで、長径0.46mと小さいため、相対的に深さ68cmでもかなり深くなる。g類も5区10土坑1基のみであるが、長径1.34mとやや規模が大きい。

**B楕円形** 断面形a類は4区19・5区586・624・6区27・36・136土坑の6基と少ない。長径平均1.32mと規模は大きく、深さも平均43cmと比較的深い。4区19土坑は長径3.13mと大規模で他と異なった性格と考えられる。b類は4区21A・5区317・481・6区24・25・43・46・115・143土坑等13基である。長径平均1.18mで深さ平均26cmと比較的小規模である。4区21A土坑は長径2.82mと他の2倍以上ある大規模なもので、性格が異なっていると考え

られる。6区170土坑は深さ61cmと深く、掘り方は直線的で整然としている。c類は、1区22・3区2・15・16・5区119・564・677・6区28・137・164・178・7区2土坑等15基である。長径0.50～1.64m、深さ8～47cmと小規模で規模差も小さい。6区187土坑からは完形近く復元できる土師器杯・須恵器杯蓋が出土している。d類は、3区6・8・9・14・6区133土坑の5基と少ない。長径0.45～1.32mで深さ23～52cmと、c類同様小規模で規模差も小さい。e類は3区19・5区326・368・423・495・6区・5・7・8・10・14・16・29・50・116土坑等31基である。長径0.68～1.71mで、深さ15～107cmである。規模はa・b類に比べやや小さい。規模差も小さく平均している。5区326土坑は小規模で浅いピットが底部中央に存在するが、5区368土坑は底部全体がもう一段下がる形態である。6区5・7・8・14土坑等は、底部にピットが多数存在する形態である。f類は5区741土坑、g類は6区2土坑と各1基のみで、特異な形態である。

**C方形・隅丸方形** 断面形a類は6区22土坑1基のみであるが、重複のためはっきりしない。b類は5区459・543・6区15・20土坑の4基である。長径平均1.32mと規模が大きい。6区15土坑は断面形が左右対称で整然とした掘り方となっている。c類は6区152・173土坑の2基のみである。いずれも断面形はやや丸みを帯び、平面形はやや崩れた形態である。d類はなく、e類は5区619・6区12・19・48土坑の4基である。いずれも底面にピットが複数存在する形態である。

**D長方形・隅丸長方形** 断面形a類は、3区4・5・4区21B・5区472・6区181土坑の5基である。長径0.39～3.53mで規模・形態とも差が大きく、規格性がない。b類は4区70・6区4・7区3土坑の3基である。長径1.08～1.72と規模差は小さい。c類は、6区138・176・7区5土坑の3基である。長径0.99～1.50mとb類同様規模差は小さい。d類はなく、e類は5区437・6区26土坑の2基で、長径0.97・1.05mである。いずれも底面にピットが複数ある形態である。

**E溝状に長いもの** a類は3区11・5区526土坑の2基である。長径1.18m・2.11mと差がある。3区11土坑からは、須恵器杯の墨書土器が出土。b類は3区18・6区129・130土坑の3基で、長径1.46・2.76・2.86mで3区18土坑が他の2基の1/2程度と小さい。c類は、2区29・5区346土坑

の2基のみである。長径1.99・4.78mで、規模差が大きい。5区346土坑は4.78×0.88mと溝状に長くピットも多数あり、他の土坑と性格を異にしている。d類はなく、e類は5区191・6区1・165土坑の3基である。底部の一方にピットが1基存在する形態である。

**F不正形** a類が6区47土坑1基、b類が6区200土坑、c類が5区625・757土坑、e類が5区226・556・758・6区33・7区6土坑である。いずれも崩れた平面形態で、性格は不明である。

③埋没土 Hr-FAが混入する土坑が多く、Hr-FAおよびそれに比定できる白色軽石を含む暗褐色・黒褐色土で埋没する土坑が107基ある。他には、1区13・16～18土坑等の、ロームを含む黒褐色土で埋没するもの、3区6土坑、6区20土坑、洪水起源の砂層・シルト層、泥流で埋没しているもの、6区166・167土坑等のローム漸移層を含む黄褐色土で埋没しているもの等がある。大部分が、中央から壁際に向かって上がる、自然堆積と考えられる埋没状況を示しているが、後述する3区11号土坑や6区187号土坑は人為堆積の可能性もある。

④規模 長径6.02～0.36m、短径5.92～0.23m、長径/短径5.43～1.01、深さ111～7cm、面積30.17～0.08m<sup>2</sup>である。土坑により規模に大きな差がある。

⑤機能・時期 平面形態がE類の土坑のうち3区11号土坑からは、ほぼ完形に復元できる須恵器杯(3802)が出土しており、副葬品と考えることもできるため、土坑墓の可能性が考えられる。埋没土も1層のみで人為堆積の可能性もある。E類で同様の形態である、3区18土坑、5区191土坑、6区129・130土坑は、埋没土も1層のものが多く土坑墓の可能性があると見える。

他に完形に近い土師器杯と須恵器蓋(3818・3819)が出土している6区187号土坑は、埋没土も1層であるため土坑墓の可能性はあるが、規模が長径で0.82mと小さいことから確実ではない。また、5区211・215土坑から土師器杯・有孔鉢・須恵器杯・鉢等の完形・半完形品が6点出土しているが、遺構の性格は不明である。

完形やそれに近い状態の遺物が出土している土坑は、前記の3区11号土坑と6区187号土坑だけであり、他の土坑は、埋土等から古墳時代～平安時代のものとは比定できただけで、詳細な時期は不明である。出土土器から、3区11号土坑は9世紀、6区187号土坑は7世紀と考えられる。

第三章 検出された遺構と出土遺物

第26表 古墳～平安時代土坑形態別数量表

平面 断面	A		B		C		D		E		F		G		計	
	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%	基数	%
a	8	13%	6	8%	1	9%	5	38%	2	20%	1	11%	1	10%	24	13%
b	13	21%	13	18%	4	36%	3	23%	3	30%	1	11%	3	30%	40	21%
c	20	32%	15	21%	2	18%	3	23%	2	20%	2	22%	2	20%	46	25%
d	2	3%	5	7%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	10%	8	4%
e	17	27%	31	43%	4	36%	2	15%	3	30%	5	56%	3	30%	65	35%
f	1	2%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%
g	1	2%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%
計	62	33%	72	39%	11	6%	13	7%	10	5%	9	5%	10	5%	187	100%

第27表 古墳～平安時代土坑一覧表

区	No.	位置(Gr)	重複	平面形態	断面形態	長径 m	短径 m	長径/短径	深さ cm	面積 ㎡	主軸方位	備考
1	13	597 -145・146		A	c	0.78	0.74	1.05	54	0.49	N-53° -W	
1	16	611・612-164・165		A	a	0.83	0.77	1.08	29	0.47	N-42° -E	
1	17	608・609-149・150		A	a	1.04	1.04	1.00	13	0.80	N-45° -E	
1	18	605・606-150・151		A	a	1.12	1.03	1.09	25	0.92	N-86° -E	
1	20	616・617-159・160		A	b	0.86	0.81	1.06	8	0.51	N-52° -E	
1	22	587・588-138・139		B	c	0.69	0.49	1.41	10	0.27	N-57° -W	
2	29	689～691-077・078		E	c	1.99	0.90	2.21	22	1.39	N-24° -E	
3	2	791・792-047・048		B	c	0.61	[0.38]		18	[0.19]	N-49° -E	
3	3	717 -031・032		A	a	1.24	(1.15)	(1.08)	7	(1.16)	N-68° -E	
3	4	716 -030		D	a	0.39	0.23	1.70	17	0.08	N-7° -W	
3	5	747・748-046・047		D	a	1.00	0.82	1.22	18	(0.71)	N-40° -E	
3	6	719・720-025・026		B	d	1.32	1.10	1.20	28	1.17	N-57° -E	
3	7	725・726-028・029		A	b	1.00	0.90	1.11	11	0.74	N-15° -E	
3	8	708・709-043		B	d	0.61	0.50	1.22	23	0.23	N-90°	
3	9	700 -038・039		B	d	0.69	0.46	1.50	32	0.25	N-8° -W	
3	10	699・700-042・043		G	a	0.49	[0.23]		20	[0.09]	N-27° -W	
3	11	768～770-067		E	a	2.11	0.51	4.14	29	0.89	N-15° -E	9世紀
3	12	704 -044・045		G	d	0.43	[0.25]		36	[0.09]	N-29° -W	
3	13	703・704-042・043		A	d	0.44	0.39	1.13	25	0.13	N-23° -E	
3	14	710・711-042		B	d	0.45	0.36	1.25	30	0.13	N-7° -W	
3	15	716・717-025・026		B	c	0.87	0.71	1.23	33	0.49	N-10° -W	
3	16	739・740-049・050		B	c	1.37	0.75	1.83	30	0.80	N-30° -W	
3	17	740・741-042		A	c	0.85	0.80	1.06	68	0.57	N-79° -E	
3	18	750～752-065～067		E	b	2.76	0.78	3.54	36	1.97	N-46° -W	
3	19	739・740-051・052		B	e	1.60	0.90	1.78	45	1.14	N-28° -W	
3	20	738～740-060～062		A	b	1.69	1.67	1.01	15	2.20	N-28° -E	
4	19	815～817-955～958	36土坑	B	a	3.13	(2.12)	(1.48)	88	(5.60)	N-67° -E	
4	21A	809～811-948～950		B	b	2.82	1.84	1.53	71	4.27	N-37° -E	
4	21B	808～811-947～950		D	a	3.53	[2.29]		50	[5.12]	N-68° -E	
4	36	814～816-953～951	19土坑	A	b	2.00	[1.70]		66	[2.67]	N-10° -W	
4	70	817・818-953・954		D	b	1.44	1.04	1.38	17	1.33	N-68° -E	
5	10	829～831-924・925		A	g	1.34	1.14	1.18	59	(1.23)	N-7° -W	
5	119	857・858-899・900		B	c	1.07	0.71	1.51	34	0.56	N-84° -W	
5	191	878～880-884・885		E	e	(2.10)	0.57	(3.68)	31	(0.98)	N-22° -W	
5	211	844～851-899～905	215土坑	A	c	6.02	5.92	1.02	55	30.17	N-31° -E	
5	215	847～849-901～903	211土坑	A	c	2.29	2.17	1.06	111	3.83	N-82° -W	
5	226	884・885-899・90		F	e	1.35	1.23	1.10	52	0.30	N-85° -E	
5	317	864・865-910		B	b	0.80	0.45	1.78	14	0.29	N-72° -E	
5	326	850・851-915・916		B	e	1.70	1.08	1.57	32	(1.35)	N-15° -E	
5	346	879～884-908・909		E	c	4.78	0.88	5.43	41	3.87	N-6° -W	
5	357	887・888-905・906		A	c	1.01	0.94	1.07	36	0.78	N-12° -W	
5	368	880～882-910・911		B	e	1.71	1.26	1.36	44	(1.59)	N-73° -W	
5	403	895 -902・903		G	b	0.87	[0.52]		54	[0.32]	N-46° -W	
5	423	873・874-888・889		B	e	1.06	0.83	1.28	53	0.67	N-8° -W	
5	428	876・877-900		A	e	0.85	0.74	1.15	21	0.50	N-10° -W	
5	437	883・884-891		D	e	0.97	0.78	1.24	38	0.68	N-82° -E	
5	459	880・881-912・913		C	b	1.10	1.05	1.05	53	0.98	N-57° -E	

第4節 古墳時代後期～平安時代

区	No.	位置(Gr)	重複	平面形態	断面形態	長径 m	短径 m	長径/短径	深さ cm	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	備考
5	472	879・880—899・900		D	a	1.18	0.63	1.87	31	0.62	N—2°—W	
5	474	860・861—914・915		A	b	1.03	0.95	1.08	18	0.80	N—0°	
5	475	876・877—915・916		A	b	1.17	1.09	1.07	11	0.98	N—3°—W	
5	481	869・870—915・916		B	b	(1.23)	0.82	(1.50)	7	(0.80)	N—62°—W	
5	495	864—907		B	e	0.88	(0.57)	(1.54)	50	(0.39)	N—38°—W	
5	504	863・864—914・915		A	d	1.14	0.85	1.34	48	0.78	N—45°—E	
5	526	864・865—908・909		E	a	1.18	0.47	2.51	15	0.45	N—84°—E	
5	543	881・882—918～920		C	b	1.56	1.35	1.16	23	1.76	N—77°—W	
5	556	888～890—898・899		F	e	1.26	1.16	1.09	38	(1.02)	N—6°—W	
5	564	873—892		B	c	0.51	0.42	1.21	8	0.18	N—37°—W	
5	580	863—889	624土坑	A	f	0.46	0.42	1.10	68	(0.18)	N—33°—W	
5	583	875—931・932		A	c	(0.36)	0.31	(1.16)	18	(0.08)	N—76°—W	
5	586	893・894—926・927		B	a	1.12	0.68	1.65	36	(0.67)	N—6°—W	
5	619	863・864—887		C	e	0.76	0.73	1.04	31	0.41	N—8°—E	
5	624	862・863—888・889	580土坑	B	a	1.01	0.70	1.44	56	(0.58)	N—43°—W	
5	625	859・860—891・892		F	c	0.64	0.50	1.28	27	(0.26)	N—0°	
5	629	864・865—875・876		A	c	0.81	0.68	1.19	24	(0.45)	N—24°—E	
5	677	833・834—905～907		B	c	1.43	0.78	1.83	11	0.94	N—41°—W	
5	740	880—897		A	e	0.60	0.52	1.15	15	0.22	N—30°—E	
5	741	884・885—901・902		B	f	0.50	(0.36)	(1.39)	44	(0.15)	N—86°—W	
5	742	879・880—893		A	e	0.95	0.81	1.17	24	0.58	N—32°—W	
5	743	886—899		A	a	0.53	0.45	1.18	37	0.19	N—68°—W	
5	744	885・886—898		A	a	0.60	0.54	1.11	38	0.26	N—15°—E	
5	754	878・879—883・884		G	e	1.52	(0.81)	(1.88)	47	(0.71)	N—26°—W	
5	757	882・883—883・884	758土坑	F	c	0.95	(0.73)	(1.30)	50	(0.49)	N—29°—W	
5	758	881・882—883・884	757土坑	F	e	1.68	1.39	1.21	46	(1.32)	N—23°—W	
6	1	911・912—885・886		E	e	0.81	0.30	2.70	26	0.20	N—29°—E	
6	2	875・876—862・863		B	g	1.17	0.66	1.77	21	0.61	N—74°—W	
6	3	887・888—853・854		A	a	0.74	0.63	1.17	16	0.37	N—43°—W	
6	4	891—865・866		D	b	1.08	0.68	1.59	15	0.64	N—76°—E	
6	5	893・894—871・872		B	e	0.92	0.52	1.77	31	0.39	N—44°—E	
6	6	899・900—875・876		A	e	0.91	0.88	1.03	66	0.57	N—45°—E	
6	7	884・885—878・879		B	e	1.03	0.81	1.27	42	0.62	N—64°—E	
6	8	895・896—844・845		B	e	1.23	0.89	1.38	26	0.91	N—68°—E	
6	9	895・896—837・838		A	e	1.01	0.87	1.16	47	0.72	N—85°—W	
6	10	888・889—846・847		B	e	0.72	0.59	1.22	26	0.33	N—51°—E	
6	11	874・875—850～852	8住、405ピット	A	e	1.24	(1.09)	(1.14)	61	(1.11)	N—40°—E	
6	12	878・879—854・855		C	e	1.17	1.06	1.10	48	0.96	N—77°—W	
6	13	871・872—855・856		A	e	0.76	0.71	1.07	33	0.41	N—7°—E	
6	14	876—856・857	8住	B	e	0.87	0.68	1.28	26	0.48	N—31°—W	
6	15	885・886—860・861		C	b	1.20	1.05	1.14	32	1.12	N—84°—W	
6	16	888・889—854・855		B	e	1.23	0.79	1.56	36	0.80	N—48°—W	
6	17	877—844・845	9住より新	G	b	0.95	[0.42]		37	[0.29]	N—80°—E	
6	18	885・886—860	4住より旧	G	e	0.91	[0.43]		33	[0.28]	N—87°—E	
6	19	874・875—856・857	8住より旧	C	e	0.94	0.81	1.16	53	[0.59]	N—1°—E	
6	20	878・879—857・858		C	b	1.42	1.39	1.02	31	1.80	N—0°	
6	21	877—843・844	9住	G	b	0.55	[0.49]	1.12	26	0.23	N—90°—E	
6	22	886・887—862・863		C	a	0.70	0.63	1.11	17	0.35	N—86°—W	
6	24	896・897—837・838		B	b	1.19	0.89	1.34	40	0.83	N—58°—E	
6	25	897・898—835～837	26土坑、504ピット	B	b	1.23	0.96		30	[0.93]	N—50°—W	
6	26	898・899—835・836	25土坑、503ピット	D	e	1.05	0.75	1.40	26	0.72	N—51°—W	
6	27	900・901—837・838		B	a	0.94	0.69	1.36	24	0.51	N—61°—E	
6	28	901・902—838・839		B	c	0.82	0.54	1.52	32	0.35	N—25°—E	
6	29	904—851・852		B	e	0.83	0.69	1.20	32	0.44	N—13°—W	
6	33	928～930—862・864		F	e	1.38	0.89	1.55	38	0.82	N—34°—W	
6	35	904・905—838・839		A	e	1.01	0.98	1.03	45	0.76	N—21°—E	
6	36	885・886—849	10・11住	B	a	0.90	0.73	1.23	25	0.48	N—70°—E	
6	43	884～886—847・848	10・11住、46土坑より旧、48土坑より新	B	b	1.34	[0.96]		13	[1.04]	N—28°—W	
6	44	893・894—833・834		A	e	0.85	0.74	1.15	37	0.51	N—42°—W	

第三章 検出された遺構と出土遺物

区	No.	位置(Gr)	重複	平面形態	断面形態	長径 m	短径 m	長径/短径	深さ cm	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	備考
6	46	884・885-848・894	11住、43・48土坑より新	B	b	0.73	0.57	1.28	17	0.33	N-63° -E	
6	47	884 -849・850	11住	F	a	0.79	0.49	1.61	47	0.32	N-83° -E	
6	48	883・884-847~849	11住、43・46土坑より旧	C	e	1.34	[1.09]		40	[1.13]	N-45° -E	
6	49	885・886-847	10・11住	A	a	0.53	0.50	1.06	42	0.20	N-73° -E	
6	50	873・874-846・847	51土坑より旧、51溝	B	e	(0.99)	0.53	(1.87)	38	(0.42)	N-11° -E	
6	51	873・874-847	50土坑より新	G	c	1.06	[0.45]	4.33	31	[0.33]	N-51° -E	
6	115	931・932-801		B	b	0.67	0.48	1.40	9	0.25	N-48° -E	
6	116	948・949-817・818		B	e	1.27	0.97	1.31	38	0.91	N-84° -E	
6	117	947・948-830・831		B	e	1.03	0.69	1.49	62	0.56	N-33° -W	
6	118	907 -837・838		A	c	0.75	0.70	1.07	33	0.41	N-64° -E	
6	129	944~947-760~762		E	b	2.86	0.66		19	1.70	N-38° -E	
6	130	946~948-760・761		E	b	1.46	0.68	2.15	12	0.87	N-40° -E	
6	131	948 -787・788		B	e	1.05	0.53	1.98	28	0.42	N-67° -W	
6	132	924・925-788・789		G	e	1.57	[0.36]		21	[0.44]	N-63° -E	
6	133	922・923-793		B	d	0.84	0.60	1.40	52	0.42	N-88° -W	
6	134	922・923-795		B	e	1.02	0.59	1.73	47	0.46	N-21° -W	
6	135	922 -797		B	e	0.68	0.38	1.79	30	0.22	N-64° -E	
6	136	924・925-885		B	a	0.83	0.66	1.26	27	0.42	N-12° -E	
6	137	924・925-811・812		B	c	0.70	0.57	1.23	20	0.33	N-60° -W	
6	138	922・923-812・813		D	c	1.05	0.87	1.21	22	0.81	N-64° -E	
6	139	935・936-878		A	c	1.00	0.87	1.15	31	0.70	N-37° -W	
6	140	928・929-826		A	c	0.85	0.83	1.02	30	0.55	N-3° -E	
6	141	929・930-826・827		A	c	0.91	0.86	1.06	33	0.59	N-22° -W	
6	142	929・930-827・828	143土坑より新	A	e	0.98	0.87	1.13	47	0.68	N-36° -E	
6	143	929・930-827・828	142土坑より旧	B	b	1.11	(0.75)	(1.48)	33	(0.63)	N-32° -E	
6	144	950・951-851・852		B	e	0.68	0.53	1.28	15	0.27	N-58° -E	
6	145	933・934-852・853		A	e	0.87	0.82	1.06	35	0.58	N-55° -E	
6	146	939・940-849~851		B	b	1.50	1.07	1.40	14	1.26	N-79° -W	
6	147	902・903-827・828		B	b	1.19	0.82	1.45	12	0.81	N-34° -W	
6	148	934 -848・849		A	c	0.69	0.59	1.17	25	0.31	N-61° -E	
6	149	924・925-806~808		A	b	1.36	1.32	1.03	37	1.42	N-5° -E	
6	150	932・933-811・812		A	b	0.73	0.69	1.06	24	0.37	N-4° -W	
6	151	934・935-811・812	7A 畠より新	A	b	0.93	0.87	1.07	19	0.61	N-53° -E	
6	152	936・937-810・811		C	c	1.07	0.94	1.14	25	0.84	N-57° -E	
6	153	937・938-813・814		A	c	0.93	0.85	1.09	22	0.62	N-11° -E	
6	154	940・941-851		A	c	0.49	0.46	1.07	15	0.17	N-9° -W	
6	155	941・942-851		B	b	0.62	0.47	1.32	18	0.23	N-63° -E	
6	156	942 -850		B	e	0.76	0.41	1.85	23	0.24	N-50° -E	
6	157	941 -848・849		A	c	0.56	0.52	1.08	36	0.23	N-69° -E	
6	158	942・943-847・848		A	b	1.22	1.15	1.06	32	1.11	N-88° -W	
6	159	942・943-846		B	e	0.83	0.46	1.80	24	0.31	N-33° -E	
6	160	936・937-790・791		B	e	0.81	0.51	1.59	31	0.34	N-31° -W	
6	161	934・935-857・858		A	c	0.55	0.50	1.10	17	0.22	N-90° -E	
6	162	934 -856・857		A	c	0.63	0.53	1.19	27	0.25	N-8° -E	
6	163	932・933-847		A	e	0.59	0.53	1.11	20	0.26	N-48° -W	
6	164	933 -843・844		B	c	0.50	0.27	1.85	15	0.11	N-79° -E	
6	165	935・936-844・845		E	e	1.87	0.87	2.15	89	1.40	N-23° -W	
6	166	931 -840・841		B	e	1.02	0.66	1.55	27	0.50	N-53° -W	
6	167	927・928-835・836		A	b	0.98	0.92	1.07	23	0.70	N-70° -E	
6	168	944・945-808・809		A	e	1.09	1.07	1.02	29	0.84	N-8° -W	
6	169	943・944-811・812		A	c	1.28	1.22	1.05	40	1.19	N-69° -W	
6	170	945・946-815・816		B	b	0.90	0.57	1.58	61	0.42	N-3° -W	
6	171	939・940-815・816		A	e	1.14	1.12	1.02	48	0.95	N-90° -E	
6	172	903・904-824		B	e	0.94	0.62	1.52	31	0.47	N-5° -E	
6	173	906 -824	12畠より新	C	c	0.55	0.54	1.02	35	0.25	N-90° -E	
6	174	907・908-825		B	e	0.71	0.51	1.39	45	0.28	N-19° -E	
6	175	908 -823・824		B	e	0.76	0.52	1.46	31	0.31	N-72° -E	
6	176	907・908-822・823		D	c	0.99	0.52	1.90	33	0.44	N-19° -W	
6	177	942・943-824		B	e	0.83	0.68	1.22	50	0.44	N-71° -W	
6	178	940 -826・827	910ピットより旧	B	c	1.18	0.92	1.28	37	(1.46)	N-47° -W	



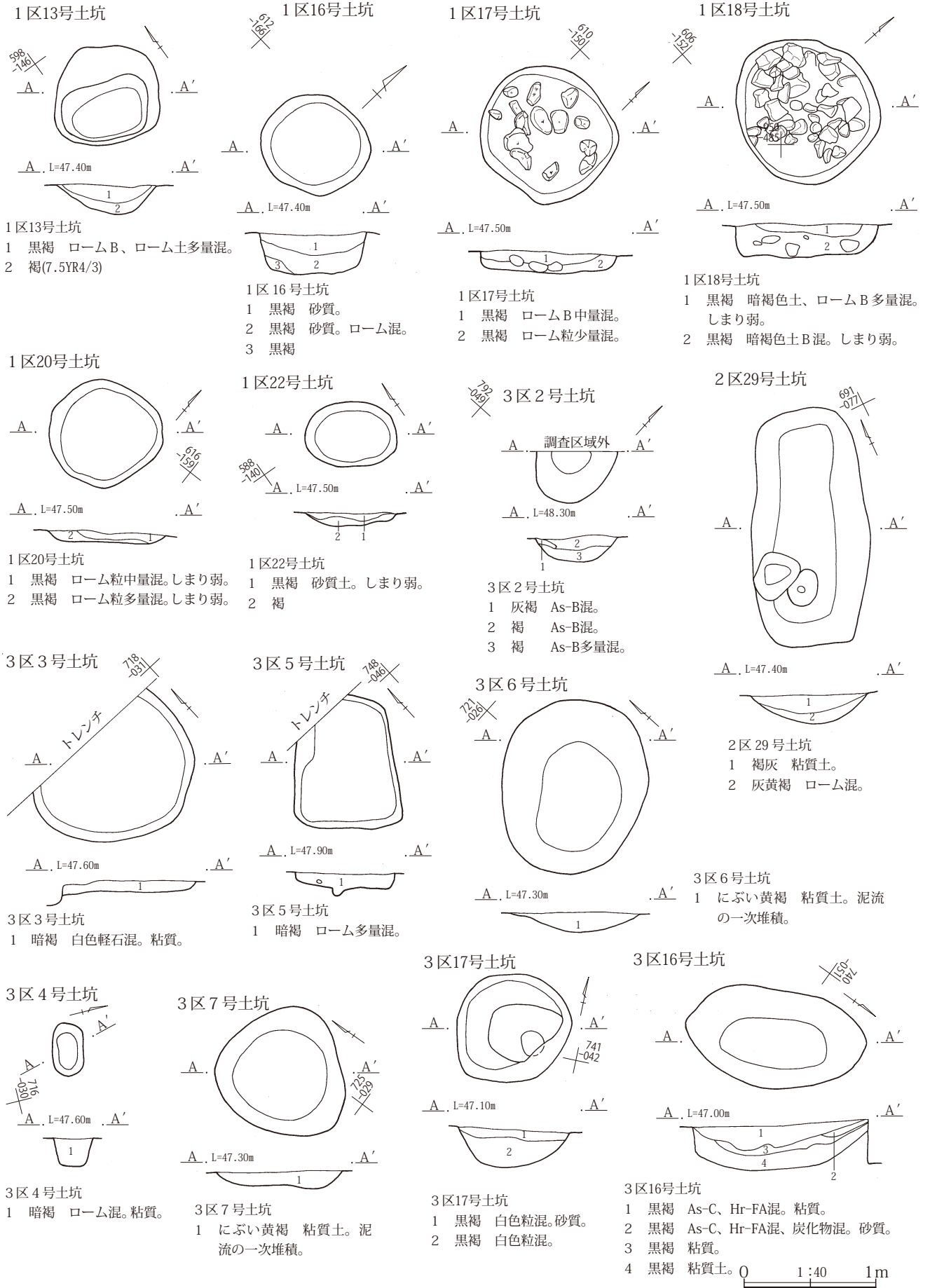
第4節 古墳時代後期～平安時代

区	No.	位置(Gr)	重複	平面形態	断面形態	長径 m	短径 m	長径/短径	深さ cm	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	備考
6	179	938・939-825・826		A	c	1.01	0.91	1.11	37	0.71	N-37°-E	
6	180	932・933-830・831	10号掘立	A	b	0.95	0.85	1.12	12	0.64	N-53°-E	
6	181	935～937-827・829		D	a	2.37	1.72	1.38	75	3.61	N-34°-W	
6	182	938・939-822・823	183土坑より新	A	b	0.78	(0.67)	(1.16)	20	0.41	N-18°-W	
6	183	938・939-823	182土坑より旧	B	c	0.65	0.48	1.35	28	0.24	N-8°-W	
6	184	944・945-822・823	1号円形周溝より新	A	e	0.99	0.93	1.06	70	0.67	N-22°-E	
6	185	921・922-839		B	c	0.91	0.54	1.69	41	0.37	N-5°-E	
6	186	921・922-835・836		A	e	0.95	0.93	1.02	39	0.66	N-72°-W	
6	187	949 -844・845	61溝より旧	B	c	(0.82)	0.68	(1.21)	17	(0.43)	N-51°-E	7世紀
6	188	905 -836・837		A	e	0.85	0.79	1.08	30	0.51	N-56°-E	
6	199	929・930-851～853	39住より旧	B	e	1.34	0.70	1.91	51	(0.71)	N-65°-E	
6	200	940・941-799・800	24住より旧	F	b	1.07	(0.92)	(1.16)	41	(0.77)	N-47°-W	
6	201	936・937-840		A	c	0.62	0.53	1.17	18	0.25	N-36°-E	
7	1	994・995-798～800	1溝より旧	G	c	[1.90]	[0.98]		52	[1.53]	N-56°-W	
7	2	991・992-791・792	1・10溝より旧、20畝より新	B	c	1.64	[0.88]		47	[1.05]	N-76°-W	
7	3	969・970-756・757	1溝・31畝より旧	D	b	(1.72)	(1.32)	(1.30)	10	(1.61)	N-5°-W	
7	4	978・979-804・805		B	e	1.39	1.03	1.35	107	1.08	N-6°-W	
7	5	980～982-792～794	2住より旧、32畝より新	D	c	1.50	(0.74)	(2.03)	21	(1.05)	N-56°-W	
7	6	958～960-749・750		F	e	1.46	1.43	1.02	13	1.31	N-18°-W	
7	7	960・961-748・749	14溝より新	B	e	1.14	0.85	1.34	41	0.81	N-55°-E	
7	8	958・959-745・746		B	e	1.39	0.64	2.17	41	0.71	N-59°-E	

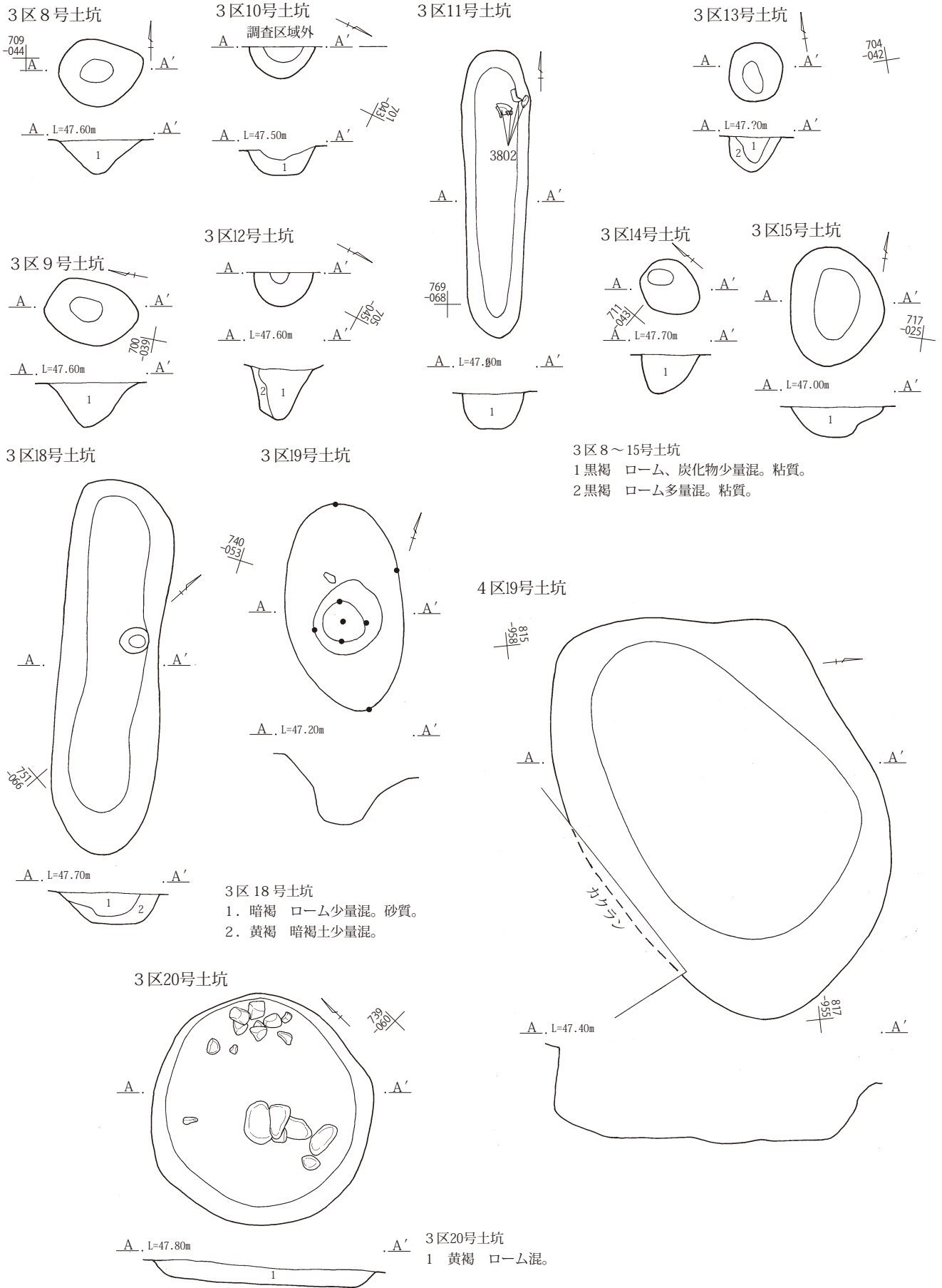
第28表 古墳～平安時代土坑出土土器重量表

区	No.	土師器 (g)			須恵器 (g)			計	区	No.	土師器 (g)			須恵器 (g)			計											
		甗	杯	小計	甗	杯	小計				甗	杯	小計	甗	杯	小計												
1	19	10		10			0	10	5	191		5	5			0	5	6	24		10	10	10			10	20	
1	27	5		5			0	5	5	211	1930		1930	240	180	420	2350	6	36	60	10	70				0	70	
1	30		30	30			0	30	5	215	1670	65	1735	170	100	270	2005	6	37	20		20				0	20	
1	38	3		3			0	3	5	211・215	250	130	380		50	50	430	6	42	50		50				0	50	
1	65			0		3	3	3	5	216-1		65	65			0	65	6	43	50		50				0	50	
1	70	2		2			0	2	5	216-4	300		300			0	300	6	45	50		50				0	50	
1	74	5		5			0	5	5	226	10		10			0	10	6	46	790	20	810		10	10	820		
1	76	2		2			0	2	5	326	10		10			0	10	6	47	30		30				0	30	
1	98	2		2			0	2	5	317		15	15			0	15	6	119	2		2				0	2	
1	97	10		10			0	10	5	346	45	9	54	10		10	64	6	122	30		30				0	30	
1	105		2	2			0	2	5	357	10	47	57			0	57	6	125	20		20		40	40	60		
1	139	2		2			0	2	5	368	80	25	105			0	105	6	129	10		10				0	10	
1	143		1	1			0	1	5	472		6	6			0	6	6	130	20		20				0	20	
1	162		1	1	10		10	11	5	474	16	1	17			0	17	6	139		35	35				0	35	
1	168		15	15			0	15	5	481		26	26			0	26	6	149	5	30	35				0	35	
1	169			0		15	15	15	5	526	50		50			0	50	6	151	10		10				0	10	
1	207	10		10		2	2	12	5	543	6		6			0	6	6	152	15		15				0	15	
1	263	3		3			0	3	5	586		42	42			0	42	6	153		2	2				0	2	
1	276	2		2	6		6	8	5	754	5		5			0	5	6	163	30		30				0	30	
1	284	230		230			0	230	5	755		0	30		30	30		6	169	10		10				0	10	
1	299	35		35			0	35	6	1	60		60			0	60	6	171		10	10				0	10	
1	318	105	25	130		40	40	170	6	4	20		20		5	5	25	6	178	20		20				0	20	
3	11			0		4	4	4	6	8	10		10			0	10	6	187	210	25	235		1	1	236		
3	21	50		50			0	50	6	9	20		20			0	20	6	202			0	15		15	15		
3	46	3		3			0	3	6	12	30	3	33			0	33	6	210	5		5				0	5	
4	19	140		140			0	140	6	14	2	30	32			0	32	6	202			0	15		15	15		
4	19・20	70	15	85		3	3	88	6	15	6		6			0	6	6	210	5		5				0	5	
4	21	10	3	13	2	30	32	45	6	19	10		10			0	10	7	3	10		10				0	10	
4	70	50		50			0	50	6	20	80		80			0	80	7	4	10		10				0	10	
5	10	30		30			0	30	6	21	40		40			0	40	7	6	240	10	250				0	250	
5	119	75		75			0	75	6	22	10		10	10		10	20											

第三章 検出された遺構と出土遺物

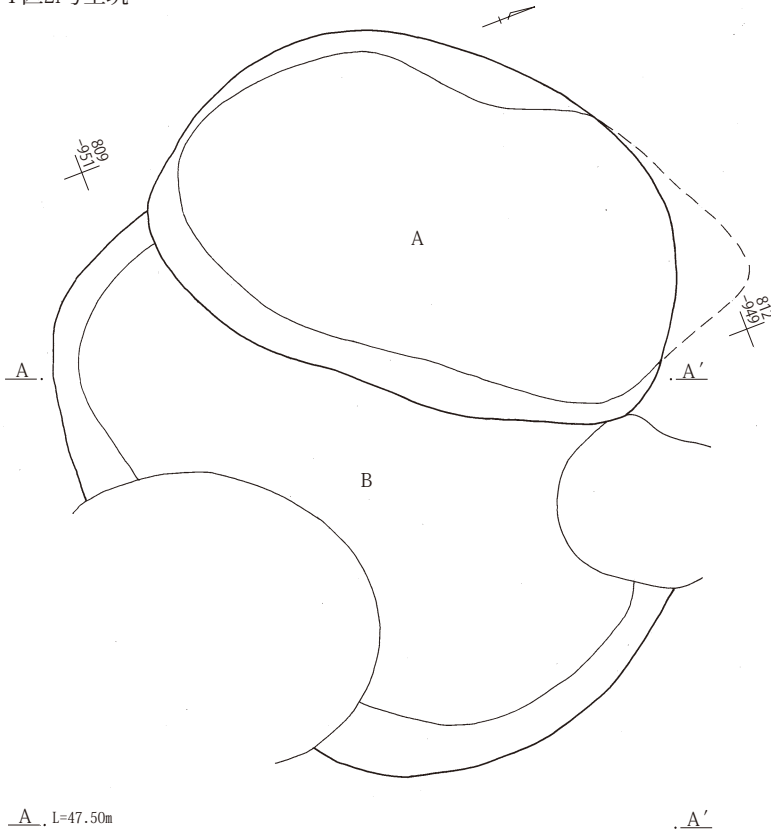


第211図 古墳～平安時代土坑 1

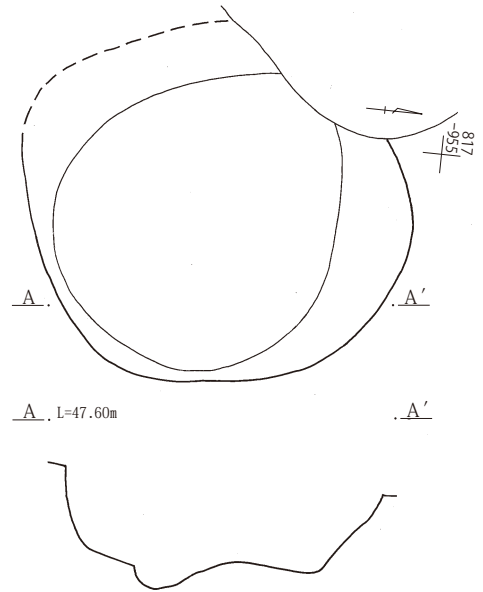


第212図 古墳～平安時代土坑2

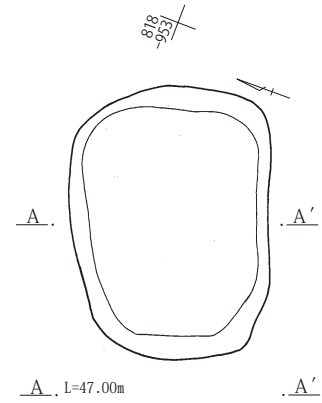
4区21号土坑



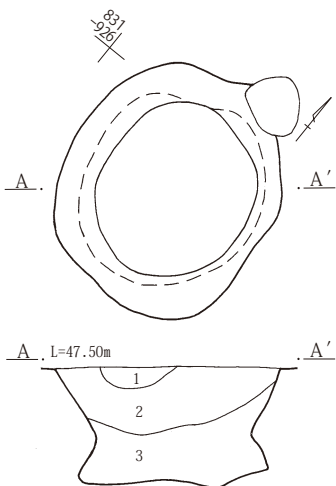
4区36号土坑



4区70号土坑

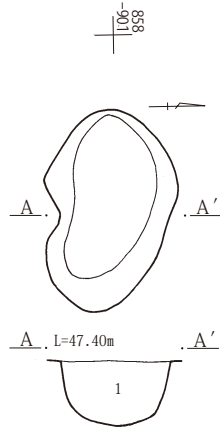


5区10号土坑



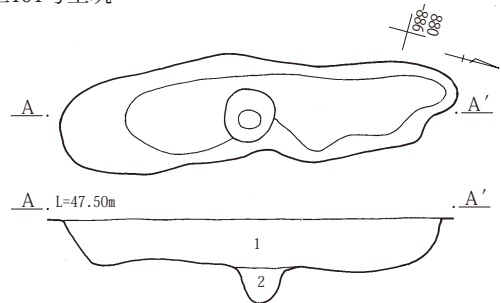
- 5区10号土坑  
 1 黒褐 粘質。  
 2 褐灰  
 3 浅黄 ローム混

5区119号土坑



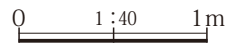
- 5区119号土坑  
 褐灰 Hr-FA、焼土混。

5区191号土坑

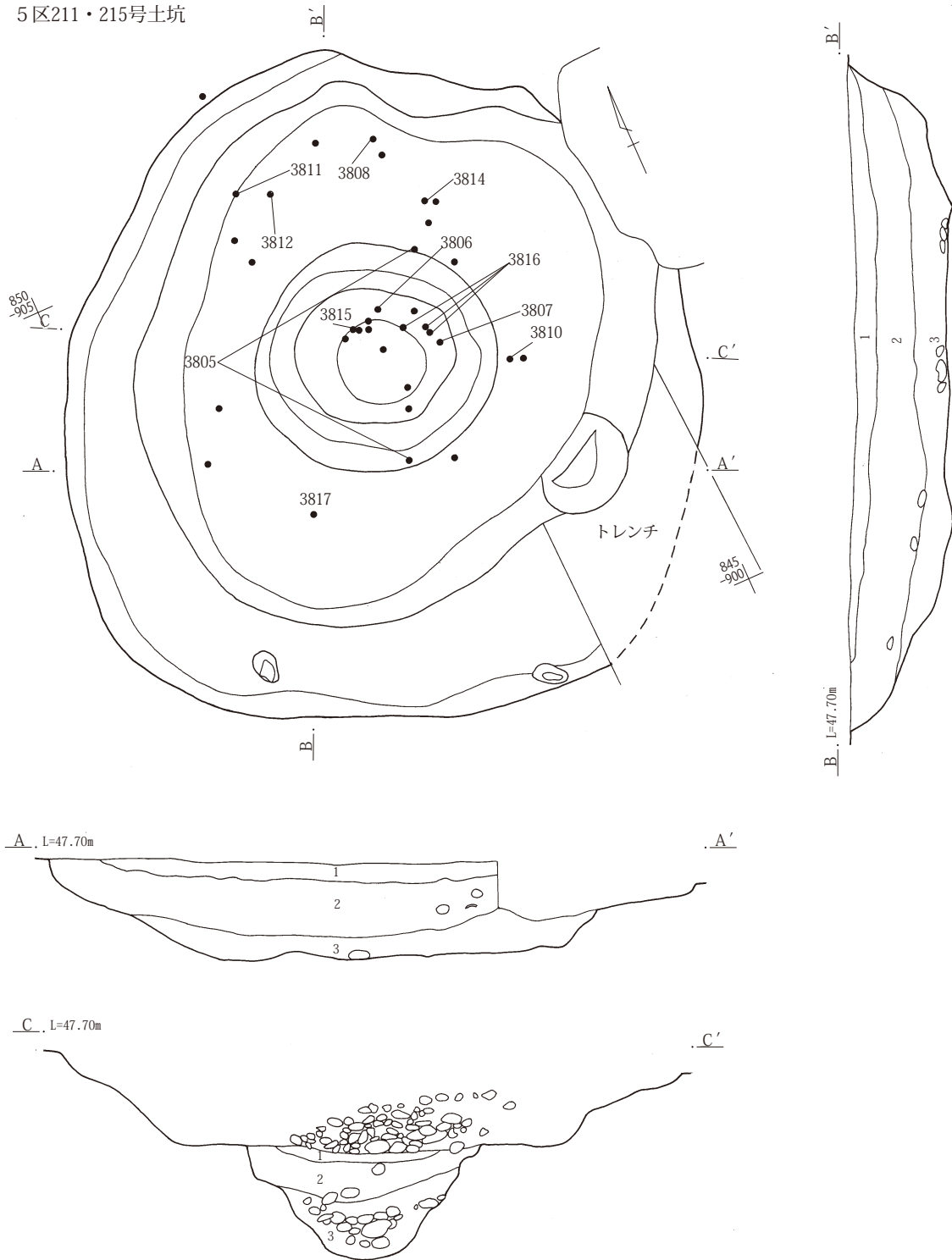


- 5区191号土坑  
 1 灰褐 粘質土。  
 2 黒 粘質。

第213図 古墳～平安時代土坑3



5区211・215号土坑



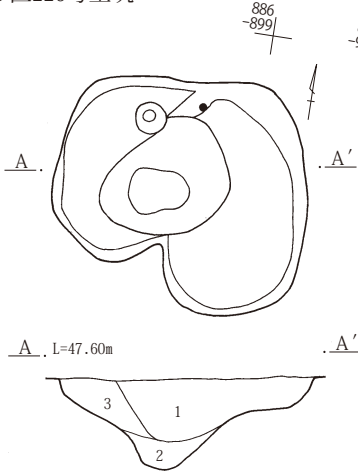
5区211・215号土坑

- 1 淡黄 B軽石混。シルト質。
- 2 黄灰 Hr-FA 多量混。
- 3 暗灰黄 粘質土。

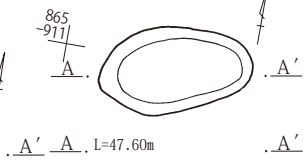
第214図 古墳～平安時代土坑4

0 1:40 1m

5区226号土坑

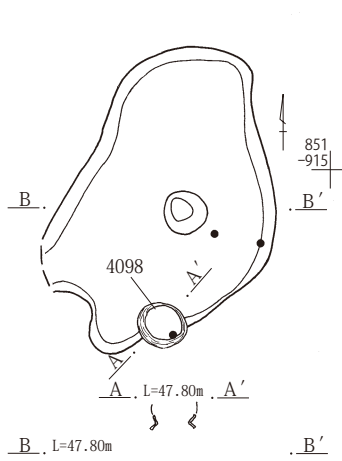


5区317号土坑

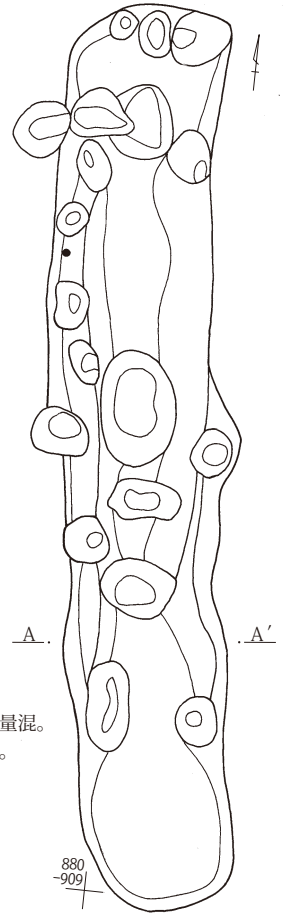


5区317・526号土坑  
1 褐灰 B軽石、Hr-FA混。

5区326号土坑



5区346号土坑

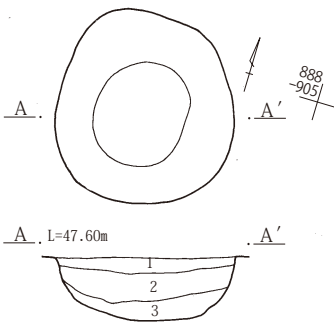


5区346号土坑  
1 褐灰 Hr-FA多量混。  
2 黒褐 Hr-FA混。

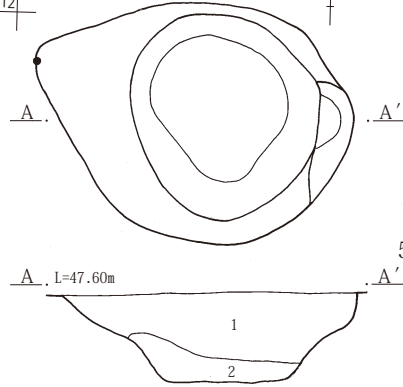
5区226号土坑

- 1 黒色土
- 2 ローム質土
- 3 黒色土・ローム質土の混土

5区357号土坑

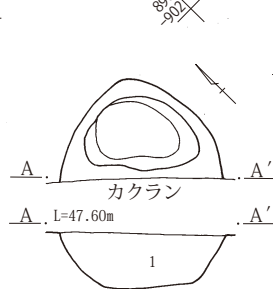


5区368号土坑



5区368号土坑  
1 黒色土  
2 ローム質土

5区403号土坑

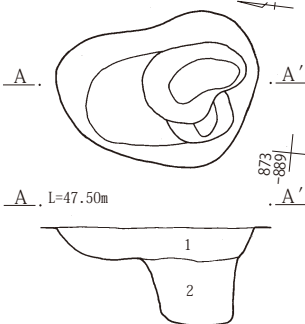


5区403号土坑  
1 褐灰 Hr-FA多量混。

5区357号土坑

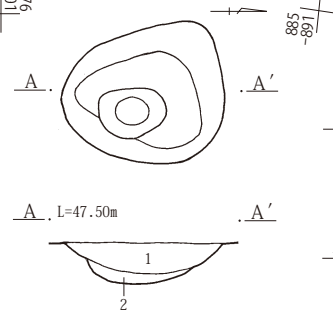
- 1 黒色土
- 2 ローム質土
- 3 黒色土

5区423号土坑



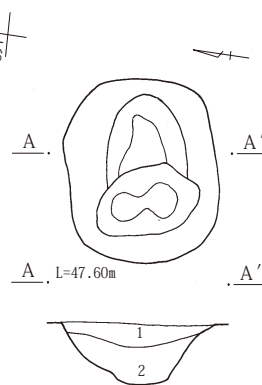
5区423号土坑  
1 黒色土  
2 ローム質土

5区428号土坑



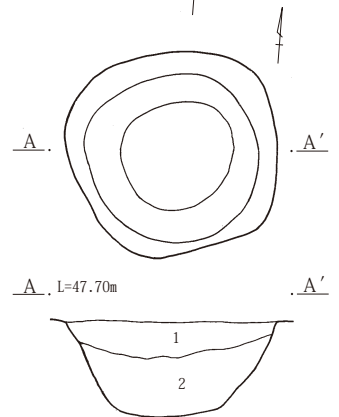
5区428号土坑  
1 黒色土  
2 ローム質土

5区437号土坑

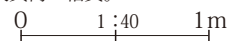


5区437号土坑  
1 黒色土  
2 ローム質土

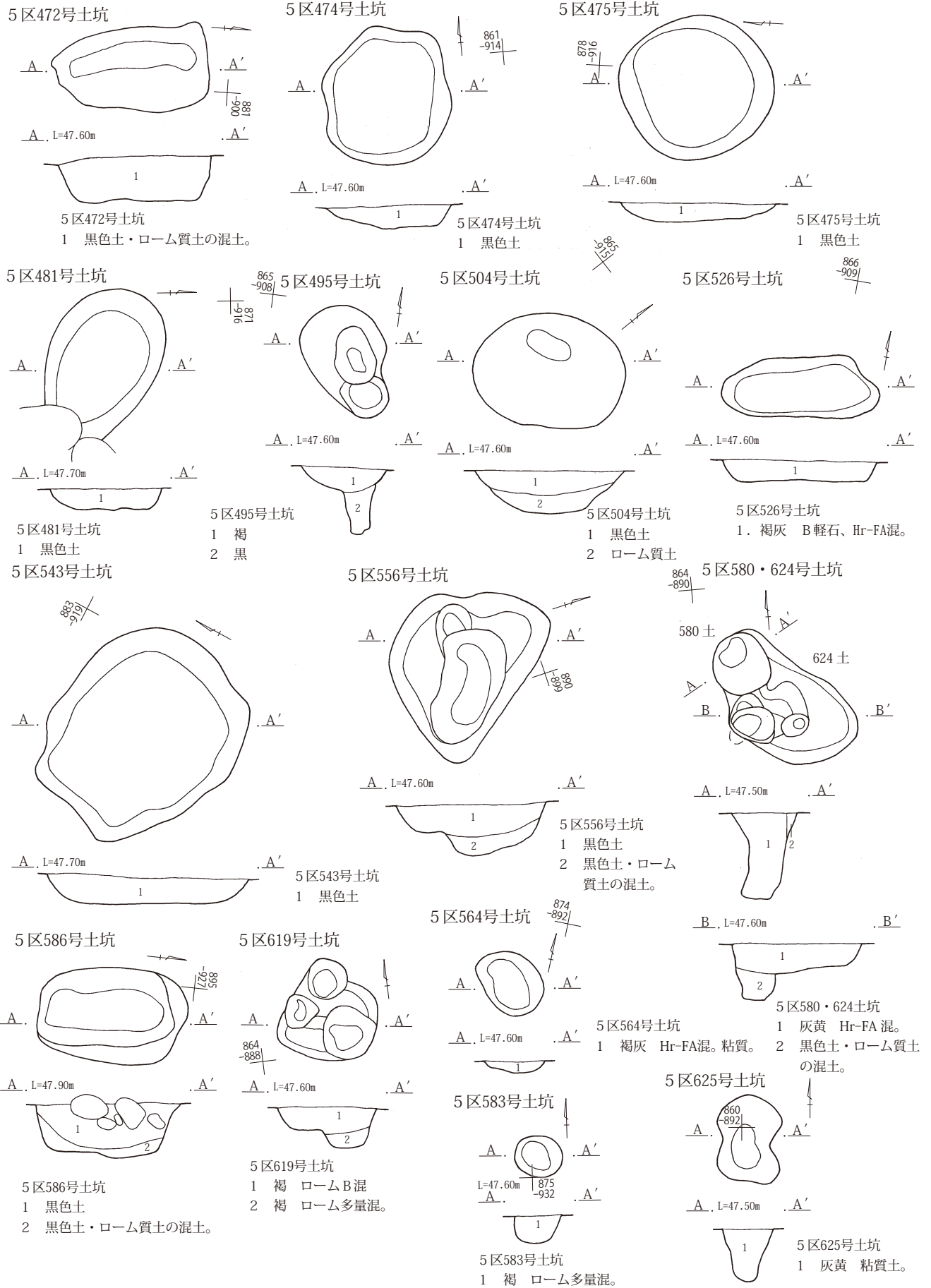
5区459号土坑



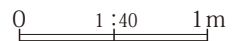
5区459号土坑  
1 褐灰 Hr-FA混。粘質。  
2 灰黄褐 粘質。



第215図 古墳～平安時代土坑5

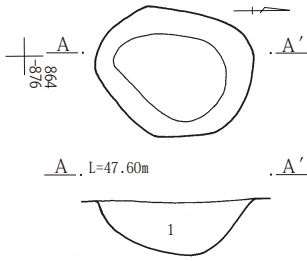


第216図 古墳～平安時代土坑6



第三章 検出された遺構と出土遺物

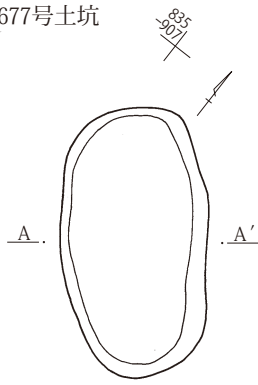
5区629号土坑



5区629号土坑

1 灰黄褐 粘質土

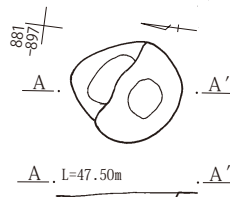
5区677号土坑



5区677号土坑

1 黒 Hr-FA 多量混。  
2 黒褐

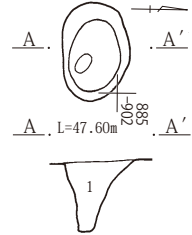
5区740号土坑



5区740号土坑

1 黄灰 Hr-FA 少量混。

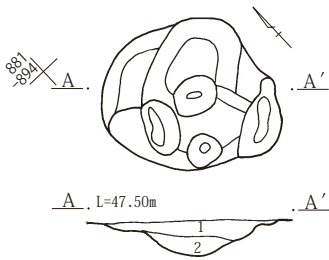
5区741号土坑



5区741号土坑

1 褐灰 Hr-FA 多量混。

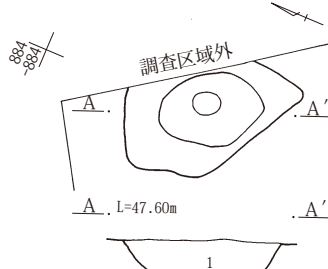
5区742号土坑



5区742号土坑

1 褐灰 Hr-FA 多量混。  
2 黄灰

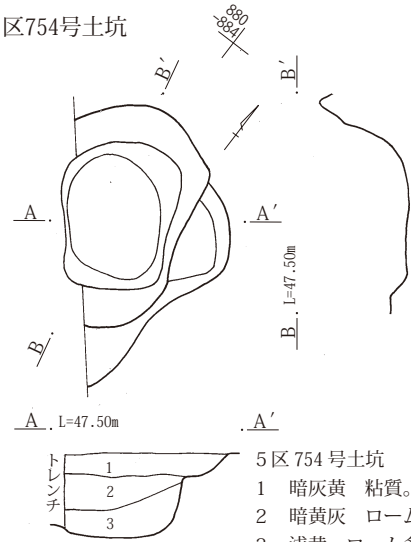
5区757号土坑



5区757号土坑

1 灰 粘質。

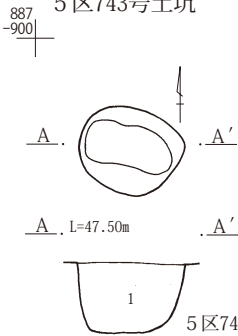
5区754号土坑



5区754号土坑

1 暗灰黄 粘質。  
2 暗黄灰 ローム混。  
3 浅黄 ローム多量混。

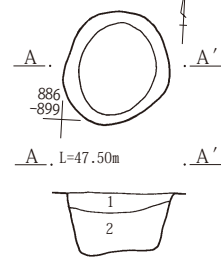
5区743号土坑



5区743号土坑

黄灰 粘質。

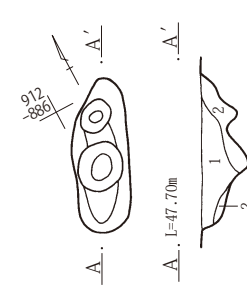
5区744号土坑



5区744号土坑

1 褐 粘質。  
2 黄灰 粘質。

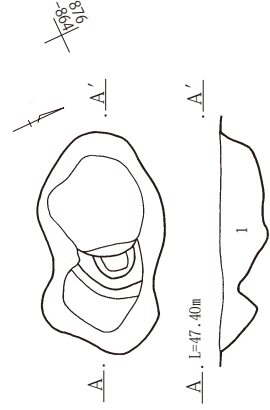
6区1号土坑



6区1号土坑

1 暗褐(10YR3/4)焼土粒多量、白色軽石・炭化物混。しまり強。  
2 褐(10YR4/6)白色軽石微量、焼土粒・炭化物混。

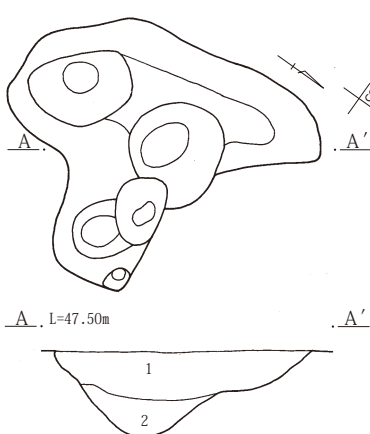
6区2号土坑



6区2号土坑

1 黒褐(10YR2/3)焼土粒・炭化物・白色軽石・ローム粒混。しまり強。

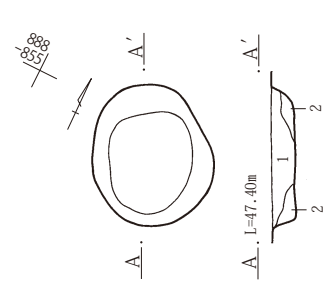
5区758号土坑



5区758号土坑

1 灰 粘質。Hr-FA 混。  
2 灰 粘質。

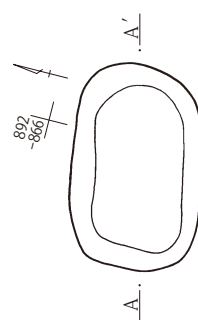
6区3号土坑



6区3号土坑

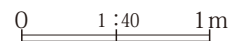
1 にぶい黄褐(10YR4/3)しまり強い明黄褐(10YR7/6)B極多量、白色軽石混。  
2 暗褐(10YR3/3)白色軽石混。

6区4号土坑



6区4号土坑

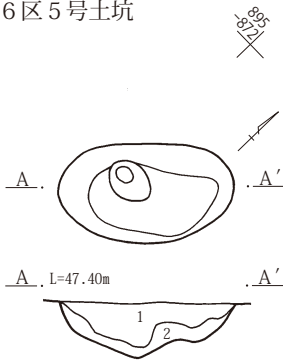
1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。  
2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。



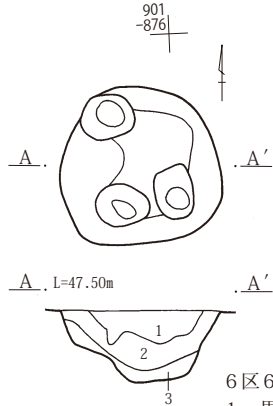
第217図 古墳～平安時代土坑7



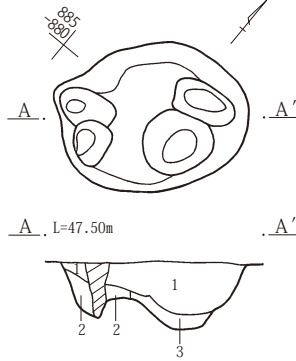
6区5号土坑



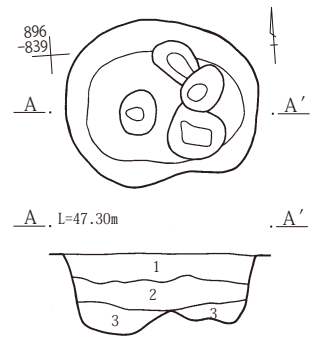
6区6号土坑



6区7号土坑



6区9号土坑



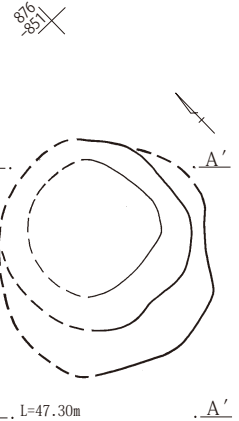
6区5号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。

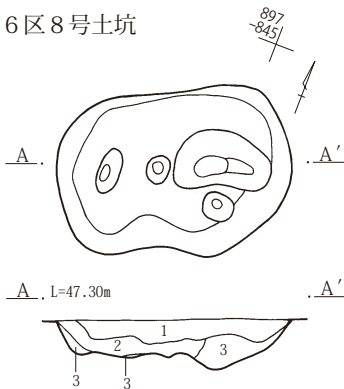
6区6～9号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。

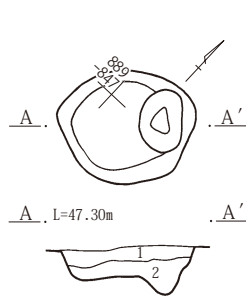
6区11号土坑



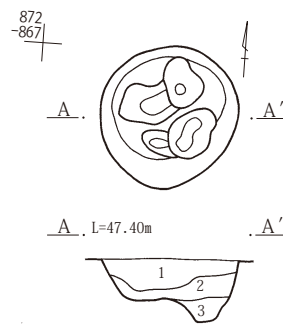
6区8号土坑



6区10号土坑



6区13号土坑



6区10号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。

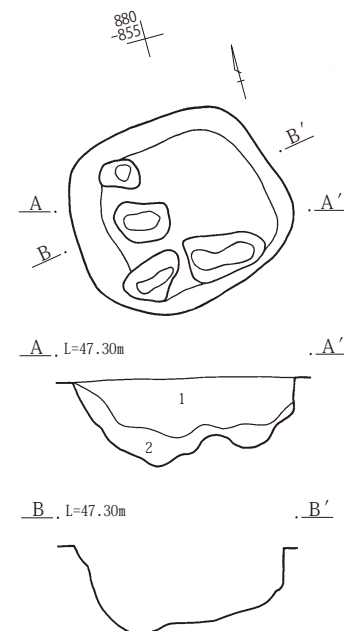
6区13号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。

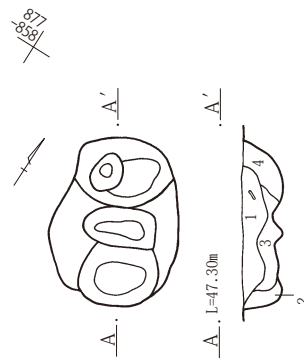
6区11号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム・焼土粒・炭化物・白色軽石混。

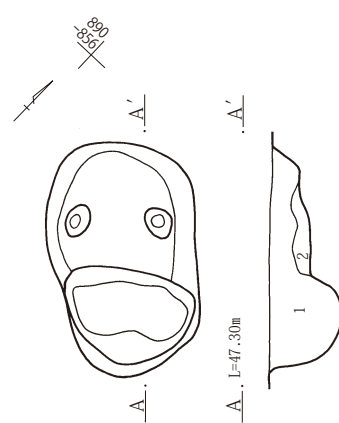
6区12号土坑



6区14号土坑



6区16号土坑



6区14号土坑

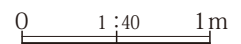
- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。
- 4 褐(10YR4/6)ローム粒中量、白色軽石微量混。

6区16号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。

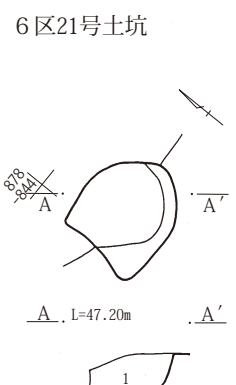
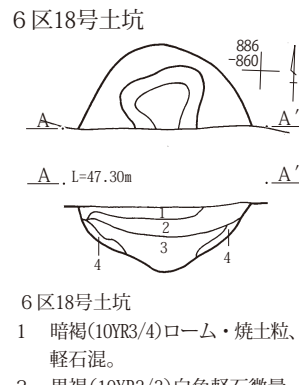
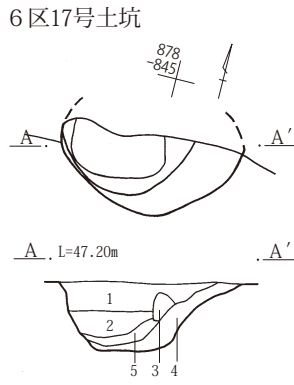
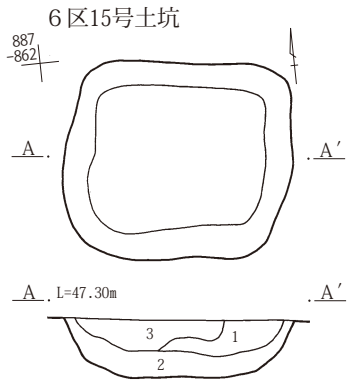
6区12号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。



第218図 古墳～平安時代土坑8

第三章 検出された遺構と出土遺物



6区15号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)白色軽石混。

6区17号土坑

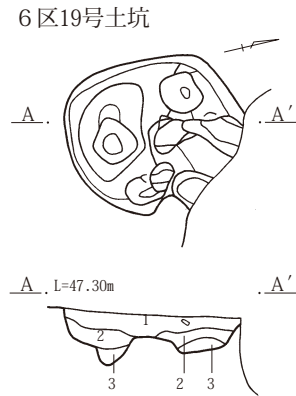
- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 3 カクラン
- 4 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。
- 5 黒褐(10YR2/2)黒色土多量混

6区18号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム・焼土粒、白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/3)白色軽石微量、ローム粒・黒色土混。
- 3 黒褐(10YR2/3)黒色土多量混。
- 4 ローム主体。しまり弱。

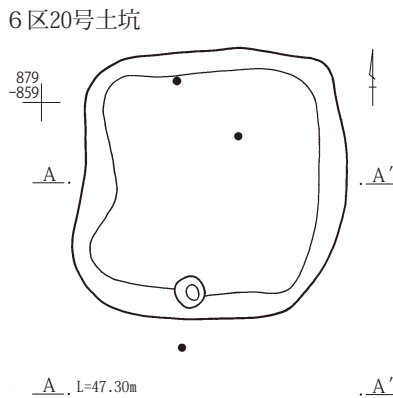
6区21号土坑

- 1 褐(10YR4/4)ローム粒多量混。粘性弱。



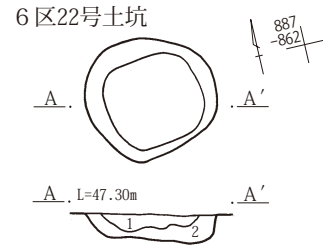
6区19号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。



6区20号土坑

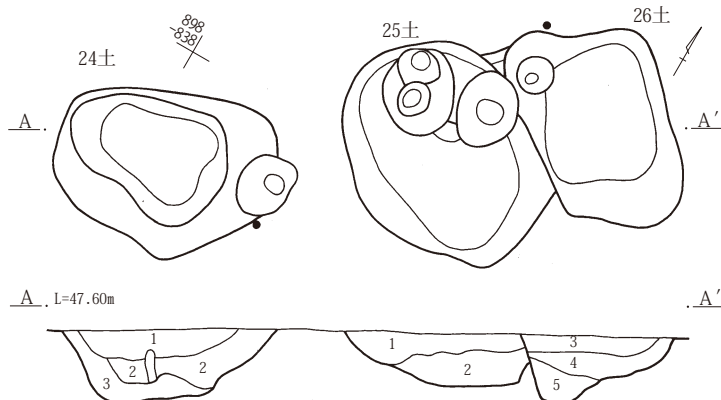
- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/1)洪水起源のシルト極多量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混



6区22号土坑

- 1 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 2 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。

6区24～26号土坑

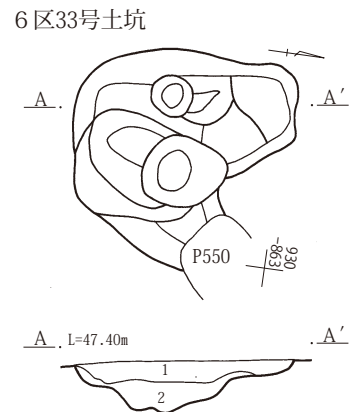


6区24号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)焼土粒・炭化物少量、白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)焼土粒・炭化物少量、黄褐色ローム粒・B多量混。
- 3 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。

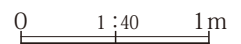
6区25・26号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。
- 3 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 4 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 5 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。



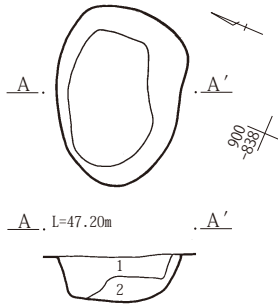
6区33号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。



第219図 古墳～平安時代土坑9

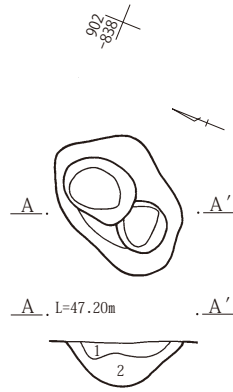
6区27号土坑



6区27号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。

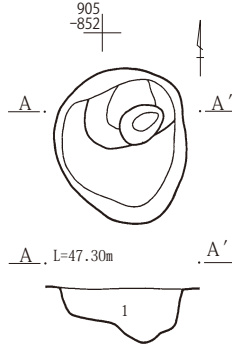
6区28号土坑



6区28号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。

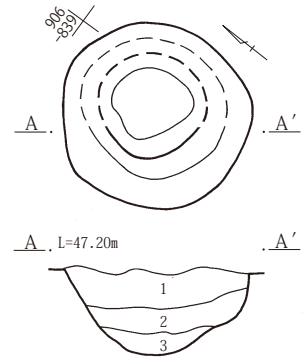
6区29号土坑



6区29号土坑

- 1 黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。

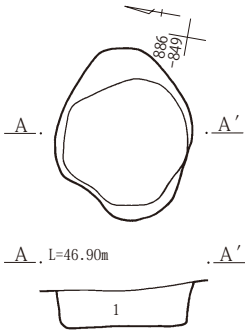
6区35号土坑



6区35号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)白色軽石微量、ローム粒・B小混。
- 2 黒(10YR2/1)ローム粒混。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)ローム主体。

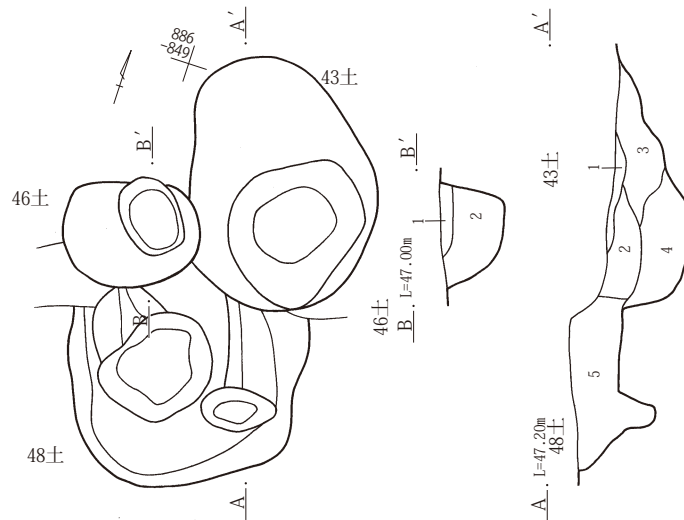
6区36号土坑



6区36号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、炭化物・白色軽石混。

6区43・46・48号土坑



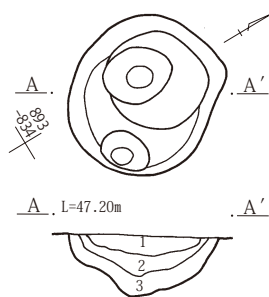
6区46号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、炭化物・白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、白色軽石混。

6区43・48号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、炭化物・白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、白色軽石混。
- 3 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B小、焼土粒・炭化物混。
- 4 黒褐(10YR3/1)ローム粒・B小混。粘性弱。
- 5 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B小中量混。

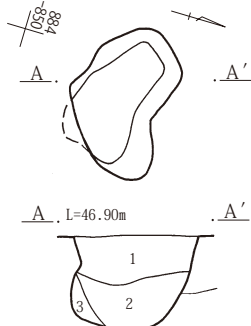
6区44号土坑



6区44号土坑

- 1 黒褐(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 ①黒褐(10YR2/2)黄褐色ローム粒・B多量混。
- 2 ②黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。

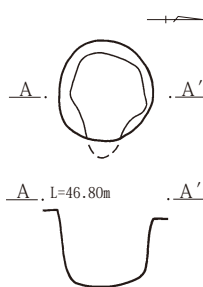
6区47号土坑



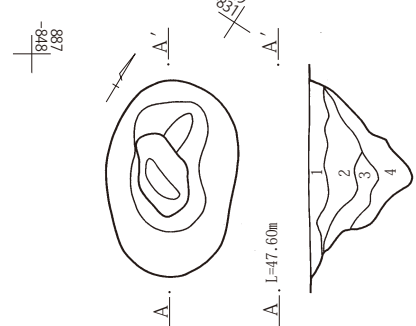
6区47号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)炭化物混。粘性強。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム・焼土粒、白色軽石混。
- 3 黒褐(10YR3/2)ローム粒多量混

6区49号土坑



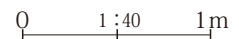
6区117号土坑



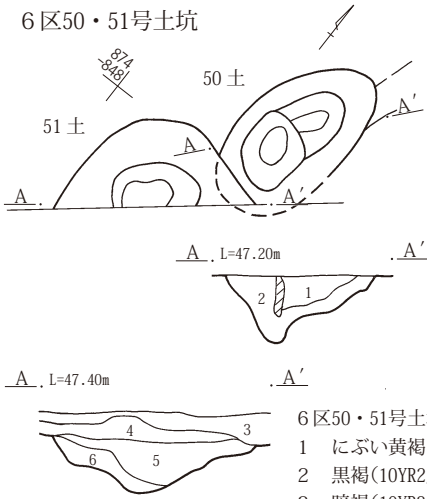
6区117号土坑

- 1 灰黄褐(10YR4/2)灰白色粒子多量混。
- 2 黒褐(10YR3/2)黄褐色・橙褐色粒子少量混。
- 3 暗褐色シルト質土(10YR3/3)砂礫混。
- 4 にぶい黄褐(10YR4/3)砂礫・灰褐色粒子中量混。

第220図 古墳～平安時代土坑10



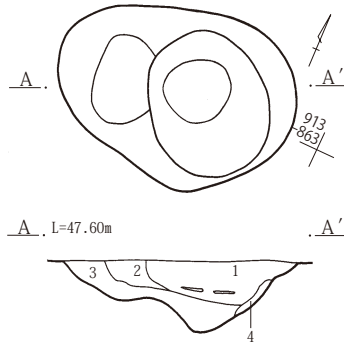
6区50・51号土坑



6区50・51号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・B混。
- 2 黒褐(10YR2/3)ローム粒混。
- 3 暗褐(10YR3/3)ローム粒・炭化物混。
- 4 暗褐(10YR3/3)ローム粒多量混。
- 5 黒褐(10YR3/2)ローム粒混。
- 6 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム粒・B混。

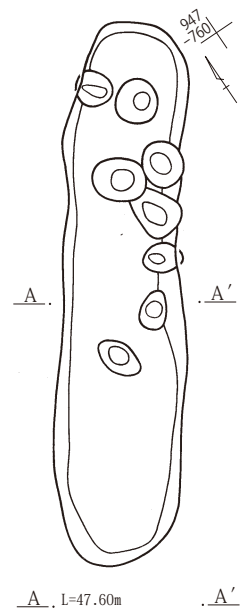
6区116号土坑



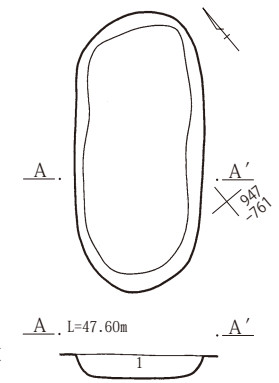
6区116号土坑

- 1 黒褐(10YR3/1)黄褐色ローム粒子・砂粒混。
- 2 灰褐(10YR4/1)ロームB小・砂礫多量混。
- 3 灰黄褐(10YR4/2)
- 4 にぶい黄褐(10YR4/3)細砂粒少量混。

6区129号土坑



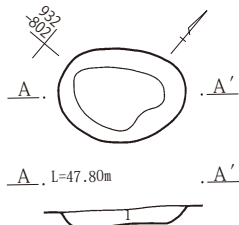
6区130号土坑



6区129・130号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)洪水層

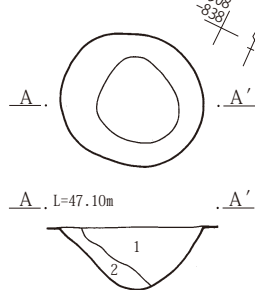
6区115号土坑



6区115号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3) As-B 多量、酸化した砂粒混

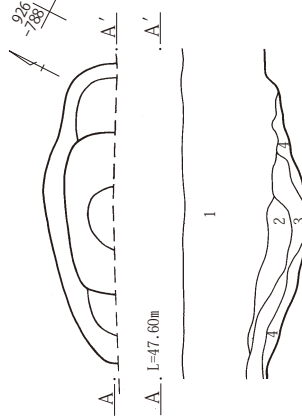
6区118号土坑



6区118号土坑

- 1 黒褐(10YR2/3)砂質。HR-FA混。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム漸移層。

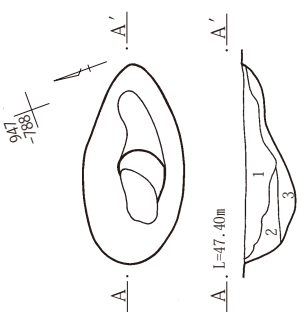
6区132号土坑



6区132号土坑

- 1 黒褐(10YR2/3)白色軽石粒中量、ローム粒微量混。しまり強。
- 2 黒褐(10YR2/3)ローム少量混。しまり強。
- 3 暗褐(10YR3/3)ローム少量混。しまり強。
- 4 暗褐(10YR3/3)ローム多量混。しまり強。

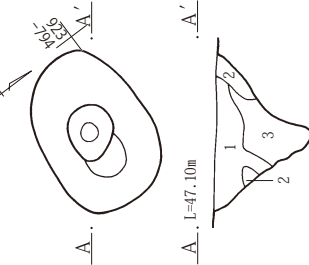
6区131号土坑



6区131号土坑

- 1 黒褐(10YR2/3) HR-FA混。砂質土。
- 2 暗褐(10YR3/3)ローム漸移層B混。
- 3 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層B混

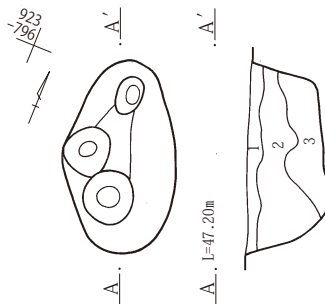
6区133号土坑



6区133・134号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム少量混。しまり強。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム。しまり強。
- 3 暗褐(10YR3/3)1・2層混土。

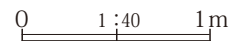
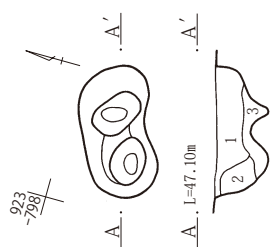
6区134号土坑



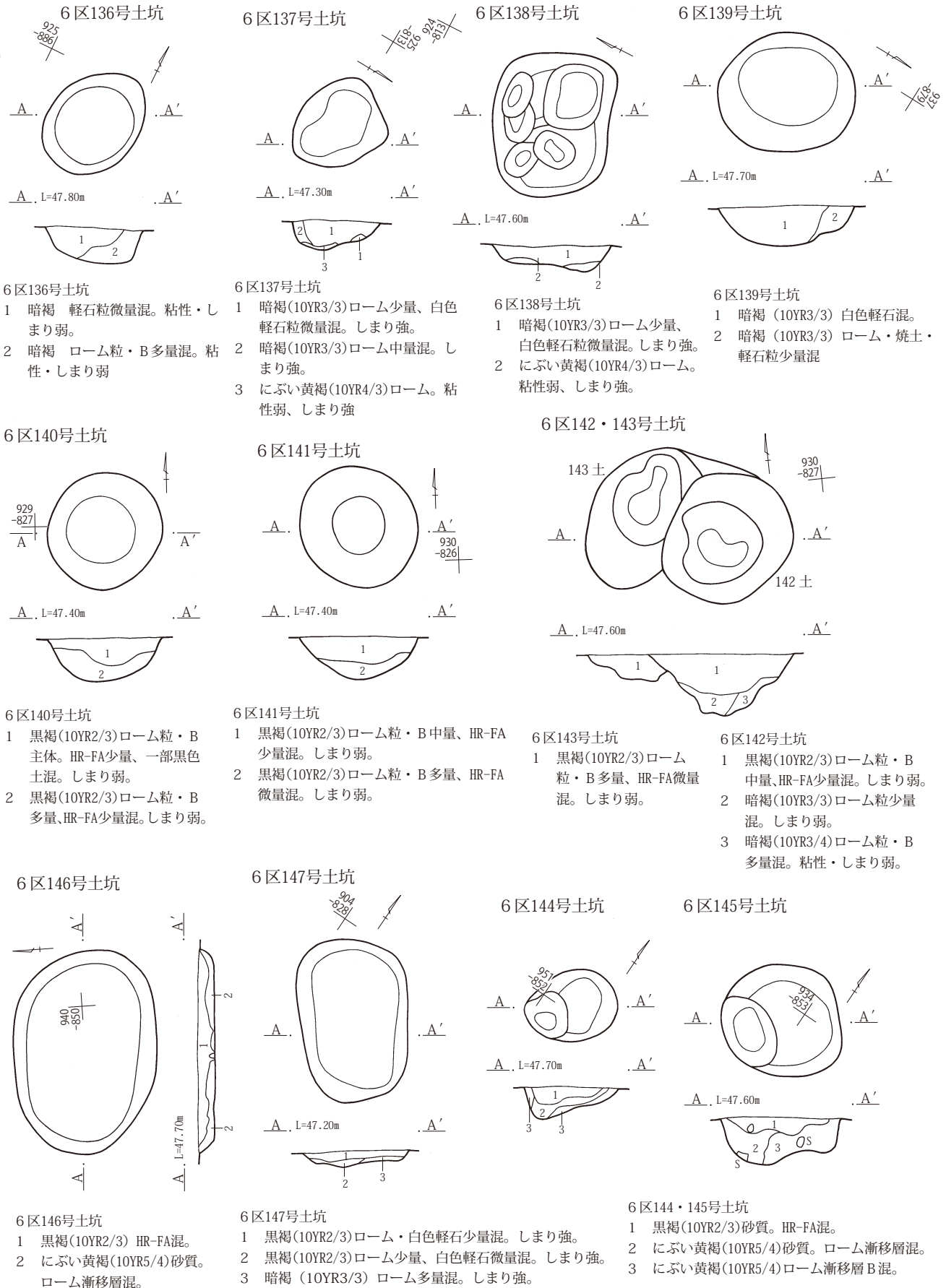
6区135号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム少量混。しまり強。
- 2 暗褐(10YR3/3)1・3層混土。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム。しまり強。

6区135号土坑



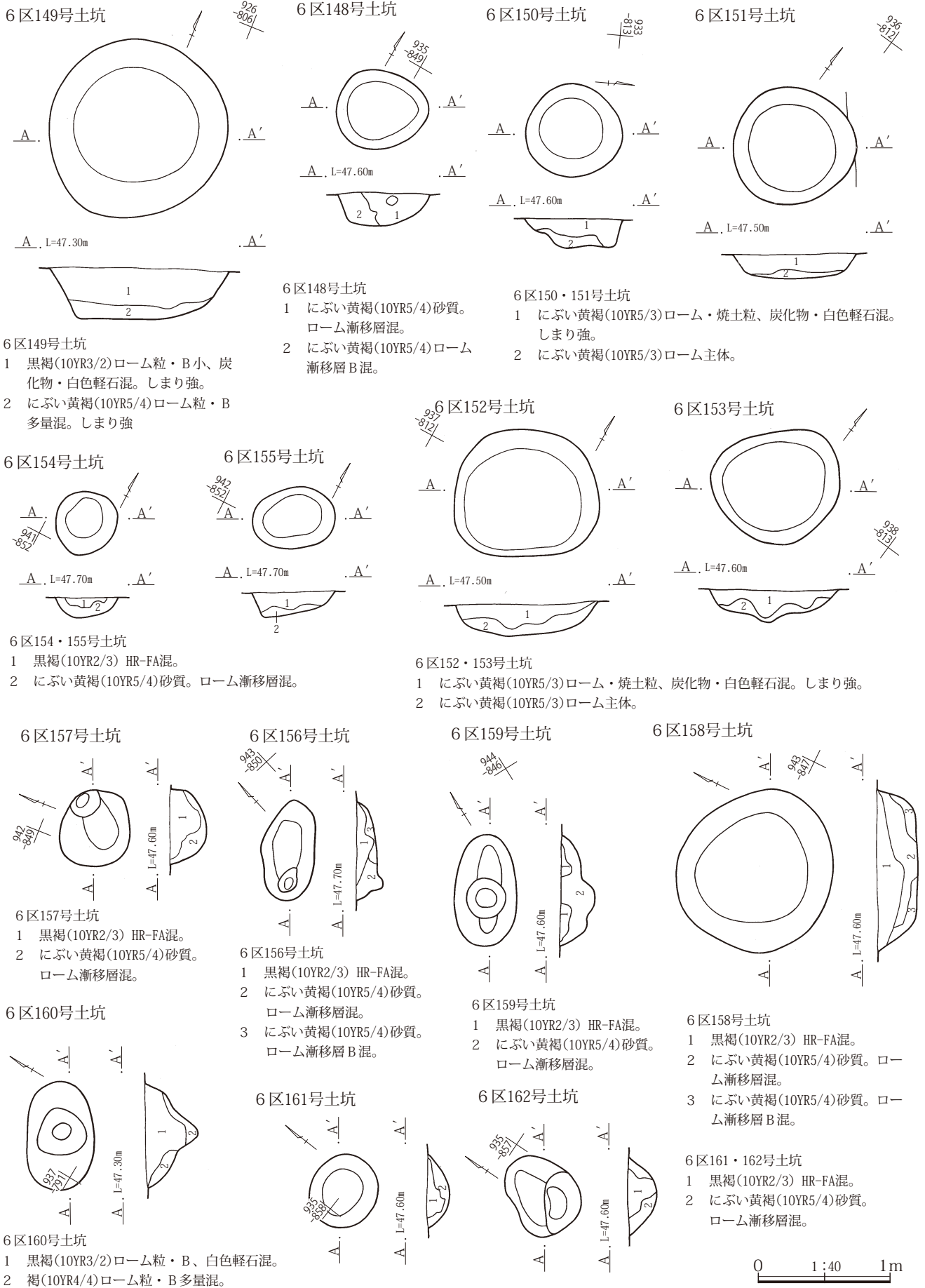
第221図 古墳～平安時代土坑11



0 1:40 1m

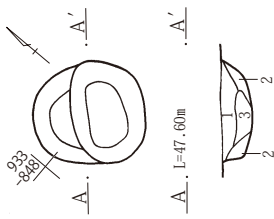
第222図 古墳～平安時代土坑12

第三章 検出された遺構と出土遺物

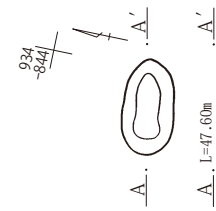


第223図 古墳～平安時代土坑13

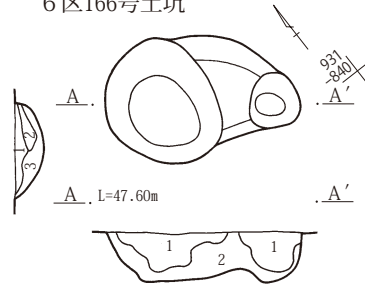
6区163号土坑



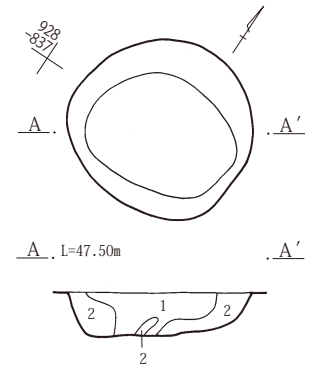
6区164号土坑



6区166号土坑



6区167号土坑



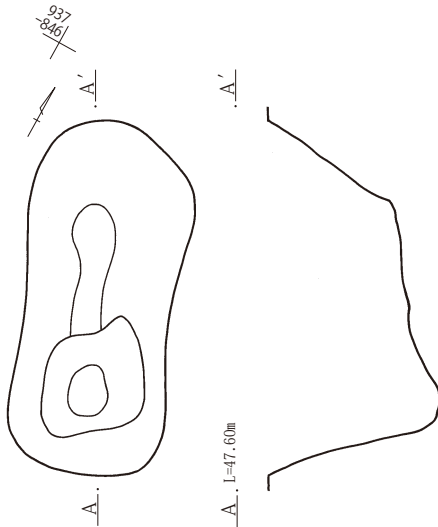
6区163・164号土坑

- 1 黒褐(10YR2/3) HR-FA混。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)砂質。ローム漸移層混。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/4)砂質。ローム漸移層B混。

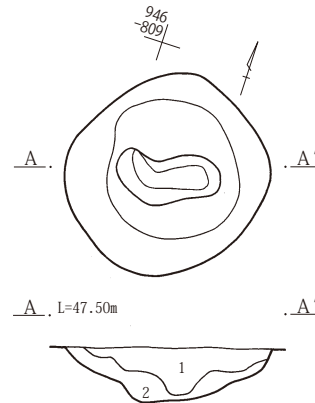
6区166・167号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層少量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム漸移層少量混。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム漸移層多量混。

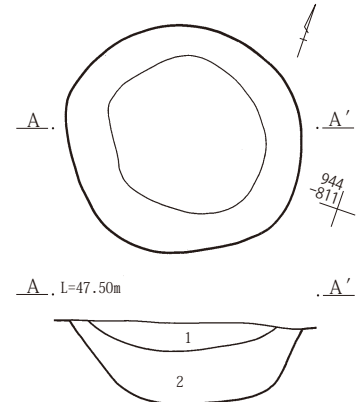
6区165号土坑



6区168号土坑



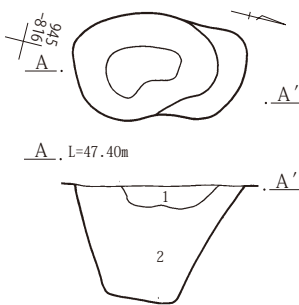
6区169号土坑



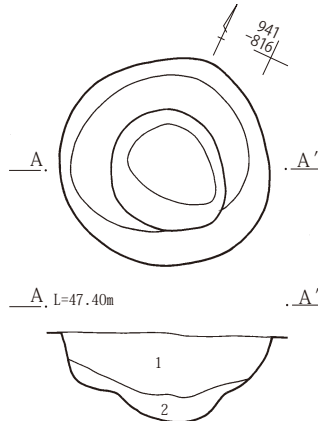
6区168・169号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B、白色軽石・炭化炭・焼土粒混。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B多量混。

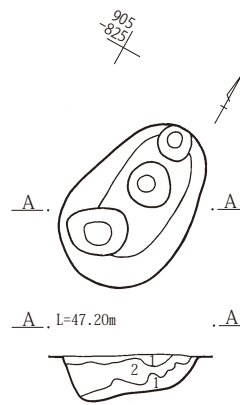
6区170号土坑



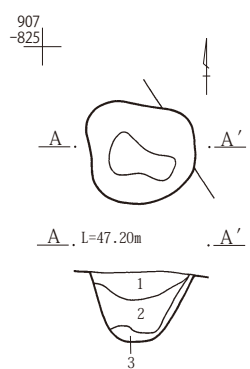
6区171号土坑



6区172号土坑



6区173号土坑



6区170号土坑

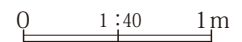
- 1 黒褐(10YR3/2)ローム粒多量、ロームB・白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B混。

6区171号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B、焼土粒・白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B多量混。

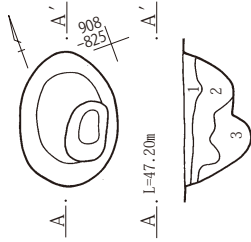
6区172・173号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム・白色軽石少量混。しまり強。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム多量混。しまり強。
- 3 褐(10YR4/4)ローム多量混。しまり強。

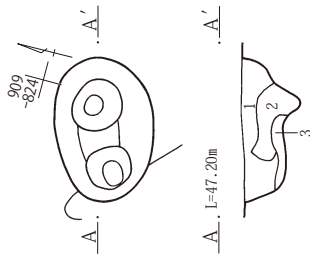


第224図 古墳～平安時代土坑14

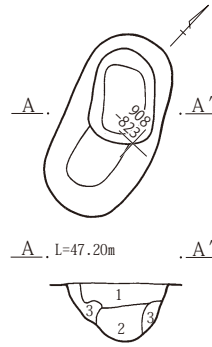
6区174号土坑



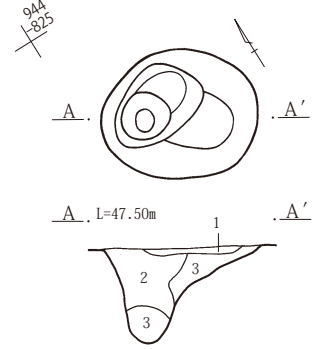
6区175号土坑



6区176号土坑



6区177号土坑



6区174号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム・白色軽石少量混。しまり強。
- 2 暗褐(10YR3/3)ローム少量混。しまり強。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム多量混。しまり強。

6区175号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム・白色軽石少量混。しまり強。
- 2 暗褐(10YR3/3)1層より黒い。ローム少量混。しまり強。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム多量混。しまり強。

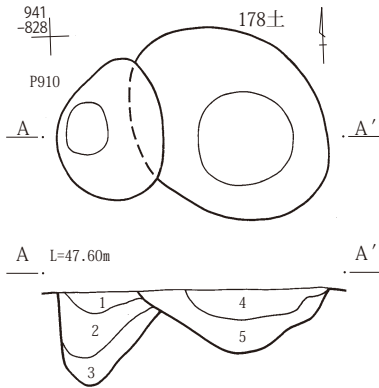
6区176号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム・白色軽石少量混。しまり強。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム多量混。しまり強。
- 3 褐(10YR4/4)ローム多量混。しまり強。

6区177号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)ローム粒・白色軽石混。粘性・しまり強。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B、炭化物・灰混。粘性・しまり強。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・B多量混。粘性・しまり強。

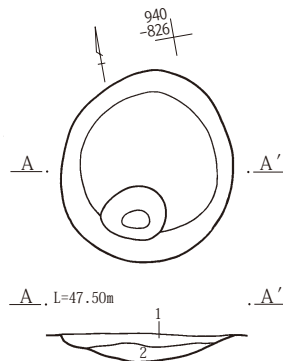
6区178号土坑・910号ピット



6区178号土坑・910ピット

- 1 黒褐(10YR3/2)白色軽石微量、ローム粒・B、灰混。粘性・しまり強。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B多量混。
- 3 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B混。しまり強。
- 4 黒褐(10YR3/2)ローム粒・炭化物・白色軽石混。しまり強。
- 5 黒褐(10YR3/2)白色軽石微量、ローム粒・B混。しまり強。

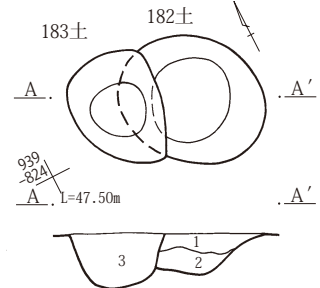
6区179号土坑



6区179号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B、白色軽石混。しまり強。
- 2 黒褐(10YR3/2)ローム粒・B混。

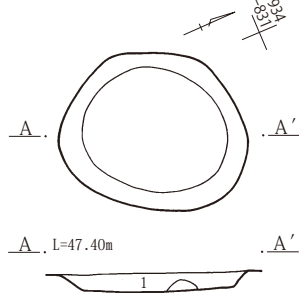
6区182・183号土坑



6区182・183号土坑

- 1 黒褐(10YR2/2) HR-FA中量、褐色粒子極微量混。粘性弱。
- 2 黒褐(10YR2/2) HR-FA極微量、ロームB少量混。
- 3 暗褐(10YR3/3)ロームB多量、黒色土少量、褐色・白色粒子微量混。

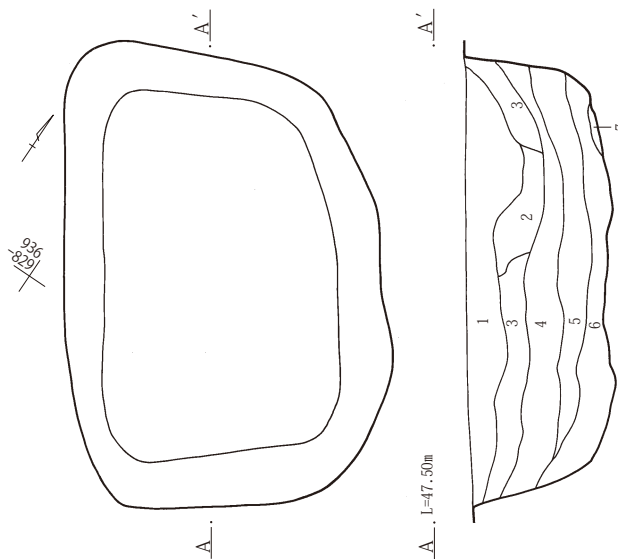
6区180号土坑



6区180号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)ローム粒・B多量、黒色土少量、HR-FA微量混。粘性・しまり弱。

6区181号土坑



6区181号土坑

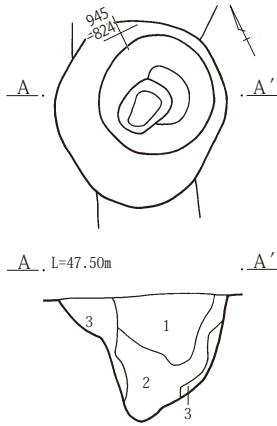
- 1 黒褐(10YR2/3)ローム粒・B中多量、褐色粒子微量、HR-FA、黒まだらに混。粘性弱。
- 2 暗褐(10YR3/4)ローム粒・B主体。HR-FA微量、黒まだらに混。粘性弱。
- 3 黒褐(10YR2/3)ロームB小多量、HR-FA極微量、黒色土まだらに混。しまり弱。
- 4 黒褐(10YR2/2)ロームB中多量、黒色土まだらに混。しまり弱。
- 5 暗褐(10YR3/4)ローム粒・B主体。黒色土まだらに混。粘性・しまり弱。
- 6 暗褐(10YR3/3)ロームB中極多量、黒色土まだらに混。しまり弱。
- 7 ロームB。

0 1:40 1m

第225図 古墳～平安時代土坑15



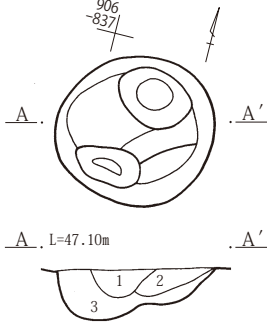
6区184号土坑



6区184号土坑

- 1 黒褐(10YR2/2)ローム粒・B、炭化物・白色軽石・灰混。粘性・しまり強。
- 2 黒褐(10YR3/2)白色軽石微量、ローム粒・B混。粘性・しまり強。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/3)ローム粒・B多量混。粘性・しまり強。

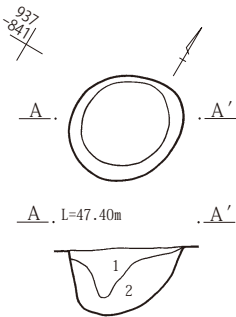
6区188号土坑



6区188号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層少量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)ローム漸移層まだらに混。
- 3 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム漸移層多量混。

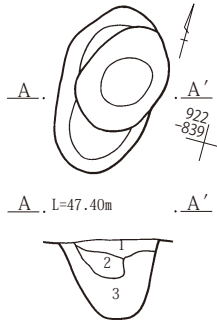
6区201号土坑



6区201号土坑

- 1 黒褐(10YR2/3)砂質。HR-FA混。
- 2 にぶい黄褐(10YR5/4)砂質。ローム漸移層混。

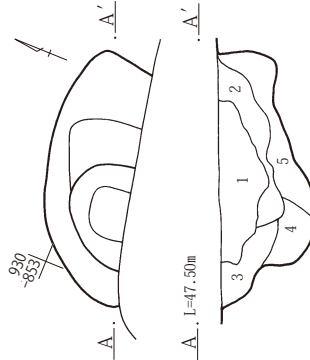
6区185号土坑



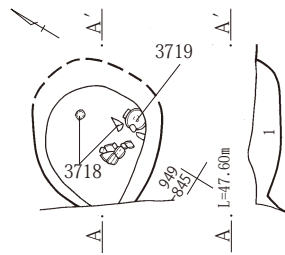
6区185号土坑

- 1 黒褐(10YR2/3)ロームB・HR-FA混。
- 2 黒褐(10YR2/3)ローム粒・B混。
- 3 暗褐(10YR3/4)ロームB混。

6区199号土坑



6区187号土坑



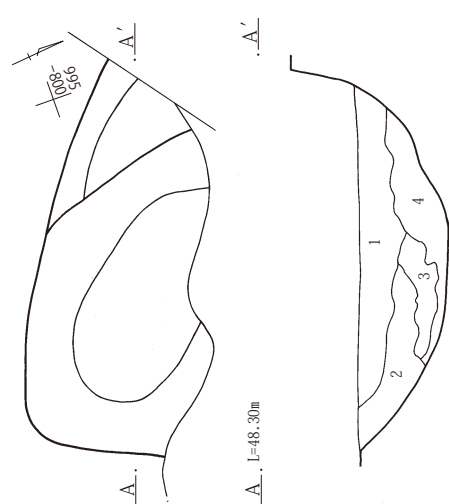
6区187号土坑

- 1 黒褐(10YR3/2)焼土粒中量、白色軽石少量、ローム粒・土器片混。

6区199号土坑

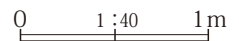
- 1 黒褐(10YR2/3)HR-FA・ローム漸移層B混。しまり強。
- 2 黒褐(10YR3/2)HR-FA・ローム漸移層混。
- 3 暗褐(10YR3/3)HR-FA少量、ローム漸移層・B混。
- 4 暗褐(10YR3/4)ローム漸移層B、灰黄褐粘質土綿状に混。
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)灰黄褐粘質土・ローム漸移層多量、HR-FA微量混。

7区1号土坑



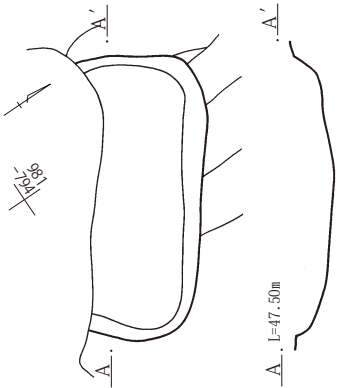
7区1号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)黄褐色粒子・細砂・砂粒・酸化鉄分少量混。
- 2 灰黄褐(10YR4/2)微砂層。酸化鉄分少量混。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土。酸化鉄分少量混。
- 4 暗褐(10YR3/4)砂粒・酸化鉄分少量混。しまり強。

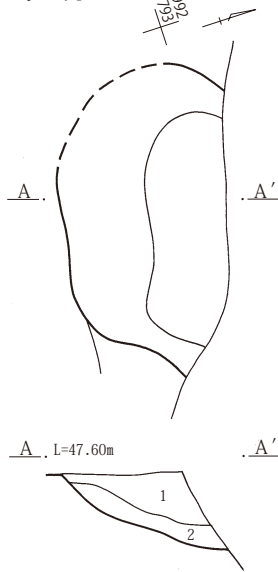


第226図 古墳～平安時代土坑16

7区5号土坑



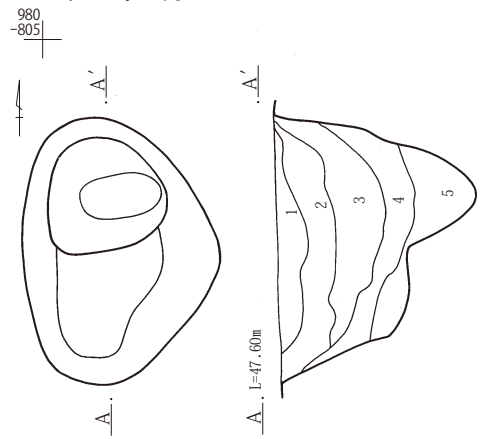
7区2号土坑



7区2号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。酸化鉄分中量混。粘性弱。
- 2 暗褐(10YR3/3)微砂多量混。

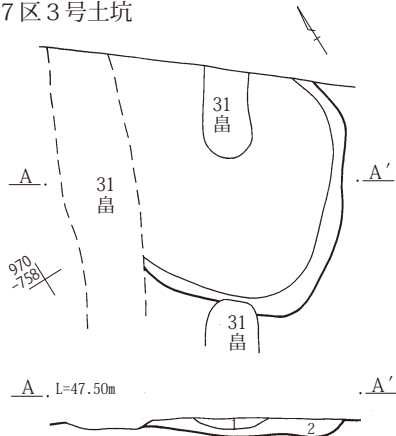
7区4号土坑



7区4号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3) HR-FA微量、酸化鉄分中量混。
- 2 灰黄褐(10YR4/2) HR-FA少量混。
- 3 黒褐(10YR3/2)炭化物微量、HR-FA少量混。
- 4 黒褐(10YR2/2) HR-FA少量、暗褐色(10YR3/4)地山B混。
- 5 黒褐(10YR2/2) HR-FA少量混。

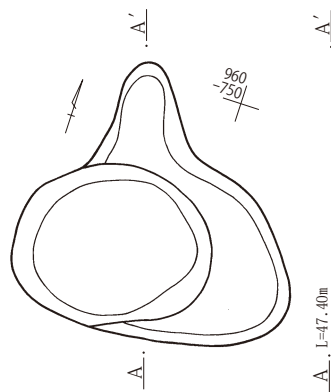
7区3号土坑



7区3号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)粘性・しまり弱。
- 2 暗褐(10YR3/3)。

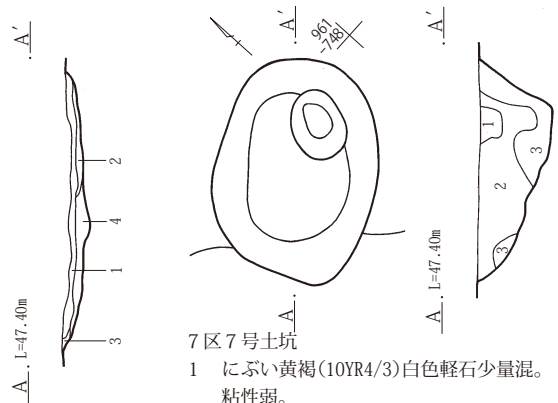
7区6号土坑



7区6号土坑

- 1 暗褐(10YR3/3)焼土粒子・HR-FA少量混。
- 2 黒褐(10YR2/3)焼土粒子微量混。
- 3 黒褐(10YR3/2) HR-FA微量混。
- 4 褐(10YR4/4)粘土層。粒子とても細かい。

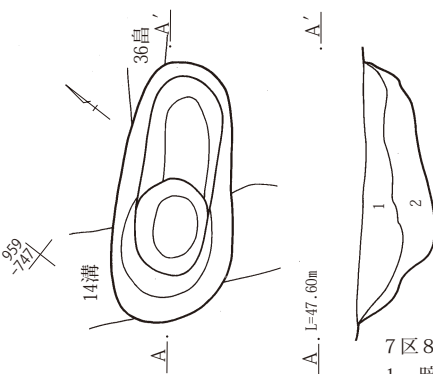
7区7号土坑



7区7号土坑

- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)白色軽石少量混。粘性弱。
- 2 暗褐(10YR3/4)白色軽石少量混。粘性・しまり弱。
- 3 黒褐(10YR2/3)しまり弱。

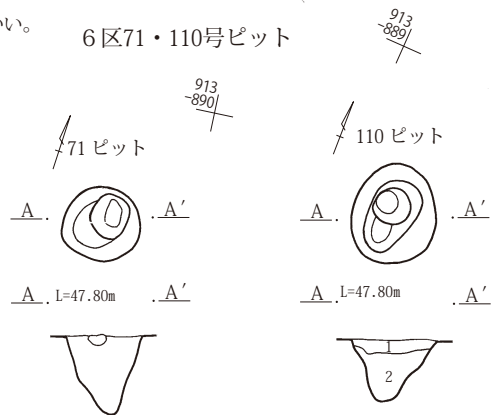
7区8号土坑



7区8号土坑

- 1 暗褐(10YR3/4)焼土粒子・白色軽石少量混。粘性弱。
- 2 黒褐(10YR2/3)しまり弱。

6区71・110号ピット



7区71・110号ピット

- 1 黒(10YR2/1)白色軽石混。
- 2 黒褐(10YR2/2)ロームB極多量混。

第227図 古墳～平安時代土坑17

## (7) 畠 (第228～255図・PL. 110～114)

畠は70箇所検出されている。総面積は5,864m<sup>2</sup>である。削平等により残存状況は非常に悪く、特に6区6・7A・7B・8・9・11A・11B・12畠は、畝間の痕跡が確認できただけで、畝の盛土や耕作土は検出できなかった。

①**分布** 3区から10箇所、5区から2箇所、6区から17箇所、7区から41箇所検出されている。各区の検出面積は、3区901m<sup>2</sup>、5区261m<sup>2</sup>、6区1,964m<sup>2</sup> 7区2,738m<sup>2</sup>である。調査区北東部の6・7区、特に遺跡北東端部である、6区東部から7区に集中している。

②**規模・形態** 重複や削平等で、区画全体が確認できた畠はほとんどない。区画全体がほぼ検出できたと考えられる6区1号畠は、13.2×10.0mの長方形で、面積131.6m<sup>2</sup>畝間数22、畝間間隔は平均で35cm、畝間の深さは平均で13.6cmである。

畝間の底面は平坦なものが多いが、3区1畠・4畠、5区1畠、6区1～4畠は、底面に耕作痕と思われるピットが存在し、特に3区1畠、6区1畠はほぼ全面に存在するため、耕作状況が他と異なっていた可能性がある。

畝間数は、最も多い7区32畠で35条である。畝間間隔は、187.5～29.8cmである。区ごとに見ると、3区が、畝間間隔163.0～29.8cm、深さ32.0～7.0cm、5区が、畝間間隔147.0～53.3cm、深さ37.6～14.0cm 6区が、畝間間隔187.0～34.9cm、深さ19.0～6.5cm、7区が畝間間隔168.5～36cm、深さ16.9～2.8cmである。

削平や調査区外に続く等により、区画形状が判明しないものが多いが、基本形態は方形、長方形になるものが多いと考えられる。

③**走向・傾斜** 畝間の走向は、3区は、南北のものが2号の1面、北東～南西の走向のものが1・5・10号の3面、北西～南東の走向のものが3・4・8・9号の4面、東西の走向のものが6・7号の2面で、畠同士の重複はほとんどなく、同時存在したものが多かった可能性がある。5区は、南北のものが1・2号の2基である。6区は北東～南西の走向のものが1・4～8・10A・10B・11B号の9基、北西～南東の走向のものが7A・9・10C・10D・11A・12・15・17Aの12基、東西の走向のものが2・3号の4基である。西部から中部にかけては分布が薄く、畠同士の重複はほとんどない。東部から7区にかけては

重複が激しく、長期間耕作が続けられたと考えられる。7区は、南北のものが1・3・6・18・20・23・32号の10基、北東～南西の走向のものが2・4・5・7～9・11～14・16・17・19・21・22・24～31・33～40号の44基となっている。7区ほぼ全面から検出されており、重複も激しいが、走向の近い畠同士は比較的重複が少ない傾向があると考えられる。全体的に、北西～南東の走向のものが圧倒的に多く、南北の走向のものは少ない。畠の区画形状は方形もしくは長方形が多いと考えられるが、6区1号畠のように、畝はそれに対し斜めに作られる場合が多い。よって、区画を東西南北方向に合わせて作ると、畝が斜行するものが増えると思われる。

確認面の傾斜に対する畝間の方向は、傾斜と同方向のものが3区2～5・6・10・5区2・6区7A・9・10C・11B・12・7区4・5・9・11・13・14・16・17A・18・19・20・22～24・26～35・38・39の40面、傾斜と直角方向のものが3区1・7～9・5区1・6区1～6・7B・8・10A・10B・10D・11A・7区1・3・6～8・12・17B・21・25・36・37・40号の30面で、同方向のものが多いが、差が10面とそれほど多くなく、地表面の傾斜方向は、畝の走向にあまり影響がなかったと考えられる。

④**時期** 出土遺物がほとんどなく詳細な時期は不明であるが、他遺構との重複関係を見ると、7区2畠は1・2住より、3畠は3住・4溝より、6畠は2住より、いずれも古くなっており、竪穴住居が9世紀代と考えられるため、古墳～奈良時代のものが多いと考えられる。

⑤**出土遺物** 削平により、埋土の残りが悪いため、出土遺物も非常に少なく、須恵器小壺が7区5畠から、須恵器鉢が7区7畠から出土している以外は、土師器甕片が3区3畠・4畠・6区3畠・5畠・7区1畠・3畠・6畠から、土師器甕片・須恵器甕片6区1畠から、土師器杯片が6区2畠から、土師器甕片・杯片が7区7畠から、いずれも少量出土しているだけである。

第三章 検出された遺構と出土遺物

第29表 古墳～平安時代島一覧表

区	No.	位置(Gr)	重複	長辺 m	短辺 m	平均 深さ cm	面積 ㎡	畝間 数	平均畝 間隔 cm	傾斜 方向	確認面傾斜	走向	備考
3	1	751～768-063～076		15.10	10.06	32.0	151.91	6	187.5	直	南西～北東	N-48°-E	
3	2	789～797-042～046		8.22	3.58	12.0	29.43	2	92.5	正	北東～南西	N-5°-E	
3	3	732～737-051～058		7.78	4.21	27.0	32.75	2	91.5	正	北西～南東	N-61°-W	
3	4	740～746-038～049		10.34	5.78	24.0	59.77	7	29.8	正	南東～北西	N-59°-W	
3	5	713～727-016～035		14.82	13.74	12.0	203.63	13	52.6	正	南西～北東	N-46°-E	
3	6	745～767-052～065		22.71	12.12	10.0	275.25	11	161.6	正	東～西	N-83°-E	
3	7	796～799-034～036		3.57	2.53	9.0	9.03	3	89.6	直	北～南	N-79°-W	
3	8	750～758-042～049		9.36	4.19	8.0	39.22	6	115.1	直	北東～南西	N-40°-W	
3	9	739～747-041～049		9.42	6.56	7.0	61.80	3	163.0	直	北西～南東	N-39°-W	
3	10	736～743-042～048		7.72	4.92	14.0	37.98	4	93.3	正	北東～南西	N-54°-E	
5	1	867～881-920～940		19.26	13.08	37.6	251.92	10	147.0	直	西～東	N-3°-W	
5	2	882～884-896～900		3.63	2.61	14.0	9.47	3	53.3	正	北～南	N-1°-W	
6	1	909～919-868～880	5島、179・180ピット	13.21	9.96	13.6	131.57	22	34.9	直	北西～南東	N-40°-E	
6	2	880～885-859～868	4住、13溝、195～197・208・289・599・600ピット	9.68	5.23	11.0	50.63	—	—	直	南西～北東	N-81°-W	
6	3	897～902-879～890	36・39・91・251～258・265～268・293・294・450・452～457・425～427・429・589ピット	10.68	4.85	19.0	51.80	4	81.0	直	北西～南東	N-79°-E	
6	4	898～904-869～874	284～286・333・334・345・489・490ピット	6.62	3.31	11.0	21.91	4	56.5	直	北西～南東	N-29°-E	
6	5	909～918-861～871	7溝より旧、1島	9.76	8.12	15.1	79.25	8	89.1	直	北西～南東	N-49°-E	
6	6	917～952-781～823	15住	31.62	30.92	—	977.69	21	125.6	直	北西～南東	N-43°-E	平面のみ調査
6	7A	932～938-805～812	7B島、151・152土坑、750・751ピット	6.28	5.45	—	34.23	7	64.1	正	西～東	N-27°-W	平面のみ調査
6	7B	937～941-808～820	7A島、152・153土坑、750ピット	10.78	4.41	—	47.54	4	169.0	直	北西～南東	N-50°-E	平面のみ調査
6	8	937～950-763～776	50溝、9島	15.82	8.93	—	141.27	9	73.4	直	北西～南東	N-27°-E	平面のみ調査
6	9	937～945-770～783	8島	14.77	1.83	—	27.03	1	96.0	正	北西～南東	N-51°-W	平面のみ調査
6	10A	941～949-753～766	33住	12.24	6.43	12.1	78.70	7	78.3	直	北西～南東	N-42°-E	
6	10B	940～950-765～776	13住、59溝、10C島	10.79	6.48	8.5	69.92	9	74.8	直	北西～南東	N-46°-E	
6	10C	938～950-768～779	13住、59溝、10B・D島	11.18	8.84	6.5	98.83	7	86.3	正	北西～南東	N-27°-W	
6	10D	943～947-779～791	10C島	12.71	3.13	8.3	39.78	3	163.3	直	北西～南東	N-63°-W	
6	11A	943～948-839～843		6.95	1.24	—	8.62	1	4.6	直	北西～南東	N-35°-W	平面のみ調査
6	11B	942～948-846～852	61溝	5.61	4.66	—	26.14	2	187.0	正	西～東	N-66°-E	平面のみ調査
6	12	899～910-823～831	3住147・172～175土坑、875～878・886・888～890・898ピット	9.14	8.67	—	79.24	6	126.0	正	北西～南東	N-33°-W	平面のみ調査
7	1	967～976-779～789		8.44	8.23	16.9	69.46	7	66.3	直	北西～南東	N-17°-E	
7	2	970～986-788～800	1・2住より旧、6島より新	15.60	10.58	14.0	165.05	6	107.0	正	南西～北東	N-23°-E	
7	3	972～992-795～808	3住、4溝より旧、4～6・23～25島	18.93	12.40	10.3	234.73	9	80.8	直	南西～北東	N-10°-W	
7	4	982～989-798～804	3住、4溝より旧、3島より新	6.68	5.50	12.3	36.74	3	132.7	正	南西～北東	N-27°-E	
7	5	985～990-804～809	3島	4.62	4.57	9.2	21.11	4	73.3	正	南西～北東	N-24°-E	
7	6	981～987-790～796	2住、2・3島より旧	7.39	6.12	7.2	45.23	4	120.8	直	西～東	N-3°-W	
7	7	956～966-741～750	1・7溝、8・17島、1土器集積	8.89	8.42	7.6	74.85	4	158.8	直	北西～南東	N-37°-E	
7	8	958～965-745～758	1土器集積、7・9島、1溝	9.78	9.02	5.3	88.22	7	90.1	直	北西～南東	N-61°-E	
7	9	961～967-748～755	1溝、8島、1土器集積	5.93	4.33	4.5	25.68	3	159.7	正	南西～北東	N-39°-E	
7	11	962～972-757～764	1・3溝、13島	7.93	6.07	7.3	48.14	5	89.2	正	南西～北東	N-34°-E	
7	12	963～971-767～778	3溝	10.92	5.25	12.7	57.33	6	130.5	直	北西～南東	N-27°-E	
7	13	965～972-758～767	1・3溝、11島	8.43	7.48	6.2	63.06	4	163.3	正	南西～北東	N-61°-E	
7	14	972～974-765～767		1.85	1.34	5.0	2.48	1	133.0	正	南西～北東	N-41°-E	
7	15	969～975-762～766	13・14島	6.76	0.85	7.0	5.75	—	—	直	南西～北東	N-36°-W	
7	16	966～975-744～753		9.86	6.98	4.4	68.82	6	112.3	正	南西～北東	N-43°-E	
7	17A	963～967-742～744	7溝、7島	3.58	0.48	3.5	1.72	1	36.0	正	西～東	N-27°-W	

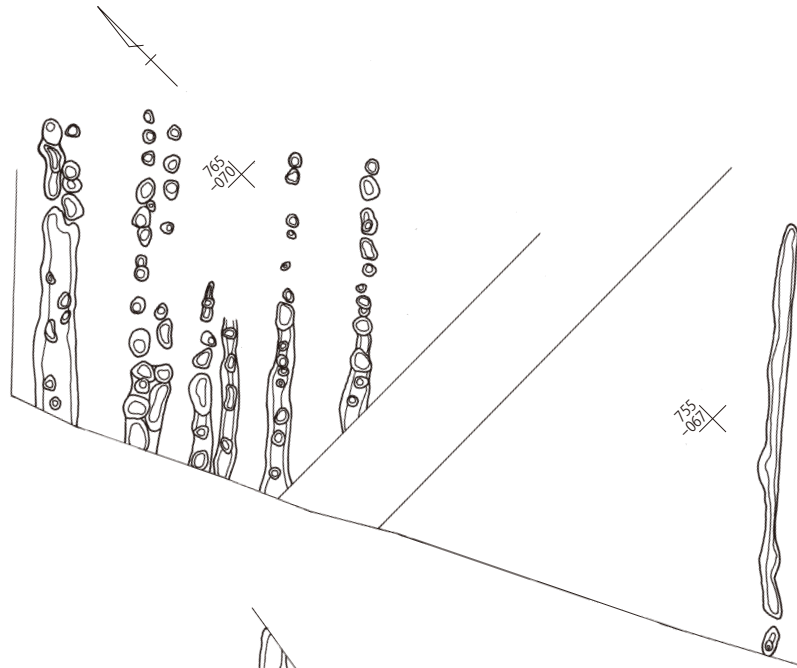
第4節 古墳時代後期～平安時代

区	No.	位置(Gr)	重複	長辺 m	短辺 m	平均 深さ cm	面積 ㎡	畝間 数	平均畝 間間隔 cm	傾斜 方向	確認面傾斜	走向	備考
7	17B	980～987-809～815	8溝、18・19・22・23畝	6.21	5.98	8.3	37.14	5	81.8	直	西～東	N-48° -E	
7	18	982～987-808～815	17・19・22畝	6.13	5.72	6.4	35.06	6	65.2	正	西～東	N-10° -W	
7	19	984～987-810～813	17・18畝	2.81	2.44	4.3	6.86	2	76.5	正	西～東	N-34° -E	
7	20	986～991-787～792	1・10溝、2土坑	5.23	3.26	2.8	17.05	3	140.0	正	西～東	N-17° -E	
7	21	974～981-815～824	8・9溝	7.98	6.52	11.0	52.03	7	53.0	直	北西～南東	N-44° -E	
7	22	981～983-813～816	8溝、17・18畝	2.68	1.57	8.5	4.21	3	53.3	正	西～東	N-30° -E	
7	23	975～982-804～811	8溝、3・17・24・25畝	5.02	6.95	13.0	34.89	2	144.0	正	北～南	N-3° -W	
7	24	975～982-802～809	8溝、3・23・25畝	6.98	5.78	10.0	40.34	3	150.7	正	南西～北東	N-32° -E	
7	25	973～978-802～806	3・24畝	4.18	3.84	9.3	16.05	2	168.5	直	西～東	N-58° -E	
7	26	962～965-738～743	6ピット	3.71	3.64	5.8	13.50	2	153.5	正	西～東	N-34° -E	
7	27	965～976-742～753	1・2・12溝、28・29畝	11.65	7.11	6.9	82.83	8	93.4	正	南西～北東	N-52° -E	
7	28	965～972-743～750	1溝、27畝	5.96	5.00	5.5	29.80	3	141.7	正	南西～北東	N-29° -E	
7	29	967～976-752～758	1溝、3土坑、27・31畝	10.70	3.37	7.3	36.06	2	90.0	正	南西～北東	N-47° -E	
7	30A	964～979-755～767	1～3溝	13.59	8.55	11.0	116.19	5	105.2	正	南西～北東	N-36° -E	
7	30B	965～967-751～753	1溝、40畝	1.78	1.23	6.5	2.19	1	82.0	正	南西～北東	N-34° -E	
7	31	961～971-754～761	1・3・14溝、3土坑、29・39・40畝	8.79	4.48	8.8	39.38	5	56.0	正	西～東	N-27° -E	
7	32	972～993-785～816	1～4住、1・3・4・8・10・11・13溝、4・5土坑、7ピット、32～35・38畝	31.04	20.73	10.7	643.46	35	73.3	正	西～東	N-11° -W	
7	33	989～991-790～791	1溝、32畝	1.76	0.19	6.0	0.28	—	—	正	南西～北東	N-40° -E	
7	34	967～986-778～800	1・2住、3溝、5土坑、32畝	21.26	15.46	9.7	328.68	12	137.0	正	西～東	N-24° -E	
7	35	975～985-812～825	8・9・13溝、32畝	13.61	7.18	7.7	97.72	6	90.8	正	西～東	N-38° -E	
7	36	956～961-742～747	8土坑、14溝	3.68	3.42	6.0	12.59	3	85.3	直	西～東	N-52° -E	
7	37	965～967-752・753	1溝、30・40畝	[1.78]	[0.45]	10.0	0.62	—	—	直	西～東	N-47° -E	
7	38	983～987-801～804	32畝	3.44	2.28	9.0	7.84	2	84.0	正	西～東	N-24° -E	
7	39	959～965-750～757	14溝	7.05	4.53	6.8	31.94	11	61.1	正	西～東	N-42° -E	
7	40	959～968-746～755	14溝、7土坑、4ピット、30・31・37・39畝	10.18	4.23	7.9	43.06	10	68.5	直	西～東	N-47° -E	

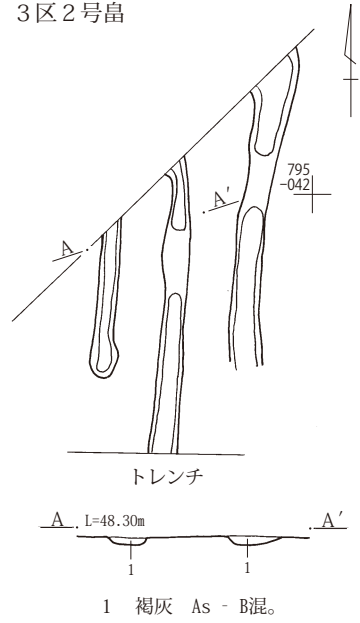
第30表 古墳～平安時代畝出土土器重量表

区	No.	土 師			須 恵			計	区	No.	土 師			須 恵			計									
		甕g	杯g	小計	甕g	杯g	小計				甕g	杯g	小計													
3	3	7		7			0	7	6	5	30		30			0	30	7	8			0		50	50	50
3	4	41		41			0	41	7	1	3		3			0	3	7	26	3		3			0	3
6	1	60		60	3		3	63	7	3	10		10			0	10	7	39	30		30			0	30
6	2		20	20			0	20	7	6	5		5			0	5	7	40	670	100	770	3		3	773
6	3	10		10			0	10	7	7	100	3	103			0	103									

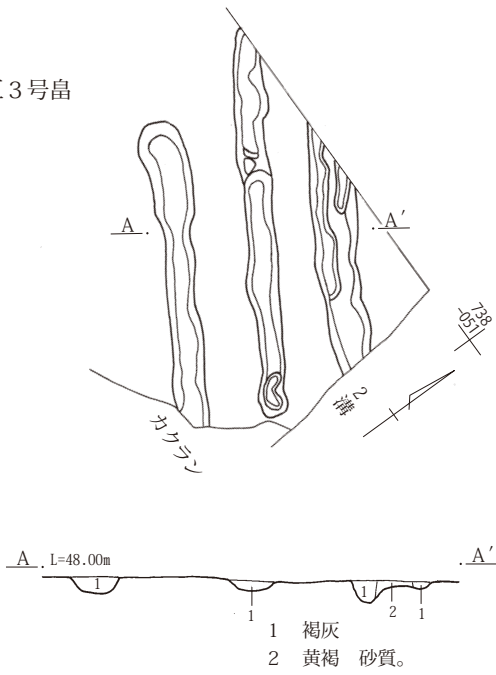
3区1号畠



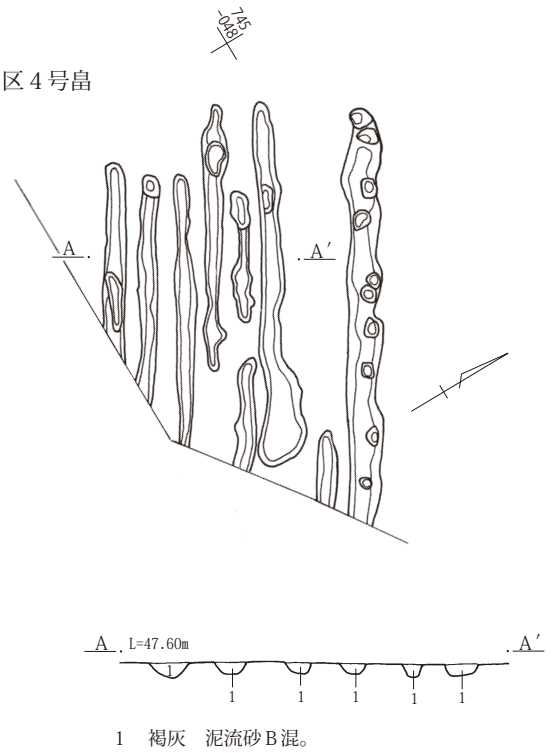
3区2号畠



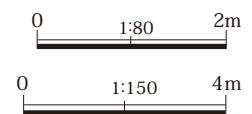
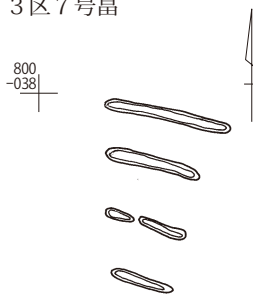
3区3号畠



3区4号畠

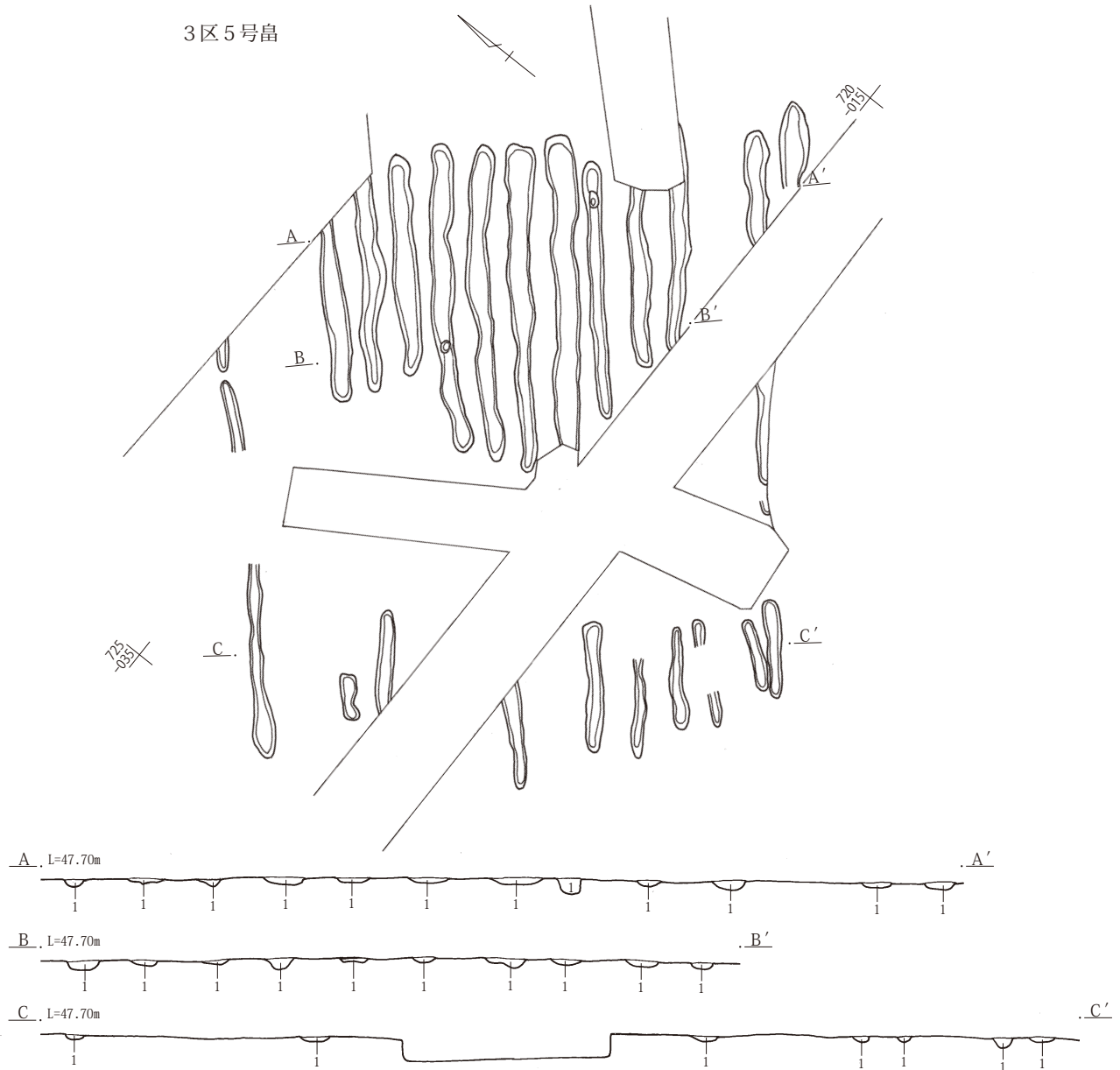


3区7号畠

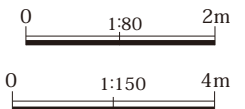
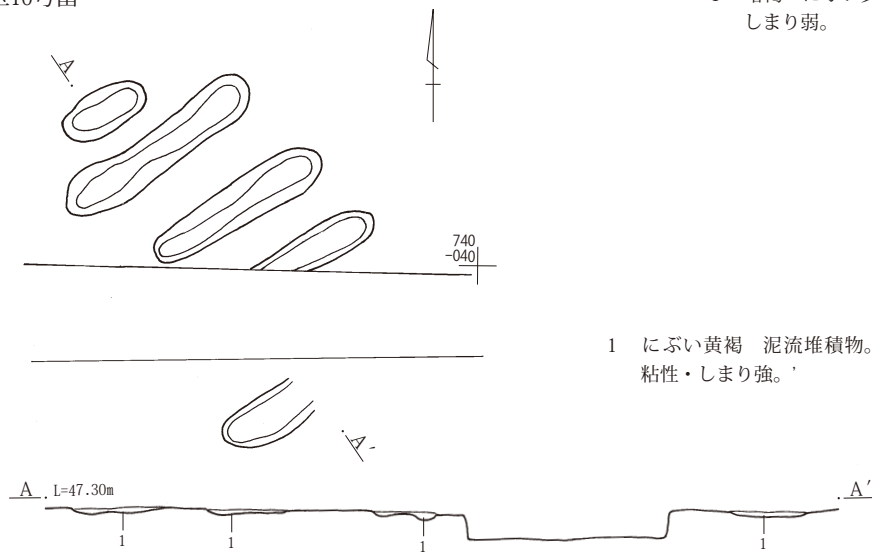


第228図 古墳～平安時代畠 1

3区5号畠

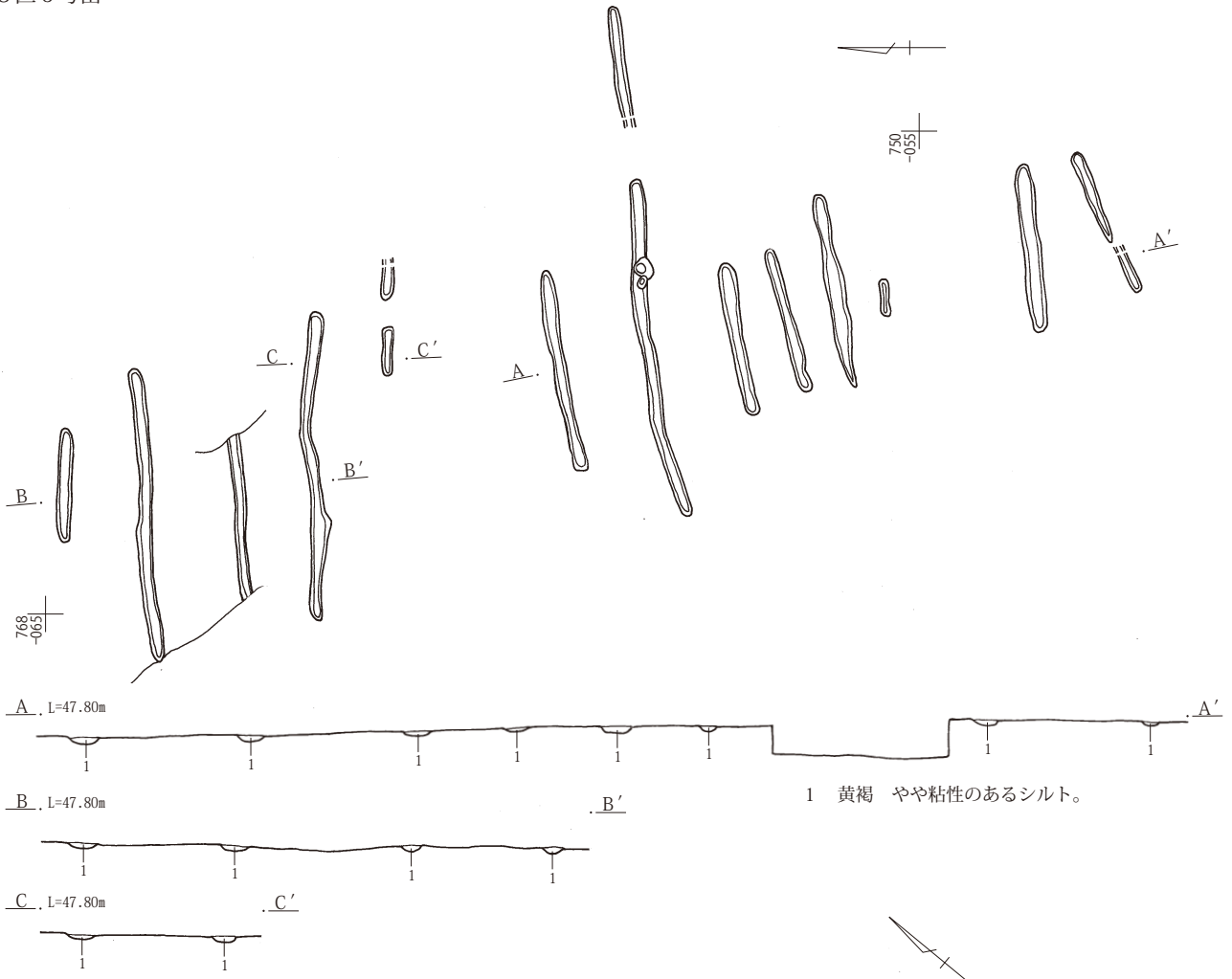


3区10号畠

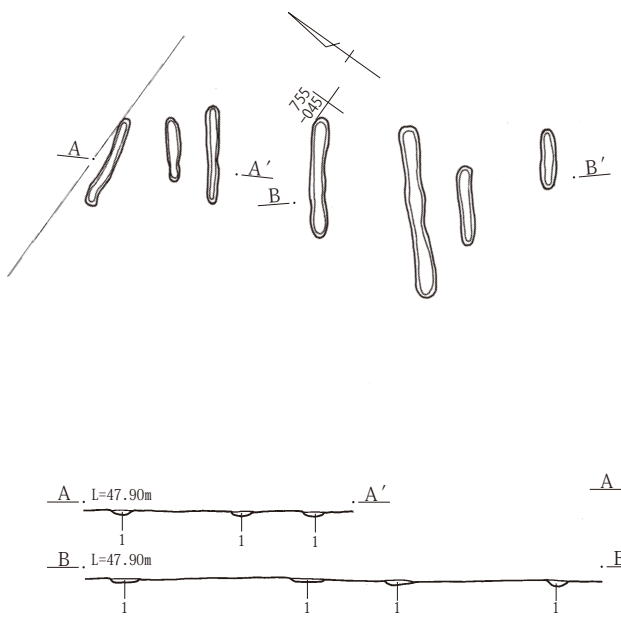


第229図 古墳～平安時代畠2

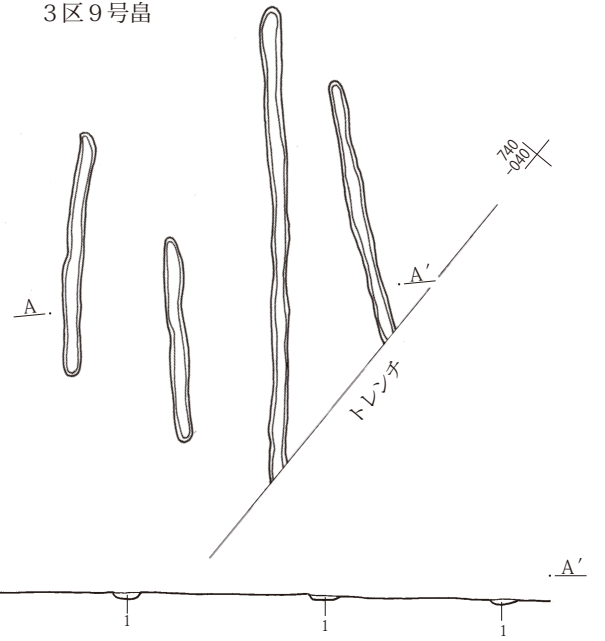
3区6号畠



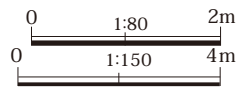
3区8号畠



3区9号畠



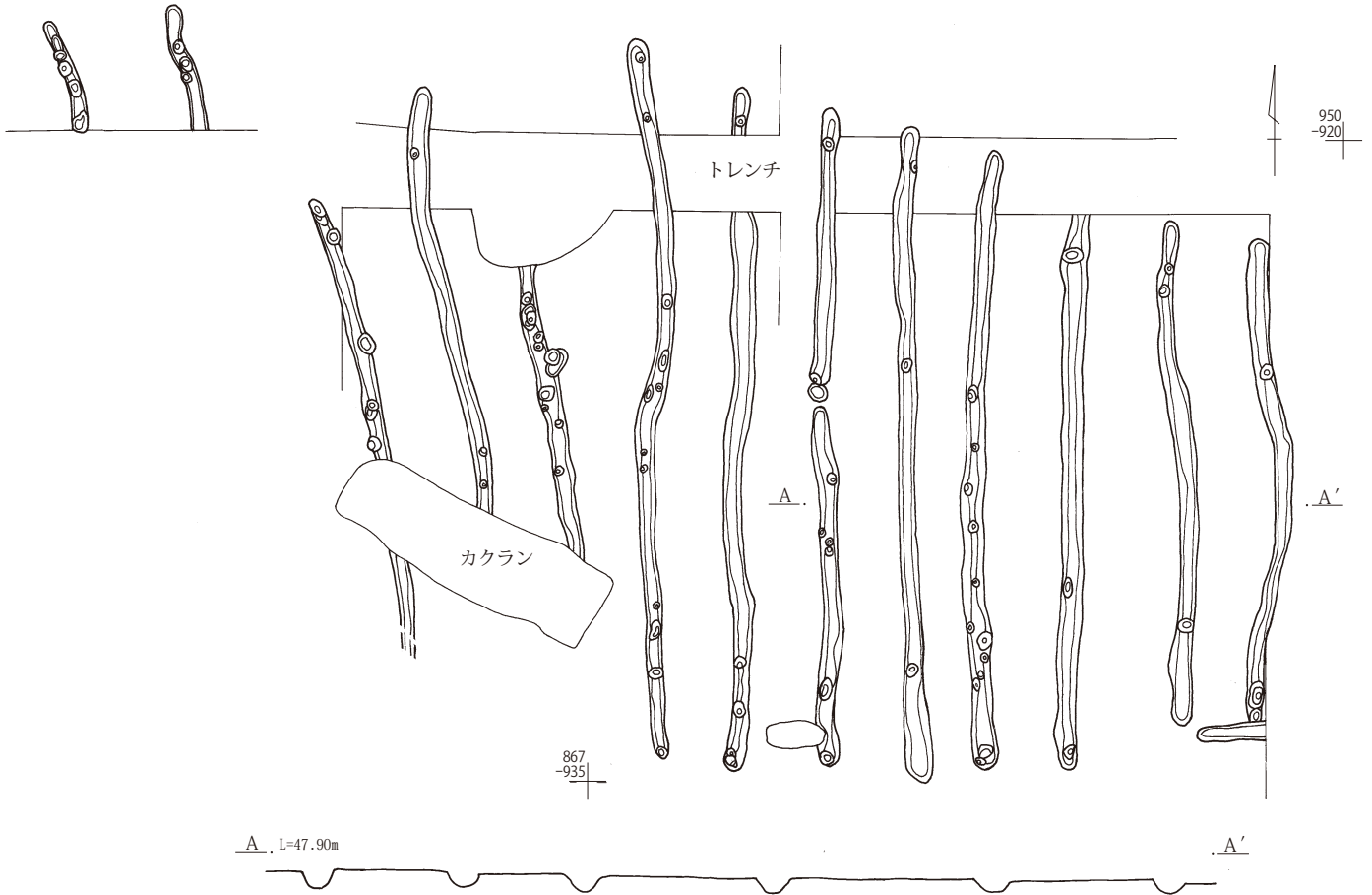
3区8・9号畠  
1 暗褐 黄褐色土B多量混。粘性強。



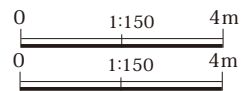
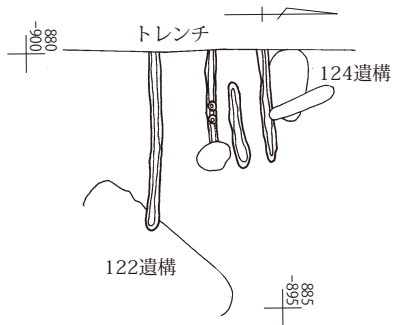
第230図 古墳～平安時代畠3



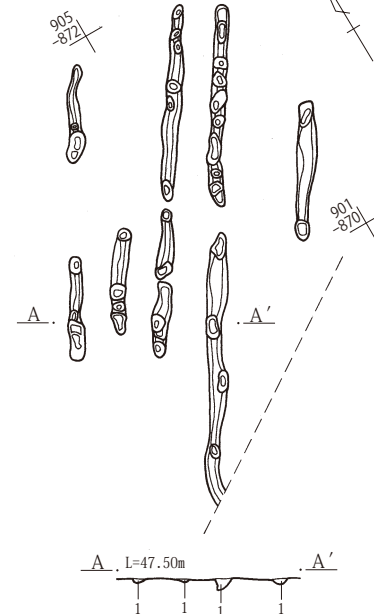
5区1号畠



5区2号畠



6区4号畠

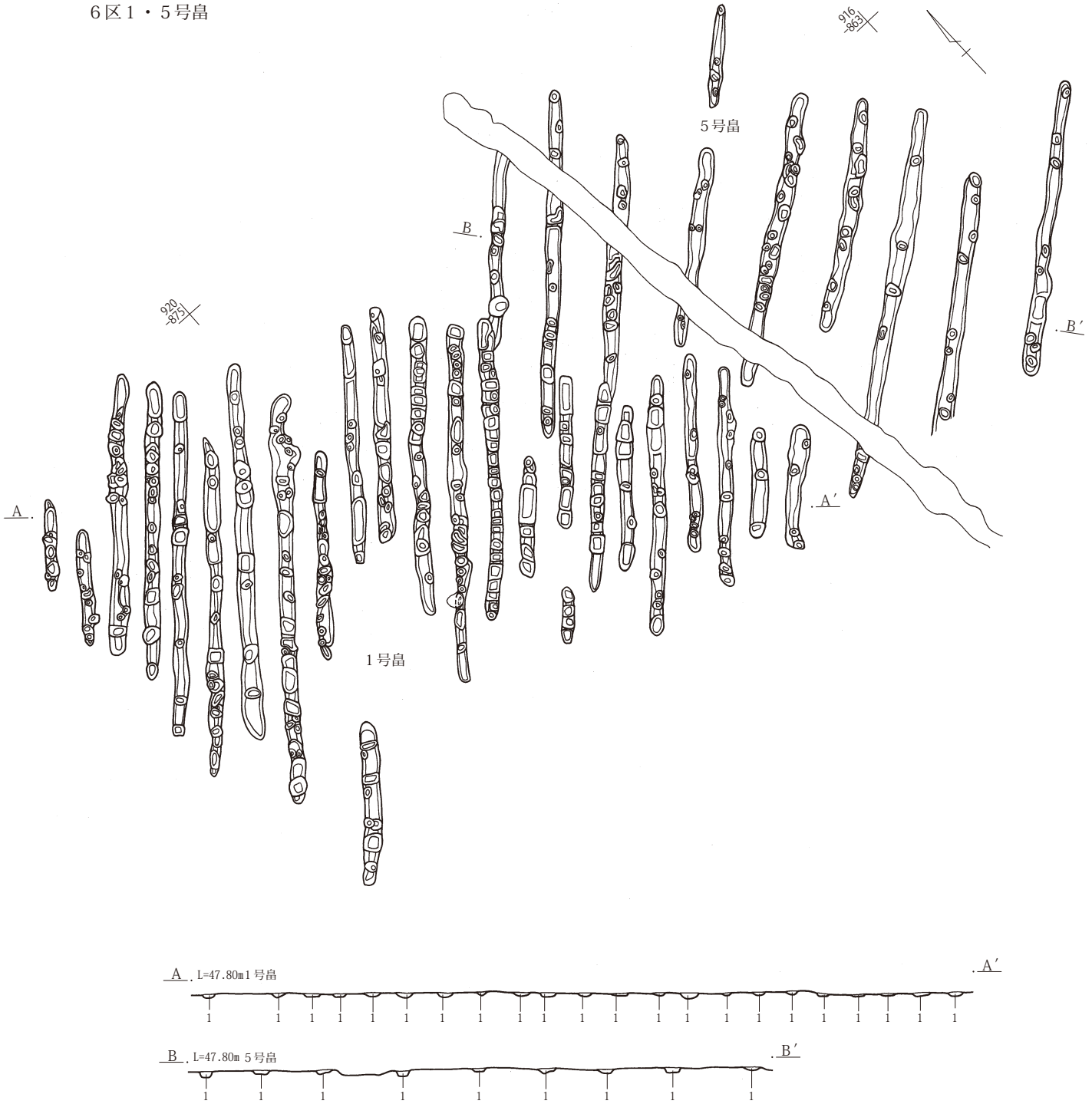


1 黒褐(10YR2/2・3/2)白色軽石少量混。



第231図 古墳～平安時代畠4

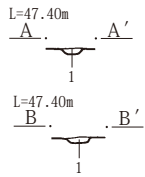
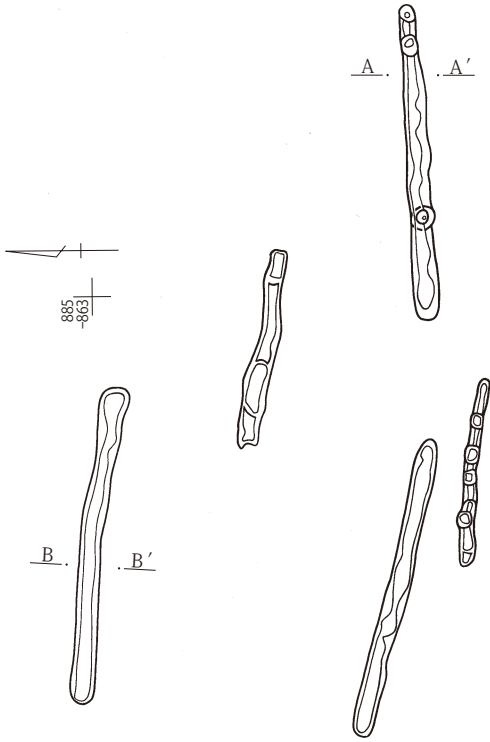
6区1・5号畠



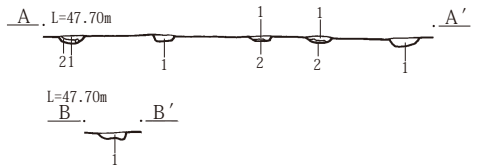
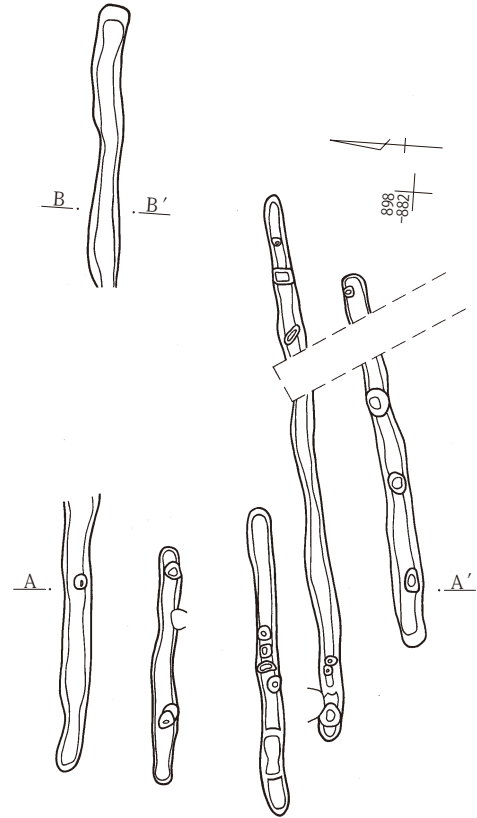
1 黒褐(10YR2/2・3/2)白色軽石少量混。

第232図 古墳～平安時代畠 5

6区2号畠



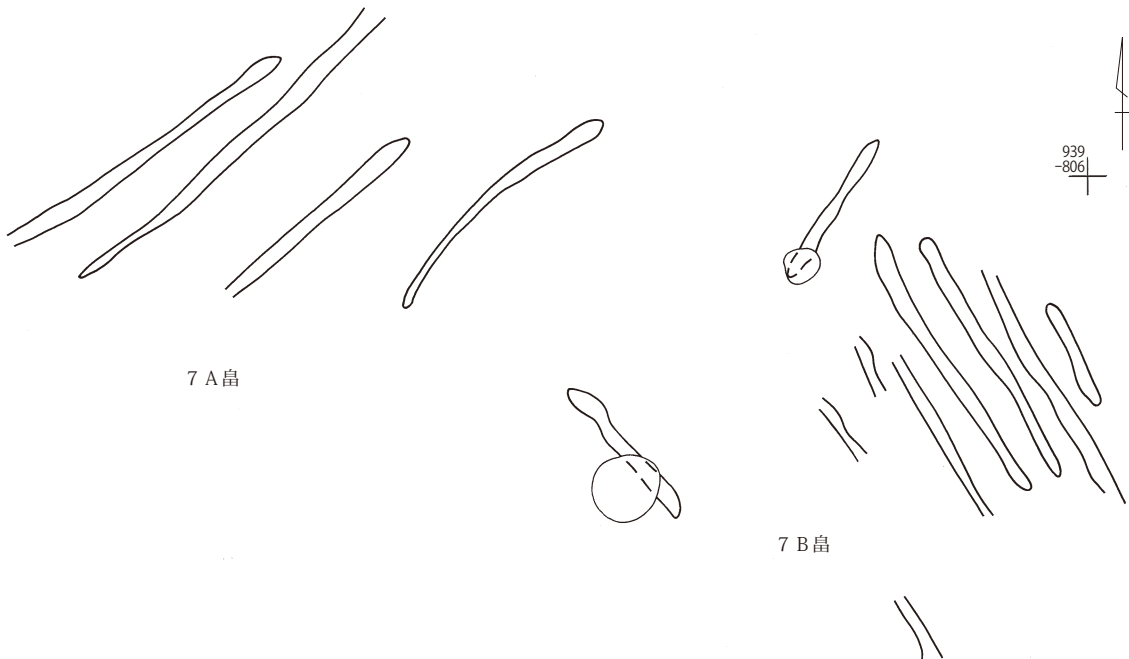
6区3号畠



3区2・3号畠

- 1 黒褐(10YR2/2・3/2)白色軽石少量混。
- 2 にぶい黄褐(10YR2/2・3/2)

6区7号畠



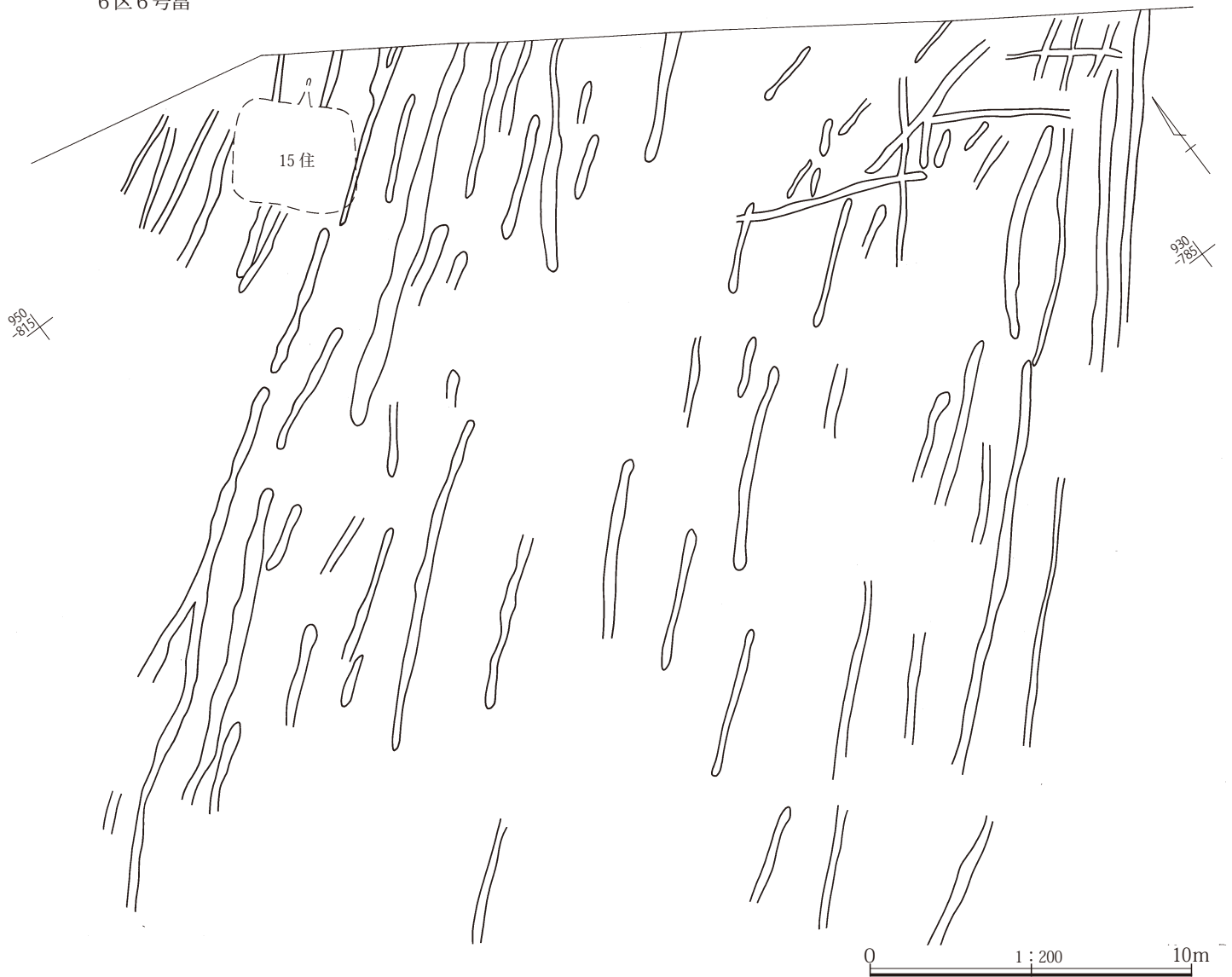
7 A 畠

7 B 畠

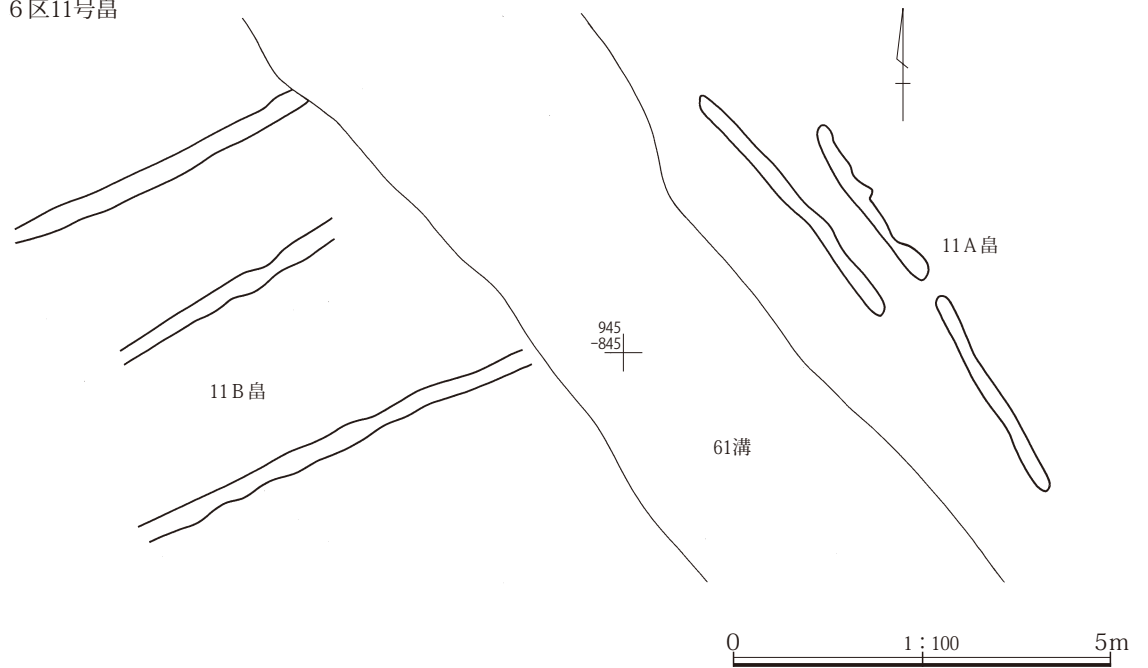


第233図 古墳～平安時代畠6

6区6号畠



6区11号畠



第234図 古墳~平安時代畠7

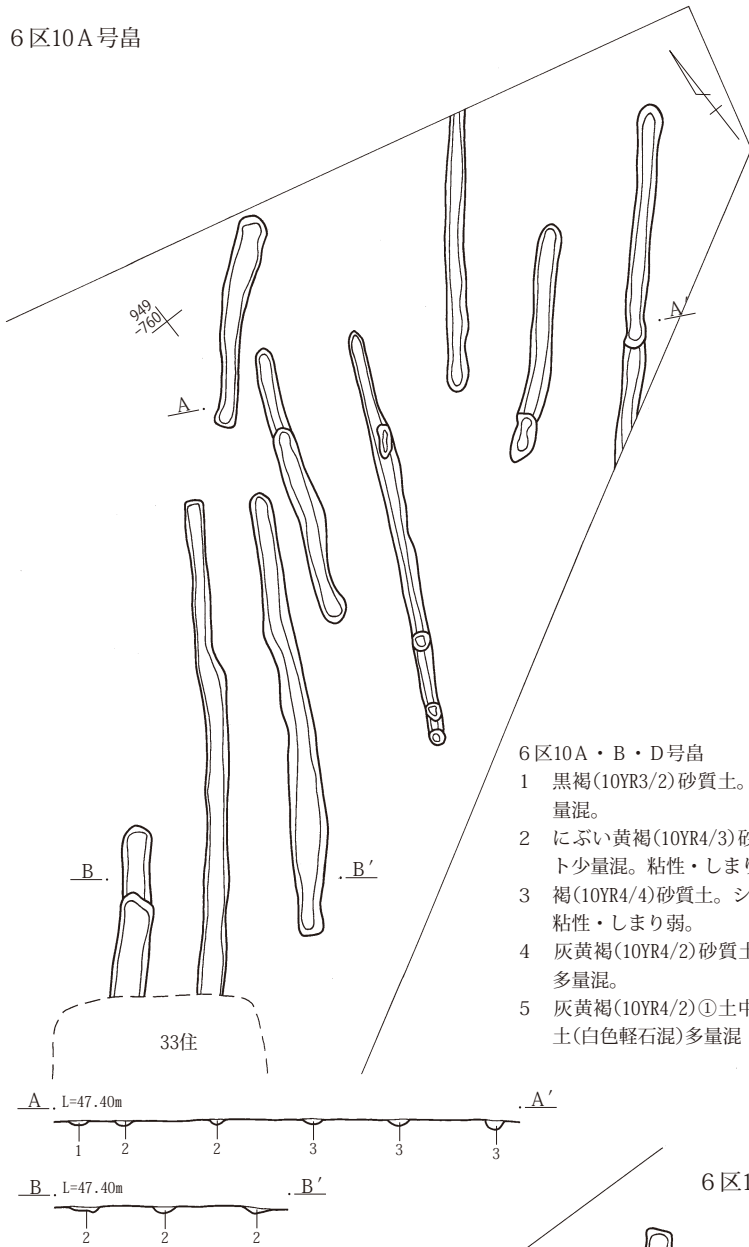
6区8・9号畠



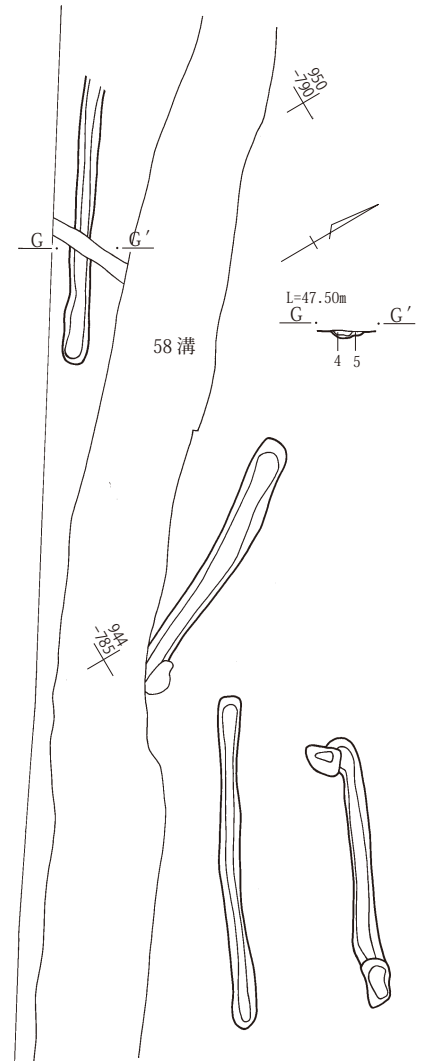
0 1:100 5m

第235図 古墳～平安時代畠8

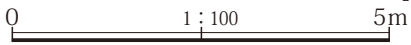
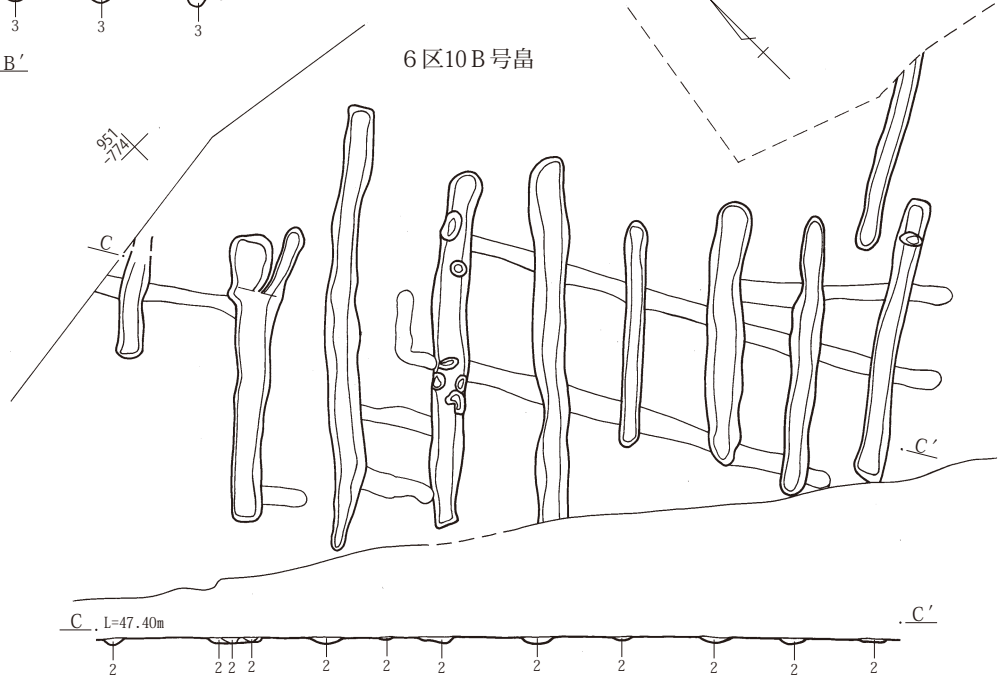
6区10A号畠



6区10D号畠

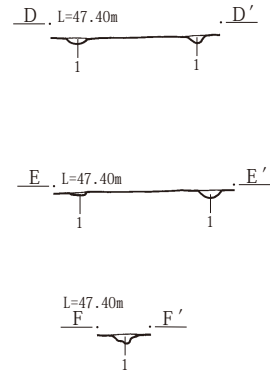
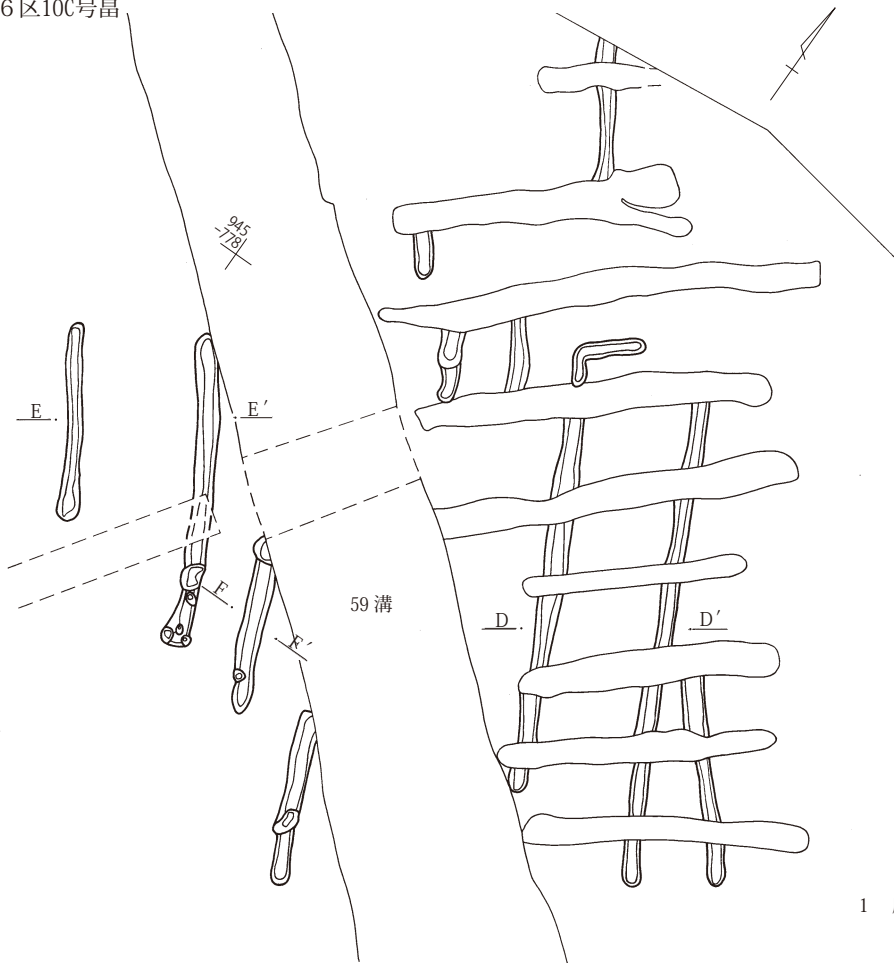


6区10B号畠



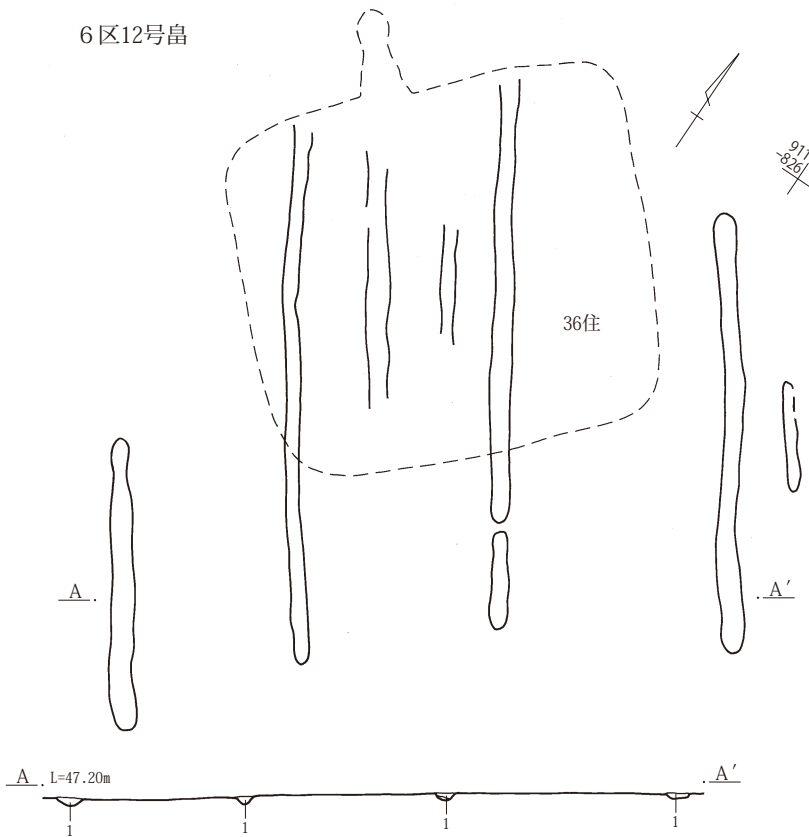
第236図 古墳～平安時代畠9

6区10C号畠

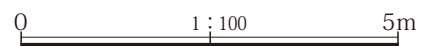


1 灰黄褐(10YR4/2)砂質土。シルト分多量混。

6区12号畠

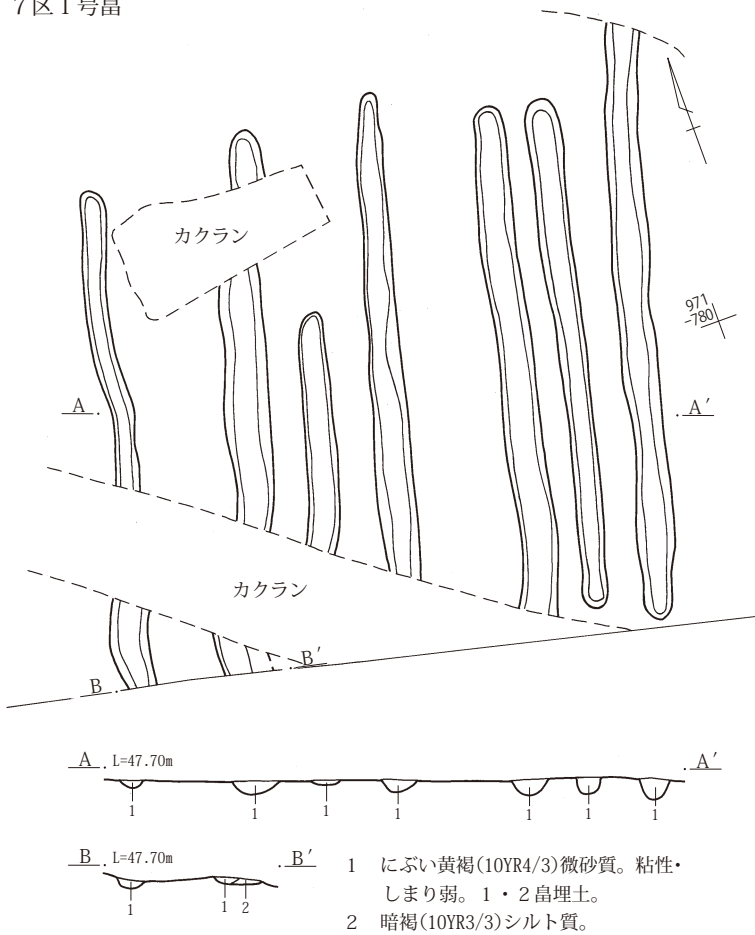


1 黒褐(10YR2/3)ローム・白色軽石少量混。しまり強。

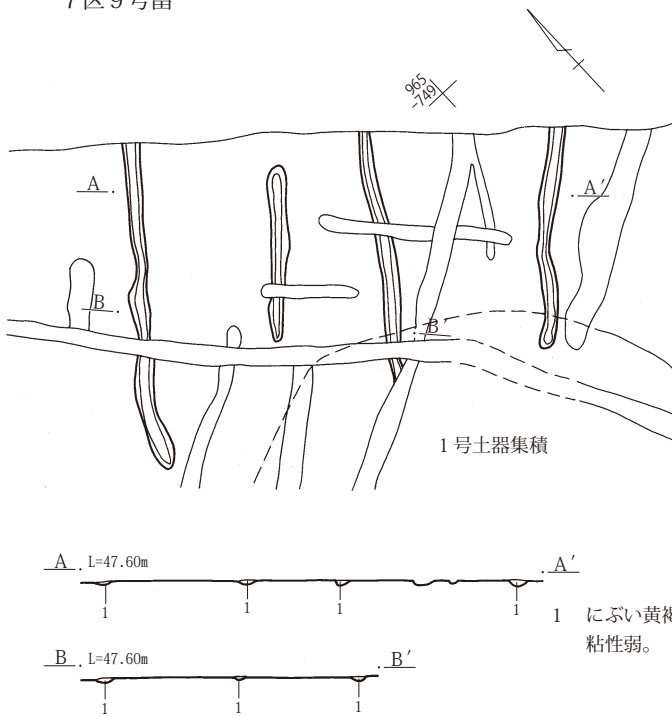


第237図 古墳～平安時代畠10

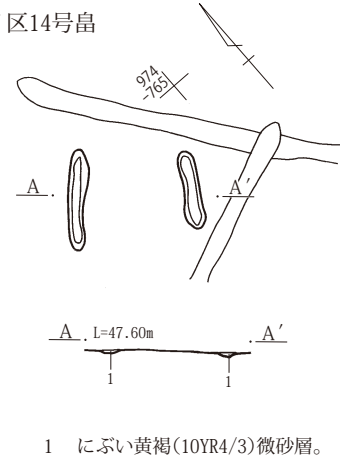
7区1号畠



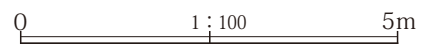
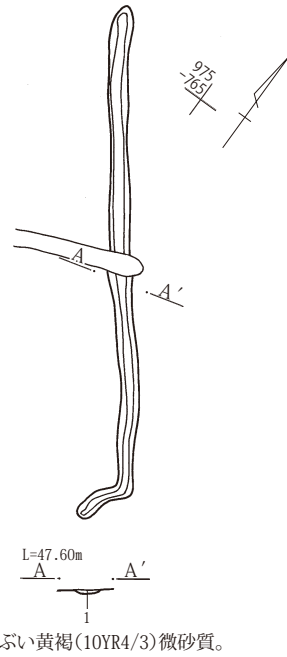
7区9号畠



7区14号畠



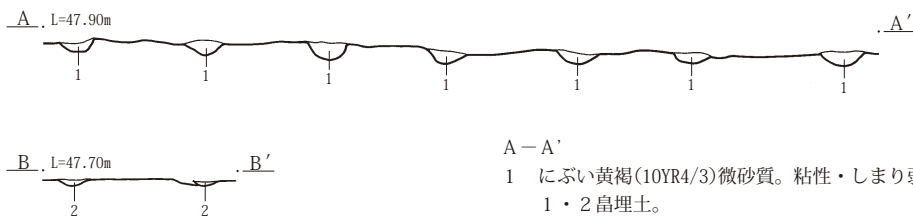
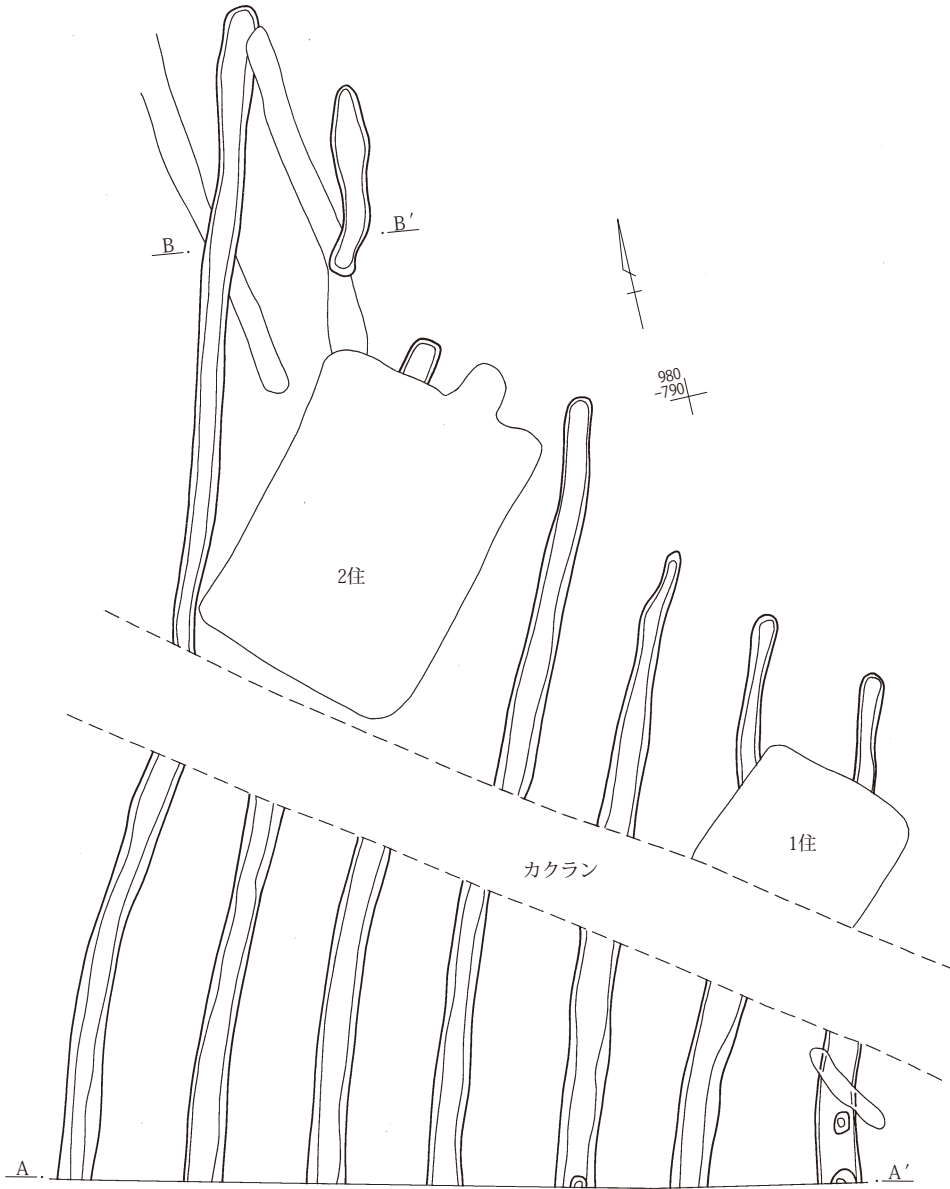
7区15号畠



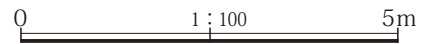
第238図 古墳～平安時代畠11



7区2号畠

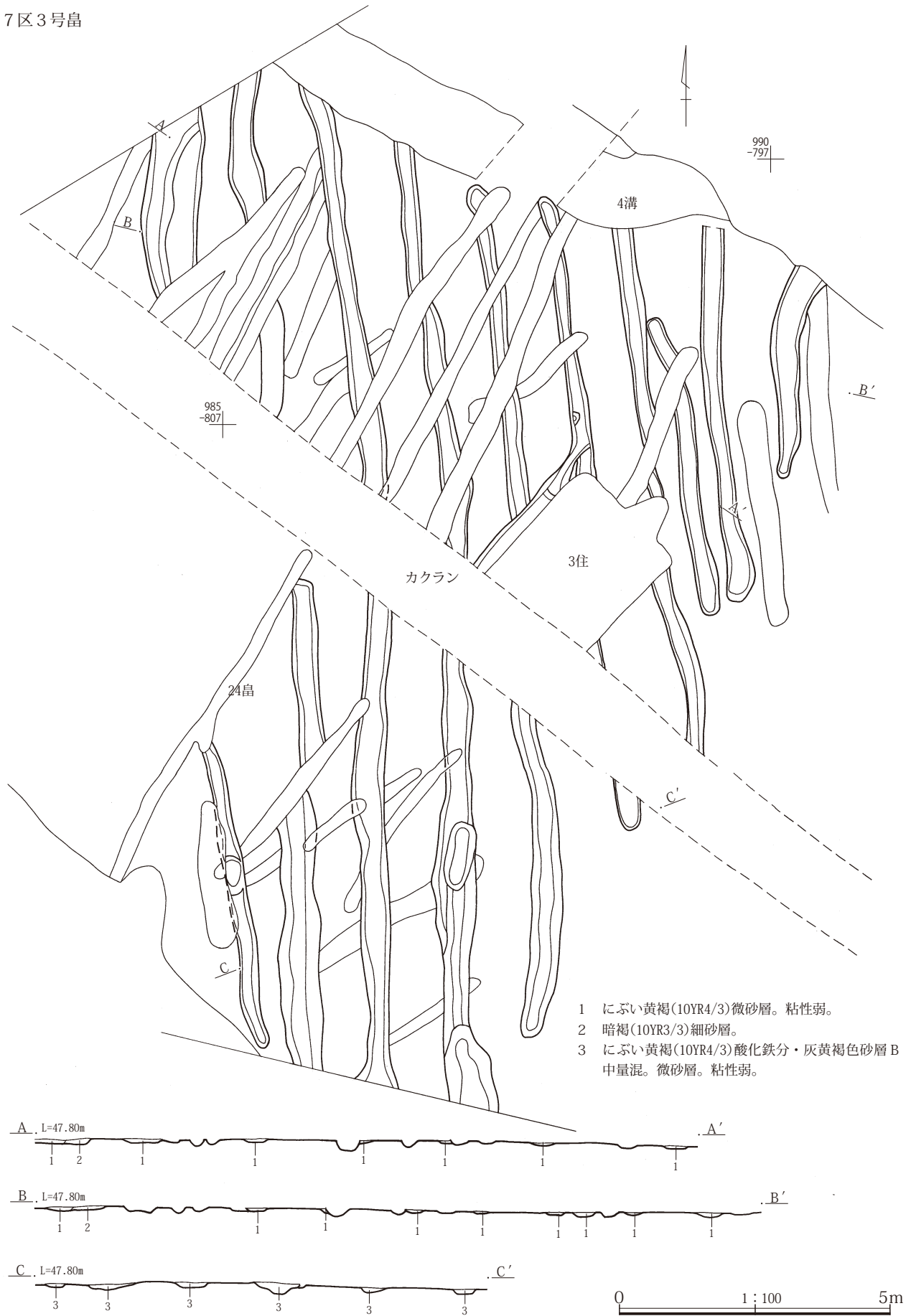


- A-A'
- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。粘性・しまり弱。  
1・2 畠埋土。
  - 2 暗褐(10YR3/4)微砂層。粘性弱。

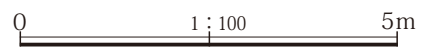
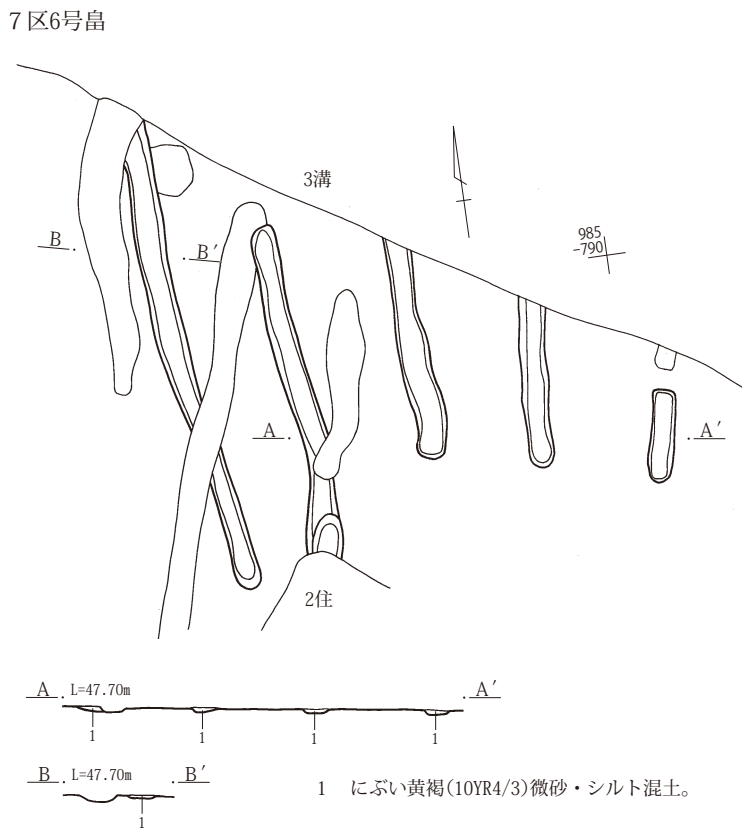
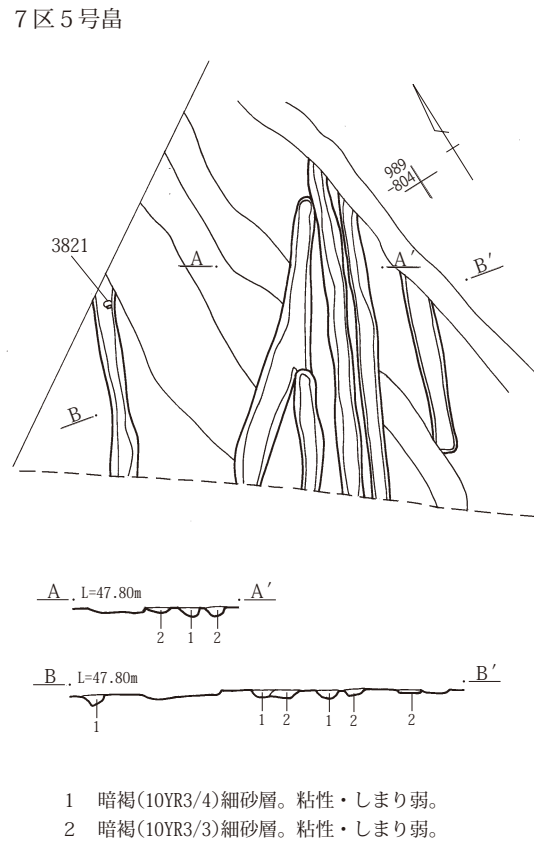
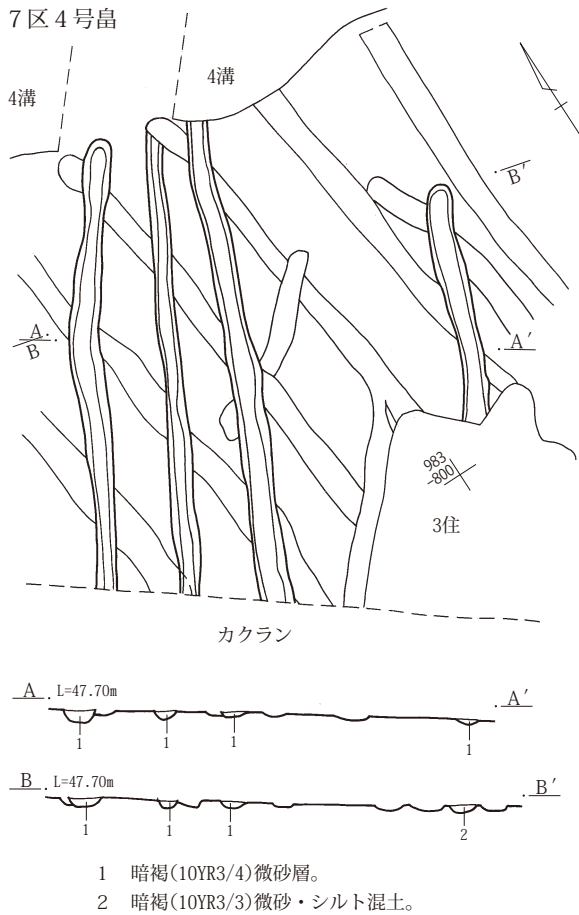


第239図 古墳～平安時代畠12

7区3号畠

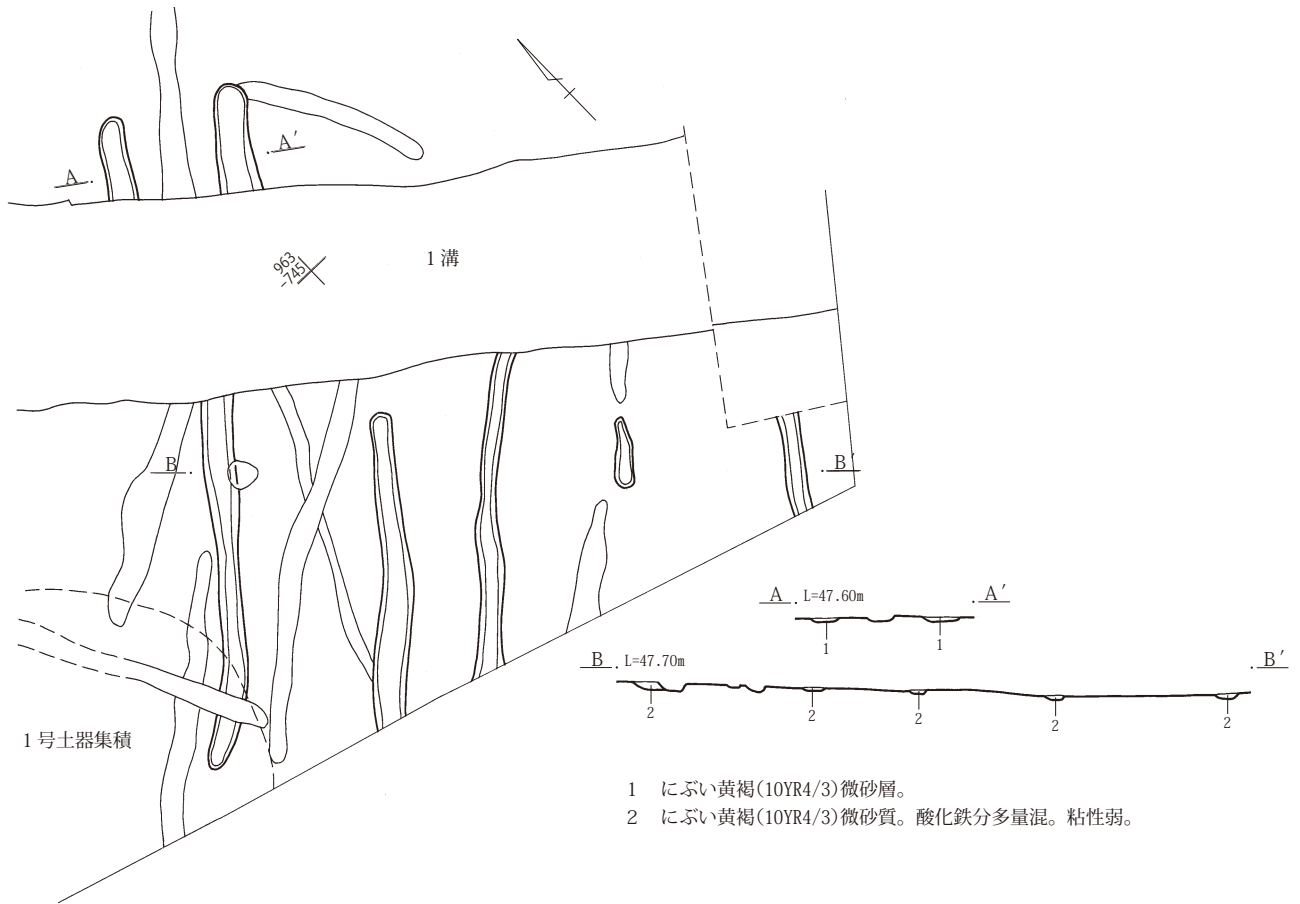


第240図 古墳～平安時代畠13

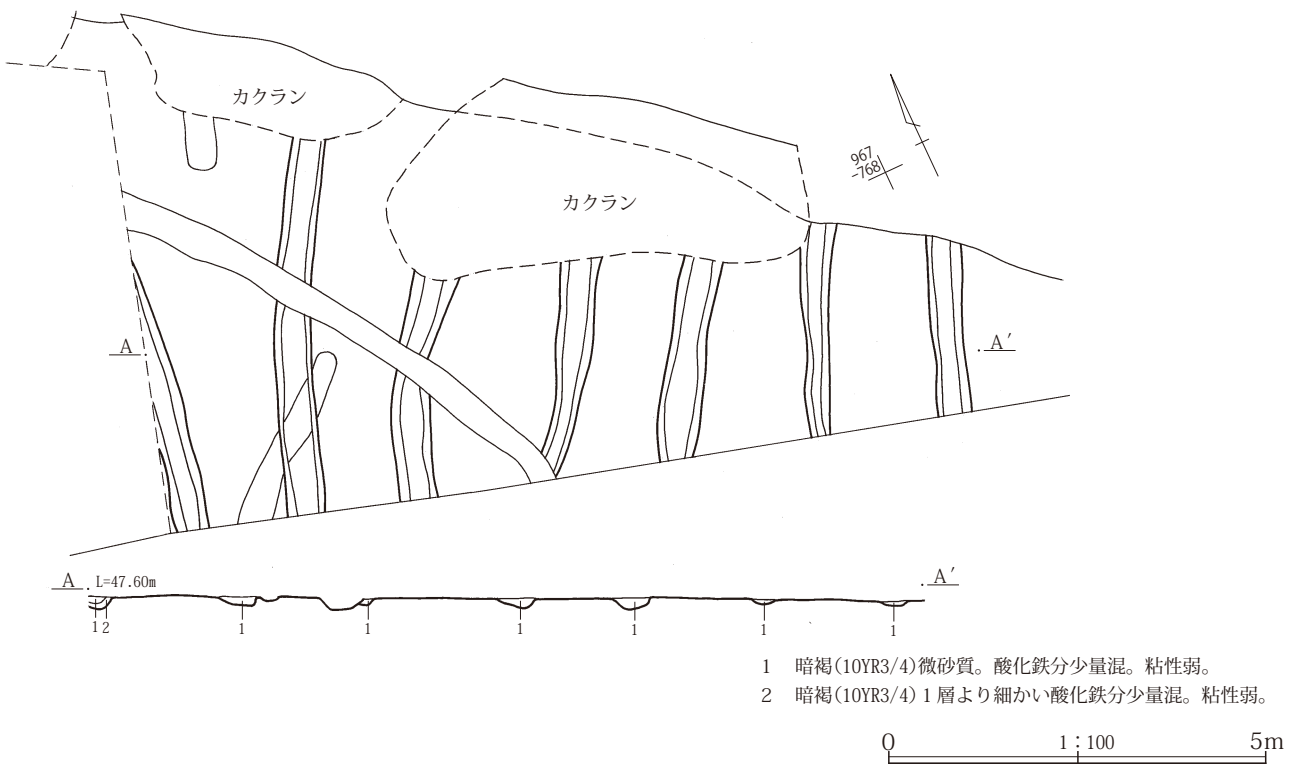


第241図 古墳～平安時代畠14

7区7号畠

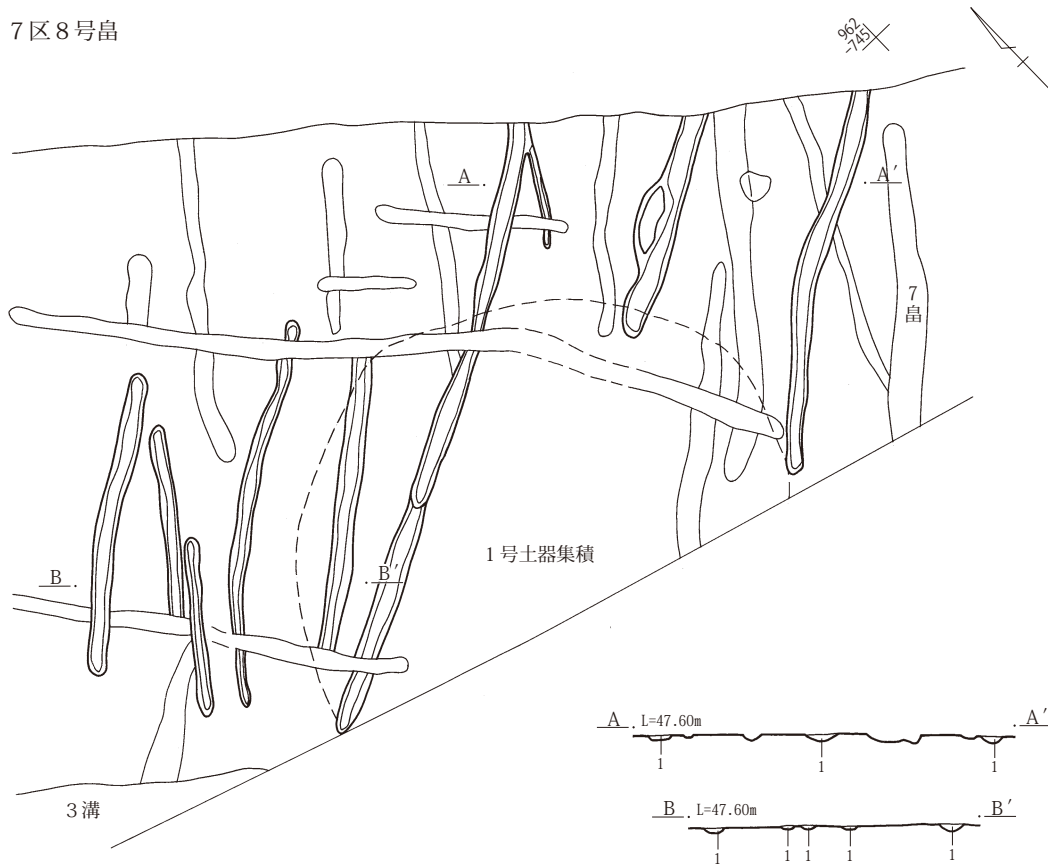


7区12号畠



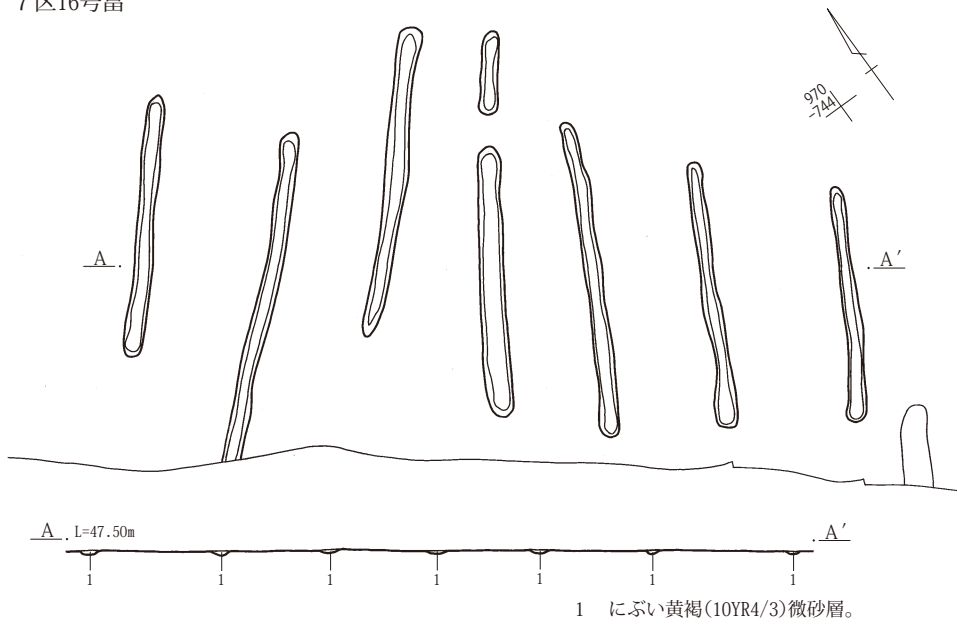
第242図 古墳～平安時代畠15

7区8号畠

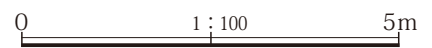


1 褐(10YR4/4)微砂質。酸化鉄分少量混。粘性弱。

7区16号畠

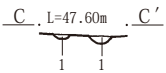
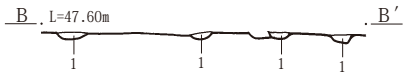
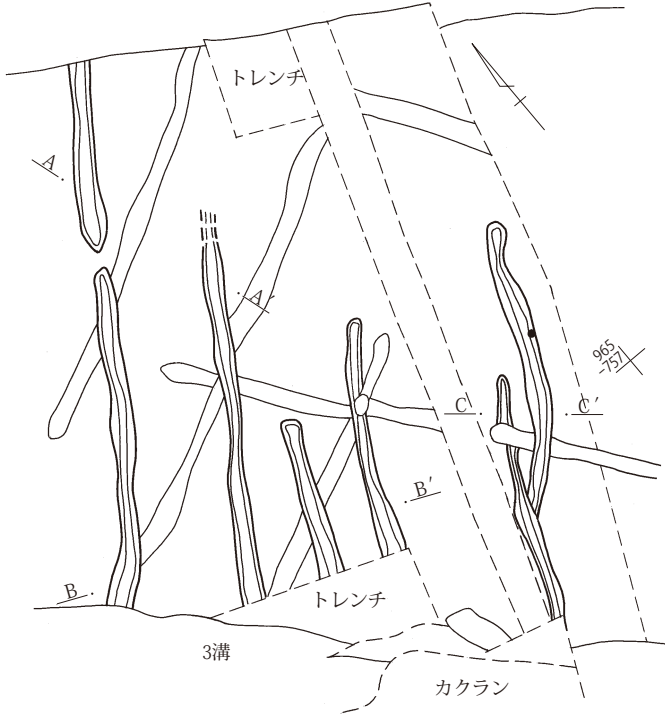


1 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂層。



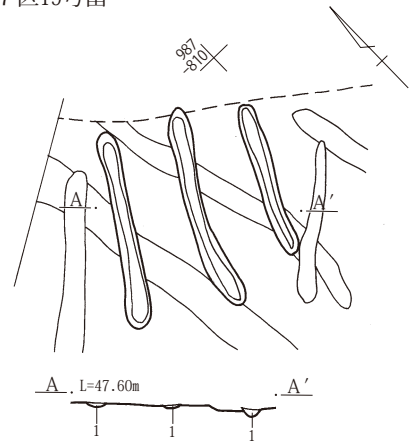
第243図 古墳～平安時代畠16

7区11号畠



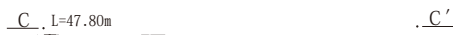
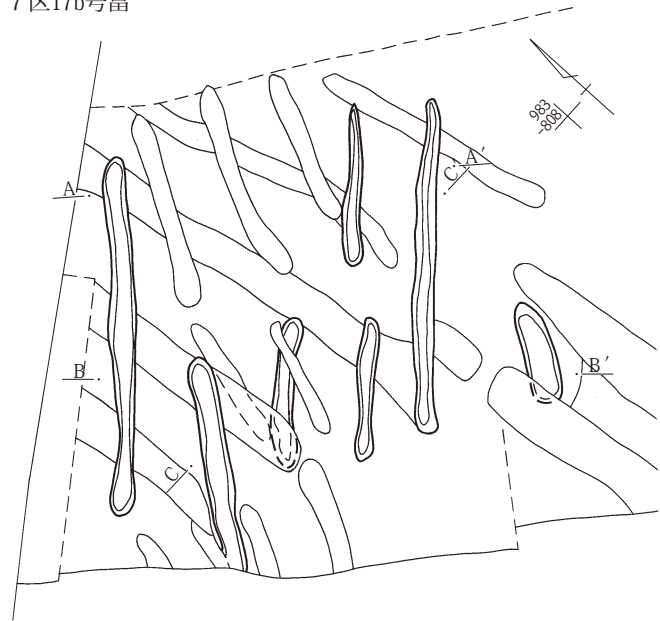
1 暗褐(10YR3/3)微砂・シルト混土。

7区19号畠



1 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂層。

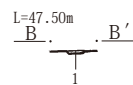
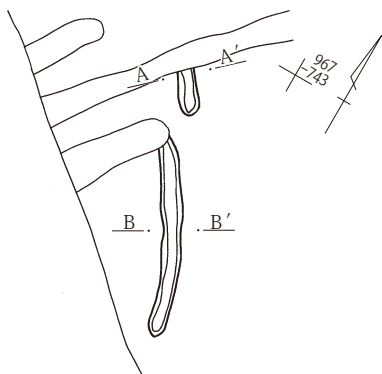
7区17b号畠



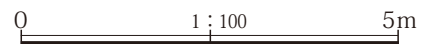
1 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土。粘性・しまり弱。

2 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂層。

7区17a号畠

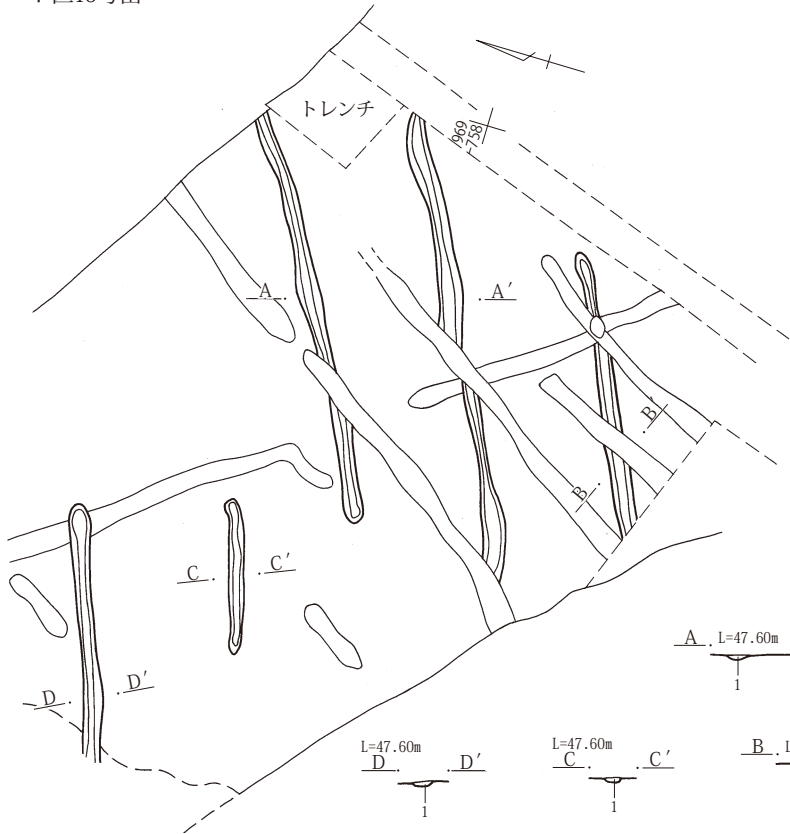


1 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂層。

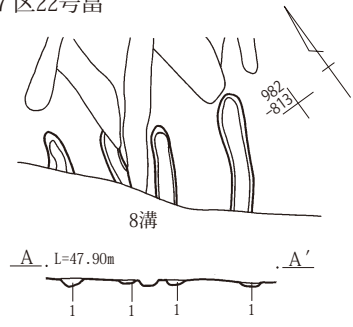


第244図 古墳～平安時代畠17

7区13号畠



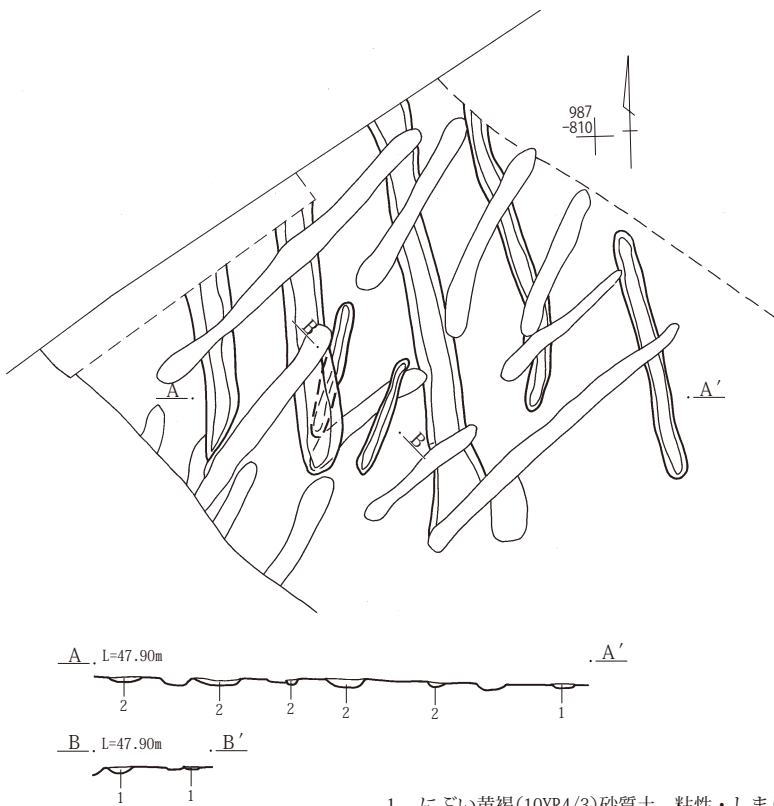
7区22号畠



1 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂質。粘性・しまり弱。

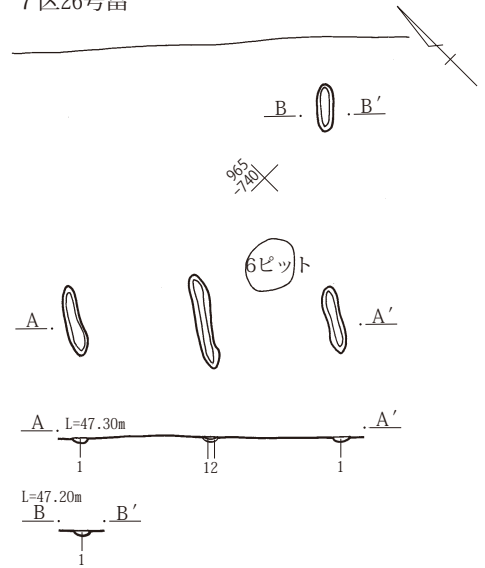
1 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂層。

7区18号畠



1 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土。粘性・しまり弱。  
2 にぶい黄褐(10YR4/3)微砂層。

7区26号畠



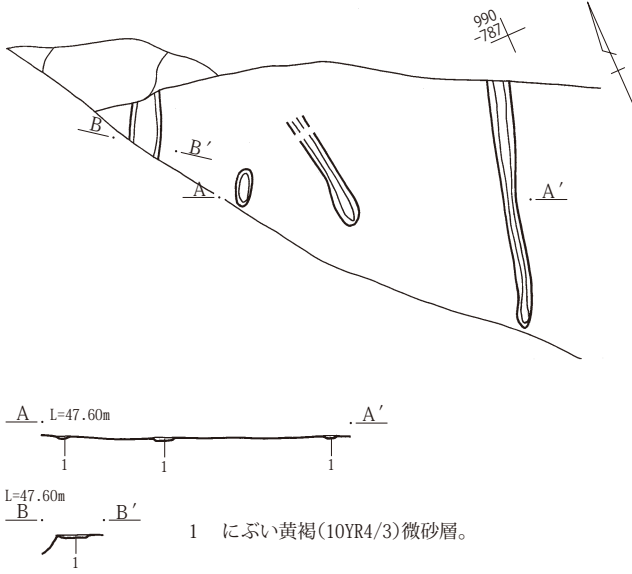
1 にぶい黄褐(10YR4/3)粘性・しまり弱。  
2 黒褐(10YR3/2)。



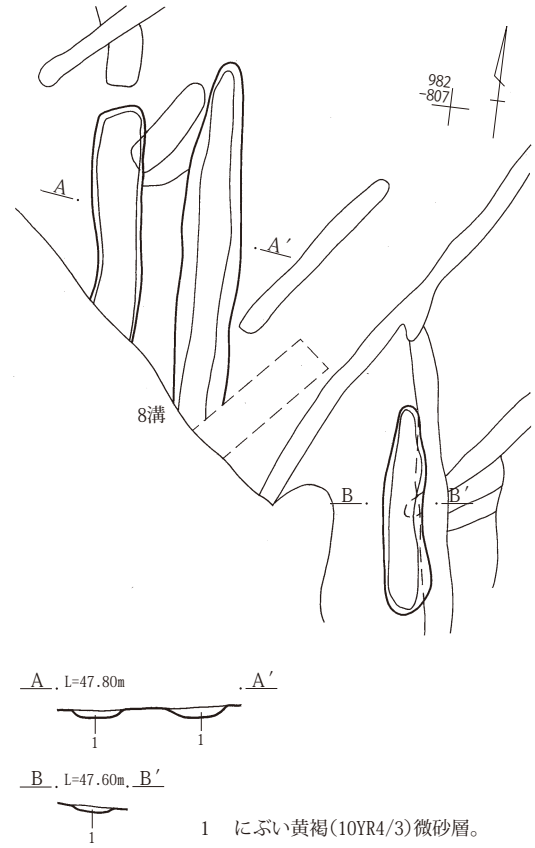
第245図 古墳～平安時代畠18

第三章 検出された遺構と出土遺物

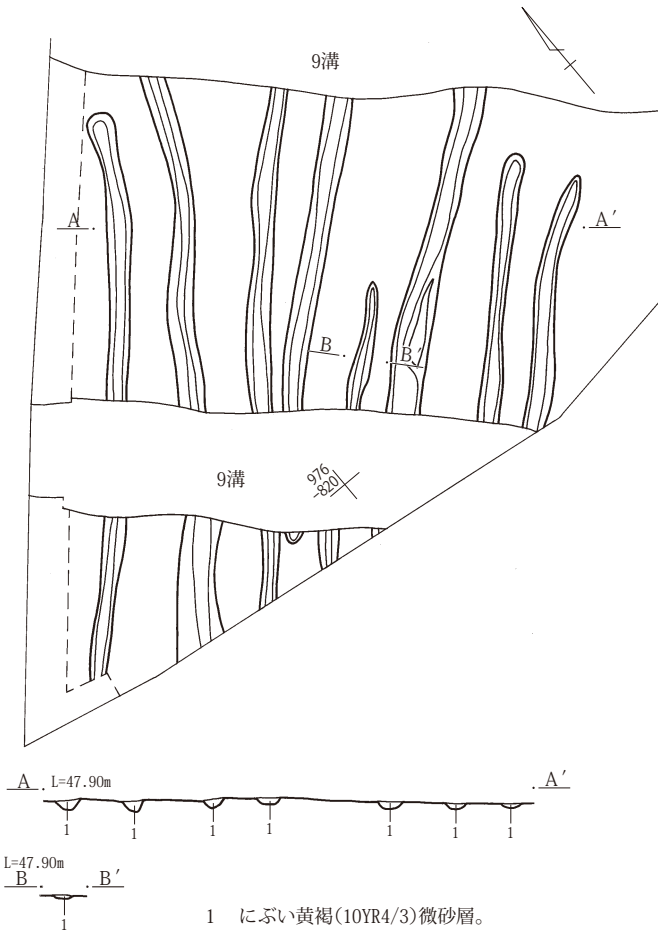
7区20号畠



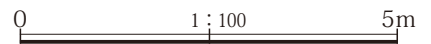
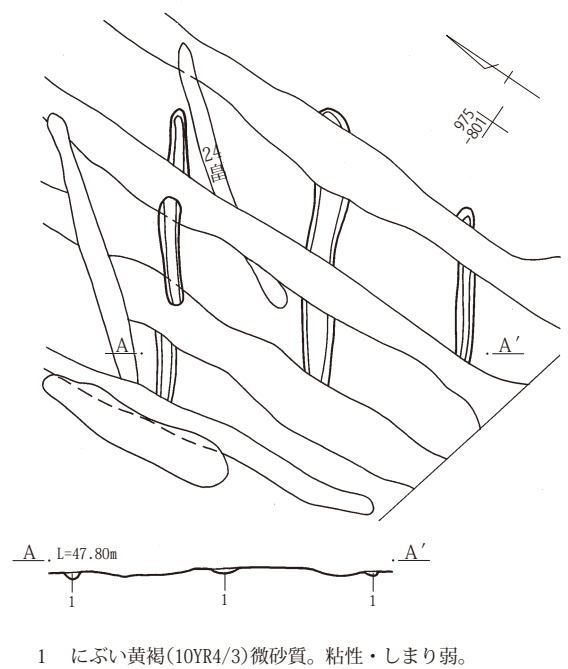
7区23号畠



7区21号畠



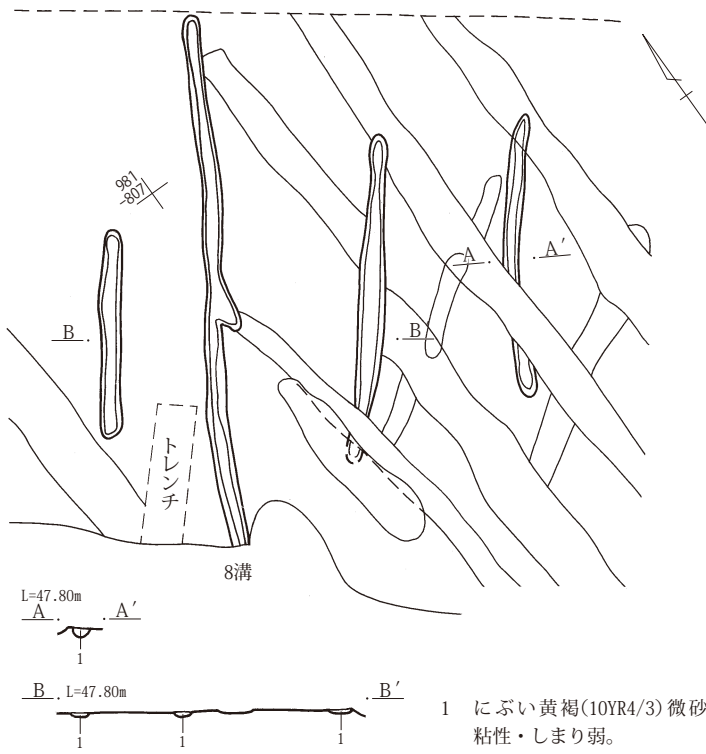
7区25号畠



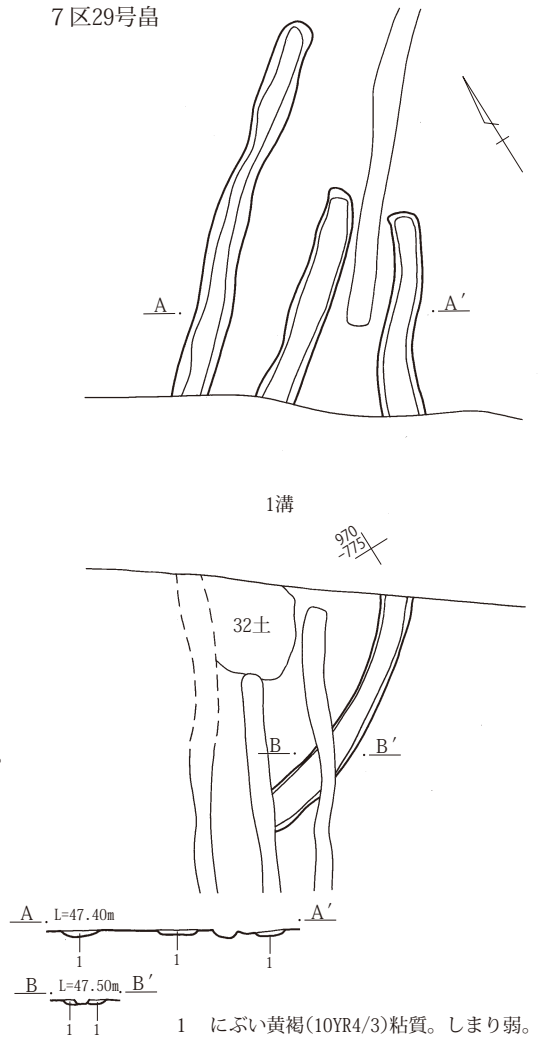
第246図 古墳～平安時代畠19



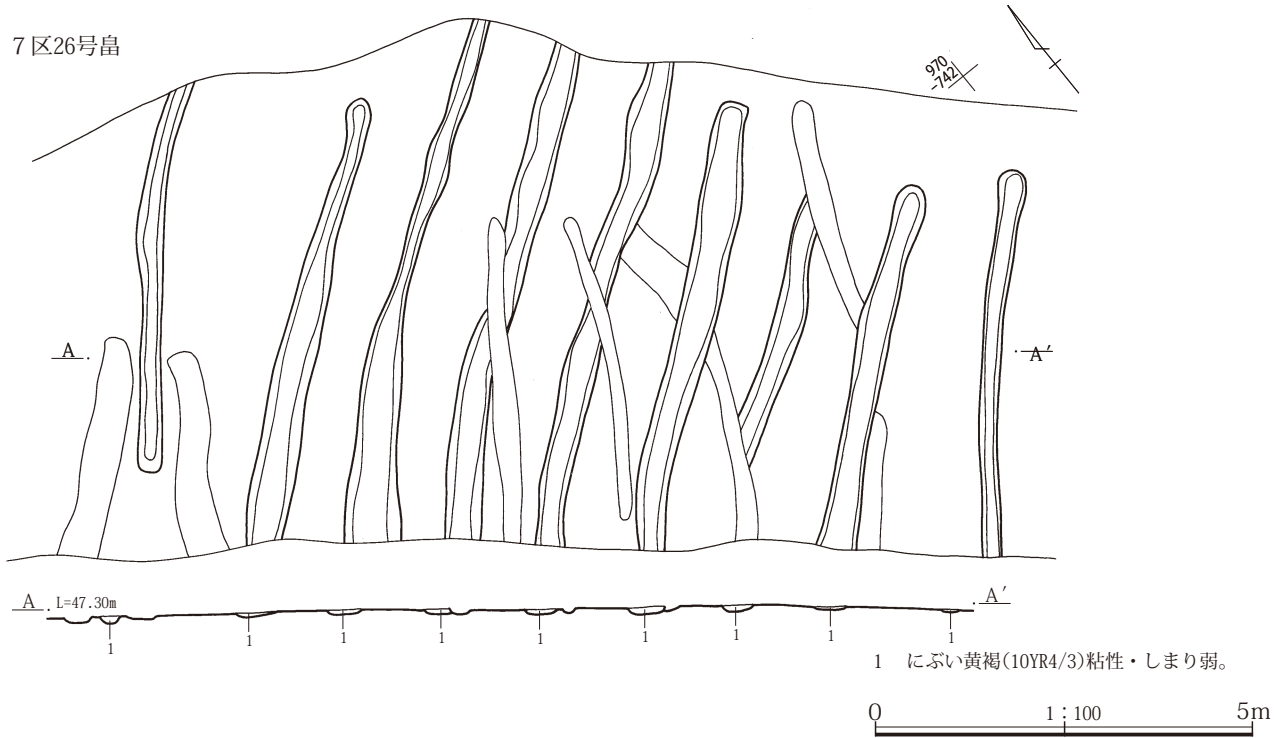
7区24号畠



7区29号畠

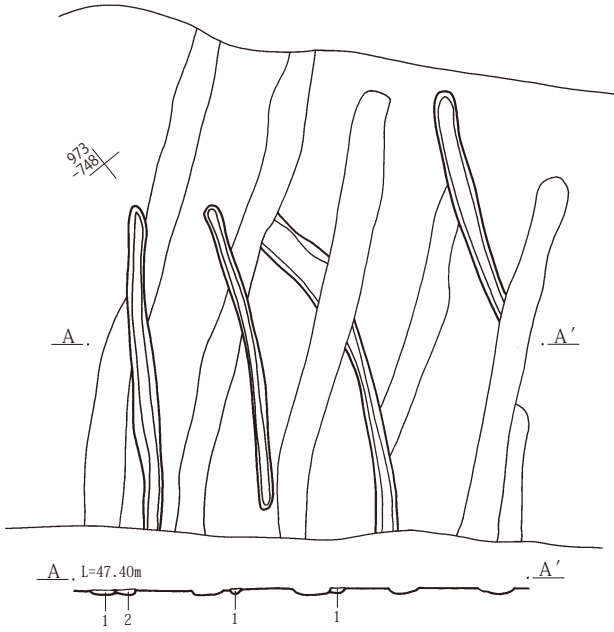


7区26号畠



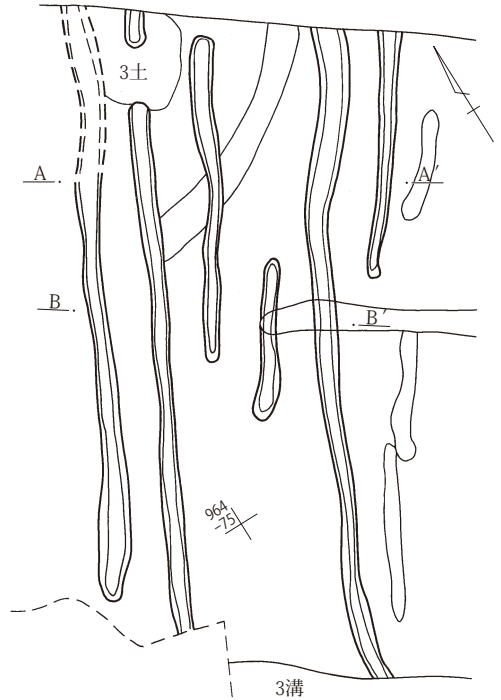
第247図 古墳～平安時代畠20

7区28号畠



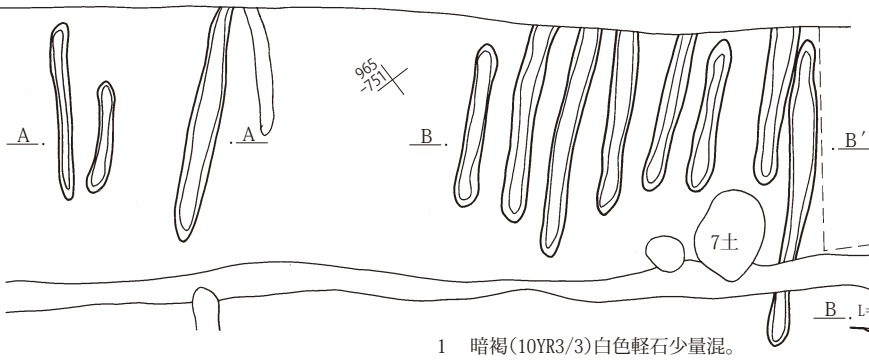
- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)粘性・しまり弱。
- 2 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土。酸化鉄分少量混。

7区31号畠



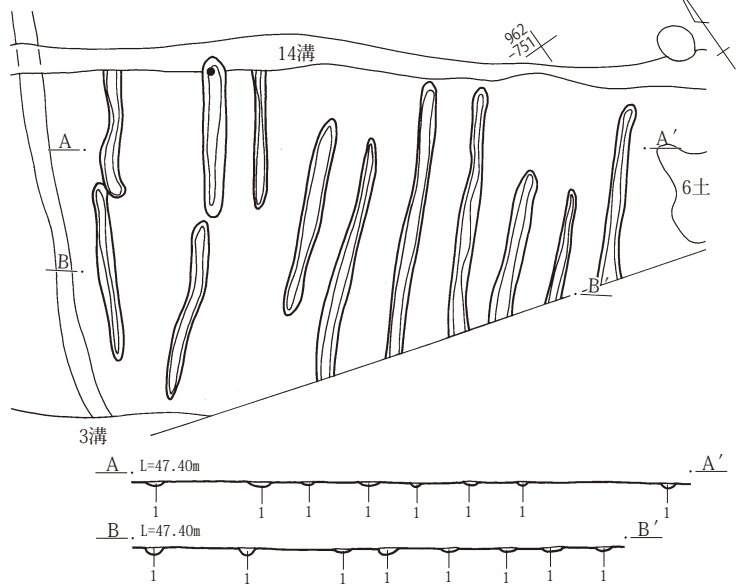
- 1 暗褐(10YR3/3) Hr-FA微量混。

7区40号畠



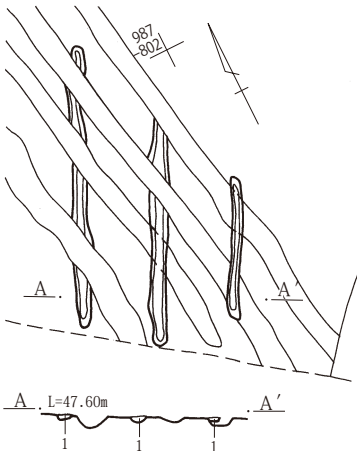
- 1 暗褐(10YR3/3)白色軽石少量混。

7区39号畠

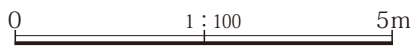


- 1 暗褐(10YR3/3)白色軽石少量混。

7区38号畠



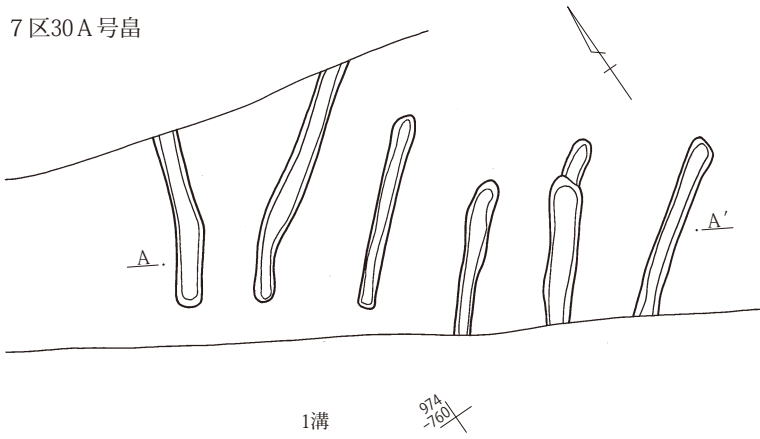
- 1 にぶい黄褐(10YR4/3) Hr-FA微量混。砂質土。粘性弱。



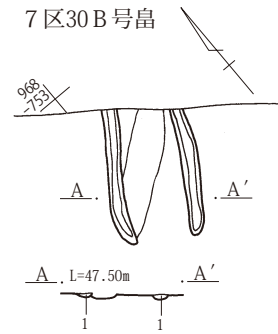
第248図 古墳～平安時代畠21

第4節 古墳時代後期～平安時代

7区30A号畠

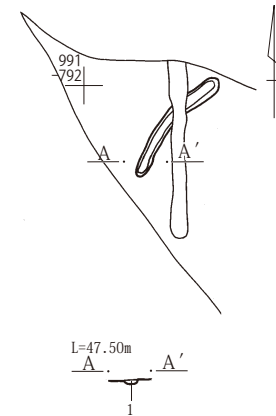


7区30B号畠

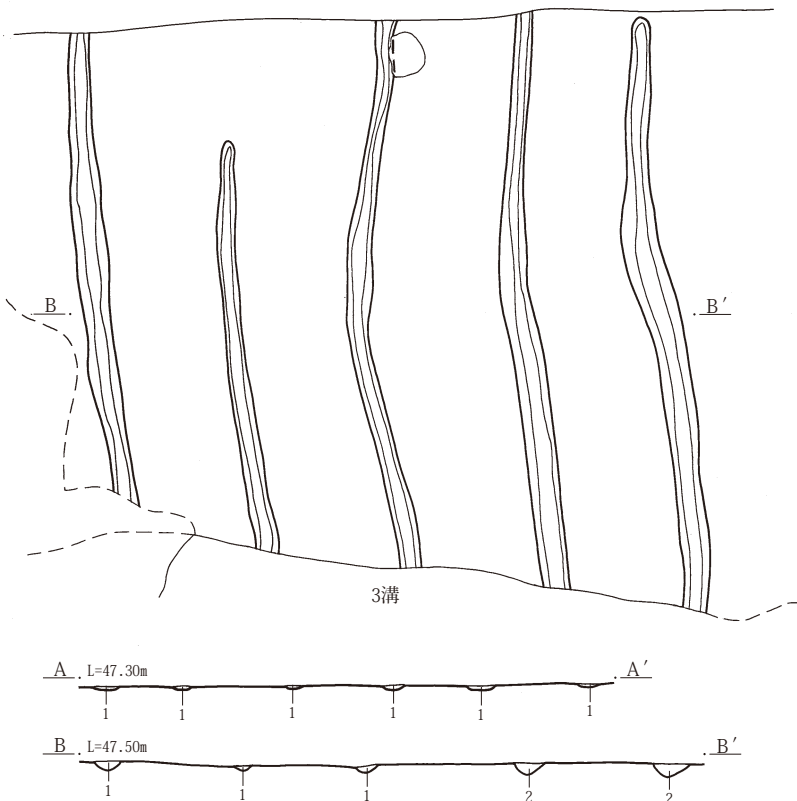


1 にぶい黄褐(10YR4/3)Hr-FA微量混。粘性・しまり弱。

7区33号畠

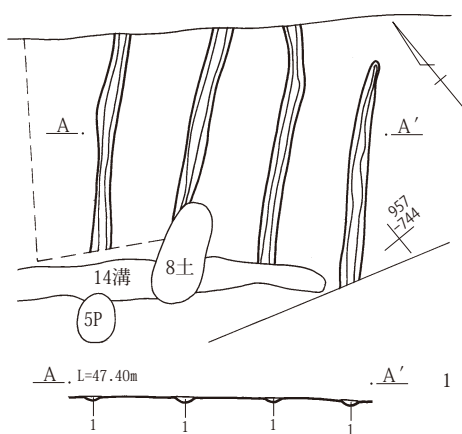


1 にぶい黄褐(10YR4/3)白色軽石少量混。粘性・しまり弱。



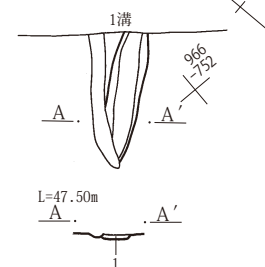
1 暗褐(10YR3/3) Hr-FA微量混。粘質土。  
2 にぶい黄褐(10YR4/3)暗褐色土B少量混。

7区36号畠

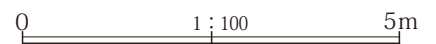


1 暗褐(10YR3/3) HR-FA微量混。粘性・しまり弱。

7区37号畠

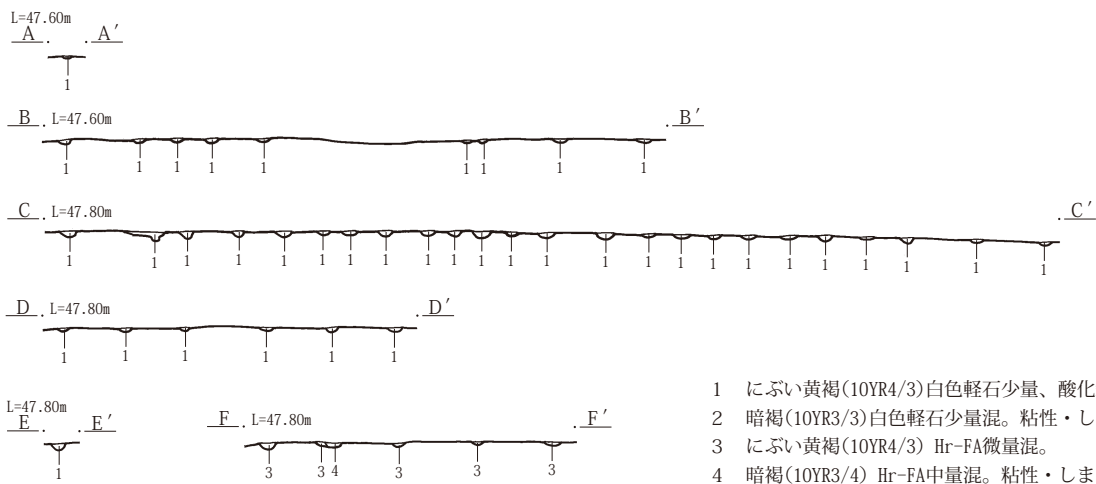
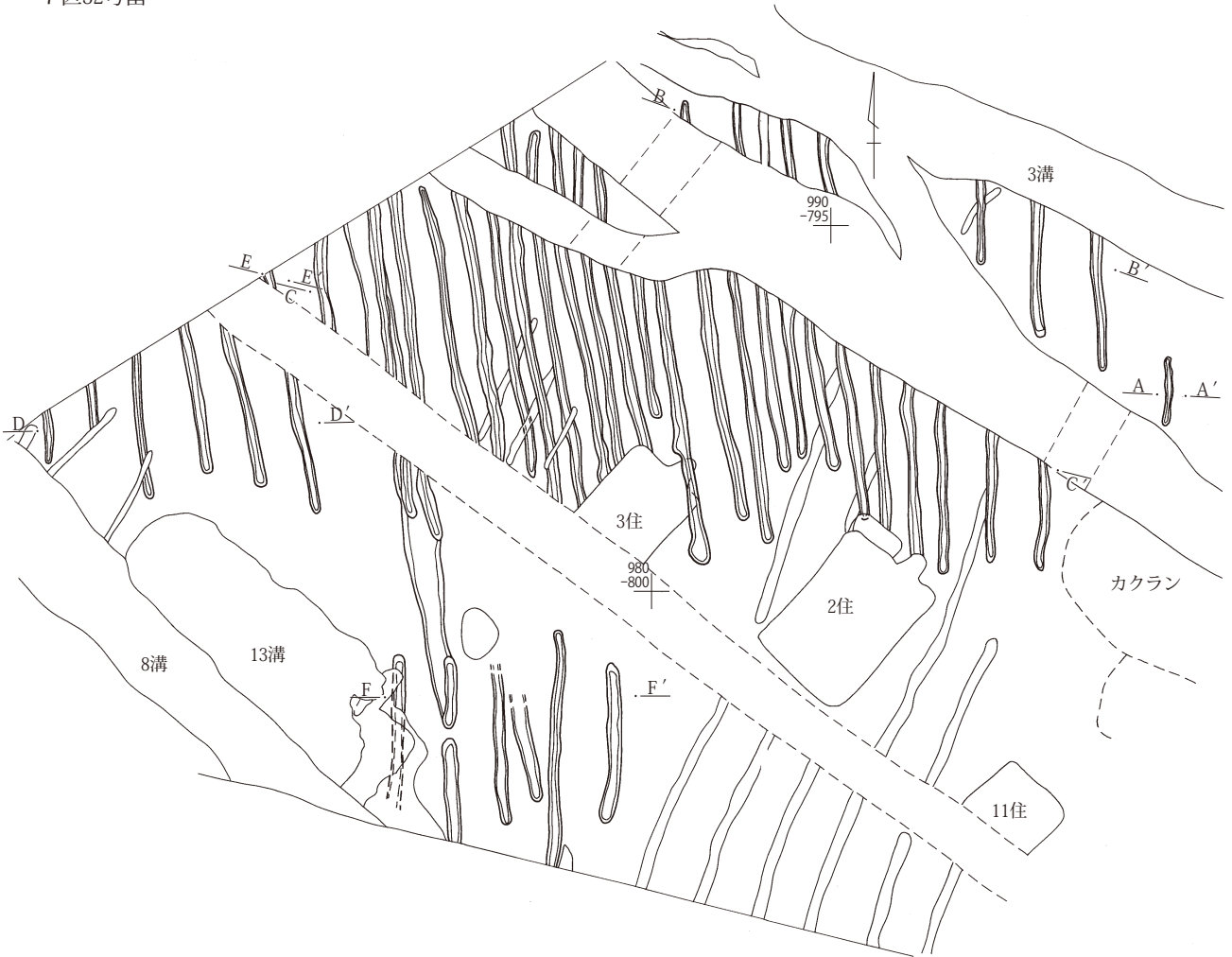


1 にぶい黄褐(10YR4/3) Hr-FA微量混。粘性・しまり弱。

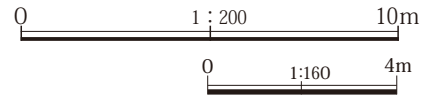


第249図 古墳～平安時代畠22

7区32号畠

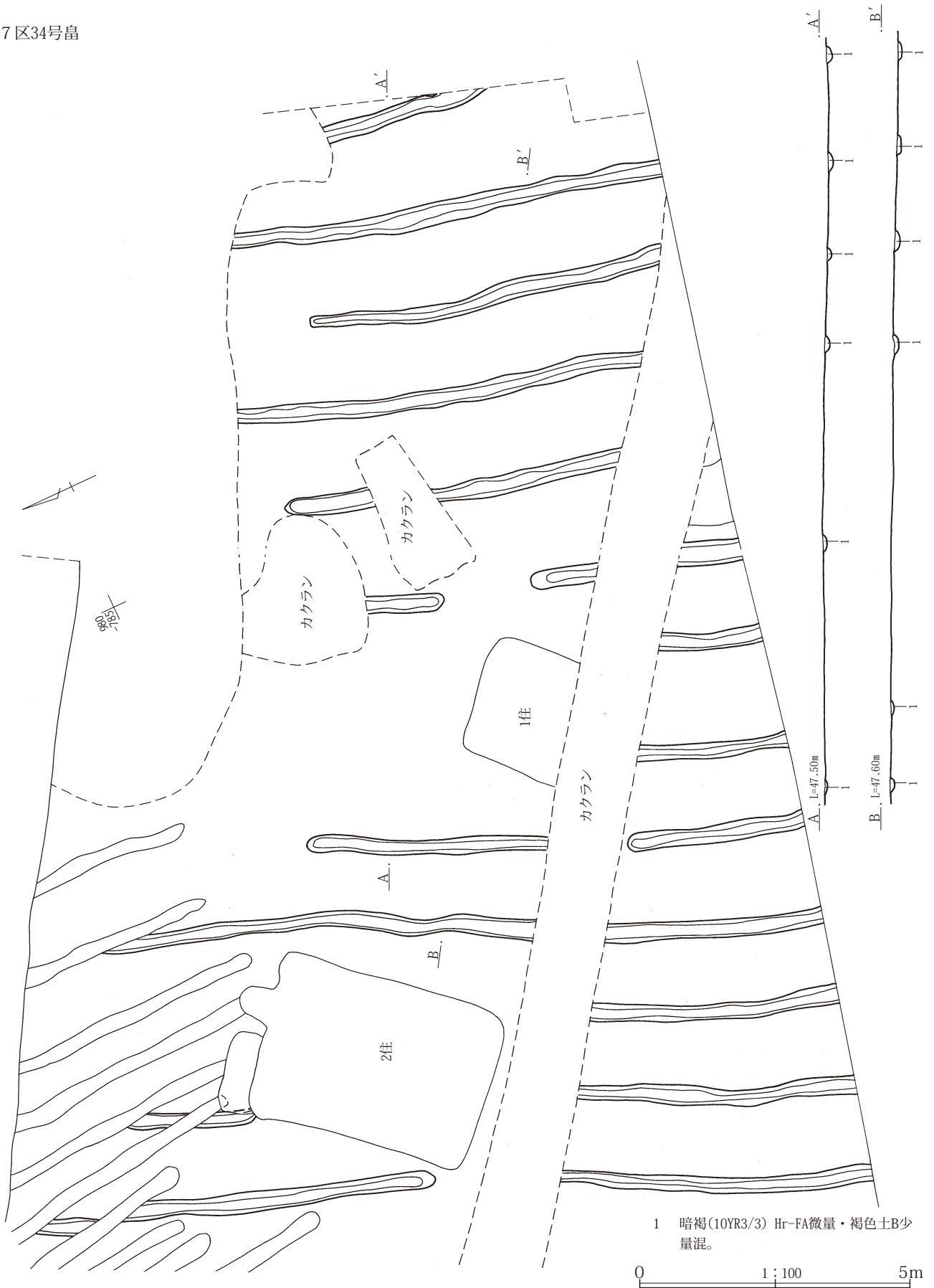


- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)白色軽石少量、酸化鉄分混。
- 2 暗褐(10YR3/3)白色軽石少量混。粘性・しまり弱。
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3) Hr-FA微量混。
- 4 暗褐(10YR3/4) Hr-FA中量混。粘性・しまり弱。



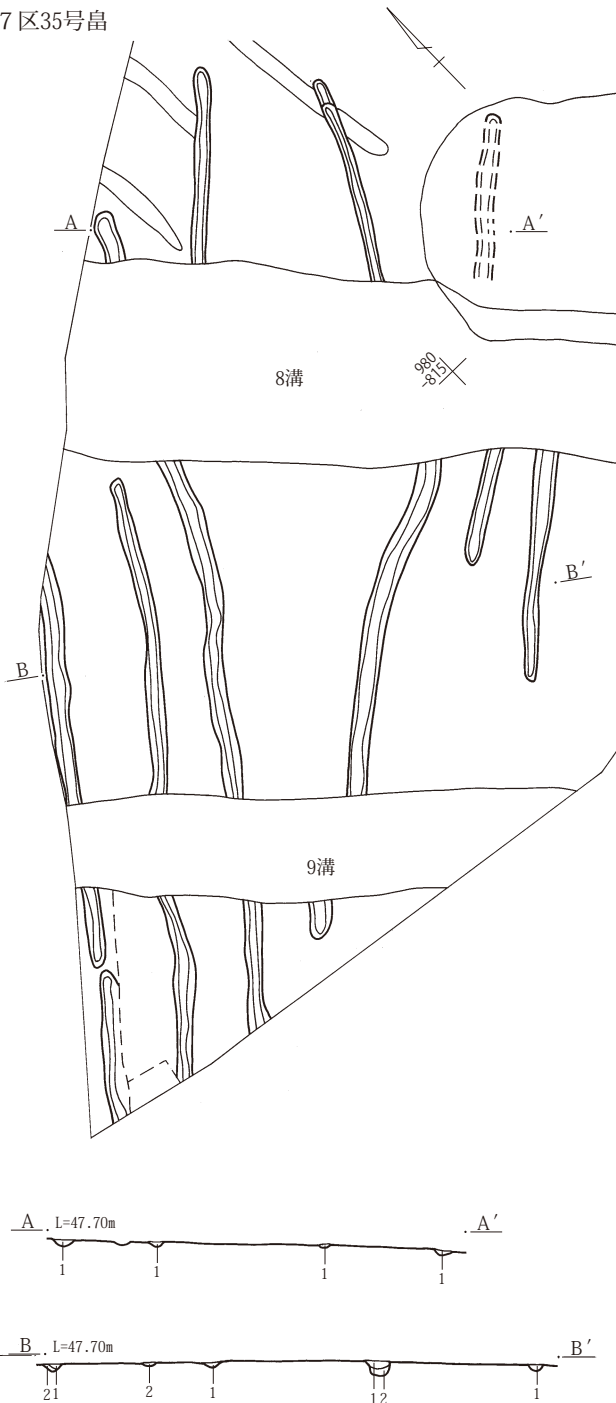
第250図 古墳～平安時代畠23

7区34号畠



第251図 古墳～平安時代畠24

7区35号畠



- 1 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質。酸化鉄分中量混。
- 2 黒褐(10YR2/3) Hr-FA・褐色土B少量



第252図 古墳～平安時代畠25